秋田県文化財調査報告書第99集

東北縱貫自動車道発掘調查報告書VI

――猿ケ平Ⅱ遺跡・室田遺跡・一本杉遺跡・案内Ⅲ遺跡──

秋野地成れたりか

1983 · 3

秋田県教育委員会

東北縦貫自動車道発掘調査報告書VI

1983.3

秋田県教育委員会

東北縦貫自動車道が鹿角市を通ることとなり、道路予定地上にある 埋蔵文化財の発掘調査が昭和54年度から3か年行われました。これまで34か所の遺跡、発掘総面積154,435㎡におよぶ調査を行いましたが、本報告書は昭和56年度に実施した猿ケ平II・室田・一本杉・案内IIIの 4遺跡の調査結果をまとめたものです。これまでの調査の成果は、鹿角地方の歴史解明の貴重な手がかりになるものと思われます。

最後にこの調査に御協力いただきました顧問、専門指導員、日本道路公団、鹿角市、同教育委員会はじめ関係各位に心から感謝の意を表します。

昭和58年3月

秋田県教育委員会

教育長 畠 山 芳 郎

- 1. 本報告書は、東北縦貫自動車道路線内に位置する昭和56年度発掘調査を行った10遺跡のう ち、猿ケ平II遺跡(遺跡番号No.21)、室田遺跡(遺跡番号No.29)、一本杉遺跡(遺跡番号No.33)、 案内III遺跡(遺跡番号No.34)の発掘調査報告書である。
- 2. 遺跡については機会をみて発表してきたが、本報告書を正式のものとする。
- 3. 発掘調査遺跡の記載は遺跡番号順による。
- 4. 発掘調査に関して、下記の諸氏から御指導、御教示を賜わった。記して感謝の意を表する。 (敬称略、順不同)

青森県埋蔵文化財調査センター主査

遠 藤 正 夫

青森県埋蔵文化財調査センター主事

成田滋彦

秋田県鹿角市教育委員会主事

秋 元 信 夫

5. 本報告書の執筆と編集は下記の調査員と補佐員が協議して作成した。

 $I \mathcal{O} 1$

小玉 進

I Ø 2 、3

桜田 隆

II O 2

小林 克

猿ケ平 II 遺跡

岩見誠夫、藤井安正、松岡忠仁、児玉悦郎、奈良義博、高橋 学

室田、案内III遺跡 小林 克、関 直、阿部義行、花田孝夫

一本杉遺跡

桜田 隆、児玉昭彦、池田洋一、神田公男、安保 廣

- 6. 本報告書のⅡの1「地形と地質」は秋田県立能代北高等学校教諭藤本幸雄氏の執筆である。
- 7. 石器の石質鑑定は秋田県立博物館学芸主事嵯峨二郎氏にお願いした。
- 8. 炭化米及び炭化種子の分析は前岡山大学農学部教授笠原安夫氏に依頼した。
- 9. 一本杉遺跡から出土した墨書土器の赤外線写真撮影及び解読は国立歴史民俗博物館助教授 平川南氏にお願いした。
- 10. 報告書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の5万分の1、2万5千分の1及び日本 道路公団作成の千分の1の地形図である。
- 11. 遺跡の土層及び遺物の色調の記載は「新版 標準土色帖」(日本色彩研究所)を使用した。
- 12. 遺物の実測には、画像工学研究所のスケッチグラフ卓上型を活用した。
- 13. 遺跡の写真撮影は主に次の者があたった。

猿ケ平Ⅱ遺跡

岩見誠夫、藤井安正

室田、案内Ⅲ遺跡 小林 克、関

一本杉遺跡 桜田 隆

14. 遺物の写真撮影は主に次の者があたった。

桜田 隆、小林 克、藤井安正、鈴木 功、高橋 学、安保 徹。

15. 遺物の実測、採拓、トレース、整理等は上記調査員、補佐員の他に次の者があたった。

猿ケ平Ⅱ遺跡 津島満子、安保幸子、池田邦子、熊谷恵子、松本良子、吉川フサ子 室田、案内Ⅲ遺跡 浅石悦子、田中春美、加藤正子、才田 環、小松睦子

一本杉遺跡 阿部香子、大西英子、藤倉寿枝、長沢廣子、竹村純子、藤井富久子

16. 本報告書に記載した遺物の実測図、拓影図の縮尺は原則として光、光とした。その他のものは任意の縮尺である。

	7	

例 言

I	はじめに		••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		 • • • • • •	1
1	. 発掘調査に至るまで…				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •]
2	. 調査の組織と構成					 	2
3.	. 調査の方法	•••••				 	E
II :	遺跡の立地と環境					 	Ę
1.	. 地形と地質	•••••				 	E
2.	. 環境と周辺の遺跡					 	11
		猿	ケ平	II 遺	跡		
1.	遺跡の概観	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				 •••••	23
2.							23
3.	調査経過					 	25
4.	遺跡の層位	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			······	 	32
	遺構と遺物						32
6.	まとめ					 •••••	82
		室	田	遺	跡		
1.	遺跡の概観		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	 	115
2.	調査内容	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 	115
3.	まとめ			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 	116

一 本 杉 遺 跡

1.	遺跡の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	121
2.	調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	122
3.	調査経過	125
4.	遺跡の層位	126
5.	遺構と遺物	127
6.	まとめ	195
	案 内 III 遺 跡	
1.	遺跡の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	233
2.	調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	233
3.	調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	235
4.	遺跡の層位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	237
5.	遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	237
6.	まとめ	370

插 図 目 次

第12	图 段丘地形図	•••••	6					
第22	2 図 露頭柱状図							
第32	第3図 周辺遺跡分布図							
第 4 🗵	☑ 秋田県鹿角市における東北縦貫自動車	道路線上	の遺跡分布図17					
	猿を大いて	· II 遺	跡					
第1図	地形図およびグリット配置図······24	第17図	SK(F)007・008・009・011フラスコ状					
第2図	B区Eライン土層断面図および浮石堆		ピット実測図59					
	積図26	第18図	SK(F)014・015・016・017・018 フラ					
第3図	C区Bトレンチ土層断面図27		スコ状ピットおよびSK 017土壙実測図…60					
第4図	遺構配置図29	第19図	SK(F)019・021・022・023フラスコ状					
第 5 図	S I 001 竪穴住居跡実測図32		ピット実測図61					
第6図	S I 002 竪穴住居跡およびS K(F) 020	第20図	SK(T)001・002Tピット・SX 001性					
	フラスコ状ピット実測図34		格不明遺構実測図62					
第7図	SI 003竪穴住居跡およびSK(F) 002	第21図	遺構内出土土器(1)63					
	フラスコ状ピット実測図37	第22図	SI001・003・004 住居跡出土土器(2)64					
第8図	S I 004竪穴住居跡実測図40	第23図	S K009土壙・S K(F)014・021フラスコ					
第9図	SI 005竪穴住居跡およびSK(F)005・		状ピット出土土器実測図(3)65					
	006・010フラスコ状ピット実測図41	第24図	遺構外出土土器(1)66					
第10図	S I 006竪穴住居跡実測図44	第25図	<i>"</i> (2)······67					
第11図	SI 007竪穴住居跡およびSK(F) 012	第26図	<i>n</i> (3)······68					
	フラスコ状ピット実測図46	第27図	<i>n</i> (4)·····69					
第12図	SI 008竪穴住居跡およびSK(F) 013	第28図	" · 土製品(5)······70					

第30図

第31図

第32図

第33図

第34図

第29図 出土石器(1)………71

(2)·····72

(3)·····73

フラスコ状ピットの構築変遷図………76

フラスコ状ピットの機能と体積計算……77

遺構外出土土器分布図………78

フラスコ状ピット実測図………49

ト実測図……58

第13図 S K 003 · 004 · 007 · 008土壙実測図 · · · · · · 55

第14図 S K 009 · 011 · 012 · 013土壙実測図……56

第15図 S K 014 · 015 · 016 土壙実測図………57

第16図 SK(F) 001・003・004フラスコ状ピッ

室 田 遺 跡

第1図	室田遺跡周辺地形図	113		第2図	室田	遺跡調査区全図	114
	_	本	杉	造	跡		
第1図	遺跡位置図	123		第26図	SI	013竪穴住居跡実測図	155
第2図	土層堆積図	126		第27図	SI	013竪穴住居跡かまど実測図	156
第3図	SI 001・SI 002竪穴住居跡実測図…	129		第28図	SI	013竪穴住居跡出土土器実測図(1)…	158
第4図	SI 001・SI 002竪穴住居跡出土土			第29図	SI	013竪穴住居跡出土土器実測図(2)…	159
	器拓影図	130		第30図	SI	013竪穴住居跡出土土器実測図(3)…	160
第 5 図	SI 003・SI 010竪穴住居跡実測図…	131		第31図	SI	014竪穴住居跡実測図	161
第6図	S I 010竪穴住居跡出土土器拓影図	132		第32図	SI	014竪穴住居跡かまど実測図	162
第7図	S I 004竪穴住居跡実測図	133		第33図	SI	014竪穴住居跡出土土器実測図	163
第8図	SI 004竪穴住居跡かまど実測図	134		第34図	SI	015竪穴住居跡実測図	164
第9図	S I 004竪穴住居跡出土土器実測図	136		第35図	SI	016 · S I 017 · S I 018 · S I 020	
第10図	SI 004竪穴住居跡出土土器拓影実測				SI	021竪穴住居跡実測図	165
	図(2)	137		第36図	SI	016竪穴住居跡実測図	166
第11図	SI 005竪穴住居跡実測図	137		第37図	SI	016竪穴住居跡出土土器拓影図	166
第12図	SI 005竪穴住居跡かまど(1)実測図	139		第38図	SI	017·S I 018竪穴住居跡実測図…	167
第13図	SI 005竪穴住居跡かまど(2)実測図	139		第39図	SI	017竪穴住居跡出土土器拓影図	168
第14図	SI 005竪穴住居跡出土土器実測図	140		第40図	SI	019竪穴住居跡実測図	170
第15図	SI 006竪穴住居跡実測図	142		第41図	SI	019竪穴住居跡出土土器拓影図	170
第16図	SI 006竪穴住居跡かまど実測図	143		第42図	SI	020竪穴住居跡実測図	171
第17図	SI 006竪穴住居跡出土土器実測図(1)…	144		第43図	SI	021竪穴住居跡実測図	172
第18図	SI 006竪穴住居跡出土土器実測図(2)…	145		第44図	SI	030竪穴住居跡実測図	174
第19図	SI 006竪穴住居跡出土土器拓影実測			第45図	SI	030竪穴住居跡かまど実測図	174
	⊠(3)·····	146		第46図	SI	030竪穴住居跡出土土器拓影図	175
第20図	SI 007竪穴住居跡実測図	148		第47図	SI	031竪穴住居跡実測図	176
第21図	S I 009竪穴住居跡実測図	149		第48図	SI	031竪穴住居跡出土土器拓影実測	
第22図	SI 011竪穴住居跡実測図	150			図…		178
第23図	SI 011竪穴住居跡出土土器拓影実測			第49図	SI	032竪穴住居跡実測図	179
	⊠	151		第50図	SB	001掘立柱建物跡実測図	180
第24図	SI 012竪穴住居跡実測図	153		第51図	SB	002掘立柱建物跡実測図	181
第25図	SI 012竪穴住居跡出土土器拓影実測			第52図	SB	003掘立柱建物跡実測図	182
	☑	154		第53図	S K	(T)01溝状土壙実測図······	183

第54図	S D001~S D003溝状遺構実測図	184		第60図	出土鉄製品実測図 19	90
第55図	S D 001溝状遺構出土土器拓影図	184		第61図	出土白磁実測図 19	90
第56図	SD 004溝状遺構実測図	185		第62図	出土砥石実測図 19	91
第57図	グリッド出土土師器拓影・実測図(1)	187		第63図	出土繩文土器片拓影図 19	93
第58図	グリッド出土土師器拓影・実測図(2)	188		第64図	出土石器・剝片実測図(各遺構・グリ	
第59図	出土須惠器·陶磁器拓影実測図	189			ッド出土)	94
	案	内	III	遺	跡	
第1図	案内III遺跡グリッド配置図······	234			022、SK(F)、007土壙······ 26	65
第2図	案内III遺跡基本層位······	236		第24図	SK(F)027, SK(F)020, SK(F)	
第3図	S I 008住居跡	239			029、SK(F)026、SK(F)030土壙··· 26	37
第4図	SI 008住居跡出土遺物	240		第25図	SK(F)031, SK(F)023, SK(F)	
第5図	SI 008住居跡出土遺物(石器)	240			024 土壙出土遺物 26	38
第6図	S I 004住居跡・同炉跡、S K(F)025			第26図	SK(F)021、SK(F)032土壙出土遺	
	土壙	242			物	39
第7図	S I 004住居跡埋設土器······	243		第27図	SK(F) 022土壙出土遺物 27	70
第8図	SI 004住居跡出土遺物	244		第28図	SK(F) 007土壙出土遺物(1) 27	71
第9図	SK(F) 025土壙出土遺物(1)······	245		第29図	SK(F) 007土壙出土遺物(2) 27	72
第10図	SK(F) 025土壙出土遺物(2)······	246		第30図	SK(F)021, SK(F)032, SK(F)	
第11図	S K(F) 025土壙出土遺物(3)······	247			O22 土壙出土遺物(石器)······ 27	73
第12図	S I 005住居跡	249		第31図	炉跡	74
第13図	S I 005住居跡出土遺物(1)·····	250		第32図	遺構外出土遺物(1) 27	78
第14図	S I 005住居跡出土遺物(2)······	251		第33図	遺構外出土遺物(2) 27	79
第15図	SI 005住居跡出土遺物(石器)	252		第34図	遺構外出土遺物(3)28	30
第16図	SI 005住居跡西側周辺ピット出土遺			第35図	遺構外出土遺物(4) 28	31
	物·····	253		第36図	遺構外出土遺物(5)28	32
第17図	S I 003住居跡	255		第37図	遺構外出土遺物(6) 28	33
第18図	S I 034住居跡	257		第38図	遺構外出土遺物(7)28	34
第19図	SI 003住居跡、SI 034住居跡出土			第39図	遺構外出土遺物(8) 28	35
	遺物	258		第40図	遺構外出土遺物(9) 28	36
第20図	SI 034住居跡出土遺物(石器)	259		第41図	遺構外出土遺物(10) 28	37
第21図	S I 036住居跡	261		第42図	遺構外出土遺物 (石器) (1) 29	90
第22図	SK(F)031, SK(F)023, SK(F)			第43図	遺構外出土遺物 (石器) (2) 29	€1
	024、SK(F)034土壙······	263		第44図	遺構外出土遺物 (石器) (3) 29	Э2
第23図	SK(F)021, SK(F)032, SK(F)			第45図	遺構外出土遺物 (石器) (4) 29	93

第1図 第2図	浮石の含有量分布・・・・・・ 373 覆土各層の1 cm 中浮石含有量(cm/g)・・・ 374	第3図	堆積順位 浮石含有量による堆積順位… 浮石の粒径と含有量	
dader 4 min	巡 アの会女見八十		Utilizh kiro o e e e e e e e e e e e e e e e e e e	
	付		1	
-, (basse)		1 Named	72.117 111 - 172 M	500
第74図	S I 010住居跡出土遺物(石器、鉄器)… 331	第105図	遺構外出土遺物	
第73図	S I 010住居跡出土遺物(4)······ 330	第104図	S I 019住居跡出土遺物	
第72図	S I 010住居跡出土遺物(3)······ 329	第103図	S I 019住居跡カマド	
第71図	S I 010住居跡出土遺物(2) 328	第102図	S I 019住居跡	
第70図	S I 010住居跡出土遺物(1)······ 327	第101図	S I 018住居跡出土遺物(石器)	
第69図	S I 010住居跡出土遺物······· 327	第100図	S I 018住居跡ガマト S I 018住居跡出土遺物	
第67図 第68図	S I 010住居跡、S I 012住店跡カマト … 325 S I 011住居跡カマド … 326	第98図	S I 018住居跡····································	
筆67 図	S I 010住居跡、S I 012住居跡カマド … 325	第97図	S I 017住居跡出土遺物······	
뉴이이즈	S I 010住居跡炭化物・炭化材出土状 態	第96図		
第66図	012 住居跡	第95図	S I 017住居跡····································	
第65図	S I 010住居跡、S I 011住居跡、S I 012 住民跡	第94図	S I 016住居跡出土遺物	
第64図	S I 009住居跡出土遺物(2) 316	第93図	SI 016住居跡カマド、完掘状態	
第63図	S I 009住居跡出土遺物(1) 315	第92図	S I 016住居跡····································	
第62図	S I 009住居跡カマド······ 314	第91図	S I 015住居跡出土遺物	
第61図	S I 009住居跡 313	第90図	S I 015住居跡·····	
第60図	S I 006住居跡出土遺物(2)······ 312	第89図	S I 014住居跡出土遺物(石器、鉄器)…	
第59図	S I 006住居跡出土遺物(1)······ 310	第88図	S I 014住居跡出土遺物(石器)	
第58図	SI 006住居跡カマド・・・・・・ 309	第87図	S I 014住居跡出土遺物(5)······	
第57図	S I 006住居跡······ 308	第86図	S I 014住居跡出土遺物(4)·····	
第56図	S I 002住居跡出土遺物(2)····· 306	第85図	S I 014住居跡出土遺物(3)······	
第55図	S I 002住居跡出土遺物(1)····· 305	第84図	S I 014住居跡出土遺物(2)······	
第54図	SI 002住居跡カマド 304	第83図	S I 014住居跡出土遺物(1)······	
第53図	S I 002住居跡 303	第82図	SI 014住居跡カマド	341
第52図	S I 001住居跡出土遺物(石器) ······ 301	第81図	S I 014住居跡	337
第51図	S I 001住居跡出土遺物(3)····· 300	第80図		
第50図	S I 001住居跡出土遺物(2)····· 299	第79図		
第49図	S I 001住居跡出土遺物(1)····· 298	第78図		
第48図	S I 001住居跡出土遺物····· 298	第77図		
第47図	SI 001住居跡カマド 297	第76図		
第46図	S I 001住居跡 296	第75図		
44	and the contract of the print of the contract	1	the second secon	

表 目 次

猿 ケ 平 Ⅱ 遺 跡

第1表 S I 001堅穴住居跡観察表······· 33 **第11表** S K 土壙観察表(3)····· 53

第2表	S I 002竪穴住居跡観察表	35	第12表		n (4) \cdots	54
第3表	SI 003竪穴住居跡観察表	·36	第13表	土器	現察表 (1)·····	63
第4表	SI 004竪穴住居跡観察表	39	第14表		(2)	65
第5表	SI 005堅穴住居跡観察表	43	第15表		y (3)·····	66
第6表	SI 006竪穴住居跡観察表	45	第16表		(4)	67
第7表	S I 007竪穴住居跡観察表	47	第17表		7 (5)	68
第8表	S I 008竪穴住居跡観察表	48	第18表	,	(6)	69
第9表	S K 土壙観察表(1)	51	第19表	J	(7)	70
第10表	<i>n</i> (2)······	52	第20表	遺構区	内・外出土石器観察表	74
	一 本	k 4	杉 遺	跡		
第1表	SI 001竪穴住居跡計測説明表 1	128	第17表	SI	012竪穴住居跡計測説明表	152
第2表	S I 002竪穴住居跡計測説明表 1	.28	第18表	SI	012竪穴住居跡出土土器説明表	153
第3表	SI001、SI002竪穴住居跡出土土器		第19表	SI	013竪穴住居跡計測説明表	156
	説明表	.30	第20表	SI	013竪穴住居跡出土土器説明表	157
第4表	SI 003竪穴住居跡計測説明表 1	.30	第21表	SI	014竪穴住居跡計測説明表	161
第5表	S I 010竪穴住居跡計測説明表 1	.32	第22表	SI	014竪穴住居跡出土土器説明表	162
第6表	S I 010竪穴住居跡出土土器説明表 1	32	第23表	SI	015堅穴住居跡計測説明表	162
第7表	S I 004竪穴住居跡計測説明表 1	34	第24表	SI	016竪穴住居跡計測説明表	166
第8表	S I 004竪穴住居跡出土土器説明表 1	35	第25表	SI	016竪穴住居跡出土土器説明表	167
第 9 表	S I 005竪穴住居跡計測説明表 1	38	第26表	SI	017竪穴住居跡計測説明表	168
第10表	S I 005竪穴住居跡出土土器説明表 1	41	第27表	SI	017竪穴住居跡出土土器説明表	169
第11表	S I 006竪穴住居跡計測説明表 1	41	第28表	SI	018竪穴住居跡計測説明表	169
第12表	S I 006竪穴住居跡出土土器説明表 1	46	第29表	SI	019竪穴住居跡計測説明表	169
第13表	S I 007竪穴住居跡計測説明表 1	47	第30表	SI	019竪穴住居跡出土土器説明表	171
第14表	S I 009竪穴住居跡計測説明表 1-	48	第31表	SI	020竪穴住居跡計測説明表	171
第15表	S I 011竪穴住居跡計測説明表 1	50	第32表	SI	021竪穴住居跡計測説明表	172
第16表	S I 011堅宏住民跡出土土異道田妻 19	52	筆99事	SI	30竪索住尾跡計測報明表	179

第34表	S I 030竪穴住居跡出土土器説明表	173	第39表	グリッド出土土師器説明表 185
第35表	SI 031竪穴住居跡計測説明表	177	第40表	出土須恵器、陶磁器説明表 188
第36表	SI 031竪穴住居跡出土土器説明表	177	第41表	出土砥石計測説明表 … 192
第37表	SI 032堅穴住居跡計測説明表	178	第42表	出土縄文土器片拓影説明表 192
第38表	掘立柱建物跡計測説明表	182	第43表	出土石器、剥片計測説明表 192
	案	内 III	遣	跡
第1表	S I 008住居跡観察表·····	238		察 表
第2表	SI 008住居跡出土遺物	240	第25表	S K(F)031, S K(F)023, S K(F)
第3表	S I 008住居跡出土遺物(石器)	240		024 土壤出土遺物 268
第4表	S I 004住居跡観察表·····	241	第26表	SK(F)021、SK(F)032土壤観察表… 269
第5表	S K(F) 025土壙観察表	241	第27表	S K(F) 022土壤出土遺物 270
第6表	SI 004住居跡出土遺物	244	第28表	S K(F) 007土壤出土遺物(1) 271
第7表	S I 004住居跡出土遺物(石器)	244	第29表	S K(F) 007土壤出土遺物(2) 272
第8表	S K(F) 025土壙出土遺物(1)	245	第30表	SK(F)021, SK(F)032, SK(F)
第9表	S K(F) 025土壙出土遺物(2)	246		022 土壤出土遺物(石器) 273
第10表	S K(F) 025土壙出土遺物(3)	247	第31表	遺構外出土遺物(1) 278
第11表	S K(F) 025土壙出土遺物(石器)	247	第32表	遺構外出土遺物(2) 279
第12表	S I 005住居跡観察表·····	248	第33表	遺構外出土遺物(3) 280
第13表	S I 005住居跡出土遺物(1)······	250	第34表	遺構外出土遺物(4) 281
第14表	S I 005住居跡出土遺物(2)·····	251	第35表	遺構外出土遺物(5) 282
第15表	SI 005住居跡出土遺物(石器)	252	第36表	遺構外出土遺物(6) 283
第16表	SI 005住居跡西側周辺ピット出土遺		第37表	遺構外出土遺物(7) 284
	物·····	253	第38表	遺構外出土遺物(8) 285
第17表	S I 003住居跡観察表	254	第39表	遺構外出土遺物(9) 286
第18表	S I 034住居跡観察表	256	第40表	遺構外出土遺物(10) 287
第19表	S I 003、S I 034住居跡出土遺物·······	258	第41表	遺構外出土遺物(石器)(1) 290
第20表	S I 034住居跡出土遺物(石器)	259	第42表	遺構外出土遺物(石器)(2) 291
第21表	S I 036住居跡観察表	260	第43表	遺構外出土遺物(石器)(3) 292
第22表	SK(F)031, SK(F)023, SK(F)		第44表	遺構外出土遺物(石器)(4) 293
	024、SK(F)035土壙観察表·····	262	第45表	S I 001住居跡観察表 295
第23表	SK(F)021, SK(F)032, SK(F)		第46表	S I 001住居跡出土遺物(1)····· 298
	022、SK(F)007土壙観察表·····	264	第47表	S I 001住居跡出土遺物(2)····· 299
第24表	SK(F)027, SK(F)020, SK(F)		第48表	S I 001住居跡出土遺物(3) 300
	029、SK(F)026、SK(F)030土擴観		第49表	S I 001住居跡出土遺物(石器) ······ 301

第50表	S	I	002住居跡観察表	302
第51表	S	I	002住居跡出土遺物(1)	305
第52表	S	Ι	002住居跡出土遺物(2)	306
第53表	S	Ι	006住居跡観察表	307
第54表	S	I	006住居跡出土遺物(1)·····	310
第55表	S	Ι	006住居跡出土遺物(2)·····	312
第56表	S	I	009住居跡観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	211
第57表	S	I	009住居跡出土遺物(1)	315
第58表	S	I	009住居跡出土遺物(2)	316
第59表	S	Ι	010住居跡観察表	317
第60表	S	Ι	011住居跡観察表	318
第61表	S	Ι	012住居跡観察表	324
第62表	S	K,	(F) 033土壙観察表·····	324
第63表	S	Ι	010住居跡出土遺物(1)	327
第64表	S	Ι	010住居跡出土遺物(2)	328
第65表	S	I	010住居跡出土遺物(3)	329
第66表	S	Ι	010住居跡出土遺物(4)	330
第67表	S	Ι	010住居跡出土遺物(石器)(1)	330
第68表	S	Ι	010住居跡出土遺物(石器)(2)	331
第69表	S	Ι	010住居跡出土遺物(鉄器)	331
第70表	S	Ι	011住居跡出土遺物(1)	333
第71表	S	I	011住居跡出土遺物(2)	334
第72表	S	I	011住居跡出土遺物(3)	335
第73表	S	ī	011住居跡中土遺物(舞界)	335

第74表	SK	(F)	033土壙出土遺物	335
第75表	SK	(F)	033土壙出土遺物(石器)	335
第76表	SI	014(主居跡観察表	336
第77表	SI	014(主居跡出土遺物(1)	342
第78表	SI	014(主居跡出土遺物(2)	343
第79表	SI	0141	主居跡出土遺物(3)	344
第80表	SI	014	主居跡出土遺物(4)	345
第81表	SI	014	主居跡出土遺物(5)	346
第82表	SI	014(主居跡出土遺物(石器)(1)	347
第83表	SI	0146	主居跡出土遺物(石器)(2)	348
第84表	SI	014	主居跡出土遺物(鉄器)	348
第85表	SI	015信	主居跡観察表	349
第86表	SI	015信	主居跡出土遺物	351
第87表	SI	016년	注居跡観察表	352
第88表	SI	016信	主居跡出土遺物	356
第89表	SI	017년	注居跡観察表	355
第90表	SI	017倍	注居跡出土遺物	359
第91表	SI	018億	注居跡観察表	360
第92表	SI	018信	主居跡出土遺物	363
第93表	SI	018付	主居跡出土遺物(石器)	364
第94表	SI	019億	E居跡観察表	365
第95表	SI	019自	上居跡出土遺物(1)	368
第96表	SI	019住	主居跡出土遺物(2)	368
第97表	遺構	外出土	_遺物	369

図 版 目 次

猿 ケ 平 II 遺 跡

図版 1	遺跡遠景(北▶南)			S K 009土壙 (西▶東) 98
	発掘調査区(背後の段丘上から)	87	図版13	SK 009土壙出土土器 (南▶北)
図版 2	発掘調査前のようす (南▶北)			S K 014土壙(南▶北) 99
	" (北▶南)	88	図版14	S K(F) 004フラスコ状ピット (西▶ ***********************************
図版 3	C 区発掘調査前のようす (南 ▶北)			東)
	B区発握調査後のようす (北▶南)	89		SI 005竪穴住居跡を切って構築され
図版 4	B区北端部発掘調査後のようす(北東			ているSK(F) 006フラスコ状ピット
	▶南西)			(東▶西)100
	C区発掘調査後のようす(南西▶北東)…	90	図版15	SI 005竪穴住居跡内に存在するSK
図版 5	発掘調查風景、発掘調查風景	91		(F) 010フラスコ状ピット (西▶東)
図版 6	沢に堆積した浮石 (東▶西)			底部に5基の土壙をもつSK(F)014
	S I 001竪穴住居跡(北東▶南西)	92		フラスコ状ピット(東▶西) 101
図版 7	S I 002竪穴住居跡とSK(F) 020フ		図版16	SK(F) 014フラスコ状ピット内に存
	ラスコ状ピット (東▶西)			在するSK(F) 015フラスコ状ピット
	S I 003竪穴住居跡とSK(F) 002フ			SK(F) 009フラスコ状ピット内に覆
	ラスコ状ピット(南▶北)	93		土堆積状況 (西▶東) … 102
図版 8	S I 004竪穴住居跡 (北西▶南東)		図版17	SK(T) 001溝状土壙 (北西▶南西)
	S I 005竪穴住居跡(北西▶南東)	94		S K(T) 002溝状土壙 (北東▶南西) ··· 103
図版 9	S I 006竪穴住居跡 (北▶南)		図版18	SK(T)001溝状土壙(北西▶南西)
	S I 007竪穴住居跡とSK(F) 012······	95		S K(T) 002溝状土壙 (北東▶南西) … 104
図版10	S I 005・008竪穴住居跡とフラスコ状		図版19	36一Fグリッド土器出土状況
	ピット群(北西▶南東)			SK 014土壙円盤状石製品出土状況 105
	S I 008・9竪穴住居跡とSK(F) 013		図版20	遺構内出土土器 106
	フラスコ状ピット	96	図版21	31一日グリッド出土土器(1) 107
図版11	S I 003竪穴住居跡炉(東▶西)		図版22	遺構外出土土器(2) 108
	S I 005竪穴住居跡炉(北西▶南西)…	97	図版23	<i>n</i> (3)······ 109
図版12	S I 008-A竪穴住居跡炉(南▶北)		図版24	遺構内・外出土石器 110
	室	FFI.	谱	P.木

図版1 遺跡遠景・遺跡全景 (西▶東) ……… 117 | 図版2 遺跡全景(北▶南)・攪乱坑(ゴミ捨て穴) 118

一 本 杉 遺 跡

図版 1	遺跡全景航空写真 199	図版17	S I 006出土遺物(1)	215
図版 2	遺跡全景 200	図版18	S I 006出土遺物(2)	216
図版 3	S I 001, S I 002, S I 009 201	図版19	S I 011出土遺物	217
図版 4	S I 003, S I 010····· 202	図版20	S I 010、S I 012出土遺物	218
図版 5	S I 004····· 203	図版21	S I 013出土遺物(1)	219
図版 6	S I 005 204	図版22	S I 013出土遺物(2)	220
図版 7	S I 006····· 205	図版23	S I 013出土遺物(3)	221
図版 8	S I 007, S I 003, S I 009 206	図版24	S I 014出土遺物	222
図版 9	S I 011、S I 012····· 207	図版25	S I 016、S I 017、S I 019出土遺物 …	223
図版10	S I 013····· 208	図版26	SI030、SI031出土遺物	224
図版11	S I 014、 S I 015····· 209	図版27	グリッド出土土師器	225
図版12	S I 017, S I 018, S I 019, S I 030,	図版28	遺構・グリッド出土須恵器・陶磁器	226
	S I 031 ····· 210	図版29	出土鉄製品・砥石	227
図版13	S B 002, S B 001 ···· 211	図版30	グリッド出土縄文土器片	228
図版14	S D 002、 S D 004 ····· 212	図版31	遺構・グリッド出土石器・剝片	229
図版15	S I 004出土遺物 213	図版32	墨書土器赤外線写真	230
EE 40	C I OOA C I OOE山上海than 014			
図版16	SI004、SI005出土遺物 214	1		
凶权16	3 1 004、 3 1 003	1		
凶权16		III 遺	跡	
凶权16		III 遺	跡	
図版 1		 - 遺 	跡 支脚状態·····	391
	案内	III 遺		391
図版 1	案 内 〕 案内Ⅲ遺跡航空写真··········· 381		支脚状態	
図版 1 図版 2	案 内 □ 案 内 □ 381 遺跡遠景、遺跡層位 382		支脚状態······S I 006住居跡	
図版 1 図版 2	案内 案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 SI008住居跡、SI004住居跡	図版12	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392
図版 1 図版 2 図版 3	案内 案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 383	図版12	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392
図版 1 図版 2 図版 3	案内 素内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設	図版12 図版13	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393
図版 1 図版 2 図版 3	案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設 土器 384	図版12 図版13	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393
図版 1 図版 2 図版 3	案内 案内Ш遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡埋設 384 S I 005住居跡、S I 005住居跡磨製石	図版12 図版13 図版14	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393 394
図版 1 図版 2 図版 3 図版 4 図版 5	案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 383 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設 土器 土器 384 S I 005住居跡、S I 005住居跡磨製石 斧出土状態 385	図版12 図版13 図版14	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393 394
図版 1 図版 2 図版 3 図版 4 図版 5	案内 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 383 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設 24 土器 384 S I 005住居跡、S I 005住居跡磨製石 285 学出土状態 385 S I 003住居跡、S I 034住居跡 386	図版12 図版13 図版14	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393 394
図図図図図図図図版 4 図版 5 6 7	案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 383 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設 土器 土器 384 S I 005住居跡、S I 005住居跡磨製石 斧出土状態 ※出土状態 385 S I 003住居跡、S I 034住居跡 386 S I 036住居跡、S K(F)024土壙 387	図版12 図版13 図版14	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393 394
図図図図図図図図図図図の図の図の 図版 5	案内III遺跡航空写真 381 遺跡遠景、遺跡層位 382 S I 008住居跡、S I 004住居跡 S K(F) 025土壙 383 S I 004住居跡炉、S I 004住居跡埋設 土器 384 S I 005住居跡、S I 005住居跡磨製石 ※ ※出土状態 385 S I 003住居跡、S I 034住居跡 386 S I 036住居跡、S K(F)024土壙 387 S K(F)032土壙、S K(F)022土壙 388	図版12 図版13 図版14	支脚状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	392 393 394

図版18	S I 011住居跡覆土、S I 012住居跡 398	図版39	遺構外出土遺物(8)、(9)419
図版19	SI014住居跡、SI014住居跡カマド… 399	図版40	遺構外出土遺物(10) 420
図版20	S I 015住居跡、S I 016住居跡 400	図版41	遺構外出土遺物(石器)(1)、(2) 42
図版21	SI017住居跡、SI017住居跡カマド… 401	図版42	遺構外出土遺物(石器)(3)、(4) 422
図版22	SI018住居跡、SI018住居跡カマド… 402	図版43	S I 001住居跡出土遺物(1)····· 423
図版23	S I 018住居跡磨製石斧出土状態、S I	図版44	S I 001住居跡出土遺物(2)、(3)······ 42-
	019 住居跡 403	図版45	S I 001住居跡出土遺物(石器)······ 425
図版24	SI 019住居跡カマド、遺構外土器出	図版46	S I 002住居跡出土遺物(1)、(2)······ 426
	土状態 404	図版47	S I 006住居跡出土遺物(1)、(2)······ 427
図版25	S I 008住居跡出土遺物 405	図版48	S I 009住居跡出土遺物(1)、(2)
図版26	S I 004住居跡出土遺物 406		S I 010住居跡出土遺物(1)····· 428
図版27	SK(F) 025土壙出土遺物(1) 407	図版49	S I 010住居跡出土遺物(1)、(2)······ 429
図版28	S K (F) 025土壙出土遺物(2) 408	図版50	S I 010住居跡出土遺物(4)····· 430
図版29	SK(F) 025土壙出土遺物(3) 409	図版51	S I 010住居跡出土遺物(鉄器) ······ 433
図版30	S I 005住居跡出土遺物(1)、(2)······ 410	図版52	SI 010住居跡出土遺物(炭化物) 432
図版31	S I 005住居跡出土遺物(2)、(3)····· 411	図版53	S I 011住居跡出土遺物(1)····· 433
図版32	SI 005住居跡西側周辺ピット出土遺	図版54	S I 011住居跡出土遺物(2)、(3)
	物、SI003住居跡、SI034住居跡出		SK(F) 033土壙出土遺物 434
	土遺物(1) 412	図版55	S I 014住居跡出土遺物(1)、(2)······ 435
図版33	S I 034住居跡出土遺物(2) 413	図版56	S I 014住居跡出土遺物(3)、(4)、(5)····· 436
図版34	S K(F)031~S K(F)022土壙出土遺	図版57	S I 014住居跡出土遺物(石器、鉄器)
	物(1)、(2)、(3)		(1), (2)
図版35	SK(F) 007土壙出土遺物(1)、(2)	図版58	S I 015住居跡出土遺物 438
	SK(F)021, SK(F)032, SK(F)	図版59	S I 016住居跡出土遺物、S I 016住
	022 土壙出土遺物(石器) 415		居跡出土遺物 439
図版36	遺構外出土遺物(1)、遺構外出土遺物(2)… 416	図版60	S I 018住居跡出土遺物(1)、(2)······ 440
図版37	遺構外出土遺物(3)、(4) 417	図版61	S I 019住居跡出土遺物(1)····· 441
図版38	遺構外出土遺物(5)、(6)、(7) 418	図版62	S I 019住居跡出土遺物(2)····· 442

I はじめに

1. 発掘調査に至るまで

秋田県の北東部、鹿角市と鹿角郡小坂町を通過する東北縦貫自動車道の建設計画の魁は、昭和40年11月公表の鹿角市・青森市間、同42年11月公表の盛岡市・鹿角市間の基本計画である。 次いで昭和43年4月の鹿角市・青森市間約81㎞の第2次施行命令と同46年6月の岩手県二戸郡安代町・鹿角市間約37㎞の第5次施行命令によって、その通過予定区域が知られ、これを受けて同47年11月27日に、鹿角市十和田錦木・小坂町間の路線発表があって、ようやくその具体的な姿を県民に現わしたのである。

このため、秋田県教育委員会では、文化庁と日本道路公団が交わした覚書に基づき、昭和44年8月、鹿角市十和田地区から鹿角郡小坂町の青森県境まで、幅4km、延長25kmにわたって遺跡の分布調査を行い、67遺跡を確認し、その成果を公表した。昭和48年8月には、鹿角市八幡平、尾去沢、花輪地区で、幅4km、延長20kmの遺跡分布調査と試掘を実施して、46カ所の遺跡を確認した。

昭和51年2月12日になると、昭和48年8月実施の鹿角市内遺跡分布調査結果をふまえて、日本道路公団から鹿角市八幡平から同市十和田錦木に至る延長約21.1kmの路線の発表があり、測量が実施されるに及んだ。

秋田県教育委員会では、日本道路公団仙台建設局鹿角工事事務所の依頼により、昭和52年10月にこの路線上の遺跡分布調査を行い31遺跡の存在を確認した。昭和55年に新たに2遺跡が発見追加され、現在総計33遺跡となっている。

その後、遺跡の処遇や調査方針について日本道路公団仙台建設局と秋田県教育委員会の間に協議が持たれ、最終的に遺跡は記録保存が決定した。昭和54年2月に遺跡の発掘調査依頼があり、秋田県教育委員会では昭和54年度八幡平地区7遺跡の発掘調査を行った。昭和55年度は追加委託契約をも含めて八幡平、花輪地区19遺跡の調査を行い、昭和56年度に8遺跡の調査を行い、3か年に及ぶ鹿角市内の路線内遺跡調査を全て完了している。

註1 秋田県教育委員会

『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書 第20集 1970年

註2 秋田県教育委員会

『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書 第24集 1972年

註3 秋田県教育委員会

『東北縦貫自動車道遺跡分布調査報告書(八幡平~十和田錦木)』 秋田県文化財調査報告書 第56集 1978年

2. 調査の組織と構成

調査主体 秋田県教育委員会 調 杳 顧 問 坪 井 清 足 奈良国立文化財研究所所長 芹沢長介 東北大学文学部教授 専門指導員 小 林 達 雄 国学院大学文学部助教授 林 謙作 北海道大学文学部助教授 須 藤 隆 東北大学文学部助教授 藤 沼 邦 彦 東北歷史資料館考古研究科長 進 藤 秋 輝 宮城県多賀城跡調査研究所研究第一科長 調査担当者 岩見誠夫 秋田県埋蔵文化財センター副所長 (猿ケ平Ⅱ、柏木森遺跡担当) 桜 田 秋田県埋蔵文化財センター文化財主事 隆 (妻の神Ⅲ、一本杉遺跡担当) 小 玉 準 秋田県埋蔵文化財センター文化財主事 (乳牛平、明堂長根遺跡担当) 橋 本 高 史 秋田県埋蔵文化財センター文化財主事 (妻の神 I、中の崎遺跡担当) 小 林 克 秋田県埋蔵文化財センター文化財主事

調 **查 補 佐 班** 藤井 安正、松岡 忠仁、児玉 悦郎、高橋 学、奈良 義博 (以上岩見班)

 神田
 公男、児玉
 昭彦、安保
 廣、池田
 洋一
 (以上桜田班)

 畠山
 圭、阿部
 明人、米田
 哲、高橋
 修
 (以上小玉班)

 安保
 徹、福本
 雅治、鈴木
 功、鈴木
 秋良
 (以上橋本班)

 関
 直、阿部
 義行、花田
 孝夫
 (以上小林班)

(室田、案内Ⅲ、柏木森遺跡担当)

事 務 補 助 員 佐藤 順子、金沢万理子

調 **查 協 力 機 関** 日本道路公団鹿角工事事務所、秋田県東北縦貫自動車道対策事務所、 鹿角市建設部建設課高速道路対策室、鹿角市教育委員会、

3. 調査の方法

(1) 発掘区の設定

東北縦貫自動車道の調査では、調査対象区に5m×5mのグリッドを設定して発掘を行う。 グリッド設定基準線は、館跡遺跡は方位に合わせ、他は日本道路公団の設置した中心杭のうち 任意の2本を結ぶ線を設定基準線とし、路線の進行方向に沿わせることを原則とする。

(2) 測量と実測

地形や遺構状況に応じて、遺り方測量、平板測量、航空写真測量の方法をとる。遺構の実測の縮尺は記、遺構配置図は1000とし、プラン確認面の等高線(20cm間隔)を入れる。かまど、炉などの平面図、断面図、土層断面図は記を原則とするが、必要に応じて任意の縮尺も活用する。

(3) 遺構発掘と遺物の取りあげ

遺構の発掘は4分割法を原則とし、平面、断面、層序、レベル、遺物の実測はマイラーベースに記入し、水糸高(海抜高度)を記入する。

遺物の取りあげは、1点1袋、1括1袋とし、遺跡名、グリッド名、遺物の種類、遺物番号 層位、出土年月日の記入された遺物カードを同封する。

遺構・遺物記号は、平城京発掘調査で実施しているものを参考に縦貫自動車道関係遺跡発掘 担当者が協議して定めたものを使用する。

記号	遺		構	記号	遺		構	記	号	遺	構・	遺	物	記号	遺			物
S A	栅歹	リ・柱	列	S K	士.		壙	S>	(F)	焼	土	遺	構	RQ	石	曹	Ų	ᇤ
SB	建	物	跡	S K(F)	フラス	くコ状	ピット	S>	(R)	捨			場	RT	貝	書	뷫	品
SC		廊		S K(I)	竪穴	こ状	遺構	S>	(S)	配石	7 (集社	i·立石・ ンサー	組石)	RU	人			骨
S D	溝・	堀 ·	濠	S K(P)	ť	"7	-	S>	(U)	土岩	器埋	設進	構	RV	紙	· 布	製	ᇤ
SE	井	戸	跡	S K(S)		墓		R	С	炭	1	Ł	物	RW	木	・竹	製	ᇤ
SF	築丸	也・土	塁	S K(T)	トラ	ップし	ピット	R	M	金	属	製	E E	RY	7	0	ク	他
SG	苑		池	SL	河		Щ	R	N	自	然	遺	物					
SH	広		場	SM	道路	・橋	・階段	R	0	骨	角	製	딞					
SI	住	居	跡	SX	7	め	他	R	Р	土	曲る	Ų	띪					

(4) 写真撮影

写真撮影は、平面実測図等の図面記録では表現しきれない状況等を的確に表現するため、ネガフィルム、リバーサルフィルムを使用して行う。

使用するカメラは、ハンディな35%判カメラと、6×9判カメラ又は6×4.5判カメラの2種類を使用する。特に必要ある場合は、インスタントカメラを使用する。

(5) 遺物整理と実測

- ① 出土遺物は遺物台帳に記入し、写真や実測図とのスムーズな活用をはかる。
- ② 土器の内面実測が必要と思われるものは、4分割方法をとり、左号に外面、右号に内面および断面を記載する。実測図には輪積巻上げ痕、文様、調整痕を主として記載する。
- ③ 大破片の実測は、土器の中心線を算出し 180 度回転して作図する。
- ④ 破片の拓本は、土器の外面を左に置き、中央に断面、右に内面図を表す方法を用いる。
- ⑤ 石器の実測には、スケッチグラフ、実体顕微鏡等も使用し、第三投影図法により作図する。

II 遺跡の立地と環境

1. 地形と地質

(1) 地形と地質の概要

本地域の地形は大きく見て東西の山地、盆地内の段丘地形、沖積低地の三つに区分される。これらについて秋田県(1973)、内藤(1966、1970)および日本道路公団の東北自動車道土性縦断図表(日本道路公団仙台建設局:1978)等を参考にしてまとめると次のようになる。山地:東側は花輪越以北で800~700mと北にゆくほど高度を下げるが、以南では1,000m以上の標高で満壮年期のけわしい地形を示し、特に皮投岳(1,122.4m)、五の宮嶽(1,115.0m)など起伏量の大きい山塊が連なっている。

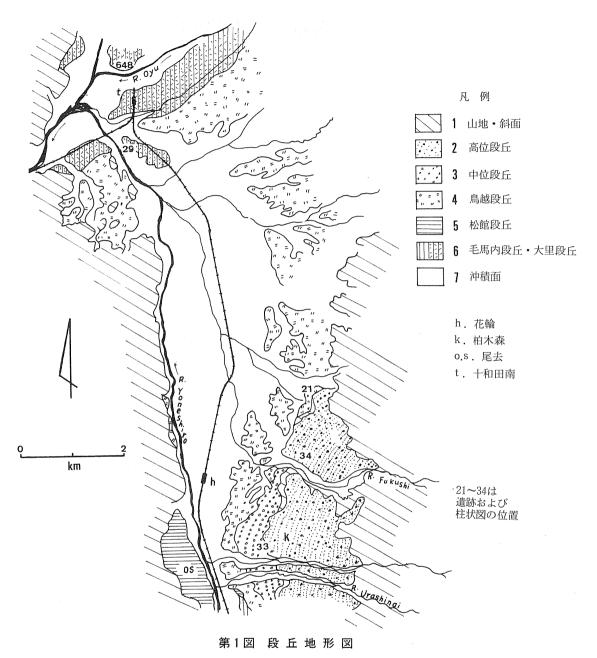
地質は主として新第三紀中新世の火山砕屑岩よりなるが、それらを貫ぬいて石英安山岩や安山岩も分布している。また、福士川上流には南部の谷内、湯瀬と同様に粘板岩を主とする古生層の露出も知られている。これらの東側山地の山列は南部でほぼ南北に連なっているが、花輪越以北では北東方向にのびている。これは新第三紀層の走向に大略一致するほか、貫入岩類や断層系の方向ともほぼ一致している。

一方、西側山地は南部で400~600m、北部で250~300mで山容も東側山地ほどのけわしさは 見られない。地質は東側山地と同様に新第三紀中新世の火山砕屑岩を主とするが、大葛層、大 滝層などでは砂岩、泥岩などの砕屑岩が広く発達している。

段丘地形: 花輪盆地南部の段丘面は、花輪高位段丘、花輪中位段丘(内藤、1970)、鳥越段丘(秋田県、1973)、松館段丘、大里段丘の5段に区別できる。このうち、鳥越段丘は秋田県(1973)では鳥越段丘、関上段丘の二つに区別されたものであるが、後者は火砕流堆積物からなる前者の二次堆積物の上面であり、両者を区別する段丘崖の発達も局所的であって連続性に乏しいことから一括して使用する。また、松館、大里の各段丘は内藤(1970)の花輪低位段丘群とされたものである。

一方、花輪盆地の中~北部の段丘面は、高位段丘、鳥越段丘、毛馬内段丘、中間段丘などが 見られる。次にそれぞれについて簡単に記載する。

[※] 以下、高位段丘、中位段丘と略称する。



高位段丘は、南部では東側山地の末端部からなだらかな斜面をもって扇状地状に広く分布する。かなり開析されているものの明らかに平坦面を残している。標高は1/2.5万地形図から、浦志内川左岸の扇頂部で350m、葛岡北東の末端部で240mであり、平均こう配は約7.2%(4.1°)となる。また、歌内川流域でも320mから250mまでの高度差をもつ。一方、福士川左岸では350m~250mであるが、右岸では花輪スキー場北東の300mから女森西方の200mまでと明らか

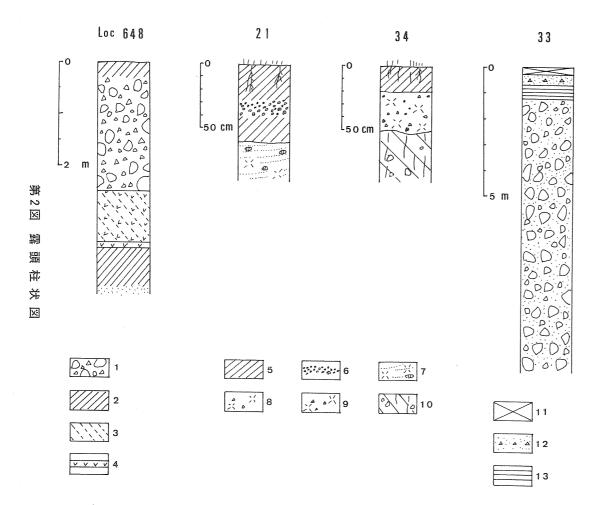
に低い。また、平均こう配も福士川以北では約4.4%(2.5°)と小さくなる。盆地の中~北部では南部ほど分布は広くなく、散在的で面の高度も230~240mと低い。構成層は径数cmから50cm前後までの亜角礫が雑然と混入した淘汰礫層であり、地表面に近い部分は数mにわたって風化が進み、礫はくさってマトリックスと大して変わらないかたさになることが多い。段丘面の分布範囲のほかに、葛岡西方では火砕流堆積物の下位に見られたりする。全体的に扇状地堆積物としての層相をよく残している。また、上部は数mが赤褐色の粘土質土になっており、中に未風化の亜角礫もしばしばみられる。最上部には粘土質になった火山灰層がみられることもある。

中位段丘は、上田 (1965) および内藤 (1970) の産土神断層以南にやや広く分布し、浦志内川下流で標高230~180m、歌内川下流で270~200mである。産土神断層以北ではまだ確認していない。末端部は鳥越軽石質火山灰層におおわれるが、明瞭に扇状地状の地形面を残しており、平均こう配は柏木森の西方で約6.0%(3.5°) である。構成層は黄褐色のシルトないし砂のマトリックス中に数cmから30cm以上の角礫ないし亜角礫が雑然と混入する礫層で、全体的に層理は不明瞭で塊状であるが、末端部では厚さ数cmの連続性のわるいシルトないし砂の薄層を含むこともある。葛岡南方ではN値が70以上の高位段丘礫層の上に、最大6mの厚さで泥炭質粘土層が発達する。この付近は浦志内川と歌内川の扇状地にはさまれた湖沼的な堆積環境にあったものであろう。なお、この粘土層の上位に5~6mの厚さで重なる中位段丘構成層はすでに記載したように不良淘汰の亜角礫からなる礫層であるが全体的にマトリックスは灰緑色を呈する。同様の色調の構成層は花輪東方の鳥越段丘の下部にもみられる。

鳥越段丘は鳥越軽石質火山灰層 (内藤、1966)の堆積面であり、大湯環状列石など多くの遺跡をのせて盆地内に最も広く分布する。特に大湯川の両岸および小坂川の左岸、米代川右岸によく発達する。高度は、花輪東方で170~180m、柴内から根市戸付近で150m前後、腰廻から一本木にかけて180m前後と盆地の周辺部にむかって高度をあげるが、特に大湯川沿いでは風張付近を扇頂部とする扇状地様の形態を示す。全域にわたって灰白色~乳白色の火山灰中に白色の軽石が多量に含まれる層相を示すが、大湯川と小坂川の合流点に近いほど層理の明瞭な二次堆積物が発達する傾向がみられる。火砕流台地としての形態をよく示しており、段丘面は平坦で段丘崖は急崖をなすことが多い。なお、小枝指から申ケ野にかけては部分的により古い高市軽石質火山灰層が見られることがあり、埋没段丘面の存在が指摘されている(内藤、1966)。

松館段丘は南部で米代川左岸に沿い尾去から松館、荒町にかけて広く分布している。標高は160~170mで、夜明島川、黒沢川等の扇状地の開析された段丘とみられる。構成層は未確認である。盆地中部の東側に、草木川、佐比内沢、間瀬川等による扇状地が発達するがこれらは松館段丘と同時期の可能性がある。

※このことから藤原(1960)は本段丘面を遺跡面と呼んだ。



凡例

- 1. 角礫層(含円礫)
- 2. 黑 土 3. 軽石質火山灰層
- 4. 軽石(大湯軽石質火山礫層)
- 5. 黒色腐植土層
- 6. 大湯軽石質火山礫層
- 7. 鳥越軽石質火山礫層 (二次堆積物)
- 8. 軽石質火山灰層 (降下堆積物)
- 9. 軽石質火山礫層 (安山岩角礫を含む)
- 10. 礫まじり赤褐色粘土
- 11. 表 土 12. 火山灰
- 13. 粘土層

Loc 648は内藤(1966) 33は道路公団仙台建設局 (昭和53年)の試錐資料 による。 大里段丘は南部で米代川右岸沿いに大里付近まで分布する。標高は150~155mと低く、構成層は上部はくずれやすい河床性の礫層を主とし、田泥質の砂礫層が重なっている。河床性の礫層の上には大湯軽石質火山礫層があり、さらに部分的に軽石質の二次堆積物がその上に見られたりすることから北部の毛馬内段丘に対比できるものと思われる。

毛馬内段丘は大湯川両岸と松の木以西の米代川沿いに発達する最低位の段丘で、東能代付近まで連続して分布する。標高は毛馬内付近で110~120m、松の木では112mである。構成層は大湯川沿いでは下部から大湯軽石質火山礫層、毛馬内軽石質火山灰層、不淘汰砂礫層の順に重なるが、米代川沿いでは毛馬内軽石質火山灰層が主となる。毛馬内軽石質火山灰層は米代川沿いでいくつかの遺跡を埋没させており、特に鷹巣盆地における胡桃館遺跡(平安時代中~末期)はよく知られている(秋田県教委、1968、1969、1970、平山、市川、1966)。

ところで、この地域の第四紀地質と地形を特徴づけるものに花輪断層と十和田火山起源の火 山砕屑物層があげられる。

花輪断層はほぼ直線的に米代川沿いに北上しており、東西の山地の起伏量、山容のちがい、 段丘の非対称的分布等は、断層の東側の山地が第四紀を通じて上昇傾向がより強かったことを 物語っており注目に値する。一方火山砕屑物層については内藤(1966、1970)、中川、ほか(19 72)等によりくわしく知られており、古い方から小坂軽石質火山灰層、高市軽石質火山灰層(14C 年代で25,850±1,360年前)、鳥越軽石質火山灰層(12,000±250年前)、 申ケ野軽石質火山灰層 (8,600±250年前)、大湯軽石質火山礫層(3,680±130年前)、毛馬内軽石質火山灰層(1,280±90 年前)に区分されている。このうち大湯軽石質火山礫層の¹⁴C 年代値は同層の下位の炭質物に ついての値であり、同層の降下時期より古い年代値と考えられる。また、毛馬内軽石質火山灰 層は前述のように埋没遺跡との関係から平安時代中~末期とみられており、大湯軽石質火山礫 層の降下に引きつづいて流下した同一火山活動にともなう火砕流堆積物であるとその指摘もな されている(大池、1974、藤本、1980)。

(2) 地 質

No. 29 (室田遺跡)

米代川右岸で毛馬内段丘上にあり、高度は112mで平坦な地形面である。地質は、直接に遺跡地点では観察できなかったが、大湯川右岸のLoc. 648における状況(内藤、1966)から推定すると、最上部は黒色土でその下に約2.5 mほどの厚さで安山岩質の円礫や角礫を含む不良淘汰の礫層が分布する構成になるものと思われる。このような構成は、大湯川沿いでは集宮付近においても見られる。

No. 22 (猿ケ平 II 遺跡)

高位段丘の段丘崖の基部に残された鳥越段丘面上に位置している。高度は169~172mで沖積面(157~158m)とは明瞭な段丘崖をもつ。構成層は黒色腐植土層が30cmないし1mほどの厚さで発達し、地表面から20ないし70cmの間に大湯軽石質火山礫層が数cmないし10数cmで膨縮しながらみられる。黒色腐植土層の厚さは軽石質火山灰層の表面に刻まれた起伏により変化し凹地では厚い。鳥越軽石質火山灰層は部分的に二次堆積物をともない、斜交葉理がみられることもある。

No. 33(一本杉遺跡)

中位段丘上にあり、標高は210~213mである。上部から黒色腐植土層(20~30cm)、角礫まじり軽石質火山灰層(30cm)、粘土質土(約40~50cm)、不良淘汰礫層の順でみられるが、礫層の下限は不明である。黒色腐植土層中には他の段丘と同様に大湯軽石質火山礫層の薄層がうすくみとめられる。

No. 34 (案内Ⅲ遺跡)

高位段丘のなだらかな段丘崖上にあり、黒色腐植土層は約20~30cmで所により大湯軽石質火山礫層を薄く含む。隣接するNo.19、18とほぼ同様の地質構成であり、黒色腐植土層の下位には安山岩の角礫(径0.5~2.5cm)を含む軽石質火山灰層が約30cmほどでみられ、さらに下位は赤褐色の礫まじりの粘土質土になる。これは高位段丘の礫層が風化したものである。なお、No.18での軽石質火山灰層の重鉱物組成は鉄鉱物(49.5%)角閃石(7.9%)単斜輝石(15.2%)斜方輝石(27.4%)であり、高位段丘面上のNo.19における火山灰層の組成に似ている。また産状、層相とも似ていることから降下火砕物と思われる。重鉱物組成の特徴からみると、角閃石が少なく、単斜輝石が多い点で申ケ野軽石質火山灰層に似ている。

※ 鉄鉱物(36.2%) 角閃石(8.3%)、単斜輝石(18.5%)、 斜方輝石(37.0%)

参考文献

秋田県教委(1968、1969、1970) 『胡桃館埋没家屋発掘調査報告書(概報、第2次、第3次)』 秋田県文化財調査報告書、14、19、22

秋田県(1973) 『秋田県総合地質図幅』「花輪」

藤本幸雄(1980) 「十和田火山起源の火山灰層の重鉱物組成(その1)大館、花輪盆地における火山灰層」『大館工業高校研究紀要』

藤原健蔵(1960) 「米代川流域の河岸段丘と十和田火山噴出物との関係」『東北地理』12、2、 34~41 P P

内藤博夫(1966) 「秋田県米代川流域の第四紀火山砕屑物と段丘地形」『地理学評論』第39巻 第7号 13~34 P P

内藤博夫(1970) 「秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史」『地理学評論』第43巻第10 号 594~606 P P

中川久夫、ほか(1972) 「十和田火山発達史概要」『東北大地質古生物研邦報』第73号 7~18 P P

大池昭二 (1972) 「十和田火山は生きている」『国土と教育』第26号 2~7 PP

上田良一(1965) 「秋田県北部の第三系の層位と造構造運動について」『秋田大地下資源開発 研究所報告』第32号 1~71PP

2. 環境と周辺の遺跡

秋田県の北東隅に位置する鹿角は、東に八幡平を介して岩手県と境を接し、北には青森県八甲田山系を控え、年間平均気温花輪9.4℃、年間平均降水量月168mmを測り、積雪量概して少なく、年間を通じて昼夜の温度隔差の大きい内陸型気候を示す地である。

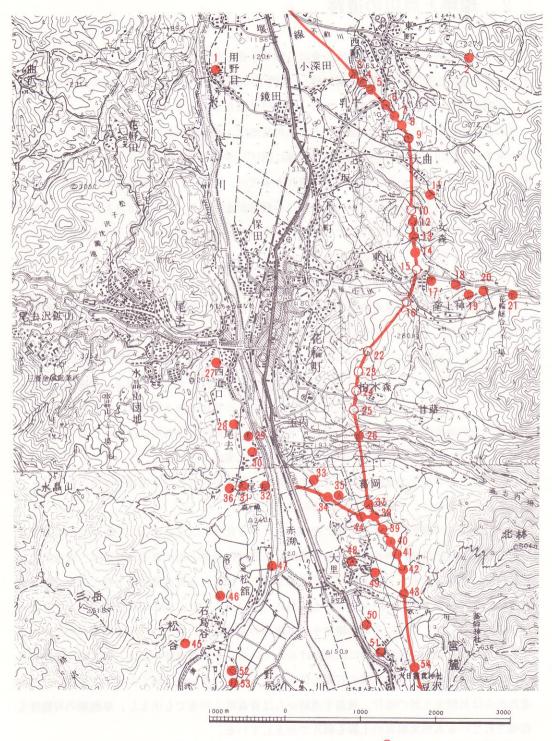
奥羽山脈中に形成された地溝盆地である鹿角盆地は、八幡平から北流する米代川、十和田から南流する大湯川、小坂川の三本の河川流域に開けた沖積地と、複合扇状地及び東部、西部の両山岳地帯からなっている。盆地中央を流れる米代川、大湯川、小坂川の三本の河川には、東西の両山岳地から多くの小侵蝕谷を伝わって小河川が流れ込み、沖積面よりも70~80m程高位にある標高 200 m 前後の山岳地裾野の段丘を開析している。そして、こうした小河川の間は、さらに細かな沢筋によって区切られる場合が多く、それらの沢筋によって分断された舌状の台地が、群となって開析谷と開析谷の間にいくつか連なって存在する。

鹿角盆地は多くの遺跡をその中に抱えているが、それらの遺跡は前述の標高 200 m 前後の段丘地帯に立地し、その段丘が多くの小侵蝕谷によって開析されているため、分布状態は多くの小河川によって分断された個々の段丘毎に群在の様相を呈する。盆地内で特に遺跡の集中する箇所をあげれば、熊沢川と米代川の合流地点南東の長嶺地区、米代川に西流して注ぎ込む歌内川が開析する大里地区、同じく米代川支流である福士川周辺の産土神地区、米代川、大湯川、小坂川の合流地点南側の神田地区、同じく北側の瀬田石地区、小坂川に注ぎ込む荒川の周辺等がある。また、盆地中央部東側の風張台地も広範囲に遺跡が点在する。

鹿角では旧石器時代の遺跡は確認されておらず、調査が行われたり遺物が採集されたりして 確認されているのは、全て縄文時代以降の遺跡である。

繩文時代早期の様相は、未だ明確に把握されている状態とは言い難い。三カ年にわたる東北 縦貫自動車道関係遺跡の調査で、大地平遺跡、上葛岡IV遺跡、柏木森遺跡等から、青森県八戸 市是川や岩手県二戸市等で出土例があり赤御堂式と呼称される表裏縄文の土器が破片で確認さ れている。同様の土器は大湯付近からも採集されている。また、上葛岡IV遺跡、猿ケ平II遺跡、 柏木森遺跡からは、胎土に多量の繊維を含み複節の羽状縄文の施された所謂砲弾形の深鉢が出 土しており、早期末~前期初頭に位置づけられている。上記の遺跡からは、縄文時代早期東北 地方北部に通有のトランシエ様の石器も併せて出土している。他に極く少量ではあるが一本杉 遺跡からは貝殼文土器の破片、飛鳥平遺跡からは青森県八戸市でも出土し、草創期の可能性も 指摘されている瓜形文類似の土器も破片で出土している。

縄文時代前期の遺跡としては、八幡平玉内にある清水向遺跡があげられる。この遺跡は昭和



第3図 周辺遺跡分布図

○ 昭和56年度発掘調査遺跡

番号	遺跡名(所在地)	時代・時期	遺跡遺物
	用野目(用野目)	平安	須恵器
1 2	併到日(用到日) 餅野IV(餅野)	平安	土師器
3	西町川(西町)	44文	繩文土器
4	西町 I(西町)	繩文、弥生	繩文土器、弥生土器
5	下乳牛 (下乳牛)	繩文、平安	平安竪穴住居跡、フラスコ状ピット、縄文土器、土師器、須恵器
6	乳牛平(乳牛平)	繩文、平安、中世	羅文土器
7	妻の神[[] (妻の神)	繩文、平安、中世	平安竪穴住居跡、土壙墓、堀立柱建物跡、フラスコ状ピット、縄文土器、土帥器
8	妻の神Ⅱ (妻の神)	繩文、平安	繩文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
9	妻の神 [(妻の神)	繩文、平安	平安竪穴住居跡、土師器、縄文土器、フラスコ状ピット
10	猿ケ平Ⅱ (猿ケ平)	繩文(早期~晩期)	繩文土器(早期、円筒下層 b、大木 9、10式、十腰内、大洞 B)、繩文竪穴住居跡
11	 大曲 (大曲)	縄文、平安	縄文土器、土師器
12	猿∽平Ⅰ(猿ケ平)	羅文(中期~晚期)	繩文土器(大木 8 a 式、十腰内 I 式、大洞 B、B C、C I 式)
12		弥生	
13	案内Ⅱ(案内)	繩文	繩文土器(前期、後期)、竪穴住居跡、土壙、配石遺構 繩文土器(前期、後期)、土師器、須恵器、縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
14	案内III(案内)	繩文、平安	繩文土器(刊期、後期人工即益、須总益、繩文立人任治時、十女立人工治局 繩文土器(十腰内 I 式)、土師器、縄文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡
15	案内 I (案内)	縄文、平安	繩文土器、土師器、平安竪穴住居跡、屋外炉
16	孫右ケ門館(孫右ケ門館)	繩文、平安	繩文土器、土即益、十五五八四四四、生/7% 繩文土器(晚期)、弥生土器
17	東山A(東山)	繩文、弥生 弥生	称生土器
18	東山B(東山)	75 年 縄文、続縄文	
19 20	赤坂B (赤坂) 赤坂A (赤坂)	繩文、 机 楓文 繩文	羅文土器
21	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	繩文	羅文土器
22	中の崎(中の崎)	繩文、平安	繩文土器(後期、晚期)、平安竪穴住居跡、土師器、須恵器、掘立柱建物跡
23	柏木森(柏木森)	繩文、平安	繩文土器(早期、後期、晩期)、土師器、土壙、フラスコ状ピット
24	明堂長根(明堂長根)	繩文	縄文土器(後期、晩期)、土壙、フラスコ状ピット、溝状遺構
25	一本杉 (一本杉)	繩文、平安	繩文土器、土師器、須恵器、繩文竪穴住居跡、平安竪穴住居跡、掘立柱建物跡
26	上葛岡IV(上葛岡)		
27	下平 (下平)	弥生	<u>弥生土器</u>
28	六角平 (六角平)	繩文	繩文土器(大湯式)
29	三光塚2号(東在家)	平安	硝子玉
30	三光塚1号(東在家)	平安	王類、勾王
31	東在家 (東在家)	縄文(晩期)	縄文土器(大洞BC、C 1式)、土偶
32	尾去 (尾去)	繩文	│ 縄文土器 │ 縄文土器(円筒下層 c 、d 式、大木 b 式、円筒上層 a 、d 式)、竪穴住居跡
33	清水向 (清水向)	繩文	種文工器(白同下層で、G.八、人外で入、口向工層で、G.八、五八に口が 縄文土器、住居跡
34	駒林 (駒林)	縄文	超又上帝、庄/白奶
35	下館 (下館) 尾去A~D(尾去)	中世 繩文、平安	繩文土器、土師器
36 37	上葛岡田(上葛岡)	縄文、 女	羅文土器
38	上葛岡Ⅰ(上葛岡)	繩文	羅文竪穴住居跡、繩文土器
39	北の林Ⅰ(北の林)	繩文、平安	
40	北の林川(北の林)	繩文、平安	繩文竪穴住居跡、土壙、繩文土器(大木10式)、平安竪穴住居跡、掘立柱建物跡
41	飛鳥平 (飛鳥平)	繩文、平安	繩文竪穴住居跡、繩文土器(十腰内 I 式)、平安竪穴住居跡、土師器
42	鳥居平 (鳥居平)	繩文	繩文土器、繩文竪穴住居跡
43	歌内 (歌内)	繩文、平安	縄文竪穴住居跡、土壙、縄文土器(大木8式、後期)、平安竪穴住居跡、土師器
44	上葛岡Ⅱ (上葛岡)		
45	石鳥谷(竹鼻)	繩文	繩文(円筒上層 a、b 層)
46	後口田 II (後口田)	繩文	繩文土器
47	岩淵(岩淵)	縄文	44年
48	大里館 (大里、掘合)	中世	縄文土器(大木9式)
49	大里 (大里)	繩文 繩文	縄又工部(大不り式) 縄文(中期、後期)
- 50 - 51	下鷲の巣 (下鷲の巣) 小豆沢館 (小豆沢)	繩又 繩文、中世	繩文(下舟)(夜舟) 繩文土器
51 52	下モ和志賀(下モ和志賀)	148人、丁巴	土器
52 53	田中館	中世	土器
54	堂の上 (堂の上)	繩文	繩文土器

29年武藤鉄城氏等によって調査され、県内で初めて縄文時代竪穴住居跡 2 棟を確認した遺跡として注目された。出土した土器は、前期後葉円筒下層 d 式を中心として、円筒下層 a 式、円筒下層 b 式等であり、また円筒下層 d 式土器に伴って、山形県吹浦遺跡等に類例の求められる大木 6 式土器 も出土している。また、東北縦貫自動車道関係の調査では、居熊井遺跡、上山田遺跡、堂の上遺跡、小豆沢館遺跡等から主に円筒下層 d 式を中心とした前期後葉の土器の出土をみている。

繩文時代中期の遺跡は東北縦貫自動車道関係遺跡の調査で数箇所調査されている。飛鳥平遺跡、北ノ林 I 遺跡、北ノ林 II 遺跡では石組の複式炉をもった竪穴住居跡が検出され、大木 9~10式土器を出土している。また歌内遺跡では、フラスコ状土壙の壙底から中ノ平式土器を出土している。

後期は、鹿角における繩文時代各期を通じて、調査、発見例の最も多い時期である。東北縦貫自動車道関係の遺跡では、後期中葉の捨場と竪穴住居跡を確認した居熊井遺跡、後期初頭の埋設土器を検出した飛鳥平遺跡、後期中葉の石組の炉をもつ竪穴住居跡を検出した案内 I 遺跡、案内III遺跡、猿ケ平 I 遺跡、猿ケ平 I 遺跡、後期後葉の竪穴住居跡を検出した案内 II 遺跡等がある。さらに昭和43年には奥山潤氏等によって、十和田大湯の黒森山麓竪穴群遺跡が調査され、後期前葉の土器を伴った石組をもつ竪穴住居跡の検出が報告されている。

また、昭和26年、27年の両年に調査が行われ史跡指定された大湯環状列石は、その後数回に わたって周辺の分布調査がなされ、現在の万座、野中堂の両列石の他にも付近数箇所に配石群 の存在が確認されている。

晩期では、清水向遺跡と同じ台地に立地する玉内遺跡が知られ、晩期中葉の遺物とともに所謂日時計形の列石が確認されている。また、この玉内遺跡の立地する台地とちょうど米代川を挟んでの対岸には東在家遺跡があり、晩期中葉までの遺物を多く出土している。東北縦貫自動車道関係の調査では、柏木森遺跡、明堂長根遺跡から袋状土壙群が検出され、晩期初頭の遺物を多く出土している。

秋田県内における弥生時代の遺跡は現在までのところ縄文時代のそれと較べると、知られている遺跡数、その内容とも少なく且つ不明確な点が多い。鹿角はその中にあっては比較的該期様相の理解がすすんでいる地域である。

鹿角盆地北端の小坂町周辺では、奥山潤、安保彰両氏の活動により、内ノ岱遺跡、曙岱遺跡等から、天王山式類似の土器、後北C式土器が採集され報告されている。また鹿角市尾去沢からは田舎館式類似の土器が出土している。東北縦貫自動車道関係の調査では、大地平遺跡、駒林遺跡から縄軸の絡縄体の回転施文された土器片、奥山潤氏等命名によるところの小坂X式土器が出土し、さらに猿ケ平Ⅰ遺跡からは天王山式類似の土器が出土している。しかし、これら

の弥生時代の土器は今のところ断片的な出土に限られており、伴出する他の遺物や遺構等、未 だ不明な点が多く残されている。

奈良、平安期の古代の遺跡も近年調査例を増して来ている。古くは昭和初年に木村善吉氏等によって調査され、その後、後藤守一氏等によって調査された菩提野竪穴群遺跡がある。この遺跡は計12カ所の竪穴群からなると想定されたが、その調査当初から覆土中に入る火山灰層が注目され、以来鹿角における該期の遺跡調査は、この火山灰層との関係解明を大きな視点の一つとして据えることになる。近年では大湯環状列石周辺の分布調査、鳥野遺跡、源田平遺跡、小平遺跡等の調査で、該期竪穴住居跡が検出され、また、東北縦貫自動車道関係の調査では、歌内遺跡、飛鳥平遺跡、北ノ林 I 遺跡、北ノ林 II 遺跡、上葛岡IV遺跡、駒林遺跡、一本杉遺跡、中ノ崎遺跡、案内 I 遺跡、案内II遺跡、妻ノ神 I 遺跡、下乳牛遺跡などで竪穴住居跡が検出されている。さらに御休堂遺跡、高市向館遺跡でも同様の住居跡が検出されている。菩提野竪穴群から含めた現在まで確認されている該期住居跡の総数は、144棟という膨大な数にのぼる。

他に、奈良、平安期の遺跡としては、十和田錦木字曲谷地にある枯草坂古墳、尾去沢字東在家にある三光塚古墳群があげられる。いづれも終末期の小円墳であり、玉類、刀装具等を出土している。また十和田字室田にも古墳群があったと伝えられている。

中世鹿角は、鎌倉時代にこの地に移住したと伝えられる成田氏、安保氏、秋元氏、奈良氏の所謂鹿角四氏の支配する地域であった。これら四氏から出自する各々の庶流は、盆地内に所領を得て『鹿角由来集』『鹿角由来記』などに伝えられる鹿角四十二館にそれぞれ居を構えて割拠する。この状態は近世鹿角が南部領となるまで続く。

鹿角には、鹿角四十二館あるいは四十八館に該当するものを含めて計58カ所に及ぶ「館」跡が確認されている。これらの「館」跡は、舌状に張り出した台地を、1~数本の掘切を構築して造りあげている多郭連続式のものが多い。すなわち、一カ所の「館」跡は数個の郭が連っている。また、郭自体が元来舌状台地であったため、「館」として使用される以前にも人間の居住域として選定される事が多く、郭上面の調査では時として縄文時代、平安時代の竪穴住居跡等が中世の遺構、遺物等とともに検出される。

現在までに発掘調査の行われているのは、小枝指七ツ館、長牛館、御休堂遺跡等があり、東 北縦貫自動車道関係では、湯瀬館遺跡と乳牛館の一部と考えられている妻ノ神I、同II、同III、 乳牛平遺跡が調査終了している。

猿 ケ 平 II 遺 跡

遺 跡 番 号 No.21

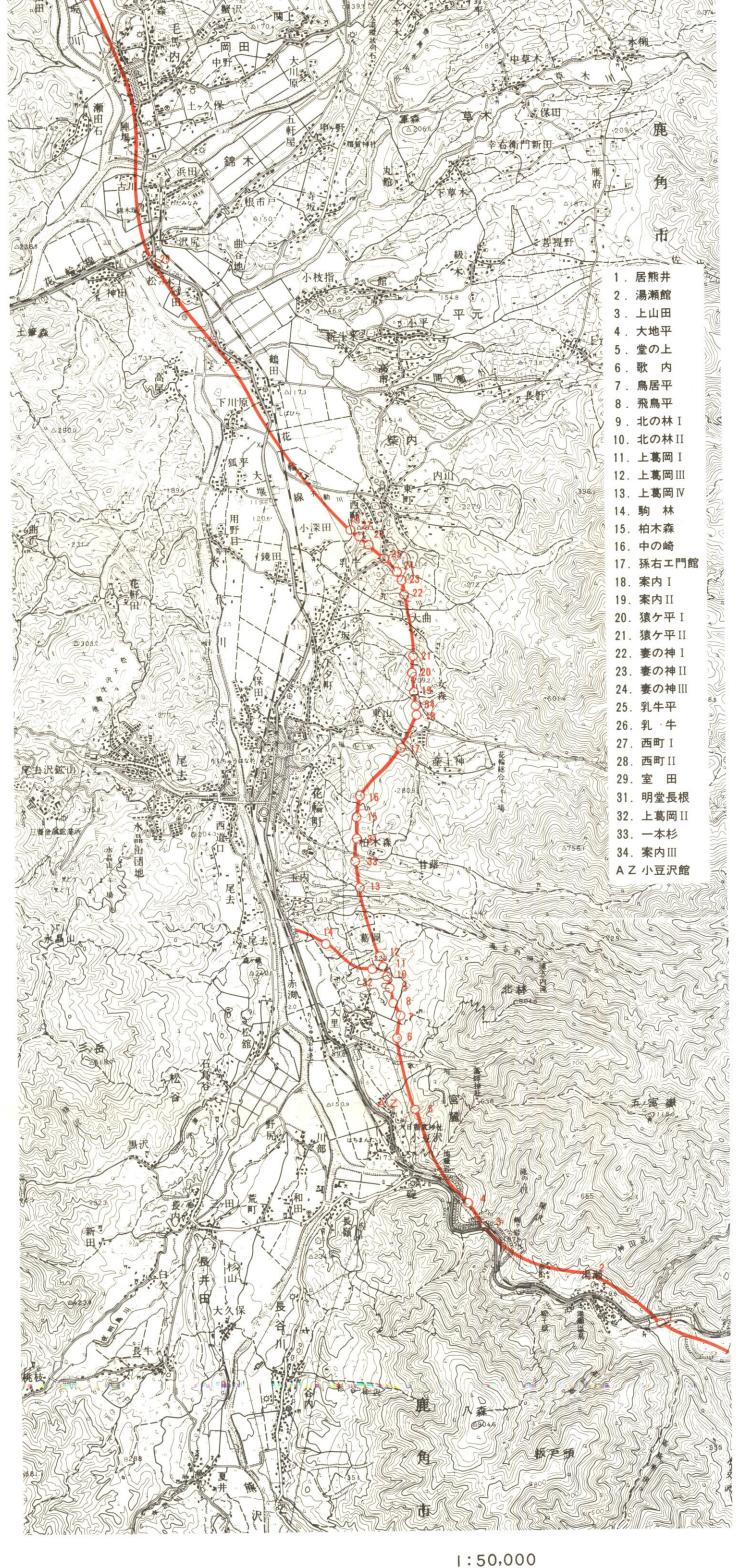
所 在 地 鹿角市花輪字猿ケ平144番地 他

調 査 期 間 昭和56年4月20日~7月20日

発掘調査予定面積 7,460 m²

発掘調査面積 5,800m²

17 - 20



1. 30,000

1 遺跡の概観

猿ケ平Ⅱ遺跡は秋田県鹿角市花輪字猿ケ平 144 他に所在する。国鉄花輪線陸中花輪駅より北東2.4km、北緯40度12分05秒、東経140度48分40秒の地点で、花輪古館団地(中世城館跡、県登録遺跡番号80、白山堂遺跡)と大曲集落を結ぶ市道陣場女森線のほぼ中間東側に位置する。

奥羽山脈の一部を形成する花輪盆地東部山地とその山麓は盆地床の米代川に注入する幾筋かの小河川と沢目によって区切られ、扇状もしくは舌状の台地が数多く発達している。遺跡地はこの東部山地の通称馬の背(標高895m)と呼ばれる一峰の西麓からゆるやかに北西に伸びる数段の段丘のうち「鳥越段丘」と呼ばれる面に立地している。標高は164mで下の水田面との比高は10m程の舌状の台地である。調査地はこの舌状台地を南北に縦断する高速道路予定地内で、発掘調査以前は樹齢100年に近い杉の植林地と果樹園であった。

隣接の遺跡としては、東方 200 mの花輪低位段丘上に立地する昭和55年度調査の縄文時代後期の竪穴住居跡とフラスコ状ピット群、晩期の土壙と弥生式土器の検出された猿ケ平 I 遺跡があり、やや離れたものとしては、前述の猿ケ平 I 遺跡南方 400 mの所に位置する昭和55年調査の縄文時代後期と平安時代の数多くの竪穴住居跡を検出した集落跡の案内 I・Ⅲ遺跡がある。

2 調査の方法

遺跡は東北縦貫自動車道の本線にあたる。そこで発掘調査予定地内に存在する道路中心杭STA145とSTA145+20を結ぶ直線とその延長線を基線として、これに直交する線を設定し5m×5mのグリッドを発掘調査予定地内に組んだ。南から北へアラビア数字で3~47まで、同じく東から西へアルファベットでA~Jを付し、C区を調査する際にZを付加し、両者を組み合せて3-Fグリッドのように呼び、グリッド南東隅の交点をグリッド名称とした。また遺跡が南北に細長く存在するため便宜上沢より南をA区、市道より北をC区、沢と市道にはさまれた地区をB区とした。

発掘調査は初め遺跡層位の把握と遺構の確認のため、南北に長い数本のトレンチを設定した。その結果B区・C区において竪穴住居跡・土壙・フラスコ状ピット等が検出されたので、全面発掘に切り替えて調査を行った。確認された遺構については性格別に発見順に番号を付し、その実測については 2 本のグリッド杭を結んだ線およびその延長線を基線として、これに直交する 1 m×1 mの小グリッドを遺構の大きさに即して設定する遺り方測量に依った。‰の縮尺を原則とし、必要に応じて‰の縮尺を採用して実測図を作成した。



3. 調査の経過

猿ケ平Ⅱ遺跡の発掘調査は、昭和56年4月20日から7月20日まで実施した。

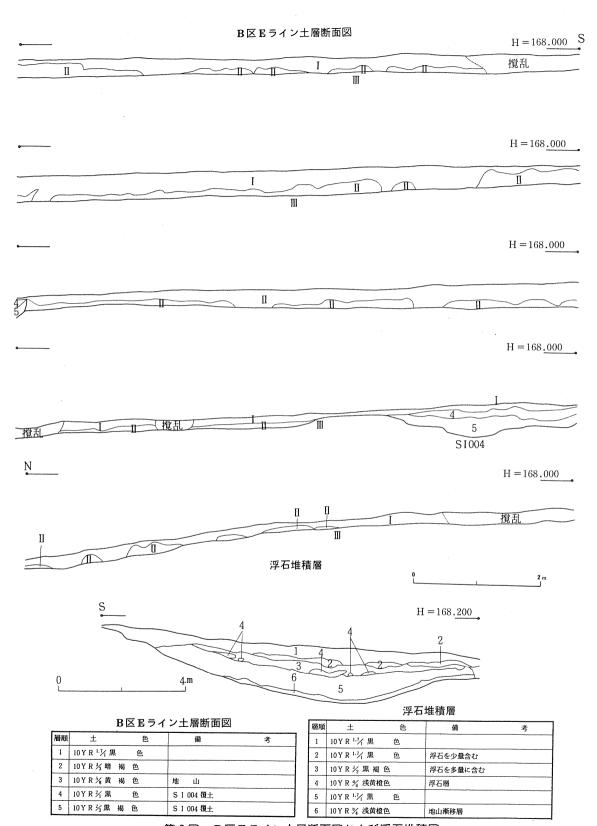
4月20日調査員、補佐員、作業員が現地に集合して発掘調査についての打合せを行い、後プレハブに器材を搬入した。同日から23日まで土木業者による遺跡地の抜根、表土除去が行われ、21日測量業者によるグリッド杭打ちが開始され24日まで続く。これと並行して発掘予定地に南北長さ100m、幅1mの数本のトレンチを設定し粗掘りを行う。その結果31一日グリッド付近において縄文時代早期の表裏縄文土器十数片と、34ライン以北のB区北側斜面一帯に縄文時代前期、中期の土器片が分布することが確認された。このトレンチ掘りは5月14日まで続けられた。5月15日にはB区25ラインを全面発掘に切り替え、トレンチの土層断面図の完了した箇所からグリッド粗掘りを開始する。粗堀の範囲が北方に拡がるとともに遺構の確認が相次ぎ、20日にはSI 010竪穴住居跡が全容を現わし、その後も土壙、フラスコ状ピットが検出され精査と実測が開始された。

6月2日B区北端においてこれまで確認のされた竪穴住居跡、フラスコ状ピットと覆土の異なる地山の混じった覆土のSI 003竪穴住居跡、SK(F)002フラスコ状ピットを確認した。さらに粗掘りが25ライン以北全域にわたった24日迄には竪穴住居跡 5 棟、土壙10基、フラスコ状ピット10基、Tピット 2 基が検出され精査と実測が続けられた。SI 005 竪穴住居跡は 3 基のフラスコ状ピットと切りあうことが分かり、SK 009 土壙からは晩期の完形に近い土器 1 個が出土した。16日から当遺跡調査後に発掘調査の予定されている柏木森遺跡(遺跡番号No.15)へ補佐員と作業員の一部が出向き、土層観察用のトレンチを設定し予備調査に入る。

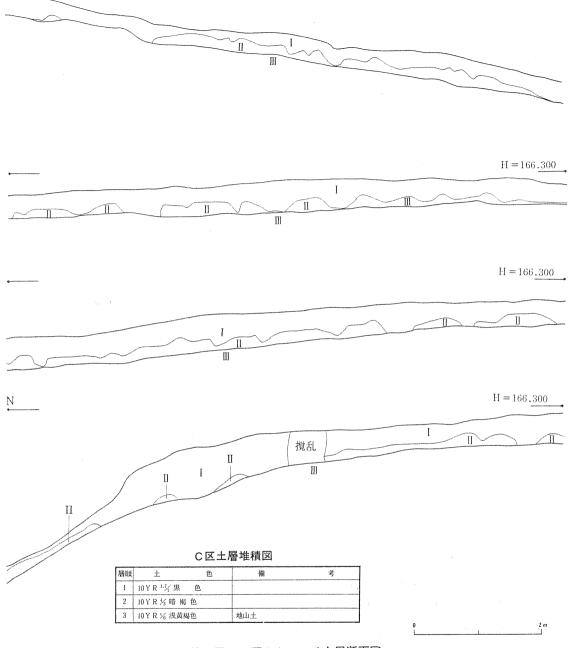
7月9日B区で検出された竪穴住居跡と土壙の調査が一段落したため、作業員をC区に移動させて表土除去と粗掘りを開始する。3基の土壙とフラスコ状ピットが検出され、そのうちの1基SK(F)014のフラスコ状ピットは他にあまり類例の無い底部に4基の小型フラスコ状ピットと1基の土壙をもつものであった。17日には調査専門指導員北海道大学助教授林謙作先生が来跡し遺構の調査と出土遺物について指導助言くださった。18日遺跡北側足下に存在する水田にトレンチを設定し発掘を行うが、遺構、遺物は確認できなかった。20日竪穴住居跡8棟、土壙12基、フラスコ状ピット23基、Tピット2基の実測及び写真撮影をすべて終え、発掘面積5,800㎡、調査日数79日にわたる発掘調査を完了する。

4 遺跡の層位

遺跡堆積土層の状態と遺構の分布状況を確認するために、A・B・Cの三区にトレンチを設



第2図 B区Eライン土層断面図および浮石堆積図



第3図 C区Bトレンチ土層断面図

定したが、基本土層としたものは、このうちB区の遺跡中央を南北に走る道路中心杭に沿ったトレンチと、C区のZグリッドラインに沿って設定したトレンチの土層である。

B区土層堆積 (第2図) : 表土から地山上面まで30~50cmの厚さを測り、2層に分層できる。 第1層 10 Y R 1.7/1 黒色 B区全域を覆い、厚さ30~40cmを測る。北側斜面と中央に存 在する沢に厚く堆積し、抜根の際の攪乱が見られる。

第Ⅱ層 10 Y R 3/3 暗褐色 ほぼ全域にみられるが、抜根のため存在しない部分もある。 厚さ 5~10cm。

第Ⅲ層 10 Y R 5 / 8 黄褐色 地山層である。23 一 H グリッド深掘り地点においては 120 cm 程の厚さがあるが、北側斜面では30~40cmと浅い。遺構はす べてこの層を掘り込んで構築されており、遺構確認面である。

第IV層 10 Y R 7/3 にぶい 地山面を構成するものと思われる。厚さは 2 m以上。すべて 黄橙色 のフラスコ状ピットは第III層を完全に掘り抜き、さらにこの 層を 1 m程掘り込んで構築している。また S I 005 竪穴住居 跡、 S K(F) 004フラスコ状ピット等の覆土内にみられるに ぶい黄橙色土はこの第IV層のものと判断される。

C区土層堆積(第4図):表土から地山層上面まで、30cm~80cmの厚さがあり、2層に分層される。

第 I 層 10 Y R 1.7/1 黒 色 全域を覆っており、北側斜面は厚さ80cmと深く、他は10~35 cmと浅い。木根が多く入っている。

第Ⅱ層 10 Y R 4 / 3 明褐色 抜根により存在しない所もあるが、以前は全域を覆っていた ものと思われる。厚さ 3 ~ 20cm。

第III層 10 Y R 6 / 6 明黄褐 地山層で遺構確認面でもある。コブシ大の礫を多量に含む。 色 この層下にもB区土層堆積第IV層と同じにぶい黄橙色土が堆積している。

浮石堆積層(第3図 図版6一上):浮石の堆積はB区23一C、23一Iグリッドを中心とした沢に存在した。23—Iグリッド付近で確認された浮石の堆積は3層に細別され、表土から地山面まで6層に分層された。これらは平安時代のいわゆる大湯浮石(十和田a)と考えられる。

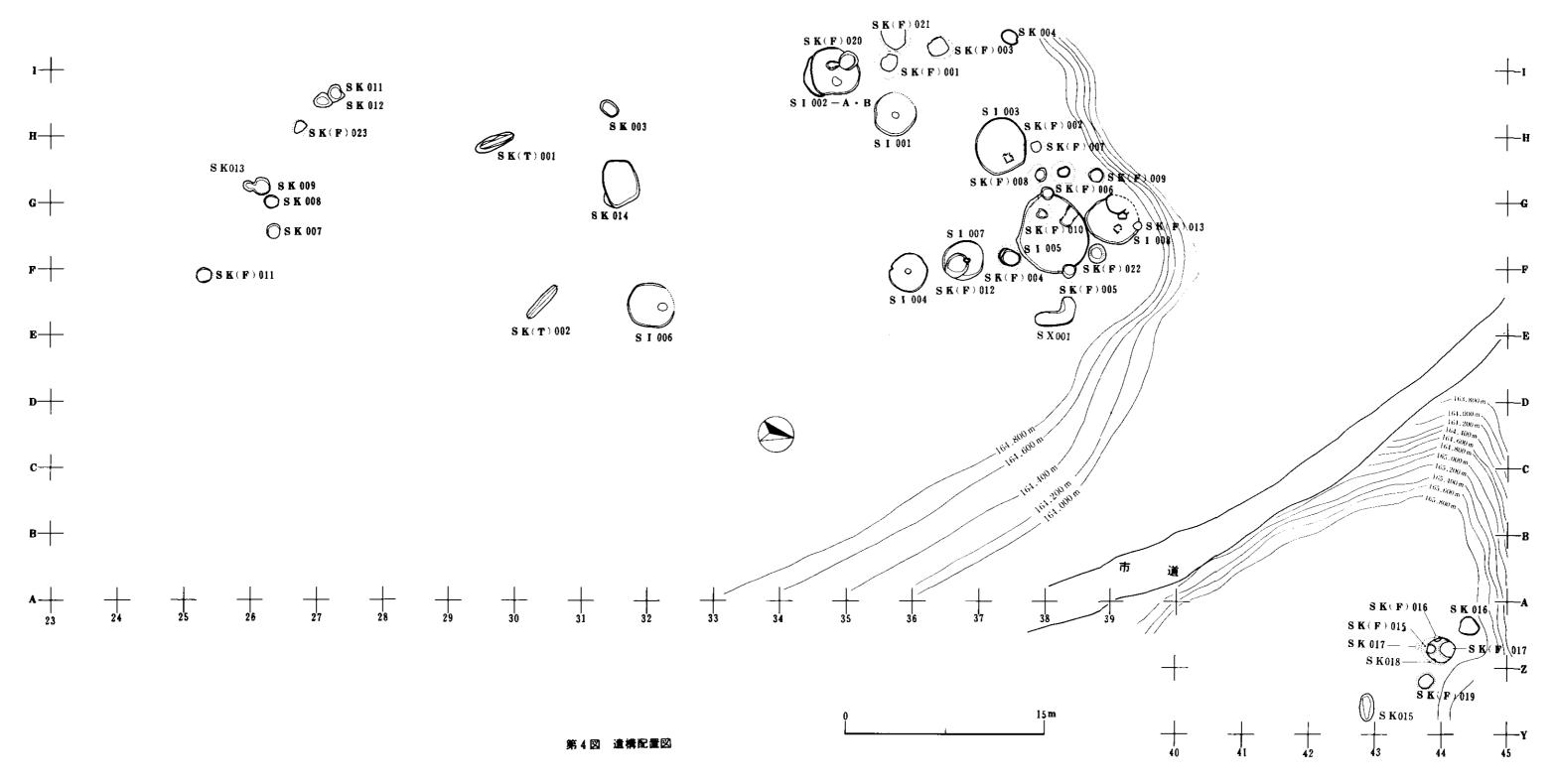
第1層 10YR1.7/1 黒 色 B区土層堆積の第1層で、10~30cmを測る。

第2層 10Y R1.7/1 黒 色 第1層と同色を示すが、少量の浮石粒子の混入がみられる。 厚さ5~22cm。

第3層 10YR3/2 黒褐色 多量の浮石粒子の混入がみられる。厚さ5~38cm。

第4層 10 Y R 8/4 浅黄橙 まじりの無い浮石堆積層である。この層下部には粒径の大き 色 い浮石粒子がみられる。厚さ10~20cm。

第5層 10Y R1.7/1 黒 色 B区土層堆積第III層の粒子が混入する。厚さ25~80cm。



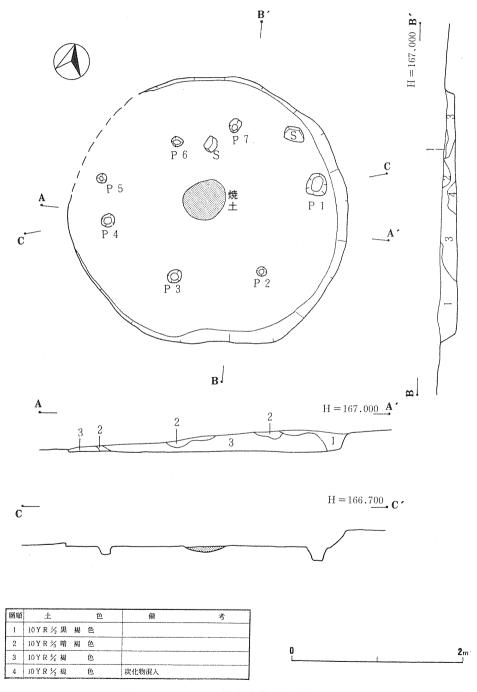
第6層 10YR8/4 浅黄橙 地山漸移層である。

色

ここで観察された浮石堆積層は黒色土、黒褐色土に浮石粒子の入り込んだ浮石混入土と混入物のない浮石堆積層からなる3層で、断面形は凸レンズ状を示し、中央部で50cm程の厚さを測る。混入物のない浮石堆積層は上層部に粒径の小さな浮石粒子からなる層と、下層部に部分的にではあるが粒径の大きな浮石粒子からなる層に細別される。これは浮石が沢に流れ込んだ時に二次的な水流による洗い出しを受けていると思われる。

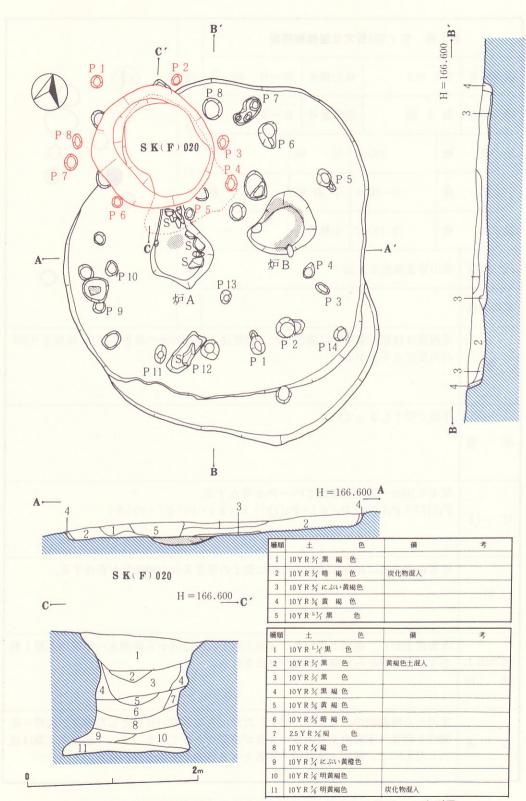
5. 遺構と遺物

(1)検出遺構



第5図 SI 001竪穴住居跡実測図

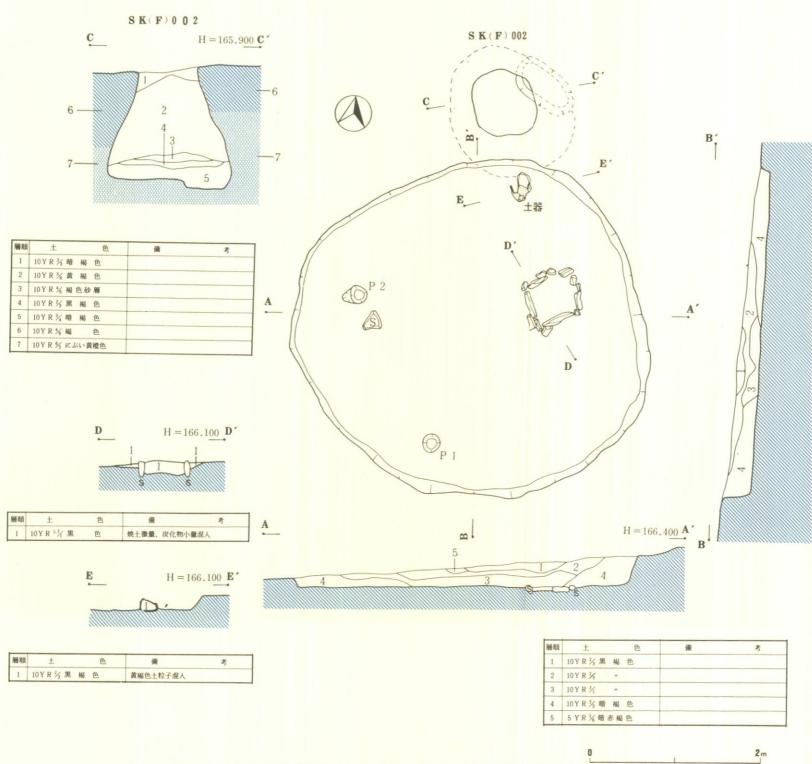
	iggasias valorias va	第1表 SI001	竪穴住居跡	観察表			
ij	構名	S I 001	検出地区	35—Н. З	86— H	遺	
挿図	图番号	第 5 図	図版番号	6一下		構	
法	長	軸 330cm 短 軸 312cm				0	0 0
	壁	高 0~200	em 平面 升	15 円	形		0
量	面	積 (8.19)	m² 主軸方[и —	Authorities	位	
確	認面	第III層黄褐色土	上面			置	0
重複	复関係						
	北西壁は抜根作業の際に崩壊した。他壁は 5 cm~20cmの高さを測り、床面より50°の角度で立ち上がる。						
床	面	平坦で堅くしま	っていた。				
ピ	ット	壁より10cm~60 P ₁ (15)・P ₂ (7)					8) • P ₇ (9)
	住居跡中央部に40cm×50cmの範囲に焼土の厚さ8cmの地床炉が存在する。 炉						
遺物	床面直上から、前期土器および後期土器と、P6付近から後期末〜晩期の土器1個 遺物出土 出土。埋土中から前期の土器が検出される。 状 況						
備	考	期の1個体の床	面出土の土	器の存在が	説明つれ	かな。	期の住居とした場合、後期〜晩くなる。よって前期の土器は流 の当と思われる。



第6図 SI 002竪穴住居跡およびSK(F) 020 フラスコ状ピット実測図

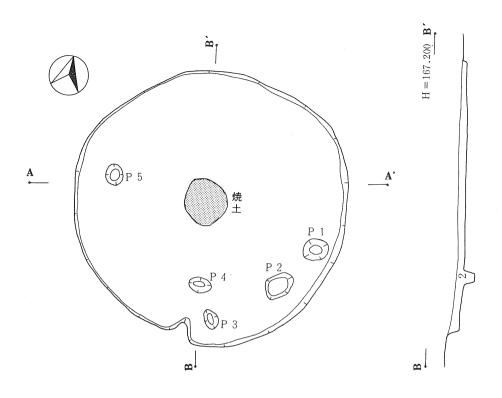
		第2表	S I 002	 竪穴住居跡	観察表		
遺	構名	S I 0	02	検出地区	34— H 、35— H 34— I 、35— I	遺	
挿図	挿図番号 第 6 図 図版番号 7 一上		構				
法	長	軸	380cr	n 短 車	н 348cm	0	0 0
	堅	高	0~20cm	n 平面用	7整円形		
量	面	積	10.62m	主軸方向	N — 22° — W	位	
確	認面	第III層	黄褐色土」	二面		置	0
重礼	复関係	SK(F	〒)020に炉	Aが切られ 	ている。		
	壁						
床	面	東側に	砂質の貼尿	₹が施されて	ている。中央西寄	りにか	炉Aが、東寄りに炉Bがある。
Ľ	ット						P ₃ (14), P ₄ (18), P ₅ (22), ₁ (15), P ₁₂ (15), P ₁₃ (26),
	炉A、炉Bがある。炉Aは方形の石組炉で、北端をSK(F) 020に破壊されている石組炉であるが、西側の石は抜き取られている。炉Bは掘り込みを有する地床炉で、炉内と周辺部に焼土が見られる。						
遺物	物出土 況	P5埋土から石斧が、P9埋土から縄文土器片が出土。					
備	考						ンの一部が確認できた。この遺 号跡になるかははっきりしない。

		第3	表 SI003竪	空穴住居跡観	察表			
遺	構名	SI	E 003		36—G、37—G 36—H、37—H	遺		
挿図	挿図番号 第 7 図 図版番号 7 下 11上			•	構			
法	長	軸	軸 4.28cm 短 軸 394cm			0		0
	壁	高	10~35em	平面形	円形		0	O
量	面	積	13.00m	主軸方向	S-71°-W	位		
確	認面	第Ⅱ	I層黄褐色土上	:面		置		0
重複	夏関係					To the state of th		
	床面が北西にゆるやかに傾斜するため、北西壁は低い。他壁は床面よりほぼ45°の角度で立ち上がり、しっかりとした作りである。							下面よりほぼ45°
床	面	僅か	`であるが凹凸	を示し、堅	くしまっている。			
Ľ	ット	西壁	££ 9 30cm∼50	Ocm程離れて]	$P_1(53)$, $P_2(55)$	 が存る	在する。	
,	沪				コブシ大の川原石 川原石を用い方別			-41cmの横長の川
遺物状	遺物出土 状 況 炉北側1mの床面に複元可能な土器1個体、また住居跡 炉内埋土中より数点の 器片が出土。						ニ中より数点の土	
備	考							



第7図 SI003竪穴住居跡およびSK(F)002フラスコ状ピット実測図

**************************************		第 4	表 SI004	竪穴住居跡	ī観察表	and a second control of the second control of the Co		
遺	構名	S I	004	検出地区	35—E, 35—F,		遺	
挿図	(番号	第	8 図	図版番号	8- <u>L</u>		構	
法	長	軸	軸 298cm 短 軸 288cm				0	0 0
	壁	高	8~10ci	m平面用	F F	9 形		
量	面	積	6.58m	ı² 主軸方[j —	-	位	
確	認面	第 []	[層暗褐色土、	第III層黄衫	曷色土上[Í	置	0
重複	夏関係							
j	壁		x的に 8 cm~1 Bが存在する。	Ocmと低く、	床面より) 垂直に	立ち_	上がる。壁南側に20cmほどの突
床	面	平坦	1で堅くしまっ	っている。自	主居跡北西	西部は暗	褐色:	土の貼り床である。
Ľ	ット		E部の壁にそっ 13cm)、P3(7					ぶ存在する。P₁(13cm)、
	住居跡中央に42cm×50cm、焼土の厚さ4cmの地床炉が存在する。焼土は、明赤褐色、または暗褐色を呈する。							炉が存在する。焼土は、明赤褐
遺物状	勿出土 況					sa.		
備	考							

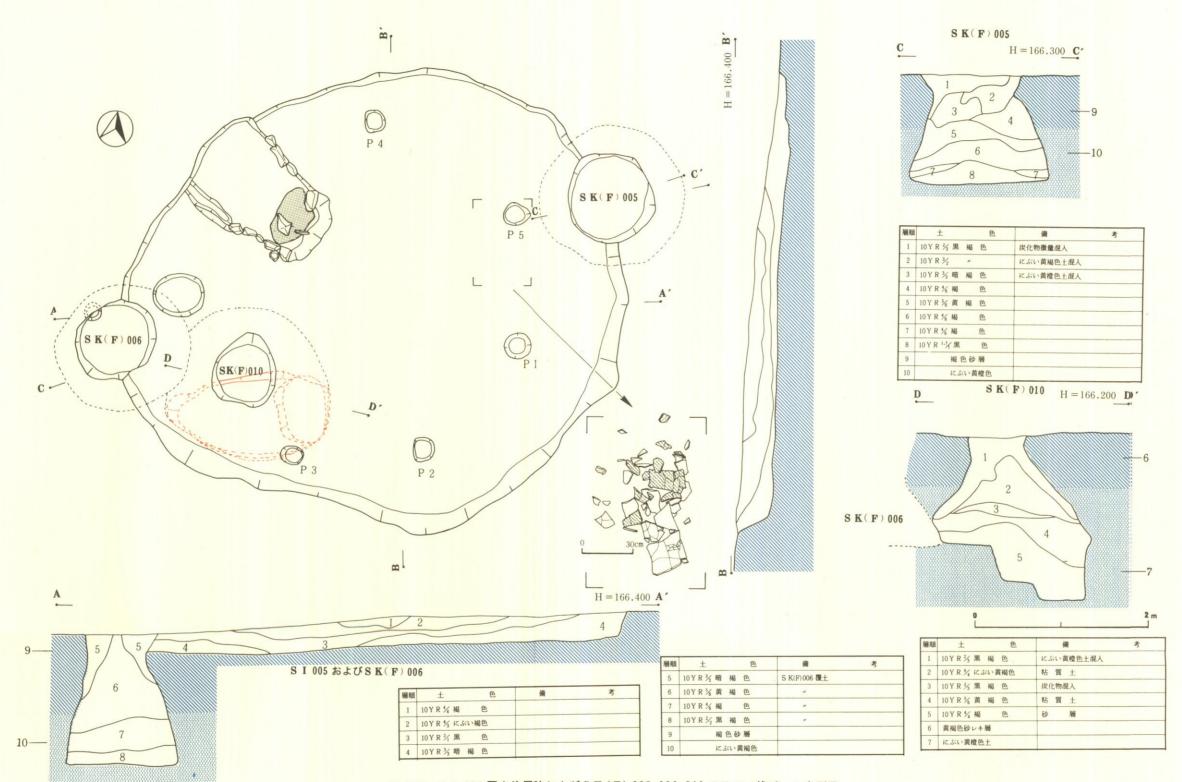




層順	土	色	備	考
1	10 Y R ¾ 黒	色		
2	10 Y R ⅔ 黒	褐 色		

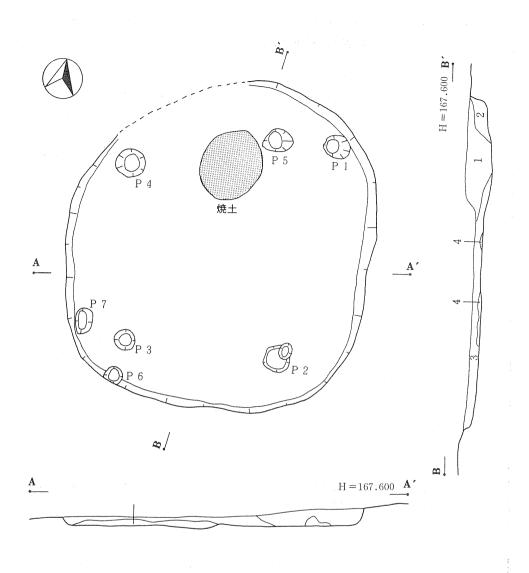


第8図 SI004竪穴住居跡実測図



第9図 SI005竪穴住居跡およびSK(F)005・006・010フラスコ状ピット実測図

	Mask-ter terrorises.	第 5	i表 SI005	竪	穴住居跡観				
遺	構名	SI	005	杉	3. 又唯出金	37—E、38— 37—F、38— 37—G、38—	F	遺	
挿図	挿図番号 第 9 図 図版番号 8 下 11 下				構				
法	長	軸	592cm 短 軸 540cm			em	0	0 0	
	壁	高	9~40c	m	平面形	円	形	• ,	
量	面	積	24 . 75n	n²	主軸方向	S -59° - W		位	
確	認面	第II	I層黄褐色土」	上面	ū			置	
重複	复関係		K(F) 005・0 ルトが重複する		· 010 <i>0</i>) 3 (固のフラスコ:	伏		
	北側にゆるやかに傾斜する斜面に構築されている。そのため北側の壁は低い。 は部分的に直角に近い角度で立ち上がりを示すが、他は70°に近い角度で床面 立ち上がる。しっかりとした作りである。								
床	面	用し		21					いた。他はにぶい黄褐色土を使 は出来なかった。床面全体は堅
ť	ット		、り20~80cm尚 35.4cm)、Ps			が存在する。	P1((36.	5cm)、P ₂ (35.5cm)、P ₃ (35cm)
	炉	大が部よ	いら人頭大の川	日展	原石10個を	使用し相対す	るよ	こうし	開口部は壁に接する。コブシ こ配列される。さらに南側石組 の石の抜き取り痕と思われる溝
住居跡南西部埋土中に後期土器数点と床面数cm上でP5を覆うように、中期末の遺物出土 鉢土器1個体(ただし底部を欠く)が出土した。また床面および炉埋土中より状 況 器各1点づつ出土した。									
備	考					状ピットが重 06(新)である		-る。	新旧関係は(旧)SK(F) 010

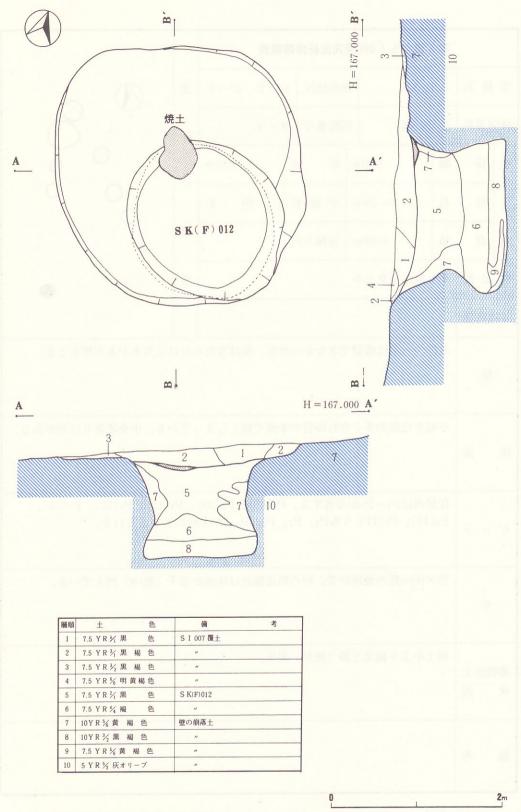


層順	土	色	備	考
1	10YR2/2 黒 ‡	易色		
2	10YR½灰黄	褐色		
3	10 Y R 沙黑 福	号 色		
4	10 Y R 1/4 KC Sil	黄褐色		

0	2
	4 m

第10図 SI006竪穴住居跡実測図

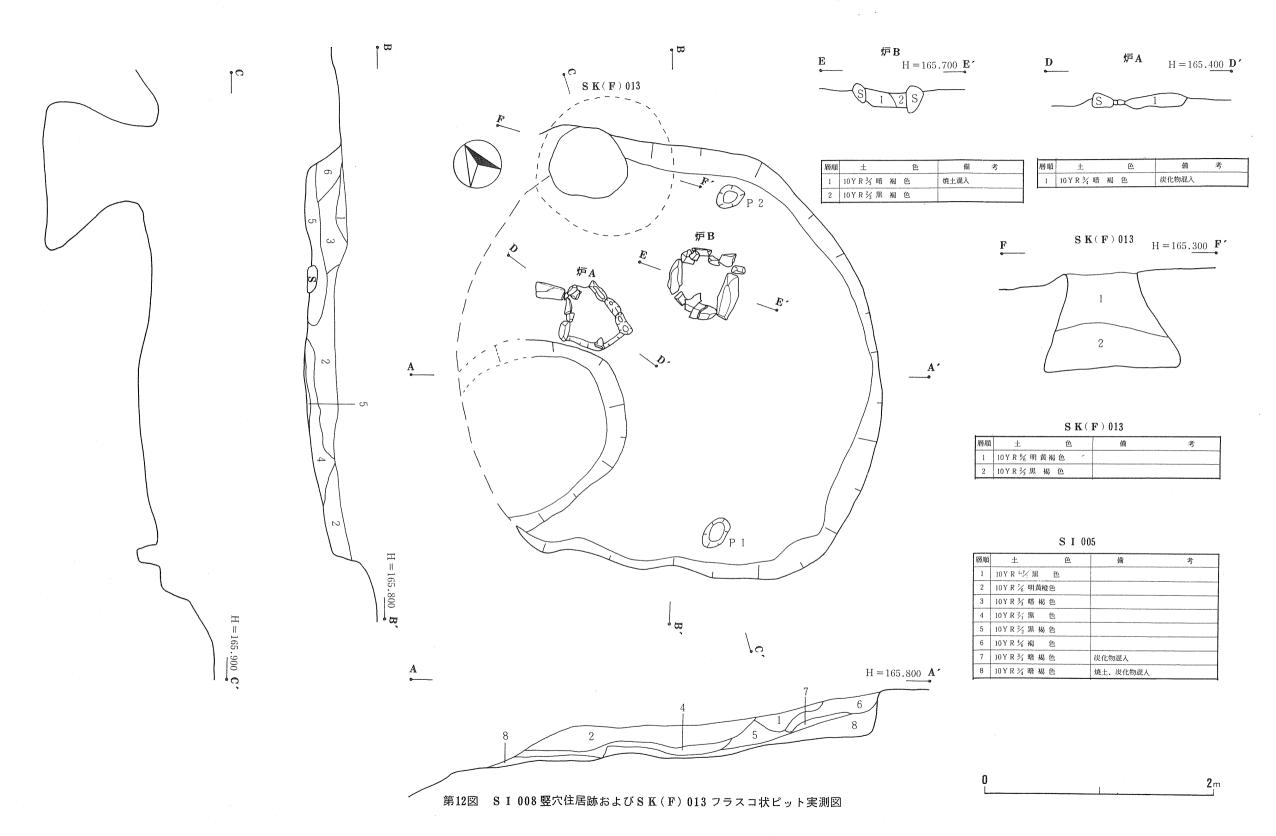
	with the second streets	第 6	表 SI006	竪穴住居跡	観察表	онорний колболе достроен выход меня больно		
遺	構名	SI	006	検出地区	32—E,	33— E	遺	
挿図	図番号	第]	10 図	図版番号	9・上		構	
法	長	軸	軸 354cm 短 軸 320cm			- の	0 (
***************************************	壁	高	0∼28cr	n 平面 #	月	形		0
量	面	積	9.37m	主軸方向	I] —		位	
確	認面	第Ⅱ	層暗褐色土中	1			置	
重複	复関係							
	壁	北壁の一部は確認できなかったが、他はなだらかに立ちあがる形態をとる。						
床	面	小石	「を比較的多く	含む砂質の	床面で固	くしま-	ってぃ	いる。中央北寄りに炉がある。
ť	ット							g(19)、P4(52)、P5(34)、 と考えられる。
	75×60cm程の地床炉で、炉の周辺部分は床面が若干(数cm)凹んでいる。 炉							
埋土中より縄文土器(底部)出土。 遺物出土 状 況								
備	考				PARAMETER AND MAIN ANTIQUE OF A STATE OF THE		WARRENCO WITH THE PROPERTY OF	



第11図 SI 007竪穴住居跡およびSK(F) 012 フラスコ状ピット実測図

		第 7	表 SI0075	医穴住居跡	朗察表			
遺	構名	SI	007	検出地区		、37— E 、37— F		
挿図	挿図番号 第 11 図 図版番号 9・下		構					
法	長	軸	軸 300cm 短 軸 290cm					
	壁	高	0~20c	m平面升	E	円 形		
里	面	積	7.29n	ı² 主軸方向	fi —		位	<u>Z</u>
確	認面	第II	I層黄褐色上面	Ī			置	
重複	复関係	SK	X(F)012廃勇	乗後に構築る	されてい	る。		
	壁							
床	面	小石	「・礫を多く?	含む床面でる	あり、そ	のため凹		「見られる。貼床は認められない。
Ľ	ット	確認	恩できなかっ7	· ·				
ACCUPATION OF THE PROPERTY OF	地床炉で床面のほぼ中央にある。							
遺物	勿出土 況							
備	考						100	

		第	8表 SI008	竪穴住居跡	 観察表		
遺	構名	S	800	検出地区	38— F 、39— F 38— G 、39— G		
挿図	挿図番号 第 12 図 図版番号 10・上、下 12・上			構			
法	長	軸	395cm 短 軸 (370)cm			İ	0 0
	壁	高	30~40cm	平面用	円形		0 0
量	面	積	(11.62)m	主軸方向] — —	位	
確	認面	第II	I層黄褐色土上	面		置置	
重複	夏関係	SK	(F) 013によ	って切られ	ている。		Ç
	壁		きは斜面削平の 50°〜垂直に近			30cm ~	-40cmと良く残っており、床面
床	面	床面	i直上4カ所で	焼土を確認	する。床はゆる	やかさ	(凹凸を示し、軟弱である。
Ľ	ット	壁に	沿ってP ₁ (19)	、P ₂ (17) t	"存在する。		
y!	床面に2基の石組炉A・Bが存在する。 石組炉A――住居跡中央よりわずかに北西よりに存在する。炉西側に8個の川原石の配列が残る。他は抜きとられており、その抜き取り痕がみられる。 石組炉B――住居跡中央よりわずかに北東よりに位置する。11cm~41cm大の川原石10個を用い方形に組んでいる。						
遺物状	埋土中より数点の土器出土。 辺出土 沢						
備	考						



第9表 SK土壙観察表(1)

			先り ひ	3八工頻此录式(1)	_
			S K 003	S K 004	S K 007
挿		図	第 13 図	第 13 図	第 13 図
図		版		·	
 検		出	31— H	37— I	26— F
確		認	第Ⅲ層黄褐色土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面
平	面	形	楕 円 形	楕 円 形	円形
法	長	軸	150cm	126cm	116cm
-	短	軸	116cm	101cm	110cm
	深	25	44cm	39cm	42cm
量	面	積	1.51 m²	0.96m²	0.95m²
遺	jq	物			
備		考			
1,117			S K 008	S K 009	S K 011
挿		図	第 13 図	第 14 図	第 14 図
図		版		12.下、13.上	_
検		出	26-F, 26-G	26-G	27— H
確		認	第III層黄褐色土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面
平	面	形	不整円形	円形	不整形
法	長	軸	115cm	(135)cm	142cm
14	短	軸	109cm	130cm	116cm
	深	25	60cm	44cm	45cm
量	面	積	0.94m²	1.44 m²	1.17cm
遺	FELT	物	0,02		
備		考			
1/111	-		S K 012	S K 013	S K 014
		図	第 14 図	第 14 図	第 15 図
図		版			13一下
_ <u></u> 検		出	26-H, 27-H	25—G, 26—G	31-F, 31-G
確		認	第Ⅲ層黄褐色土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面
平	面	形	不整形	円 形	台 形
法	長	軸	140cm	80cm	354cm
	短	軸	117cm	(80)cm	260cm
	深	8	62cm	33cm	30cm
量	面	積	1.06m²	0.5m²	7.69 m²
遺		物			
備		考			
	-		S K 015	S K 016	S K 017
挿		図	第 15 図	第 15 図	第 18 図
図		版			
検		出	42—Y	44— Z	43— Z
確	*************	認	第III層明黄褐色土上面	第III層明黄褐色土上面	S K(F) 014壁面
平	面	形	楕 円 形		
	長	軸	208cm	147cm	50cm
	短	軸	108cm	140cm	37cm
	深	2	66cm	67cm	
量	面	積	1.86 m²	1.71m²	0.17m²
	1 2000	物			
備		考			
1/113	****			L	

第10表 SK土壙観察表(2)

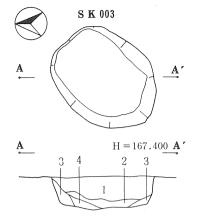
-			क्राउद्य	_	
			SK(F) 001	SK(F) 002	SK(F) 003
挿		図	第 16 図	第 7 図	第 16 図
図		版			
検		出	35— H 、 35— I	37— G	36— I
確		認	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面
平	面	形	不整円形	不整円形	不整円形
	長	軸	147cm	86cm	163cm
法	短	軸	115cm	78cm	134cm
	頸音	邻径	97cm	81cm	140cm
	深	さ	132cm	124cm	112cm
量	底面	面積	3.65m²	1.75m²	2.63m²
	体	積	1.13m³	1.33m³	1.86m³
遺		物			
備	SWIZE IN NA	考			COAT PERIAT Inflamman
			SK(F) 004	SK(F) 005	SK(F) 006
挿		図	第 16 図	第 9 図	第 9 図
図		版	14一上		14— F
_検		出	37—E、37—F	38-E、38-F	37—G、38—G
確		認	第III層黄褐色土上面	第III層黄褐色土および SI 005埋土上面	第III層黄褐色土および SI 005埋土上面
平	面	形	楕 円 形	円形	不整円形
	長	軸	137cm	104cm	100cm
法	短	軸	127cm	104cm	81cm
	頸音	7径	114cm	94cm	81cm
	深	8	178cm	127cm	142cm
壨	底面	百積	2.30m²	2.19m²	1.83m²
	体	積	2.28m³	1.62m³	1.29m³
遺		物			
備	Maria de Carres	考	南部周縁部に三ケ月状の テラスをもっている	SI 005東側壁を切って 構築されている	SI 005西側壁を切って 構築されている
			SK(F) 007	SK(F) 008	SK(F) 009
挿		図	第 17 図	第 17 図	第 17 図
义		版			
検		出	38— G	37— G	38— G
確		認	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面
平	面	形	不整円形	不整円形	不整円形
	長	軸	95cm	101cm	113cm
法	短	軸	81cm	83cm	98cm
	頸音		80cm	74cm	98cm
	深	2	140cm	141cm	125cm
量	底面		2.38m²	1.42m²	1.65m²
	体	積	1.45m³	1.22 m³	1.16m³
遺		物	埋土第1層・2層中より 土器2点が出土した		2.87
備	geranden ber bil men den	考	norma NATAN SANORON NATAN NA		本遺跡で一番傾斜のきつ い部分に構築されている
				TO THE STATE OF TH	

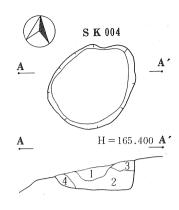
第11表 SK土壙観察表(3)

		251130	○ 1、工場 配 別でで(0)				
Rail A Colombia		SK(F) 010	SK(F) 011	SK(F) 012			
挿	図	第 9 図	第 17 図	第 11 図			
図	版	15一上		9 — F			
検	出	37-F、38-F	25— E	36-E, 36-F			
確	三刃	SI 005床面	第Ⅲ層黄褐色土上面	SI 007床面			
平	面形	不整円形	円形	円 : 形 : :::::::::::::::::::::::::::::::			
	長 軸	82cm	120cm	200cm			
法	短 軸	74cm	112cm	178cm			
	頸部径	65cm	116cm	152cm			
	深さ	125cm	82cm	118cm			
量	底面積	2.75m²	1.01m²	2.29m²			
	体 積	1.57 m³	0.87m³	1.24 m³			
遺	物	S I 005・S K(F)006と重複 する。新旧関係はS K(F)010 → S I 005→S K(F)006であ る。ビット床面南側に188× 100×43cm,80×53×30cmの二 重ビットが存在する。					
備	考						
		SK(F) 013	SK(F) 014	SK(F) 015			
挿	図	第 12 図	第 18 図	第 18 図			
図	版	10一下	15一下	16一上			
検	出	39— F	43—Z、44—Z	43— Z			
確	記	SI 008床面	第III層明褐色土上面	S K(F) 014床面			
平	面 形						
	長 軸	70cm	210cm	70cm - 1			
法	短 軸	64cm	180cm	60cm			
	頸部径	64cm	187cm	60cm			
	深さ	83cm	90cm	60cm			
量	底面積	1.19m²	3.89m²	0.58m²			
	体 積	0.61m³	3.50m³	0.30m³			
遺	物	,	覆土中より縄文土器が出 土した				
備	考	SI 008と重複する	4 個のフラスコ状ピットと1 個の土壙が床面に存在する				
		SK(F) 016	S K(F) 017	S K(F) 018			
挿	図	第 18 図	第 18 図	第 18 図			
図	版						
検	出	43— Z	43-Z, 44-Z	43— Z			
確	記	S K(F) 014床面	SK(F)014床面	S K(F) 014床面			
平	面形						
	長 軸	60cm	100cm				
法	短軸	54cm					
	頸部径	58cm	104cm				
	深さ	28cm	47cm	55cm			
量	底面積	0.27 m²	1.45m²	0.14 m²			
	体 積	0.07m³	0.48m³	0.04 m³			
遺	物						
備	考						
		Anne a march company a particular research and a sure an arrange of the first company as the anneal same					

第12表 SK土壙観察表(4)

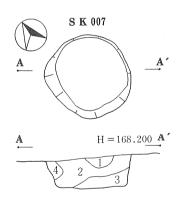
			第12次	. O. 1. 1278 E/GSR 24(17	
			SK(F) 019	SK(F) 020	SK(F) 021
揷		図	第 19 図	第 6 図	第 19 図
図		版			
検		出	43— Y	34— H 、34— I 35— H 、35— I	35 – I
確		記	第III層明黄褐色土上面	SI 002-B覆土上面	第Ⅲ層黄褐色土上面
亚	面	形		楕 円 形	
<u> </u>	長	軸	105cm	142cm	190cm
法	短	軸	95cm	130cm	(150cm)
	頸剖	3径		103cm	
	深	2	36cm	140cm	110cm
量	底面	i積	1.38m²	1.26m²	
	体	積	0.41 m³	0.94 m³	
遺		物			覆土中より縄文土器片数 点出土
		考		S I 002-Bを切っている周 辺部にP1-Psが存在する	
F-11-1			SK(F) 022	S K(F) 023	
		図	第 19 図	第 19 図	
図		版			
_ <u></u> 検		出	38— F	26-G, 26-H	
確		認	第III層黄褐色土上面	第III層黄褐色土上面	
平	面	形			
	長	軸	146cm	100cm	
法	短	軸	136cm	82cm	
1	頸音		94cm	87cm	
	深	8	118cm	62cm	
量		面積	1.02m²	0.92m²	
	体	積	0.70m³	0.30m³	
遺	L	物			
備		考			
1110			SK(T) 001	SK(T) 002	S X 001
挿		図	第 20 図	第 20 図	第 20 図
図		版	17一上	17一下	
検		出	30— E	29-G、29-H	37—E、38—E
確		認	第Ⅲ層黄褐色土上面	第III層黃褐色土上面	第III層黄褐色土上面
平	面	形	溝 状	溝 状	「L」字状
	長	軸	316cm	303cm	301cm
	短	軸	70cm	90cm	197cm
		部径			
	深	3	100cm	99cm	67cm
量		 面積			
antila.	体	積			
遺	1 177	物		埋土上部より石器1点出土	埋土中より縄文土器数点 出土
備		考			
1/HJ		-77			

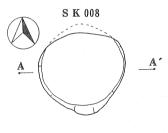


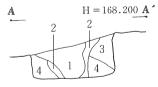


層順	土	色	備	考
1	10 Y R	にぶい黄橙色		
2	10 Y R	褐 色		
3	10 Y R	暗褐色		
4	10 Y R	にぶい黄褐色		

層順	土	色	備	考
1	10 Y R ¾ 黒	褐 色		
2	10 Y R ½ にぶ	い黄褐色		
3	2.5 Y R % 明	黄褐色		
4	10YR¼ 褐	色		





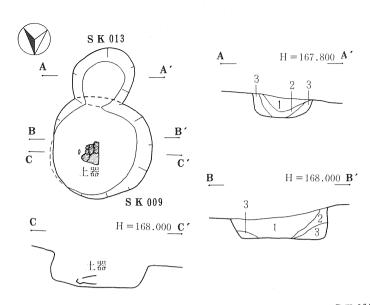


層順	±	色	備	考
1	10 Y R ¾ 黒	褐 色		
2	10 Y R ¾ 黒	色		
3	10 Y R ¾ 暗	褐 色		
4	3	層		

層順	土	色	備	考
1	10 Y R ¾ 黒	色		
2	10YR ¾ 暗	褐 色		
3	10 Y R ½ にぶ	い黄褐色		
4	10YR¾ 暗	褐 色		

0 2 m

第13図 SK 003・004・007・008 土壙実測図

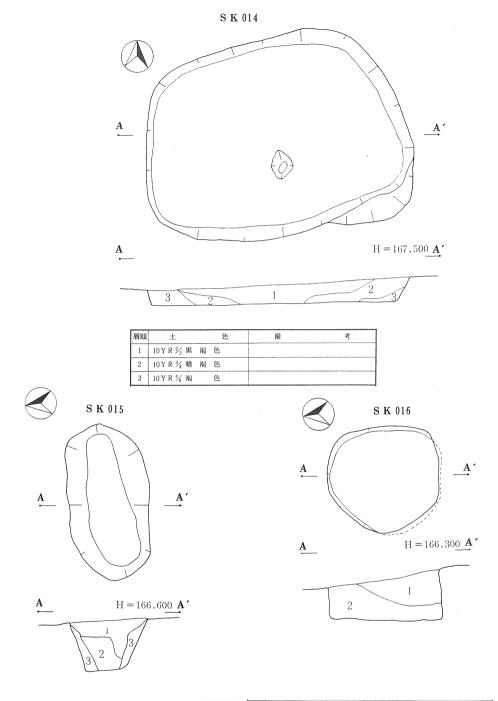


S K 009

層順	土	色	備	考
1	10 Y R ^{1.} % 黒	É		
2	10 Y R ½ 黒	褐 色		
3	10 Y R ¾ 暗	褐 色		
		SK	011	
層順	土	色	備	考
1	10YR ¾ 黒	褐 色		
. 2	10YR¾ 暗	褐 色		
3	10 Y R ¾ 暗	褐 色		
•		SK	012	
760 ES	+	fh	All k	
			1911	-73
3	10 Y R ¾ 黒	色		
,				
		SK	012	
層順	土	色	備	考
1	10 Y R ¾ 黒	色		
2	10YR % 黑 裕	· 色		
3	10YR¾ 暗 桝	i é		
	1 2 3 3 MM順 1 2 3 3 MM順 1 2 3	1 10 Y R ¹ Y 2 10 Y R ² X 3 10 Y R ² X 16 17 10 Y R ² X 17 10 Y R ² X 18 17 10 Y R ² X 18 19 10 Y R ² X 18 19 10 Y R ² X 19 10 Y R ² X 1	1 10YR ½ 黑 卷 2 10YR ½ 黑 褐 色 3 10YR ½ 暗 褐 色 SK MM順 土 色 1 10YR ½ 暗 褐 色 2 10YR ½ 暗 褐 色 3 10YR ½ 暗 褐 色 3 10YR ½ 暗 褐 色 3 10YR ½ 暗 褐 色 5 K MM順 土 色 1 10YR ½ 風 色 色 2 10YR ½ 楊 色 3 10YR ½ ዴ 極 色 5 K MM順 土 色 1 10YR ½ 黒 極 色 5 K	1 10YR ½ 黑 色 2 10YR ½ 黑 褐 色 3 10YR 炎 暗 褐 色 SK 011 Main

0 2 m

第14図 SK 009·011·012·013 土壙実測図

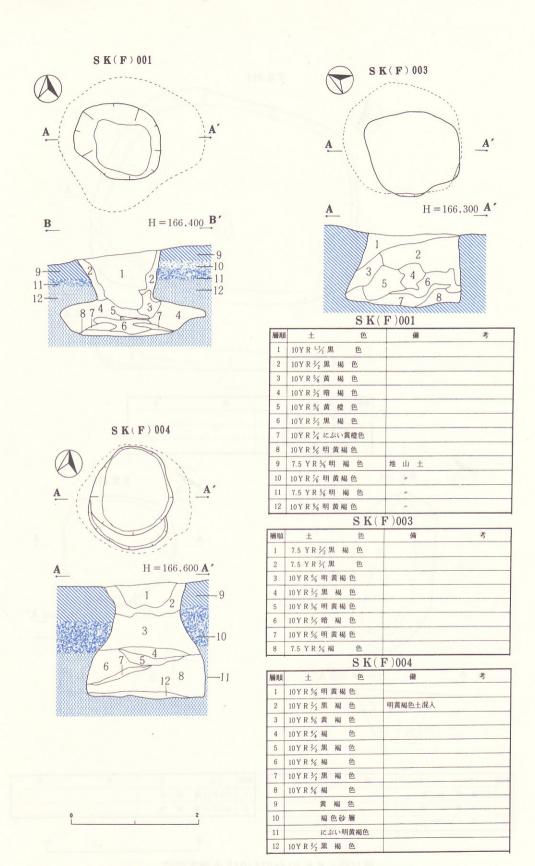


層順	土			色	備	考
1	10 Y R	黒	褐	色		
2	10 Y R	黒		色		
3	10 Y R	15.3	い黄	易色		

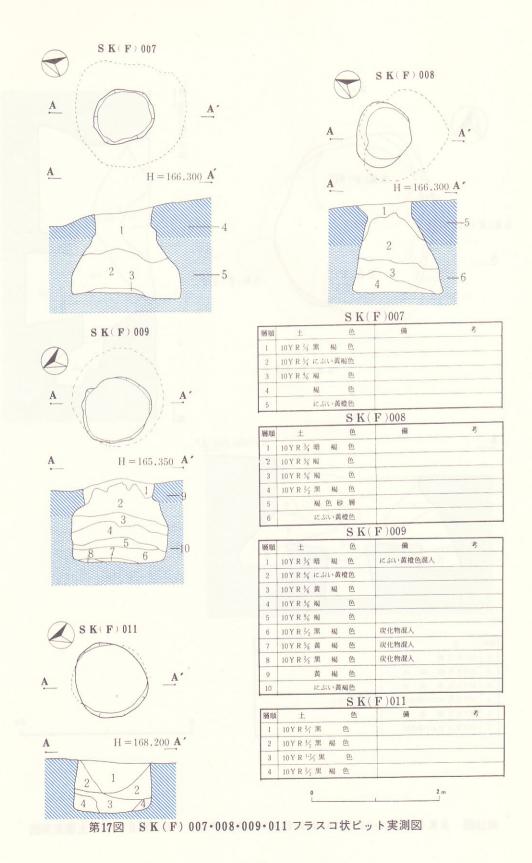
腐順	±:	Ê	5	備	考
1	10 Y R ¾ 暗	褐 色	1		
2	10 Y R ½ 黒	褐色	2	***************************************	

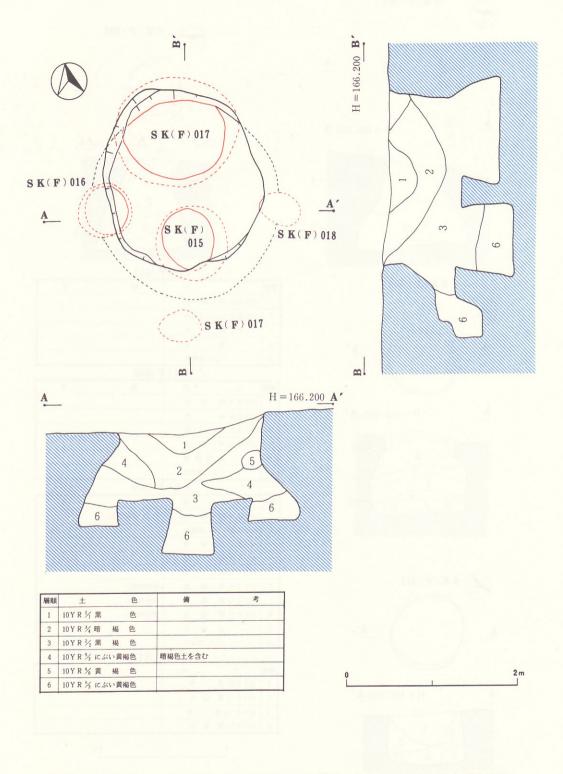
0 2 m

第15図 SK 014·015·016 土壙実測図

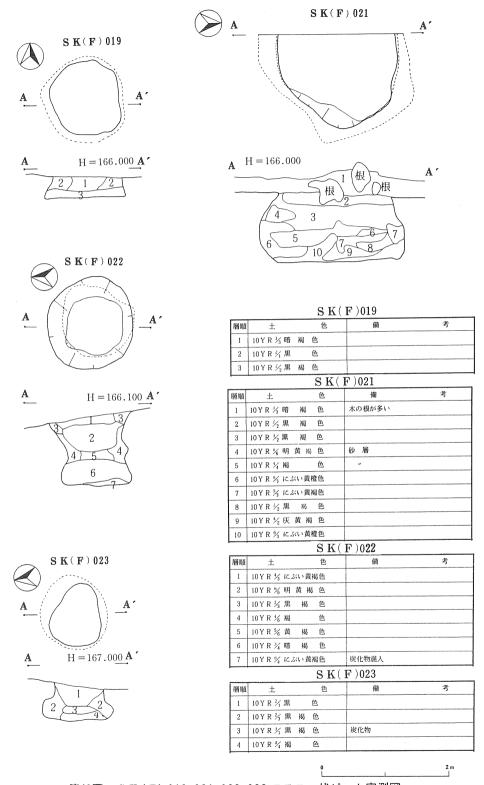


第16図 SK(F)001·003·004フラスコ状ピット実測図

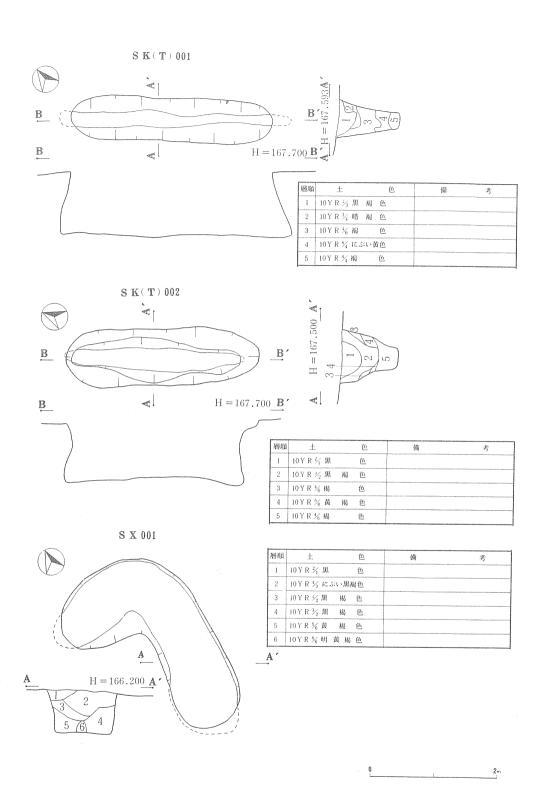




第18図 SK(F)014·015·016·017·018フラスコ状ピットおよびSK017土壙実測図

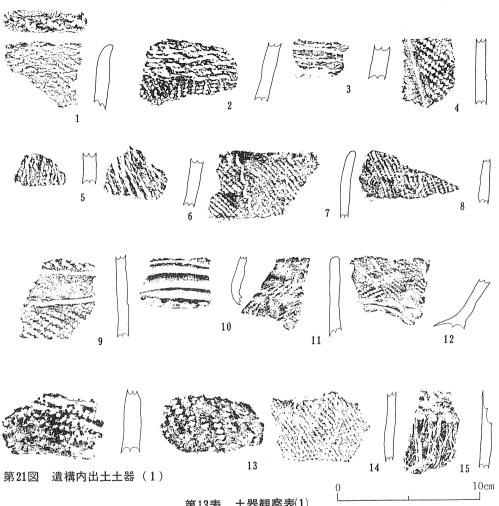


第19図 SK(F)019·021·022·023 フラスコ状ピット実測図



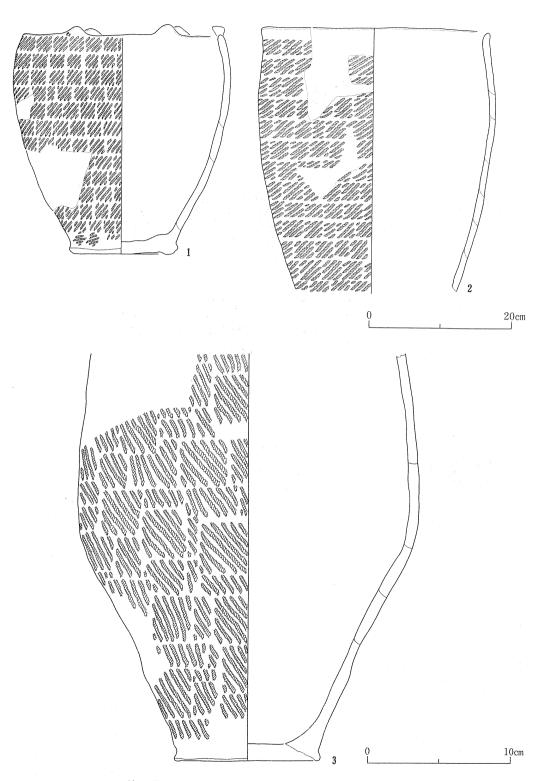
第20図 SK(T)001·002 Tピット・SX 001 性格不明遺構実測図

検出遺物 (2)

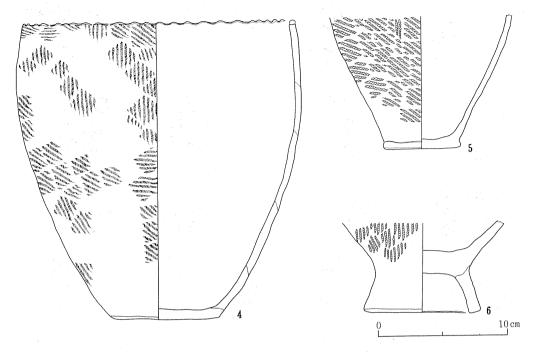


土器観察表(1) 第13表

插	図	11. 1. 14. 57	外		面		内		面		胎	土	備	考
挿番	図号	出土地区	文	様	色	澗	文	様	色	調	700		1/163	
21-	- 1	S I 001	RL繩文·綾	条体回転文	灰黄褐色		口唇部一	繩文圧痕	浅黄橙色	'n.	繊維	昆入		
21-	- 2	S I 001	RL繩文・綾	条体回転文	灰黄褐色				灰黄褐(<u> </u>	繊維	昆入		1
21-	- 3	S I 001	絡条体回転文((L2本一組)	にぶい赤褐(色			にぶいれ	曷色	繊維	昆入		
21-	- 4	S I 001	LR繩文→沈紀	線→磨消	にぶい黄橙は	色	*		にぶいす	黃橙色				İ
21-	- 5	S I 003	R撚条文		にぶい黄橙(É			灰黄褐(<u>4</u>				
21-	- 6	S I 003	R撚条文		にぶい黄橙(色			にぶいす	黃橙 色				
21-	- 7	S I 008	LR繩文(結束	()	灰白色				褐灰(ň				1
21-	- 8	S I 008	LR繩文(結束	()	浅黄色				にぶいず	黄橙色				
21-	- 9	S I 008	LR繩文→沈	線→磨消	明赤褐色				にぶいれ	登色				
21-	-10	S K 009	沈線		にぶい褐色				にぶいれ	登色				
21-	-11	S K(F)003	L 繩 文		にぶい橙色				にぶいれ	登色				
21-	-12	S K(F)003	L繩文→沈線((底辺部)	にぶい橙色				にぶいれ	登色				
21-	-13	S K(F)007	LR繩文		にぶい黄褐1	色	LR繩文		褐灰 (
21-	-14	S K(F)013	LR繩文(結束	ŧ)	淡黄橙色				淡黄鱼					
21-	-15	S X 02	網代状撚糸文	(R)	灰褐色				にぶいれ	8色				



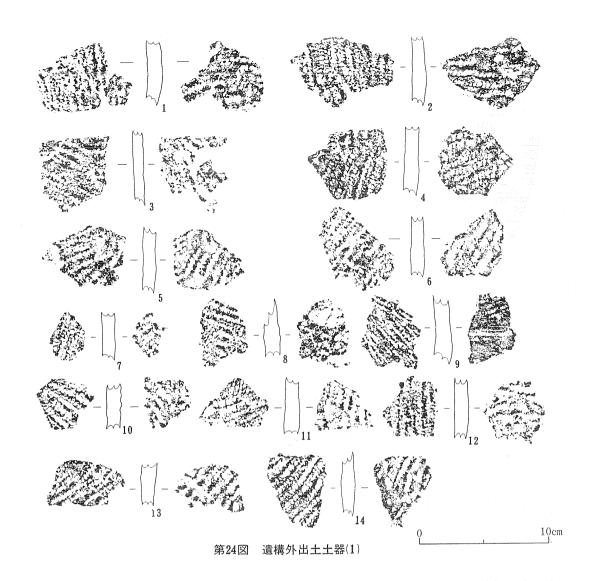
第22図 S I 001·003·004 住居跡出土土器 (2)



第23図 SK009土壙・SK(F)014・021フラスコ状ピット出土土器実測図(3)

第14表 土器観察表(2)

插図	de la tatalità	外		面	内		面		胎	土	備	考
挿 図番 号	出土地区	文	様	色 調	文	様	色	調	л		Pres	
23-1	S I 001	LR繩文		にぶい黄褐色			にぶい	黄橙色				
23 2	S I 005	LR繩文		にぶい黄橙色			灰黄褐	色				
23-3	S I 003	R L繩文		にぶい黄橙色			浅黄橙	色				
23-4	S K 009	RL繩文		黒褐色			暗褐色					
23-5	S K002	LR繩文		黒褐色			黒褐色					
23-6	S K(F)014	RL繩文		浅黄橙色			浅黄橙	色				



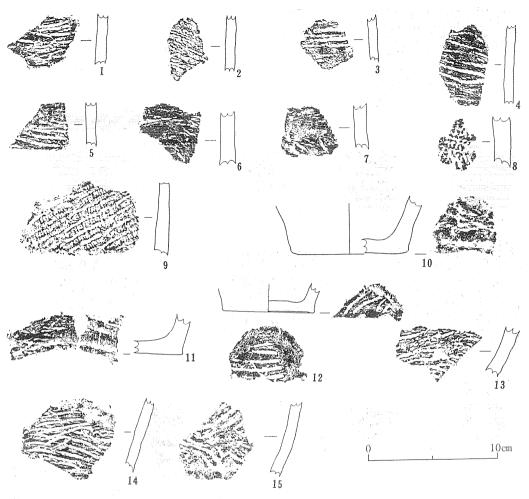
第15表 土器観察表(3)

挿 区番 号	出土地区	外		面		内		ĨĹ	i	胎	<u> </u>	備	考
番号	出工地区	文	様	色言	湖	文	文 様		詶	Ліст		7981	45
24-1	35 — G	LR繩文		橙 色		LR繩文		灰褐色		繊維	昆入		
24 2	31— H	LR繩文		黄褐色		LR繩文		灰黄褐色	S.	繊維:	混入		
24 3	35 G	LR繩文		灰黄褐色		LR縄文		褐灰色		繊維	昆人		
24 4	35— G	LR繩文		にぶい黄裾	色	LR繩文		灰黄褐色	5	繊維	混入		
24 5	31—H	LR繩文		橙 色		LR繩文		灰黄褐色		繊維	混入		
24 6	31— H	LR繩文		にぶい黄橙	色	LR繩文		灰黄褐色	L.	繊維	混入		
24 - 7	31 — H	LR繩文		にぶい黄橙	色	LR繩文		褐灰色		繊維:	混入		
24-8	31 — H	LR繩文		橙 色		LR繩文		灰黄褐色	5	繊維	混入		
24 9	32— I	LR繩文		にぶい橙色		LR繩文		灰黄褐色	5	繊維	混入		
24-10	31—H	LR繩文		にぶい橙色		LR繩文		灰褐色		繊維	昆入		
24-1	31 — H	LR繩文		にぶい褐色	.	LR繩文		におい黄	[褐色	繊維	混入		
24-12	2 31—H	LR繩文		にぶい橙色		LR繩文		褐灰色		繊維	混入		
24-13	31—H	LR繩文		にぶい橙色	.	LR繩文		褐灰色		繊維:	混入		
24-14	1 31—H	LR繩文		にぶい橙色		LR繩文		黒褐色		繊維:	混入		



第16表 土器観察表(4)

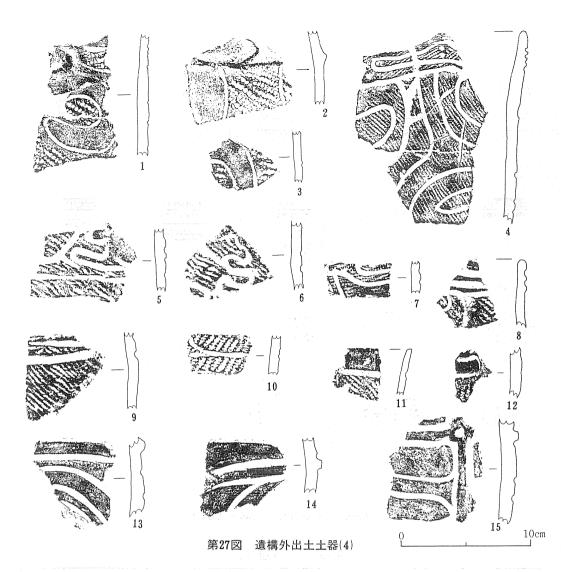
插 図番 号	出土地区	外		ītii		内			īfii	胎	±.	備	考
番号	加工服区	文	様	色	調	文	様	色	調	7113		1/113	79
25-1	36— G	絡条体回転文(L)		灰黄褐	色			12.3:60	黄橙色				
25 2	34 G	絡条体回転文(L)		灰褐色				にぶい	黄橙色				
25 3	36 H	LR繩文		にぶい	橙色			褐灰色					
25-4	北側斜面	絡条体回転文(R)		にぶい	褐色			褐灰色					
25 5	35— G	絡条体回転文(R)		にぶい	赤褐色			黒褐色					
25 6	36 G	絡条体回転文(R)		にぶい	黄橙色			灰白色					
25 7	36— G	綾絡文、LR繩文		灰黄褐	色	口唇部一	繩文圧痕	褐灰色					
25 8	35— G	綾絡文、RL縄文		にぶい	褐色	口唇部一	刻目	褐 色					
25 9	35 G	綾絡文、RL繩文		にぶい	橙色	口唇部一	刻目	にぶい	赤褐色				
25-10	35— G	綾絡文、RL繩文		にぶい	橙色	口唇部一	刻目	にぶい	褐色				
25-11	35— G	不 明		にぶい	赤褐色	口唇部一	刻目	にぶい	赤褐色				
25-12	36 G	絡条体回転文		12,3:00	褐色			灰褐色					
25-13	36— G	絡条体回転文		にぶい	黄橙色			黒褐色					
25-14	36— G	絡条体回転文		灰褐色				灰白色					
25-15	36— G	絡条体回転文		12.350	橙色			灰黄褐	色				



第26図 遺構外出土土器(3)

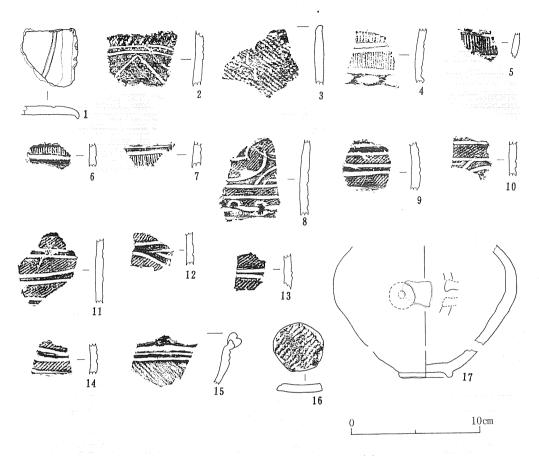
第17表 土器観察表(5)

挿	挿 図 出土地区 番 号		外	A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR	面		内			鲌	胎	±	備	考
番			文	様	色	調	文	様	色	調	//10		PHI	Лij
26-	1	35— G	絡条体回転文		にぶいう	黄橙色			灰黄褐	色				
26-	2	36 G	絡条体回転文		灰褐色				褐灰色					
26-	3	35— G	絡条体回転文		にぶいれ	登色			灰黄褐	色				
26-	4	36— G	絡条体回転文		にぶいす	黄橙色			灰黄褐	色				
26-	5	35— G	絡条体回転文		にぶいれ	登色			灰黄褐	色				
26-	6	34— F	不整撚紋											
26-	7	36 G	不整撚紋		明赤褐1	色			灰褐色					
26-	8	33— I	組紐文		にぶいれ	登色			12321	褐色				
26	9		直前段合撚文											
26-	10	35— G	不整撚文		明赤褐1	66.			にぶい	赤褐色				
26-	11	36— G	不整撚文		橙色				にぶい	赤褐色				
26-	12	35— G	絡条体回転文(底	部も同じ)	にぶいす	喝色			にぶい	黄橙色				
26-	13	37— F	絡条体回転文(底	部も同じ)					黒褐色					
26-	14	35— G	絡条体回転文(底	部も同じ)	灰黄褐1	色			褐灰色					
26-	15	35— G	絡条体回転文(底	部も同じ)	にるいれ	登色			灰黄褐	Œ				



第18表 土器観察表(6)

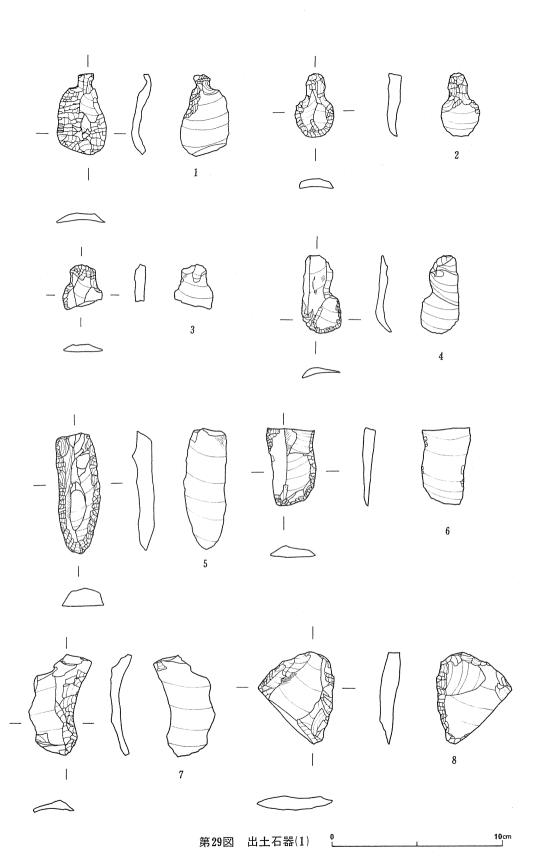
			37 10 t		B #7/ 275	20(0)								<u> </u>
挿 図番 号	出土地区	外		庙			内		面		liti	t	備	考
番号	田工場区	文	様	色	調	文		様	色	調	700	مال	(711)	
27 - 1	36 G	隆線→LR繩文	→沈線→磨消	明赤褐1	色				123560	燈色				- 1
27-2	39 F	隆線→LR繩文	→沈線→磨消	明赤褐1	色				にぶい	黄橙色				
27-3	38— E	LR繩文→沈線	→磨消	明赤褐1	色				にぶい	黄褐色				I
27 - 4	S I 005	LR繩文→沈線	・刺突	にぶいす	黄橙色				灰黄褐	色			l	-
27-5	27— F	L繩文→沈線		にぶいす	黄橙色				浅黄橙	色				
27 6	27— F	L繩文→沈線		浅黄橙	<u>E</u>				浅黄橙	色				- 1
27 7	30— G	RL繩文→沈線	Į.	にぶいえ	赤褐色				12 detail	赤褐色				- [
27 8	29— E	LR繩文→沈線	Į	にぶいれ	登色				浅黄橙	色				
27-9	27— F	L繩文→沈線		にぶい	黄橙色				浅黄橙	色				- 4
27-10	36 G	RL繩文→沈線	Į.	にぶい	黄橙色				浅黄橙	色				I
27-11	37— F	RL繩文→沈線	!→磨消	123560	燈色				灰白色					
27-12	37— F	LR繩文→沈絲	!→磨消	123567	燈色				浅黄橙	色				
27-13	北側斜面	隆線→沈線→磨	消	にぶい	黄橙色				123:00	橙色				
27-14	35— G	隆線→沈線→磨	消	123:60	黄橙色				にぶい	橙色				
27-15	35— G	隆線・刺突→沈	.線→磨消	にぶい	黄褐色				灰黄褐	色		70000000000000000000000000000000000000		



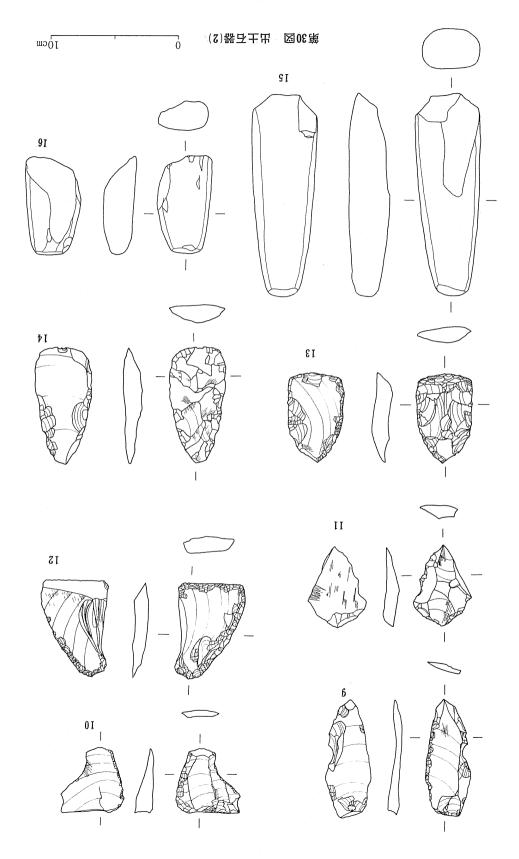
第28図 遺構外出土土器・土製品(5)

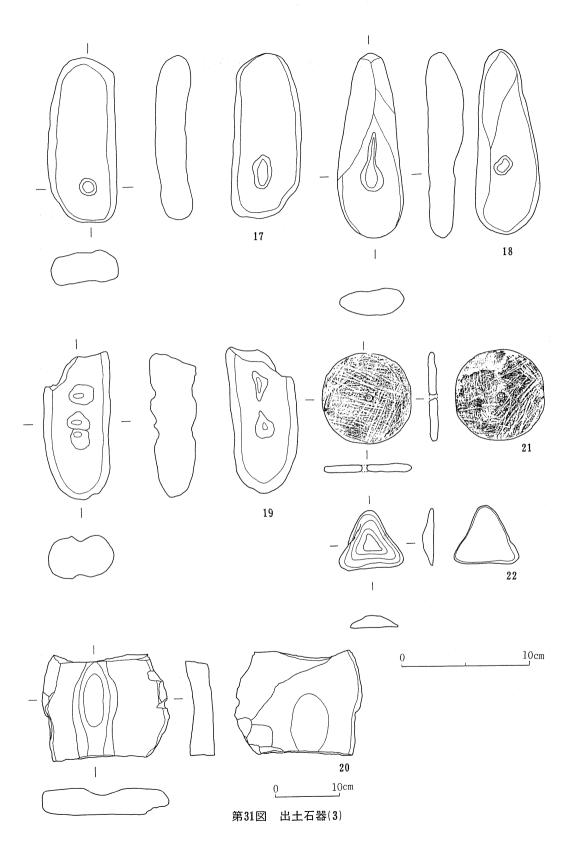
第19表 土器観察表(7)

挿 図	出	土.	外		圃	4.A 4	内			fii	胎	+:	備	考
挿 図 番 号	出地	土区	文	様	色	調	文 様		色	調	411		1/41)	<i>^-</i> ,
28-1 28-2 28-3 28-4 28-5 28-6 28-7 28-8 28-10 28-11 28-12 28-13 28-14 28-15 28-16 28-17	35- 34- 33- 34- 34- 35- 34- 34- 35- 34-	- F - G - F - E - F - F - G - G	沈線→磨 大保繩 東文 大保繩 大保維 大統線 対別 対別 大沈線 対別 大沈線 対別 大沈線 大沈線 大沈線 大沈線 大沈線 大沈線 大沈線 大沈線	文→磨消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消 消	に灰にに褐灰に淡ににに橙に ぶがぶが がっぱい 色褐い橙いいい色 はい がいがい といいい	色褐橙 色褐色褐橙橙 橙色色 色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色			にに浅褐褐ににに灰に灰橙褐 褐いい橙色色いいい褐い色色色 色	黄色 黄黄黄色 色 卷卷卷			蓋形土器 円盤状士 注口土器	製品



— 71 —





, 第20表 遺構内・外出土石器観察表

挿	図	図版	l-r	Τ/.	(l) 1 (d, 1-b)	法	量	(cm)	重量	石	質	備考
番	図号	図版 番号	名	称	出土地域	最大長	最大幅	最大厚	(g)	11	貝	1/m ~ 7
29-	- 1	24	石	匕	0 — G	4.7	2.8	0.7	10	頁	岩	Y CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR
29-	- 2	24	石	匕	31— E	3.7	2.7	0.7	6	頁	岩	アスファルト付着
29-	- 3	24	石	匕	表採	(2.4)	2.2	0.6	(5)	頁	岩	刃部欠損
29-	- 4	24	掻	器	S I 005炉	4.5	2.2	0.5	6	頁	岩	アスファルト付着
29-	- 5	24	搔	器	表採	7.0	2.2	1.0	25	頁	岩	
29-	- 6	24	搔	器	38— G	4.5	2.6	0.7	10	頁	岩	
29-	- 7	24	搔	器	29— G	5.9	2.3	0.8	17	頁	岩	
29-	- 8	24	搔	器	36— G	5.4	4.4	1.0	24	頁	岩	
30-	- 9	24	搔	器	34— F	9.1	3.5	0.9	29	頁	岩	
30-	-10	24	搔	器	S I 005床	5.0	4.9	1.3	22	頁	岩	
30-	-11	24	搔	器	表採	6.3	4.5	1.1	25	頁	岩	
30-	-12	24	石	箆	S K(T) 002	7.6	5.2	1.1	25	頁	岩	
30-	-13	24	石	箆	D Z	7.1	4.2	1.3	45	頁	岩	
30-	-14	24	石	箆	D区、表採	9.0	4.3	1.4	61	頁	岩	
30-	-15	24	石	斧	S I 006	(15.8)	5.0	3.3	406	凝層	灭岩	刃部欠損
30-	-16	24	石	斧	S I 002 P 5	(7.7)	4.1	2.3	120	凝月	灭岩	刃部欠損
31-	-17	24	凹	石	34 — G	24.5	5.1	3.0	223	凝力	灭岩	
31	-18	24	凹	石	36— G	13.0	5.3	2.5	275	凝力	灭岩	
31	-19	24	凹	石	表採	11.2	5.1	3.2	284	凝力	灭岩	
31-	-20	24	石	IIIL	表採	26.0	16.5	4.1		凝力	灭岩	
31-		24	円:	盤状製品	S K 014	7.0	6.8	0.6	41	泥	岩	
31	-22	24		角製品	S K 014	4.5	4.8	1.0	20	泥	岩	

潰構について

ア 竪穴住居跡

竪穴住居跡(以下、住居跡と記す)は、B区から8棟検出されている。これらの住居跡は、炉の形態から2つに分けられる。A群は石組炉をもつもので、SI002・003・005・008がこれにあたる。炉は、床面中央より側壁に寄っており、SI 005では西壁に接している。形状は方形のもの(SI002・003・008)と長方形のもの(SI005)があるが、後者は形態焼土範囲から石組複式炉とも考えられる。B群は地床炉をもつもので、火床が凹んでいる。SI001・004・006・007である。SI 006が床面中央北側に炉をもつ以外は、ほぼ中央部に炉が置かれている。炉の形態差による分類は、他の要素でも両群の相違を導き出してくれる。一つは、住居面積においてA群は、10m以上有するのに対し、B群は10m未満と比較的小型の住居跡であること。さらに確認面において、にぶい黄橙色土の広がりの見られるA群(SI 002を除く)と黒色土の見られるB群である。A群のにぶい黄橙色土は、後述するフラスコ状ピットと関わりをもってくる。それは、住居跡覆土上面に見られるこの土は、フラスコ状ピットを構築する際に基盤をなすにぶい黄橙色土層(住居跡や土壙はいずれもこの面までは掘り込んでいない)を掘り込んだために生じた土に、地山面上の黄褐色土が混ったものである。このことは、A群住居跡のフラスコ状ピットとの関わりから相対的な年代を与えることができる。すなわち、A群の住居

つぎに出土遺物を加味して両群の年代を想定してみたい。この場合、A群においてSI 002が、B群ではSI 006がそれぞれ住居跡の位置、炉の形態・位置において分離細分が可能であり、細分が年代差に因るものとすれば、少なくとも4期は考えられる。A群は、炉の形態、出土土器から繩文中期末~後期初頭と思われる。SI 002も同期かそれに近い時期と考えられる。B群は、SI 001床面から後期末~晩期前葉と考えられる土器が出土している。SI004・007では出土遺物はないが、住居跡の位置・炉からSI 001と同期と思われる。SI 006については、形態から見るとSI 001に近い時期が想定できる。

跡が廃棄され、ある程度まで埋没が進んだ段階で、フラスコ状ピットが構築され、その廃土が

イ フラスコ状ピット

凹んでいた住居跡に棄てられたと考えられるのである。

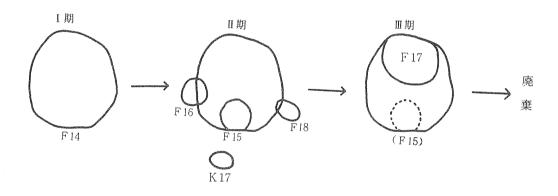
フラスコ状ピットは、B・C区で検出されたが、いずれも台地端部に集中する住居跡との関係で見ると、住居跡に切られているもの、切っているもの、住居跡の周囲に構築されているものが観察できた。

(ア)B区 検出位置や埋土状態から2群に分類できる。1群は調査区西側の4基である。これらは埋土下層に黄褐色土系の土層が入り、上面には黒色土が見られる。もう1群は台地先端部

の11基である。これらは、埋土下面(床面)に数cm~10数cm程の黒色土が入っている。その上には黄褐色土もしくは褐色土が比較的厚く堆積している。両群のこのような埋土の堆積状態と、壁の崩壊の少ないことを考えあわせると、埋土の堆積には人為的な作用もあったことが考えられる。さらに、後者の確認面上において、にぶい黄橙色土の広がりが見られるもの(SK(F)002・004・006・009・013・022)もある。このにぶい黄橙色土は住居跡の項でふれている土色と同じであり、両者の関係が窺えるのは前述の通りである。

一方、SK(F) 020は周縁部に 8 個のピットが見られ、切り合っている SI 002の柱穴埋土 と異なることから、このフラスコ状ピットに付属するものと考えられた。同例は萱刈沢貝塚古 館堤頭・鹿野戸・館下 I 遺跡等にある。上屋構造を持つ例である。

(イ)C区 ここで注目したいのは、SK(F) 014とこの床面から掘られているピット群(フラスコ状、円筒状)である。いわば "子持ちフラスコ" とでも言えるこの種の遺構は、県内では館下 I 遺跡で「二重構造」を呈する 1 例・北の林 II 遺跡の 1 例を数えるのみであり、床面に 5 個ものピットを構築しているのは例を見ない。



第32図 フラスコ状ピットの構築変遷図

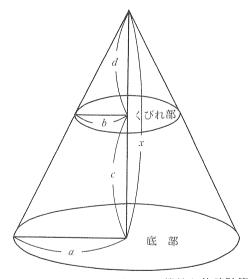
埋土層を観察することにより、このフラスコ状ピットの構築から使用、廃棄までの変遷をたどることができる。(上図参照)。I 期:まずF14を構築する。(この段階で機能を果したのかもしれない)。II 期:F14床面南側にピット 4 個($F15 \cdot 16 \cdot 18 \cdot K17$)を掘る。一定期間使用後これら 4 個のピットを黄褐色土で一気に埋める。III 期:新たにF14床面北側にF17を掘る。(この時、F15は2/3程しか埋っていなかったため、III 期でも使用された可能性あり)。その後、F17が廃棄された時はF14も同時に廃され、黒褐色土で埋められたものと考えられるのである。(ウ)フラスコ状ピットの機能と体積計算について

フラスコ状ピットは、形態、埋土状態、占地区域などから一般に、貯蔵穴・陥し穴・墓壙・

粘土採掘壙あるいは住居等の性格が考えられている。特に、貯蔵穴・粘土採掘壙・住居説など は、各遺跡単位で傍証を得ているようであり、フラスコ状を呈するこの種の遺構が全て同一の 機能を果したものではないらしいことは、分かってきている。

さて本遺跡においては、住居跡との位置・新旧関係、さらに下堤・萱刈沢貝塚・館下Ⅰ遺跡 での実験例から、外気温に関係なく遺構内の温度が一定しているという事例、また館下Ⅰ、梨 ノ木塚遺跡では、クルミ・クリなどの竪果類の出土も報告されている。これらのことから本遺 跡のフラスコ状ピットを、ある時期においては住居跡に付属した形での貯蔵穴、またある時期 では単独で貯蔵の機能を有したもの理解したい。

このように、フラスコ状ピットを貯蔵穴とした上で、くびれ部より上を「上蓋・足場などの 機能性をもつもの」との認識に立てば、その主たる貯蔵空間はくびれ部以下のスペースとなる。 貯蔵物の種類・貯蔵法等により床面の広さ(底面積)を問題にすべきなのか、略円錐台形の空 間(体積)が問題なのか現段階では解答は得られない。しかし今後に向けての資料呈示という ことで両者の数値を各表に載せてある。計算方法については以下述べる。



体積の計算については、その形態からフラス コ状ピットのくびれ部以下を円錐台形と仮定し て、その体積をフラスコの容積とした。左図に 従うと、フラスコの体積 Vは、高さxの円錐の 体積V1から高さdの円錐の体積V2を引いたもの である。 定数 a・b は、各平面図(1/20)からプラ ニメーターで算出した面積(3回計測の平均値、 小数点以下第3位を四捨五入)から計算上求め た半径である。Cは、くびれ部から底部までの 高さで最も高い点を図上計測した。 $\pi=3.14$ と する。

第33図 フラスコ状ピットの機能と体積計算
$$V = V_1 - V_2 = \frac{\pi a^2 x}{3} - \frac{\pi b^2 d}{3} - \cdots$$

一方、未知数dは、a、b、xとの比例計算で定数に置き変えられる。

tabs, a:b=x:d x=d+c $d = \frac{bc}{a-b}$ 3 $\geq t$ t t t

②、③を①に代入していけば V が求められる。

ウ土塘

調査区南側に集中して見られる土壙群は、SK 009床面で検出された縄文晩期の土器から、 同期の構築と思われる。

SK 014は、平面形が台形状を呈する竪穴状の遺構である。埋土中ではあるが、円盤状石製品、三角石製品、若干のチップの出土により石器、石製品の工房跡と考えることもできよう。

SX 001は、L字形を呈する土壙である。埋土中より縄文土器の出土、確認面上では、住居跡、フラスコ状ピットでみられたにぶい黄橙色土が見られることから、前二者と同期に位置づけられる。

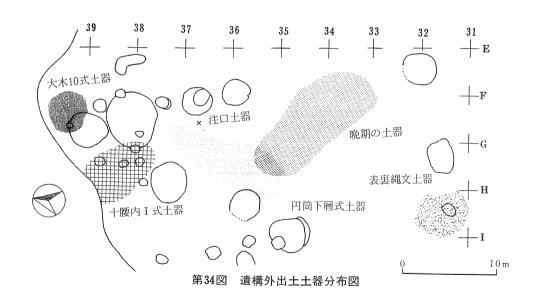
なお、A区では、円形・楕円・柱穴状等々の土壙・ピットが検出できたが、多くは、リンゴの根の掘り方であるとか、後世の攪乱穴であることが多く、遺構として確認できたものはない 出土遺物も、縄文土器 1 片・石匙 1 点のみであった。

遺物について

猿ケ平Ⅱ遺跡で出土した遺物は、縄文土器、土製品、石器、石製品である。遺構内出土の遺物は少なく、圧倒的に遺構外出土が多い。

ア 土器・土製品

遺構外出土土器を中心に、その分布状況と土器分類について見ていく。



遺跡は調査前、樹齢90年程の杉林であったため、調査はその抜根作業より開始した。一方、 表土から地山面までは30~40cmと浅く、表土近くの遺構は抜根による攪乱のために確認できないまま破壊してしまったものもあると思われる。 遺物は、縄文早期~晩期に渡っているが、縄文のみの施文で時期が不明確なものも少なくない。遺物の集中地域は、31ライン以北で35、36—Gが最も多く、以南では縄文土器数点と石皿の出土にとどまっている。時期別に見ると、中期末~後期前葉の土器が35ライン以北で万遍なく見られる。なかでも39—Fでは、大木10式土器が、38—G北側斜面では十腰内I式土器がまとまって分布を見せている。また31—Hでは早期の表裏縄文土器が狭い範囲に分布していた。SI 001覆土中にも見られた前期の円筒下層式土器は、35—G・Hを中心に出土し、35—G地山面で焼土が見られ同期の遺構(住居跡)の存在が考えられた。同例は34—Fの焼土・炭化物と晩期の土器との関係からも窺えるが、いずれも抜根による攪乱箇所に近接しているため遺構有無の確認はできなかった。

土器分類にあたっては、文様構成・技法・縄文原体・胎土に留意して行った。しかし2群の 縄文原体については不明確な点もある。

1 群 (21図13、24図)

縄文早期後葉の表裏縄文、縄文一縄文と言われているものである。すべて体部資料であり、 口縁部・底部の形状の知れるものはない。色調は、外面が橙~にぶい橙色、内面が褐灰・灰褐 色を呈している。文様は内外とも節の大きいLR縄文のみであり、沈線その他の施文は見られ ない。繊維の混入も見られず、典型的な赤御堂式と言えるであろう。

2 群 (21図1~3、5、6、25図、26図)

縄文前期初頭~前葉にあたる土器群である。口縁部文様帯の有無で2つに分けられる。

A類 口縁部文様帯をもたないもので、斜行繩文の施されたもの(25図3)、横位の絡条体回転によるものがある。後者には、単節の繩を規則正しく巻いたもの(25図4)、繩が一部で交叉しているもの(25図1、2)がある。25図5は複節である。

B類 口縁部文様帯をもつもので、綾絡文により文様帯が構成され、その幅3~3.5 cmを有する。体部には単節の斜縄文が付く。口唇部には、斜位の刻みの入るもの(25図8~11)と縄文圧痕のもの(21図1、25図7)がある。

さらに体部資料で2つに分けられる。 a - 絡条体回転文でA 類の体部にあたるものである。 $(26 \boxtimes 1 \sim 7)$ 条の間隔の広いもの、狭いもの、一部が交叉しているものもある。なお、 $26 \boxtimes 6$ 、7 は不整撚糸文と表記した方がいいのかもしれない。 b - 特殊な撚りのものである。 $26 \boxtimes 8$ は組細を原体としているものである。 $26 \boxtimes 9$ は、1 段の R と 2 段の L $\left\{ \begin{smallmatrix} R \\ R \end{smallmatrix} \right\}$ を合わせてよる。 R $\left\{ \begin{smallmatrix} R \\ L \end{smallmatrix} \right\}$ に異段合撚とでも言えるものであろう。山内氏によれば円筒下層 a 式に見られるという。この土器には繊維の混入は見られず、小石を多く含み焼成があまり良くないものである。 底部資料は 3 点である。底辺部まで絡条体回転文、不整撚系文が施されている。底面は、26

図10、11が平底でナデ調整されている。26図12は、底面にも絡条体回転による施文が見られ、

周辺部はナデで磨消されている。

2群において器形の知れるものはないが、口縁部は平縁で直立もしくは若干外反する形状で、 底部は平底で底辺部がやや外方に張り出す形をとるものである。一方、26図13~15などは、土 器片の湾曲具合から尖底もしくはそれに近い形状をとる底部付近の破片と考えられるものであ る。若干例を除き繊維の混入は見られるが、いずれも器内面にその痕跡が観察されるのみであ り、細砂粒の含有の多さが目につく。

3 群 (21図4、9、27図1~3)

縄文中期末大木10式に比定されるものである。隆線(「ノ」字状貼付)を伴い、沈線と磨消縄文(LR)が見られる。色調は、外面が明赤褐色、内面がにぶい黄橙色を呈している。この群の土器は、SI001・008覆土からも出土している。

4 群

繩文後期初頭~前葉のものである。

A類(27図4~10)無節、単節の地文に直線を施すもので、磨消を伴わない。

4は、山形口縁に沿って横に展開する区画沈線の内外に2つずつの刺突が入る。5、6は縦位の蛇行文が見られる。

B類(27図11、12) A類に磨消手法が加わるものである。出土数は少ない。

C類(27図13~15、28図1)隆線と太い沈線によって構成されるもので、隆線には沈線による縁どりがなされている。磨消手法が発達し、研磨がいき届いている。15は十字状の隆線の交点に円形の刺突が入る。28図1は蓋形を呈すると思われ、沈線と磨消技法からこの類に入れた。

D類 (21図 7 、 8 、28図 3) 縦位の結束縄文 (RL) が施されているものである。SI 008 覆土からも 2 点出土している。

これらは、十腰内I式もしくはその直前型式にあたるものと思われる。

なお28図2は、平行沈線間に鋸歯状の沈線が入るもので、4群より時期的には下るであろうが後期の所産と思われる。

5 群 (28図4~15、17)

縄文後期末葉以降のものをまとめた。

A類(28図4~7)連続する縦位の刻目をもつもので、2段以上の施文が考えられる。4は刻目の下に横位の刺突がならぶ。

B類(28図8)沈線と磨消縄文で入組文を作出しているものである。入組文下の平行沈線上に貼瘤をもつ。地文はLRの細い縄文である。

C類(28図9~14) LR縄文の地文に2本一組を基本とする平行沈線を施し、その間を磨消するものである。

D類 (28図15) 内湾気味に立ちあがり口縁部で短く外方に折れるこの土器は、波状口縁頂部に突起状の貼付を行っている。この突起を二分するように口唇部に沈線が入る。さらに頸部に3本、内面口縁部に1本、それぞれ沈線を持つ。地文はRL斜繩文である。

A · B類は後期末葉~晩期初頭に、C、D類も晩期中葉大洞C₂式までには入るものと思われる。なお、28図17は注口土器である。肩の張らない胴長の器形と思われる。

土製品は、28図16の円盤状土製品のみである。繩文土器片の再利用である。

註1 八竜町教育委員会『萱刈沢貝塚』 1979年

註2 山内清男 『日本先史土器の縄文』 1979年

イ石器

本遺跡より出土した石器は、石匕、搔器、石箆、磨製石斧、凹石、円盤状石製品、三角石製品、石皿の8種22点で、このうち遺構からの出土は6点である。この他フレークが25点出土している。

石 匕(29図1、2、3)

3点出土した。いずれも刃部に対してつまみ部が平行に作られるもので縦型石匕である。刃 部調整は主要剝離面からの細かい押圧剝離を施している。主要剝離面への調整はつまみ部に集 中される。

播 器(29図4、5、6、7、8、30図9、10、11)

8点出土した。剝片を利用して剝離調整を加え、刃部を作り出しているものを掻器とした。 大きさ、形の統一性はみられない。出土した掻器は刃部の存在する個所によって、次の4つに 分類できる。(1)片側縁に作られるもの。(2)両側縁に作られるもの。(3)下側縁に作られるもの。 (4)両側縁と下側縁に作られるものである。2例を除き主要剝離面からの調整が加えられている。

石 箆 (30図12、13、14)

3点出土した。刃部付近に最大幅をもち基部に移るにつれて細くなるもので、ステップフレーキングにより成形される。第30図-12はSK(T)002覆土上面から出土したもので、一次剝離でできた鋭い刃部に更に押圧剝離を加えている。

磨製石斧(30図15、16)

SI002竪穴住居跡 P_5 、SI006竪穴住居跡覆土から出土した 2 点である。乳棒状のもので、 欠損状態からみて石斧と平行に打力が加えられたものと考えられる。

四 石 (31図17、18、19)

3点出土した。小型の川原石を使用したもので、両面に1個ずつ、または2~3個の凹みを

もつ。

石 皿 (31図20)

1点出土した。扁平な川原石の両端を欠いたもので、両面が使用されている。上面は使用頻 度が高く、中央部が凹レンズ状に凹んでいる。

円盤状石製品(31図21)

SK 014土壙から出土した。最大幅 1 mm、長さ 3.5 mmほどの沈線が外周から内に向けて縦横にみられる。

三角石製品 (31図22)

SK 014土壙から出土した。1辺が5㎝の正三角形を示すものである。

6. まとめ

猿ケ平Ⅱ遺跡から検出された遺構は繩文時代の竪穴住居跡 8 棟、フラスコ状ピット23基、土 塘12基、Tピット 2 基である。

竪穴住居跡はすべて円形であり、出土土器から中期末~後期初頭のA群4棟と、後期末~晩期前葉のB群4棟に類別出来た。A群は住居内に石組炉を有し面積10~24㎡のもので、確認面の覆土は地山深部の土を多量に含有するにぶい黄橙色のものであった。B群の炉は地床炉で、面積は6~9㎡と小型の住居跡であった。これらの住居跡には貯蔵穴と考えられるフラスコ状ピットが付設されていた。A群の住居跡の覆土が地山の土を多量に含有するのは、廃棄されある程度まで埋没が進んだ段階で、B群の住居跡に伴うフラスコ状ピットが構築され、その排土を凹んでいたA群の廃棄住居跡に棄てたためと考えられる。

フラスコ状ピットは住居外に構築されており、周囲の8個のピットから上屋構造の推定されるもの、能代市館下I遺跡で検出されている "子持ちフラスコ"とでも呼べる「二重構造」のものの検出もあった。

出土土器は遺構外からの出土が多く、早期の赤御堂式と呼ばれる表裏繩文土器、前期の円筒下層式、中期の大木10式、後期十腰内式、晩期大洞C式土器があり、遺跡は繩文時代早期~晩期にわたって断続的ながらも人々の生活の場となっていたことが判明した。

主要参考文献

十腰内遺跡調査団 『青森県弘前市十腰内繩文遺跡調査予報 十腰内』 1969年

村越 潔 『円筒土器文化』 雄山閣 1974年

葛西 励 「十腰内Ⅰ式土器の編年的細分」『北奥古代文化』 11号 1979年

青森県教育委員会 『泉山遺跡発掘調査報告書』 1975年

秋田市教育委員会 『小阿地』 1976年

工藤 竹久 『赤御堂遺跡発掘調査概要報告書』 八戸市教育委員会 1976年

山本町教育委員会 『古館堤頭遺跡発掘調査報告書』 1977年

秋田県教育委員会 『館下 I 遺跡発掘調査報告書』 1979

秋田県教育委員会 『杉沢台遺跡·竹生遺跡発掘調査報告書』 1981年

柳沢 清一 「大木10式土器の細分」『古代探叢』 1981年

発掘調查参加者

松岡 武男 浅石 三郎 小田島政美 松岡 徳良 安保 富蔵 成田 惣太 田中慶太郎 菊地 信広 稲垣 弘定 黒沢 猛 川又 繁治 金沢 武 工藤 幸作 工藤 与八 阿部 行夫 浅石 松蔵 津江 ミナ 成田 キヌ 井上 ミオ 畠山 スエ 畠山千代美 安保ティ子 佐藤アヤ子 工藤 イネ 津江 良子 川村千鶴子 佐藤 シミ 阿部 チエ 柳沢 テル 柳江 敏江 金田一實津子 阿部 テル 畠山 トヨ 似鳥 キサ 金沢 ミキ 松岡 テイ 石川 リサ 石井ヨシエ 関 キワ 川又 ヨリ 安保 幸子 津島 満子 川又 澄江 小田島カチ 倍賞 正子 川村 ツエ 池田 邦子



遺跡遠景 (北▶南)



図版1

発掘調査区 (背後の段丘上から)



発掘調査前のようす (南▶北)



図版 2

発掘調査前のようす (北▶南)



C区発掘調査前のようす(南▶北)



図版3

B 区発掘調査後のようす (北▶南)



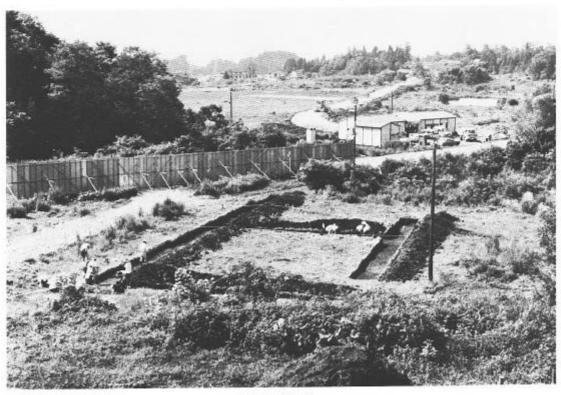
B区北端部発掘調査後のようす (北東▶南西)



図版 4 C 区発掘調査後のようす (南西▶北東)



発掘調査風景

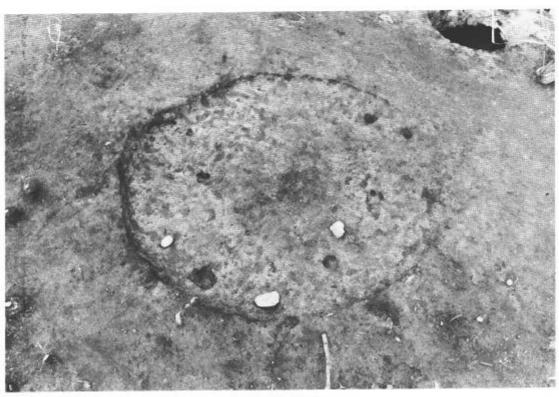


図版 5

発掘調査風景

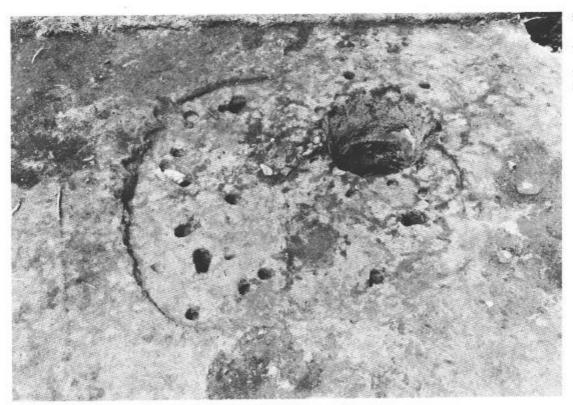


沢に堆積した浮石 (東▶西)

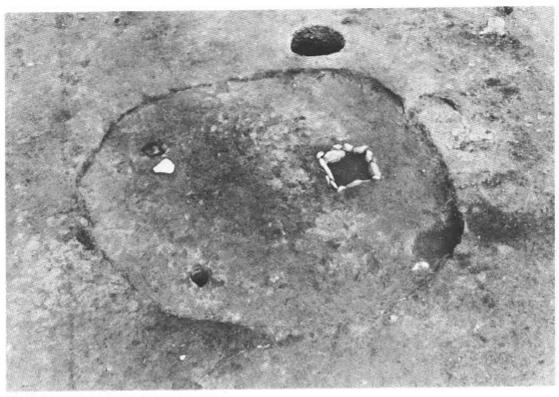


図版6

S I 001 竪穴住居跡 (北東▶南西)



S I 002 竪穴住居跡と S K (F) 020 フラスコ状ピット(東▶西)

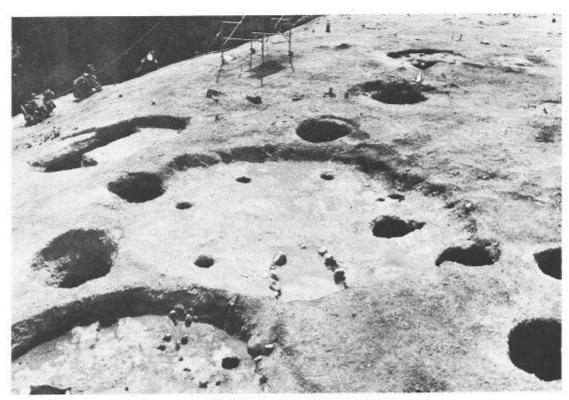


図版7

S I 003 竪穴住居跡と S K (F) 002 フラスコ状ピット(南▶北)

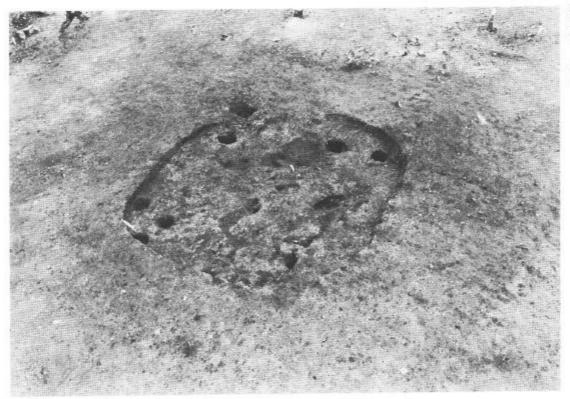


S I 004 竪穴住居跡 (北西▶南東)

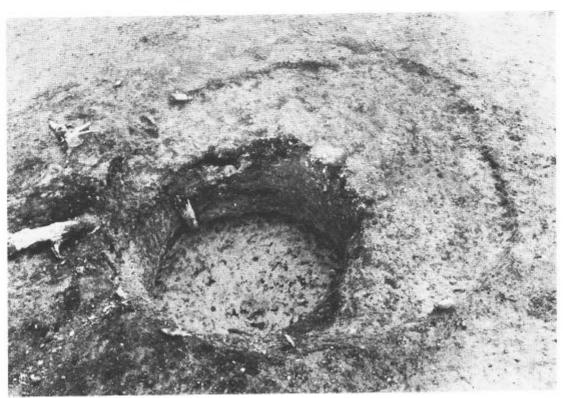


図版8

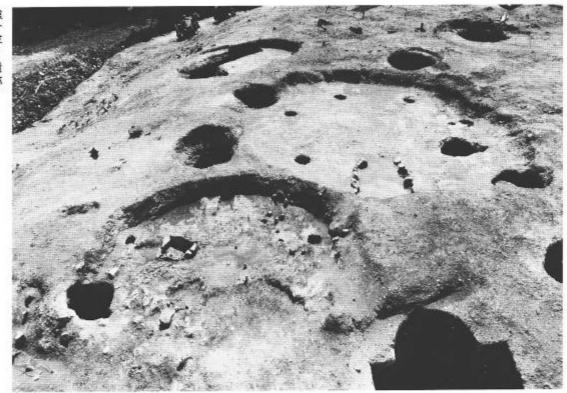
S I 005 竪穴住居跡 (北西▶南東)



S I 006 竪穴住居跡 (北▶南)



図版 9 S I 007 竪穴住居跡 S K (F) 012 フラスコ状ピット(東▶西)

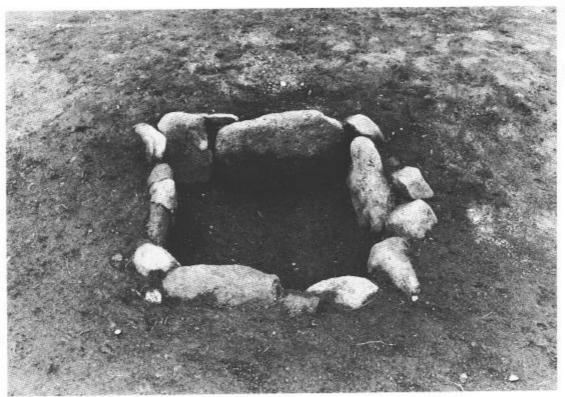


S I 005·008 竪穴住居跡 とフラスコ状ピット群(北西▶南東)・

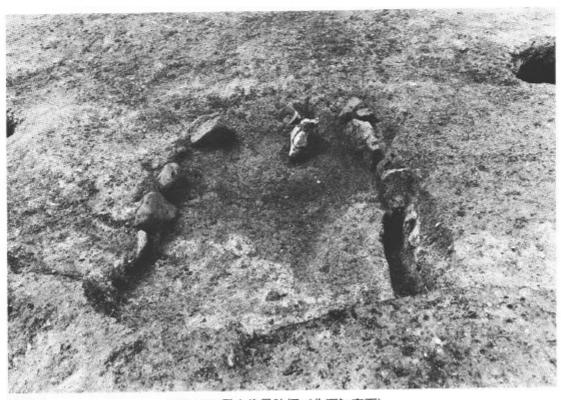


図版10

S I 008・009竪穴住居跡と S K (F) 013 フラスコ状ピット

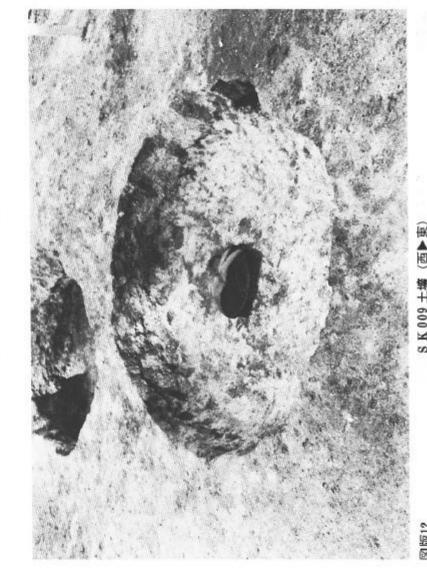


S I 003 竪穴住居跡炉 (東▶西)

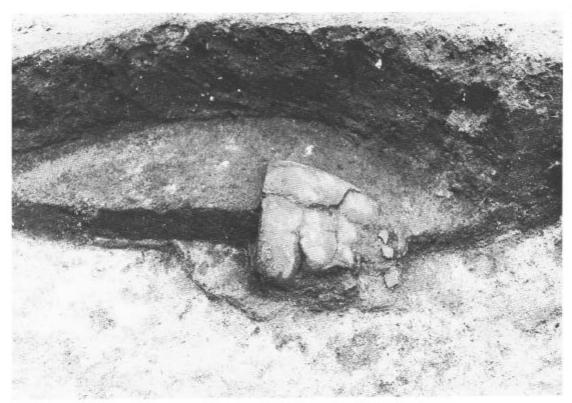


図版11

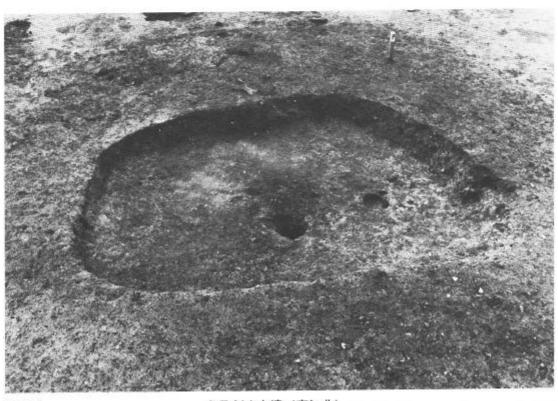
S I 005 竪穴住居跡炉 (北西▶南西)



猿ケ平日遺跡



SK009土壤出土土器 (南▶北)



図版13

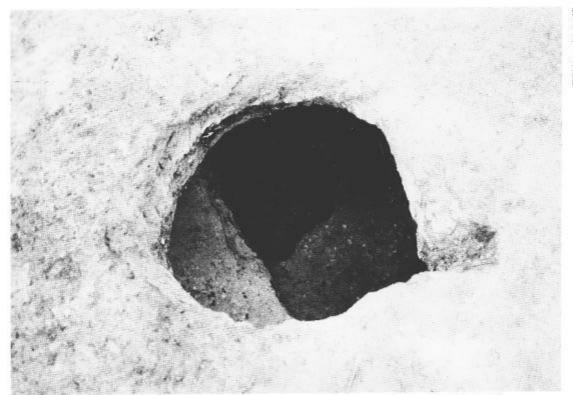
S K 014 土壙 (南▶北)



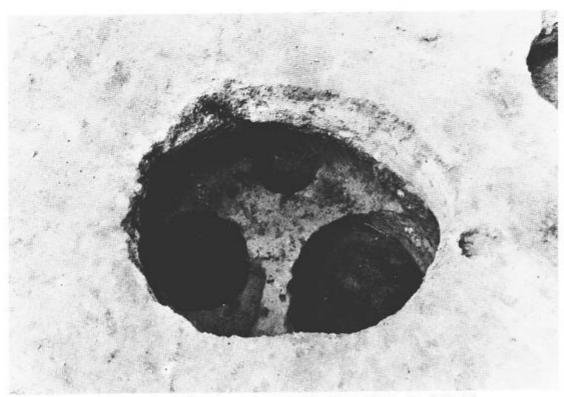
SK(F)004 フラスコ状ピット(西▶東)



図版14 S I 005 竪穴住居跡を切って 構築されている S K (F) 006 フラスコ状ピット(東▶西)



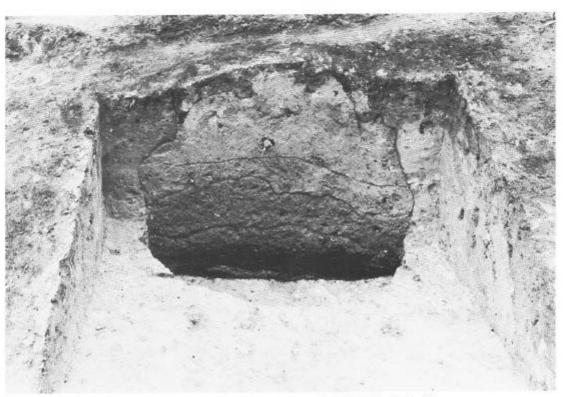
SI 005 竪穴住居跡内に存在するSK(F)010 フラスコ状ピット (西▶東)



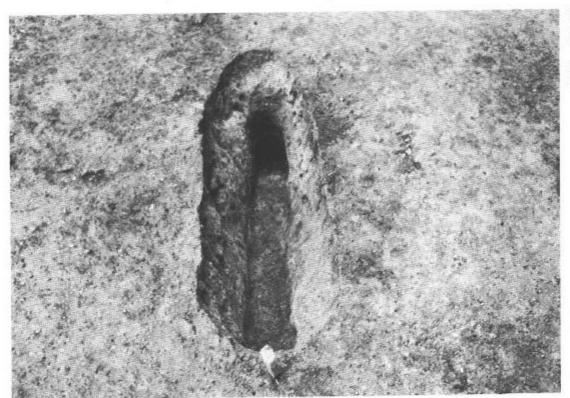
図版15 底部に5基の土壙をもつ8K(F)014フラスコ状ピット(東▶西)



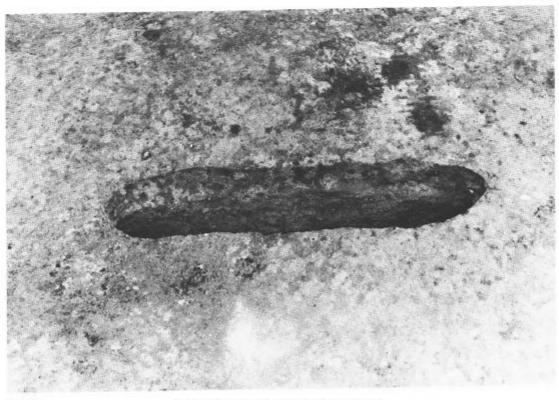
SK(F) 014 フラスコ状ピット内に存在するSK(F) 015 フラスコ状ピット



図版16 SK(F)009フラスコ状ピット覆土堆積状況(西▶東)

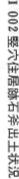


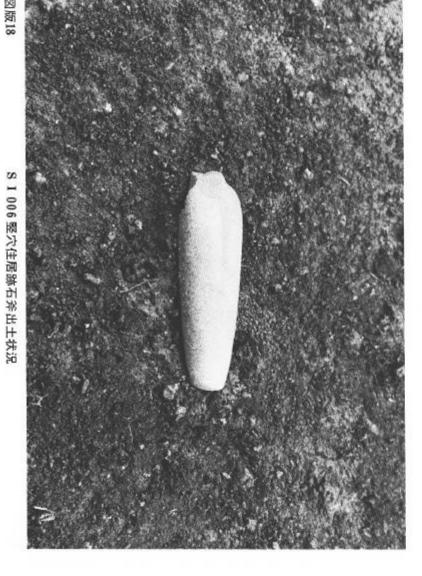
SK(T)001溝状土壙(北西▶南西)

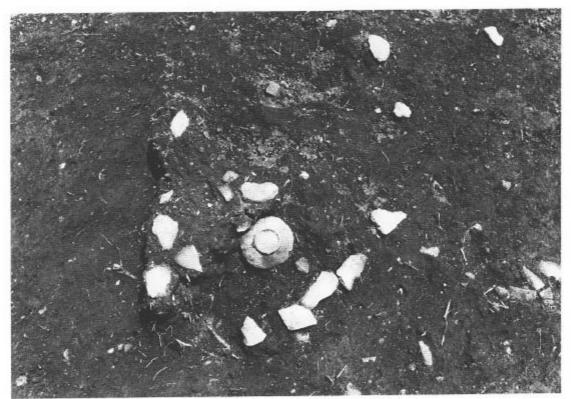


図版17 SK(T)002 溝状土壙(北東▶南西)





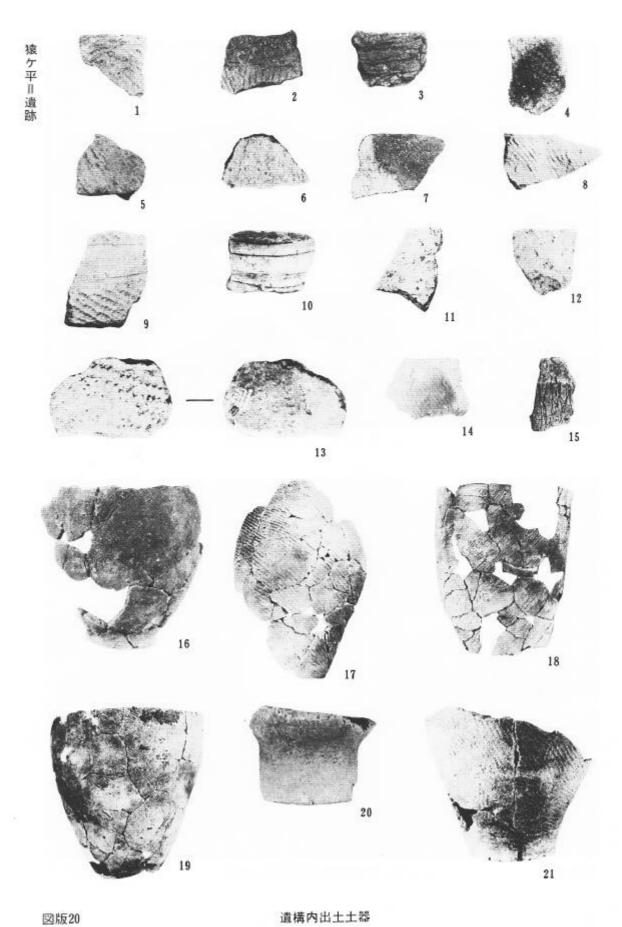




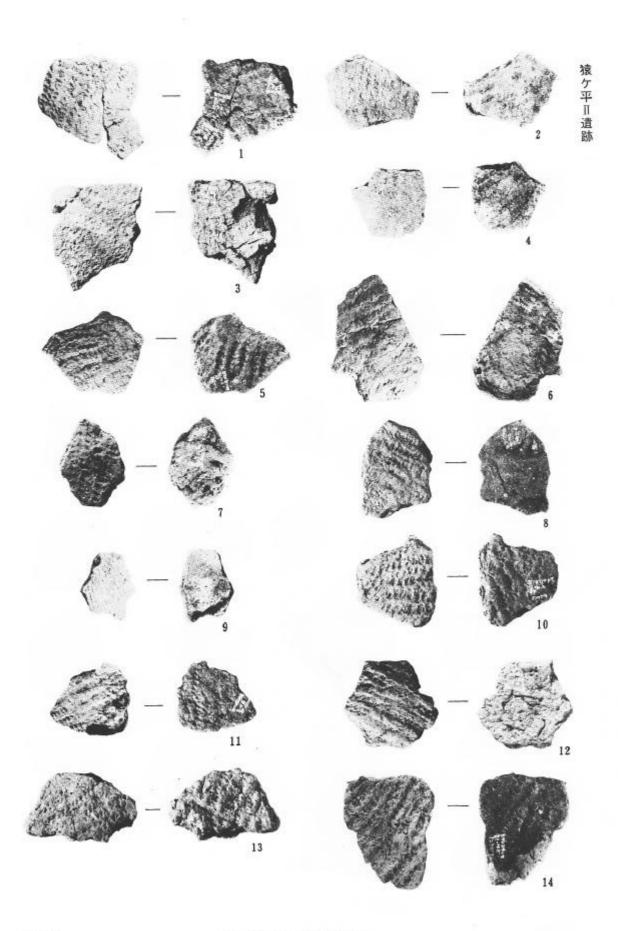
36-F グリッド土器出土状況



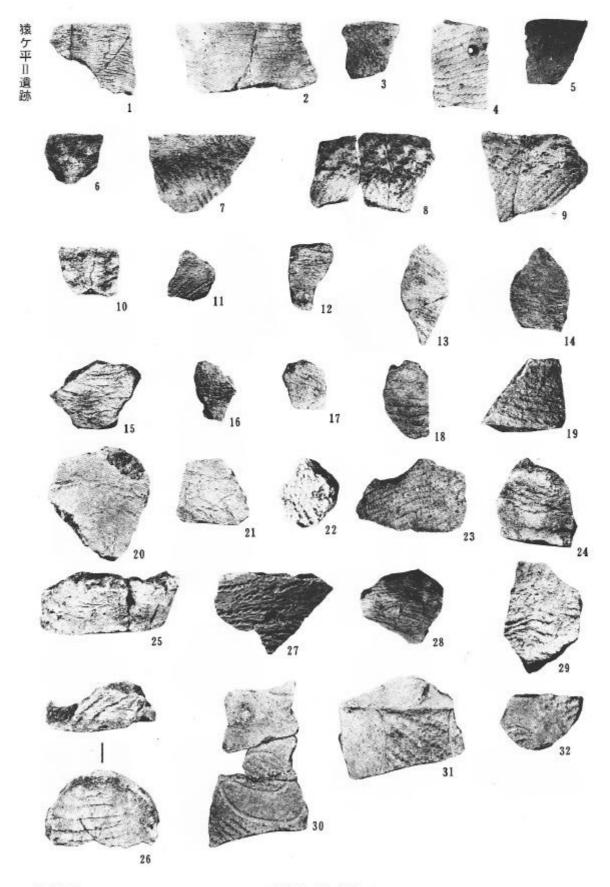
図版19 8 K 014 土壙円盤状石製品出土状況



遺構内出土土器

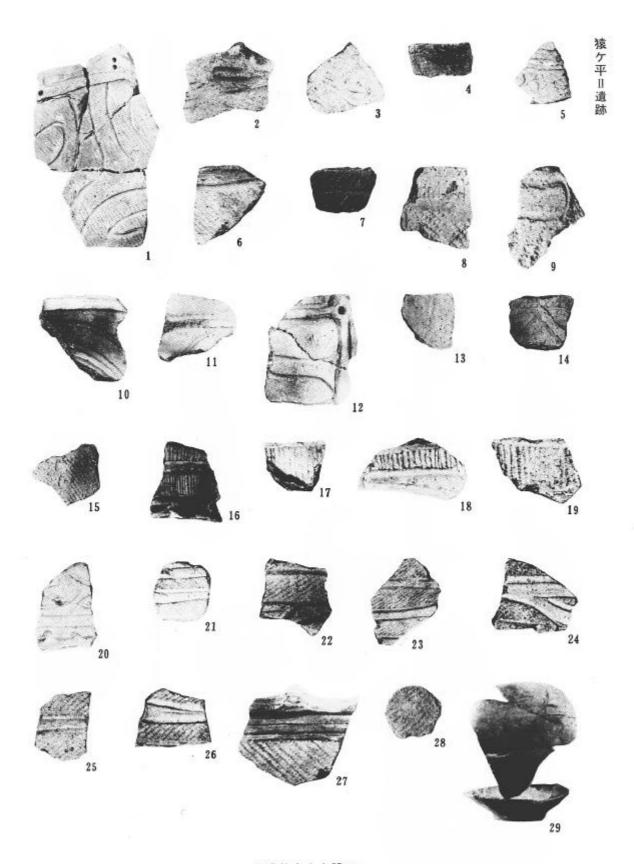


31-Hグリド出土土器(1)

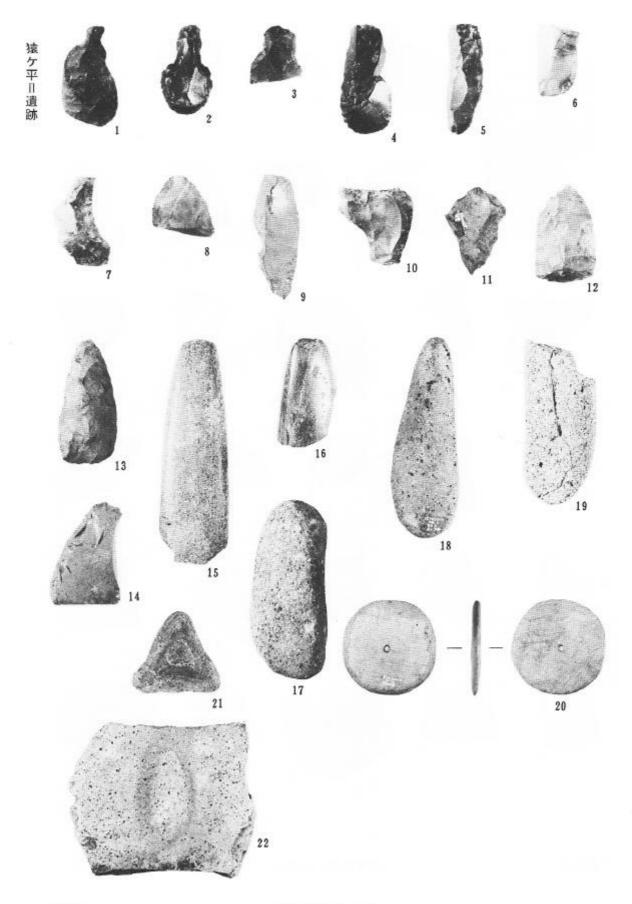


図版22

遺構外出土土器(2)



遺構外出土土器[3]



図版24

遺構内外出土土器

室 田 遺 跡

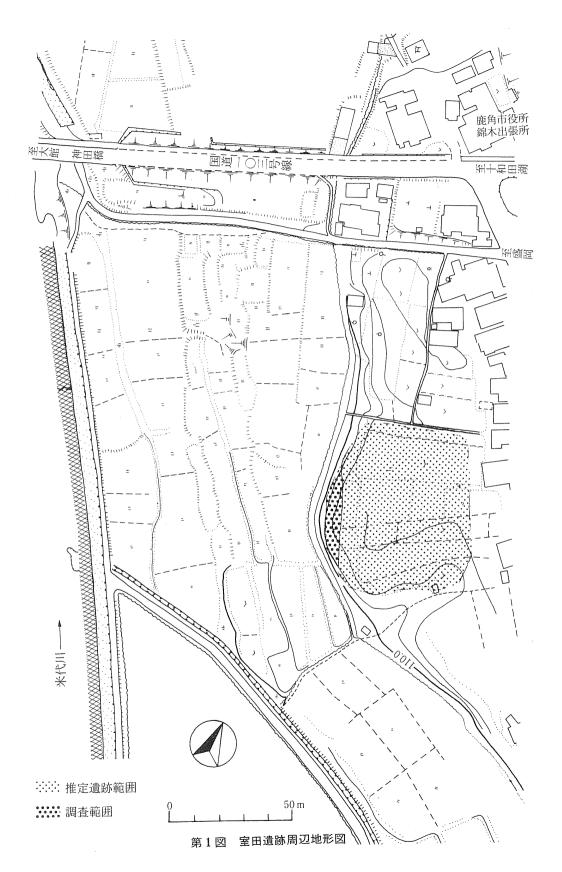
遺 跡 番 号 No.29

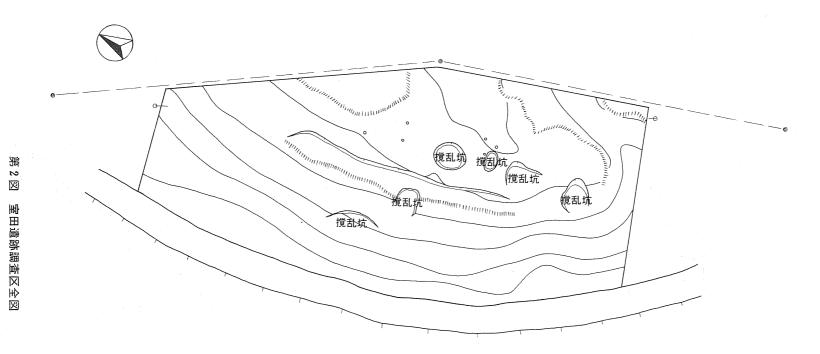
所 在 地 鹿角市十和田錦木字室田14番地2号

調 査 期 間 昭和56年4月13日~4月18日

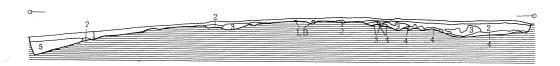
発掘調査予定面積 88m²

発掘調査面積 270m²





- 1. 10 Y R ¾ 暗褐色土 2. 10 Y R ¼ 褐色土 3. 10 Y R ½ 黒褐色土 4. 10 Y R ⅓ 黄褐色土 5. 炭 磨介



1. 遺跡の概観

遺跡は国鉄花輪線柴平駅から北西 2.4 km、同線十和田南駅から南 1 kmの標高約 113 mの段丘上に位置する。遺跡の南西 100 mには米代川が北流しており、またこの米代川は北へ 2.5 km程進んだ地点で南流する大湯川と合流する。

遺跡の立地する段丘は、米代川の水面との比高10m程の微高地であるが、この標高110~120mの段丘は鹿角盆地内で米代川に沿って主に東岸に良く発達している。盆地東側では、この段丘に多くの開析谷ではさまれた標高150~200m前後の舌状台地が続く。遺跡は、盆地内でこの段丘の北西の縁に位置している。

米代川をはさんでの遺跡地の対岸は神田と呼ばれる地域で、現在は国道 103 号線の神田橋によって繋っているが、近世以前は専ら渡し舟に依る連絡であり今でも神田橋の袂には舟場跡を見ることができる。この神田は近世秋田往還筋の駅伝所の一つで、菅江真澄が天明五年八月二十六日から二十七日にかけて神田から舟渡しで松ノ木(遺跡地付近)へ入ったことが、その日記に記されている。また、遺跡の東1.3 km曲谷地と呼ばれる地には奈良時代の構築と思われる枯草坂古墳があり、現在位置は定かではないが遺跡のある室田にも古墳があったとされている。

2. 調查内容

調査は昭和56年4月13日から同年同月18日までの6日間を費して行った。東北自動車道本線予定地は、遺跡の西側に広がる水田である沖積地にその中心杭が設けられ、工事によって破壊される遺跡の要調査範囲は、西へ張り出した極めて狭い区域に限られた。そのため調査区の測量・実測には、他の東北自動車道関連の遺跡調査で通常行っているグリッド杭を打設した遣り方測量の方法は採らず、日本道路公団設置の路線幅杭を基準とした平板測量によった。

遺跡地は畑地として利用されていたため、部分的に黒褐色土、淡黄褐色の粘土層が僅かに狭在する他は、遺構確認面として想定した黄褐色の地山面までの表土は殆んど耕作による攪乱を受けた暗褐色土1層によって構成されていた。また調査区北西の傾斜地は、ごく最近までゴミ捨場として利用されており、表土下には厚さ約70cm程で炭、塵介の堆積層が認められた。

遺構としては、表土層から最近に掘り窪められたゴミ捨て用の攪乱坑と、耕作時に掘られたと思われる径10乃至20cm程のピット以外には検出できなかった。また遺物も、表土中から大正時代の一銭銅貨2枚を出土した他はより古い時期にあたるものは皆無であった。

3. まとめ、

今回、室田遺跡の調査では近代の攪乱の他は遺跡とし得る遺構・遺物を検出することはできなかった。

室田遺跡の調査にあたって、その遺跡としての性格に関連して予想された事が3点ある。その1つは菅江真澄の日記にも「毛布の渡」と記されているように、遺跡地付近が古代以来近世まで米代川渡河の舟渡し場であり、調査によって何れの時代かの渡し場に関係する遺構・遺物を検出できるのではないかということ。もう1つは、中世米代川対岸の神田に鹿角四氏のうち成田一族の神田十郎が拠った碁石館があり、この館関連の性格をもつ遺跡ではないかということ、さらに1つは、現在正確な地点が不明となってしまった室田古墳に関係する古代の遺跡としての可能性である。

今回の調査では、残念ながら以上に掲げたような点に関しては全く明らかにすることができなかった。これには、調査の性格上、対象範囲の狭小な事、対象区域が限定されていることが原因しているが、この調査結果によって上記のような可能性をもつ室田遺跡そのものが否定されたわけではない。鹿角には伝説や古記録に登場する地が数多くあり、室田付近もその一つに数えられる。今後、室田遺跡はそのような背景をもつ遺跡であるとの視点から調査されなければならないものと考える。

調査参加者

梅戸正次郎 奥村 一三 川又 武司 川又 秀也

相川 金子 相川 リヨ 石鳥谷妙子 奥村 初恵 賀川 政子

川又 ヤエ 田中ヨシエ 中西 リチ 三ケ田孝子 柳沢 ヤス



遺跡遠景

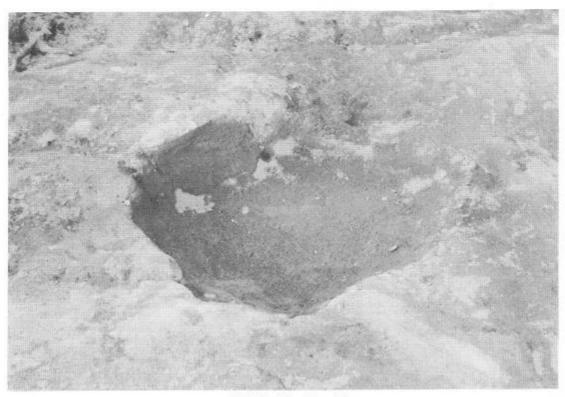


図版1

遺跡全景 (西▶東)



遺跡全景 (北▶南)



図版 2

搅乱坑 (ゴミ捨て穴)

一 本 杉 遺 跡

遺 跡 番 号 No.33

所 在 地 鹿角市花輪字一本杉3番地他

調 査 期 間 昭和56年9月1日~10月31日

発掘調査予定面積 4,550m²

発掘調査面積 3,000m²

1. 遺跡の概観

秋田県の北東部に位置し南北に細長い鹿角盆地には、中央を南北に流れる米代川と、それに 肋骨状に流入する諸河川の浸食作用を受けて形成された段丘と舌状台地が発達しており、これ ら段丘・舌状台地上には、国特別史跡に指定されている大湯環状列石に代表される縄文時代の 遺跡群の他、終末期古墳のように小規模なマウンドを築いた奈良・平安期の所産とされる墳丘 墓群、中世武士団の居館・拠点となった館跡群等 407 カ所の考古遺跡が確認されている。

また、この鹿角盆地には数多くの民話・伝説が残されているが、その一つ「南祖坊と八郎太郎」の伝説は、十和田火山噴火と、それに続くシラス洪水を凝入化した伝説とされており、考古学的、地質学的な面からもこの伝説にメスが入れられている。

この「南祖坊と八郎太郎」の伝説に関係すると思われる降下火山灰・火砕流としては、奈良 ・平安期の遺跡で遺構に関連して堆積が認められる「大湯浮石」があげられる。この「大湯浮石」は、黄褐色浮石質火山灰層として黒色土中に認められるもので、遺構との関連性から特に 重視されている。

鹿角地方は、律令体制崩壊期になってもなお化外の地であったろうと推測されているが、元慶2年(878年)の所謂元慶の乱で秋田城を攻め落した夷俘12カ村のうち、米代川流城にその拠点をもつ4ヵ村(能代、榲渕、火内、上津野)の一つ上津野の地であり、後世には賀都庄として文書にも記載される地である。

四囲を山々に囲まれて青垣山をめぐらす鹿角の地と言われる鹿角盆地内に所在する遺跡のドットマップを観ると、東側の段丘・台地上に立地する遺跡が多い。これは地形発達上の要因ばかりでなく、冬期の積雪量、日照時間、早春の融雪速度や東西両側を屛風のように山々が連なることに起因する内陸性の気候等、盆地内の気象要因も加味されていたと推測されよう。

一本杉遺跡は、盆地のほぼ中央に位置する鹿角市の中心街花輪の南東側、米代川右岸の沖積 低地からの比高約60mの高位段丘上、東側に連なる山脈の西麓縁辺部に位置する。

南側には、大きな沢目を利用した水田が東西に並んでいる。この沢目を狭み、南側に位置する台地の北側斜面には、大湯浮石の降下時期より新しい時期の竪穴住居跡等が検出された上葛岡IV遺跡(遺跡番号12)が所在する。

北側には、同じ高位段丘上に明堂長根遺跡(遺跡番号31)、柏木森遺跡(遺跡番号15)、中の崎遺跡(遺跡番号16)の各遺跡が接するように所在している。柏木森遺跡では、土器の表裏に縄文の施文された土器が出土している他、明堂長根遺跡とも強く関連すると思われる縄文時代晩期のフラスコ状ピット群が検出されている。また、中の崎遺跡では、平安時代後半と推定される合口甕棺や多数の竪穴住居跡が検出されている。

- 註1 新野 直吉 『秋田の歴史』 1982年
- 註 2 遠藤 巌 「陸奥国賀都庄―『金沢文庫古文書』中の「東盛美所領注主案」追筆をめ ぐって―」『秋大史学』第28集 昭和57年(1982年)
- 註3 秋田県教育委員会 「上葛岡IV遺跡」『東北縦貫自動車道発掘調査報告書V』 秋田県 文化財調査報告書第91集 1982年
- 註4 昭和56年度県文化課調査。本報告書収載。
- 註5 註4に同じ。
- 註6 昭和55年度及び昭和56年度県文化課調査。

2. 調査の方法

(1) 発掘区の設定と調査の留意点

東北縦貫自動車道の発掘調査は、担当調査員の申し合せにより調査予定区域内に5m×5mのグリッドを設定して行うことにしている。このグリッド設定は、館跡を除き日本道路公団の設置した路線中心杭を2本任意に選択し、この中心杭を結ぶ直線を設定基準線として跡線の方向に沿わせることとしている。

一本杉遺跡においては、STA117+00とSTA117+20の2本を選択し設定基準線(X軸) とした。STA117+00を基準点として直交線(Y軸)を設定し、5m毎に杭を打設した。

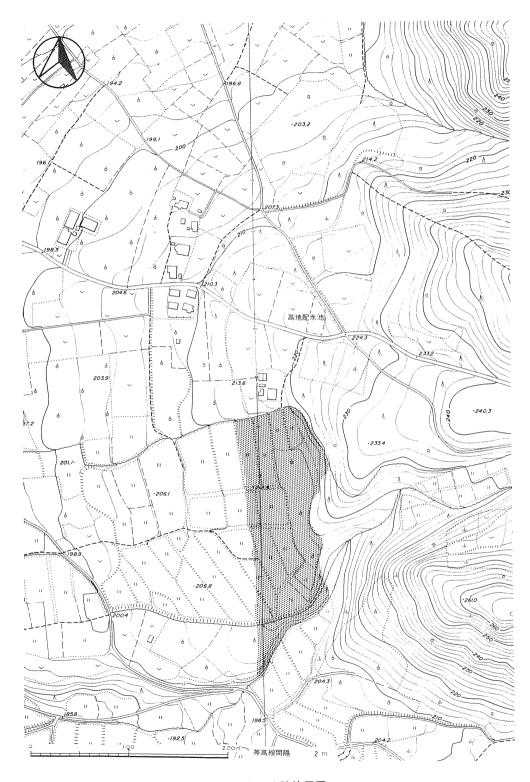
調査予定区域全域にグリッド杭を打設した後、グリッドの呼称を(x-y)の方法で表示する関係からできるだけマイナス表示を少なくすることとして、(0,0)の基準交点、X 軸基準線、Y 軸基準線をS T A 117+00から任意点(見かけの最北東部打設杭)に移転した。

X軸にアラビア数字、Y軸にアルファベットを付し、両者の組み合せてグリッド名としているが、各グリッドは、南西側の杭の交点から基準点を見る状態で表示している。

試掘調査の結果から、調査を実施するにあたり、次の諸点についてそれぞれ資料が得られるよう努めることとした。

①大湯浮石が竪穴住居跡内に純堆積層として米代川流域地区で初めて確認されたのは、昭和46年に調査された大館市池内遺跡であるが、大湯浮石が竪穴住居跡内で確認される場合純堆積層として存在するのか、それとも二次堆積(淘別再堆積等)の様相を呈して堆積するのか、その場合の遺物はどのようなものか?

②昭和47年に奥山 潤氏により「大館地方に普遍的に存在する甕形土師器」として報告された底面に砂粒を付着される甕形土師器が、鹿角地方でも出土しているが、共伴関係が明確でないことから編年的位置づけが曖昧である。共伴遺物は何か?また、その編年的位置づけは?



第1図 遺跡位置図

③前年度調査した北の林II遺跡のような事例——ア. 竪穴住居跡と浮石との関係では、床面に柱穴を穿たず、四囲の壁下方の中央部及びコーナー(の壁溝中)に存在し、掘立柱建物跡と同様の柱穴配置をもつ竪穴住居跡は、大湯浮石の堆積後に構築されている。イ. かまどの構造の点では、所謂東北型のかまどのような掘り方を持っても関東型かまどのような使い方をされているものが多いし、大湯浮石層より新しい竪穴住居跡のかまどは所謂関東型かまどを具有する。——が認められるか?

以上の点について観察することにしたが、これ以外にも調査中に諸々の問題提起があれば、それに対応できるように記録することにした。

(2) 遺構の実測方法と遺物のとりあげ方法

遺構の実測は、遣り方測量による。通常、竪穴住居跡内における土層観察用ベルトの設定は、極めて画一的に遺構(竪穴住居跡)中央部に交点をもつよう相対する壁面の中央部を結び2本設定しているが、本遺跡の場合には次のように設定した。

①かまどを有する竪穴住居跡……かまど中軸線を通る一本と、住居跡中央部でそれに交差する一本のベルトの設定を試みた。

②出入口様張り出し部のある竪穴遺構……出入口様張り出し部中軸線を通る一本と、遺構中央部でそれに交差する一本のベルトの設定を試みた。

土壙及び T一pit の場合、設定しても狭小で土層の観察が難しく、特異な堆積状況がない限り、 図化を省略した。

実測の縮尺は、遺構配置図1/200、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙、T-pit, 溝、柱穴(それらの土層断面図も含む)1/20、かまど、炉1/10とした。

遺物のとりあげ方法は、その位置等を平面図にレベル、層位、種類を記録して収納することにした。

- 註1 秋田県立大館桂高等学校社会部 『池内発掘』 1972年
- 註 2 與山 潤·富樫泰時 『比内町真館緊急発掘調査報告』 1972年
- 註3 秋田県教育委員会 「北の林Ⅱ遺跡」『東北縦貫自動車道発掘調査報告書IV』 秋田県 文化財調査報告書 第90集 1982年
- 註4 註3の報告書「例言」参照

3. 調査経過

一本杉遺跡は、昭和44年、昭和48年、昭和52年の3次にわたる東北縦貫自動車道建設予定地

内遺跡分布調査でもその存在を確認できなかった遺跡である。

昭和55年秋に、県立花輪高等学校東方の東北縦貫自動車道建設予定地内において重機により 黒土を採取しているのを当時北側に隣接する明堂長根遺跡を試掘調査中の橋本高史調査員が目 撃、掘り上げた黒土中に土師器片が含まれていることを発見し、遺跡であると認め、建設工事 に先立ち発掘調査する必要がある旨文化課に連絡した。県文化課は、次年度に発掘調査を実施 する必要がある旨を日本道路公団仙台建設局に連絡した。

一本杉遺跡の発掘調査を昭和56年度に実施することが本決まりとなり、桜田 隆調査員が妻の神Ⅲ遺跡(遺跡番号24)の調査終了後の9月から調査することとなった。

妻の神Ⅲ遺跡発掘調査中の6月から一本杉遺跡の発掘調査の諸準備が進められた。この準備 段階で、調査対象区内の南側に変則的に入り込んでいる農業用水路が使用中で、他に引水でき る水路がないことや、南東から北西へ調査区内を斜行して飲用導水管が埋設されていることが 判明し、この水問題と排土地の選択確保が極めて重要な課題となった。

水利権者及び日本道路公団鹿角工事事務所の担当者と3者で話し合いの結果、農業用水路の切り換えは難しいとの判断から、既存水路をそのまま残す(調査対象から除外する)ことになった。飲用導水管は調査対象区域外に移設するが、自然流下しているのでその傾斜に十分留意して(傾斜の関係で一部調査区域内に入ることもあり得る)移動敷設することとした。

6月7日から桜田調査員が作業員10余名と共に、排土地に予定している西側の一段低い水田面とそれ以外の調査対象区に試掘調査を実施した。この結果、排土地予定地には竪穴住居跡らしいプランが確認されたため、排土地とするには不適と判断、別に探すことにした。調査区中央で南北方向に設定したトレンチでは、大湯浮石の純堆積層が確認され、土師器片、縄文土器片等が出土している。現地に詳しい梅戸正次郎氏から、以前耕地整理(圃場整備)した際、一段低い南西側水田面はブルドーザで削平したこと、また北西側の水田面も一度ブルドーザで削平したあとに盛土したものであること等を直接教示を得た。試掘調査でもこの説明を裏づけることが多く判明した。(西側、特に北西側は1mから1.5mの盛土がなされ、その下部は削平が激しく遺構は全く確認されない。南西側も0.3~0.6mの削平を受けている。)

9月1日から一本杉遺跡の本格的な調査を開始した。試掘調査の結果西側下段の水田部分を除き黒色土中に大湯浮石の純堆積層が確認されていることから、この大湯浮石層の上面及びそれと同レベルで粗掘りを止め、遺構プランの確認に努めた。しかし、明確なプランを検出することができなかったため、浮石層の下面、次に下面から10cm低いレベルの面と掘り下げることにした。その結果、黒褐色土~暗褐色土を掘り込む遺構のプランが多数検出された。

遺構プラン確認面の埋土を観察すると、浮石を多量に含む遺構が多いことが判明した。 このことは、大湯浮石を含む状況を詳細に観察することにより、新旧関係等を知る手がかり となることを示す。

西側下部水田面は、隣接する区域外水田への影響を最小に押えるため、約1 mの幅を残して 土留め工作をしたあと全面剝土を行った。検出された遺構のうちには、区域外に広がるものも あるが、稲刈り前であることから追跡拡張することは断念せざるを得なかった。

予想を上回る数の遺構が検出されたことと、悪天候のため調査の遅れが目立つことから小玉 準調査員のチームから、調査補佐員と作業員の応援を求めた。

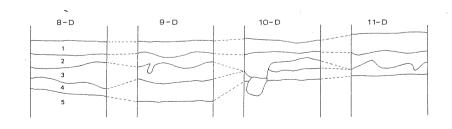
平安時代の竪穴住居跡 9 棟、掘立柱建物跡 3 棟、溝 3 条、方形竪穴遺構 1 棟、張り出し部のある竪穴遺構 2 棟、中世の竪穴住居跡 7 棟、Tーpit 1 基、フラスコ状土壙 1 基、土壙状遺構12 基、柱穴多数の他、貝殼文を施文した土器片等縄文土器、墨書のある坏形土師器、長頸壺形須恵器、陶磁器片等を出土し、10月31日に調査を終了し、その後残務整理を行い11月 7 日に現場を撤収した。

4. 遺跡の層位

試掘調査時に遺跡のほぼ中央で南北方向に設定したトレンチ(本調査でのDラインとほぼ平行する)西壁の土層観察では、1層:表土(暗褐色土)、2層:黒褐色土、3層:黄褐色浮石質火山灰=大湯浮石(レンズ状に5~10ラインに3~5cmの層厚で堆積)、4層:黒褐色土~暗褐色土(5層への漸移層)、5層:砂質茶褐色土(地山面)と堆積している。

遺構の平面プランは、4層上面で確認されているが、グリッド杭をそのまま存置するために 柱状に残した部分で断面も確認(8 - A 杭部分で壁の掘り込みが認められる)できたSI 013 竪穴住居跡では、2層の黒褐色土から掘り込んでいるのが観察されているが、この区域には3 層の堆積、広がりが認められない。

3層は、5~10ラインとC~Fラインの間の区域の鞍部に堆積している。



第2図 土層堆積図

5. 遺構と遺物

本遺跡の調査では、平安時代後半期の竪穴住居跡 9 棟、掘立柱建物跡 3 棟、溝 3 条、方形竪穴遺構 1 棟、中世の張り出し部をもつ竪穴遺構 2 棟、中世の竪穴住居跡 7 棟、その他 Tーpit 1 基、フラスコ状土壙 1 基、土壙状遺構12基、柱穴多数が検出された。また、遺物は貝殼文を施文した縄文土器他各期の土器片、墨書のある坏形土師器、底部に砂粒を付着させる甕形土師器、長頸壺形須恵器など平安時代後半期の土器、鉄製紡錘車、鎌先、砥石等の他、摺鉢片、自磁碗片等の陶・磁器片が出土している。

遺構は、時期別に扱わず、遺構の種類毎に検出順に番号を付しているが、プラン確認時に遺構と思われ番号を付したものの、精査後遺構と判断しがたいものや、当初推定の遺構でなく別種類の遺構であったものなどがあり、欠番としたものがある。

遺構の計測方法等は発掘担当者の考え方により相違が見られることが多い。本遺跡でも竪穴 住居跡の計測方法及び用語法は、発掘担当者である桜田の考え方に基づいている。

壁高:床面からプラン確認面における壁上端までを測る。

壁溝:壁面下方に壁体のおさまりのために作出された溝。周溝という名称は、排水等の水関 連の施設を想起させるので用いない。

壁長: プラン確認面における各壁面の上端を計る。設計上の竪穴住居は、直線の壁面が直角に交わるが、繩張りして掘り下げる際に壁体の据え方(計画されている住居の壁面)よりも広い面積、長さを掘り下げているのであり、本来この壁面とは竪穴掘り方の壁面であることを再確認しておく必要があろう。つまり、柱穴等における所謂掘り方と据え方の関係と同じである。掘立柱建物跡との関連で四囲の壁長により竪穴住居跡の規模を表現しようとするのが今日的な常識的であるが、住居跡を「すまい」として考えるならば、その大きさは壁体のおさまりである壁溝と主要な柱穴配置から規模を表現した方がより現実的であろうと考えている。しかし、各壁の計画壁長を推定しなければならないことからその推定規準の可否の問題もあるので上記の通りプラン確認面における上端の長さを計る。

面積: プラン確認面におけるかまど煙道部分も含む掘り下げに要した面積である。掘り方上端を(現実には実測図上における上端)もって計る。プラニメーターで3回計測しその平均値を採る。

主軸方位:かまどの焚口と煙出孔の中点を結ぶ線(火床の中心点と煙道部の長軸中線を結ぶ線)と磁北との偏角を計る。

第1表

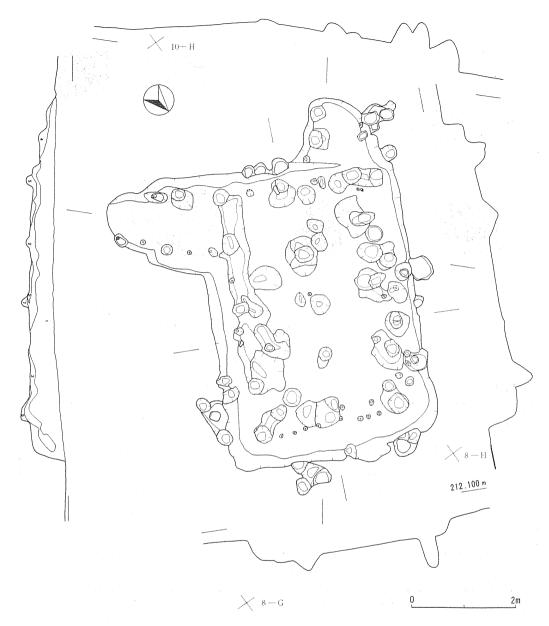
SI 001竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	9 — 1	Η,	10-	– H	, 9		Ι,	10-	- I	T	実制	則図	番	号	3]	刘肋	(番	号	3	************	
			南		側		壁		西		側]	Ē	達		킈		仴	IJ	壁	F		東		側	Į.	達
法	壁	長				385	.5cm	ı				5	70.	5cm					4	15.5	5cm					589.	.5cm
14	壁	高		3.	1.9~	- 42	.8cm	1		3	33.2	2~	42.	3cm			4	45.	2~	65.2	2cm			36	5.6~	-49.	.6cm
量	壁淖	韩福			7,	Ţ.	L					な		L					な		L				た	ŗ.	L
<i>3</i> 2.	壁津	非深			7,	ŗ	L					な		L					な		L				t	ŗ	L
形		態	方		形			Ī	面	乔	責					25	. 981	m²	主	軸方	位		S-	-63	3°	E	
	ラン硝 の 状		当初: シロ い り 出	認し が、	た。明確	8 在な	~14 プラ	[の] ンを	で検	I 5 出で	ライでき	ンた	の軍。		はと	、 南側	地	整理	L の	ため) , A	勺1	m	剂•	削出	-さ1	りて
	こと床 状		上部でるとう直に高は非常	予想	した遺産	こが	、深 てい	く打た。	国り 覆.	く <i>は</i> 土は	ぎめ ま地	て山	いた の責	こた	め;	か、	剝	肖	平	こも	かな	かわ	らっ	ず壁	面に	LIEL	ま垂
柱		穴	各壁面北側に変える	こ小	径た	Eを	直接	打記	戈し:	たと	: 考	Ż.	られ	しる	柱:	穴か	並z	んて	"Va.	出しる。	部 <i>l</i> .S	= € [00	検b)1、	出さ 002	れていた。	たいる	る。 句を
か	ま	ど	かまと	ごは	付記	えさ:	れて	いさ	kV.	>																	
	物 土 状		縄文二 破片]	上器	片 3 が覆	点土	、坏中か	形士ら出	二師 日土	—— 器体 した	本部 こが	小,	片 3 いす	 点 ずれ	、もん	悪形 小片	土自でる	師器 ある	桐	部片	12,	Ξ.,	甕刑	形土	師器		 录部

第2表

S I 002竪穴住居跡計測説明表

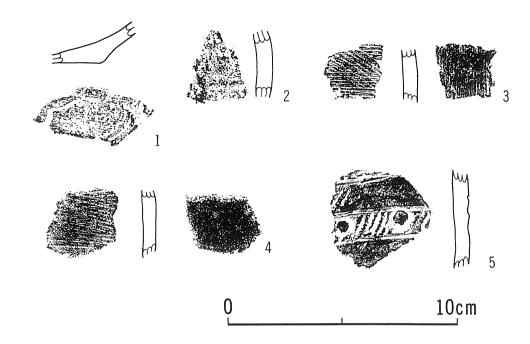
検	出地	区	9 — F	I . 10—	Н, 9-	- I 、]	I —0	4	実測図都	音号	3			図版番号	3	
	4		南	側	壁	西	側	J	壁	1	t 1	則	壁	東	側	壁
法	壁	長		3	35.7cm			4(03.5cm			32	4.5cm	ı	41	.4.5cm
14	壁	高		な	L			な	L			な	L		な	L
量	壁淖	弉幅		な	L			な	L			な	L		(40~	74)cm
<u> </u>	壁淖			な	L			な	L			な	L	(5.2~9	.1)cm
形		態	方	形		面	積			17	. 09 m²	主軸	方位	S-2	3°W	
	ラン硝 の 状		SI	001に	同じ						77.50					
覆.	土と月 状	末面 態	SI	00112	同じ											1/2 / 1/2
柱		穴	SI	00112	同じ											
か	ま	بح	SI	00113	同じ											
遗出:	物 土 状	の況	覆土中 破片1	から繩 点が出	文土器 胴土してい	司部破り	十1点	, ¥	蹇形土 師	i器の)口縁音	部破片	- 1 点	、胴部破片	〒9点、	底部



第3図 SI001、SI002竪穴住居跡実測図

S I 001、S I 002竪穴住居跡土層註記

- 1 10YR% 黄褐色土混入 弱粘性 黑
- 4 10 Y R ¾ 褐色土ブロック状 混入5 10 Y R % 弱粘性 明黄褐色土 弱粘性 黑褐色土
- 7 10 Y R% 弱粘性明黄褐色土
- **2** 10 Y R % 黄褐色土混入 弱粘性 黒 **3** 10 Y R % 黄褐色土混入 弱粘性 黒 褐色土
- 色土
- 6 10YR% 黄褐色土及び明黄褐色混入 弱粘性黑褐色土



第4図 SI001、SI002竪穴住居跡出土土器拓影図

第3表

S I 001、002竪穴住居跡出土土器説明表

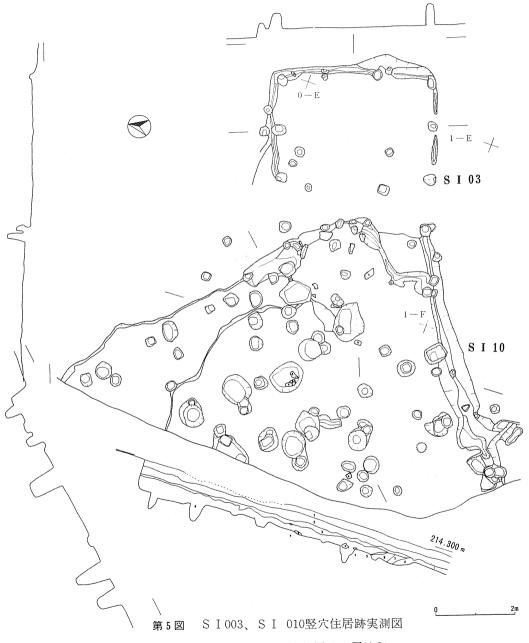
実測図番 号	図版番号	註記番	ы.	形部	態位		뫎	面	調整	法		胎土含有物	色		調	備	考
番号	番号	社 記 僧	ヶ	部	位	外	面	内	面	底	面	后工百有物	E		(A)	加	考
4-1		R P一括 フクド中		坏、	底部	ロク	· 🖸	ロク	7 🖸	回転	糸切		5 Y R %	にぶい	橙	土朗	j器
4 — 2		RP一括 フクド中		甕、	胴部	ヘラ	ナデ	ヘラ	ナデ			粗砂を含む	10 Y R ⅓	にぶい	黄橙	土師	j器
4 — 3		RP一括 フクド中		甕、	胴部	刷毛	:目	ヘラ	ナデ				10 Y R 3⁄3	にぶい	黄橙	土師	j器
4 — 4		RP一括		甕、	胴部	刷毛	目	ヘラ	ナデ				10 Y R ⅓	にぶい	黄橙	土師	i器
4 — 5		7 A R P一括		繩文 胴部			「 区画 こぶ	ヘラ	ナデ				7.5 Y R ⅓	にぶい	・橙		

第4表

S I 003 竪穴住居跡計測説明表

検	出地区		0 — E	, 0-	-F 、1	-Е,	1 — F	7	実測図都	昏号	5	***************************************		図版番号	4	e Promovroumius estriblisas estrata
			南	側	壁	世	g 俱	 []	壁	#	Ľ	側	壁	東	側	壁
法	壁長	Ę		(2	43.5)cm			な	l			(27	2.5)cı	m		420.5cm
	壁声	7		な	: L			な	し		1	.2~	19.7cı	m	6.8~	-20.3cm
量	壁溝帆	Ħ		7.5~	-13.5cm			な	L		8	.5~	15.5c	n	9.5~	-21.5cm
	壁溝沒	Ë		2.0	∼7.8cm			な	L			2.1~	-6.5cı	n	4.0~	-10.0cm
形	息	F	方	形		面	積			16	.56m²	主	軸方位	z s-	24°—	E
	ラン確認の 状態		が確認	された		則に個	斜する							- 黒褐色土 010との重		
覆点の	上と床面 状 憩		白色の凹凸が			こ粗に	混入す	- る	黒褐色土	ニがヨ	三体を	なす	覆土。	床面は、	やや車	大かく、

柱	穴	竪穴の壁隅部下方に各1穴と各壁面下方に等間で各2穴穿たれている。
	炉	床面中央部の床面に略円形のプランで断面鍋底状に熱変化した部分があり、地床炉と思われる。
遺出	物の土状況	覆土中から器外面体部に墨書のある坏形土師器 1 点、甕形土師器底部破片 1 点、炉部分から甕形土師器口縁部 1 点が出土している。



SI003、SI010竪穴住居跡土層註記

1 7.5 Y R ½ 白色浮石微量混入 弱粘性 2 10 Y R ½ 白色浮石微量混入 弱粘性 3 7.5 Y R ½ 黑色土 黑褐色土 黑褐色土

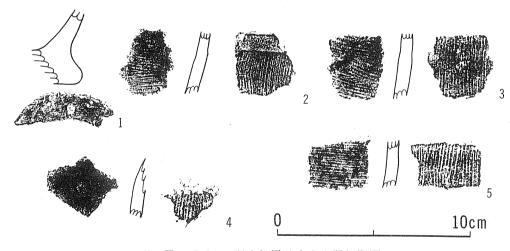
- 4 10Y R% 黄褐色土粒混入 中粘性5 10Y R% やや強粘性 黒色土6 10Y R% 黄褐色土混入 弱粘性 黒
- 褐色土

7 7.5YR% 黄褐色土微量混入 黑色土

第5表

S I 010 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	0— G	; ,1-	-F.	1—G,2	-F.2	:— G	美	測図	香号	5			図版番号	4	
			南		側	壁	西	側	J	壁	킈	L 1	則	壁	東	側	壁
法	壁	長			('	732)cm			な	L			な	L			(450)cm
14	壁	高			5	∼20cm			な	L			な	L			3∼18cm
量	壁洞	毒幅			3	∼12cm			な	L			な	L			5~20cm
里	壁角				4	∼10cm			な	L			な	し			2∼8 cm
形		態	方		形		面	積	不	, i	月		主車	由方位	: 不	明	
	ラン矿 の 状		S I で正確	003 確な	の西	側に重複 ン及び、	复して研 遺構数	在認さ 枚を確	れた 認す	が、制	井地整	を理時に できなが	こ剝・ いった	·削平	後、盛土	され	ているの
覆=	上と月 状	卡面 態	黄褐色れてい	色土	のブ。	ロック、	白色酒	孚石粒	が混	入する	5 黒裾	色土の	り上に	耕地	整理によ	る盛	土がなさ
柱		穴				出されて えられる		が、S	I C	03と同	引じく	各壁	下方に	こ並ぶ	柱穴配置	と想	定すると
	炉		床面の	の北	東側は	こ 2 カ戸	斤地床均	戸が検	出さ出	れた。							
遺出:	物 土 状	の : 況	床面は土した	丘くた。	の覆:	土中から	変形士	二師器	:の口	縁部研	支片 2	点、刖	同部研	支片 5	点、底部	破片	1点が出

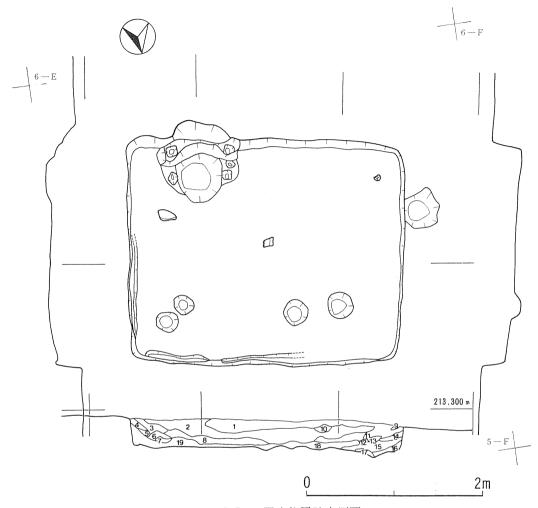


第6図 SI010竪穴住居跡出土土器拓影図

第6表

S I 010 竪穴住居跡出土土器説明表

9	美測	図	図番	版号	註記番号	形部	態位		72 j	ti i	周雪	法		胎土含有物	色	≓#1	titi: =tx.
L							位.	外	面	内	面	底	面	加工召有物	Е.	調	備考
6	; —	1	20-	- 1	R P フク土中 2	좵	·底部	ヘラ	ケズリ	\^=	ラナデ	ヘラケ	てリ	粗砂を含む	5 Y R %	にぶい橙	土師器
6	;	2	20-	- 2	RP一括	甕	·胴部	刷毛	B	~ ?	ラナデ				7.5 Y R %	橙	土師器
Le	;	3	20-	- 3	R P一括	甕.	・胴部	刷毛	Ħ	\ \-\-	ラナデ				7.5 Y R %	にぶい褐	土師器
6	; —	4	20-	- 4	R P一括	甕	·胴部	刷毛	B	~ =	ラナデ				7.5 Y R 7/6	橙	土師器



第7図 S I 004竪穴住居跡実測図

S I 004竪穴住居跡土層註記

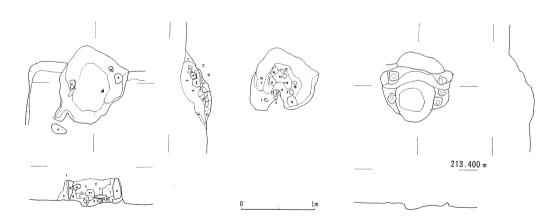
- 4 7.5YR% 浮石多量混入 黑色土
- 7 7.5 Y R¹· Y 浮石少量混入 強粘性 黑色土
- 10 2.5 Y R 1. 7/ 強粘性 赤黒色土
- 13 7.5 Y R % 黑色土少量混入 炭化物混 入 橙色焼土
- 16 10 Y R % 明黄褐色土粒混入 強粘性 褐色土
- 19 10 Y R ¾ 浮石及び黄橙色土少量混入 強粘性 黒色土

- 2 7.5 Y R¹· Y 浮石多量混入 黄褐色土
- 5 7.5 Y R ¾ 浮石少量混入 強粘性 黑 色土
- 8 10 Y R % 黄橙色土粒混入 強粘性 黒褐色土
- 11 10 Y R % 黄橙色土粒少量混入 黑褐色土
- 14 10 Y R 列 浮石及び明黄褐色土少量混 入 強粘性 黒色土
- 17 10 Y R % 黄褐色土 (ローム)

- 6 5 Y R 1· 7 浮石多量混入 黑色土
- 9 10 Y R 3/2 浮石多量混入 黑色土
- 12 7.5 Y R 另 明黄褐色土粒炭化物混入 強粘性 黑色土
- 15 10 Y R ¾ 明黄褐色土粒混入暗褐色土
- 18 10 Y R % 黄橙色土混入 強粘性 黒 褐色土

S I 004 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	6 -	-F	OCHRECO PROPERTY OF THE PARTY O	THE SQUARE SHALL SHARLES	e lead leader to be combat to the party of comba	実測図	昏号	7、	8	[図版番号	5	
			南	側	壁	西	側	壁	4	上 俱] 壁	<u>.</u>	東	側	壁
法	壁	長			318.5cm			245cm			315	5cm		***************************************	249cm
仏	壁	古		22.6-	-40.0cm		21.0-	-29.1cm		26.8	3~32.7	7cm	2	9.1~	37.6cm
量	壁津	毒幅 .			$7 \sim 13$ cm		7	r l			な	L		5	∼11cm
里.	壁津	靠深		1.1	\sim 1.8cm		7,	t L			な	L		0.4~	-1.0cm
形		態	方	形		面	積		7	.98cm	主軸方	位	S-3	°W	
	ラン育 の 状		を呈す 白色消	「る落な 昇石質り	ら込みとる	その南(きより ^く	則壁にた やや離れ	かまどらし れて帯状に	きり	き土混み	、粘土フ	。 ラ:	組に含む鳥 ンを確認し 認された。	った。	
	ニと房 状		再堆積積して	責したも いる。	のである	。床面	面近くに		り炭化	2物、村	が散乱		マリーなり ており、タ		
柱		穴	壁溝も	東側と	:北側壁の	つ一部に	こ認めら	那構造を知 されている ているので	っか、	炭化板	材の存	在な	ない。 から四壁T も知れない	下に存っ	在して
か	ŧ	ど			いい いかまと				こいる	。煙道	は短く	煙占	出孔に向っ	って急 ₋	上昇す
~~	物 土 状	- 1	のある 64点、	坏形士 底部研	上師器 2 点 5片 9 点カ	ī、坏刑 『出土し	彡土師器 こている	景破片 8 点	瓦、藝	形土師	器の口	緑音	点、器外配 部破片11点 ている。	面体部は	こ墨書 部破片



第8図 SI004竪穴住居跡かまど実測図

S I 004竪穴住居跡かまど土層註記

 1
 10Y R %
 極暗赤褐色土粒混入
 黄褐
 2
 10Y R %
 浮石明黄褐色土粒混入
 黒
 3
 7.5Y R %
 浮石・明黄褐色土粒混入

 色土
 色土
 黒色土

4 10 Y R 発 極暗赤褐色土粒混入 (1)の **5** 7.5 Y R 籽 褐色焼土 熱変化 黄褐色粘土

6 5 Y R ¾ 砂質暗赤褐色燒土

 7
 5 Y R %
 砂質明赤褐色焼土
 8
 5 Y R %
 浮石多量混入
 黒褐色土
 9
 7.5 Y R %
 暗褐色土

 10
 7.5 Y R %
 褐色土
 11
 7.5 Y R %
 浮石多量混入
 黒色土
 12
 5 Y R ¹ · Y
 黒色土

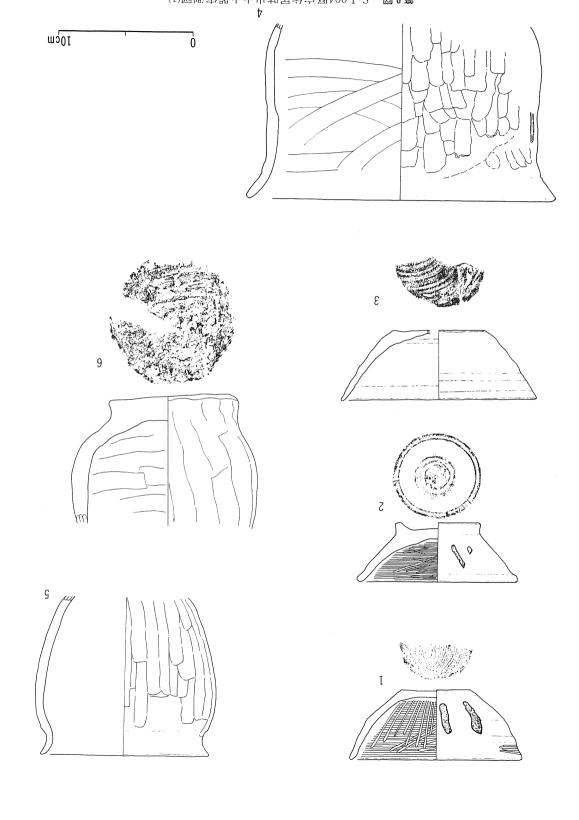
13 5 Y R % 赤褐色燒土

14 7.5YR¾ 暗褐色焼土

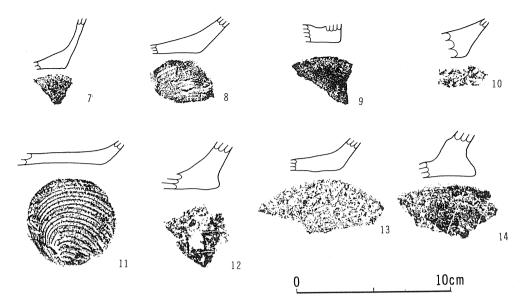
第8表

S I 004 竪穴住居跡出土土器説明表

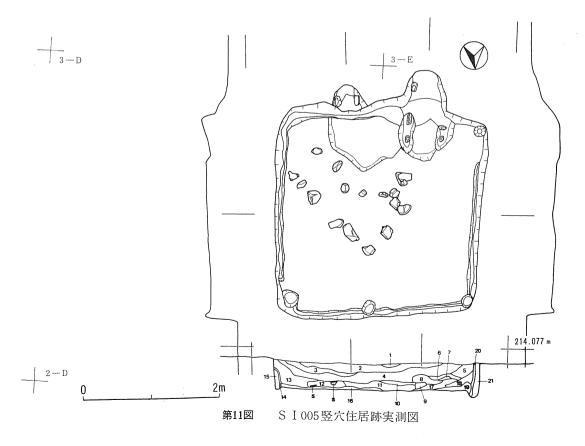
実測図	図 版	4	形態・部位	器面	調整	法	胎土含有物	色調	備考
番号	図 版番号	註記番号	形態・節座	外 面	内 面	底 面	WITE 10 100		
9 — 1	15 1	一括 フク土中	环	ロクロ	ロクロ	回転糸切		10 Y R % にぶい黄橙	墨 書 土師器
9-2	15 2	一括 フク土中	坏	ロクロ	ロクロ	回転糸切		10 Y R ¼ にぶい黄橙	墨 書 土師器
9 — 3	15-3	フク土中	坏	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5YR犲 にぶい橙	土師器
9 — 4	15-4	一括 フク土中	甕・口縁部	ヘラケズリ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R 列 にぶい黄橙	土師器
9 - 5	15 5	一括 フク土中	妻・口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		組砂を含む	10 Y R % 浅黄橙	土師器
9 6	15 6	K R P 支脚 P	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	回転糸切	細砂を含む	7.5 Y R % 橙	土師器
10-7	16-1	一括	妻・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	平滑	粗砂を含む	7.5YR¾ にぶい橙 7.5YR 橙	土師器
10-8	16-2	一括	・圷・底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切		5 Y R % 橙	土師器
10-9	16-3	一括 フク土中	妻・底部	ヘラナデ	ヘラナデ	平滑	細砂を含む	7.5 Y R <u>¼</u> にぶい橙	土師器
10-10	16-4	一括 フク土中	妻・底部	ヘラナデ	ヘラナデ	凹凸あり	粗砂を含む	7.5Y R¾ にぶい橙	土師器
10-11	16-5	一括	坏・底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5 Y R% 橙	土師器
10-12	16 6	一括 フク土中	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	木葉痕	粗砂を含む	10 Y R % にぶい黄橙	土師器
10-13	16 7	一括	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	7.5YR% にぶい褐	土師器
10-14	16-8	一括 フク土中	甕・底部	ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕	粗砂を含む	10Y R¾ 黒 褐	土師器



(I)図順実器土土出褐渇卦六翌400 I S 図 8 第



第10図 S I 004竪穴住居跡出土土器拓影・実測図(2)



S I 005竪穴住居跡土層註記

- 1 10 Y R 1 · 万 強粘性 黑色土
- 4 10YR% 浮石及び黄褐色土粒混入 黑褐色土
- 粘性 黑褐色土
- 13 10 Y R 1 · 好 強粘性 黑色土
- 16 5 Y R % 明赤褐色焼土
- 19 5 Y R % 明赤褐色焼土

- 黑褐色土
- 5 10YR 3 黄褐色土粒混入 黑褐色土 6 10YR 9 浮石層
- 7 10 Y R % 浮石·黄褐色土粒混入 強 8 7.5 Y R % 浮石·黄褐色土粒混入 強 9 10 Y R % 強粘性 黄褐色土
- 10 10Y R % 浮石混入 黒褐色土 11 10Y R % 浮石·黄褐色土粒·炭化物 12 10Y R % 浮石·黄褐色土粒混入 暗 物混入 黑褐色土

粘性 黑色土

- 14
 炭化物(壁板)
 15
 10 Y R %
 浮石混入
 黑褐色土

 17
 10 Y R %
 浮石・黄褐色土粒混入
 暗
 18
 10 Y R 1 · 好
 強結性
 黑色土
 褐色土

 - 20

- 2 10YR% 浮石及び黄褐色土粒混入 3 10YR% 浮石混入 弱粘性 黒色土

 - 褐色土

 - 炭化物(壁板) 21 10 Y R % 浮石混入 黑褐色土

第 9 表

S I 005 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	3 — I	E 、 3 -	- F			実測図	译号	11,	12,	13	図版番号	6	
			南	側	駐	西	側	壁	7	Ľ	側	壁	東	側	壁
法	壁	長			318.5cm			288.0cm			2	195.8cm	1	3	329.5cm
14	腔	高		37.1-	-38.8cm		37.4	∼44.8cm		35	.0~	40.2cm	1 3	7.2~	46.5cm
量	壁津	鲱		1	6∼19cm		8	.5∼16cm			5.5	~12cm	1	8~	12.5cm
25.	壁潭	非深		9.4	∼9.6cm		5.9	∼10.9cm		(0.7-	~7.7cm	1	0.4-	~6.3cm
形		態	方	形		面	積		9	.92 m²	主	軸方位	S -3	°30′—	E
	ラン硝 の 状		プラン	ィを確言 ブランク	忍した。								量に含む		
	こと床 状		焼失し	 _ た住 いる。	居跡である	。床面	面上に	ま炭化材 と	: 焼土	こが厚	く堆	積し、	赤変したE	自然石	が散乱
柱		穴	北側雪本来のられる	り柱穴曹	削下方に3 記置は床面	3カ所、 面中央に	西南(こはな	則隅1カ戸く、各壁隙	斤の 4 掲部と	カ所:	 穿た 中央	れてい部下方	る。この暦に存在する	己置状	況からと考え
か・	ま	ど	南側壁いずれ	登に 2其 ℓも所訂	閉(改築) 胃関東型 <i>○</i>	の 2 割かまる	きが構築 ど形態	築されてお を呈する。	3り、	南東	則が	古く、	南西側が兼	斤しい	0
	物 上 状		胴部研 ら坏形	支片46点 彡土師器	A、底部研 Bの口縁音	发片15点 ß破片 2	点が出こ 2 点、作	上している	。床 ! 点、	面かり 甕形:	らは 上師	坏形土	器の口縁音 師器1点、 縁部破片1	カキ	ど中か

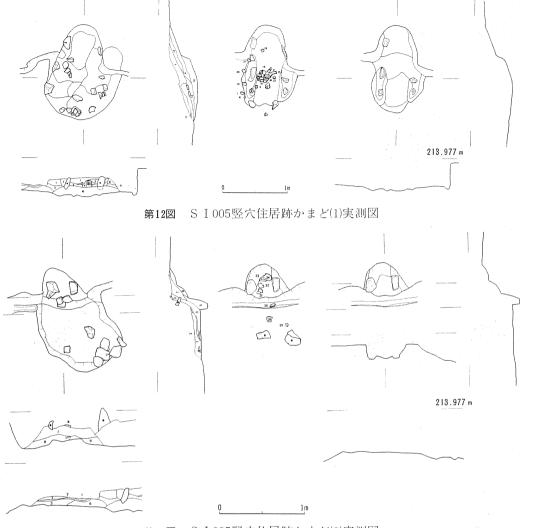
SI005竪穴住居跡かまど(1)土層註記

- 1 7.5 Y R 另 炭化物少量混入 黑色土 2 10 Y R 多 黄褐色土粒混入 黑褐色雄 3 10 Y R 乡 炭化物混入 強粘性 褐色
 - ±:
- 焼土

- 7 7.5Y R % 強粘性 褐色粘土(熱変化) 8 7.5Y R % 砂質 明褐色焼土
- 10 10 Y R % 黄褐色土粒混入 強粘性 11 5 Y R % 明赤褐色焼土 黒褐色土

- 4 7.5 Y R % 強粘性,褐色焼土 5 7.5 Y R % 浮石混入 黑色焼土 6 10 Y R % 炭化物混入 褐色焼土
 - 9 7.5 Y R ¾ 浮石混入 黑色焼土
 - 12 10 Y R % 砂質粘土質混入 褐色土

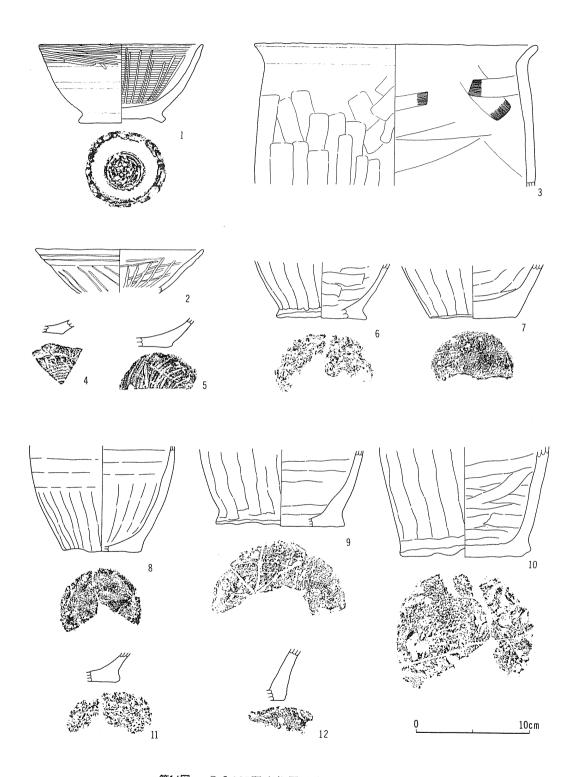
13 炭化物



第13図 S I 005竪穴住居跡かまど(2)実測図

S I 005竪穴住居跡かまど(2)土層註記

- 1 7.5 Y R % 浮石黄褐色土粒、炭化物混入 2 炭化物 黑褐色土
- 4 7.5YR% 明褐色土 (焼土)
- 5 7.5YR% 黄褐色土粒混入 褐色土
- 7 7.5YR¾ 黄褐色土粒·炭化物混入焼土 8 10YR% 黄褐色土粒混入焼土
- 3 7.5Y R% 黄褐色土粒、炭化物混入黑褐色土
- 6 7.5 Y R 另 黄褐色土粒 焼土粒浮石混 入 黑色土
- 9 10YR% 黄褐色土粒焼土



第14図 S I 005竪穴住居跡出土土器実測図

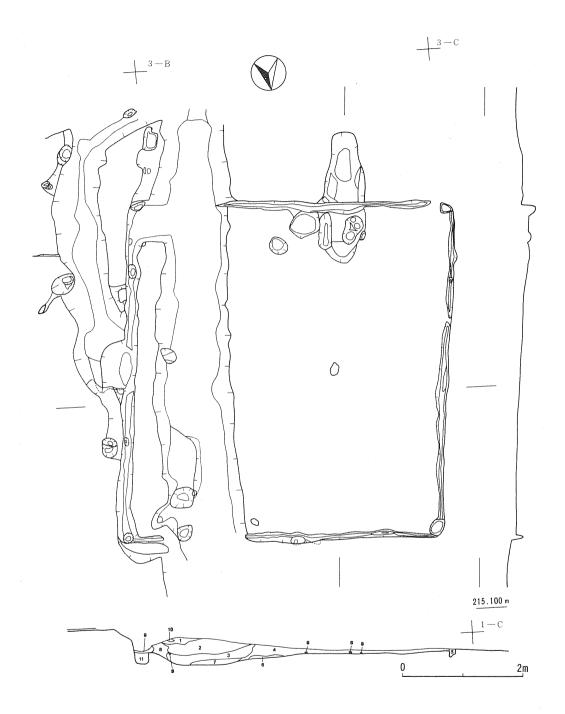
第10表

実測図	図版	3+ 31 A P	TIANS AND IN	器	面	調	整	法		胎土含有物	色	調	備考
番号	図版	註記番号	形態・部位	外	īfii	内	面	底	面	加工百円初		thed	
14-1	16 9	床 面	坏	ロクロ		黒色	匹理	回転名	长切		10 Y R ¾ にぶい黄橙		高台付 土師器
14-2	16-10	K 17 + 23	坏	ロクロ		黑色	心理	回転弁	长切		10 Y R ¾ にぶい黄橙		土師器
14-3	16-11	K R P 27	妻・口縁部	ユビナ	デ	ユビ	ナデ			細砂を含む	7.5Y R ½	灰白	土師器
14 4	16-12	R P 一括 カマド付近	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ・	ナデ	回転差	长切		5 Y R 5⁄6	明赤褐	土師器
14 5	16-13	RP一括 フク土中	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ-	ナデ	回転差	长切		10 Y R ¾ にぶい黄橙		土師器
14-6	16-14	RP一括 フク土中	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ・	ナデ	不明確	Ť.	細砂を含む	5 Y R ¾ にぶい赤褐		土師器
14 7	16-15	K R P 33	渡・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ-	ナデ	不明确	Æ	細砂を含む		黒 褐	土師器
14 8	1616	RP一括 フク土中	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ-	ナデ	砂粒作	 才着	粗砂を含む	5 Y R ¾ にぶい赤褐		土師器
14 9	1617	K R P 34	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラー	ナデ	木葉症	Ę	粗砂を含む	5 Y R ¾ にぶい赤褐		土師器
14-10	16—18	RP一括 フク土中	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラー	ナデ	木葉症	f.	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい褐		土師器
14-11	16-19	RP一括	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ-	ナデ	不明確	Ý.	細砂を含む	5 Y R ¾ にぶい橙		土師器
14-12	16-20	RP一括	甕・底部	ヘラケ	ズリ	ヘラー	ナデ	不明確	É	細砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙		土師器

第11表

S I 006 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	2 — (C 、 3	— С					実測図都	昏号	15, 1	.6]	図版番号	- 7	,	
			南	側		腔	西	俱	II)	壁	4	t 1	則	壁	東	俱	IJ	壁
法	壁	長			562	.5cm			5	576.5cm			55	0.5cm			58	87.5cm
法	壁	高		8.4	~23	.8cm		0	.7-	~6.9cm		1.	7~1	1.8cm		25.2	2~5	0.0cm
量	壁津	毒幅		5.5	~13	.Ocm			5	5∼18cm		7.	5~1	2.5cm		14.5	5~1	9.5cm
里	壁津	毒深		10.3	~16	.3cm		3.9	9~	19.2cm		12.	3~1	7.1cm		8.3	3~1	1.0cm
形		態	方	形			面	積			33	.86m²	主軸	由方位	S-	1°-	-W	
	ラン商 の 状		4 層(色浮石 壊され	「質火	山灰	·暗褐 粒混「	色土)	上面で色土の	で、 う方	かまど料 形プラン	占土、	焼土草 寉認され	範囲が に、『	が当初で 東側を注	確認され 構(SD(、 そ 001)	: の行 に。	後、白 より破
	上と房 状	下面 態	覆土のなる。)上半 床面	は、は、	白色洋赤化し	浮石質 こてい	火山灰る 黄福	下粒 易色	に混りであ 人人山灰層	うるた すでま	が、床頂	面近 〈 炭化牛	(は焼き	土、灰、、焼土が	炭化 付着	公物? して	昆りと
柱	-	穴	検出さ	いれて かの規	いる 模は			•		ど左袖近が、柱を								
か	ま	ど	南側星用して	きの中	央部	からさまどの	やや西 り形態	寄りに は所謂	こ構	賃築されて 【北型を≦	ている 呈する	る。両 る。	油部(こ甕形	土師器を	芯杉	すと	して利
	物 土 状		胴器 2 点 田器 2 点	支片27 氢、坏片 B破片	点、) 形土I 13点	底部码 師器の 、胴部	皮片 3 7口縁 R破片	点、カ 部破片 105点	まら底	- 3 点、体 ど付近原 点、体音 語破片 8 花片90点、	を配える お破り お点、	から 亡 ら 点 、 か ま	形須原 ・ 選州 ど中な	恵器胴形 形土師 いら、	部破片1 器1点、 繩文土器	点、甕雅	坏别 多土自	形土師師器の



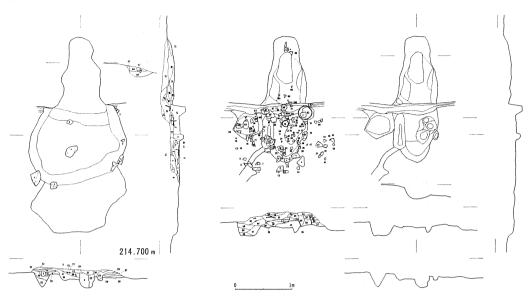
第15図 SI006竪穴住居跡実測図

S I 006竪穴住居跡土層註記

- 1 10Y R% 浮石混入 黑褐色土
- **4** 7.5 Y R 9 炭化物多量 黑褐色土粒· **5** 7.5 Y R 9 浮石混入 弱粘性 黑色土 黄褐色土少量混入 弱粘性 黑色土
- 2 7.5 Y R ¾ 弱粘性 暗黄褐色土
- 3 7.5YR% 砂粒多量混入 弱粘性 に ぶい黄褐色土
- 6 7.5Y R % 炭化物少量混入 弱粘性 褐色土

- +
- 10 10YR% 浮石層
- 11 10 Y R ½ シルト質弱粘性 黒褐色土

7 10 Y R % 浮石混入 弱粘性 黑褐色 8 7.5 Y R % 炭化物混入 黑色土 9 10 Y R % 黄褐色土粒少量混入 中粘 性 黒褐色土



第16図 SI006竪穴住居跡かまど実測図

S I 006竪穴住居跡かまど土層註記

- 1 10YR% 赤褐色土・浮石多量混入 砂質 黒褐色土
- 褐色十
- 7 7.5YR% 燒土少量混入 黑褐色土
- 10 2.5 Y R % 粘土少量混入 明赤褐色土 11 2.5 Y R % 明赤褐色土
- 13 7.5YR% 明黄褐色土混入 砂質 黑 褐色土
- 16 2.5YR% 粘質 赤褐色土
- 19 7.5YRN 砂質 黒褐色土
- 22 7.5YR¾ 焼土少量混入 黑色土
- 25 5 Y R % 小礫少量混入 粘質 赤褐 色土
- 28 2.5Y R % 黄褐色土少量混入 砂質 黒褐色土
- 31 7.5 Y R % 浮石混入 砂質 褐色土
- 34 10 Y R 3/2 焼土粒 浮石多量混入 砂 質、黒褐色土
- **37** 10 Y R ¾ 砂質 黄橙色土
- 40 7.5YR劣 浮石少量混入 砂質 黑色
- 43 10 Y R % 黄褐色土粒少量混入 砂質 黒褐色土
- 46 5 Y R % 明褐色土粒混入 砂質 赤 褐色土
- 49 5 Y R % 暗褐色土粒少量混入 粘質 赤褐色土

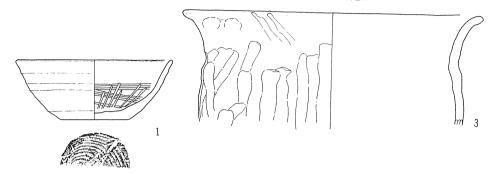
- 2 5 Y R % 浮石微量混入 粘質 赤褐
- **4** 10 Y R % 黒褐色土混入 砂質 明黄 **5** 7.5 Y R % 黄橙色土混入 粘土
 - 8 5 Y R % 赤褐色粘土

色.十

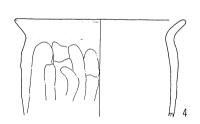
- 14 5 Y R 1 · 1 · 3 · 強粘性 黑色土
- 17 5 Y R % 砂質 橙色土
- 20 5 Y R 1/4 浮石少量混入 弱粘性 赤 褐色土
- 23 5 Y R % 黑褐色土混入 砂質 赤褐 色土
- 26 10 Y R % 砂質 黑褐色土
- 29 10YR% 砂質 黒褐色土
- 32 10 Y R % 焼土粒 浮石多量混入 砂 質 黒褐色土
- 35 10YR¼ 砂質 黄橙色土
- 38 7.5YR% 砂質 褐色土
- 41 5 Y R % 浮石混入 砂質 赤褐色土
- 44 10YR% 砂質 黑色土
- 47 7.5YR% 暗赤褐色土粒混入 砂質 赤褐色土
- 50 5 Y R % 黑褐色土粒混入 砂質 暗 赤褐色土

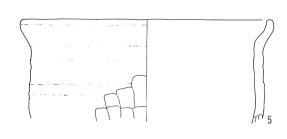
- 3 10 Y R 3/ 浮石少量混入 砂質 黑色
 - 6 7.5YR% 粘質 褐色土
 - 9 5 Y R ¾ 粘質 暗赤褐色土
 - 12 5 Y R % 粘土粒少量混入 粘質 暗 赤褐色土
 - 15 7.5YR% 燒土混入 砂質 黑色土
 - 18 浮 石
 - 伤十
 - 24 5 Y R % 焼土混入 粘質 赤褐色土
 - 27 10Y R 3/ 焼土及び黄橙色土少量混入 砂質 黑褐色土
 - 30 10YR% 粘土少量混入 砂質 黑褐 色土
 - 33 5 Y R % 粘質 赤褐色土
 - 36 7.5YR% 砂質 褐色土
 - 39 7.5 Y R 1/4 粘性 褐色土
- 42 7.5YR% 砂質 黑褐色土
- 45 5 Y R % 明褐色土粒混入 粘質 赤 褐色土
- 48 7.5YR¾ 焼土少量混入 砂質 黒褐 色土
- 51 7.5YR¾ 砂質 暗褐色土

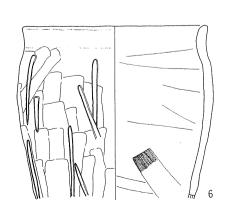
- 52 7.5YR% 砂質 黒褐色土
- 55 10 Y R % 明褐色土少量混入 砂質 黑褐色土
- 58 10 Y R % 明褐色土粒混入 砂質 黑 褐色土
- 53 5 Y R% 黑褐色土粒混入 粘質 赤 褐色土
- 56 10YR% 砂粒多量混入 砂質 黑褐 色土
- 59 10YR% 明褐色土粒混入 砂質 黒 褐色土
- 54 7.5YR% 燒土少量混入 砂質 黑褐 色土
- 57 10 Y R ¾ 赤褐色土少量混入 砂質 暗褐色土
- 60 7.5 Y R ¾ 黑褐色土粒混入 砂質 暗 褐色土

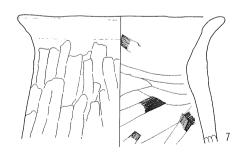




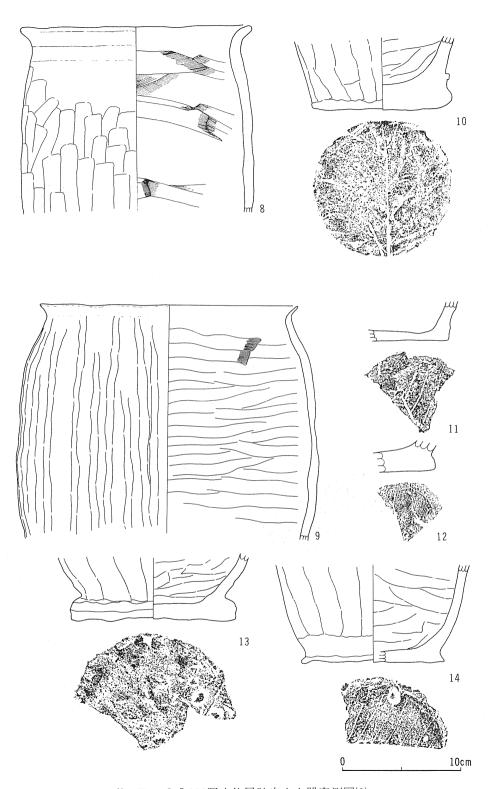




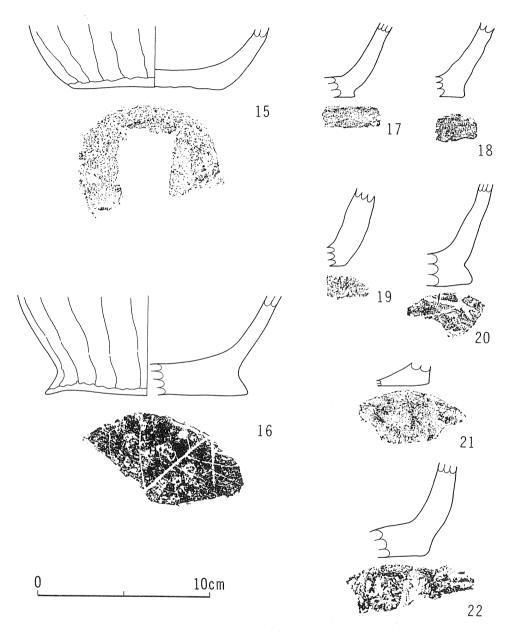




10cm S I 006竪穴住居跡出土土器実測図(1)



第18図 S I 006竪穴住居跡出土土器実測図(2)



第19図 S I 006竪穴住居跡出土土器拓影実測図(3)

第12表

S I 006 竪穴住居跡出土土器説明表

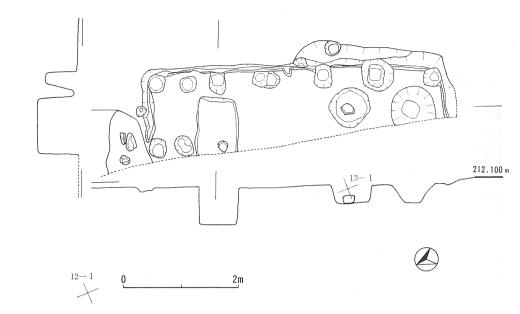
実測図番 号	図番	版号	註	記	番	무	形部	態位	若	1 1	ī 調	整	法		胎土含有物	色	調	備る	
番号	番	号	bT.	рĻ	ш	<i>-</i>	部	位.	外	面	内	面	底	面	加工占有物	8	训巾	1/用 ^	j
17-1	17-	- 1	カマ	ド			坏		ロクロ		黒色	処理	回転	糸切		7.5Y R 74 にぶい橙		土師器	뭄
17—2	17-	- 2	カマ	ド付	近		坏		ロクロ		ロク	D				7.5YR <u>%</u> にぶい橙		土師器	뭄

								C 53/ D 8/	
17-3	17—3	R Pー括 カマド付近	雞 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		粗砂を含む	7.5YR% 灰 白	土師器
17 4	17—4	RP一括 フクド中	妻 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R ¾ 浅黄橙	土師器
17 5	17— 5	K R P 16	甕 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		粗砂を含む	7.5 Y R ¾ 浅黄橙	土師器
17—6	17—6	KRP1	藝 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R 万 にぶい黄橙	土師器
17-7	17—7	K R P 80	藝 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		細砂を含む	5 Y R% 橙	土師器
18 8	17-8	K R P82	妻 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	or management of the state of t	細砂を含む	7.5Y R % 浅黄橙	土師器
18-9	17 9	K R P 82	妻 口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ		粗砂を含む	7.5YR% 褐	土師器
18-10	18-10	K R P 79	甕 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂+木葉	粗砂を含む	10 Y R 74 にぶい黄橙	土師器
18-11	18-11	K R P 45	変 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	木葉痕	粗砂を含む	10 Y R % 浅黄橙	土師器
18-12	18-12	K R P53	甕 底 部	ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙	土師器
18-13	18-13	K R P 18	甕 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	10 Y R ¾ にぶい黄橙	土師器
18-14	1814	K R P88	甕 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	木葉痕	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙	土師器
19-15	18-15	KRP42, 41, 44	甕 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	2.5Y R 5⁄ 黄 灰	土師器
19-16	18-16	カマド付近 KRP22、17、一括	甕 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂+木葉	粗砂を含む	7.5 Y R % 橙	土師器
19—17	18—17	KRP一括	甕底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	平 滑	粗砂を含む	7.5 Y R ¾ にぶい橙	土師器
19-18	18—18	KRP一括	甕 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	平滑	細砂を含む	7.5 Y R % 橙	土師器
19-19	18-19	KRP カマド付近一括	甕 底 部	ヘラケズリ	ヘラナデ	平 滑	粗砂を含む	10 Y R ½ 灰黄褐	土師器
19-20	18-20	RP一括 フクド中	甕 郎	ヘラケズリ	ヘラナデ	平 滑	細砂を含む	5 Y R ¾ にぶい橙	土師器
19-21	18-21	K R P 52	甕 部	ヘラナデ	ヘラナデ	剝離	粗砂を含む	10 Y R 76 明黄橙	土師器
19-22	18-22	K R P 86	甕 底 部	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	粗砂を含む	7.5YR¾ にぶい褐	土師器

第13表

S I 007 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	13— I	、14-	- I			9	美測図 都	子号	20		図版番号	8	
			南	側	壁	西	側		壁	#	上作	₩ 壁	東	側	壁
·4-	壁	長			122.5cm			な	L			(169.5)c	m.		552.5cm
法	壁	高		(17.7)cm			な	L		(0.	1~3.2)c	m	0.2~	-13.7cm
	壁泊	毒幅		(12.5	~15)cm			な	L		(12.5	~15.5)c	m	7.5-	-22.0cm
量	壁》	毒深			(2.5)cm			な	L			(4.5)c	m	7.3	~8.5cm
形		態	方	形		面	積		(8.16	m²) –	一部分	主軸方位	立	明	
	ラン 科 の お				こめ上部を 早線に一部						されてい	っる。			
	上とが		小砂利 粘土質	混り <i>の</i> 土が多)暗茶褐色 らい。床面	色土が原面は非常	未面を 常によ	覆 く	っている 踏み固め	るが、 りられ	プラン している	/確認面で らが、ピー	では、水田 ットが多い 	耕作。	の影響か
柱		穴	東側壁	内側了	「方にほり	ぎ等間!	こ並び	, =	北側にも	壁図	内側下ブ	方に検出:	されている	0	
か	ま	ど	検出さ	れてい	ない。										
遺出	物 土 ホ		遺物の	出土な	rl.										ggana and an annual and a state of the state

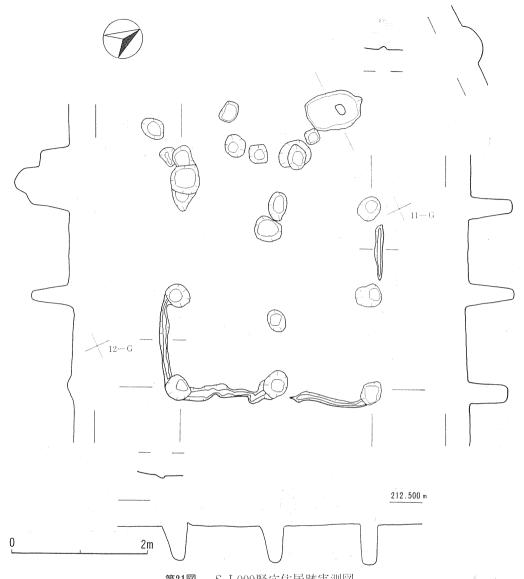


第20図 S I 007竪穴住居跡実測図

第14表

S I 009 竪穴住居跡計測説明表

検	出地区	12-G, 12-	- H			実測図	番号	21		図版番号	3、	8
		南側	壁	西	側	壁	-	比但	11 壁	東	側	壁
	壁長	(35	20.5)cm		(3	324.5)cm			(318)c	m		341.5cm
	壁高	(0.9~	-1.3)cm		7	i l		(0.	2∼1.5)c	m	(0.3-	-2.4)cm
	壁溝幅	(6.5~	13.5)cm		7	な し		(5.5	~10.5)c	m	7.5	~18.5cm
量	壁溝深	(1.7~	-3.3)cm		7	なし		(1.	5~3.4)c	m	1.5-	-14.3cm
形	態	方 形		面	積		(11.	65) m²	主軸方位	立	明	
	ラン確認の状態	耕地整理の際 在を確認した		削土され	ー れ、壁ī	面は除去	される	わずかり	に柱穴とり	き 溝の配置	からi	遺構の存
	上と床面 状 態	ほぼ、床面直上まで剝平されている。床面は平坦である。										
柱	穴	遺構の周囲	(隅部とに	中央部)と床ī	面の中央	部にこ	東西方向	句に穿たね	れている。		
カ	まど	検出されず。 るはずで、た ことからかま	ことえ床面	面が剝	削平	された場	:合で:	もそのタ	及び燃焼語 良跡を認め	部の下面は めることが	熱変1 でき	化してい る。この
遺出	物 の土状況	甕形土師器 //	同部破片	1 点が	床面か	ら出土。						

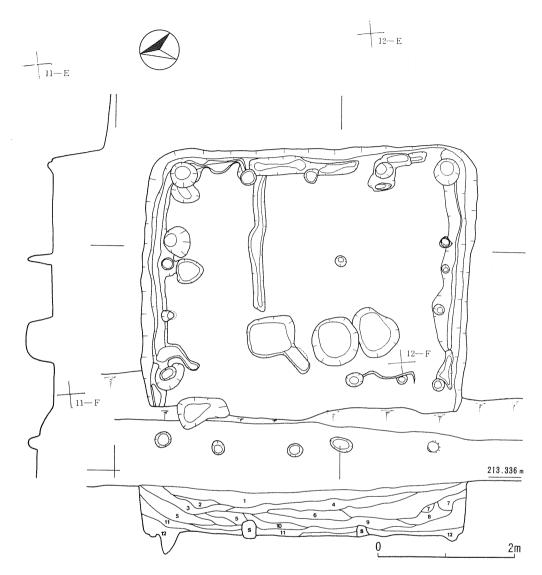


第21図 S I 009竪穴住居跡実測図

- 1 10 Y R % 浮石粒少量混入 黑褐色土
- 4 10YR¾ 黄色ロームブロック混入 黑褐色土
- 7 10 Y R % 黄色ロームブロック混入 黑褐色土
- 10 10 Y R % 黄色ローム粒混入 黒褐色 **±**:

S 1011竪穴住居跡土層註記

- 2 10YR% 黄色ロームブロック混入 暗褐色土
- 5 2.5 Y R% 黄色ロームブロック混入 明黄褐色土
- 8 10 Y R ½ 黄色ロームブロック混入 灰黄褐色土
- 11 2.5 Y % 黄色ロームブロック混入 黄 褐色土
- 3 10YR% 炭化物・黄色ロームブロック 混入 暗褐色土
- 6 10YRN 浮石微量混入 黑褐色土
- 9 10YR% 黄色ローム粒混入 黒色土
- 12 2.5Y% 黄色ローム粒混入 黄褐色土



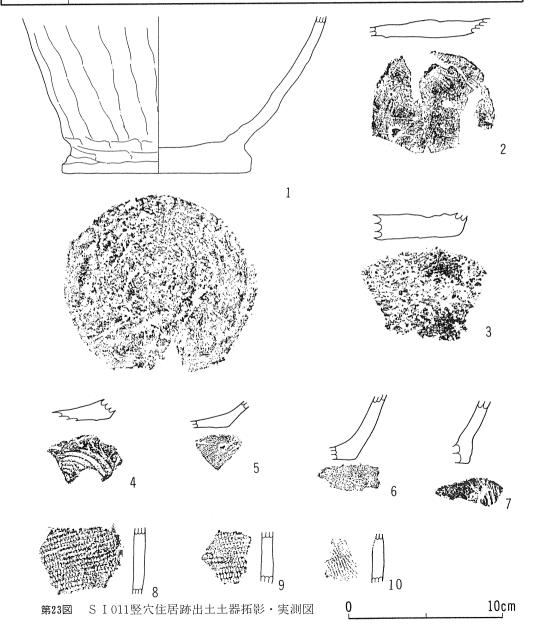
第22図 S I 011竪穴住居跡実測図

第15表

S I 011 竪穴住居跡計測説明表

												-				
検	出地	区	12— F	· 12-	- G 、1.3-	-F.	13— (3	実測図都	番号	22			図版番号	- 9	Call Collection in the Commission of the Call
			南	側	壁	西	俱	[I]	壁	#	Ľ	側	壁	東	側	壁
法	壁	長		(40	07.5)cm			な	· L			(3	89.5)cm	n		479.5cm
14	壁	高	((62.9~′	78.9)cm			な	L		(51	.4~	65.3)cm	n	70.6-	~75.4cm
量	壁洞	毒幅	(:	26.0~4	42.5)cm			な	L		(17	.5~	22.5)cn	n	7.5-	~26.5cm
里	壁洞			(3.8~	·7.0)cm			な	L			3.4	~7.2cm	n	4.4	l∼8.7cm
形		態	方	形		面	積			(19.	65) n	l² È	:軸方位	S -	1°-V	V
	ラン の 状		層上面	1で確認	1浮石質り 1できた。 ・掘り込ん	西側	壁は耕	浮ィ ‡地	5)を剝く 整理時に	だと消 に剝・	子石 料 ・削 土	立を混	見入する L確認て	黒褐色土	のプラ	ランが 4 S I 012

	上と床面 状 態	覆土の上半に白色の浮石粒を多量に粗に混入するが、下半には黄褐色火山灰の団塊を混入する。床面は、若干軟かい。南東隅部を基点に拡張したらしく、壁溝痕が床面に認められる。
柱	穴	拡張前・後とも、壁内側下方の壁溝に隣接するようにほぼ等間に穿たれている。剝・削平された西側壁方面でも柱穴が等間に並んでいる。
か	まど	構築されていない。床面中央部から西南寄りの2つの円形ピットに焼土、灰、炭化物が 充満していたことから、地床炉の可能性もある。
	物 カ 土 状 況	



第16表

S I 011 竪穴住居跡出土土器説明表

実測図	図版号	註記番号	形態・部位	器直	調整	法	- 胎土含有物	色調	備考
番号	番号	INT. IIC III. O	NAMES . HIGH	外 面	内 面	底 面	加上召有初	10000000000000000000000000000000000000	1佣 专
23-1	19 1	R P ー括 カマド付近	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	凹凸あり	粗砂を含む	5 Y R % 橙 10 Y R 籽 褐灰	土師器
23-2	19 2	R P 一括 フク土中	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	不明確	粗砂を含む	5 Y R % 橙	土師器
23-3	19-3	R P一括 フク土中	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	凹凸あり	細砂を含む	10 Y R ½ 灰黄褐	土師器
23-4	19-4	RP一括 フク土中	坏・底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5 Y R ¾ にぶい橙	土師器
23 5	19-5	R P 一括 フク土中	坏・底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5 Y R ¾ にぶい橙	土師器
23 = 6	19 6	RP一括 フク土中	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	不明確	細砂を含む	7.5Y R % 灰褐	土師器
23-7	19 7	R P 一括 フク土中	甕・底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	不明確	細砂を含む	2.5Y R% 明赤褐	土師器
23 8	19— 8	R P一括 フク土中	縄文・胴部	LR	ヘラナデ			5 Y R % 明赤褐	
23 9	19 9	R P一括 フク土中	縄文・胴部	RL	ヘラナデ			7.5YR <u>¾</u> にぶい褐	
23-10	19-10	R P 一括 フク土中	繩文・胴部	RL :	ヘラナデ			10Y R ¼ にぶい黄橙	

第17表

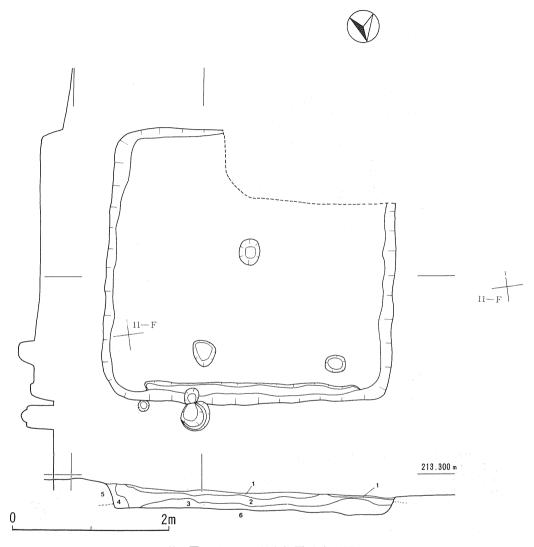
S I 012 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	11—E,	. 11—	F 、12-	-E,	12— F	実測図	番号	24			図版番号	9	
			南	側	壁	西	側	壁	4	L 1	ij	壁	東	側	壁
法	壁	長		3	65.5cm		(3	370.5)cm			(347.	5)cm		3	371.0cm
14	壁	高	3	5.5~	46.1cm	((25.5~	42.0)cm		(23.4	~27	6)cm	2	26.9~	36.5cm
噩	壁津	弉幅		な	L		7	なし			な	L	1	3.5~	21.5cm
里	壁津			な	L		7	な し			な	L		0.7	-6.4cm
形		態	方	形		面	積		(13.	63) m²	主軸	方位	S -3	30'—	- W
	ラン 稍 の 状		S I 011 S I 011	の確の北	認状況 と 東隅部型	:同じ。 達面にフ	, 3層の かまど料	の黄褐色活土、焼き	孚石質 上が著	質火山原 告干付え	だは再	-堆積	したもの。	である	o
1	上と床 状	意	白色の治	孚石質	火灰粒が	が粗に多	多量に治	昆入する鳥	具褐色	色土が反	ド面 を	覆っ	ていた。		
柱		穴	床面に	3カ所	穿たれて	こいるだ	が規則性	生がなく、	上音	『構造 を	こうか	がう	ことができ	きない	0
か	ま	ど	南側壁のにその掘	り中央計	部からや 認めるこ	や西部とかで	寄りに作 できるた	け設されて ごけである	ていた	こがS I	011	構築	の際破壊。	≥1.	わずか
遺出	物土状		の出土な	ド多い。	. 繩文士	:器胴音	邪破片 3	にを上部か 5 点、墨書 8 破片14点	きのま	る坏肝	:十師	器 2	するとⅡ、 点、坏形: る。	III層 上師器	中から 1点、

S I 012竪穴住居跡土層註記

- 黑色土
- 色土粒少量混入 黑色土
- 1 10Y R 另 浮石·暗褐色土粒少量混入 2 10Y R 另 浮石部分的多量混入 暗褐 3 10Y R 另 浮石·暗褐色土粒少量混入 黒褐色土
- 4 10 Y R¹· 另 暗褐色土粒、黄褐色少量 5 10 Y R 为 強粘性暗褐色土 混入黑色土
- 6 10YR% 黄褐色土





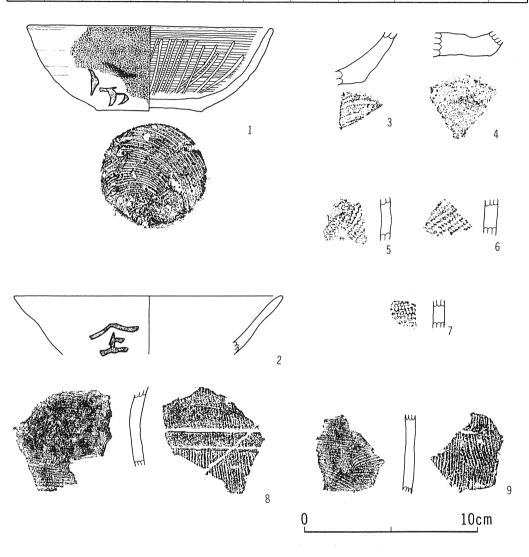
第24図 S I 012竪穴住居跡実測図

第18表

S I 012 竪穴住居跡出土土器説明表

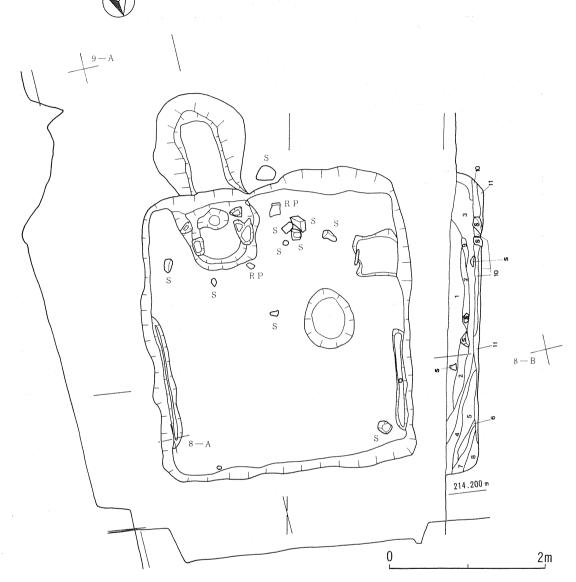
実測図	図版	计司车户	파스성타 호인스	器	直	調	整	法		胎土含有物	色	調	備	考
実測図 番 号	図版番号	註記番号	形態・部位	外	面	内	面	底	面	后工召有物	Е	即		
25-1	20-6	II~III層	坏	ロクロ	1	黒色	処理	回転	糸切		10 Y R ½	灰黄褐	土師	
25-2	20-7	II~III層	坏	ロクロ	'	ロク	Ö	回転	糸切		10 Y R ¾ にぶい黄権	i i	墨 土前	書
25-3	20-8	II~III層	坏、底部	ロクロ	•	ロク		回転	糸切		5 Y R 1/6 6	橙	土卸	5器
25-4	20 9	II層	甕、底部	ヘラケ	・ズリ	ヘラ・	ナデ	砂粒	付着	粗砂を含む	7.5 Y R 1/6 7.5 Y R 2/1	橙 黒	土朗	F器
25 5	20-10	II~III層	繩文、胴部	LR		ミガ	+				10 Y R ½ にぶい黄椎	i		

25 6	20-11	II~III層	繩文、胴部	LR	ミガキ		7.5Y R % 橙	
25-7	20-12	III層	繩文、胴部	LR	ミガキ		5 Y R % 明赤褐	
25—8	20-13	II~III層	甕、胴部	刷毛目	ヘラナデ		7.5YR¼ にぶい橙	土師器
25-9	20-14	II~III層	甕、胴部	刷毛目	ヘラナデ		7.5YR% 灰褐	土師器



第25図 S I 012竪穴住居跡出土土器拓影・実測図





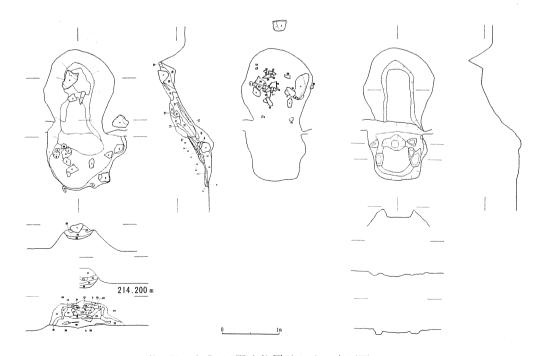
第26図 S I 013竪穴住居跡実測図

S I 013竪穴住居跡土層註記

- 1 10 Y R % 浮石混入 弱粘性 黒褐色 土
- 4 2.5YR% 浮石微量混入 黑色土
- 7 10YR% 強粘性 黑褐色土
- 10 5 Y R % 暗褐色土混入 弱粘性 明 褐色土
- 2 10 Y R 列 浮石混入 弱粘性 黑色土
- 5 7.5YR¾ 浮石混入 黑色土
 - 8 10 Y R ¹ · 好 浮石が混入 強粘性 黒色土
- 11 10 Y R 2 浮石・明黄褐色土粒混入や や強粘性 黒褐色土
- 3 7.5YR¾ 浮石微量混入 黑色土
- 6 10 Y R 外 浮石微量混入 弱粘性 黒 褐色土
- 9 7.5Y R% 黑褐色土

第19表

検	出地区	<u>z</u>	8 — A	、8-	-В,	9 –	- A 、	9 — E	3	実測図都	6号	26, 2	27		図版番号	1 10)	
			南	側	E	産	九	i 俱	 []]	壁	7	 L 1	則	壁	東	側		壁
法	壁	長			354.	5cm			3	78.5cm			32	7.5cm	1		374	.5cm
広	壁	高		37.6~	~54.	5cm		21.	9~.	45.3cm		41.	.6~5	2.9cm	1	42.2	~53	.4cm
量	壁溝	幅	(1	2.5~	16.5)cm			な	L			な	L		(8.5	~13.	5)cm
里	壁溝	滐		t	ĵ.	L		(1.5	~10).1)cm			な	L		(0.2	-9.	0)cm
形		態	方	形			面	積			14	.02m²	主軸	由方位	: S-	-2°30	-W	
	ラン確 の 状		部分に深く行	あたっわれて	ってい こしき	いたか まった	、採 2。4	取穴で 層上面	で焚	火されて ようやく	こいた	ため、 存在	そのこ気で	り存在 ブいた	取穴が、 Eに気づた :が、 8 - 認できる	· ず、 - A 杭	粗掘	りが柱状
	こと床 状	面態		、灰、	炭イ	匕物、	焼土	が多量							が、「焼り 床面は車			
柱		穴	北西側	床面に	17	た検出	され	ている										
か	ま	ど	まどが	付設さ	きれて	ている	。住	居自体	くが	然石、蟚 深く掘り 形状)に	っれた	こためフ	か、 🗄	平面形	!構材とし 態が所計	て使 関東北	用し型か	たかまど
	物 土 状		点、坏してい	形土師る。カ	币器 1 いまと	し点、 ごから	甕形は、	土師器 坏形土	学の	口縁部砂	支片14 甕用	4点、月 5土師	同部研 器 5 点	皮片75 点、鍋	書のある点、底音形土師器	8破片	4 点	出土



第27図 SI013竪穴住居跡かまど実測図

S I 013竪穴住居跡かまど土層註記

- 1 7.5YR% 浮石混入 黑褐色土
- 4 7.5 Y R ¾ 赤褐色土混入 暗褐色土
- 7 5 Y R % 黄褐色土粒子 明赤褐 色土粒混入 強粘性 黑褐色土
- 10 7.5 Y R 9 浮石混入 黑褐色土
- 13 5 Y R 3 粗粒暗赤褐色土
- 19 10 Y R % 黑褐色土塊混入 黄褐色土
- 25 7.5YR% 黄橙色土微量混入 粘質 明褐色土
- 28 7.5 Y R ½ 黒褐色土混入 粘質 褐色 29 10 Y R % 浮石混入 黄褐色土
- 31 10YR% 明褐色土粒混入 黑褐色土 32 10YR% 浮石混入 砂質 暗褐色土 33 細粒浮石層

- 2 炭化物
- 5 10YR% 黑褐色土少量混入 明黄褐 色土
- 8 5 Y R % 炭化物微量混入 黑褐色土
- 11 7.5Y R N 粗粒浮石・黄褐色土粒微量 混入 砂質 黑褐色土
- 14 5 Y R % 暗褐色土塊混入 赤褐色土 15 5 Y R % 暗赤褐色土

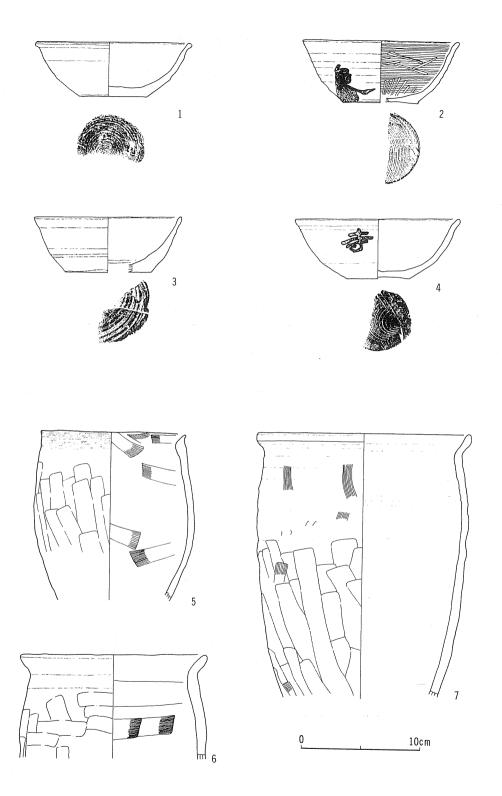
 - 20 7.5YR% 浮石·明黄褐色土塊混入暗 褐色土
- 22 10 Y R % 黄褐色土混入 砂質 黑褐 23 5 Y R % 黑褐色土混入 砂質 赤褐 色土
 - 26 2.5Y R% 明赤褐色土

- 3 5 Y R % 明赤褐色土
- 6 5 Y R % 明赤褐色土塊混入 赤褐色 ±
 - 9 5 Y R % 極暗赤褐色土混入 強粘性 赤褐色土
- 12 10 Y R 94 暗褐色土混入 強粘性、に ぶい黄橙色土
- 16 10 Y R % 黄褐色土混入 砂質 黑褐 17 7.5 Y R % 粗粒浮石混入 黑褐色土 18 5 Y R % 暗赤褐色土塊混入 赤褐色 ±
 - 21 5 Y R % 砂質 赤褐色土
 - 24 7.5 Y R 3/4 黄褐色土混入 粘質 黒褐 色土.
 - 27 10 Y R % 浮石混入 にぶい黄橙色土
 - 30 7.5YR% 浮石混入 褐色土

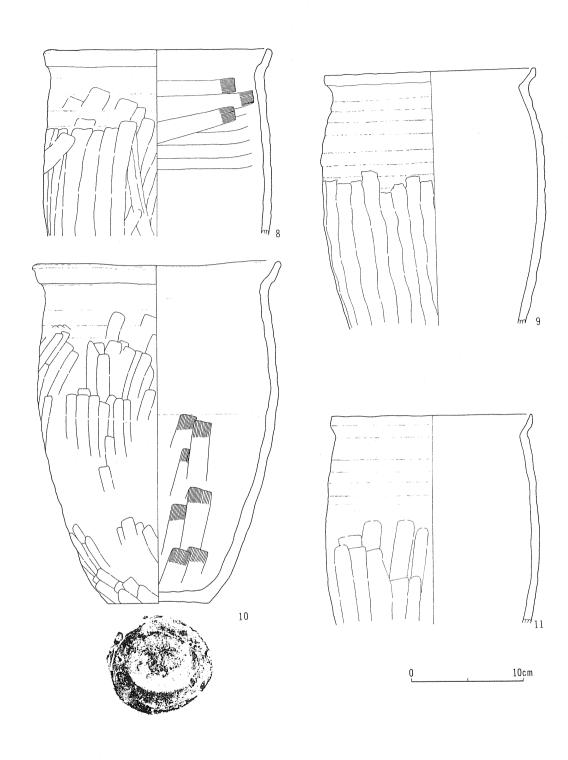
第20表

S I 013 竪穴住居跡出土土器説明表

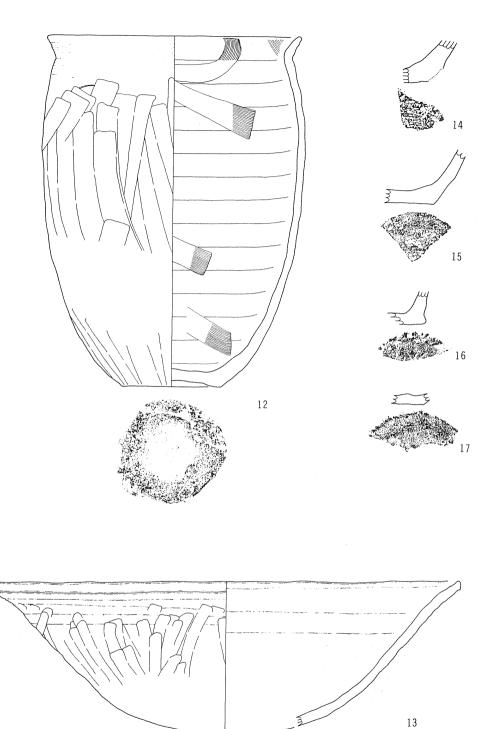
実測図番 号	図版号	註記番号	形部	態位	뫎	面	調整		胎土含有物	色調	備考
番号	番 写		们百	11/	外	面	内 面	底 面			
28-1	21-1	R P 2 + カマド	坏		ロクロ		ロクロ	回転糸切		10 Y R % 灰黄褐	土師器
28-2	21-2	フク土中	坏		ロクロ		黒色処理 ロクロ	回転糸切		10 Y R ¾ にぶい黄橙	墨書土師器
28-3	21-3	一括	坏		ロクロ		ロクロ	回転糸切		7.5Y R % 橙	須恵器
28-4	21-4	KRP	坏		ロクロ		ロクロ	回転糸切		7.5YR¾ 黒褐	墨書土師器
28 5	21-5	K P P 22	甕		ヘラナ	デ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R ½ 灰黄褐	土師器
28-6	21-6	R P 2 フク土中	甕 口絲	計	ヘラナ	デ	ヘラナデ		粗砂を含む	7.5Y R 7⁄3 にぶい橙	土師器
28 7	21-7	RP一括 フク土中	甕 口約	計	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ		粗砂を含む	5 Y R ¾ 淡橙	土師器
29-8	22-8	R P 3 フク土中	甕		ヘラケ	ズリ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R ¾ にぶい黄橙	土師器
29 9	22-9	RP一括 フク土中	妻 口絲	計	ロクロヘラケ		ヘラナデ		細砂を含む	7.5YR% 灰白	胴上半ロクロ整形 土師器
29-10	22-10	R P 4	甕		ヘラケ	ズリ	ヘラナデ		細砂を含む	7.5YR% 明褐	胴上半ロクロ整形 土師器
29-11	22-11	K R P 12 フク土中	甕 口絲	計	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R ¾ 浅黄橙	胴上半ロクロ整形 土師器
30-12	23—12	KRP23 フク土中	甕		ヘラケ	ズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	10 Y R ¾ 灰白	SI016 RP一括 床面接合土師器
30-13	23-13	KRP14 フク土中	鍋		ヘラナ	デ	ヘラナデ		粗砂を含む	10 Y R ¾ にぶい黄橙	KRP16·17·19·26 接合土師器
30-14	23-14	RP一括 フク土中	甕底	部	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ	平 滑	粗砂を含む	10 Y R ¾ 暗褐	土師器
30—15	23—15	RP一括 フク土中	甕底	部	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ	平滑	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙	土師器
30-16	23—16	KRP22 フク土中	甕底	部	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ	平 滑	粗砂を含む	7.5 Y R ¾ 浅黄橙	土師器
30—17	23—17	RP一括	甕底	部	ヘラケ	ズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい褐	土師器



第28図 S I 013竪穴住居跡出土土器実測図(1)

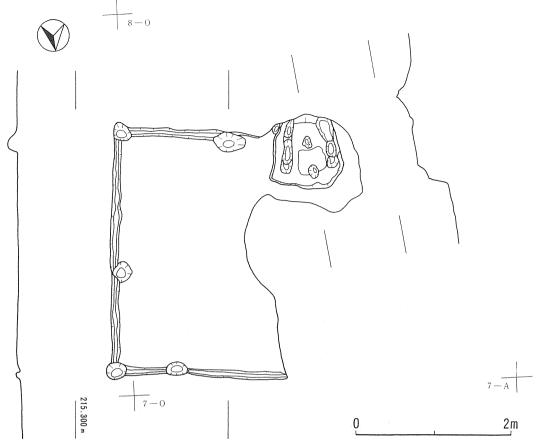


第29図 S I 013竪穴住居跡出土土器実測図(2)



第30図 S I 013竪穴住居跡出土土器実測図(3)

10cm

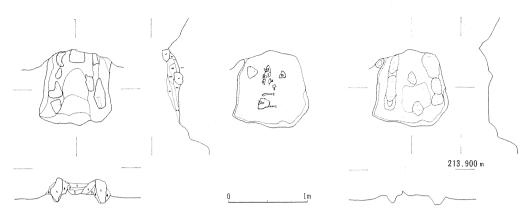


第31図 S I 014竪穴住居跡実測図

第21表

S I 014 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	8-0	、8-	- A	NO THE RESERVE AND THE PERSON NAMED IN COLUMN		美	[測図看	6号	31、3	32		図版番号	11	
			南	側	壁	西	側	-	壁	4	L (則	壁	東	側	壁
法	壁	長		(3	07.5)cm			な	L			(235	.5)cm		な	L
压	壁	高		(1.1~	-4.3)cm			な	L		(0.	6~2	.1)cm		1.8~	-2.8cm
<u>=</u>	壁海	弉幅		11.5	∼9.5cm			な	L		7.	5~1	2.5cm		8.5~	14.5cm
里	壁洞				3~4cm			な	L		3	8.1~	7.1cm		3.3~	-7.7cm
形		態	方	形		面	積			(7.	92) m²	主軸	由方位	s-	2°-E	
	ランF の 状				,約10~1 ,まった。									認が遅れ	、西側	部分を
	上と月 状				見できる? バ激しいた				[火山]	を 粒カ	が粗に多	多量に	2含ま	れている	黒褐色	土でる
柱		穴	床面上	には核	食出されて	げ、壁	 毒内に	確認	されて	こいる	· .					
か	ま	ど	かまど	"は南側	壁の中5	央部か !	らやや	西害	手りに 目	自然石	7を芯村	オとし	て使	用し、付	設され	ている
遺出:	物 土 状	の : 況	1点、	甕形出	不形土師器 に師器の「 味部破片:	コ縁部種	波片 3	点、	胴部砌	支片 5	点、原	医部矶	5片 2	恵器 1 点点、かまいる。	、甕形ど中か	土師器ら甕形



第32図 S I 014竪穴住居跡かまど実測図

S I 014竪穴住居跡かまど土層註記

1 10YR灯 粘土塊及び褐灰色焼土塊

2 7.5 Y R 另 炭化物混入 黑色土 **3** 2.5 Y R 另 明赤褐色焼土

4 7.5Y R% 橙色粘土 7 10 Y R ¾ 浮石混入 黑色土

5 10 Y R % 炭化物混入 黑褐色土 6 2.5 Y R % 明赤褐色焼土塊

8 10 Y R ¹· ½ 浮石混入 黑色土

第22表

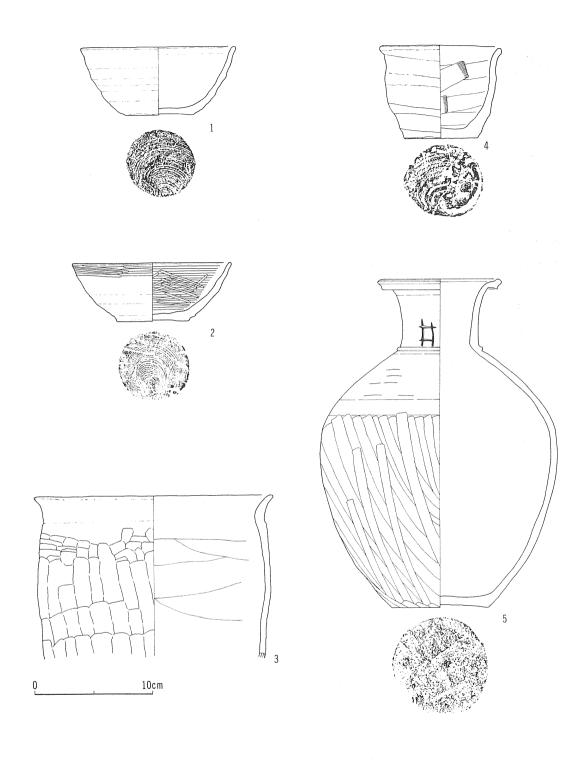
S I 014 竪穴住居跡出土土器説明表

実測図	図 版 号	註 記 番 号	形態	器面	調整	法	胎土	/r =====	/it: -tr
番号	番号	註 記 番 号	部 位	外 面	内 面	底 面	含有物	色調	備考
15-1	24 1	床面	坏	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5YR% 灰白	土師器
15-2	24-2	KRP2、5、 7、8、9	坏	ロクロ	黒色処理	回転糸切		5 Y R % 機 10 Y R ¾ にぶい 黄橙	土師器
15-3	24-3	KRP1	妻 口縁部	ヘラケズリ	ヘラナデ		細砂を 含む	10 Y R 對 褐灰	土師器
15-4	24 4	床面	嬱	ヘラケズリ	ヘラナデ	回転糸切	粗砂を 含む	10 Y R ¾ にぶい黄橙	土師器
15-5	24— 5	かまど左床面	壺 形 須恵器	ヘラケズリ	ユビナデ	砂粒付着	粗砂を 含む	7.5Y R % 褐	箆書記号あり 須恵器

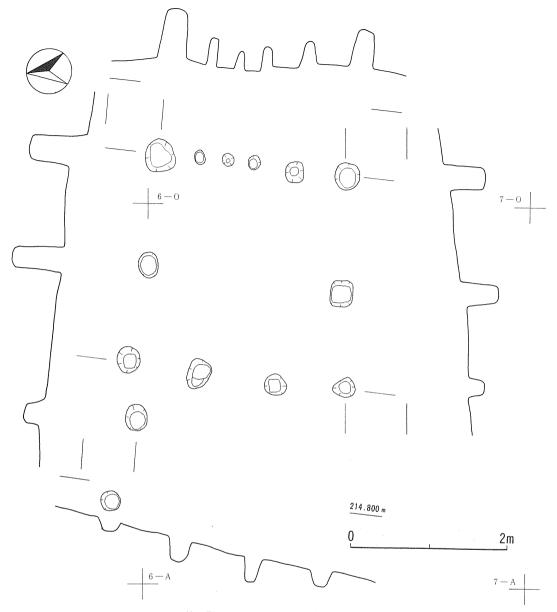
第23表

S I 015 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	6 — (Э,	6 —	A 、 7 -	-0、	7 — A	1	実測図都	昏号	34	DPACH SERVICE		図版番号	11	
			南		側	壁	西	俱	IJ	壁	7	t 1	側	壁	東	側	壁
法	壁	長			(319	5.5)cm			(254	4.5)cm			(306	5.5)en	1	(254	.5)cm
12	壁	高			な	L			な	L			な	L		な	L
量	壁淖	弉幅			な	L			な	L			な	L		な	L
里	壁津				な	L			な	L			な	L		な	L
形		態	方		形		面	積			(9.	08) m²	主車	曲方位	S-2	°-E	
	ラン育 の 状		土取り) さ	れてい	いたため	か床面	も確認	まで	きず。四	四囲を	·—巡	するた	主穴列	一で判断でき	きた。	
覆土の	こと 	ミ面 態	不	明													
柱		穴	方形に	2	.巡す.	る。											
か	ま	ど	不	明													
遺出:	物 土 状	の況	甕形出	上師	器胴音	部破片 7	/ 点出:	土。									



第33図 S I 014竪穴住居跡出土土器実測図



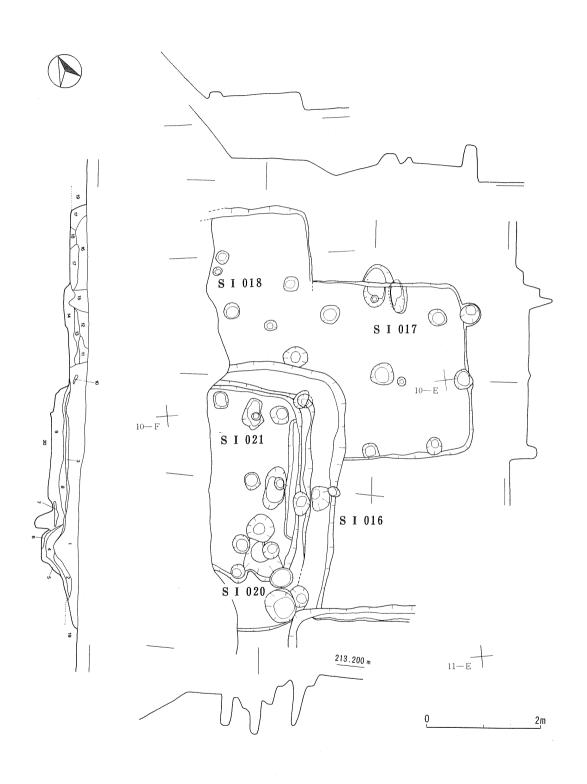
第34図 S I 015竪穴住居跡実測図

S I 016、S I 020、S I 021、S I 017、S I 018竪穴住居跡土層註記

- 1 10Y R 外 浮石微量・黄褐色土ブロック 2 10Y R % 黒色土粒混入 強粘性 黄 少量混入、強粘性 黑色土
- 4 10 Y R ½ 黑色土粒多量混入 褐色土
- 7 10Y R% 黑色土粒少量混入 強粘性 黄褐色土
- 10 10Y R % 強粘性 黄褐色土
- 13 10YR¹· 好 浮石混入 弱粘性 黑色
- **16** 10 Y R ¹ · 好 浮石混入 中粘性 黑色
- 19 10 Y R % 強粘性 黒褐色土

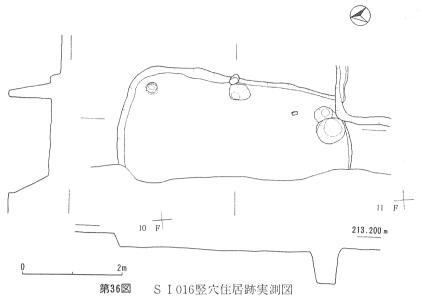
- 褐色土
- 5 10 Y R ½ 黑色土粒少量混入 弱粘性 灰黄褐色土
- 8 10 Y R % 浮石・褐色土ブロック少量 混入強粘性 黑褐色土
- 11 10 Y R 3 褐色土少量混入 強粘性、 黑褐色土
- 14 7.5YR% 浮石·褐色土粒少量混入黑 褐色土
- 黑色土
- 20 10 Y R % 強粘性 黄褐色土

- 3 7.5YR¾ 灰黄褐色土粒多量混入 黒 褐色土
- 6 10YR ¼ 黑色土粒少量混入 褐色土
- 9 10 Y R % 褐色土ブロック黒色土少量 混入 強粘性 黑褐色土
- 12 10 Y R % 浮石混入 黑褐色土
- 15 10 Y R ¾ 浮石少量混入 黑色土
- 18 10 Y R 1· ½ 浮石少量混入 黑色土



第35図 S I 016、S I 017、S I 018、S I 020、S I 021竪穴住居跡実測図





第24表

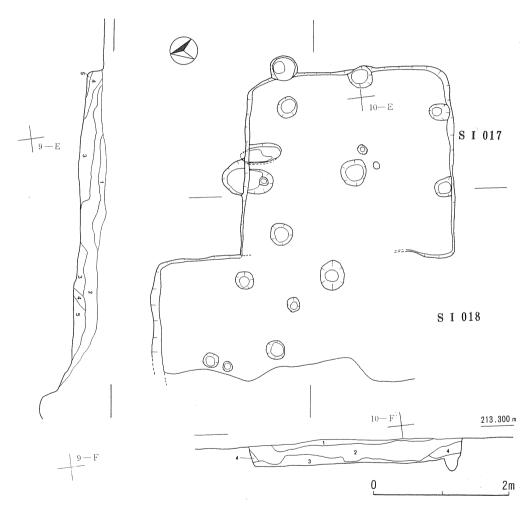
S I 016 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	X	10— F	7 、11-	- F	AND AND AND AND AND AND AND AND AND AND	***************************************	4	美測図 都	香号	35、	36		図版番号	9	
			南	側	壁	西	俱	1	壁	4	L	側	壁	東	側	壁
法	壁	長		(1	53.5)cm			な	L			(206	.5)cm	1	4	53.5cm
14	壁	崮		(5.9~	-6.9)cm			な	L		(23.	7~25	.4)cm	(12	.4~2	6.3)cm
量	壁津	宇幅		な	: L			な	L			な	L		な	L
黑	壁溝	撑		な	: L			な	L			な	L		な	L
形		態	方	形		面	積			(9.	34) m²	主軸	由方位	不	明	
	ラン確 の 状		削られ	l6、S よ段差カ と乱が湯	であるたる	S I 02 め、東	1、S 側部分	I 01	.7、SI み遺存し	[018 _ てぃ	、SI ゝる。	012カ また、	「重複 ブド	し、かつ、 ウが栽培さ	西側されて	部分が いたた
	ニと床 状	面態	白色浮れてい	石質がるため	(山灰粒))、床面(が粗に は周囲	多量に にわす	混 <i>かい</i>	入してい こ残るの	·る。)み。	SIO)20,	SIO)21が、内音	『に深	く掘ら
柱		穴	残され	た床面	iに確認:	される										
か	ま	ど	不	明						***************************************						
遗出:	物 上 状	の況	- 点、坏	、形土師	7器の体音	邹破片	1点、	床面	面から網	〖文土	:器口網	喙部砾	5片 1	片12点、ロ 点、坏形± 7点出土し	: 師器	口緑部



S I 016 竪穴住居跡出土土器説明表

宝測図	図 版	44.47.87.D	11/45 40/	## D	百 調 3	隆 法	胎土含有物	色	調	備考
実測図番 号	図版番号	註記番号	形態・部位	外 面	内 面	底 面	加工占有物	6	theil	pres "J
37—1	25-1	I層	胴部	刷毛目	ヘラナデ			7.5 Y R 9⁄4	にぶい橙	土師器
37— 2	25— 2	RP一括	繩文、胴部	LR	ミガキ			10 Y R ⅔	浅黄橙	
37—3	25-3	Ⅱ層の下	繩文、胴部	LR	ミガキ			5 Y R %	橙	
37-4	25-4	R P一括 床面	繩文、口縁部	RL	ミガキ			5 Y R 7/6	橙	



第38図 S I 017、 S I 018竪穴住居跡実測図

SI017、SI018竪穴住居跡土層註記

- 1 10YR外 浮石混入 弱粘性 黑色土
- 7 10 Y R % 強粘性 黄褐色土
- 2 10 Y R ½ 浮石褐色土粒少量混入 黑 褐色土
- 5 7.5 Y R % 褐色土粒混入 強粘性 黑 褐色土
- 3 7.5 Y R % 浮石褐色土粒混入 強粘性 黒褐色土
- 6 10 Y R 3 黑色土粒混入 強粘性 黒 褐色土

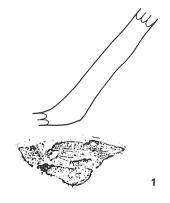
S I 017 竪穴住居跡計測説明表

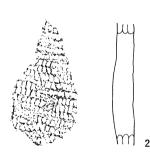
検	出地	区	10-1	F , 1	1-	F			実測図	番号	35, 3	38		図版番号	9,	12				
			南	1	則	壁	西	側	壁	1	L 1	N	壁	東	側	壁				
法	壁	長				296cm		(323.5)cm			(2	75)cm	1		305.50	om.			
14	壁	高		9.	0~3	35.0cm		(4.9	$\sim 5.5)$ cm		(26.4	~28	.8)cm	1	21.1-	~26.9c	em.			
量	壁洞	弉幅			な	L	,		なし			な	L		t	ţ I	L			
245.	壁海	 等深			な	L			なし			な	L		7	i 1	L			
形		態	方	Ħ	肜		面	積		(8.	70) m²	主軸	占方位	不	明					
	ラン花 の 状		SIC)16と	同じ	である	。S I	018と	の新旧関係	系が打	巴握でき	きなカ	った	0	明					
覆土の	上と反 状	F面 態	白色にいる。	孚石質 , 床盲	質火!	山灰粒を 凹凸が海	混入で	する黒	褐色土が乳	夏土で	であるた	が、フ	アドウ	の根によ	り攪舌	しされて	7			
柱		穴	床面_	上に:	9 カ戸	所検出さ	いれてい	いるが	、柱穴の西	记置样	舞造は打	巴握カ	難し	610	/ Palent	-				
か	ま	ど	不	明								,								
遺出:	物 土 状	の : 況	縄文:	上器用	同部码	からの出 波片 6 点 形土師暑	1、壺用	 修須恵	器胴部破戶 片 5 点、原	十 3 卢 同部 0	点、坏开 支片30点	5 土 気、 庭	i器の 語破	口縁部破	片 2 点	三、体音	部			

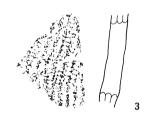
S I 019竪穴住居跡土層註記

- 1 10 Y R 3/2 浮石·黄褐色土粒混入黑色 +
- 4 10 Y R ½ 砂礫・炭化物少量混入強粘 性 黒褐色土
- 2 10YR% 浮石多量混入 黑褐色土

- 6 10 Y R ¾ 層上部黒褐色土粒混入 強 粘性 暗褐色土

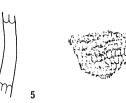














)

10cm

第39図 S I 017竪穴住居跡出土土器拓影図

第27表

S I 017 竪穴住居跡出土土器説明表

実測図	図 版	註記番号	形態・部位	器面	百 調 弘	鉴 法		胎土含有物	色	調	備考
番号	図 版 号	社記街写	形態・部位	外 面	内 面	底	面	70 1- to 10 10		15-9	VIII
39-1	25 5	R P一括 II~III層	甕 、底部	ヘラケズリ	ヘラナデ			粗砂を含む	10 Y R 7⁄4	にぶい黄橙	土師器
39-2	25 6	一括	縄文、胴部	LR	ミガキ				7.5 Y R ¾	にぶい褐	
39-3	25— 7	I · II 層	繩文、胴部	LR	ミガキ				7.5 Y R %	橙	
39 4	25 8	R P一括 II~III層	繩文、胴部	RL	ミガキ				7.5 Y R 7/6	橙	
39 5	25 9	RP一括 II~III層	繩文、胴部	LR	ミガキ				10 Y R %	浅黄橙	
39 6	25-10	一括	繩文、胴部	LR	ミガキ				7.5 Y R %	橙	

第28表

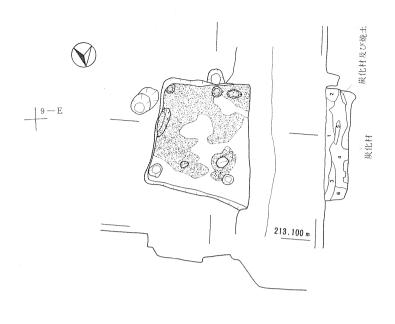
S I 018 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	10— F					実	測図額	昏号	35、	38		図版番号	9,	12
	***********		南	側	壁	西	側		壁	#	t	側	壁	東	側	壁
`-	壁	長		な	L			な	L			(1	39)cı	n		(126)cm
法	壁	高		な	L			な	L		(22.	6~25	.7)cı	n (28	3.6~	30.7)cm
	壁淖	韓幅		な	L			な	L			な	L	-	な	x L
量	壁淖	毒深		な	L		;	な	L			な	l	-	t	r L
形	h	態	方	形 .		面	積			(8.	64) m²	主車	由方位	江 不	明	
	ラン の 状		S I 016	に同し												
覆二の	上と戸状	F面 態	白色浮石 床面は*					含ん	でいる	, ,						
柱		穴	床面上に	25 力月	斤検出さ	されてい	いるが、	、柱	穴の四	己置え	ゅら上	部構造	生を推	έ察するの!	は難し	٥ (١ / ٥
か	ま	ど	不 明													NAME OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER OF THE OWNER O
遺出	物 土 状	の : 況	覆土中が	から坏刑	 多土師都	景体 部码	波片 2.	点、	甕形:	上師者	計制部	破片 4	上点上	出土してい	る。	

第29表

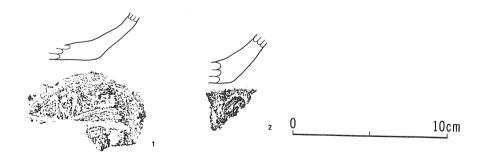
S I 019 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	9 — F	7 、10—	F			身	ミ測図 看	昏号	40			図版番号	12	
			南	側	壁	西	側		壁	7	t '	則	壁	東	側	壁
24-	壁	長		(145)cm			な	L			(1	.68)cn	n	1	.85.5cm
法	壁	高		39.7~	42.7cm			な	L		19	.2~2	29.9cm	n	32.1~	37.8cm
	壁淖	毒幅		な	L			な	L			な	L	-	な	· L
重	壁淖	 排深		な	L			な	L			な	L	-	な	· L
形		態	方	形		面	積			(3.	16) m²	主	油方位	不	明	
	ラン ラン の 状				、2層だ 土の方用							山灰料	並及び	*黄褐色火	山灰粒	が粗に
覆:	上と月 状	下面 態	床面」 浮石質	ニに厚く 質火山灰	禾本科林 粒、黄衫	直物の) 曷色火!	炭化物 山灰粒	やす が涯	L太状の 記入する	の炭化る黒色	匕材、 色土が	焼土、覆っ	. 灰カ ている	、堆積し、 >。	その上	を白色
柱		穴	2 カ戸	斤検出さ	れている	, ,										
か	ま	بخ	不明]												
遺出	物 土 状	の : 況		コから、 こいる。	壺形須原	恵器胴 音	部破片	1 🖈	1、甕州	沙土 郎	市器の)	胴部和	 读片2⁴	4点、底部	破片 3	点が出





第40図 S I 019竪穴住居跡実測図

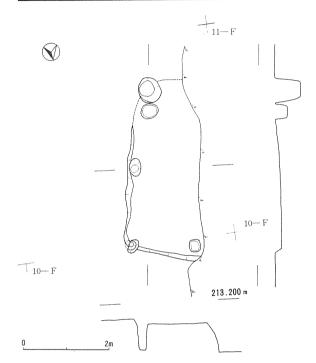


第41図 S I 019竪穴住居跡出土土器拓影図

第30表

S I 019 竪穴住居跡出土土器説明表

実	測図	図版	at-ang. P.	115 カド カリ イン・	50 10	- m	調	整	法		胎土含有物	fá,	## N	備	老
番	号	番号	社和各方	形態・部位	外	面	内	面	底	面	加工日内网	<u> </u>		(11)	
18	- 1	25—11	RP一括 フクド中	萋、底部	ヘラケ	ズリ	ヘラ・	ナデ			粗砂を含む	7.5 Y R ½	灰白	土師	j器
		25—12		甕、底部			1				粗砂を含む	7.5 Y R ¾	にぶい橙	土師	j器

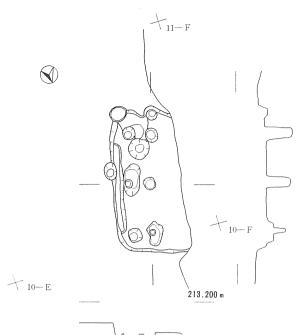


第42図 S I 020竪穴住居跡実測図

第31表

S I 020 竪穴住居跡計測説明表

.14	th tele	F-7	10 E	11	r	**************************************		Ta	三測図 看	2 FL	35, 4	9	Т	図版番号	9	
検	出地	区	10—F,	11	Ľ] 7								
			南	側	壁	西	側		壁	7	t 1	1	壁	東	側	壁
法	壁	長		な	L			な	L			(156	.5)en	n	(41	5.5)cm
広	壁	高		な	L			な	L		11.	8~1	2.9cm	n ,	8.0~	13.8cm
	壁海	- 非幅		な	L			な	L			な	L	-	な	L
里.	壁洞	 紫深		な	L			な	L			な	L	-	な	L
形		態	方	形		面	積			(6.	72) m²	主軸	由方位	不	明	
	ラン の 状		S I 016	と同	じ											
覆:	上と月 状	末面 態	S I 021	と、S	I 0161	こ狭ま	れ、わ	ずた	いに残る	る床面	1は平は	旦であ	うる。 	Arterior control of the second		
柱		穴	明確に判	判別で	きる東側	訓壁の	下方床	面に	こ隅部と	とその	つ中間の	か 3ヵ	5所に	こ確認でき	る。	
か	ま	۲	不 明													
遺出	物 土 状	の況	覆土中7 出土し			帯口縁	部破片	1 .	点、甕用	多土 的	雨器の1	□ 縁音	祁破片	71点、胴	部破片	3 点が



0 2m

第43図 S I 021竪穴住居跡実測図

第32表

S I 021 竪穴住居跡計測説明表

検	出地	区	10-	F,	11-	F	and a second second second second second second second second second second second second second second second	STATE OF THE PROPERTY OF THE P		実測図都	昏号	35、	43		図版番号	÷ 9			
			南		側	壁	西	仴	[]	壁	#	t	側	壁	東	側	壁		
法	壁	長			(135)cm			な	L			(154	.5)cr	n		348.5cm		
伍	壁	高		(11	.9~2	3.1)cm			な	L		(14.	7~20	.5)cr	n	16.0-	~26.5cm		
量	壁津	幸幅			な	L			な	L			な	L	-	12.5-	~23.5cm		
里	壁津	毒深			な	L			な	L			な	L		1.9)∼7.3cm		
形		態	方		形		面	積			(5.	50) m²	主車	由方位	不	明			
	ラン硝 の 状		SIO	016	と同	じ		•								不明			
覆出の	上と床 状	E面 態	床面	は止	『凸が	あるがり	まぼ平:	坦であ	5る。	,									
柱		穴	柱穴	は昼	き内側	下方の原	ド面に	等間で	で検	出されて	ている	,							
か	ま	ど	不「	明															
遺出:	物 土 状	の況	な	L															

第33表

S I 030 竪穴住居跡計測説明表

検出地区		0 - D	、 0 —	E 、1-	-D, 1	-E	実測図都	昏号	44、	45		図版番号	12		
			南	側	壁	西	側	壁	4	t	側	壁	東	側	壁
法	、 壁 長			2	75.5cm			280.0cm			2	79.5cm	1	3	306.5cm
広	壁	高		11.6~	16.7cm		11.0~	-38.3cm		25	.3~	32.1cm	1	14.9~	29.8cm
.	壁海		***************************************	な	L		ż	x L			な	L		な	· L
量	壁海	 構深		な	L		ż	i L			な	L		な	· L

形 態	方 形 面 積 8.76m² 主軸方位 S-38°30′-E										
プラン確認時の状態											
覆土と床面の 状態	黄褐色火山灰粒、白色浮石質火山灰が混入する黒色土が床面を覆っている。 床面は凹凸が激しい。										
柱 穴	6 カ所床面上に穿たれているが住居の柱構造を推察できるような配置ではない。										
かまど	かまどは、東側壁に2カ所存在していたが、北側のかまどは水道管移設のための溝掘さくの際破壊してしまった。南側のかまどは煙道部が長く、煙道下底も水平な構造であり、 所謂東北型のかまど構造を呈する。										
遺物の出土状況	プラン確認時に縄文土器胴部破片 1 点、甕形土師器の口縁部破片 3 点、胴部破片31点、 底部破片 5 点、覆土中から甕形土師器の口縁部破片 5 点、胴部破片18点が出土している。										

S I 030竪穴住居跡土層註記

- 1 10YR% 黄褐色土粒少量混入 黑色 土
- 4 10YR% 浮石多量·燒土粒小量混入 強粘性 黑褐色土
- 7 10YR¹· Y 黄褐色土ブロック浮石少 量混入 強粘性 黑色土
- 2 10YR¹· 好 黄褐色土粒ブロック少量 混入 強粘性 黒色土
- 5 10 Y R 1 · 分 浮石混入 黑色土
- 8 10 Y R 54 黒色土粒黄褐色土ブロック 少量混入 褐色土
- 3 10 Y R 分 黄褐色土粒少量混入 黑
- 6 10YR% 浮石・黄褐色土粒混入強粘 性、黒褐色土
- 9 10YR% 明黄褐色粘土層

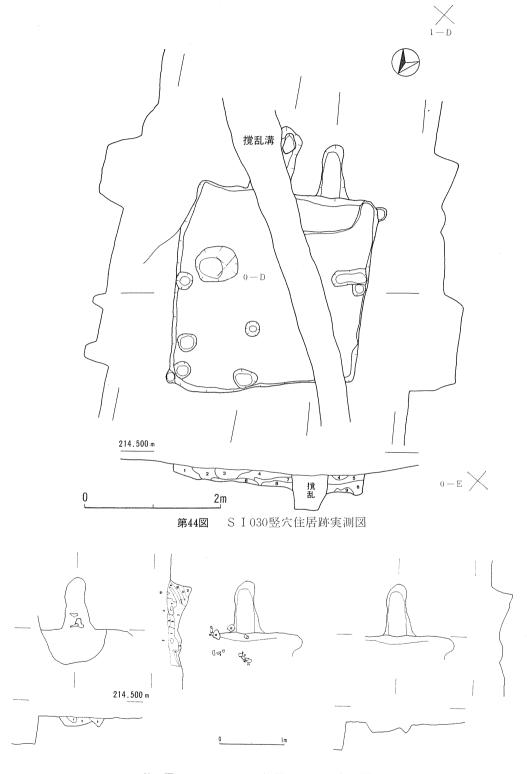
S I 030竪穴住居跡かまど土層註記

- 1 10YR% 浮石・黄褐色土粒混入 黒 褐色土
- 4 10YR% 浮石混入 黑褐色土
- 7 10YR% 浮石·焼土粒混入 黒褐色 +
- 10 7.5 Y R % 浮石混入 弱粘性 褐色土
- 13 10Y R% 浮石·焼土粒少量混入 弱 粘性 黑褐色土
- 2 5 Y R % 浮石·黑色土少量混入赤褐 色土
- 5 10YR¾ 黄褐色土粒混入 黑色土
- 8 7.5YR% 黑色土少量混入 強粘性 明褐色土
- 3 10 Y R ¾ 黄褐色土粒·焼土粒少量混 入 暗褐色土
- 6 10 Y R ½ 浮石·燒土粒少量混入 黑 褐色土
- 9 10YR% 浮石·黑色土多量混入 黑 褐色土

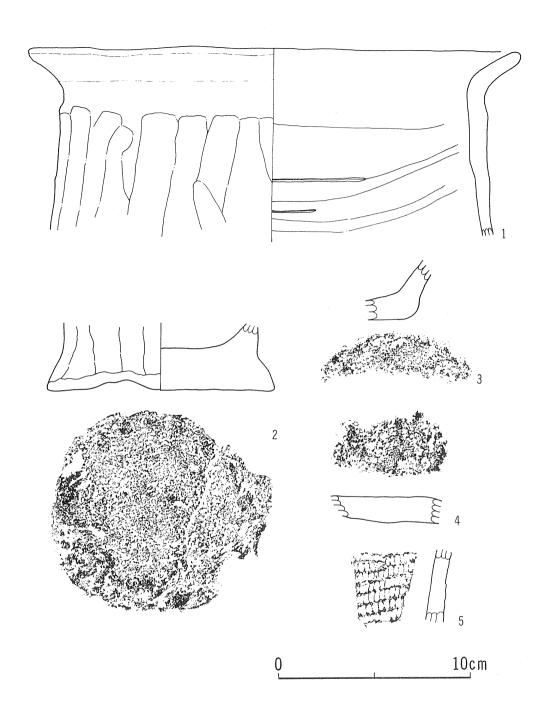
第34表

S I 030 竪穴住居跡出土土器説明表

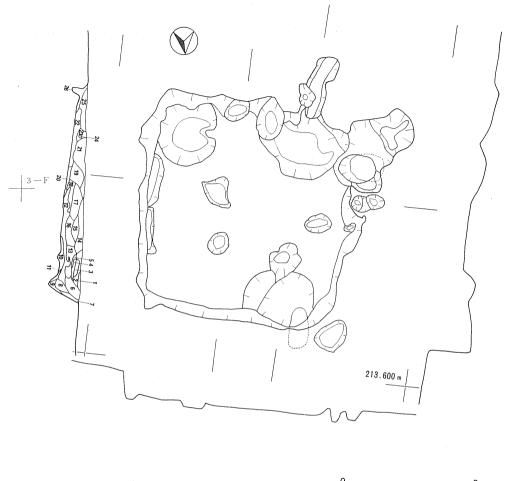
実測図番 号	図版号	註記番号	形態・部位	器面	調整	法	胎土含有物	色調	備考
番号	番号	社礼街ケ	小>窓, 마瓜	外 面	内 面	底 面	WI T E 197		
46-1	26-1	RP一括 フクド中	甕、口縁部	ユビナデ	ユビナデ		細砂を含む	10YR%にぶい黄橙	土師器
46 2	26-2	一括 カクニン面	甕、底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	10Y R%にぶい黄橙	土師器
46-3	26-3	一括カクニン面	甕、底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	10Y R ¼にぶい黄橙	土師器
464	26-4	一括カクニン面	甕、底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	7.5 Y R ¼にぶい橙	土師器
46 5	26-5	一括 カクニン面	繩文、胴部	RL	ミガキ			10YR%灰黄褐	



第45図 SI030竪穴住居跡かまど実測図



第46図 S I 030竪穴住居跡出土土器拓影・実測図



2m

第47図 S I 031竪穴住居跡実測図

S I 031竪穴住居跡土層註記

- 1 10 Y R ¹· Y 浮石·黄褐色土粒少量混入 2 10 Y R ¾ 浮石·黄褐色土粒少量混入 強粘性、黒色土
- 強粘性 黑色土
- 7 10 Y R ½ 浮石混入 強粘性 黑褐色 土
- 10 10Y R % 浮石·黄褐色土粒少量混入 粘土質、褐色土
- 13 10 Y R 1 · ¾ 浮石混入 強粘性 黑色 土
- 16 10 Y R 1・3/ 浮石・黄褐色土粒少 量混入、強粘性 黑色土
- 19 10 Y R ¹· Y 浮石·黄褐色土粒少量混入 20 10 Y R % 褐色土粒混入 強粘性 黑 強粘性 黒色土

- 強粘性 黒色土
- 5 10 Y R % 浮石·黄褐色土粒少量混入 強粘性、黒褐色土
- 強粘性、黑色土
- 11 10Y R 5/2 浮石混入 弱粘性灰黄褐色 土
- 14 10 Y R ¾ 浮石少量混入 強粘性 黒 色土
- 17 10 Y R 列 浮石・黄褐色土粒・灰黄褐色ブ 18 10 Y R ¹・ 列 浮石混入 強粘性 黒色 ロック混入 強粘性 黒色土
- 褐色土

- 3 10 Y R ¾ 浮石多量混入 黑色土
 - 6 10 Y R % 浮石·黄褐色土粒混入 黑褐 色土
 - 9 10 Y R % 浮石·黄褐色土粒少量混入 強粘性 黑褐色土
 - 12 10 Y R 1 · 分 浮石少量混入 強粘性 黑色土
 - 15 10YR外 浮石混入 強粘性 黑色土
- 21 10 Y R 1· 万 浮石· 黄褐色土粒少量混入 強粘性 黑色土

- 粘性 黑褐色土
- 25 10 Y R 外 浮石·黄褐色土粒少量混入 26 10 Y R 外 浮石少量混入 強粘性 黑 強粘性 黒色土
- 強粘性 黑色土
- 色土
- 色土

第35表

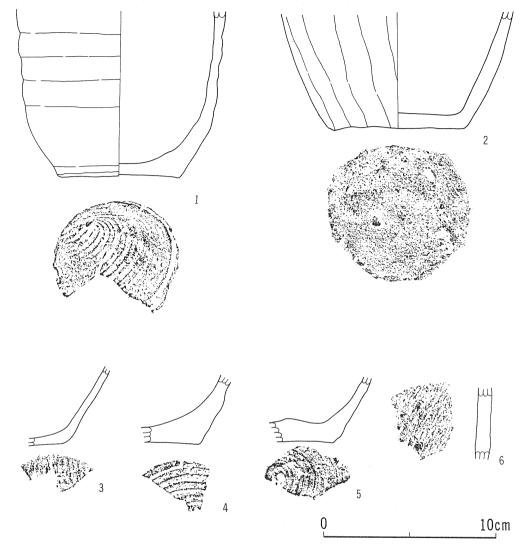
S I 031 竪穴住居跡計測説明表

検	検出地区		3 — (G. 4-	- G		**************************************	実測図	番号	46			図版番号	12		
			南	側	壁	西	側	壁	-	lt 1	則	壁	東	側	壁	
法	壁	長		3	334.5cm		3		322.0cm		321.5cm		n	345		
仏	壁	高		2.2~	·12.4cm		20.6	\sim 31.0cm		36.7~			n 3	34.6~44.6cm		
量	壁淖	埲幅		な	: L			なし			な	L	. 1	5.5	~24.5cm	
里	壁津			な	· L			なし			な	L	-	3.3	~8.9cm	
形		態	方	形		面	積		10	. 44 m²	主軸	由方位	$z \mid S-3$	°—'W	V	
S D 001の北側に、S D 0 プラン確認							こ多量	壁、かま に混入す	どの- る黒も	一部を研	皮壊さ 下整な	れて	「おり、白作 がりを検出し	色浮石 ン、#	「質火山 青査の結	
覆」の	上と尿 状	面態														
柱		穴	5 カ所検出されたが、不規則な配列である。													
か	ま	ど		きの中央		やある	寄りに	付設され	ている	。が、」	上部カ	ら押	圧され、弱	更に S	S D 001	
	物 土 状		繩文土	上器胴部	からの出破片1点、体部砲	1、壶用	彡須恵	器の口縁 形土師器	部破片の口線	〒1点、 录部破♭	胴部	3破片 〔、胴	1点、坏刑]部破片59点	沙土 郎 気 、 屋	市器の口 医部破片	

第36表

S I 031 竪穴住居跡出土土器説明表

実測図 図 版番 号 番 号	図 版	註記番号	形態・部位	器面	調整	法	胎土含有物	色調	備考
	#I DU III 7	11258 - 日11五	外 面	内 面	底 面	加工占有物	E ph	川川 ペラ	
48-1	26 6	一括	甕、底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切	粗砂を含む	7.5 Y R ¾ 浅黄橙	土師器
48-2	26-7	一括	甕、底部	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	粗砂を含む	7.5YR¾ 黒褐	土師器
48 3	26—8	一括	坏、底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切		7.5Y R % 橙	土師器
48-4	26— 9	R P — 9 フクド中	甕、底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切	粗砂を含む	5YR% にぶい橙	土師器
48 5	26-10	一括	甕、底部	ロクロ	ロクロ	回転糸切	細砂を含む	7.5YRタ₄ にぶい橙	土師器
48 6	26-11	一括	繩文、胴部	LR	ミガキ				



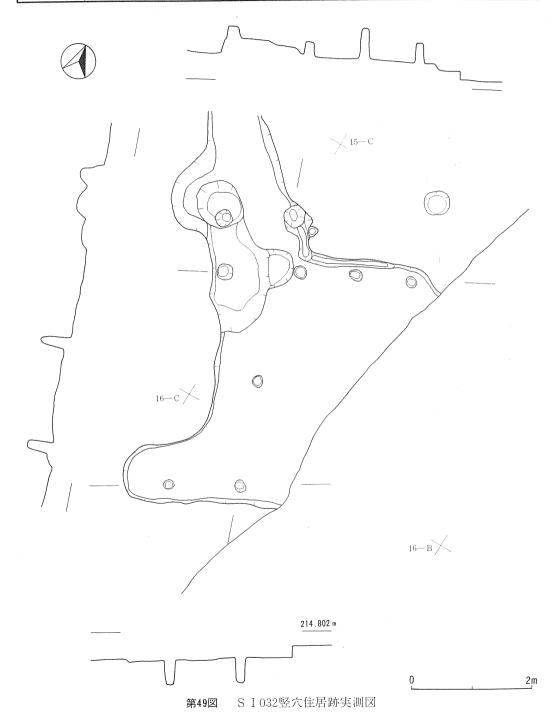
第48図 S I 031竪穴住居跡出土土器拓影・実測図

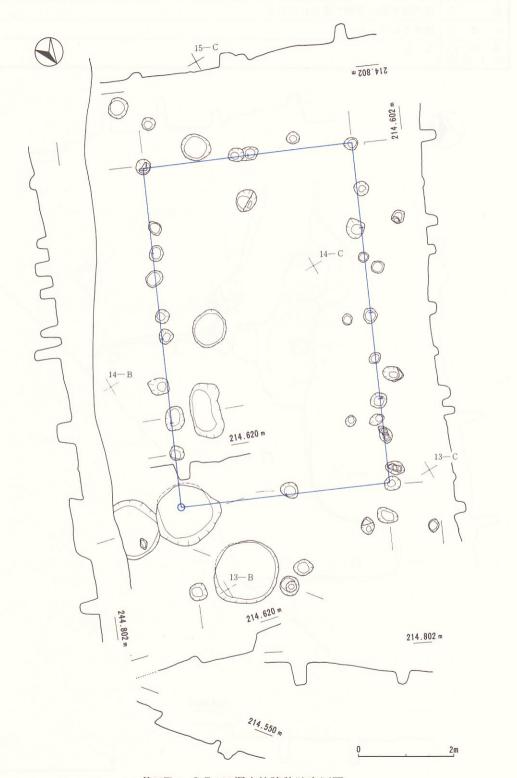
第37表

S I 032 竪穴住居跡計測説明表

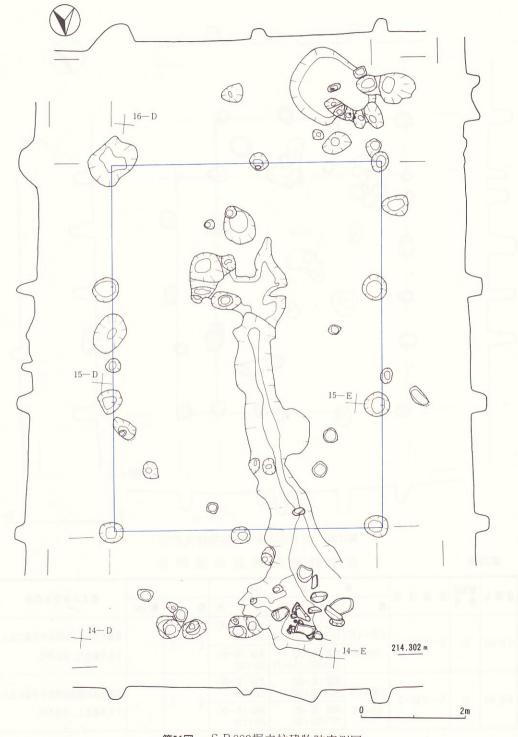
検	出地区	16 0	C 、 17	— С					実測図都	番号	48			図版番	号		***************************************
		南	側		壁	西	俱	[1]	壁	1	t 1	則	壁	東	Ę	側	壁
法	壁 長			(14	4)cm			2	146.5cm			(397)сп	1		な	L
一	壁高		7.0	0~9	.5cm		2	.7	∼4.0cm		4.	3~	10.4cm	1		な	L
量	壁溝幅		7	な	L			な	: L		11.	5~	17.5cm	1		な	L
里	壁溝深			な	L			な	: L		. 5	5.7~	-8.3cm	1		な	L
形	態	方	形			面	積			(12.	03) m²	主	軸方位	S	-4	6°30′—	W
	ラン確認の 状態	耕作出	こが薄 镁張り	く、 出し	現地を	長下10 ちる竪	~15cr 穴住居	n て 引助	*非常にだ いとした。	nたく	平坦?	す面	が検出	され、	精子	奎の結 り	果、出
覆土の	上と床面 状態	覆土に 床面に	は排作され礫	や草混じ	木の札りでま	艮等で 上常に	攪乱さ かたく	れ平	ており、 坦である	明码。	笙では7	よい	0				

柱		穴	壁内側床面に等間で穿たれている。
か	ま	بخ	検出されていない。
遺出	物 土 状	の況	x ا

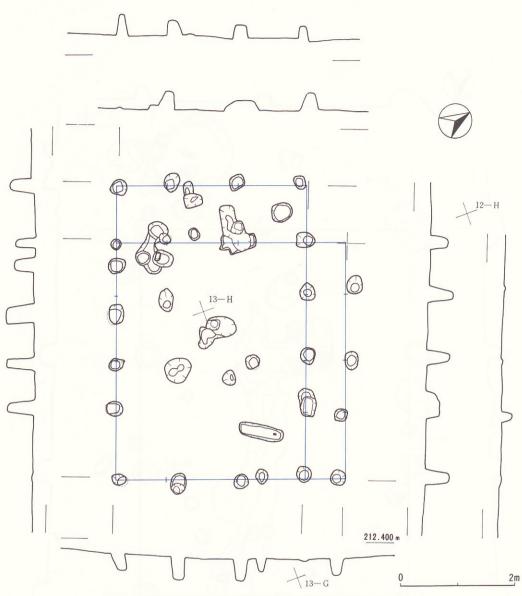




第50図 SB001掘立柱建物跡実測図



第51図 SB002掘立柱建物跡実測図



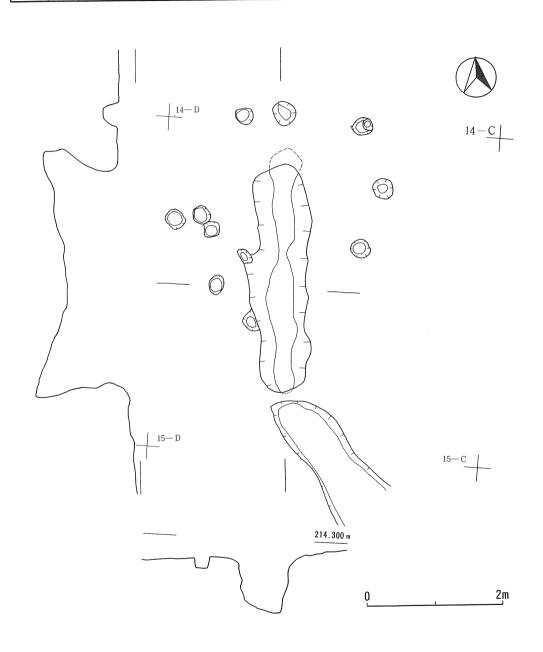
第52図 SB003掘立柱建物跡実測図

第38表

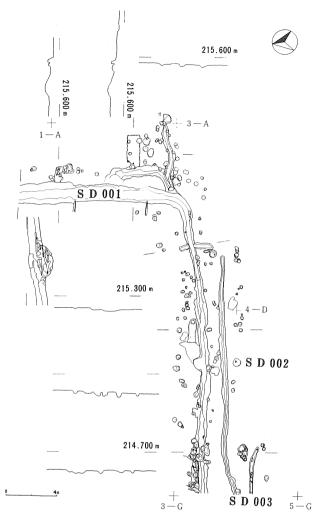
掘立柱建物跡計測説明表

'n 46 A	実測図		+	Д	身		舎	(cm)					埋土の状況その他	
遺構名	番号	主軸	方	位	規・模	桁	行	梁	行	位	置	幅 (cm)	建工の状況での他	
C.D. 001	F0.	N. or	°ao' T		2間×4間	東面 (4 181+17	比→南) 79+180+180	北面 (226+2	東→西) 222	t.	1		黄褐色浮石質火山灰粒が多量に混み	
S B 001	50	N-27	30-1		448×720	西面 (4180+18	批→南) 32+179+179	南面(225+2	東→西) 223	4			する黒褐色土。柱痕不明。	
0 D 000	F1	NT d	°00' T		2間×3間	東面(3		北面 (256+2	東→西) 269	+.	1		黄褐色浮石質火山灰粒が多量に混入	
S B 002	51	N- 4	30 — 1		525×706	西面 (3237+22		南面(295+2	東→西) 34	な	L		する黒褐色土。柱痕不明。	

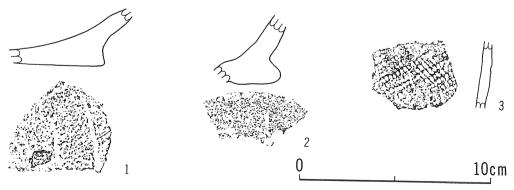
	0 D 000	50	N 50°20′ W	3間×4間	北面(東→西) 126+94+109+86	東面(北→南) 110+110+118	北面と西面	北面 70	砂質黄褐色土。柱痕不明。
***************************************	S B 003 52	52	N —59°30′ — W	338×415	南面(東→西) 123+77+85+130	西面(北→南) 122+126+90	10回で四回	西面 110	SI 007より新しい。



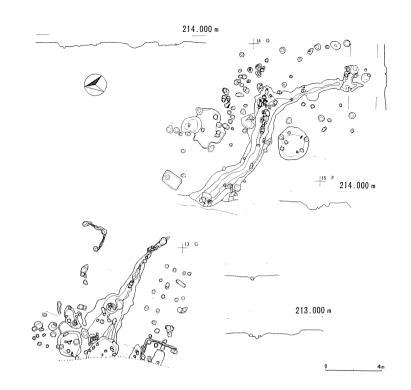
第53図 SK(T)01溝状土壙実測図



第54図 S D 001~ S D 003溝状遺構実測図



第55図 S D 001溝状遺構出土土器拓影図



第56図 S D 004溝状遺構実測図

第39表

グリッド出土土師器説明表

実測図	図 版	出土	計 記 番 号	形態	器面	調整	法	胎土含有物	色 調	備考
番号	図 版	出 土地 区	註 記 番 号	部 位	外 面	内 面	底 面	加工召用物		IM 25
57—1	27—1	2 — C	2-C RP-括	甕 底部	ヘラケズリ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	10YR% 褐灰	
57— 2	27— 2	3 — C	3-C RP一括 確認面	坏 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		7.5Y R ¾ にぶい橙	
57— 3	27— 3	3 — C	3-C RP一括 確認面	甕 底部			平 滑	粗砂を含む	2.5Y R % 明赤褐	
57 4	27—4	4 — B	4 — B R P — 括 フク土中	坏 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		7.5Y R ¾ にぶい褐	
57— 5	27— 5	5 — B	5-B RP一括 確認面	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平滑	粗砂を含む	10 Y R % 浅黄橙	-
57— 6	27— 6	5 — B	5-B RP一括 確認面	坏 底部	ロクロ	ロクロ	平 滑		5 Y R 76 橙	
57— 7	27—7	5 — B	5 — B R P — 括 フク土中	甕 底部			平 滑		10 Y R ½ にぶい黄橙	:
57— 8	27—8	5 — F	5-F RP-括 確認面	妻 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	7.5 Y R ¾ 浅黄橙	
57— 9	27— 9	5 — F	5一F RP一括 確認面	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	7.5 Y R % 浅黄橙	
57—10	27—10	6 — A	6-A RP-括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑		10 Y R ¾ にぶい黄橙	
57-11	27—11	6 — A	6-A RP-括	甕 底部			平 滑		7.5Y R ¾ にぶい橙	
57—12	27—12	6 — B	6-B RP一括 確認面	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑		5 Y R % 橙	
57—13	27—13	6 — C	6-C RP一括 フク土下	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	砂+木	細砂を含む	10 Y R 7g にぶい黄橙	
57—14	27—14	7 — A	S I 15 遺構外 R P 一括	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	7.5Y R <i>%</i> 橙	
57—15	27—15	7 — A	S I 15 遺構外 R P 一括	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	平滑		5 Y R ¾ にぶい赤褐	
57—16	27—16	7 — A	S I 15 遺構外 R P一括	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	平滑		7.5Y R 76 橙	

-			·		,	,				·	·	
57—17	27—17	7 — A	RP-	遺構外 舌	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	ヘラケ ズリ	粗砂を含む	7.5YR% 橙		
57—18	27—18	8 — F	8 - F フク土 ^F	柱穴内 中RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑	細砂を含む	7.5 Y R ¾ にぶい橙		
57-19	27—19	8 — F	8 — F フク土ロ	柱穴内 中RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ	平 滑		2.5Y R% 橙		
57-20		8 — F	8 — F フク土 =	柱穴内 中RP一括	甕 底部		ヘラナ デ	平滑		7.5Y R ¾ にぶい橙		
57-21	27—20	9 — C	9 — C 確認面	R P一括	甕 底部		ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	7.5Y R ¾ 橙		
57-22	27-21	11 E	11-E 確認面	R P一括	坏	ロクロ	ロクロ	回 転 切		10 Y R ¾ にぶい黄橙		
57-23	27-22	9 — C	9 — C 確認面	RP一括	妻 口縁部	ヘラナデ	ヘラナ デ			7.5 Y R % 浅黄橙	口縁部ロクロ	
57-24	27—23	9 — C	9 - C フク土ロ	R P一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	5 Y R ¾ にぶい橙		
57-25		9 — C	9 — C		甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑		7.5 Y R ½ 明褐		
57-26	27-24	9 — E	9 一 E フク土」	RP一括	妻 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑		10 Y R ¾ 黒褐	揚	底
57-27	27-25	9 — E	9 — E	R P一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	木葉痕		10 Y R ½ 灰黄褐		
57-28	27—26	9 — E	9 — E	RP一括	妻 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑	粗砂を含む	10 Y R % にぶい黄褐		
58-29	27-27	10— C	10-C 確認面	RP2	甕 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		10 Y R ¾ 浅黄橙		
58-30	27—28	11—E	11-E 確認面	RP一括	甕 底部	ロクロ	ロクロ	回 転 切		7.5Y R ¾ にぶい橙		
58-31	27—29	11—E	11-E 確認面	RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	ヘラナ デ		5 Y R ¾ にぶい黄褐		
58-32	27-30	11—E	11-E 確認面	RP一括	甕 底部	ヘラスズ リ	ヘラナ デ	木葉痕	粗砂を含む	7.5YR¾ 橙		
58-33	27—31	11—E	11-E 確認面	RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑	粗砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙		
58-34	27—32	11—E	11-E 確認面	RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	平 滑		2.5 Y R % 明赤褐		
58-35	27—33	12— I	12— I	RP一括	甕 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		7.5 Y R ¾ にぶい橙		
58-36	27—34	16— F	16一 F 確認面	RP一括	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	ヘラケ ズリ	粗砂を含む	10Y R 万 にぶい黄橙		
58-37	27—35	16— F	16— F 確認面	RP一括	甕 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		7.5YR% 橙		
58-38	27-36	16— F	16-F 確認面	RP一括	甕 底部	ロクロ	ロクロ	回 転		5 Y R ¾ にぶい橙		
58-39	27—37	17— C	17— C	RP一括	甕 底部	ヘラケズ リ	ヘラナ デ	砂底	粗砂を含む	7.5 Y R ¾ にぶい橙		
58-40	27—38	17— C	17— C	RP一括	甕 底部	ヘラナデ	ヘラナ デ	木葉痕	細砂を含む	10YR½ 灰黄褐		

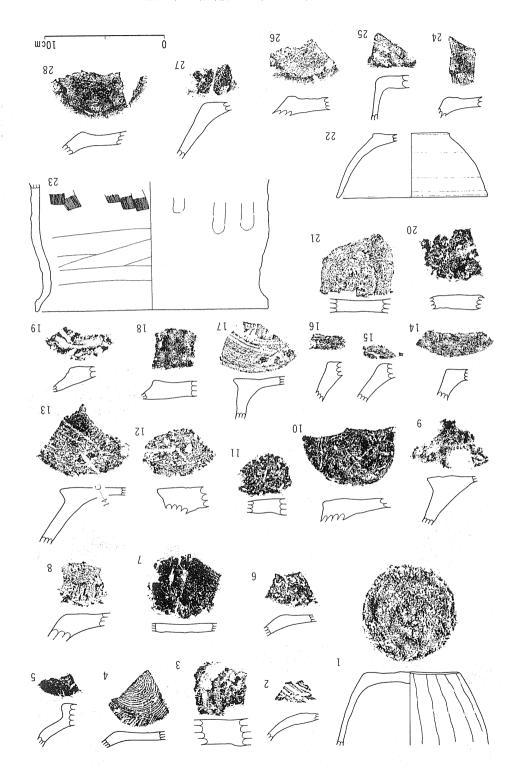
第40表

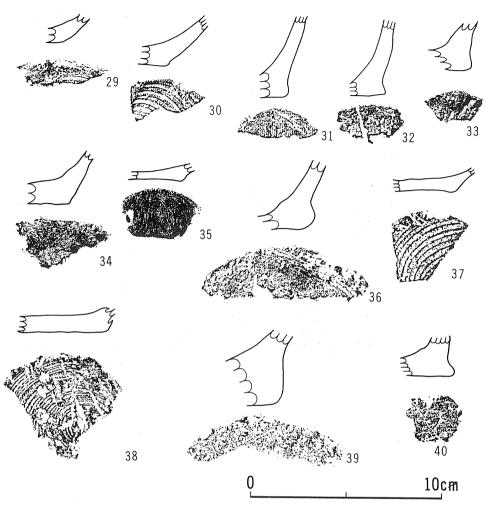
出土須恵器·陶磁器説明表

括影図番 号	図版番号	註記番号	器種・部位	色 調
591	28-1	S I 04 一括 フク土中	壺(甕)・底部	N 5灰~ 2.5Y
59-2	28-2	S I 06 R P 一括 カマド付	壺(甕)・底部	N 5 灰
59-3	28-3	S I 11 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	7.5Y% 灰
59—4	28-4	S I 11 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	N 5 灰
59— 5	28-5	S I 11 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	N 5 灰
59—6	28-6	S I 11 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	10 Y % 灰
59— 7	28-7	S I 13 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	10B G 幺 暗青灰
59—8	28-8	S I 17 R P一括 I ~Ⅱ層	壺(甕)・胴部	10YR½ 灰黄褐
59 9	28-9	S I 17 R P一括	壺(甕)・胴部	N 3 暗灰

	拓影図 番 号	図版番号	註記番号	器種・部位	色 調
	59—10	28-10	S I 31 R P — 1 フク土上	壺・口縁部	10Y R
	59—11	28-11	13C カクニン面	摺鉢・体部	2.5 Y R ¾ 極暗赤褐
	59—12	28—12	S I 19 R P一括 フク土中	壺(甕)・胴部	10Y R ½ 灰黄褐
	59—13	28-13	S I 31 R P 一括 フク土下	壺(甕)·胴部	10 Y 5/4 灰
	59—14	28—14	3-B カクニン面	壺(甕)・胴部	7.5YR¾ 暗赤褐
	59—15	28-15	3-B カクニン面	摺鉢·体部	5 Y R¾ 極暗赤褐
-	59—16	28—16	4 — C R P — 括 カクニン面	摺鉢・底辺部	7.5Y R¾ 極暗褐
PERSONAL MEDICAL	59—17	28-17	7-D RP一括 フク土下	摺鉢・体部	5 Y % 明赤褐
	59—18	28—18	8-B R P-括 表採	壺(甕) 口縁部	5 Y R¾ 黒褐

第57図 ブリッド出土土器拓影・実測図(1)



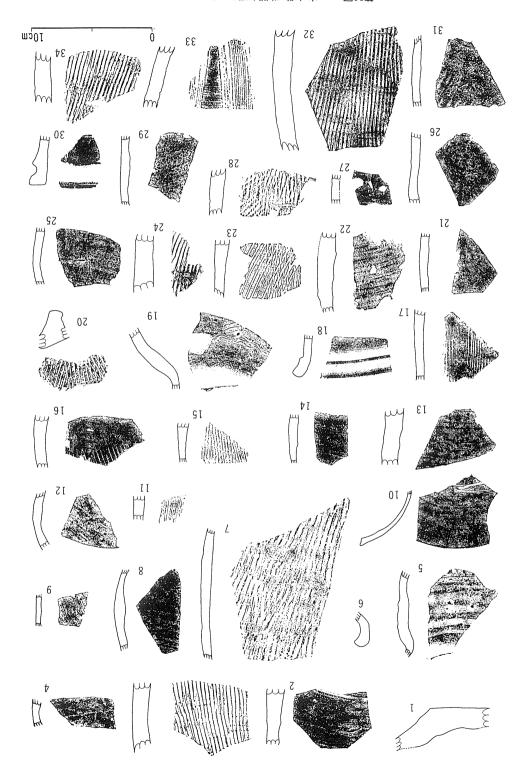


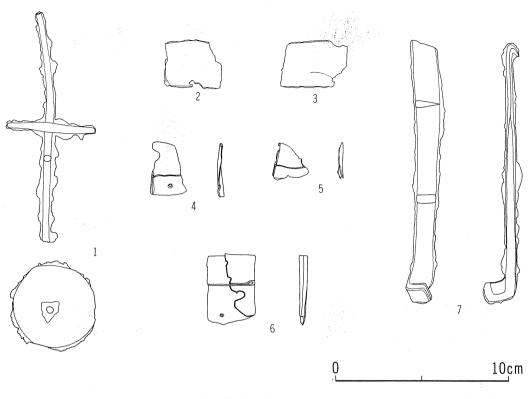
第58図 グリッド出土土器拓影・実測図(2)

59—19	28-19	8-F 柱穴内 RP一括 フク土中	壺・肩部	N 5 灰
59-20	28-20	8-F 柱穴内 RP一括 フク土中	摺鉢・底辺部	7.5Y R¾ 黒褐
59-21	28-21	8-G 柱穴内 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	2.5Y
59—22	28-22	8-G 柱穴内 一括 フク土中	壺(甕)・胴部	N 3 暗灰
5923	28-23	8 — G 柱穴内 一括 フク土中	摺鉢・体部	7.5Y R½ 黒褐
59—24	28-24	8 — H R P — 括 カクニン面	壺(甕)・胴部	2.5Y% 黄灰
59—25	28—25	9-C 一括	壺(甕)・胴部	N 3 暗灰~ 2.5 Y ½ 灰黄
59—26	28-26	9-C RP-括	壺(甕)・胴部	10Y R¾ 黒

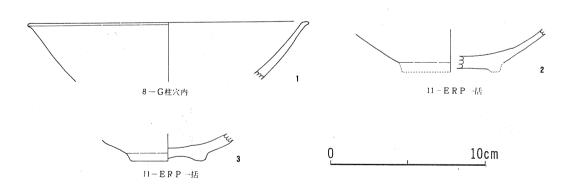
59—27	28-27	9-C 一括	壺(甕)・胴部	5 Y ¾ 黒
59-28	28—28	9-D 一括 フク土中	壺(装)・胴部	5 Y 5/ 灰
59—29	28-29	10-C RP-括 カクニン面	壺(甕)・胴部	10Y R 5/ 褐灰
59-30	28-30	10-E 一括 カクニン面	壺(甕) 口縁部	5 Y R% 橙
59—31	28-31	11ーF SK1 フク土中	壺(甕)・胴部	7.5Y R ¹ ·
59-32	28-32	13 F R P括 フク土中	壺(甕)・胴部	10 Y % 灰
59—33	28-33	13-F RP-括 フク土	摺鉢・体部	10Y R¾ 黒褐〜 5 Y ½灰オリーブ
59—34	28-34	13-F 遺構外	壺(甕)・胴部	2.5Y % 灰白

図順実・場路器 樹土出 図63第





第60図 出土鉄製品実測図



第61図 出土白磁実測図



第62図 出土砥石実測図

第41表

出土砥石計測説明表

実測図	図版号	出土地区	註記番号		别	大		<u></u>	さ	石質	備考
番号	番号	птъек	PL 8C HF 9	種	-50	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	11 貝	加 与
62-1	29 8	S I 005	RQ 一括	砥	石	69.0	46.0	40.5	189.7	凝灰岩	砥面数4
62 2	29 9	S I 005	RQ 一括	砥	石	129.5	57.0	28.0	288.0	泥岩	砥面数4
62-3	29-10	S I 11	RQ フクド中	砥	石	46.5	39.5	11.5	40.1	凝灰岩	砥面数4
62-4	29-11	S I 13	RQ フク土中	砥	石	58.5	31.5	33.5	84.1	凝灰岩	砥面数4
62 5	29—12	S I 14	RQ フク土中	砥	石	142.0	74.0	43.5	606.5	泥 岩	砥面数4
62-6	29-13	S I 16	RQ フク土中	砥	石	164.5	43.5	32.5	359.9	凝灰岩	砥面数4
62-7	29-14	S I 17	RQ 床底面	砥	石	141.5	42.5	57.5	576.3	凝灰岩	砥面数4
62-8	29—15	14— E	RQ 一括	砥	石	132.5	93.5	70.5	897.6	流紋岩	砥面数 4

第42表

出土繩文土器片拓影説明表

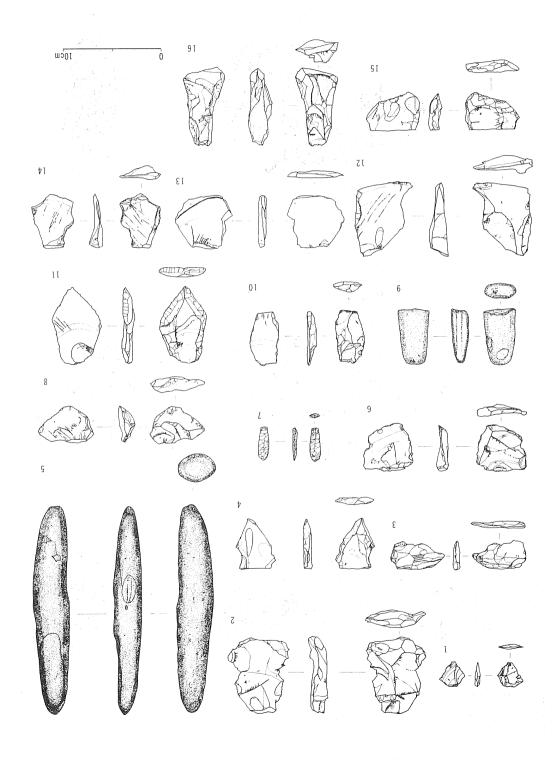
実測図 番 号	図 版番 号	出 土地 区	註 記	番号	形態 位	文 様 構 成	内 面 整	焼成	胎 土	色 調
63-1	30-1	17— D	17— D	一括	深 鉢口頸部	貝殼腹緣圧痕文(羽状) +沈線+刺突	なで	良好	細砂を含む	7.5 Y R ¾ 黒褐色
63-2	30— 2	16— C	16-C 確認面	RP一括	深 鉢底 部	貝殼腹緣圧痕文	なで	良好	細砂を含む	5 Y R % 暗赤褐色
63-3	30-3	15— F	15— F	R P一括	深 鉢 胴 部	貝殼腹縁圧痕文	なで	良好	細砂を含む	7.5Y R ¾ にぶい橙色
63-4	30-4	15—E	15— E	RP一括	深 鉢 口縁部	LR繩文+無文+沈線	みがき	良好	精選	5 Y R % 明赤褐色
63— 5	30 5	16— D	16— D	R P一括	深 鉢口縁部	LR繩文+磨消+沈線	みがき	良好	精選	10 Y R ¼ にぶい黄橙色
63— 6	30-6	12— E	12-E 確認面	R P一括	深 鉢底 部	R上繩文	みがき	良好	粗砂を含む	10 Y R % 黄橙色
63— 7	30— 7	17— D	17— D	R P一括	深 鉢胴 部	LR縄文+沈線	みがき	良好	細砂を含む	7.5YR% 橙 色

第43表

出土石器・剝片計測説明表

実測図	図版号	出土地区	註記番号	種	別	大	ŧ	さ		7-	形斤	備	考
番号	番 号					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石	質	1厢	45
64-1	31-1	S I 12	フク土中	剝	片	25.0	25.5	5.5	2.3	黒田	翟石		
64-2	31-2	S I 013	フクド中	剝	片	79.5	63.5	19.5	60.6	頁	岩		
64-3	31-3	S I 016	RQ一括、床面	剝	片	30.5	56.5	7.0	11.6	粘木	反岩		
64 4	31-4	4 D S D	RP一括、フクド中	剝	片	52.5	40.5	7.5	14.4	頁	岩		
64-5	31-5	S I 013	フクド中	石	棒	218.5	37.5	29.5	320.7	頁	岩		
64 6	31-6	6 — A	RQ一括、カクニン面	剝	片	48.0	51.5	13.0	23.6	頁	岩		
64— 7	31 7	12— I	RQ一括、カクニン面	石	鏃	34.0	11.5	4.0	1.8	硬質	頁岩		
64-8	31-8	12— I	RQ一括、カクニン面	剝	片	38.0	57.0	14.5	24.0	頁	岩		
64 9	31 9	12— I	RQ一括、カクニン面	石斧頭	部	58.0	32.0	15.0	57.8	凝历	7岩		
64-10	31-10	12— I	RQ一括、カクニン面	剝	片	56.0	29.0	11.5	14.9	頁	岩		
64-11	31-11	14— C	カクニン面	不定形石	7器	79.0	49.0	10.0	44.1	頁	岩		
64-12	31-12	15— C	RQ2、カクニン面	剝	片	77.0	61.5	17.5	58.2	頁	岩		
64-13	31-13	15— F	RP、フクド上	剝	片	53.0	57.5	8.5	24.1	泥	岩		
64-14	31—14	16— D	R Q一括	剝	片	56.5	43.5	15.0	21.8	頁	岩		

31.7 頁 岩	59.6 頁 岩	33	3	10cm
13.0	17.5			
53.0	62.0	₩ <u>,</u>		
37.5	78.5	2		日報 计
制	庭 状石器			100日土縄文土器片拓影区
カクニン面				図289號
RQ, A	RQ一括	2	₹	
16—F	南トレンチ	A Company of the Comp		9
31—15				
64-15	64-16			



出土石器実測図(各遺構、アリッド出土) 図48第

6. まとめ

本遺跡で検出した遺構・遺物について若干のコメントを加えまとめとしたい。

かまどを付設する竪穴住居跡について

かまどを付設する竪穴住居跡 8 棟を観察すると、①覆土(埋土)中に浮石質火山灰粒を粗に 多量に混入。②1棟を除き南側壁にかまどを付設している。③柱穴が各壁中央部と隅部に配置 され、所謂対角線上の床面中央近くに見られない。④かまどの形態が所謂関東型を呈するもの が多い。などの共通する要素を抽出することができる。これらの要素について、近隣諸遺跡と 比較考究すると、①の浮石質火山灰粒を粗に多量に混入される黒色土のあり方についてである が、その素源となる浮石質火山灰粒の存在についてはこれを大湯浮石層=十和田 a 降下火山灰 層に対比することについて今のところ異論はないが、竪穴住居跡との関連では、埋土の混入物 となるには、⑦住居の構築前に降下堆積し、住居廃棄に伴い埋没時に、①居住時に降下してト 屋とその周囲に堆積し、住居廃棄に伴い埋没時に、⑦住居廃棄後に降下し堆積し、雨水等によ り混合する。の3時期が降下時期として『常識』として考えられるであろう。この3時期のい ずれかを決定するには、大局的な見方も勿論必要であるが、微視的、局部的な観察が必要とな る。(例えばかまどの袖部や煙道部側壁の粘土等構築材の下部に時々浮石粒が検出される例な どは、住居の構築前に浮石粒が堆積していなければありえない事象である。)この微視的観察で も降下後の所産であることが明確な竪穴住居跡の絶対年代は1,100±100 y・B・Pの範囲に集中 する。このことから浮石粒の降下下限はこれを下ることはないと考えられよう。②については、 この地域(鹿角地方)で調査されたかまどの付設されている竪穴住居跡 144 例のうち、時期、 地形、遺跡における住居占地位置にかかわらず、その7割までが南側壁に付設されている事実 があり、単純にこの理由を考えれば、風向、広場との位置関係よりも南側壁に付設させる強い 「規制」があったとも考えられる。また本遺跡の場合、各壁面がみかけの東、西、南、北の方 位に一致する 7 棟は南側壁にかまどが付設されているが、東側壁にかまどを付設する竪穴住居 跡1棟が各方位に隅部を向けており、棟方向(占地の仕方、住居の向き)が異っていることに も留意すべきである。つまり鹿角地域における住居の向き、かまどを付設する壁面の方向がほ ぼ一定している中で、地形的にも大幅な変化も認められないまま遺跡の中で、少数棟だけがそ の「規制」をはずれる(はずれている)ことは、「大部分が一致する」ということからの「強い規 制」を想定する理解方法から、なぜ「少数が反する」のかその理由を求める理解の方法が必要 ではなかろうか。③については、柱穴の配置が上部構造に直接関連するものであるだけに重要 な要素のひとつである。竪穴住居跡の対角線上の床面上に4本配列する一般的な柱穴配置と異 なり、所謂床面上に配列せず、壁に接するように壁溝中の壁面下方の中央部と隅部に8本配置

する方法は、掘立柱建物跡の柱穴配置に類似しており注目されるものである。竪穴住居跡の柱穴配置については、三浦圭介氏が青森県浪岡町源常平遺跡の調査報告の中でタイプ分類されており、本遺跡例は氏の言われるFー1類のパターンであるが、鹿角地域の調査例ではこのパターン例が顕著である。この柱穴配置のパターンからは、居住空間に柱間仕切り壁が存在せず「外壁」中に主柱、支柱がある有効空間の広い軒高な上部構造を推定されよう。柱穴配置の変遷についての年代観は明らかにされておらないが、伴出する土器等の相対年代及び絶対年代から少なからず見通しが立てられよう。④については、平面形状が「煙道部の長いかまど」と認められても、精査の結果使用痕、構造等から煙道部が短く、焚口から煙出孔にむかって急上昇する形態と判明したものが多い。

- 註 1 北の林 I 、北の林 II 遺跡他数遺跡の¹⁴C年代測定結果による。なお¹⁴Cの半減期5730年に もとづいており Libby の5568年とは差を生ずる。
- 註 2 三浦圭介 「4 竪穴住居跡について(柱穴の配置)」『源常平遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第39集 1978年

かまどを付設しない竪穴住居跡について

かまどを付設しない竪穴住居跡について観察すると柱穴配置はかまどを付設する竪穴住居跡と同じであり、床面に焼土が若干堆積しているのが認められるのが炉跡とすれば、かまどのかわりに炉を付設した竪穴住居跡と考えられる。またSI001、SI002、SI032 のように張り出し部をもつ竪穴住居跡もあり、これらは妻の神III遺跡の発掘調査を明らかになったように中世の所産と考えられる。

註3 昭和56年度県文化課が調査

掘立柱建物跡について

3 棟確認された掘立柱建物跡は、SB001、SB002の2棟がその柱穴内に黄褐色浮石質火山 灰粒を多量に混入する黒褐色土を認めることができることから黄褐色浮石質火山灰粒の堆積後 の構築により撹乱再堆積したものと考えられる。

土器について

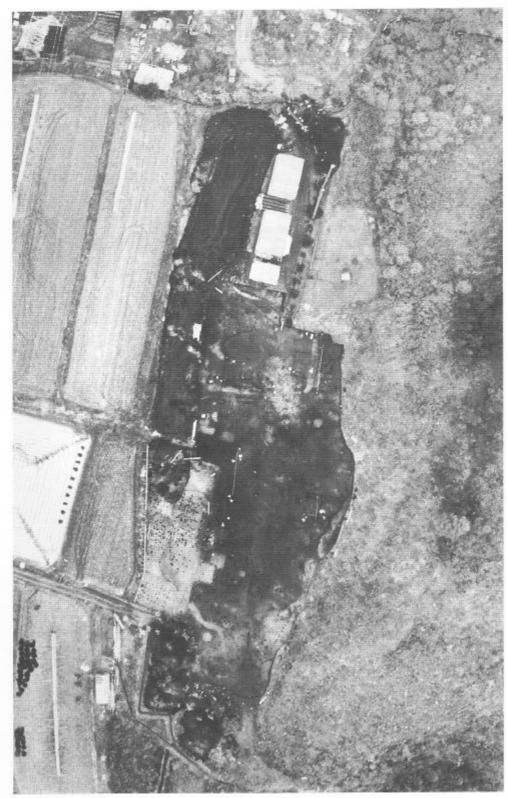
本遺跡では、土師器、須恵器を主体とするが、少量ながら繩文土器、陶磁器類も出土している。縄文土器は、早期、中期、後期の3時期の小破片が出土しており、3点の貝殼文土器片は注目されよう。陶磁器類は直接遺構と関連する出土例は少ないが、摺鉢片や珠珊系土器に混って3片の白磁椀片が出土している。土師器については、坏形、甕形の他に鍋形の形態がみられる。ろくろで整形、切り離し後に調整を加えない坏形土師器、ろくろから切り離し後、内面を

ヘラミガキと黒色処理を加えた坏形土師器、ろくろ切り離し後、粘土紐を底縁に巡らして高台 とした高台付坏形土師器があるが、器形的には口径>底径×2、高さ≥底径の値を示し、湾曲 するプロポーションをもつ。このプロポーションはまた坏形、須恵器にも共通する。甕形土師 器は小礫を混入する粗い粘土を胎土とし、その成形、整形にろくろを使用しないもの、胎土を 精選し整形にろくろを使用するものの2種が認められるが、胴部の主要調整技法は、粗いヘラ ケズリであり、口径<底径×2と底径が大きめの長胴・胴張りなプロポーションをもっている。 底部には木葉痕砂粒付着等が認められる。底部に木葉痕を有するのは奈良時代以来の「伝統」 であるが、砂粒付着は突発的事象である。木葉痕、砂粒付着が底部に認められるのは、竃その 成形時に下に敷いたために痕跡が残った。⑦乾燥時に置いたために痕跡が残った。が考えられ 更にそれらが、の積極的に付けられた。竃偶然に付いた。のいずれかが考えられる。砂粒を底 部に付着させている甕形土師器は近年米代川流域から津軽地方に多く出土しており、その出土 (分布)範囲、共伴遺物の編年的位置も明らかにされつつある極めて特徴的な甕形土器である。 鍋形土器は近年出土例が増加しているが、これは、日常什器としての土器セット内容が何らか の影響をうけて変化したものであろう。土器のセット関係では、S I 013、S I 014から出土し た土器が注目され、この時期の日常生活什器(土器)の内容を示すものであろう。また、坏形 土師器の中には、「寺「八万」「全」等墨書のあるものが見られ、仏教と関連する「寺」について は書体を異にするが、小平遺跡第4号竪穴住居跡でも出土しており、鹿角地方への仏教流布と 「寺」建立の時期等をもあわせて今後更に検討する必要があろう。

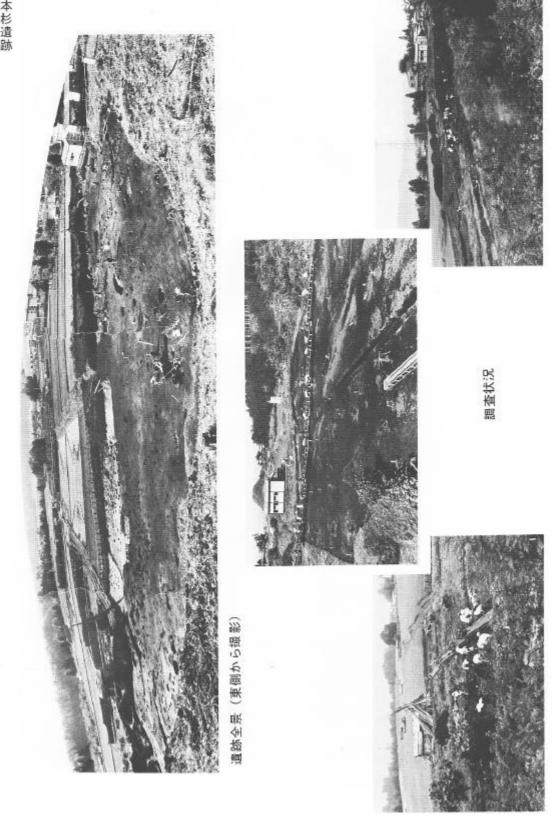
- 註4 珠珊系土器という名称については種々の解釈(定義)で使用されているが、本遺跡では、本来的な珠珊焼とは若干ニュアンスを異にし、地方窯で焼成されたものではないか(例えば二ツ井町エヒバチ長根窯跡)と推定されるものを考慮している。
- 註5 桜田 隆 「底部に砂粒を付着させる甕形土師器について」『日本考古学協会 昭和57 年度総会研究発表要旨』 1982年
- 註 6 鹿角市教育委員会『小平遺跡発掘調査報告』鹿角市文化財調査資料第10号 1979年

一本杉遺跡 発掘調査参加者名簿

調査補佐員 神田 公男 児玉 昭彦 池田 洋一 安保 廣 阿部 明人 畠山 米田 哲 高橋 修 圭 整理作業員 阿部 香子 木村 クリ 藤井富久子 発掘作業員 浅利善太郎 斎藤富仁郎 山口重次郎 川又権太郎 佐藤喜之丞 菊池 政吉 小田 幸吉 秋元 毅 安保 茂 大信田 学 菊池 トシ 成田 リエ 安保ヨシノ 安保 リウ 浅石十三子 浅石 キサ 工藤 ムラ 高橋 幸 阿部 キエ 成田 チギ 柳沢 ミエ 川又 ミヨ 川又 サヨ 山本 キヌ 川又 エイ 米村 トメ 児玉 春子 木村 ヒデ 川又 テル 小沼 テル 木村 ミツ 金沢 リセ 阿部アヤ子 佐藤 ミノ 川又ハチョ 川又トキエ 関 川又 トシ ハギ 中村 リヨ 中村クニエ

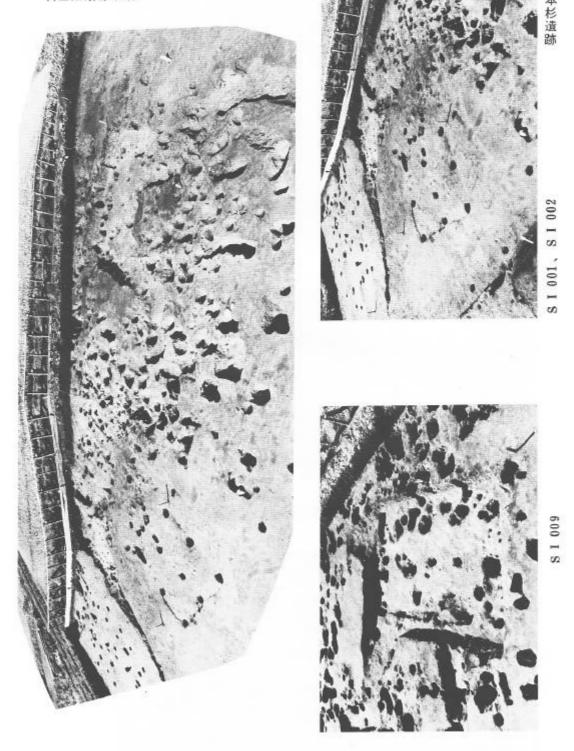


図版1 遺跡全景航空写真



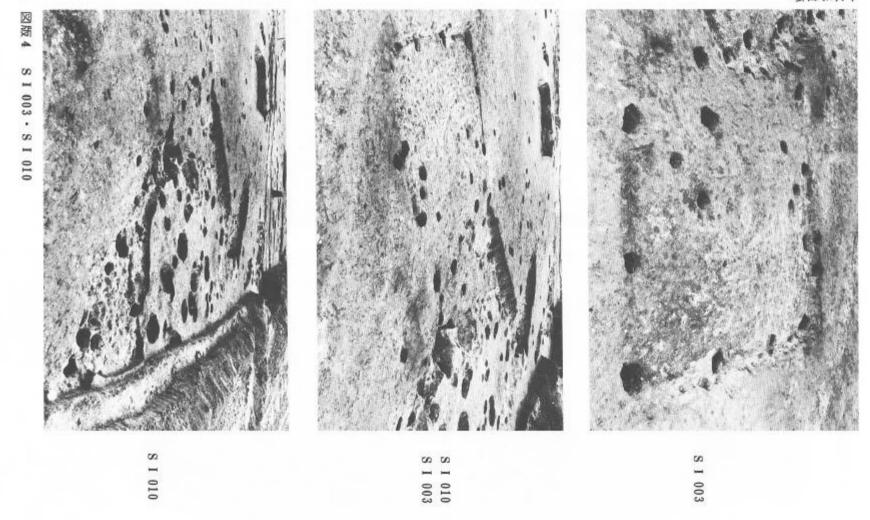
図版2 遺跡全景

水田面遺構全景

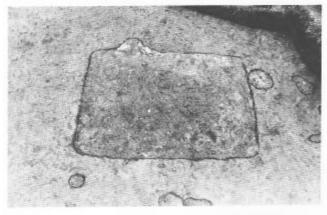


図版3 SI001·SI002·SI009

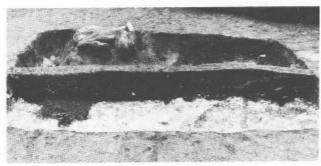
格防遍题



THE RESIDENCE OF THE SECOND SECTION OF THE REPORT OF THE RESIDENCE OF THE RESIDENCE OF THE RESIDENCE OF THE PROPERTY OF THE PR



S I 004プラン確認状況



S I 004 覆土堆積状況

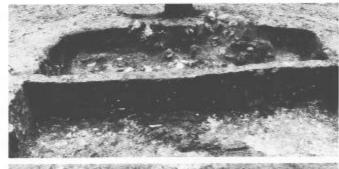


S I 004 完掘全景

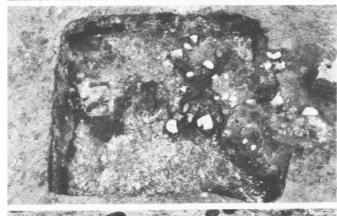


S I 004かまど両袖芯材と 支脚(甕形土器の転用)

図版5 8 I 004



S I 005 覆土堆積状況



S I 005 床上炭化物・材、 自然石出土状況



S I 005 炭化板壁材出土状況



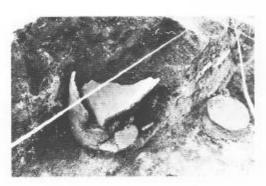
左:同上部分(西側壁)

下:同上部分(東側壁北東部)

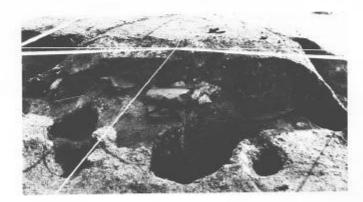




S I 006全景

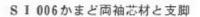






右上: S I 006かまど右袖部の 芯材としての甕形土師器

左上: S I 006かまど左袖部の 芯材としての甕形土師器

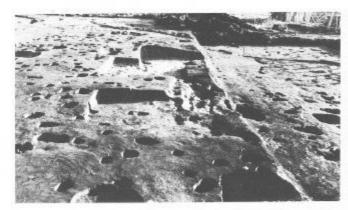




S I 006 完振状況

図版7 81006

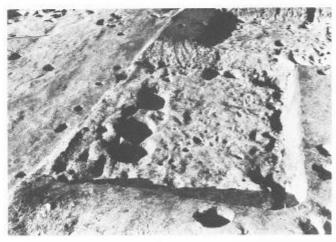
図版8 SI007·SB003·SI009



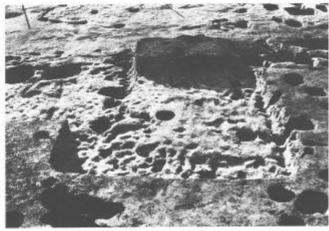
S I 011, S I 012, S I 016, S I 017, S I 018, S I 020 S I 021



S I 011、S I 012 (手前) (中央)

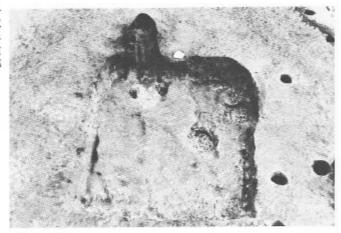


S I 011全景

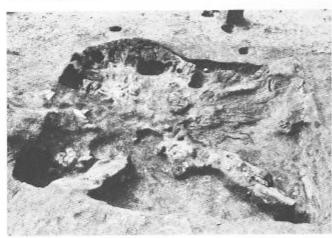


S I 012全景

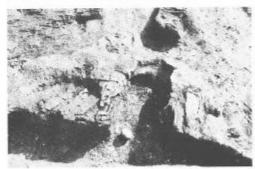
図版 9 8 I 011 · S I 012



S I 013 完堀状況



S I 013床上 炭化材出土状況 (左下、右下も同じ)

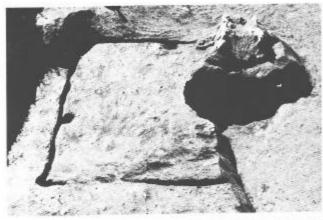






S I 013かまど両袖芯材 及び支脚

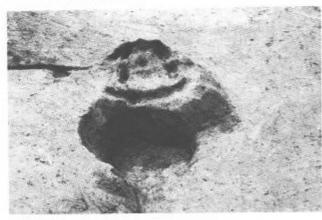
図版10 8 1 013



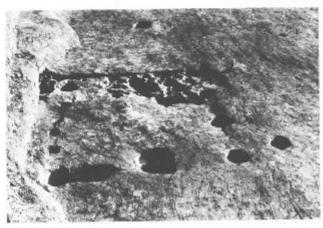
S I 014全景



S I 014かまど検出状況

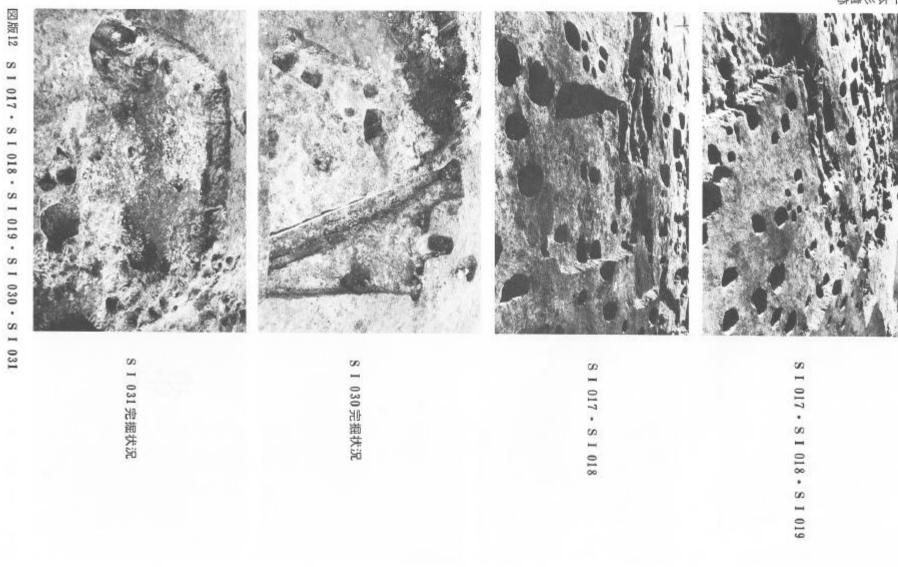


SI 014かまど掘り方



S I 015全景

図版11 SI 014 · SI 015

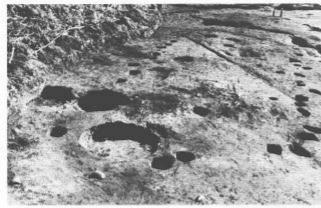


THE THE REPORT OF THE PROPERTY OF THE PARTY


7 ライン〜17ライン 検出遺構群



S B 002



S B 001



14-D~14-F 検出柱穴群

 $12 - D \sim 12 - F$

図版13 SB002 · SB001



12-D付近検出柱穴群



SI004とその南側柱穴郡

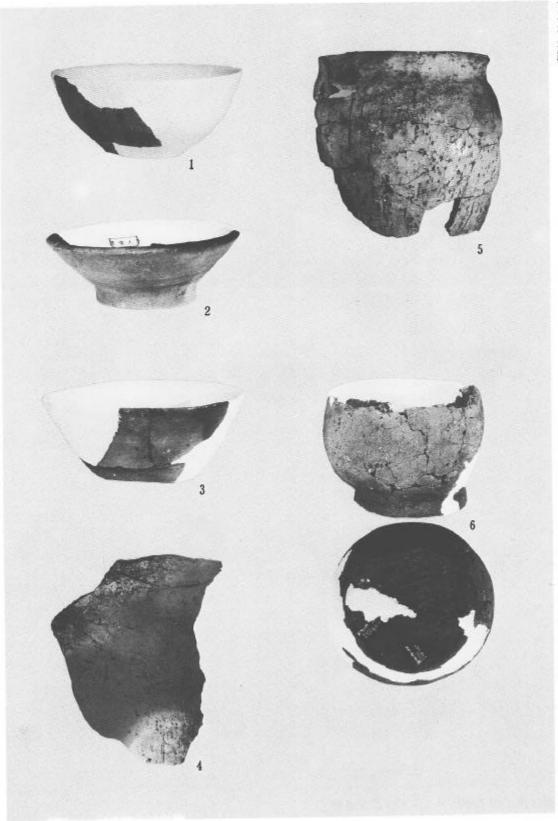


SD 002, SI 004

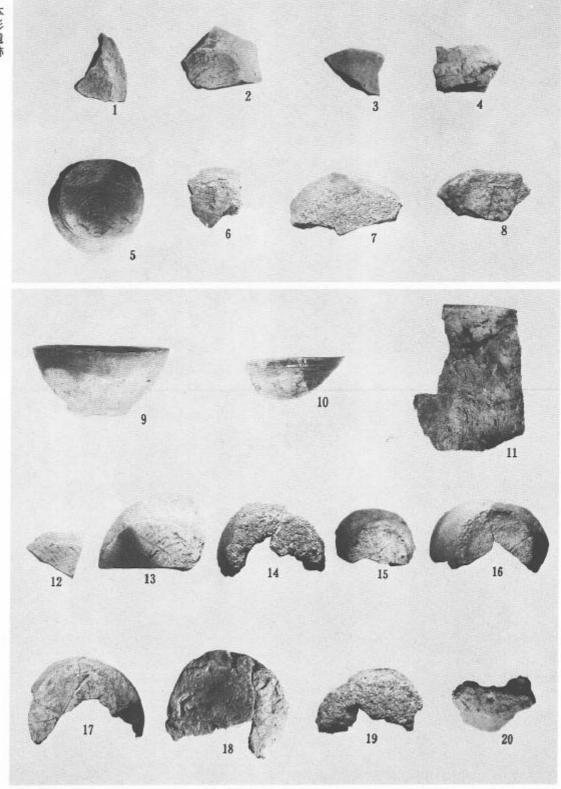


S I 005, S D 001, S D 002

図版14 SD002 · SD004

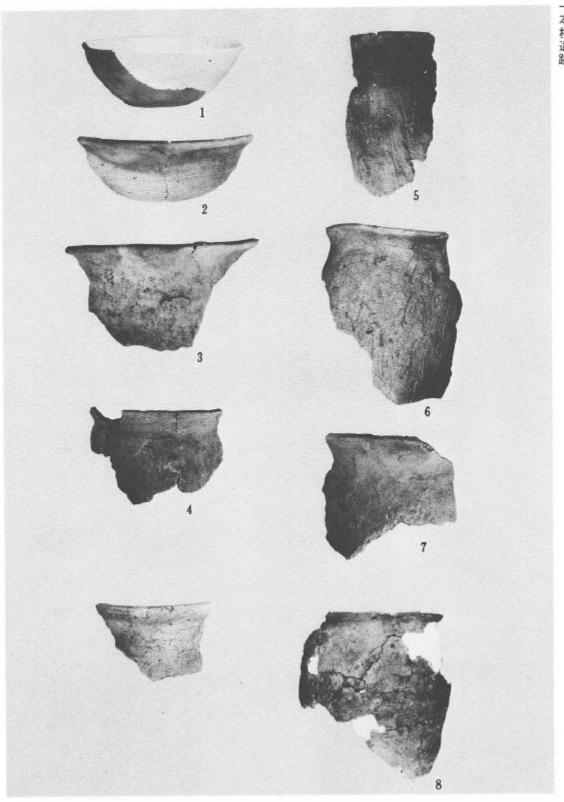


図版15 S I 004出土遺物

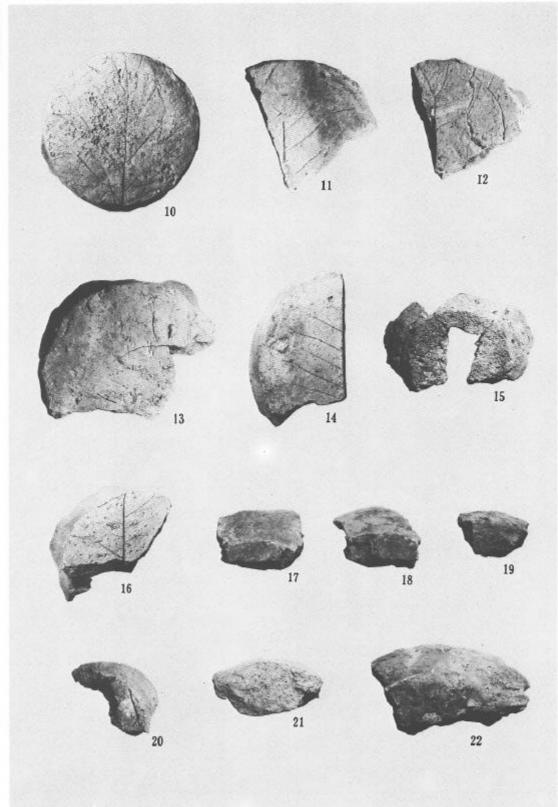


図版16 SI004 · SI005出土遺物

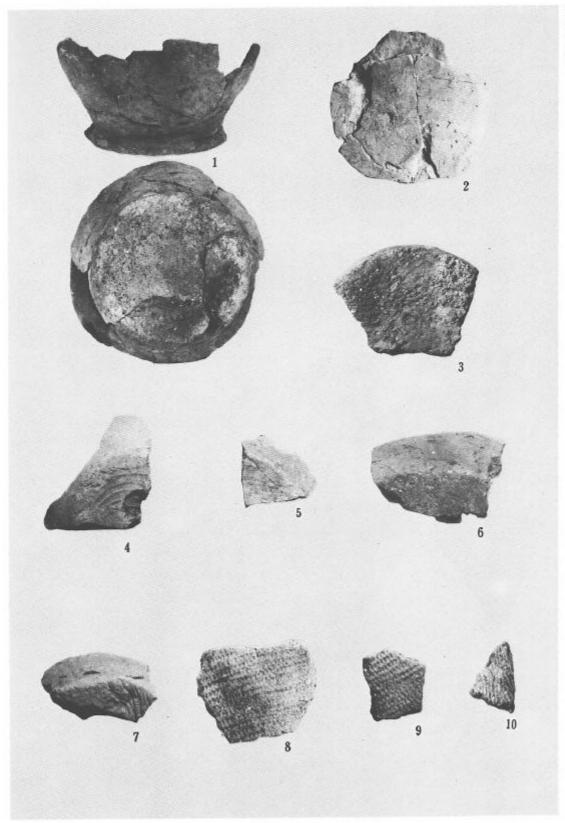




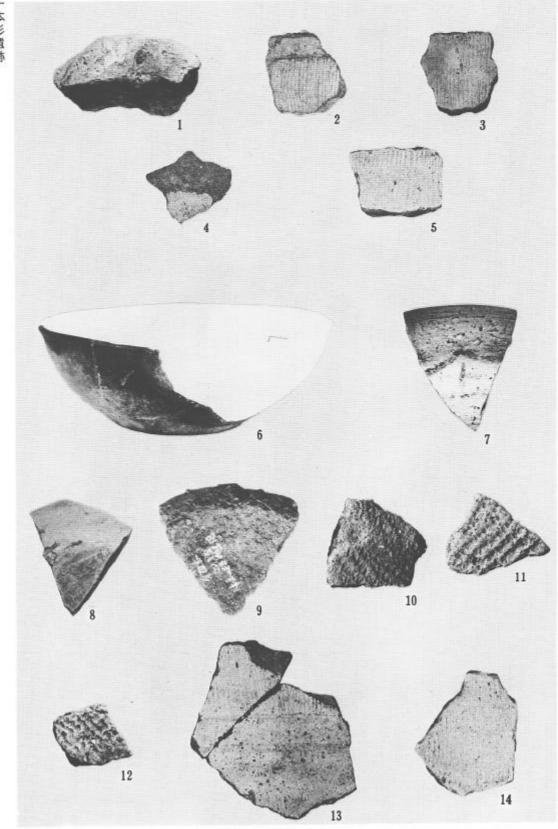
図版17 S I 006出土遺物(1)



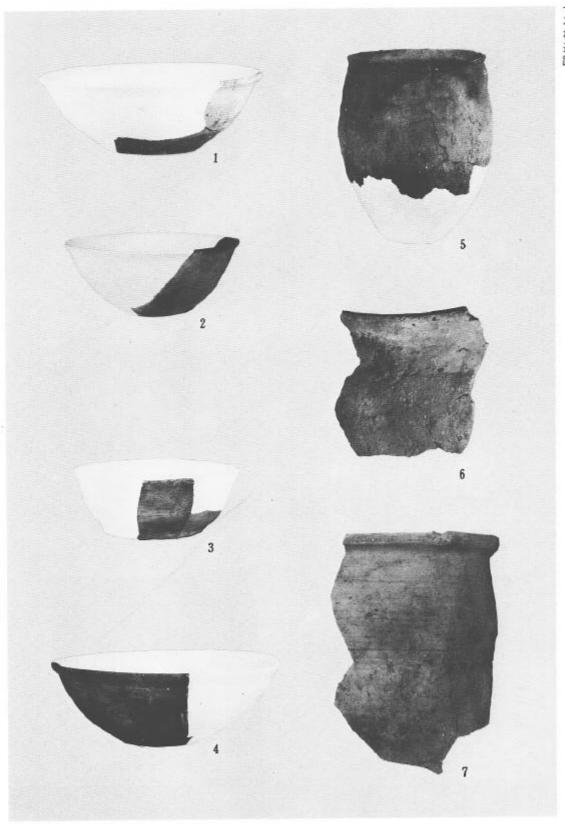
図版18 S I 006 出土遺物(2)



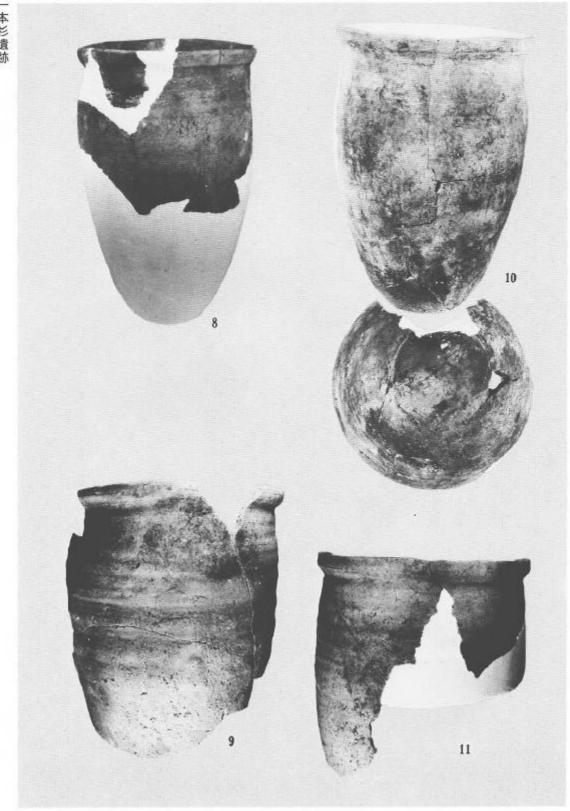
図版19 S I 011出土遺物



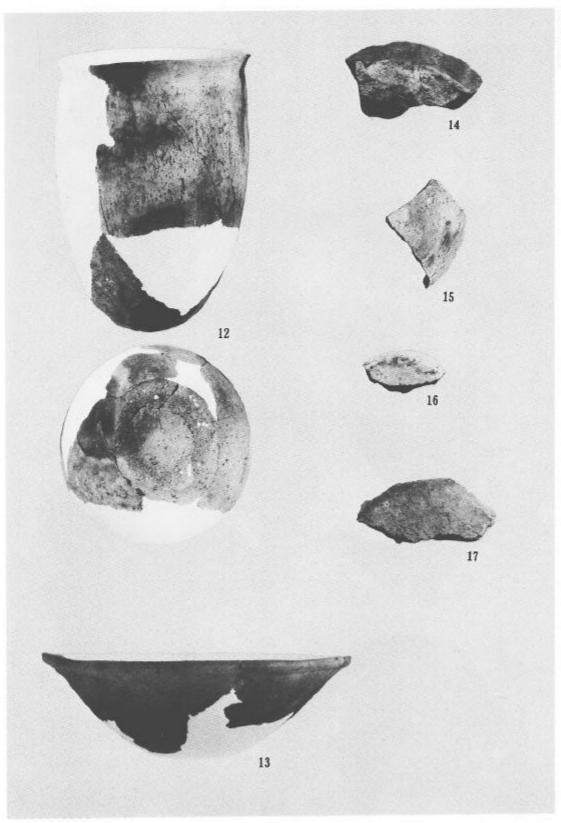
図版20 S I 010 · S I 012 出土遺物



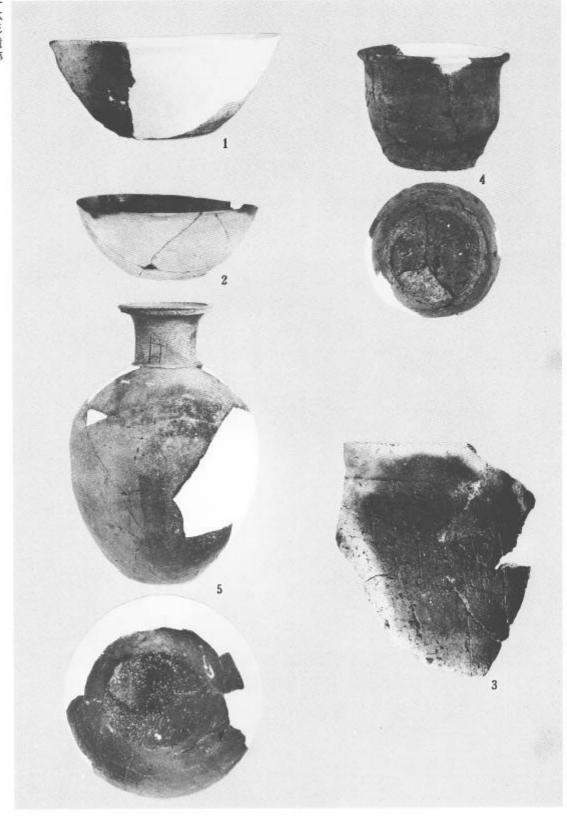
図版21 S I 013出土遺物(1)



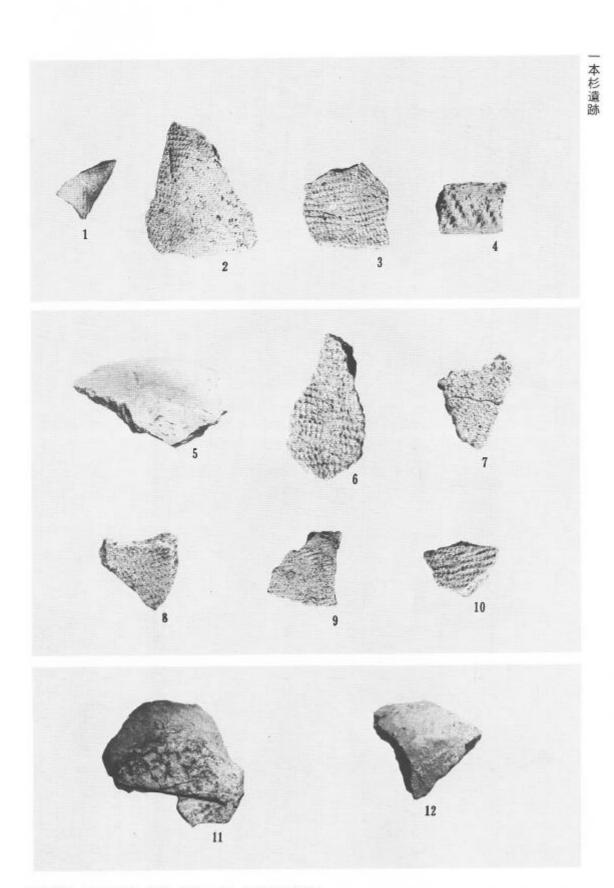
図版22 S I 013 出土遺物(2)



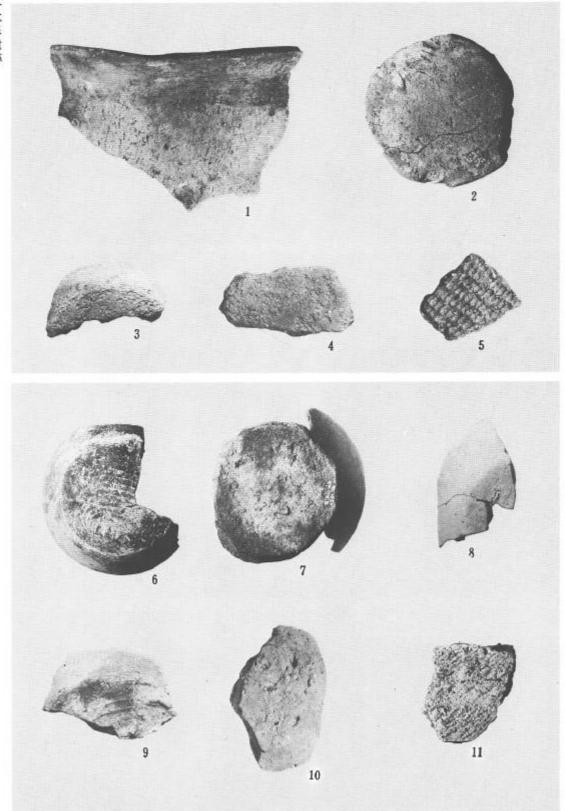
図版23 S I 013出土遺物(3)



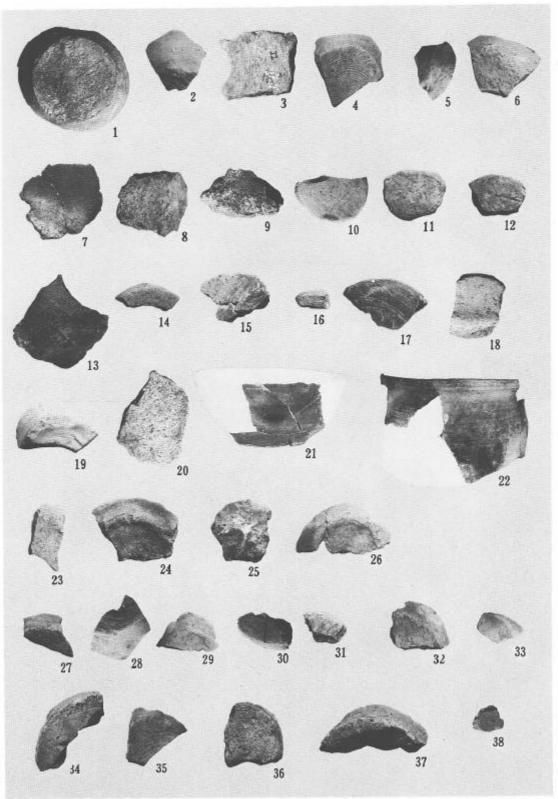
図版24 S I 014出土遺物



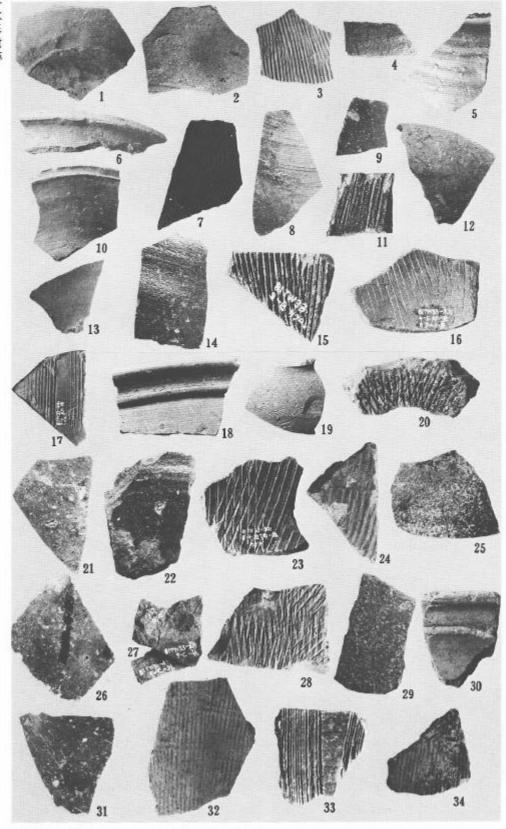
図版25 SI016·SI017·SI019出土遺物



図版26 SI030·SI031出土遺物

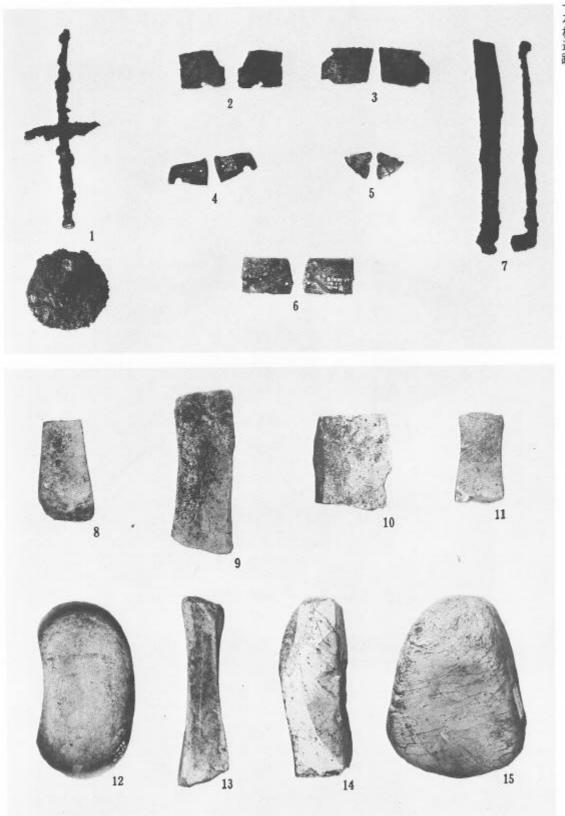


図版27 グリッド出土土器

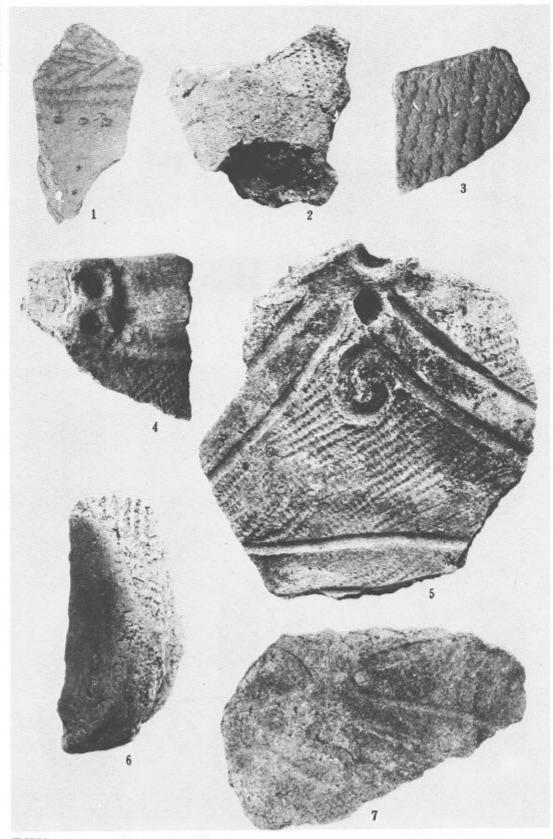


図版28 遺構・グリッド出土須恵器・陶磁器

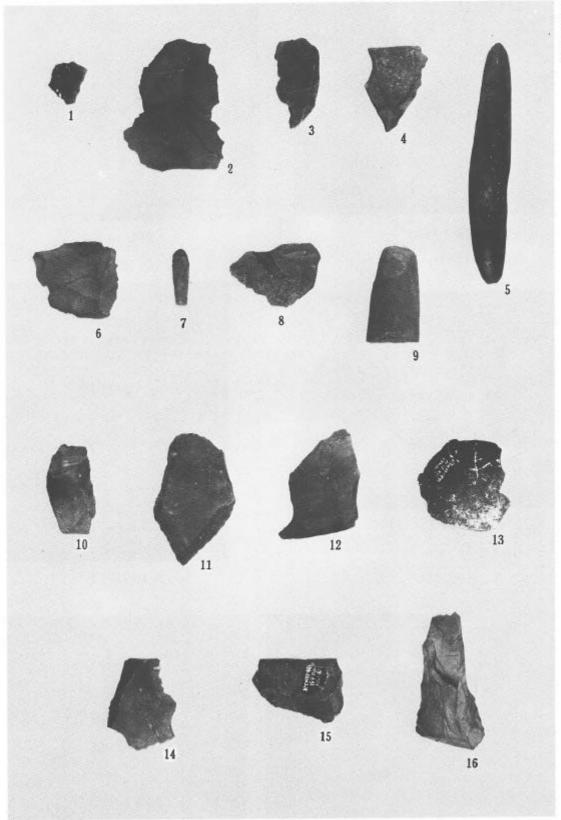




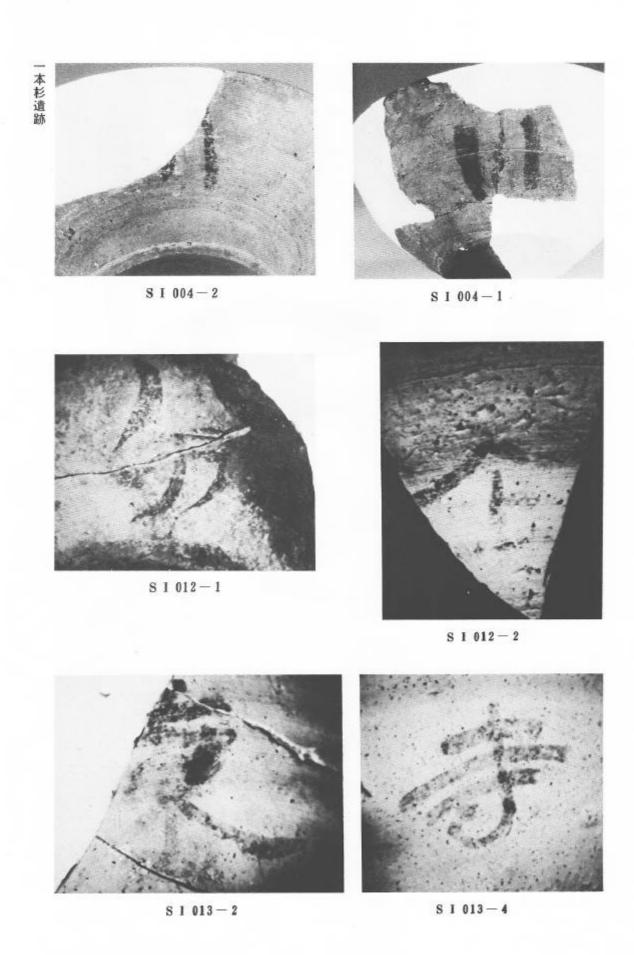
図版29 出土鉄製品・砥石



図版30 グリッド出土縄文土器片



図版31 遺構・グリッド出土石器・剝片



図版32 墨書土器赤外線写真

案 内 III 遺 跡

遺 跡 番 号 No.34

所 在 地 鹿角市花輪字案内21の1番地 他

調 査 期 間 昭和56年4月20日~8月22日

発掘調查予定面積 2,223 m²

発掘調査面積 3,600 m²

1. 遺跡の概観

遺跡は国鉄花輪線陸中花輪駅東方2.1km,標高約200mの台地上に位置する。遺跡地経緯度は,日本道路公団設置の中心杭STA138+20での計測値によれば,東経140°48′45″,北緯40°11′25″である。

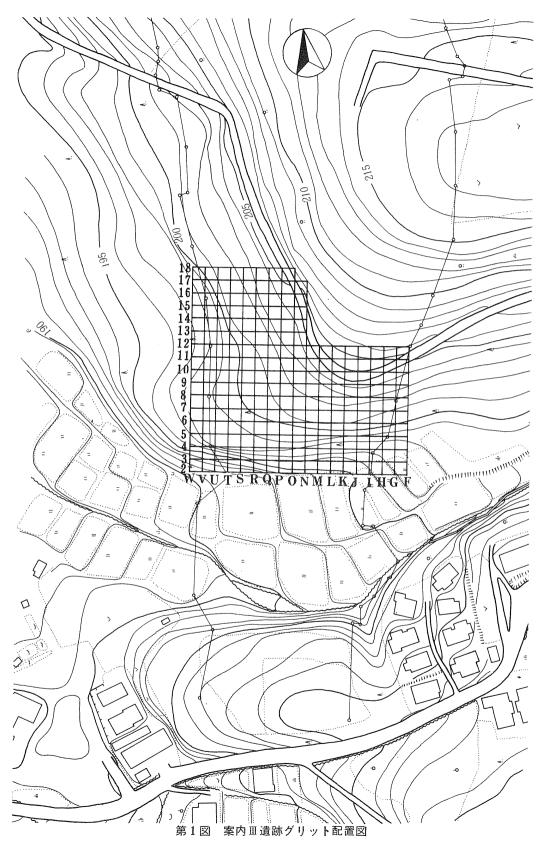
遺跡の立地する台地を含む鹿角盆地東側の丘陵は、盆地東部山地を源として米代川に注ぎ込む幾筋かの小河川によって開析されている。遺跡の立地する台地は、これら小河川のうち南側を福士川、北を乳牛川によって画された台地群の中にある。台地全体の形状は、西へ向ってひろく扇形を呈し、福士川がつくる扇状地との比高は30m程ある。220m程の台地の最頂部は、扇の要の部分にはなくやや南側へ寄る傾向にある。したがって台地頂部から広がる斜面は北側で緩く、南側で急峻である。遺跡調査区は、南側の斜度9°を計る斜面上に設けられた。

本遺跡は、昭和48年度に行われた東北縦貫自動車道関係の分布調査の時点では確認されていなかった。昭和55年度に行われた案内II遺跡(遺跡番号No.19)調査の際、案内I遺跡(遺跡番号No.18)との間に杉を伐採した後のいくらか平坦な箇所を認め、幅2m50cmのトレンチを路線と直交させて計7本設定して調査した結果、平安時代と繩文時代の複合遺跡であることが判明した。そのため、鹿角市区域での東北縦貫自動車道路線内にかかる遺跡としては最終の番号である遺跡番号No.34を付し、遺跡名を案内III遺跡と呼称し、昭和56年調査分として追加したものである。

本遺跡の周辺、福士川と乳牛川に狭まれた台地群には、本遺跡同様平安時代と繩文時代の複合遺跡である案内 I 遺跡 (遺跡番号No.18)、縄文時代後期の竪穴住居跡と袋状土壙群を検出した案内 II 遺跡 (遺跡番号No.19)、縄文時代後晩期の住居跡と土壙群を検出した猿ヶ平 I 遺跡 (遺跡番号No.20)、同 II 遺跡 (遺跡番号No.21)があり、やや西方へ行くと昭和55年度鹿角市教育委員会によって調査され、平安時代竪穴住居跡、掘立柱建物跡群を検出した御休堂遺跡がある。また東方には、東山 A、東山 B、赤坂 A、赤坂 B等の遺跡があり、縄文時代の土器が採集されている。

2. 調査の方法

日本道路公団設置の中心杭, STA138+20とSTA138+40を結ぶ直線を基線とし, STA138+40を起点として5m×5mのグリッドを組んだ, 各グリッドは, 各ラインに東から順にアルファベット, 南から順にアラビア数字を付して, その組合せによる各グリッド東南隅の杭によって呼称した。遺構外の遺物の取り上げもこのグリッド呼称にしたがって行った。



— 234 **—**

遺跡は前述のように、前年度に行ったトレンチ調査によって遺構の分布が概ね知られていた。 すなわち、調査区の中程から南端にかけて遺構の確認があり、北側へ行くにしたがい分布が疎 であるという事実が認められた。したがって、調査は南側に重点がおかれ、北側では路線とほ ば直交する形で、傾斜に沿った幅5mのトレンチを設け、遺構を確認した段階で調査区の拡張 をはかる措置をとることとした。

また、調査区は杉林として利用され、ほぼ2~3mの間隔で径50cm程の杉の切り株があり、 遺構の精査に支障をきたすものについてはそれらの抜根を必要とした。しかし、遺構確認以前 の抜根は遺構を破壊することが予測されたため、抜根は粗掘、遺構精査の進み具合にしたがい 人力で行った。

各遺構は、その検出順に通し番号を付していったが、精査の結果遺構と認められないものも あり、それらについては欠番としている。遺構の精査は各遺構とも遺跡基本層序第Ⅲ層上面で の確認から行い、一本乃至は十字にベルトを残して覆土の堆積状態の観察に務めた。

3. 調査の経過

前述したように、本遺跡は昭和55年度に行われた案内II遺跡調査の際にその存在が知られた。 そして昭和56年4月20日から本調査を開始し、同年8月22日に調査を終了している。調査に費 された全日数は103日間であった。調査経過の大略は以下に記す通り。

昭和55年 11月10日~27日

案内Ⅱ遺跡南側の緩斜面に,幅2mの東西方向のトレンチ計7本を入れる。平安時代竪穴住居跡2棟,縄文時代竪穴 住居跡1棟を検出。案内Ⅲ遺跡として56年度本調査実施を決定する。

昭和56年 4月20日~28日

本調査開始。調査区内に残された杉枝の除去、雑木の刈払い。

表土除去作業開始。土捨場として調査区南側の水田跡地を選定し、これに繋がる南側斜面の除土から始める。(I~M、 2~6の各グリッド)

5月6日

第8号住居跡検出。併せて南側斜面から縄文時代前期の土器を多く出土させる。

調査区西側の表土除去を開始する。15日には第4号住居跡、18日には第5号住居跡を検出する。併せて第7号土壙な ど住居跡周囲の土壙も検出。

5月21日-

調査区東側の表土除去開始。25日に第16号住居跡、第6号住居跡、26日に第14号住居跡・第9号住居跡、6月3日に は第32号住居跡を検出。

5月30日

第1号住居跡検出。22日には第8号住居跡を含めて南側斜面の調査を終える。

6月2日

第10号、第11号、第12号の各住居跡を検出。また6月1日から1週間調査区北側表土除去のため重機を入れる。

6月11日

第2号住居跡検出。6月20日までに12ライン以南の表土除去完了。

7月15日

12ライン以北の調査区拡張。第15号住居跡検出。

7 月28日

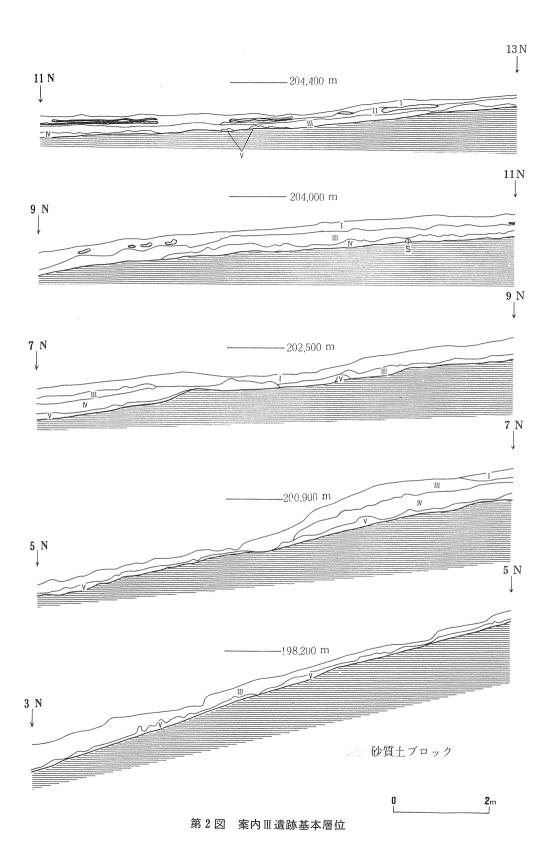
第18号住居跡, 第19号住居跡検出。調査区北側トレンチの表土除去完了。

8月12日

各遺構精査完了。

8月22日

補足の実測作業終了。調査終了。



— 236 **—**

4. 遺跡の層位

遺跡の基本層位の把握は前述のように、Nラインに残した層位観察のためのベルトにより行った。しかし実測図が示すように所謂地山面までの堆積土が全体に薄く、全体に一様な層序とはならないため、12ラインに設けたトレンチによってその観察の欠を補った。以下にその註記を記す。

- I. 色調10YR %黒褐色を呈する。粘性ややあり、しまっている。植物根が混入する。
- II. 色調7.5YR%黒褐色を呈する。粘性あり、径3~4mmの浮石を20~30%程含む。
- Ⅲ, 色調7.5YR ¾ 黒色を呈する。粘性あり、ボソッとした感触をうける。
- Ⅳ, 色調10YR%黒褐色を呈する。粘性あり。
- V. 色調7.5YR ¼褐色を呈する。粘性が強く、孔隙は少ない。しまっている。

これらの基本層位のうち、I層は耕作等の撹乱の著しい表土層である。このI層のプライマリーな状態を示すのがII層と思われるが、このII層は比較的傾斜の緩い台地上部に極く部分的に残っているに過ぎない。また、II層は浮石混入量の最も多い層で火山灰の降下はこのII層形成時にあったと考えられる。平安時代の竪穴住居跡覆土中にはこの浮石がかなりの量混入しており、プランの確認は黒色土中であっても比較的容易に行われる。このことから平安時代竪穴住居跡の構築面を、このI層とIII層またはII層とIII層の境界面近くに想定することが可能と思われる。

III・Ⅳ層は浮石を殆ど含まず、縄文時代の遺物はおおよそこの2層中に包含されている。またこの2層は縄文時代竪穴住居跡に埋土として堆積しており、地山面との漸移層である∇層を含めて、これらの層と地山との境界面近くが縄文時代の遺構構築面と考えられる。

5. 検出遺構と遺物

(1) 繩文時代

遺構

繩文時代の遺構としては、住居跡6棟、土壙17基、炉跡8基を検出している。

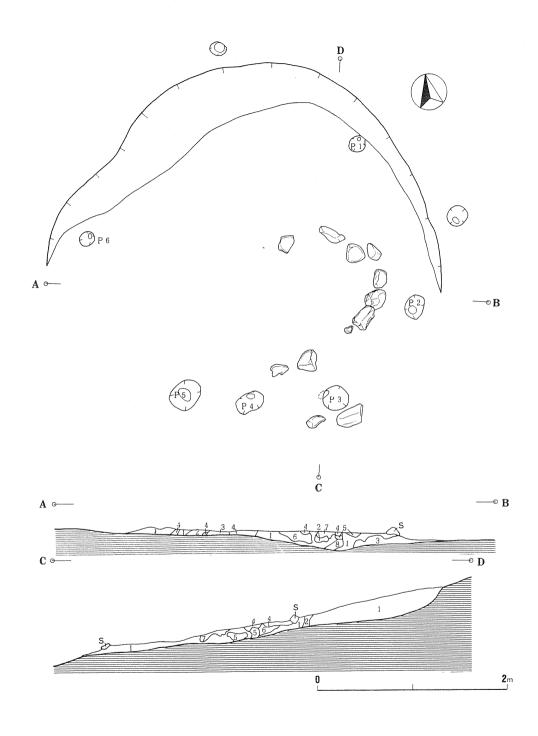
住居跡は台地縁辺部及び南側の斜面上から検出されている。第8号住居跡は前期に属し、他の第3号、第4号、第5号、第34号、第36号住居跡の5棟は後期に属する。これらの住居跡は概して掘り込みが浅く、確認面でのプランも非常に不鮮明な状態である。また南側の緩やかな斜面に位置するため、各住居跡とも南壁は表土除去の際に失われている。平面形態は概ね円形

→ P 253

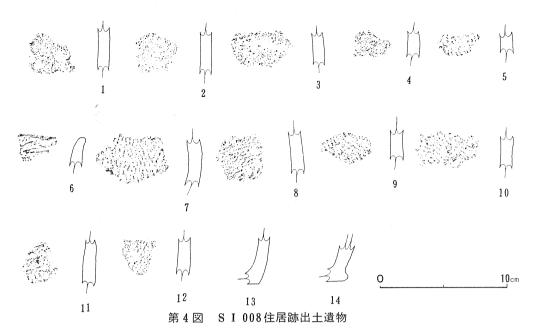
第1表 SI008住居跡観察表

S I 008住居跡 類 図 3, 4, 5 図 版 3, 25	
凶 版 3, 25	
検出区 4J, 4K, 5K	
径 3.99×4.08 m 面 積 (12.70 m²)	
主軸方位 N-117°-E**	
1.10YR% 黒褐色 粘性ややあり、孔隙小植物根混入2.10YR% 暗褐色 粘性強 孔隙小3.10YR% 暗褐色 粘性強 1,2の混じり合ったもの4.10YR% 黒 色 粘性強 孔隙小 植物根混入5.5YR% 赤褐色 粘性やや有 ボソボソした感がある(焼土)6.5YR% 暗赤褐色 粘性強 しまっている	
・ 北側半分しか検出されなかった 壁高は9.0~36.5cmの範囲にある	
床 凹凸して平らではない 斜面方向に比較的傾斜している	
P ₁ 17.5×17×36.8 北東 P ₂ 9×25×14 東 P ₃ 26×28×35.2 南東 P ₄ 19×30.5×19.2 南 P ₅ 28×33.5×21.2 南西 P ₆ 14.5×17×18.6 西	
位置 東側寄り	
炉 10個の河原石よりなる。整った形をしていないのは斜面のため土砂など たものと考えられる。	によって流され
遺 物 西側の壁面付近より多数土器片が出土した。石器が2点出土している。	
備 考 かなり急な斜面に作られている。そのため斜面下側に当る南壁は検出すかった。	うることは出来な

※主軸方位は竪穴住居跡の中心と炉の中心を結ぶ軸線と磁北線とのつくる角度による。

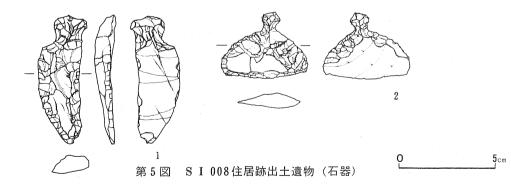


第3図 SI008住居跡



第2表 SI008住居跡出土遺物

挿図	出土地点	器形	âE	14	进	ŧ	量 (cm)		調	83	地 文	c)	- 成形	£.	34	胎士	焼成
番号	ULT TORKY	60-11>	in).	1M.	口径	体径	底径	器高		外	ifii	内	油	пх. л>	E	BM.	NG -1.	AME, FEE
1	S I 008	84:	駉	部					磨滅]				積み上げ法	浅黄橙(10 Y	R%)	僅かに砂粒を含む	やや良
2	S I 008	*	胴	38					磨滅					積み上げ法	にぶい黄檀	(10 Y R ¾)	僅かに砂粒を含む	やや良
3	S I 008	鉢	SPI .	38					磨減	同一個体	Marie Control of Annual Control of Annual Control			積み上げ法	浅黄橙(10 Y	R%()	僅かに砂粒を含む	やや良
4	S 1 008	鲜	胴	部					磨滅					積み上げ法	浅黄橙(10 Y	R%)	僅かに砂粒を含む	やや良
5	S I 098	84.	胴	86					Lの撚。	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R ¾)	砂粒を含む	やや良
6	S I 008	\$\$	ПN	牆					しの撚っ	糸文			and the same of th	積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R %)	砂粒を含む	やや自
7	S I 008	鉢	胴	部					Lの撚っ	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R %)	砂粒を含む	やや良
8	S I 008	\$k	腳	部		Luciona			しの撚り	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R %)	砂粒を含む	やや良
9	S I 008	鉢	酮	部					Lの撚	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R %)	砂粒を含む	やや良
10	S I 008	\$ \$	胴	部					Lの撚	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙(10 Y R %)	砂粒を含む	やや良
11	S I 008	\$4	胴	部					Lの撚;	糸文				積み上げ法	にぶい黄橙	10 Y R %)	砂粒を含む	やや良
12	S I 008	鉢	胴	部					Lの撚	4.文		Ī		積み上げ法	にぶい黄橙(10 Y R 74)	砂粒を含む	やや良
13	S I 008	鉢	庭	푦					磨減1、	2, 3, 4	と同一個体			積み上げ法	浅黄橙(10Y	R %()	僅かに砂粒を含む	やや良
14	S 1 008	ŝŁ	底	æ					しの拗。	4-1-		1		積み上げ法	にぶい黄檀(10 Y R %)	砂粒を含む	やや良



第3表 SI008住居跡出土遺物(石器)

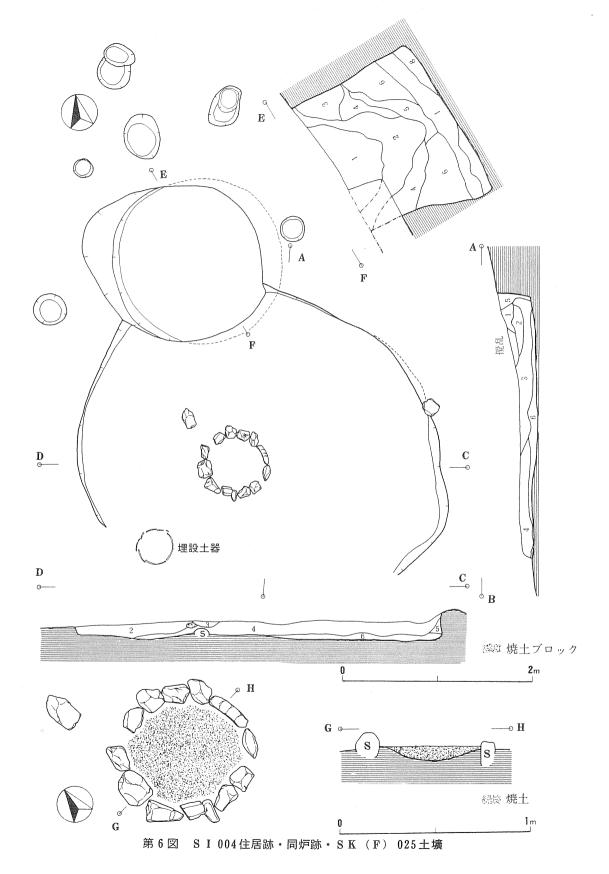
挿図番号	出土地点	器種	石質	長さ(縦)	幅(横)	厚さ	重量	觐 察
1	S I 008	石匙	頁岩	6.8	2.3	0.9	8.3	縦形、つまみ部頂部に僅かに打面を残す。裏面先端にも僅かに二次剁離を認める。
2	S I 008	石匙	頁岩	3.4	4.5	0.7	8.6	横形、つまみ部にあった打面は剝除される。裏面左肩辺も二次剝離をうける。

第4表 S1004住居跡観察表

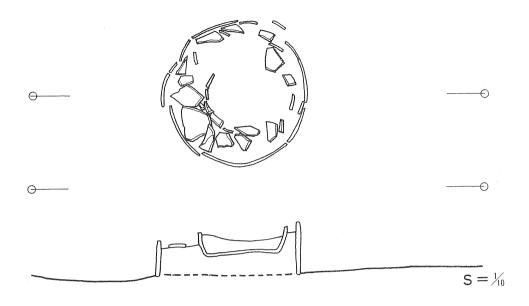
		S 1004 住居跡	捕	図	6, 7, 8
		0.001 12.12 22	図	版	3, 4, 26
検	出区	4T, 5T, 4S, 5S			
	径	$3.34 \times 3.80 \mathrm{m}$	面	債	(10.82m²)
主車	岫方位	N —65° — W	形 :	態	円形
覆	土	1.10YR 3 暗褐色 粘質 孔隙小 径: 2.10YR % 褐 色 粘性大 孔隙極め 3.10YR % 暗褐色 粘質 孔隙小 炭イ 土と暗褐色土ブロック状 4.10YR % 暗褐色 粘質 孔隙小 ロー 5.10YR % 褐色 粘性大 孔隙極めて 6.10YR % 黄褐色 粘性大 孔隙極めて 南壁はほとんど検出されなかった。北雪	て小 1 ヒ物(i に混む ーム ホ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	僅径り炭 地一	中に炭化物の混入有 Omm〜30mm程度)の混入甚しい 黄褐色 合う 化物粒 焼土粒の混入有 Jとの漸移層
	壁	床面に対する傾斜は88°~106°の範囲に 壁高は4.0~46.3cmの範囲である。	ある。		
	床	ほぼ平らである。			
ピ	ット	検出されなかった。			
	位置	中央やや西寄り			
炉		14個の河原石よりなる。形はほぼ円形を がレンズ状に堆積していた。	として	いる	。 1 個だけ離れている。炉内には焼土
遺	物	南西壁際より埋甕が二重になって出土し 胴部下部〜底部までであった。	_てい.	る。	外側は口縁~胴部上部までで、内側は

第5表 SK(F)025土壙観察表

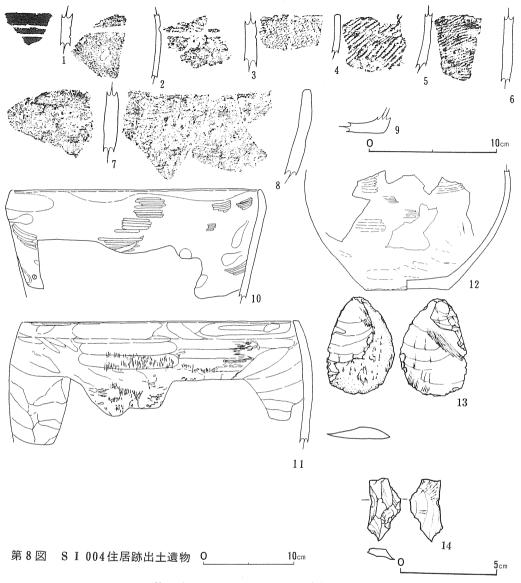
	S K(F)025土塘	挿 図	6
	5 K(F)020工順	図 版	3
検出区	5 T	規模・形態	196×166楕円形,底面ではほぼ正円形
深さ	142cm	面 積	2.46m²
確認状況	第4号住居跡北壁に確認。南側で 平面プランの確認時には中央に		・ 跡によって切られている。 漬していることが明瞭に観察できた。
覆土	1.10YR% 黑褐色 粘性弱 孔 2.10YR% 暗褐色 粘性弱 孔 3.10YR% 褐 色 粘性强 孔 4.10YR% 褐 色 黄褐色土 3 5.10YR% 黑褐色 粘質 炭化 6.10YR% 褐 色 粘性大 孔 7.10YR% 黑褐色 粘性弱 孔 8.10YR% 褐 色 粘性大 孔	際やや有 黄花 際比較的小 ま と暗褐色土の 物含み 僅から 勝有 均質 、際少 炭化物,	場色土と黒褐色土の混り合った土。 均質である。 昆り合った土。粘性大 孔障少 の焼土を含む。 遺物を多く含む。
遺 物	後期の土器片を比較的多く出土し	している。	



— 242 **—**



第7図 SI004住居跡・埋設土器



第6表 SI004住居跡出土遺物(土器)

1600			1		T								7		·
棒図	出土地点	器形	38	62.		进	i	載(cm))	調 整(地 文)		成 形	伍 調	胎士	
番号	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				E3	往	体径	底径	器高	外 面	内面	III. N>	E. 149	胎 土	焼 成
1	S I 004	鲜	胴	部						注 桿		積み上げ法	オリーブ黒色 (5 Y Y)	僅かに砂粒含む	A
2	S I 004	34	酮	36						洪線		積み上げ法	浅黄橙色 (10 Y R %)	僅かに砂粒含む	Ą
3	S I 004	\$\$.	N4	器						沈樑、縄文、LRタテ		積み上げ法	(こぶい権色 (7.5YR另)	砂粒を含む	やや良
4	S I 004	鉢	口禄	穑						縄文、R L ヨコ		積み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R 汚)	僅かに砂粒含む	B
5	S I 004	\$\$	腳	äß						縄文、LRヨコ、煤付着		積み上げ法	楊灰色 (10YR劣)	砂粒を含む	A
6	S I 004	\$4	腘	as						概文, LRヨコ		積み上げ法	楊灰色 (10YR所)	僅かに砂粒含む	A
7	S I 004	84	嗣	部						無文、ミガキ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	R
8	S I 004	24	口機	86						無文、ミガキ		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5 Y R ¼)	僅かに砂粒含む	良
9	S I 004	\$4:	庭	部						無文		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ¾)	砂粒を含む	かやほ
10	S I 004	鉢	口林部~	制部	32.6	5				無文、ミガキ、煤僅かに付着		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10YR另)	僅かに砂粒含む	А
11	S I 004	鉄	口樣部~	服器	(27.8	3)				無文, ミガキ、補修孔, 煤付着		横み上げ法	没黄檀色~灰黄褐色 (10Y R %~10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
12	S 1 004	\$4.	制部~	底部				9.0		無文、ミガキ、煤付着	煤付着	捕み上げ法	浅黄橙色(10YR妈)	僅かに砂粒含む	Ř

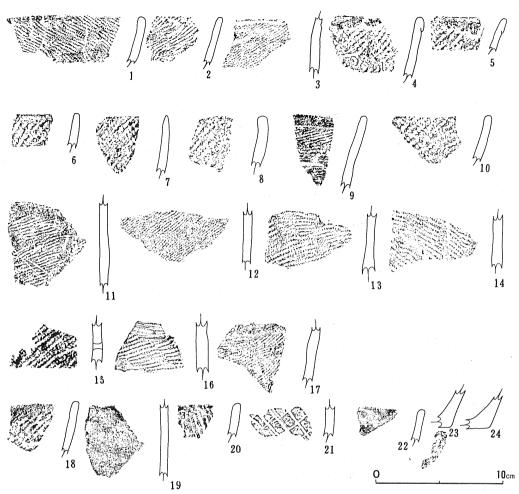
第7表 SI004住居跡出土遺物(石器)

挿図番号	出土地点	50	ΡΦ	7	i H	長さ(縦)	66 (株)	取 さ	1	f(hit	観祭
13	S 1 004	揰	22	W.	辑 石	5.1	3.2	0.7	T	12.6		黒曜石円礫の第一次制片を利用し、表面左側に加えた制難によって刃部を作出
14	S I 004	[6]	11:	П	岩	3.2	1.5	0.6	1	3.1		



第 9 図 S K (F) 025 土壙出土遺物(1) 第 8 表 S K(F) 025 土壙出土遺物(1)

16[3]				È	 E	₩ (cn)		. 調 整(地 文)			£ 24	胎 土	焼成
番号	出土地点	器形	能位	口径	体径	底径	器高		外 面	內 面	成形	色 24	(E) X.	NE.QX
1	S K (F) 025	\$4	日禄部					沈線、縄文	Rしヨコ、楓く僅かにスス付着	極く僅かにスス付着	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5Y R 対)	砂粒を含む	A
2	S K (F) 025	š‡.	口株部					沈椒、縄文	RLヨコ,スス付着	スス付着	積み上げ法	にぶい機色 (7.5YR另)	砂粒を含む	A
3	S K (F) 025	\$ ‡.	口様部					沈線, 縄文	R Lヨコ、スス付着		積み上げ法	浅黄檀~黄灰色(7.5Y R N~2.5Y N)	砂粒を含む	Ř
4	S K (F) 025	\$\$	m m					沈禄,縄文	RLタテ、スス付着	極く僅かにスス付着	積み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR芬)	砂粒を含む	R
5	S K (F) 025	54	M 部					沈線、縄文	RLタテ	スス付着	横み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR好)	砂粒を含む	A
6	S K (F) 025	5\$	口綠部					沈禄、縄文	LRヨコ、スス付着		積み上げ法	にぶい橙色 (IOY R N)	砂粒を僅かに含む	Ř
7	S K (F) 025	S\$	口縁部					沈禄、縄文	LRョコ		構み上げ法	浅黄橙色 (7.5 Y R 好)	砂粒を含む	柏良
8	S K (F) 025	\$4.	期部					沈線, 縄文	R Lタテ、スス付着	スス付着	検み上げ法	浸黄橙色 (7.5Y R N)	砂粒を含む	Ř
9	S K (F) 025	54:	as ne					沈裸	振く僅かにスス付着		横み上げ法	にぶい黄檀色 (IOY R 5/)	砂粒を含む	A
10	S K (F) 025	鉢	据部					沈線	スス付着		横み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R 汚)	砂粒を含む	Ř
11	S K (F) 025	\$4	解 部					沈線, 縄文	LR∃⊃		横み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R ½)	砂粒を僅かに含む	A
12	S K (9) 025	54	89 AE					沈禄, 縄文	LRヨコ		横み上げ法	にぶい黄檀~褐灰色(10Y R另~10Y R列)	砂粒を含む	良
13	S K (F) 025	\$ \$	AM as					沈線, 縄文	R L タテ、スス付着		積み上げ法	にぶい黄檀色 (10 Y R 万)	砂粒を含む	A
14	S K (F) 025	34	日縁部					沈椒, 縄文	RLタテ、スス付着		構み上げ法	にぶい権~楊灰色 (7.5YR另~10YR所)	砂粒を含む	A
15	S K (F) 025	54	AM AG					沈線, 縄文	LRBD		構み上げ法	にぶい権~楊庆色 (7.5Y R另~10Y R好)	砂粒を含む	Ř
16	S K (F) 025	\$‡	期那					沈柳、縄文	LR∃⊃		構み上げ法	庆黄褐色 (10Y R %)	砂粒を含む	fŧ
17	S K (F) 025	\$4	剧 部					沈褓,縄文	R Lヨコ,スス付着		横み上げ法	浅黄檀色 (7.5Y R 好)	砂粒を僅かに含む	Ħ
18	S K (F) 025	\$#	口袜部					縄文	L.Rヨコ,スス付着		積み上げ法	にぶい権色 (7.5Y R %)	砂粒を含む	A
19	S K (F) 025	\$\$.	口絲部					縄文	LRョコ		積み上げ法	橙色 (5 Y R%-7.5Y R%)	砂粒を含む	Ř
20	S K (F) 025	54	CLARE					縄文	LRas		積み上げ法	橙色 (5 Y R %)	砂粒を含む	Ř
21	S K (F) 025	54	口絲部					縄文	無節L		横み上げ法	撥色 (5 Y R ¾)	砂粒を含む	A
22	S K (F) 025	\$ ‡	口器部					縄文	LRヨコ、スス付着		横み上げ法	によい橙色 (7.5Y R写)	砂粒を含む	R

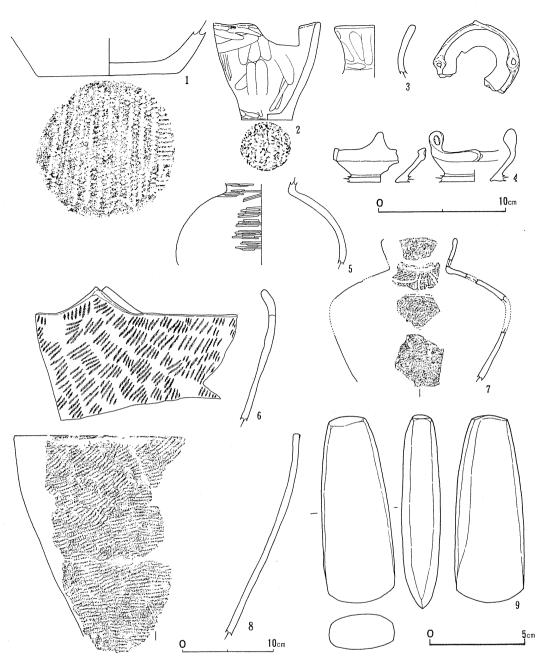


第10図 SK(F)025土壙出土遺物(2)

第9表

SK(F)025土壙出土遺物(2)

盤 (cm) 甃 (地 文). 排図 焼成 成 形 無子被否 難形 部 位 口译 体径 底径 器高 RLヨコ、スス付着 積み上げ法 灰白色 (10Y R 髪) 砂粒を含む S K (F) 025 34 口轮形 極文 Ŕ S K (F) 025 鉢 口縁部 縄文 L.Rヨコ, スス付着 構み上げ法 | 浅黄橙色 (10 Y R 好) 砂粒を振く僅かに含む A 桶み上げ法 | 浅黄檀色 (10Y R %) 砂粒を含む R 3 S K (F) 025 ŝķ 口練部 沈柳、縄文 RLタテ、スス付着 S K (F) 025 \$\$ 口林部 縄文 LRヨコ、槭く僅かにスス付着 植み上げ法 明褐灰色 (7.5 Y R 元) 砂粒を含む A S K (F) 025 \$\$ 口絲器 縄文 LRヨコ、スス付着 構み上げ法 にぶい橙色 (7.5Y R 芳) 砂粒を含む В S K (F) 025 5\$ 口林部 縄文 しRヨコ、極く僅かにスス付着 構み上げ法 にぶい橙色 (7.5 Y R 写) 砂粒を含む Й LRヨコ、スス付着 根み上げ法 にぶい程色 (7.5Y R 3) 砂粒を僅かに含む A S K (F) 025 54 口林部 极文 S K (F) 025 鉢 口林部 福文 しRヨコ、スス付着 横み上げ法 明褐灰色 (7.5YR芳) 砂粒を含む Ŕ S K (F) 025 \$\$ 口林部 縄文 LRヨコ、槭く僅かにスス付着 横み上げ法 にぶい程色 (7.5 Y R ¾) 砂粒を含む Ř L.R.ヨコ. スス付着 積み上げ法 にぶい橙色 (7.5Y R 汚) 砂粒を含む A 10 S K (F) 025 Sk. D Balter 細文 R S K (F) 025 Sk 84 AS 縄文 LRヨコ、スス付着 横み上げ法 にぶい橙~褐灰色(5 Y R 5/~10 Y R 5/) 砂粒を含む S K (F) 025 \$4 権み上げ法 にぶい黄檀色 (10Y R 34) 砂粒を含む Įŧ. 12 #4 BE 縄文 LRFP 植み上げ法 浅黄橙色 (10YR努) 砂粒を含む Ŗ S K (F) 025 AN AE 13 \$4. 緬文 柳原 S K (F) 025 鉢 89 86 縄文 LRタテ 横み上げ法 によい橙色 (7.5 Y R 3/) 砂粒を含む L.Rヨコ、補修孔あり 外面スス付着 横み上げ法 没黄橙~にぶい黄橙(10Y R 勢~10Y R 列) 砂粒を含む R 15 S K (F) 025 鉢 89 86 縄文 積み上げ法 (こよい権色 (7.5Y R ¾) 僅かに砂粒を含む Ą S K (F) 025 8H 86 \$4. 縄文 砂粒を僅かに含む ß 17 SK(F) 025 鉢 嗣 部 縄文 LRap 積み上げ法 にぶい黄橙色 (10Y R 列) 鉢 横み上げ法 浅黄橙色 (10YR努) 砂粒を含む R S K (F) 025 口林部 絕文 磨減のため不明 砂粒を含む B 積み上げ法 にぶい黄橙色 (10Y R %) S K (F) 025 SK 8M 86 無文 п 20 SK(F)025 鉢 口練部 Rの機糸文 スス付着 積み上げ法 褐灰色 (7.5 Y R 所) 砂粒を含む S K (F) 025 SK #4 86 Rの格子目状機糸文 構み上げ法 にぶい黄橙色(10 Y R 写) 砂粒を含む R 21 順み上げ法 にぶい褐色 (7.5Y R努) 砂粒を振く僅かに含む R 22 SK(F)025 鉢 口株部 無文 スス付着 横み上げ法 - 但~にぶい橙色 (2.5Y R%~7.5Y R%) 23 SK(ト) 025 🗱 低 部 異代紙 砂粒を含む R 24 SK(F) 025 鉢 底 筋 無文 摘み上げ法 にぶい橙色 (5 Y R X) 砂粒を含む Ą



第11図 S K(F)025 土壙出土遺物(3) 第10表 S K(F)025 土壙出土遺物(3)

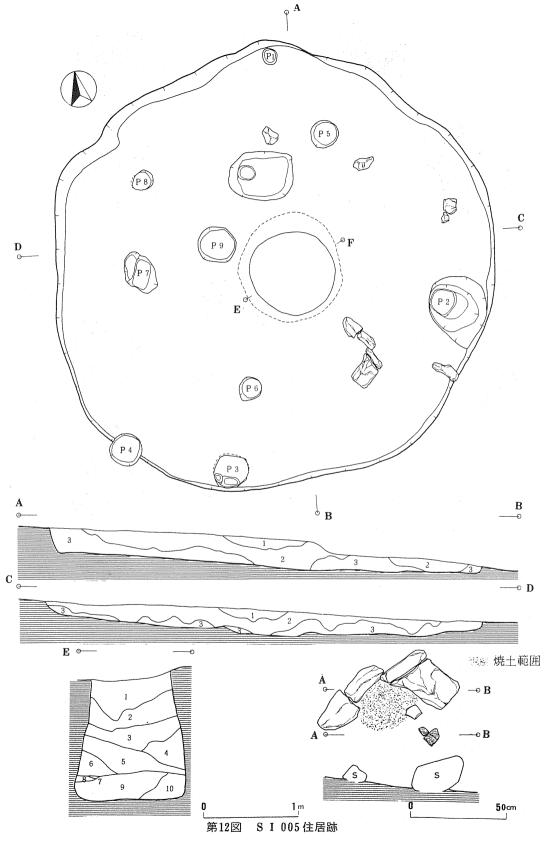
梅瑶			an de	法	鼓	(cm)		調 整(地)	<u>(۲</u>)	成形	Fig. 30	No t.	焼成
番号	出土地点	器形	部位	口谜	体 径	底径	25.70;	外 姉	14 di	THE RE	E #	70 .1.	ACID.
1	S K (F) 025	\$4:	NE 85			11.0		綱代痕、横位ナテ	ケズリ	構み上げ法	にぶい黄橙色 (10YR外)	僅かに砂粒を含む	良好
2	S K (F) 025	小型の鉢	口林部一底部	(8.4)		4.0	7.7	ミガキ、綱代痕	ミガキ	摘み上げ法	にJav-Q色 (7.5Y R公)	振儀かに砂粒を含む	良好
3	S K (F) 025	376	口林部~預部	(6.2)				ミガキ	ナテ	様み上げ法	に acv 権色 (7.5 Y R ダ)	僅かに砂粒を含む	FŁ
4	S K (F) 025	92	口林部一班部	(6.0)				ミガキ	+7	摘み上げ法	思楊色 (10 Y R 汽)	僅かに砂粒を含む	良好
5	S K (F) 025	*22	所部~剧部		(18.8)			ミガキ	横位ナデ	横み上げ法	思褐色 (10Y R 汽)	振催かに砂粒を含む	良好
6	S K (F) 025	S\$.	口林部一組部	(26.6)				縄文、LRヨコ	++	積み上げ法	におい黄褐色~におい橙色(10Y R 55~7.5 Y R 5/1)	僅かに砂粒を含む	D
7	S K (F) 025	遊	口林部~樹部					注線、縄文LRヨコ、ミガキ	ミガキ	植み上げ法	無概色 (10Y R 写)	僅かに砂粒を含む	R
8	S K (F) 025	SI.	口林那一脚部	(32.0)				縄文、LRヨコ	ナデ	植み上げ法	掲灰色~にぶい橙色 (7.5Y R 灯~7.5Y R 図)	僅かに砂粒を含む	R

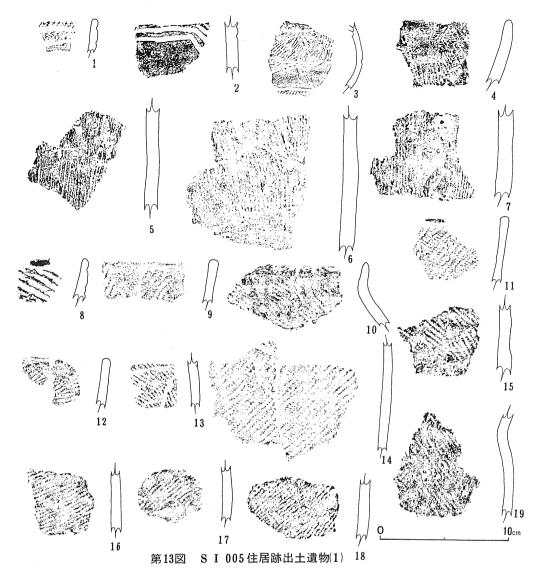
第11表 SK(F)025 土擴出土遺物(石器)

ſ	挿図番号	出土地点	器種	石質	長さ(縦)	- 幅 (横)	厚き	重 量	N *
ı	9	SK(F)025	磨製石斧	凝 灰 岩	9.8	3.7	1.9	120.3	使用による刃部磨耗はさ程認められない。

第12表 SI005住居跡観察表

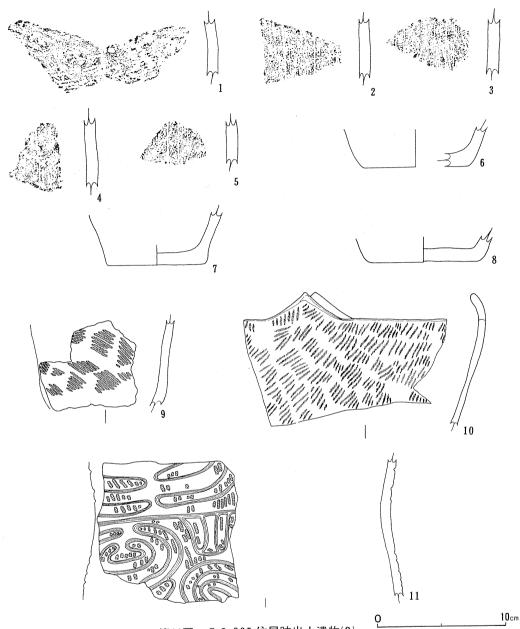
		0.1.005 () 57 PH	挿	図	12, 13, 14, 15, 16
		SI005住居跡	図	版	5, 30, 31, 32
検	出区	S, 6S, 5R, 6R			
	径	4.68×4.69 m	面	積	17.18m²
主	岫方位	N-137°-E	形	態	円形
覆	<u>+</u>	1.10YR% 褐色 粘質 孔隙小 僅かし 2.10YR% 暗褐色 粘性小 孔隙大 点 3.10YR% 褐色 粘性小 孔隙大 黄衫	炭化物	加粒	焼土粒の混入僅かに認められる
	壁	北東側の壁及び南西側の壁の一部分欠打 範囲にある。壁高は1.8~30.6cmの範囲			こ。床面に対する傾斜は103.5°∼128°の
	床	床面中央付近に土壙が検出された。床頂	行(は余	上面力	万向にやや傾斜している。
Ľ	ット	P ₁ 16×17×16.3 北側壁際 P ₂ 26.5×27×50.2 東壁際 P ₃ 34×35×24.0 南壁際 P ₄ 32.5×33.5×16.2 南西壁際 P ₅ 28.5×31×19.6 北東側 P ₆ 24×27×24.9 P ₃ 北側 P ₇ 24×41×58.9 西側 P ₈ 19×23×12.5 北西側 P ₉ 37.5×40×32.5 中央やや北西寄り			
炬	位置	南東側			
<i>Ŋ</i> ¬		4個の河原石を用いている。炉内より数	女点の	土器	片が出土した。また焼土も認められた。
遺	物	磨製石斧が一点出土している。			
備	考	ほぼ円形を呈している住居跡である。			





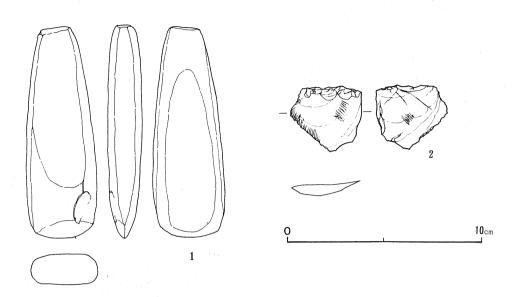
第13表 SI005住居跡出土遺物(1)

排図	出土地点	器形	部位	i	去	微 (cm)	調 整 (地 文)	成形	色調	胎士	
番号	manes.	福州之	ab 197.	口径	体径	底径	器高	外 面	内面		E 34	#6 1:	焼成
1	S 1 005	鉢	口禄部					沈線、縄文、LRヨコ		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 005	34.	胸部					沈線	İ	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR別)	僅かに砂粒含む	良
3	S I 005	鉢	脚部					沈稼、縄文、LRヨコ		積み上げ法	楊灰色 (10 Y R 灯)	僅かに砂粒含む	Ř
4	S-1 005	鋒	口樑部					R燃糸文、煤付着		積み上げ法	にぶい黄橙色~灰黄褐色(10Y R 汚~10Y R 髪)	僅かに砂粒含む	魚
5	S I 005	42	部 部					撚糸文, Rℓ		横み上げ法	にぶい黄橙色~灰黄褐色(10Y R 好~10Y R %)	僅かに砂粒含む	A
6	S I 005	鉢	嗣 部					R燃糸文、煤付着		積み上げ法	浅黄檀色~灰黄褐色(10YR%~10YR%)	僅かに砂粒含む	良
7	S 1 005	\$\$	嗣 部					R 掛糸文、煤付着		積み上げ法	灰黄褐色 (10 Y R ½)	僅かに砂粒含む	良
8	S I 005	鉢	口袜部	- 1				縄文、無節し		積み上げ法	褐灰色 (10 Y R 外)	僅かに砂粒含む	良
9	S I 005	84	口林部					縄文、RLタテ、煤付着		積み上げ法	(二にい橙色~にはい褐色(7.5YR另~7.5YR另)	僅かに砂粒含む	良
10	S I 005		口秧部					縄文、LRタテ、煤付着		積み上げ法	褐灰色 (10 Y R 灯)	砂粒を含む	良
11	S I 005	鉄	口祿部	ga Ta				縄文、R L タテ _デ		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR刄)	僅かに砂粒含む	良
12	S 1 005	鉢	口絲部					縄文、無節し		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR写)	僅かに砂粒含む	具
13	S I 005	跳	期 部					縄文、RLヨコ、輪積の痕跡		積み上げ法	にはい権色 (7.5YR分)	僅かに砂粒含む	А
14	S I 005	34	86 H					縄文、LRヨコ、煤付着		抗み上げ法	にぶい橙色~褐灰色 (7.5YR芬~10YR籽)	僅かに砂粒含む	良
15	S I 005	\$4:	46 AB					縄文、LRタテ		積み上げ法	褐灰色 (10Y R 灯)	砂粒含む	良
16	S 1 005	\$4.	脚部					縄文、LRヨコ		積み上げ法	にぶい橙色~灰黄褐色 (7.5Y R %~10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
17	S I 005	34:	86 MB					縄文、LRヨコ、煤付着		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
18	S I 005	34:	制部					縄文、LRヨコ		積み上げ法	に.;い 橙色~灰黄褐色 (7.5Y R 3/~10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
19	S I 005	5.4	脚部					編文,	煤付着	積み上げ法	(Lin) 黄褐色 (10Y R %)	砂粒を含む	やや良



第14図 S I 005 住居跡出土遺物(2) 第14表 S I 005住居跡出土遺物(2)

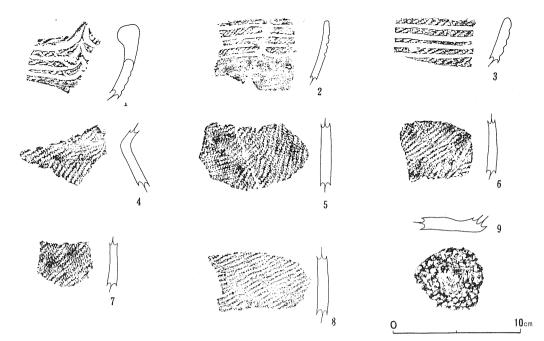
挿図						法	猴	(cm)				測 整(地文)			成形	色 瀏	胎 土	焼成
路号	出土地点	器形	85	fiz.	口径	体径	鲢	淫	器高		外	thi	内	đá	AA, 42			<u> </u>
-	S I 005	ŝŧ	fiel	86		-				条	報	1			積み上げ法	橙色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	身
2	S I 005	Sk	RI-I	88			-			条	線				権み上げ法	にぶい程色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	具
				as				-				同一個体		-	積み上げ法	に3cい橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	良
3	S 1 005	42	阳							条	\$Q	107 14471-			積み上げ法	(こぶい橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	А
4	S I 005	\$4:	胂	部											110		僅かに砂粒含む	R
5	S 1 005	鉢	#4	46							褓				権み上げ法		僅かに砂粒含む	13
6	S I 005	鉢	族	ä	26.2		(8	.3)				煤付着			111		僅かに砂粒含む	
7	S I 005	详	TUE:	86			7	.8		羅	ζ,	RLタテ	煤1	付着			僅かに砂粒含む	
8	S I 005	£	IIE.	85			(8	.4)		無	ζ, :	煤付着						
9	S 1 005	£4.	朋。	SE	-	-	1-			400	٤.	LRタテ、煤付着			積み上げ法	暗灰黄色~にぶい橙色(2.5YR%~7.5YR%)	催かに砂粒含む	良
			口標部			-	-			7	-	以付着、補修孔	-		積み上げ法	灰黄褐色~にぶい黄橙色(10Y R %~10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
10	S I 005	\$1:				 	+-			06.3			+		積み上げ法	福灰色~淡黄色 (10Y R 好~2.5Y R %)	僅かに砂粒含む	良
11	S I 005	鉢	84	āß						沈	¥.	縄文、RLヨコ	<u></u>		積み上げ法	楊灰色~淡黄色 (10Y R N~2.5Y R N)	僅かに砂粒含む	1 H



第15図 SI005住居跡出土遺物(石器)

第15表 SI005住居跡出土遺物(石器)

挿図番号	出土地点	器種	石 質	長さ(縦)	幅(横)	厚さ	重量	觀察
1	S I 005	磨製石斧	凝灰岩	11.1	3.6	1.6	117.8	製作時に本体に明瞭な陵をつくらない。刃部損傷は少なく使用度は低い。
2	S I 005	케 片	頁 岩	3.1	3.3	0.7	6.5	表面石下辺に二次剝離が僅かに認められる。



第16図 SI 005 住居跡西側周辺ピット出土遺物 第16表 SI 005 住居跡西側周辺ピット出土遺物

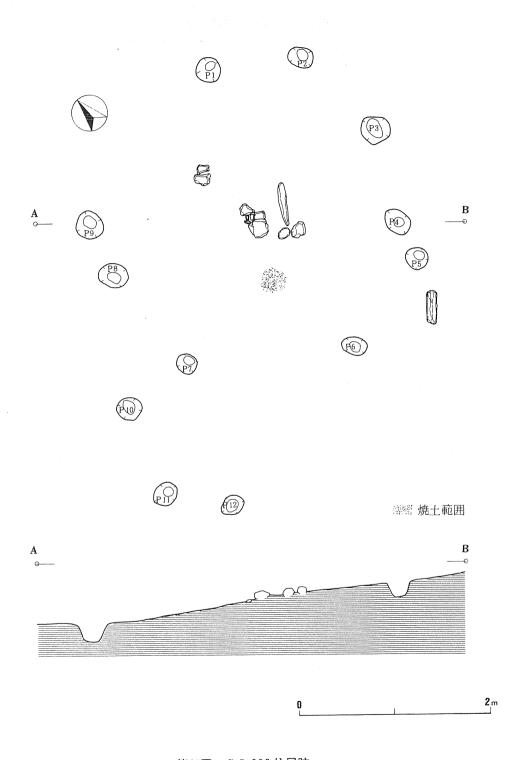
挿図	ale la laka le	器形	部位	È	‡	量 (cm)		調	盤	(地 文	;)		БŽ	#E	Æ.	部	Ha	.t.	焼成
番号	出土地点	40 H 2	部位	口径	体径	底径	器高		外	ifii		l _¥) jiji	100	11.2		10-7	- ALI		172.44
1	S P 002	\$4:	口線部					沈線.	条線					植み	上げ法	にぶい黄檀色	(10 Y R 3/3)	僅かに砂粒	を含む	良
2	S P 002	鉢	口採部					沈線,	縄文			T		積み、	上げ法	浅黄橙色 (7.)	5Y R 34)	僅かに砂粒	を含む	具
3	S P 002	鉢	口縁部					沈樑,	繩文, L	R 3 3				横み	上げ法	にぶい黄橙色	(10 Y R 3/2)	僅かに砂粒	を含む	良
4	S P 002	\$\$	胴 部					繩文,	LRョコ)				横み	上げ法	にぶい黄橙色	(10 Y R 3/3)	僅かに砂粒	を含む	臭
5	S P 002	鉢	胸部					繩文,	LRヨコ		nri / L.	T		構み	上げ法	にぶい黄橙色	(7.5YR¾)	僅かに砂粒	を含む	良
6	S P 002	鉢	胂 部					繩文,	LR33	1	10114			積み	上げ法	にぶい黄橙色	(10 Y R 3/4)	僅かに砂粒	を含む	良
7	S P 002	鉢	聊 部			1		縄文,	LRas	1				植み	上げ法	にぶい黄橙色	(10 Y R ¾)	僅かに砂粒	を含む	良
8	S P 002	鉢	胴 部					繩文,	LRヨコ					積み	上げ法	にぶい橙色(7.5 Y R 3/4)	僅かに砂粒	を含む	良
9	S P 002	鉢	底 部	 		1		網代症	Ę.					横み	上げ法	にぶい褐色(7.5 Y R %)	僅かに砂粒	を含む	良

P 237→

であり、規模は径およそ3~5 m、面積およそ10~13㎡の範囲にある。壁高は計測箇所によって異るが、最も深いものでも40cmを越えることはない。覆土は黒褐色~暗褐色を呈し、焼土粒、炭化物等の混入が認められるものの、平安時代竪穴住居跡のようなパミスの混入は認められない。台地縁辺及び斜面上にあるため、遺構確認面から上の堆積土が薄く、覆土は植物根等による撹乱をうけていることもあるが、覆土の堆積に際しては自然堆積によったと思われ、人為的な埋め立ての痕跡などは認められない。柱穴は、第3号住居跡、第5号住居跡、第36号住居跡で比較的顕著に検出されている。第36号住居跡では、ほぼ等間隔に並ぶ5箇の柱穴を検出し、うち1箇の柱穴底面には河原石が置かれている。炉は全て石組の形態がとられるが、比較的小さな円礫を用いて円形に組むものと、やや大きめの礫を用いて方形を意図して作られるものとがある。

第17表 SI003住居跡観察表

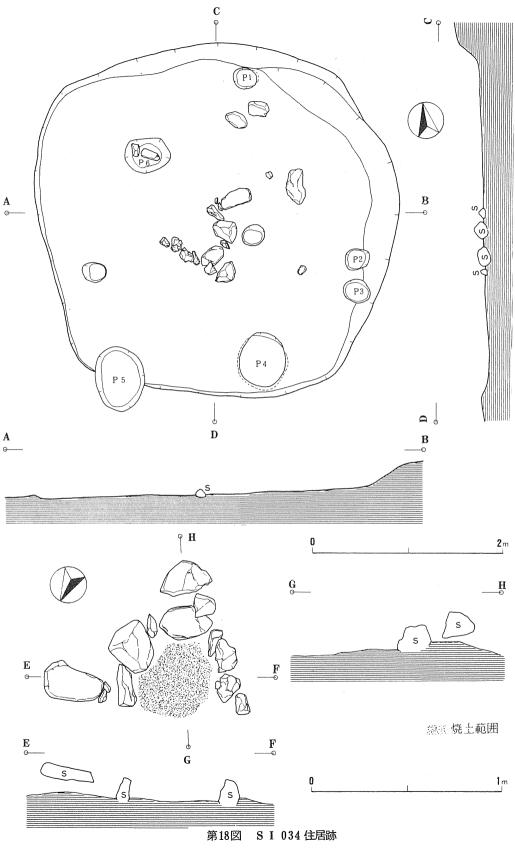
		挿	図	17						
	S I 003住居跡	図	版							
検 出	区 8T, 9T									
径	3.8×3.3 m	面	積	8.9㎡ (柱穴位置からの推定面積)						
主軸方	位	形	態	円形						
確認状	第10号住居跡の北側,第 層上面で況 ピット群の中央に河原石を配した炉 住居跡の確認が地山面で行われてい	跡を村	食出し	し、また焼土も確認した。						
壁	検出できず									
床	平坦である。 周りの地山面に比較してややしまった感触をうける。									
ピッ	P ₁ 27×27×21 P ₂ 27×21×20 P ₃ 30×30×14 P ₄ 30×21×16 P ₅ 24×22×33 ト P ₆ 27×19×30 P ₇ 22×20×25 P ₈ 32×24×15 P ₉ 30×28×17 他に住居の西側に 3 箇のピットを確しない。	温むした	こが,	住居跡に直接関係するかどうかは判然と						
位	置ピット群のほぼ中央									
炉	5箇の河原石からなる。 全て火熱をうけて赤変しているか, また石組のやや南側から径30cm程の									
遺	物 縄文時代後期と思われる土器片									



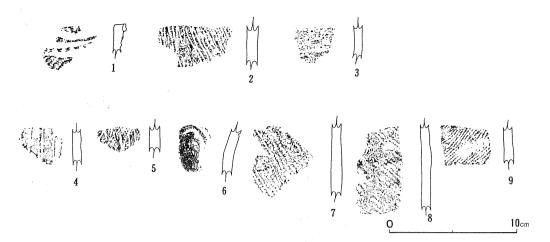
第17図 S I 003 住居跡

第18表 SI034住居跡観察表

		S I 034住居跡	挿 D L	 页	18, 20 6, 32, 33					
検	出区	9 M, 10 M		!						
	径	4.02×4.12 m	面利	責	11.71m²					
主軸方位 N-168°-W										
	壁 西壁, 南壁の保存状態は悪く, よく検出できなかった。 壁高は0.8~35.6cmの範囲にある。									
	床 はぼ平らである。 斜面方向に向ってゆるやかに少しだけ傾斜している。									
Ľ	ット	P1 21.5×24.5×23.9 北側 柱穴と思われる P2 21×25×14.7 東側 P3 24.5×30×12.1 P2南側 P4 49×57×26.9 南側東寄り P5 51.5×69×16.8 南側西寄り 壁を切っている P6 36×48×17.4 北西側 河原石 2 個が認められた								
	位置 中央付近									
炉		約10個の河原石よりなる。 大きさはあまりそろっていないが、これは石がわれて小さくなったためと思われる。								
迪	物	炉付近より石皿が出土した。 またそれから南東約1mの地点より磨石が出土している。								



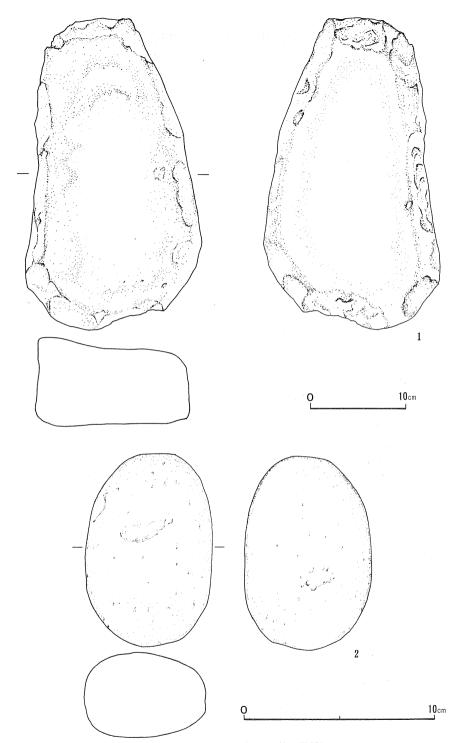
— 257 —



第19図 S I 003 · S I 034 住居跡出土遺物

第19表 SI003, SI034 住居跡出土遺物

挿図	出土地点	器形	部位	È	±	量 (cm)		調	整 (上	也 文)	~	-li- 17.		240	T		
番号	THE SEASON.	DIFAZ	THE LEA	口径	体径	底径	器高	外		iùi	内	īfii	成形	£.	調	胎	土	焼成
1	S I 003	鉢	口縁部					沈線, 刺	突、#	電文			積み上げ法	にぶい橙 (7.	5 Y R 3/4)-	僅かに砂	粒を含む	良
2	S I 003	鉢	胴部					R 撚糸文	ζ				積み上げ法	にぶい黄橙(10 Y R 3/3)	僅かに砂	粒を含む	良
3	S I 003	鉢	胴 部					沈線					積み上げ法	灰色 (7.5Y)	K)	砂粒を含む	t	良
4	S Q 006		胴部					条線					積み上げ法	にぶい橙 (7.	5 Y R 1/4)	砂粒を含む	t	良
5	S I 035		胴 部					R格子目	1 状燃料	έ文			積み上げ法	にぶい黄橙(10 Y R 3/4)	僅かに砂糖	粒を含む	良
6	S I 035		胴 部					沈線					積み上げ法	によい黄橙(10 Y R 3/4)	僅かに砂	粒を含む	良
7	S Q 006		胴 部					縄文、ス	ス付着	9			積み上げ法	灰黄橙 (10 Y	R 1/2)	僅かに砂料	粒を含む	良
- 8	S Q 006		胴 部					繩文					積み上げ法	灰黄橙 (10 Y	R ½)	僅かに砂料	粒を含む	良
9	S I 035		胴部					繩文					積み上げ法	にぶい橙 (7.	5 Y R %()	僅かに砂料	粒を含む	良



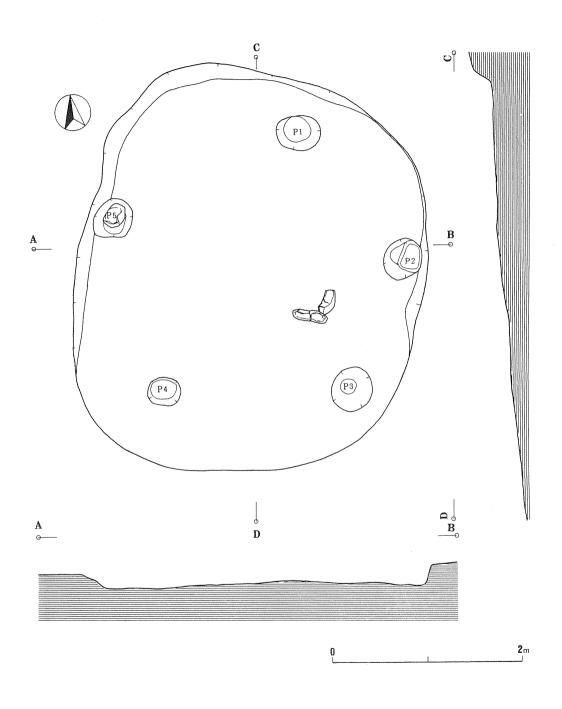
第20図 SI034住居跡出土遺物(石器)

第20表 SI034住居跡出土遺物(石器)

挿図番号	出土地点	器種	石質	長さ(縦)	幅(横)	厚さ	重 量	観 察
1	S I 034	石 III	安山岩	32.5	18.2	11.6	8,700	表裏両面が皿面として使用されている。
2	S I 034	すり石	安山岩	10.2	6.8	5.0	514.5	片面に稿打によると思われる凹が一箇所認められる。

第21表 SI036住居跡観察表

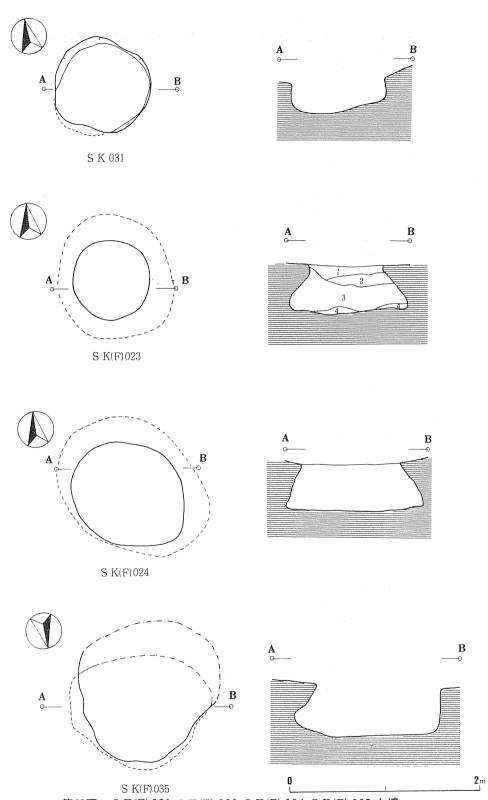
			·						
		S I 036住居跡	挿	図	21				
		9 1 000 圧/点 跡・	図	版	7				
検	出区	6 P, 6 Q							
	径	3.64×4.17 m	面	積	13.20m²				
主非	岫方位	N-117°-E	形	態	楕円形				
覆	覆 土 10 Y R ¼ 褐色 粘性大 孔隙小 黄褐色土と暗褐色土がブロック状に混じり合ってい 均質で固くしまっている。								
	壁	南側の壁はほとんど検出されなかった。 床面に対する傾斜は107°~143°の範囲に 壁高は1.0~20.6cmの範囲にある。							
	床	中央部分が壁際と比較するとややもり」 斜面方向にゆるやかに傾斜している。	上がっ	てい	いる。				
ť	P1 35.5×47×59.6 北側 柱穴 P2 39×45×43.8 東側 柱穴 ピット P3 42×47×59 南東側 柱穴 P4 29.5×34×67.3 南西側 柱穴 P5 39×42×23.3 西側 柱穴 内部に径								
	位置	南東寄り							
炉		3個の河原石よりなる。 くの字形をしている。							



第21図 S I 036 住居跡

第22表 SK(F)031, SK(F)023, SK(F)024, SK(F)035土擴観察表

	第22表 SK(F)031, SK(F)023	8, SK	(F)024	, SK(F)035土壙観察表					
	S K(F)031土壙	挿	Ø	22, 25					
		図.	版	34					
検出区	7 S, 8 S	規模	· 形態	92×101cm 不整円形					
深さ	35.5cm	面	積	0.76 m²					
確認状況	形は整っていない。底部は東側の方元 底部に対する壁面の傾斜は86°~103°								
······		T							
	S K(F)023土壙	挿	図	22, 25					
		図	版	34					
検出区	4 S	規模・	形態	82×85×cm 円形					
深 	53cm	面	積	0.53m²					
確認状況	フラスコ状土壙である。 底部は凹凸がはげしい。 全体の形は整っている。 底部に対する壁面の傾斜は57.5°~65	°の範囲	目にある	3.					
覆 土	1.10YR¾ 暗褐色 粘性大 孔隙小 径2~10mm程度のローム粒の混入多い 2.10YR¾ 黄褐色 粘性大 孔隙極めて小 かたくしまっている 3.10YR¼ 褐 色 稍粘質 孔隙小 炭化物径10mm程度を含む 遺物含まれる 4.10YR¼ にぶい黄褐色 粘性大 孔隙極めて小 地山との漸移層								
	S K(F)024土壙	挿	図	22, 25					
		図	版	7, 34					
検 出 区	4 S, 4 T	規模・	形態	108×129cm 楕円形					
深さ	51cm	面	積	1.06 m²					
確認状況	フラスコ状土壙である。 底部はほぼ平らを程している。 全体的に形は整っている。 底部に対する壁面の傾斜は52.5°~70	°の範囲	目にある						
	S K(F)035土壙	挿	図	22					
	,	図	版	34					
検 出 区	4 T, 5 T	規模・	形態	139×(150)cm 不整円形					
深さ	55.5cm	面	積	(1.68) m²					
確認状況	土壙南側半分は木の根によって壊され 片側だけが内側に入りこんだフラスコ 底部はほぼ平らである。 底部に対する壁面の傾斜は54~94.5°	水をし	ている	0.0					
覆 土	プロフィールだけである								



第22図 SK(F)031·SK(F)023·SK(F)024·SK(F)035 土壙

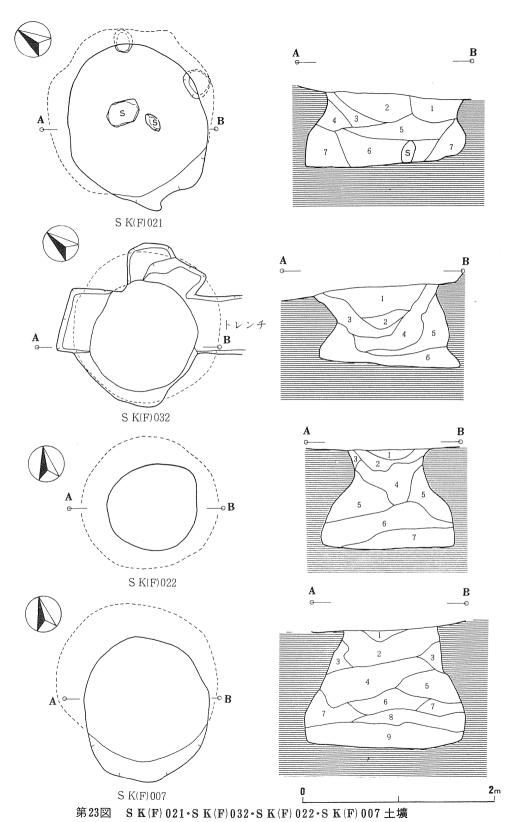
第23表 SK(F)021, SK(F)032, SK(F)022, SK(F)007土擴観察表

	S K(F)021土壙	挿 図	23, 26, 30
	3 代 (F)021 工頻	図 版	34, 35
検 出 区	4 T	規模・形態	148×167cm 不整楕円形
深さ	78cm	面 積	1.98m²
確認状況			の河原石が検出された。底部東側より2個のビットが検 と言うといびつである。南側の方が浅くなっている。底
覆 土	1.10 Y R 対 暗褐色 稍粘質 孔隙小 炭化物粒僅か 2.10 Y R が 褐 色 粘性大 孔隙小 焼土粒 炭化製 3.10 Y R が 暗褐色 粘性稍有 孔隙大 4.10 Y R が 褐 色 粘性大 孔隙小 壁崩落土 5.10 Y R が 暗褐色 稍粘質 孔隙大 プロック状の 6.10 Y R が 暗褐色 粘性大 孔隙小 7.10 Y R が 褐 色 粘性大 孔隙小	加起混入 黄褐色土の混	

	S K(F)032土壙	挿 図	23, 26, 30
	3 K (F)032 工頻	図 版	8, 34, 35
検出区	8 R, 8 S	規模・形態	104.5×117cm 不整円形
深さ	88cm	面 積	1.00 m²
確認状況			るとほぼ円形を程しているが、断面を見る限りでは形は の範囲にある。北壁側では途中いったんくびれているが
覆 土	1.10 Y R % 黄褐色 粘性大 孔障小 僅かに炭化物 2.10 Y R % 暗褐色 粘性稍有 孔隙大1の黄褐色土 3.10 Y R % 黒褐色 粘性弱 孔隙大 黄褐色土粒(4.10 Y R % 黒褐色 粘性弱 孔隙大 3に比して黄 5.10 Y R % 暗褐色 粘性大 孔隙小 ロームブロッ 6.10 Y R % 暗褐色 粘性大 孔隙小 ロームブロッ 6.10 Y R % 暗褐色 粘性大 孔隙小 環褐色土粒と、	と暗褐色土の 径5mm以下) 褐色土粒の混 クと黒褐色土	と焼土粒の混入有 入割合が少い の混じり合ったもの

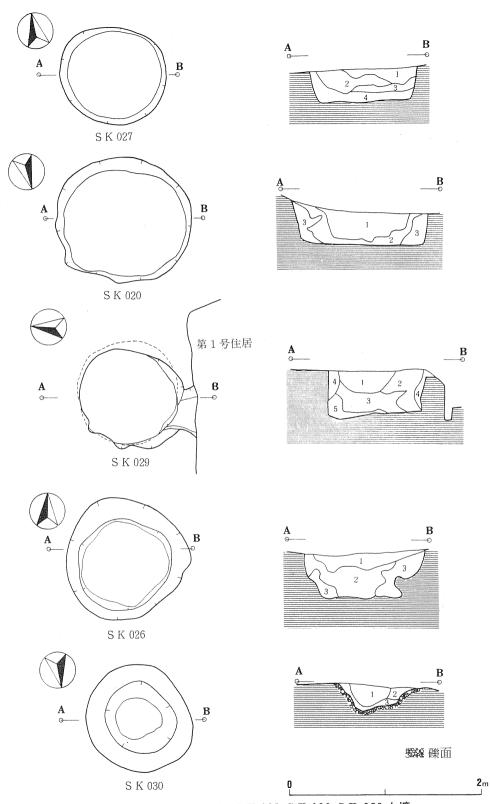
	S K(F)022土壙	挿 図	23, 27, 30						
	3 八下/022 工頒	図 版	34, 35						
検 出 区	5 R	規模・形態	90× 3cm 円形						
深さ	105cm	面 積	0.72 m²						
確認状況	いったんくびれている。フラスコ状土壙である。底ぎる壁面の傾斜は67°~68°の範囲にあり、ほぼ均一の6		であるし底部、壁面ともしっかりしている。底部に対すいる。						
獲 土	1. 10 Y R % 黄褐色 稍粘質 孔隙小 均質である より新しい時期の構築物の排土か? 2. 10 Y R % 暗褐色 粘性弱 孔隙大 ローム粒若干混入 炭化物混入 3. 10 Y R % 暗褐色 粘質 孔隙大 ローム粒混入 4. 10 Y R % 黒褐色 粘質 孔隙大 炭化物混入 5. 10 Y R % 褐 色 粘性大 孔隙大 壁の崩落土と暗褐色土のブロック状に混じったもの 6. 10 Y R % 一緒 観色 ・ 相特質 孔隙大 炭化物混入 7. 10 Y R % 一% 黄褐色 ・ 結構色 ・ はれた ・ はれ								

	S K(F)007土塘	挿 図	23, 28, 29
	3 K /F/00/1 工頻	図 版	8, 35
検 出 区	4 T	規模・形態	132×149cm 不整円形
深さ	128.5cm	面 積	1.57 m²
確認状況	フラタコ状土壙である。口縁に比べて底部が北側に 高くなっている。セクションを取った面における底部		底部や壁面はやや凸凹している。底部は東側の方がやや面の傾斜は75°であった。
覆 土	1. 10Y R ½ 黒褐色 柏粘質 孔隙小 径 2 ~ 3 mm程 2 、10Y R ½ 黒褐色 粘質 孔隙小 径 1 mm以下の口 3 、10Y R ½ 褐 色 粘性大 孔隙稍有 壁(立上り) 4、10Y R ½ 増 色 粘 質 孔隙 7 レームブロッ6 、10Y R ½ 暗 色 粘 質 孔隙 トロームブロッ6 、10Y R ½ 褐 色 粘 質 孔隙 トローム 7 、10Y R ½ 褐 色 粘 質 孔隙 トローム 校若干 9、10Y R ½ 褐 色 粘性大 孔隙 大 暗褐色土僅かり 10Y R ½ 褐 色 粘性大 孔隙 大 暗褐色土僅かり 10Y R ½ 褐 色 粘性大 孔隙 大 暗褐色土僅かり 10Y R ½ 褐	ーム粒 炭化物部) 崩落土で 部といっクの混入面 ロームと暗褐 混入	対 能混入 あり均質

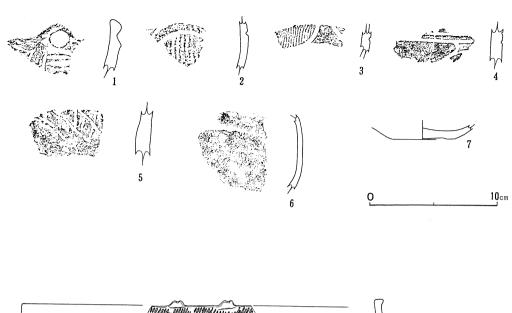


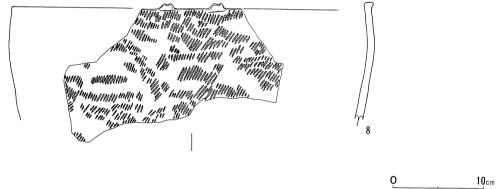
第24表 SK027, SK020, SK029, SK026, SK030土擴観察表

	第24表 SK027, SK020, S	N 029, 3	K 026, S K 030 土壙観祭表
	S K027土壙	挿 図	24
		図 版	
検 出 区	5 S	規模・形態	101×113cm 円形
深 	36cm	面 積	
確認状況	整った円形をしている。壁の立上りもしっかり 斜は99°~101.5°の範囲にある。	している。底記	部がやや凸凹している。底部に対する壁面の傾
覆 土	1.10YR¼ 褐色 粘質 孔隙小 2.10YR¼ 褐色 桁粘質 孔隙比較的大 ※全体に色調の変化に乏しく混入する物も殆	4.10YR	经 暗褐色 粘質 孔隙小 经 黄褐色 粘性大 孔隙小
		HE 100	
	SK020土壙	挿 図 版	24
検 出 区	8 P, 9 P	規模・形態	132×144cm 不整円形
深さ	43cm	面 積	1.49m²
確認状況	底部に対する壁面の傾斜は97~104.5°の範囲に つである。	ある。底部はに	まぼ平らである。形は円形ではあるがややいび
獲 土	1.10YR½ 黒褐色 粘性中 ややしまっている 2.10YR½ 黒褐色 粘性中 ややしまっている 3.10YR욏 暗褐色 粘性中 ぼそぼそしている	1,3の土産	が混じり合った層と思われる
		H. FOI	24
	SK029土壙	挿 図	24
松山 [7]	0.0	図 版	95×105cm 不整円形
検出区深さ	9 Q 51cm	規模・形態 面 積	0.83㎡
確認状況	第6号住居北壁東寄り壁際に位置する。北壁は3 ことは出来ず掘ってみて土壙であることがわか。 部はそんなに平らではなく南側の方が高くなっ	上 垂直に近い立 った。底部に対	L 上りを見せている。プランではっきり確認する
覆 土	1. 10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のロー 2. 10Y R ¾ 褐 色 粘性弱 パミス極く僅かに 3. 10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 2 mm程度のバミ 4. 10Y R ¾ にぶい黄褐色 粘性大 ローム粒多 5. 10Y R ¾ 黄褐色 粘性大 ローム層	混入 ローム料ス極く僅かに	並多く含む
		Let. 1733	
	SK026土壙	挿 図	24
14 .1. 57		図 版	
検出区	5 Q, 6 Q	規模・形態	124×127cm 不整円形
深さ	49.5cm	面 積	1.26m²
確認状況	底部に対する壁面の傾斜は120°~133°の範囲に		ド壁曲は整っておらす形も少しゆがんでいる。
覆 土	1 . 10 Y R Y 黒 色 稍粘質 孔隙小 炭化物粒値 2 . 10 Y R が 黒褐色 粘質 1 に比して孔隙小 を 3 . 10 Y R が 褐 色 粘性大 孔隙小 暗褐色土泥	₹2~3 mm程度	変のローム粒多く含む
		挿 図	24
	SK030土壙	図 版	57
検出区	7 R	規模・形態	
深っさ	28cm	面 積	0.98m²
確認状況	底面に対する壁面の傾斜は115°~133.5°の範囲に のある値である。底部及び壁面はすべて4cm以」 まず、平安時代竪穴とは異なる時期の構築物でま 解らず)の柱穴か?	こあった。なお この礫を多量に	らこの数値は底部が凸凹しておりいささか無理 に含んだ礫面である。パミスを覆土中に殆ど含
覆 土	1.10YR% 黒褐色 粘性弱 従 2mm程度のロー 2.10YR% 暗褐色 粘性弱 ローム粒僅かに混 3.10YR% にぶい黄褐色 ローム粒多く含む		に混入



第24図 SK 027・SK 020・SK 029・SK 026・SK 030 土壙

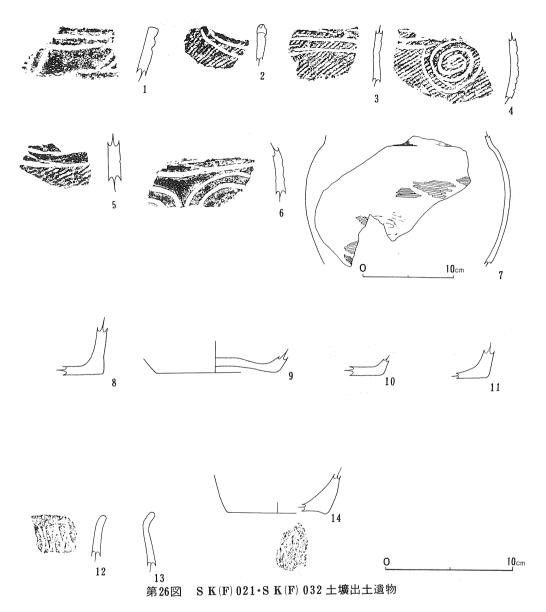






第25図 SK(F)031·SK(F)023·SK(F)024 土壙出土遺物 第25表 SK(F)031, SK(F)023, SK(F)024 土壙出土遺物

挿図	出土地点	器形	âl		從		法	ii	(cm)		22 PE	8 (地 文)							
番号	(1) .1.3g,:::	gar /L/	131-	,	u.		谨	体径	底径	器高	外 直	ii	内	đii	成形	色	Sci	胎 :	焼成
1	S K (F) 031	鋒	П	核	部						刺突,沈線、縄文、LR	130	ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10	Y R %)	僅かに砂粒を含	七良
2	S K (F) 031	鉢	酮		部						沈線、縄文、LR、スス	付着	ナデ			黑色 (10 Y R ¾)		僅かに砂粒を含	
3	S K (F) 031	鉢	814		部						沈線、縄文、LRヨコ		ナデ		積み上げ法	にぶい橙 (7.5YB	(%)	僅かに砂粒を含	t/ A
4	S K (F) 031	鉢	胴		雒						沈線		ナデ		積み上げ法	赤褐色 (5 Y R %)	僅かに砂粒を含	t B
5	S K (F) 031	鉢	脳		部	L					R格子目状燃糸文		ナデ		積み上げ法	灰黄褐色(10 Y R)	92)	僅かに砂粒を含	t A
6	S K (F) 031	鉾	嗣		部						無文、ミガキ		ナデ		積み上げ法	にぶい赤褐色 (5	Y R 54)	僅かに砂粒を含	む良
7	S K (F) 031	鋒	底		福				4.8		無文					橙色 (7.5Y R%)		僅かに砂粒を含	
8	S K (F) 023	\$4	口株	部~	胴部	(40).2)				縄文、LRヨコ		スス付着		積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R)	%)	僅かに砂粒を含	t 良
9	S K (F) 024	\$4	П	核	部						列点文				積み上げ法	橙色 (7.5Y R%)		僅かに砂粒を含	む良
10	S K (F) 021	42	駠		ar.						縄文, LRタテ				積み上げ法	にぶい黄橙色 (10)	Y R 3/2)	僅かに砂粒を含	t A

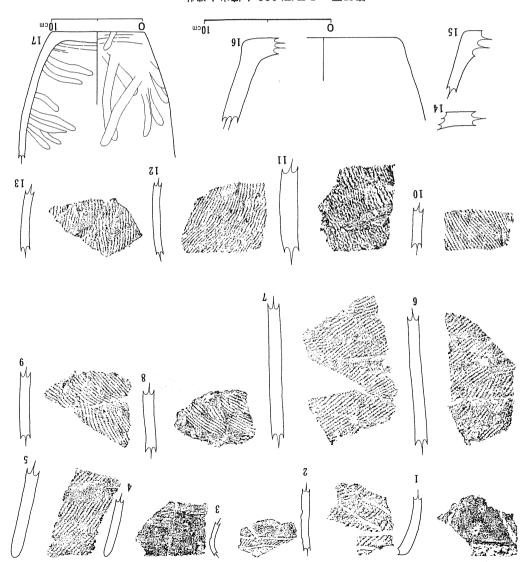


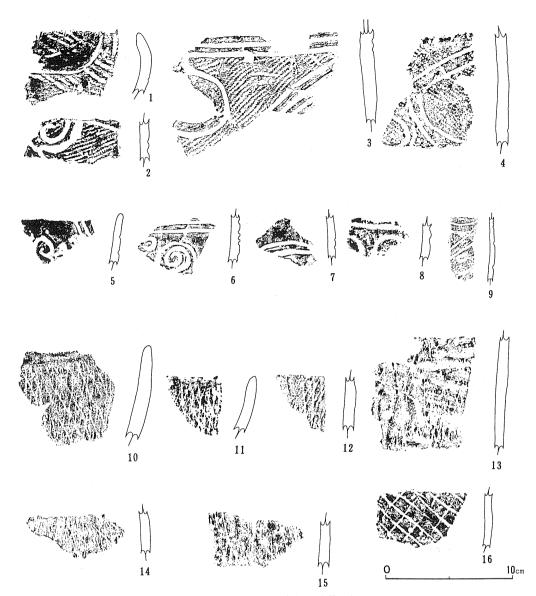
第26表 SK(F)021, SK(F)032土壙出土遺物

14131			av. (4-		法	麗 (cm)	調 整(地文)		成形	ft. 30	Ma to	焼成
番号	出土地点	MF TO	部位	口径	体包	族從	器高	外 面	内 随		9		
1	S K (F) 021	84:	口林部					縄線文、スス付着		横み上げ法	におい橙色 (7.5 Y R 汚)	砂粒を含む	ma
2	S K (F) 021	S#:	口林部			T		刺突文、沈線、縄文、RLタテ、スス付着	極(僅かにスス付着	積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R 羟)	砂粒を含む	桁具
3	S K (F) 021	鉢	IN 部				1	沈線、縄文、RLタテ	スス付着	積み上げ法	にはい権色 (7.5Y R 万)	砂粒を僅かに含む	A
4	S K (F) 021	šķ	料部					沈線、縄文、RLタテ、極く僅かにスス付着	スス付着	横み上げ法	浅黄檀~楊灰色 (7.5Y R %~7.5Y R %)	砂粒を含む	A
5	S K (F) 021	št.	財 部			1	1	沈線、縄文、RLタテ、スス付着		積み上げ法	(C.おい橙色 (5 Y R %)	砂粒を含む	相良
6	S K (F) 021	鉢	86 AB			†		沈線		積み上げ法	(こはい黄檀~楊庆(10YR另~10YR列)	砂粒を含む	A
7	S K (F) 021	312	86 BB		(23.1			無文、ミガキ、スス付着		積み上げ法	橙色 (5 Y R%)	砂粒を含む	不良
8	S K (F) 021	鉢	0年 部	-		1				精み上げ法	浅黄檀色 (7.5Y R 琴)	砂粒を僅かに含む	Ř
9	S K (F) 021	5k	底部	<u> </u>		9.4		僅かにスス付着		積み上げ法	浅黄檀~(C.in)黄檀(7.5YR%~10YR%)	砂粒を含む	相段
10	S K (F) 021	54:	1AS 85	<u> </u>		1	 			積み上げ法	福灰色 (10YR所)	砂粒を含む	A
13	S K (F) 021	ŝ\$:	班 部	l —		1				積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR努)	砂粒を含む	桁段
12	S K (F) 032	38	口株部	-		1	 	L格子目状燃系文		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R 26)	砂粒を僅かに含む	A
13	S K (F) 032	2	口秧部	_		1	1	横位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	浅黄檀色 (7.5Y R另)	砂粒を含む	A
14	S K (F) 032		NE 80	<u> </u>		1	1	軽位ケズリ、砂底		積み上げ法	淡黄橙色 (7.5Y R %)	砂粒を含む	A

角	ひ合きは他コー4割	(表月78.7~遅月78.7)直離現一直器・いたに	患れ上本剤	発制とと	条付エス ,整糯るまコリスマ		(\$102)			部孙一部	ii 15	S K (E) 055	21
Ħ	ひ合き跡4411-6割	民業報色 (107 民美)	おれ上る剤		文潮					38	∄ ¥ 5	S K (E) 022	91
Ħ	はおった砂粒を含む	(10Y R %5)	表わ上る剤	4+	(i.X.4					39	∄ 1 45	S K (F) 022	12
Ņ	小台を徘徊コウ斯	開催 (大名人名)	表刊上も組		文規					29	市 将	S K (E) 022	14
Ħ	ひ合き跡44日で新	(表 4 701) 面別漢於	おおよる耕		сеял, хр					38	15	S K (E) 055	13
Ħ	ひ合きは何いな剤	(於日人(10人日外)	表れは本鮮		⊏ ∈ Я 」 ,文腳					38	15 15	S K (F) 022	1.5
),ĭ	ひ合き独和 114割	(2) (10 A B K)	表刊上る組		九 ,文朱档					38	当村	S K (E) 055	11
ĵ,ſ	は合きが付ごで割	(光日A572) 同時の近日	表わまる組		た E J R ,女 M					2B	15	S K (E) 055	10
Ņ	ひ合き財母 コル期	(%月至2.7) 遊野	沿4月 左射		【亡邑」月,文謝					盤	1 15	S K (E) 055	6 .
Ħ	り合き財役の位割	(光月75.7) 海野	表判注る計		料副一同 に E J R , 文麗					35	li 15	S K (E) 055	8
Ħ	つ名き財役コペ期	(秀丑太5.7) 毎餅いだけ	表生)土 本耕		□ E B J , 文閣					99 1	li 145	S K (E) 055	
Ħ	は含きは母に成剤	- (※37.5/19) 一	表判上を群		料勘一同 ← EBJ , 友麗					199	li 145	S K (F) 022	9
Ħ	は含き財母に他圏	(別日代2.7) 通歌	表生(主法)		CEAJ ,文解					38 ##	1 15	S K (E) 022	5
頁	は合きは扱いを置	(2.3.2.2) 連貫(104.8.5.3)	表も)上る群	4-	₹+ ,支		1			30 14	3 特	2 K (E) 022	*
Ħ	の場所使の作割り顕	こがいを機匠(2人B別)	表判は本群		にER」 ,文解解 が	1		L		d#	i i	ZZO (4) N S	3
Ħ	ウキを排行さず期期	(発出 7.5 7 円 3.7)	出り土本組		春刊スス ,文群解去					19 1	1 1 1	S K (E) 055	2
ijſ	は合きは他にも期	(美月78.7) 画編集	報わ江本料	4+	11 ,文解翻					11일 축4	1 45	S K (E) 055	1
2020	1 9	# D	5H MP	頭負	W 14	聚器	影 班	果果	型口	立) 26	(# #R	※ 単土出	台掛
独裁	主 器	Held 129	>20 Apr	(文 郎) 雅 職		(m) 量	平				7 34 7 40	图射

第278 SK(F)022土壌出土遺物 第27表 SK(F)022土壌出土遺物

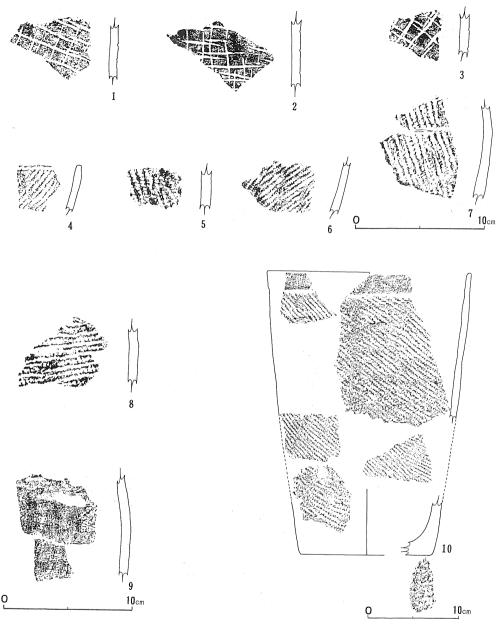




第28図 SK(F)007土壙出土遺物(1)

第28表 SK(F)007土壙出土遺物(1)

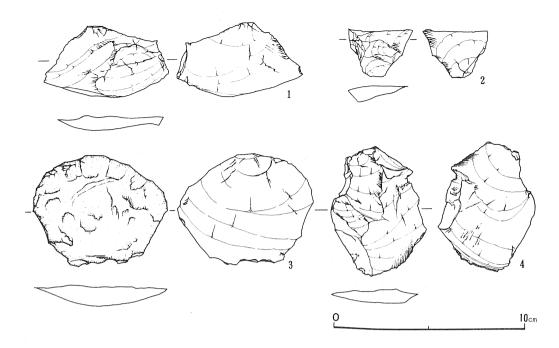
14(3)		nul me	au 11	i	£ j	at (en	1)	,314	整 (地	文)		nii. Hi	(6, 30	Mr t	燒疽
番号	出土地点	器形	86 62	口径	体径	连译	25.65	外	chi		四面	104, 117			
1	S K (F) 007	St.	口粉部				T	沈線、縄文、LRタラ			ナデ	権み上げ法	浸黄橙色 (10 Y R 55)	僅かに砂粒を含む	R
2	S K (F) 007	St.	35 M					沈線、縄文、R L タラ	、スス付着	同一個体	ナデ	植み上げ法	に.jcい褐色 (7.5Y R 站)	僅かに砂粒を含む	А
3	S K (F) 007	ŝk	94 SE	·				沈線、縄文、RLタラ	・、スス付着	1	ナデ	積み上げ法	無褐色 (10Y R 封)	僅かに砂粒を含む	Ŋ.
4	S K (F) 007	SE	84 85		l	l	 	沈報, 縄文			ナデ	摘み上げ法	灰黄褐色-橙色(10YR%-7.5YR%)	砂粒を含む	B
5	S K (F) 907	ŝŁ	U 54.86					沈禄、刺突			++	植み上げ法	にはい権 (7.5Y R 光)	僅かに砂粒を含む	Ŕ
	S K (F) 007	54	#H #F				 	沈線			ナデ	植み上げ法	楊庆色 (10 Y R 年)	僅かに砂粒を含む	B
	S K (F) 007	\$3:	84 BS		-			水椒			ナデ	構み上げ法	该黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	R
8	S K (F) 007	56	No 200			-	†	洪線			-	構み上げ法	沒黄橙色 (10Y R %)	砂粒を含む	Fŧ
9	S K (F) 007	54:	NA 86			-	 	71:89			-	積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	極僅かに砂粒を含む	R
10	S K (F) 007	54	DMA		<u> </u>	 		Rの格子目状機糸文			ナテ	植み上げ法	にぶい橙色 (7.5 Y R 3/)	僅かに砂粒を含む	A
11	S K (F) 007	St.	口絲部					Rの格子目状拠糸文			++	積み上げ法	に.i:い権色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒を含む	A
	S K (F) 007	Sk	題 部				-	Rの格子目状態糸文				Martifrit	に.i:い程色 (7.5Y R¾)	僅かに砂粒を含む	Ř
12						 		Rの格子目状燃糸文	Est 001/A:				楊灰色 (7.5YR5)	僅かに砂粒を含む	R
13	S K (F) 007	\$4 *	脚 部				 	Rの格子目状機糸文	[6] this size		-		楊庆色 (10Y R 知)	僅かに砂粒を含む	A
14	S K (F) 007	鉢	Ed SE			ļ							場灰色 (10Y R 年)	僅かに砂粒を含む	R
15	S K (F) 007	54	1941 215		ļ	ļ	ļ	Rの格子目状燃糸文					灰白色 (10Y R 万)	僅かに砂粒を含む	B
16	S K (F) 007	鉢	36 MB				L	Rの格子目状態糸文	·			相が上げ法	KIE (DIRA)	100 to 07 10 2 15 C	1



第29図 SK(F)007土壙出土遺物(2)

第29表 SK(F)007土壙出土遺物(2)

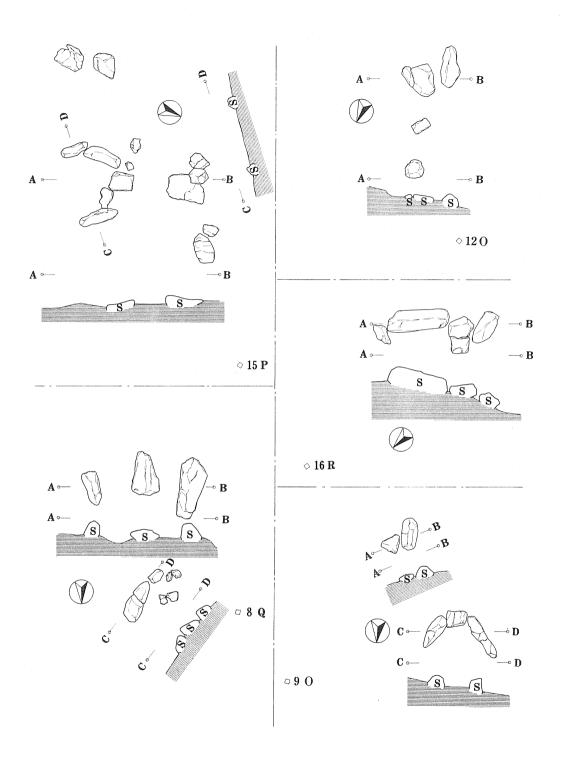
排図	出土地点	25 #3	8K (Q		i	ŧ	量 (c	on)		.) 21 PG	地文〉				Τ
番号	an a see a se	60 /I>	m+ 19.	E	往	体往	IÆ å	F.F.	25 ,65	91- dii	PA dis	城 形	ė m	- 計 - 土	焼疽
1	S K (F) 007	\$ ‡	84 RG							R 格子目状掺杂文		横み上げ法	にぶい黄褐色-灰黄色(10YR另-2.5Y羟)	砂粒を多く含む	А
2	S K (F) 007	鉢	8H 8G	T						R格子目状撒糸文		構み上げ法	逐黄橙色 (10Y R %)	砂粒を僅かに含む	A
3	S K (F) 007	鉢	8H 85							R格子目状燃糸文		横み上げ法	庆白色 (10Y R 努)	砂粒振く僅かに含む	я
4	S K (F) 007	68.	84 SE							縄文、RLタテ、スス付名		横み上げ法	にぶい褐色 (7.5YRタイ)	砂粒槭く僅かに含む	A
5	S K (F) 007	鉢	BH 85							縄文、LRタテ		積み上げ法	に300権色 (5 Y R N)	砂粒を多く含む	柳良
6	S K (F) 007	44	斯 部	T				T		縄文、RLタテ	スス付着	積み上げ法	におい位色 (7.5Y R 36)	砂粒を振く僅かに含む	R
7	S K (F) 007	44	8H 85	T				T		縄文、LRタテ		横み上げ法	浅黄檀色 (7.5Y R N)	砂粒を含む	я
8	S K (F) 007	*	84 85	Т						縄文、LRタテ		横み上げ法	黄灰色~浅黄檀色(2.5Y列~10YR列)	砂粒を含む	A
9	S K (F) 007	鉢	æ							縄文、R L タテ、外面スス	付着	積み上げ法	庆黄褐色 (10Y R %)	砂粒を多く含む	柳良
10	S K (F) 007	採鉢	口縁一底部の破	1 (2	2.7)	-	(14.4	0 (32.0)	縄文、LRタテ、スス付着	スス付着	横み上げ法	におい担色 (5 Y R %)	砂粒を多く含む	柏良



第30図 SK(F) 021·SK(F) 032·SK(F) 022 土壙出土遺物(石器)

第30表 SK(F)021, SK(F)032, SK(F)022土壙出土遺物(石器)

挿図番号	出土地点	器種	石質	長き(擬)	幅(横)	厚さ	重量	観察
1	S K (F) 021	制片	頁岩	5.5	3.7	0.9	18.5	横長の剝片、先端はヒンジフラクチュアとなる。左右両肩辺部を対部として便用したものか?
2	S K (F) 021	制片	頁岩	2.4	3.2	0.8	5.3	
3	S K (F) 032	剝片	頁岩	6.1	6.6	1.4	47.1	表面に自然面を残す。
4	S K (F) 022	制片	頁岩	6.7	4.7	0.7	24.1	先端に使用による刃こばれ痕が認められる。



第31図 炉 跡

1

出土遺物

土器

前期の所産のものと後期のものと時期的には2大別できるが、より細かく見た場合には前期のものを1時期、後期のものをおよそ2時期とそれに伴う1つのグループに分けることができ、各々を群としさらに文様等の特徴により類を設けて記述する。

第 I 群土器 (第 4 図, 第40図 1)

胎土に多くの繊維を含み、撚糸文を多用する。器形は円筒形の深鉢をとる。円筒下層d式に 比定し得る。

第Ⅱ群土器

第1類(第32図1,第40図2)

第2類(第32図2)

所謂連鎖状隆線を特徴とする。連鎖状隆線は、波状口縁の波頂下で円形の貼付文に連結する。 地文としては撚糸文が選択されている。

第3類(第32図3)

磨消縄文手法を用い、三角形の構図を横位に連ねる。波状口縁波頂下には円形の刺突文が施される。

第4類(第32図9·10)

胴部の破片のみであるので、土器全体の形態を描き出すことは出来ないが、地文に縄文を用いた上に先端の円い工具による刺突文が横位に並ぶ。

第5類(第28図1~9, 第32図4~22, 第33図1~21, 第40図3, 第41図4)

沈線によって曲線文が描かれることを特徴とする。磨消縄文の手法がとられる場合と、無文地に沈線がひかれる場合とがある。また地文としては複節の縄文が回転施文されることもある。 細片が多く全体の形態を推測するのがむずかしいが、壺形の土器も含まれることから器形は、 他のものよりバラエティーがあるものと思われる。また、沈線の描く構図にも多くの種類があ り、それによりさらに細かく分類することも可能である。

第Ⅲ類土器

第1類(第9図1~12·14·16·17, 第11図4, 第13図3, 第16図1·2, 第33図22·23, 第41図5) 平行沈線と磨消縄文手法の組合せを特徴とする。平行沈線間はS字状の沈線で連絡される場合もある。口縁は平縁, 波頂部のかなり肥厚した波状口縁, さらに大形の突起の付くものまで種々である。

第2類(第9図13·15)

沈線と磨消繩文手法によって大きな曲線的構図の描かれるもの。

第3類(第25図9)

口縁に魚尾状突起が付され、縦位の短沈線列が何段か重ねられるもの。

第Ⅳ群土器

第1類(第13図4~7,第41図1,第35図1~20)

口縁上端から底部まで縦位の撚糸文が施されるもの。原体はRの撚紐を用いることが多い。 器形は深鉢形を基本とする。

第2類(第10図21, 第25図 5, 第26図12, 第28図10~16, 第29図 1~3, 第34図 1~13, 第41図3) 格子目状撚糸文の施されるもの。原体はRが多い。口縁に無文帯をもつ場合もある。深鉢形が基本形態となる。

第3類 (第9図18~22, 第10図1~18, 第11図6, 8, 第13図8~10, 第14図9, 10) 第25図8, 第27図5~13, 第29図10, 第36図, 第37図, 第41図2, 6, 7 全面縄文の施されるもの。深鉢形を基調とする。口縁の形状は平縁の他, 波状口縁, 折り返し口縁, 無文帯をもつ場合などがある。

第4類(第8図10~12, 第11図5, 第26図7, 第27図17) 無文のもの。器形は深鉢形、鉢形、壺形と変化に富む。

第Ⅱ群~第Ⅳ群土器は後期初頭から後葉までの土器を含むが、およそ第Ⅱ群土器は後期初頭から中葉まで、第Ⅲ群土器は中葉から後葉にかけて、第Ⅳ群土器はⅡ群、Ⅲ群土器に伴うもの

と見てよい。

第Ⅱ群土器のうち第1類土器は以前山田野C式として注意されたこともあるが、東北地方北部、縄文時代後期の土器としてはかなり異質の土器である。すなわち、中期から後期への移行を土器の文様上で隆線→沈線の過程とするならば、この第1類土器では依然として隆線文の手法が残り、その意味では後期の土器としての最も大きな要素を欠している。さらにもっと厳密に言えば、土器文様の隆線→沈線という変化は例えば円筒上層 d 式と円筒上層 e 式に見られるように、既に中期後葉に完了していると言えるのである。つまり、この第1類土器は、東北地方北部の縄文時代中期から後期への土器編年を大雑把に見た場合、その系統上の脈絡を把えにくく、現在の段階では材料不足であるとしか言えない。唯、多少の飛躍が許されるなら、東北地方北部の後期前葉の土器とされる十腰内Ⅰ式土器の中には、上部の文様帯中の2本の平行沈線によって描かれる文様が、なかば浮隆線化したものがある。この種の土器と、さらに若干分布する地域を異にするが、やはり後期初頭~前葉とされる門前式もその文様表出の基本的手法は隆線文的手法である。このような土器が、第1類土器と何らかの関係をもつとも言えるのではないかと思われる。

第2類~第4類土器は、門前式及びその周辺に位置づけられるものであろう。第2類土器は、連鎖状隆線によって特徴づけられる比較的純粋な形の門前式といってよい。その他波頂部から垂下する貼付文、円形の貼付文等もその特徴として数えあげられる。第3類土器は、磨消縄文手法、円形の貼付文、その変形をも思える円形の刺突等、やはり門前式の流れを汲むと思われる特徴を具備している。第4類土器は横位に並ぶ刺突列が特徴である。

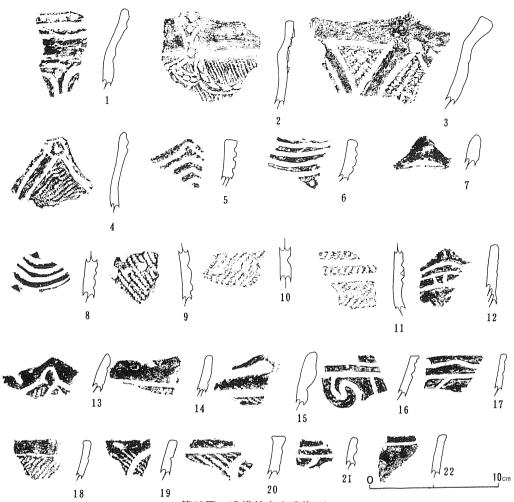
この種の土器は現在のところ未見であるが、門前式の中には、磨消手法による区画文内に刺 突を充塡させるものがあり、ここでは一応その類の土器との関係を考えておきたい。

第5類土器は、おおむね十腰内 I 式とされる土器をあげた。十腰内 I 式に関してはその細分の可能性が示唆され、また試行されてもいる。また大湯式等との関係の問題もあり、未だその型式内容には流動的な部分もある。第5類土器として一括してあげた土器も、磨消繩文手法を含めて沈線文的手法による文様という共通する要素をもち併せてはいるが、文様の構図などから細分される可能性をもつと思われる。

第Ⅲ群土器は後期中葉~後葉の時期にあたる。第1類及び第2類土器は、およそ加曽利B₁~ B₂式に併行させることができるのであろう。第3類土器は、後期後葉の入組文土器である。

第Ⅳ群土器は、II群及びIII群土器に伴う粗製土器である。したがって、口縁が波状を呈するか否かという部分的なところを除いては、殆ど深鉢形という単一の器形によって成ると思われ、II群、III群に認められた器形上のバリエーションは極めて少い。

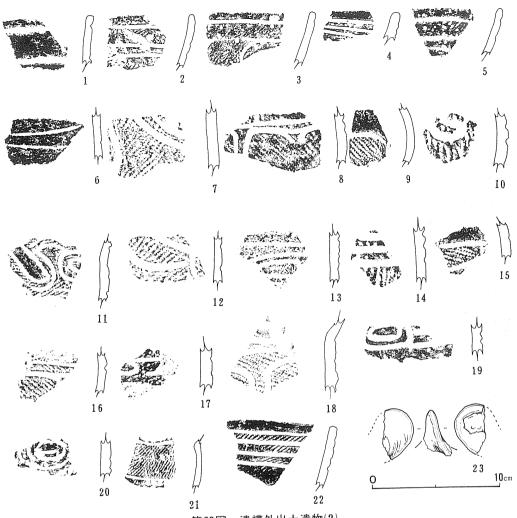
第1類,第2類土器は、ともに絡条体を回転施文したものである。第1類が、単に平行な撚 ※型式認定の問題に関しては研究者によって異論のあるところである。ここでは単におおよその時期 を示す指標として用いる。 -277 -



第32図 遺構外出土遺物(1)

第31表 遺構外出土遺物(1)

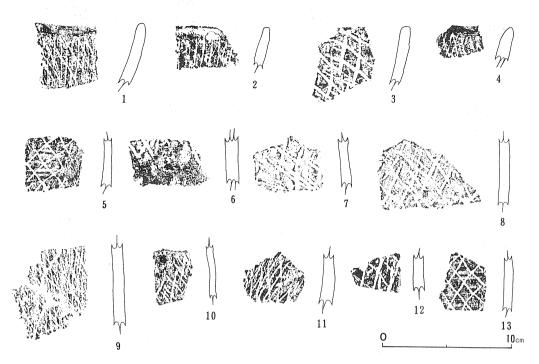
				,				330130 发情/1田工选汤/1					
挿図 番号	出土地点	器形	部位	口径		量 (c		調 整 (地 文) 外 面	内面	成形	'色 調	胎土	焼成
1	9 - T1'	ŝŧ	口練部	LIFE	14-1±	灰圧	63F (KV)	貼付文	PHIR	積み上げ法	福白色 (5 Y R 5/)	僅かに砂粒含む	Ř
2	9 - T	St.	口練部					沈線, 円形貼付文, 列点文, 撚紋		積み上げ法		僅かに砂粒含む	良
3	17 - G	鉢	口綠部		<u> </u>			沈線、刺突文、縄文、LRタテ		積み上げ法	にぶい黄褐色 (10Y R ½)	僅かに砂粒含む	良
4	10 - U	鉢	口縁部					沈線、円形貼付文、縄文、RLタテ		積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR躬)	僅かに砂粒含む	臭
5	15 Q	鉢	口絲部		Ī					積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R外)	僅かに砂粒含む	良
6	8 - R	鉢	口練部					沈線、炯突文		積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR努)	僅かに砂粒含む	良
7	7 - P	鉢	口練部					沈線		積み上げ法	灰褐色 (7.5YR%)	僅かに砂粒含む	良
8	8 - U	鉢	胴 部					沈 線		植み上げ法	灰褐色 (7.5Y R ½)	僅かに砂粒含む	良
9	6 - 0	鉢	胴 部					刺突文(方向一定せず)、縄文、RLタテ			にぶい橙色 (7.5Y R外)	僅かに砂粒含む	良
10	6 - N	34:	胴部					刺突文(方向一定せず)、縄文、RLタテ		,			良
11	8 · 9 - TU	\$4	期 部					沈線, 刺突文 (上→下の方向), 縄文, R L タテ		種み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R %)		臭
12	8 R	鉢	口綠部			L		沈線		積み上げ法	明赤褐色 (5 Y R %)	僅かに砂粒含む	具
13	Q O	鉢	口練部					沈 線		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	良
14	8 - P	鉢	口練部					沈線		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR写)	僅かに砂粒含む	良
15	11 - P	34	口絲部							積み上げ法	灰白色 (10 Y R 昇)	砂粒を含む	良
16	17 - P	鉢	口縁部					沈線		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	良
17	9 - T	鉢	口練部					沈線		積み上げ法	にぶい黄橙(10YR写)	僅かに砂粒含む	良
18	iトレ中央	\$4:	口袜部					沈線、縄文、R L タテ		積み上げ法	明黄褐色 (10Y R 3/6)	僅かに砂粒含む	良
19	10 — T	鉢	口縁部					沈線、縄文、LRタテ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ¾)	僅かに砂粒含む	良
20	10 - U	42	口絲部					沈線,縄文,無節上縄文		積み上げ法	,		良
21	8 P	并	口練部					沈線		積み上げ法	褐灰色 (5 Y R N)	僅かに砂粒含む	良
22	7 - P	242	口練部					沈 線		植み上げ法	橙色 (5 Y R%) ·	僅かに砂粒含む	良



第33図 遺構外出土遺物(2)

第32表 遺構外出土遺物(2)

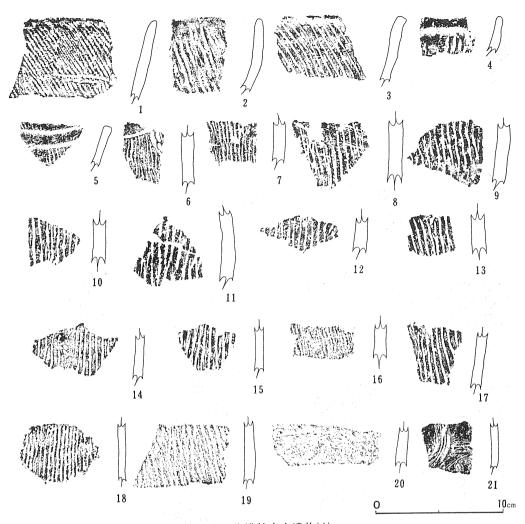
播図		HI W.	20 /4	T	进 1	d (cm)		N.	整(地 文)		15V	No.	他 選	胎出	烧成
番号	出土地点	器形	都位	口径	体径	庭径	器高		外	ifii	内面					ļ
1	6-0	\$4	山林部					沈線				横み	上げ法	(CJO) 橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	R
2	9 – Q	\$ \$	口株部					沈線				植み	上げ法	45.33い橙色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	R
3	9 - R	St	口株郎	1	1			沈禄.	縄文、	2		植み	上げ法	にぶい橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
d	8 – R	ŝŧ	LI HA ST					沈樑				横み	上げ法	明赤褐色 (5 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
5	9 R	\$4.	山林部		1			沈線				桥み	上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 汚)	僅かに砂粒含む	A
6	6 - T	\$4:	M4 60	1	T			沈線				植み	上げ法	明黃褐色 (10 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
7	9 T	54	84 81	1	-			沈穆.	緬文,	R L 9 F		植み	上げ法	にぶい権色 (7.5YR死)	僅かに砂粒含む	Я
8	14 - S	\$±	84 85		†			沈柳.	繩文.	LRタテ		植み	上げ法	灰褐色 (7.5Y R 短)	僅かに砂粒含む	R
9	7 - R	St	814 AT		-			注稿.	緬文.	RLBD		植み	上げ法	疾褐色 (7.5Y R 羟)	振く僅かに砂粒含む	良好
10	9 - T V	St	814 81		+			沈線.	縄文.	無節1.縄文		植み	上げ法	(二:3:3) 黄檀色 (10Y R 另)	砂粒を含む	やや良
11	3 1 1	54.	H4 SE		+	 		沈線.	縄文.	LRan		16.24	上げ法	(Linux 黄檀色 (10Y R 解)	僅かに砂粒含む	R
12	8 – V	34.	No.	-	+	 		沙線.	罐文.	RLタテ		It de	上げ法	にぶい権色 (7.5Y R光)	僅かに砂粒含む	R
13	5 – R	35	BM SI		+			沈線				植み	上げ法	にぶい-黄檀色 (10Y R写)	砂粒を含む	Ą
14	4 - K	St	84 8		+	 			新文	LR30		様ろ	上げ法	(こ3の権色 (7.5Y R34)	僅かに砂粒含む	良
15	5 – R	St	84 31		-					RLBD		10.2	上げ油	にぶい橙色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	Pt
16	7 - P	St	84 8		+	+	-			LR97		10.2	上げ法	にぶい褐色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	R
17	7 - T	ii.	B4 31			+		法線				16.7	上げ法	に 3/3 - 黄檀色 (10 Y R 3/)	僅かに砂粒含む	R
18	10~0	St.	BM 51		-				ボケ	LRタテ		16.7	上げ油	(こぶい黄檀色 (10Y R 3/)	僅かに砂粒含む	B
19	7 - 1.	\$4:	8H Si		+	+		沈柳.			±12. (+ ₹	権さ	上げ法	(こよい権色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	R
	6 - R	54.	Nº 6		+			沙線				-		(こぶい物色 (7.5YR外)	僅かに砂粒含む	A
20	6 - R	St.	No. 10	-	-	+		1	45·5·	LRBJ				にぶい黄橙色-黒褐色(10Y R 第-10Y R 形)	僅かに砂粒含む	Ą
21	<u> </u>	+				+		+	-	1. R クテ、煤付着		-		(C.5/(-程色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒含む	Ą
22	8 - S 8 - S	\$4 \$1				ļ				1. n 2 7 , 48:11 Al	1 10 1			黄灰色 (10Y R 新)	僅かに砂粒含む	B



第34図 遺構外出土遺物(3)

第33表 遺構外出土遺物(3)

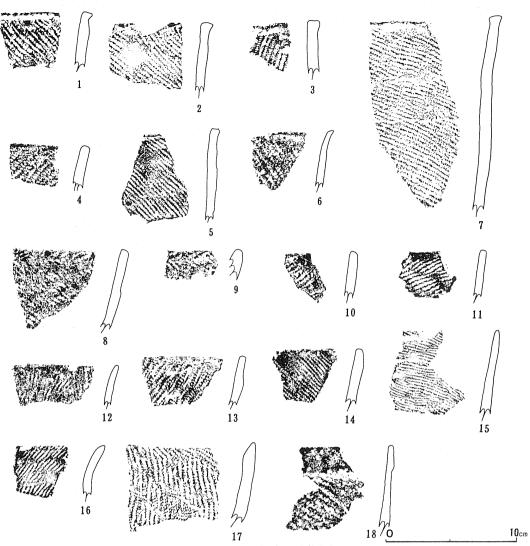
挿図	Historian.	器形	部位	Ė	去 1	jic (cm)	阊	整(地	文)	成形	(E. 28)	R6 1:	焼成
番号	(I) LUBAA	6a-4>	mp 197.	口径	体径	庭径	器高	外	jhi	15 面	10X, 1/2	E. se	7ts .L	ASE ILL
1	9 - T	鉢	口綠部					Rの格子目	状撚糸文	ナテ	積み上げ法	楊灰色 (10Y R 列)	僅かに砂粒を含む	Ð
2	7 - P	\$4:	口綠部					Rの撚糸文		ナデ	積み上げ法	におい黄橙色 (10 Y R 芬)	僅かに砂粒を含む	Ą
3	8 - R	\$4	口練部					Rの格子目	状撚糸文	ナデ	積み上げ法	浅黄橙色 (IOY R 努)	僅かに砂粒を含む	良
4	8 - D	84	口絲部					RとLの格	子目状撚糸丸	ナテ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 3/)	僅かに砂粒を含む	Ą
5	15 ~ Q	\$4	胴 部					Rの格子目	状燃糸文	ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R 写)	僅かに砂粒を含む	R
6	8 - R	\$\$	脚部					Rの格子目	状燃糸文	ナデ	積み上げ法	浅黄橙色~楊灰色(10Y R %~10 Y R %)	僅かに砂粒を含む	良
7	9 - 0	鉢	胸部					Rの格子目	状撚糸文	ナデ	積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良
8	8 - S	\$4	脚 部					Rの格子目	状撚糸文	ナテ	積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良
9	8 - B	跳	胂 部					Rの格子目:	状撚糸文	ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色~黒褐色(10Y R %~10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良
10	17 – Q		馴 部					Rの格子目	状撚糸文	ナテ	積み上げ法	褐色 (7.5Y R /)	僅かに砂粒を含む	良
11	9 – R	24:	脚 部					Rの格子目	扶撚糸文	ナデ	植み上げ法	にぶい橙色~浅黄橙色(7.5YR写~10YR妈)	僅かに砂粒を含む	良
12	8 – R	纬	刷部					Rの格子目	状燃糸文	ミガキ	積み上げ法	にぶい黄椎色~褐灰色(10YR写~10YR写)	僅かに砂粒を含む	良
13	15 P	韩	恥 部					Rの格子目:	状撚糸文	ナデ	植み上げ法	灰白色 (10 Y R %)	僅かに砂粒を含む	良



第35図 遺構外出土遺物(4)

第34表 遺構外出土遺物(4)

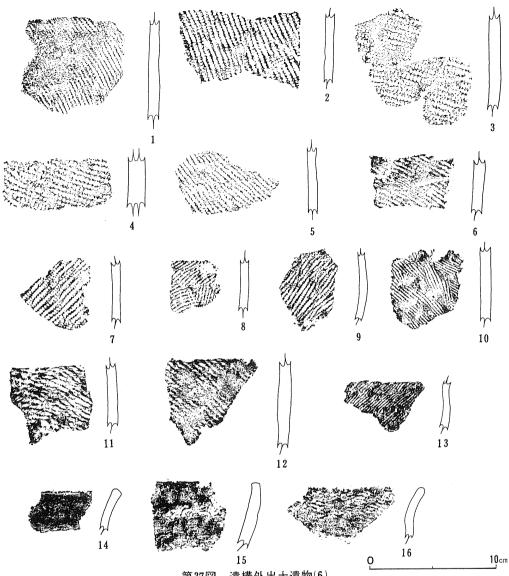
種[3]		BH 774	AT 54	è	去	i∄ (cm	()	Ä	18 (地	文):		bk #:	(L. 18)	Mr t:	炒成
番号	出土地点	器形	部位	口径	体径	庭径	器街	外	ďú	内	thi	tax ns	E 14	Ten II.	THE HX.
1	14 = 0	Sti	口絲部					縄文, LRタ	テ、スス付着			積み上げ法	浅黄脸色 (7.5Y R %)	砂粒を含む	R
2	4 - T	\$4:	口絲部					Rの撚糸文。	スス付着			積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	砂粒を含む	R
3	8 - R	34	口熱部					Rの撚糸文。	スス付着			積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 汚)	砂粒を含む	R
4	9 – R	\$\$.	口絲部					Rの撚糸文				積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	砂粒を含む	B
5	9 – R	\$#.	口綾部					沈線Rの撚弁	文			積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 写)	砂粒を僅かに含む	A
6	7 – T	鉢	胴 部					Rの撚糸文				権み上げ法	浅黄橙色 (10Y R %)	砂粒を含む	良
7	7 – T	34:	36 FB					Rの撚糸文				権み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 写)	砂粒を含む	良
8	4 – L	鉢	胴部					Rの燃糸文				種み上げ法	にはい橙色 (5 Y R 34)	砂粒を含む	育良
9	4 1	\$4:	104 AE					Rの撚糸文				植み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	砂粒を含む	良
10	4 1	S#:	86 M					Rの撚糸文				権み上げ法	位色 (7.5Y R%)	砂粒を含む	良
11	4 - K	\$\$.	NA 141					Rの撚糸文				植み上げ法	浅黄橙色 (7.5Y R%)	砂粒を含む	真
12	6 – C	\$\$	H4 8E					Rの撚糸文				権み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	砂粒を含む	WE
13	4 – L	鲱	胴 部					Rの撚糸文				権み上げ法	浅黄檀色 (7.5 Y R %)	砂粒を含む	A
14	6 - 0	\$ † :	胸部					Rの撚糸文				積み上げ法	浅黄檀~褐灰色(10Y R 约~10Y R 所)	砂粒を含む	A
15	6 - 0	\$ \$:	粡 部					Rの撚糸文				植み上げ法	福灰色 (10YR州)	砂粒を含む	良
16	7 - T	54:	#4 SE					且の撚糸文				積み上げ法	浅黄檀色 (7.5Y R %)	砂粒を含む	良
17	4 - 1	邹	涮 部					Rの撚糸文				植み上げ法	浅黄橙色 (10 Y R 躬)	砂粒を含む	R
18	8 - T	跳	期部					しの撚糸文.	スス付着			積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR写)	大粒の砂粒を含む	不真
19	10-0	342	胸部					Rの撚糸文。	スス付着	スス付着	ì	植み上げ法	(こぶい黄橙色 (10 Y R 汚)	砂粒を含む	15
20	6 - N	St	脚部					Rの撚糸文	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	僅かにス	ス付着	植み上げ法	にぶい橙色 (2.5Y R外)	砂粒を含む	B
21	9 - R	ŝŧ	期 部					条線、ススト	者			積み上げ法	黄灰色 (2.5YR灯)	砂粒を含む	MI



第36図 遺構外出土遺物(5)

第35表 遺構外出土遺物(5)

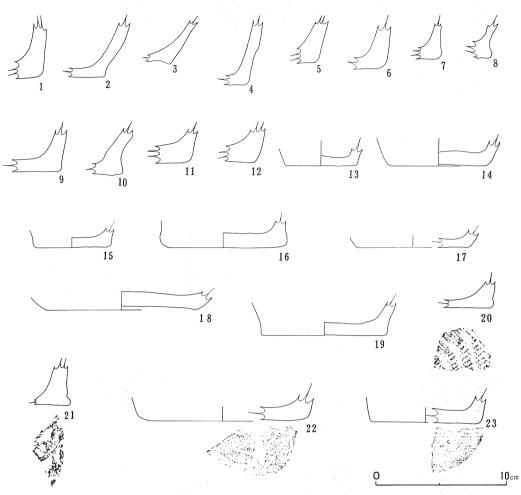
挿図	出土地点	40.50	or	部位		ac (2		#F (2)		i.	± i	ik (en	1)	調 整 (地 文)					T
番号	1.11.1.7E,17.	65117	1315			口径	体径	底径	器高	外 面	内面	成形	色 鵡	胎 土	焼成				
1	8 ~ R	šķ	C1	禄	38					縄文、LRタテ、スス付着		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 汚)	僅かに砂粒を含む	良				
2	15 P	鉢	t:i	林	38					縄文、LRタテ、スス付着	1	積み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR写)	僅かに砂粒を含む	A				
3	14 - S	鉢	П	株(AE .					縄文、RLタテ	1	積み上げ法	にぶい橙 (7.5YR%)	僅かに砂粒を含む	Ŕ				
4	6 - R	鉢	П	株(16					縄文、RLタテ、スス付着		積み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒を含む	良				
5	6 – P	\$\$	П	林;	T					縄文,LRタテ		積み上げ法	黒褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良				
6	4-1	\$4	П	林:	35					羅文、?		積み上げ法	明褐色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒を含む	良				
7	15 – P	鉢	口株	部~胴	36					縄文、LRタテ、スス付着		積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R外)	僅かに砂粒を含む	良				
8	5 – R	鋒	£3	林	W.					縄文、?		横み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR外)	僅かに砂粒を含む	良				
9	5 – R	\$4	D	株岩	16					縄文。?		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ¾)	僅かに砂粒を含む	良				
10	7 – P	\$\$	E1	林日	#					縄文, L.R ヨコ	T	積み上げ法	にぶい黄橙(10YR写)	僅かに砂粒を含む	良				
11	9 – R	\$4	П	林:	H.					縄文,LRヨコ		積み上げ法	明赤褐色 (5 Y R %)	石英を含む砂粒を僅かに含む	良				
12	4 - 1	\$4	13	林日	il l					縄文、LRヨコ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良				
13	4 1	\$\$	П	tk f	ig					縄文、LRヨコ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ¼)	僅かに砂粒を含む	良				
14	5 - S	\$4	Ш	## £	16					槁文、LRタテ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ½)	僅かに砂粒を含む	良				
15	5 S	\$4	Ell	kk 8	E.					縄文、?		積み上げ法	にぶい橙色 (5 Y R %)	僅かに砂粒を含む	良				
16	7 - P	\$\$	Ll	林台	Б					縄文、LRヨコ		積み上げ法	浅黄檀色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良				
17	11-0	\$4	П	林音	E					縄文、口縁部上位よりRLヨコ、RL左上→右下		積み上げ法	灰黄褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	1Ř				
18	5 - R	\$\$.	E3	林品	E .]				縄文,		積み上げ法	にぶい黄褐色 (10Y R 好)	僅かに砂粒を含む	Ą				



第37図 遺構外出土遺物(6)

遺構外出土遺物(6) 第36表

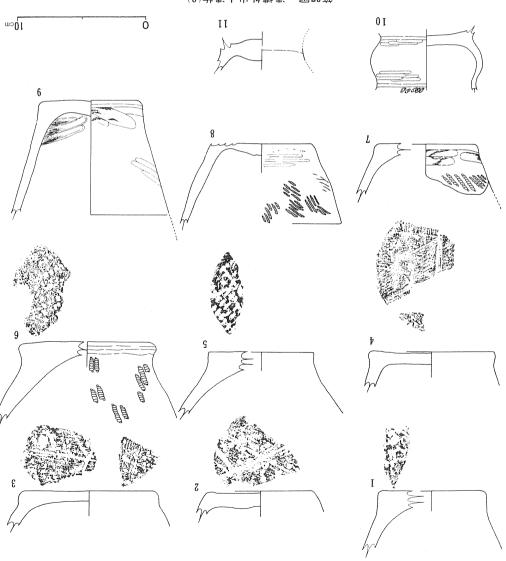
排図		up m.	***	14.	i.	į. j	it (cm)		網	整	地 文)		成形	色	調	胎	:t:	焼成
番号	出土地点	器形	1112	位	口径	体径	底径	器高	外		īħī	内	đđ	44, 47	5				
1	14 0	ŝķ	胴	部					縄文,	LR:	タテ	ナデ		積み上げ法	浅黄橙色~にぶい黄橙色	7.5Y R光~10Y R光)	僅かに砂料	を含む	具
2	14 - S	\$4:	胴	部					縄文.	LR.	タテ	ナテ		積み上げ法	灰黄褐色 (10Y R %)		僅かに砂柱	を含む	J.
3	6 - P	S.E.	秱	部					縄文,	LR.	タテ	ナデ		植み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR外)		砂粒を含む	1	Ą
4	7 - P	\$4	104	部					縄文,	LR.	タテ	ナデ		積み上げ法	褐色 (7.5Y R //)		僅かに砂料	を含む	良
5	15 – P	\$\$	胴	語					縄文,	LR	タテ	ナデ		積み上げ法	にぶい褐色 (7.5 Y R 列)		僅かに砂料	を含む	良
6	5 – S	\$4	胴	部		-			絕文,	LR	タテ	ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙(10YR <i>写</i>)		僅かに砂料	を含む	良
7	5 - P	S#	84	部					縄文,	RL	3 7	ナデ		積み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R 芳)	僅かに砂料	と含む	良
8	8 – T	\$4.	胴	部					縄文,	7		ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙(10Y R ¾)		僅かに砂料	を含む	Ą
9	12 - R	SA:	胴	部					縄文,	LR	3 2	ナデ		積み上げ法	明赤褐色 (5 Y R %)		僅かに砂料	を含む	良
10	7 – R	SA.	ā[e]	85					縄文.	RL	3 7	ナデ		積み上げ法	暗赤褐色 (5 Y R N)		僅かに砂料	きを含む	Ŗ
11	8 – R	\$4.	胴	85	<u> </u>				縄文,	LR	タテ	ナデ		積み上げ法	暗赤褐色 (5 Y R %)		僅かに砂料	を含む	Ř
12	7 - P	\$4	胸	86		<u> </u>			縄文,	LR	タテ	ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂料	立を含む	Ř
13	6 – T	\$4	Rid	38	-		1	—	縄文,	?		ナデ		積み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R %)	使かに砂料	気を含む	Ř
14	14-S	SA.	-	非部			-		無文,	ミガ	+	ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂料	しを含む	Ą
15	6 - P	Sk	-	*部		<u> </u>		 	無文.	E #	+	ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙色〜黒色(10	Y R ¼ ~ N ¾)	僅かに砂料	たを含む	良
16		- THE	-	*部		 	1	T	無文			ナデ		積み上げ法	浅黄橙色 (10YR%)		僅かに砂料	立を含む	良



第38図 遺構外出土遺物(7)

第37表 遺構外出土遺物(7)

挿図 出土地点 器	23 F.S	80.67	i	2:	ы	(cm)	調整用	文)	th #5	77 301	14	T., .	
番号	HILL DEAL	68 45	60419.	日径	体径	進	径 器高	外, 師	内面	tot, 113	色 調	胎 土	焼 呟
1	5 – S	84.	底部					縄文, LRタテ		積み上げ法	明赤褐色 (5 Y R %)	僅かに砂粒含む	A
2	7 - P	鈍	底部							積み上げ法	億色 (7.5Y R%)	砂粒を含む	やや良
3	8 - T	\$4	底部					縄文、R L タテ		積み上げ法	橙色 (10Y R%)	僅かに砂粒含む	Ř
4	8 - T	\$\$	康部					縄文、LRヨコ		積み上げ法	明黄褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
5	10 - T	\$4:	底部					無文]间一個体		積み上げ法	にぶい黄橙色(10 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	やや良
6	10 ~ T	\$4	概部					無文』的一副中		権み上げ法	浅黄橙色 (10 Y R %)	僅かに砂粒含む	やや良
7		\$4	斑部					R格子目状燃糸文		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 写)	僅かに砂粒含む	良
8	14 – R	鉢	唯部					無文		権み上げ法	にぶい橙色 (10Y R気)	僅かに砂粒含む	Ą
9	4 - K	\$1:	底部					無文		積み上げ法	明黄褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	サや良
10	9 – R	\$4	底部					無文		積み上げ法	明褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	Ą
11	9 R	84	底部					無文		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ¾)	石英を含む、砂粒を含む	良 好
12	10 - T	\$4	底部					無文 -		植み上げ法	にぶい黄橙色(10 Y R 写)	僅かに砂粒含む	良
13	5 - S	小形の鉢	底部			5.	i	無文		権み上げ法	にぶい黄橙色(10YR写)	僅かに砂粒含む	Ř
14	8 – T	鉢	疾部			(7.	1)	無文		植み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR%)	僅かに砂粒含む	А
15	8 - D	\$#.	底部			(5.	8)	無文		抗み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 写)	僅かに砂粒含む	良
16	8 – S	\$4:	底部			(9.3	0	縄文、LRヨコ		積み上げ法	楊灰色 (10Y R 列)	僅かに砂粒含む	良
17	6 - Q	\$4:	底部			(8.)	5)	無文		積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR写)	僅かに砂粒含む	良
18	14 – ∙R	84	底部			(11.)	8)	無文		積み上げ法	褐灰色 (10YR%)	僅かに砂粒含む	A
19	11-N	排	底部			9.4	3	無文		積み上げ法	にぶい橙色~楊灰色(7.5 Y R~10 Y R 至)	僅かに砂粒含む	良
20	6 - 0	\$4.	底部					綱代套		積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 刻)	僅かに砂粒含む	良
21	8 – T	\$#	底部					綱代痕		積み上げ法	にぶい黄橙色(10YR写)	僅かに砂粒含む	Ą
22	6 - T	ŝķ	底部					木葉痕		植み上げ法	楊灰色 (FR州)	僅かに砂粒含む	旦
23	7 = 0	\$\$.	底部					笹葉状, 圧痕		植み上げ法	にぶい黄橙色 (10YR另)	僅かに砂粒含む	良

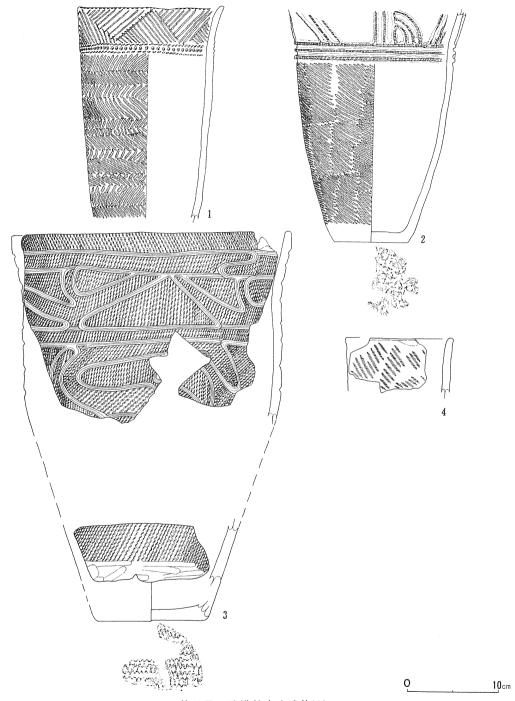


(8) ल蠢土出代薪畫 図78第

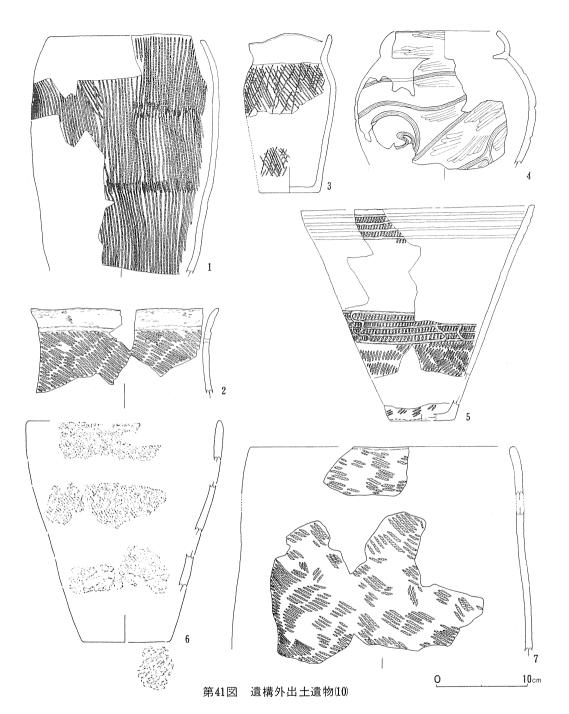
0,7,40

	4.31					-, -					
		No.	1916/1		191		14	器器	3)	Ħ	到神
	4	44i		(*	朝)	2.0	ht ^o	- {	(1803)	Ħ	
(8)(付書	ίŦ	出十	6 \$	林貴	ŗ	表88第				

排件	平 漿	ar o	(# W		(X BI) 35	in"	1	M Com	爭		A.) 24				181軒
			14 29	101 (41	141	44	炒課	3) M	新和	3)11	70	417	34 52	2018年11日	유셾
Ĭ.f	(1) 超级级 (1) (4) 關	(返月子さ) 通報率(おに)	第4月季期		文分章	用 , 海外開		(8.8)			19	Ξfi	715	A -11	1
ì,f	母起744971-9期	(長年701) 豊朝源いだコ	翌4日 早班			資子課業	<u> </u>	(118)			48	Ħ	15	W-t	- 2
Ħ	母超階標的控制	(遅日大5:2) 毎難いだけ	北村 本祖		证明被进	,文涂点上		(8.01)			35	Ħ	115	1 - 6	3
ij	自動鉄線は位割	- (光日人の1) 夏島県・バニコ	第4日マ財			连刑辦與		(2.6)			19	χii	113	T-01	+
ì,ī	位台班4011-6.利	(ごだい・実験度 (2人 B 浸)	東年日 本併		台斯士士 (文语类	月 ,迎升脚		(5.8)			39	3,0	\$5	1-6	G
ij	つ名が行いる難	(表月子01) 四部置(255.1)	深が日本財		# € 8 H T 'X	路 、沙沙园		(2.01)			架	3,0	145	Н 9	9
ìΪ	は名が何 いん剤	(長月子01) 画知道・25.21	第4日 至曆		44.49	用山 决脑		(8.71			29	24	35	140	
ij	在最外種(1)中期	(長月78.7~長月701)国動いにコー国研覧のにコ	第4月 名胜		4.6	超之, 上居		(0.11)			銀動~		45	14 - C	8
ij	① 超级和 11·6.利	(表月子る一匹月子67)画樹赤いにコー直卧いにコ	进利日本開			441		(816)			想到一		44	1 ~ t	6
ij	(3.超高级) 1.6.0周	- 157.1 (10人 日分)	第4月五番		\$4 € "CE	編文。 LR					개발	1,4	#\$4) 12	1 1	01
Ħ	(3) 程 (3) (4) (1) (4) 斯	(死者人の1) 司職権・2017	港和145組			443					38	부	超付合	L - 6	П



第40図 遺構外出土遺物(9) 第39表 遺構外出土遺物(9)



第40表 遺構外出土遺物(10)

M14	出土地の	22 F5	RE 10		il:	₩ ((m)		週 暫 (地文)		M Fi	fr. m	Bris II	p sit
番号		11 14	体性	线法	25,6%	Ph dri	64 mi	W 11/		1)1 A.	75,444		
1	11 - N	17.54	山林部 - 劉部	(17.6)	(21.0)			R燃车文、煤北灰化物付着		横み上げ法	におい権色 (7.5YR外~5YR外)	後1mm前後の砂粒を含む	TR
2	14 - S	šķ.	111485-9460	(20.4)	1			U枝、無文、ナテ、刷部沈禄縄文LRタテ橋修孔		構み上げ法	状黄褐色 (IOYR月)	僅かに砂粒含む	R
3	12 - N	\$5.	11#新一年版	(9.2)	(10.3)	(6.8)	17.8	口輪、横位ナテ、刷部具格子目状燃収	T	横み上げ油	赤褐色-蜡褐色(7.5Y R %~10Y R 形)	ほ1m末横の細砂混入	A
4	12 - 0	ŝŁ		(11.8)	(20.1)	1		沈福、ミガキ、塩付着	煤付着	横み上げ法	に 30×異常色~に 30×潜色(10YR 25~7.5YR 25)	強かは砂粒金も	RH
5	8 - 5	St.	(1株部-底部	(26.3)		17.3		沈報、縄文、LRヨコ		権み上げ法	に 331 精色~灰黄褐色(7.5Y R另~10Y R站)	優かに砂粒合む	R
- 6	11 - N	St	11林部-底部	(22.0)		19.51		無節し縄文、調代度、媒付着		積み上げ法	におい義権色ーにおい権色(10YRだ~7.5YRだ)	砂粒含矿	A
7	11 - N	St.	11日本二年部	(29.7)	-	-		縄文、LRタテ	Ī	横み上げ法	(1.30) 権色-灰褐色(7.5Y R第-7.5Y R新)	砂粒含む	я

糸文であるのに対して、第2類は格子目状の撚糸文が施され、原体はどちらもRが多い。第10図21、第29図3が示すように、前者が口縁以下全面に施されるのに対して、後者では口縁が波状を呈し無文化されている。こうした例から、第2類の格子目状撚糸文が施された土器は、単に平行な撚糸文が施された土器よりも、より装飾的な効果をもたせた土器との推察もできるであろう。

後期に出土するこの種の撚糸文を多用する土器は、後期にあっても早い時期に出現するのが 通例である。この点からすれば、第3類の全面縄文を施す土器との比較でも、およそ第1類、 第2類を第Ⅱ群土器に伴う粗製土器、第3類を第Ⅲ群のそれと対比できるだろう。

ただし、後期の早い時期にも縄文の施文により作られる粗製土器が全くない訳ではなく、第3類中折返し口縁をもつ深鉢などは第II群に伴った可能性がある。

第4類土器は、その器形上の変化の多さから本来精製土器の範疇に入れられるべきものであ ろうが、後期の中での時期の特定は難しい。

石器

大きく分けて打製の剝片及び剝片を素材に用いた石器,磨製の石器,自然礫から使用された結果の礫石器の3種がある。剝片を用いた石器は石材に頁岩を選んでいるが,稀には黒曜石も用いられる。

石鏃(第42図1, 第52図2・4, 第89図2)

4点出土している。石質は黒曜石、頁岩である。有茎のもの2点、無茎のもの2点、両面から丹念な調整剝離が施されるが、一部に素材となった第1次剝片の剝離面を残す場合もある。

石匙 (第5図1・2)

2点出土している。石質は頁岩。縦形、横形とも1点ずつの出土である。素材剝片の主要剝離面には、つまみ部の作出のためを除いて殆ど調整剝離は施されない。表面はほぼ全周に亘って刃部作出のための調整剝離がなされる。

搔器 (第8図13, 第42図2~11, 第52図1)

12点出土している。石質は頁岩及び黒曜石である。おおむね3つの形態に分類できる。1つは、比較的幅の広い肉厚の剝片を素材に用い、ほぼ全周に刃部作出のための調整剝離を施したもの(第8図13、第42図2・3)、もう1つは、素材に縦長の剝片を用いその側縁に調整剝離を加えたもの(第42図4~7)さらにもう1つは、素材の剝片の形状を殆ど変えずに、僅かに刃部として使用する箇所にのみ部分的な調整剝離を加えたもの(第42図8~11、第52図1)である。このうち、第1の類は最も形態が整い、ヘラ状ないしはラウンド・スクレイパーと形容し得る形状を呈すが調整剝離による加工は素材表面に限られ、打面主要剝離面はそのまま残る。この点

が両面加工の所謂通常のヘラ状石器と異る。また第2の類では調整剝離が側縁に施されるため、 上下両端または片方の端が鋭く尖るものがある。これらはその使用状態にあっては、掻器とい うよりもむしろ刺突を目的としていた可能性もある。第3の類は掻器とするよりは、僅かに調 整剝離が加えられたリタッチド・フレイクとした方が妥当かも知れない。さらに使用痕の観察 如何によっては、素材の調整部分が刃部とは限らないものも含まれている可能性もある。

剝片 (第8図14, 第15図2, 第43図, 第44図, 第52図3, 第74図1·2, 第80図7)

石質は全て頁岩である。大きく見れば縦長の剝片と横長のものに分けられる。そのままで道 具として使用したと思われる剝片もあり、それについては剝片の縁辺に刃こぼれ痕が観察でき る。

磨製の石器は,石斧の類である。

磨製石斧 (第11図9, 第15図1, 第45図1 2·3, 第73図4·5, 第101図)

石材としては凝灰岩、礫岩、緑泥片岩を用いている。緑泥片岩製の石斧では石材の節理による亀裂が全面に残る。刃部がかなり緩い直線的な円弧を描くもの(第11図9、第15図1、第45図2、第101図)ときつい円弧を描くもの(第73図5)とに分けられる。前者では断面形は扁平で、本体に陵線が残る。大きさは全長が10cm前後である。後者では断面形はかなり丸くなり、陵線も明瞭なものは残らない。また大きさも、欠損していて確実なところは解らないが、基部の残存するもの(第73図4)等からするとかなり大形になると思われる。その他、製作の過程を知り得る資料として擦り切り法による半製品(第45図1)がある。

礫石器として取り上げるのは磨石, 凹石, 石皿である。

磨石 (第20図 2 , 第89図 1 · 3)

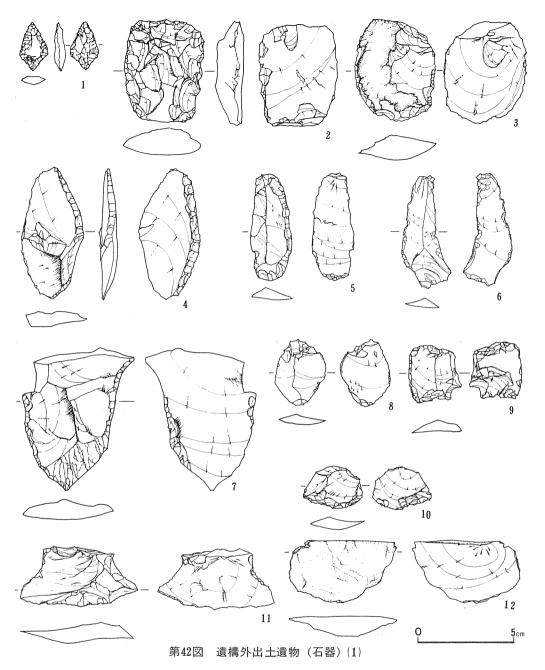
安山岩製である。円礫を用いるが、部分的に比較的平担な面が認められ、その部分がよく磨かれているようである。また一部に敲打痕を残すものもある。

凹石 (第45図4)

安山岩製。片面に2箇所,他面に1箇所敲打による凹みが認められる。凹みはさ程深いものではない。

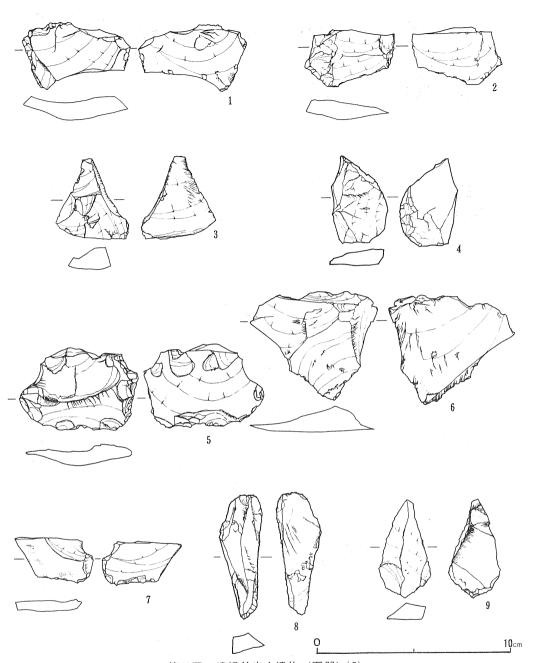
石皿 (第20図1)

安山岩製。表裏両面が皿面として用いられ凹んでいる。側面は素材の礫の自然面を残しており、整形された痕跡は認められない。第20図2の磨石とともに出土しており、両者がセットで使用された可能性がある。



第41表 遺構外出土遺物(石器)(1)

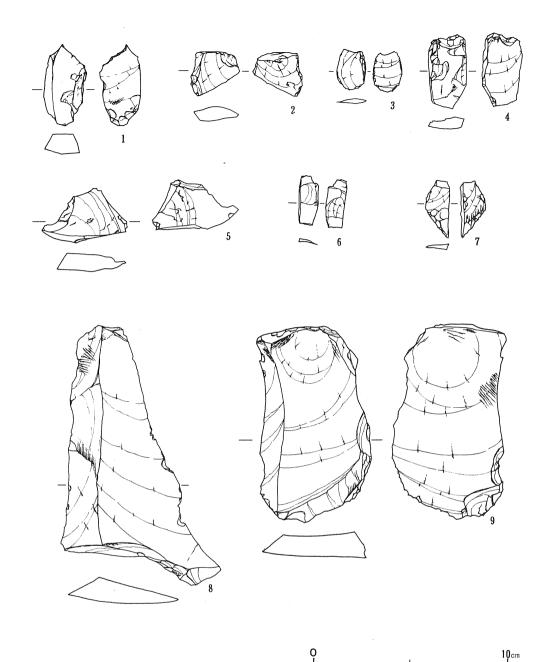
挿図番号	出土地点	器極	石質	長さ(報)	幅(横)	厚き	重量	観察
11	8 7	石 鐵	頁岩	2.5	1.5	0.5	1.6	片面に素材となった剝片の第1次剝離面を残す。基部の作出はき程顕著ではない。
2	12 P	掻 器	頁岩	5.4	4.1	1.5	36.8	素材制片の表面を加工したヘラ状の石器。制片の打面側に刃部先端を作出している。
3	8 - R(倒木痕)	掻 器		4.5	4.2	1.5	33.3	
4	9 0	尖頭器	711	6.9	3.2	0.7	17.1	表面右上辺と裏面右辺に二次剝離を加える。先端部欠損。掻器の可能性も有り。
5	14 - 0	掻 器	71.11	5.5	2.2	0.7	8.5	
6	7 - 2	掻 器	7.714	5.8	2.0	0.6		
7	8 – R	尖頭器	页岩	7.2	5.2	1.3	39.8	素材表面に自然面を残し、縁辺に二次剝離、基部(打面側)は拆損。
- 8	17 - P	播器	頁岩	3.5	2.5	0.6	4.9	素材裏面左右両辺に細かな二次剝離、素材先端はヒンジフラクチュアとなる。
9	12 - R	掻 器	頁岩	2.7	3.0	0.5		素材表面左辺に二次剝離を加え刃部を作出。
10	7 P	播 器	頁岩	2.2	3.0	0.6	3.5	素材表面右辺から下辺にかけてと裏面下辺に二次剝離。
11	6 F V	掻 器	页岩	3.2	5.2	1.3		かなり磨滅しているが、表面下辺及び左辺に二次剝離。
12	4 K	制片	頁岩	3.3	5.6	1.0		表面に自然面を残す。練辺に刃こぼれ痕。



第43図 遺構外出土遺物(石器)(2)

第42表 遺構外出土遺物(石器)(2)

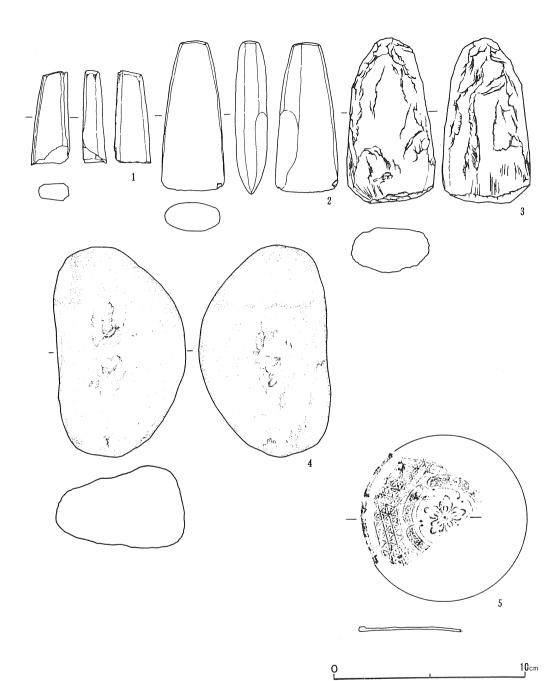
挿図番号	出土地点	22 F	4	41	Ħ	長さ(擬)	幅(横)	摩	4	重量	観 寮
1	14 - S	絧	H.	ĔĹ	봡	3.5	5.6			18.9	表面左右両辺にわずかに二次剝離。
2	11 - N	制	14	頁	岩	2.9	4.7	1	.2	12.6	磨滅が著しいが、縁辺部にわずかに三次剝離が施される。打面側は拆損。
3	5 - T	絧	片	Ħ	岩	4.0	3.7	1	. 1	12.2	右側辺に自然面が残る。左辺に一部二次剣雕が認められる。
4	6 - R	剝	片	A	岩	4.7	3.0	0	.8	11.7	表面に自然面が残る。
5	6 - R	刹	片	Ŋ	岩	4.4	6.0	0	.9	26.6	表面に自然面が残る。下辺が刃部として用いられたのか、拆損している。
6	12-0	猘	片	Ħ	岩	5.5	6.3	1	.4	38.4	
7		71	Fi	Ä	岩	2.1	4.5	0	.9	6.9	表面に自然面が残る。裏面下辺に僅かに二次剝離が認められる。
8	6 - 0	(H)	片	Ā	岩	6.4	2.2	0	.9	11.6	表面に自然面が残る。
9	8 – R	制	片	Ą	岩	5.2	2.6	1	.1	12.3	打面に裏面からの二次剝離がある。



第44図 遺構外出土遺物 (石器)(3)

第43表 遺構外出土遺物 (石器)(3)

挿図番号	出土地点	器和	6	Ŧi	Ħ	長さ(縦)	幅(構)	厚さ	重量	観察
71123			-		<u> </u>			14-0	200 200	観 察
1	10 - Q	剝	#	Ą	岩	4.2	2.1	1	9.6	裏面下辺に二次剝離が認められる。
2	13 – R	利	4	頁	岩	2.0	2.6	0.8	5.0	打面は自然面を残している。拆損したヘラ状。
3	8 – T	絧	4	頁	岩	2.0	1.5	0.3	0.8	表面右辺に二次剝離が認められる。
4	8 – T	剝	+	頁	岩	3.8	1.9	0.7	6.3	
5	12 - R	剝)	LL.	Ą	岩	2.5	4.5	1.1	11.8	表面に自然面を残す。
6	8 – T	剝り	Ť	頁	岩	1.5	1.0	0.4	0.9	表面に自然面を残す。
7	15 — Q	剃り	ţ.	Ą	岩	3.0	1.1	0.4	1.6	表面左辺に二次剝離が認められる。
- 8	14- S	剃り	Ť	頁	岩	12.4	7.5	0.4	103.1	左右両辺が刃部として用いられたものか。刃こぼれ痕が認められる。
9	12 · 13 - R	剁;	†·	Ħ	岩	10.3	5.8	1.6	117.6	表面右下辺と裏面右下辺に二次剝離が認められる。表面左辺は刃部として用いられたか。



第45図 遺構外出土遺物(石器)(4)

第44表 遺構外出土遺物(石器)(4)

挿図番号	出土地点	器種	石 質	長さ(縦)	幅(横)	厚さ	重量	觀察
1	6 - 0	磨製石斧	凝灰岩	4.7	1.9	1.2	19.2	右側辺に擦切り拆断の痕跡を認める。基部のみ残存。
2	12 K	磨製石斧	レキ岩	7.9	3.3	1.5	66.4	刃部僅かに磨耗
3	9 – N	磨製石斧	緑泥片岩	8.8	4.5	2.3	138.3	両側縁及び基部は研磨状態不良、刃部は磨耗が著しくかなり剝落している。
4	8 - S	凹石		11.1	6.8	4.1	347.0	片面に2箇所、他面に1箇所凹部分が認められる。
5	9 – R	銅 鏡	径:8.8cm	、厚さ中:	央部1.3mm	、練部	2.6mm	

(2) 平安時代

遺構

平安時代の遺構としては、住居跡13棟を検出している。

これらの平安時代の住居跡は縄文時代の住居跡と異り、台地の縁辺部よりはむしろその内側、 台地の中央に位置している。また南へ向う斜面上に位置しているため、確認面での南側の壁が 北側の壁よりもかなり低いものになっているのは縄文時代の住居跡と同様である。

プランの確認はIII層黒色土の上面で行い得た。住居跡覆土には全体に多量の浮石が混入しており、黒色土の中であっても浮石の混入する住居跡覆土と住居外の土の識別は比較的容易であった。覆土中では土師器片、鉄器、木材とともにトチノ実、米、豆、茅、稲藁等の炭化した植物遺存体も多く検出された。また夥しい量の焼土が住居跡覆土中に堆積する例、床面が焼土化している例もあった。

住居跡の平面形態はおよそ方形であるが、第1号、第10号、第14号住居跡のように概して規模の大きな住居跡では四隅も明瞭な角をもつ。対して第6号、第9号、第2号住居跡のように規模の小さいものでは各壁ともやや湾曲し、隅丸方形に近い形態をとる。住居跡規模は最も小さな第12号住居跡で1辺がおよそ2.3m~2.5m、最も大きな第1号住居跡で5.0m~5.3mを測る。

各住居跡ともカマドを住居内にもつが、その位置は南壁が11棟と最も多く、東壁及び西壁に位置するものが各1棟づつある。カマドは袖部に芯材として河原石を用いている例が多く、その上を粘土で覆って本体部分を形作ったと思われる。また第6号住居跡のようにカマド本体中に小形の甕を倒立させて支脚として機能させた例もある。カヤド煙道部は第6号、第9号、第18号住居跡のように壁際からかなり急角度で立上る短いものと、第1号、第10号、第11号、第17号、第19号住居跡のように比較的長いものとがある。

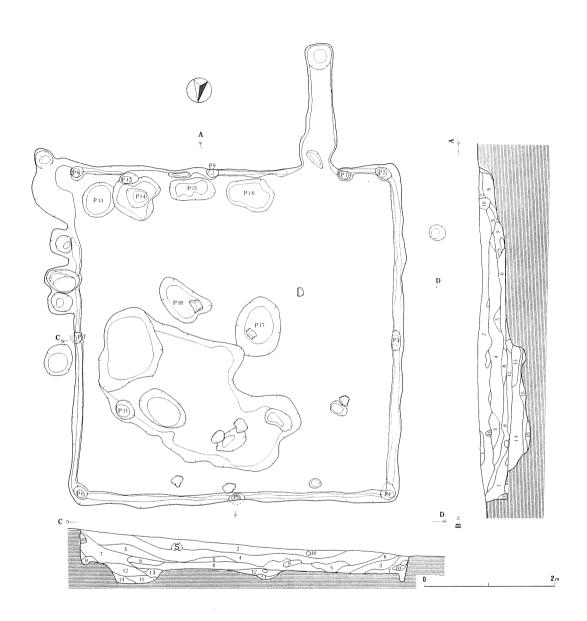
柱穴は、周溝のある住居跡では周溝内の四隅及びその中間位置に設けられる。周溝のない比較的規模の小さな住居跡では明瞭な柱穴を住居跡内に検出することができなかった。また第11号住居跡のように、住居跡外に柱穴と思われるピットを何個所か設ける例もあり、廂部分を上屋構造にもっていた可能性もある。

床面は殆どが例外なく焼土化していることもあり、かなり良好な締った面として検出されている。住居構築時の底面がそのまま床面として使用され続けた例はなく、各住居跡とも焼土化している面と構築時の底面との間には数cmの差がある。この間には炭化物、焼土粒、土師器片等が混っており、比較的大きなピットがこの層によって覆われていることもある。

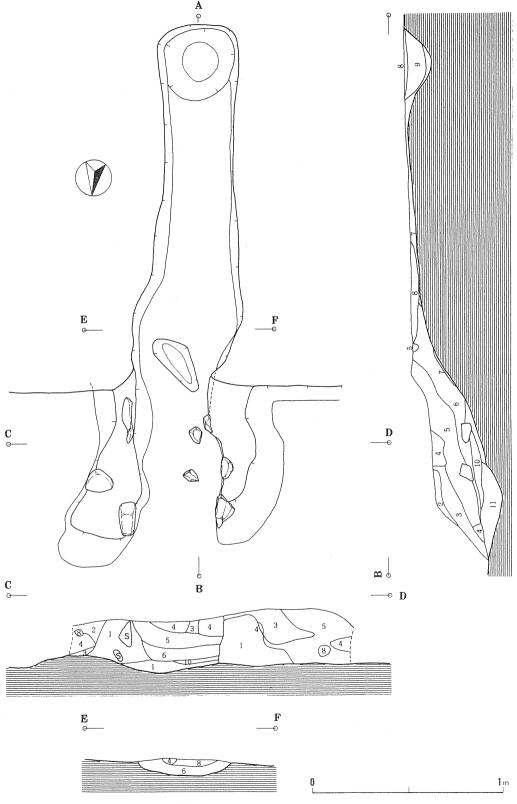
壁はほぼ垂直に掘り込まれている。第10号住居跡では壁面に沿い板材が用いられており、炭化した板材の埋め込まれた状態がよく観察された。 $\rightarrow P300$

第45表 SI001住居跡観察表

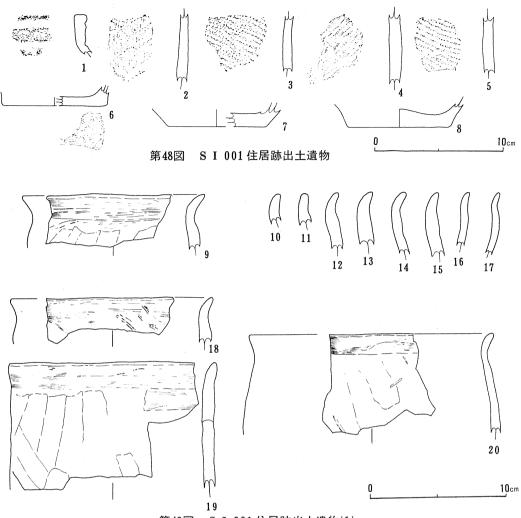
	-		0 1000 () P P+		挿 図	57~60		
			S1006住居跡		図版	11, 12,	47	
検	出	区	9 - N, 10 - N, 9 - I	D, 10—D	Appendix and the second of the			-
			東 壁	西	8差	南	南 睦睦	北壁
法	腔	壁 壁 周 周 面 A 方 位 寝 壁 席 マ タ 位 寝 上 物	3.18 m	3	. 16 m		3.19 m	3.62 m
	壁	髙	44.5~66.0cm	9.0~3	4.0cm	1	1.7~38.7cm	41.2~63.7cm
	周潭	岬		5.0~1	2.0cm		8.0~16.0cm	Navigation and a suppression
噩	周溝	探	Marie and the second	5.3~	8.1cm	1	0.8~32.3cm	
	面	積	10.88m²					
主	軸方	位	N — 102° — E			形態	方 形	
覆		<u>+</u>	1. 10 Y R ¾ 暗褐色 約 2. 10 Y R ¾ 暗褐色 約 3. 10 Y R ¼ 褐色 粘射 4. 10 Y R ¾ 褐色 粘射 5. 10 Y R ¾ 褐色 粘射 6. 10 Y R ¾ 暗褐色 約 7. 10 Y R ¾ 暗褐色 約 8. 10 Y R ¼ 褐色 粘射 9. 10 Y R ¾ 暗褐色 粒 10. 10 Y R ¾ 褐色 粒 11. 10 Y R ¾ 褐色 粒 12. 7.5 Y R ¼ 褐色 粒	站性大 生性 ま性 ま性 ま性 ま性 また い また い また い た い ま た い た い た れ た た た た れ た た た た た た た た た)パミなのないのでは、これで混れて含量混んで含量混んで含量混んでは、これでのでは、これでは、これでは、これで、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	多な入口もし混し物入いいロー多な入な多いのローがいいい量院ローム・プローに	化物僅かに混入 一ム粒及び炭化物 ム多量に混入 立混入 炭化物僅かに混入 一ム粒多量に混入 コーム粒多量に混入 混入	混入
	壁		床面に対して93°~119.	5°の範囲にあ	っる			
	床		カマドを中心に、東側ギ	半分にかなり」	広く火床カ	広がって	ている	
周		溝	西壁の南隅極く僅かと同	有壁の西側半点	分に見られ	るが、 る	その他の面の検出に	はできなかった
ť	Ÿ	ŀ	柱穴は検出できなかった P ₁ 60×68×12.0 北側 P ₂ 93×146×45.0 P ₁ の		及び鉄器に	11.		
	位.	置	東壁 南寄り					
カマド	覆	<u></u>	4.10YR% 黑褐色	粘性強 孔隙小 褐色 粘性中 粘性中 孔隙小 性弱 孔隙小 粘性中 孔隙小 粘性中 孔隙 粘性中 孔隙	、カマド 孔隙 ボッ で は ぶ ス 2 !! ・	ジ成土 () パミス含む 貴褐色土: %位含む れる .入.入	上部) 』炭化物 3 %程混 10%位含む - バミコ	入 焼土粒ごく僅か混入
			れていた。煙道部の傾	斜は32° にもな	よっている	。袖の剖	3分はあやまって# 	
遺		物	遺物は住居内の北側半 炭化した栃の実が多数 支脚として用いられて	出土した。				
備		考	この遺跡中この住居跡	だけカマドが	東向きであ	らった	All the second s	
			1					



第46図 第1号住居跡



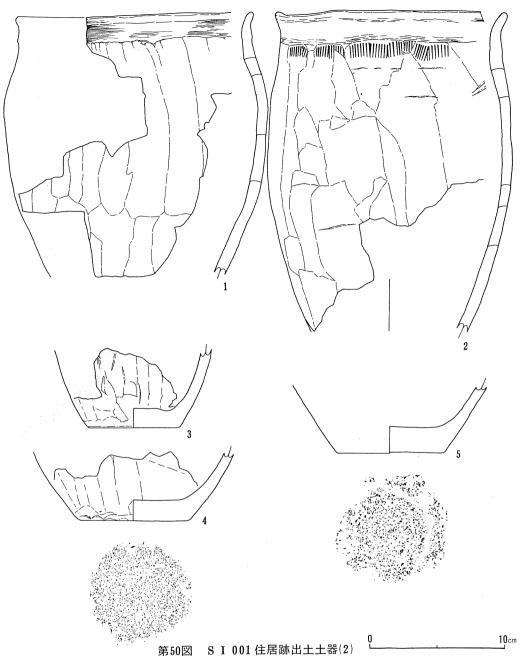
第47図 SI 001 住居跡カマド



第49図 S I 001 住居跡出土遺物(1)

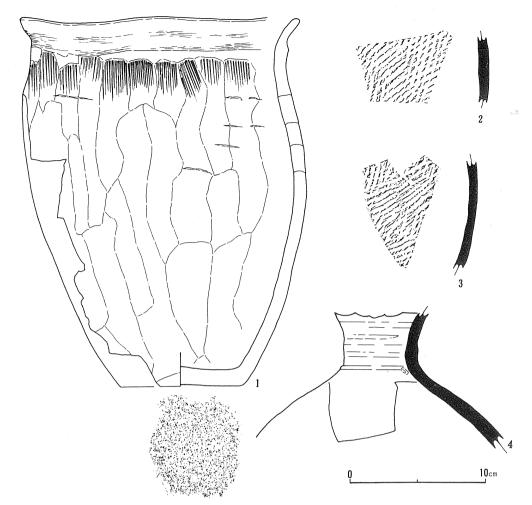
第46表 SI001住居跡出土遺物(1)

排図					di i	ii (cm)	-	. 24 25	(地 文)	T			
番号	出土地点	200 F 5	86 fz.	口往	体径	庭 往	29,85	外 面	内面	成形	色 選	格 ±.	焼成
1	S I 001	鉢	口棒部					注 線		横み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R ½)	砂粒を含む	А
2	S 1 001	54:	84 85					R格子目状燃糸文		積み上げ法	灰色 (5 Y 灯)	砂粒を僅かに含む	Ą
3	S I 001	\$4	\$4 SE					縄文、LRタテ		積み上げ法	灰色 (5 Y 灯)	砂粒を含む	R
4	S I 001	鉢	84 8E					縄文、RLヨコ		横み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R N)	砂粒を含む	良
5	S I 001	鉢	期 部					縄文、LRタテ		横み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R 万)	砂粒を含む	排兵
6	S I 001	5 4	唯 部			(7.9)		木栗痕		横み上げ法	浅黄橙~灰白色(10YR另~10YR另)	砂粒を含む	A
7	S I 001	鉢	K W			(7.7)				積み上げ法	浅黄橙~にぶい橙(10Y R 躬~ 5 Y R 写)	砂粒を含む。	Ė
8	S I 001	\$ \$	雅 部			7.9		極文、RLヨコ	·	積み上げ法	浅黄橙色 (7.5Y R %)	砂粒を含む	FL
9	S 1 001	獎	口袜~腳部	(13.5)				横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナテ	積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R外)	僅かに砂粒含む	A
10	S I 001	骒	口林那					横位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	橙色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	B
11	S I 001	题	口級部					横位ナテ	模位ナデ	積み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒含む	A
12	S I 001	鉄	田林部					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R 好)	僅かに砂粒含む	А
13	S 1 001	獎	口种品					横位ナデ、軽位ケズリ	横位ナデ、概位ケズリ	積み上げ法	にぶい橙色 (7.5Y R 刄)	僅かに砂粒含む	與
14	S 1 001	獎	日縁部			,		横位ナテ	横位ナデ、斜位ケズリ	積み上げ法	灰褐色 (7.5Y R 列)	僅かに砂粒含む	Ą
15	S I 001	獎	口味部					横位ナデ、模位ハケ目	横位ナテ、軽位ハケ目	積み上げ法	庆黄褐色 (10 Y R 短)	砂粒含む	A
16	S I 001	獎	口种部					横位ナデ、横位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10 Y R 好)	僅かに砂粒含む	A
17	S I 001	獎	口种部					核位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10YR外)	僅かに砂粒含む	Ą
18	S 1 001	獎	口棘~腳部	(15.0)				横位ナデ、新位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい橙 (5 Y R 江)	僅かに砂粒含む	A
19	S I 001	踕	n 🗱 🕏	(15.2)				横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナデ、縦位ハケ目	積み上げ法	灰白色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒合む	良
20	S I 001	獎	口种部	(18.2)				横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	浅黄椎色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	A



第47表 SI001住居跡出土遺物(2)

挿図	of the beauty	an ma	viii /-L-	i	去 量	(cm)		調 整 (地	文)	成形	色調	胎土	焼成
番号	出土地点	器形	部位	口径	体 径	底 径	器高	外 面	内面	112, 117	G 1949	704 -15	100,000
1	S I 001	糵	口緑~胴部	(17.5)	(19.7)			横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5Y R 刻)	細砂を含む	良好
2	S I 001	甕	口綠~胴部	(17.0)	(18.3)			横位ナデ、縦位ハケ目。 縦位ケズリ	横位ナデ, 縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R 汚)	砂粒を含む	良好
3	S I 001	虆	底 部			(6.8)		縦位ケズリ	横位ケズリ	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5Y R ¾)	砂粒を含む	良
4	S I 001	甕	底 部			(8.0)		擬位ケズリ, 砂底	縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10 Y R 34)	僅かに砂粒 含む	良
5	S I 001	甕	底 部			(8.0)		凝位ケズリ, 砂底	斜位ハケ目	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10YRタ5)	砂粒を含む	良



第51図 S I 001 住居跡出土土器(3)

第48表 SI001住居跡出土遺物(3)

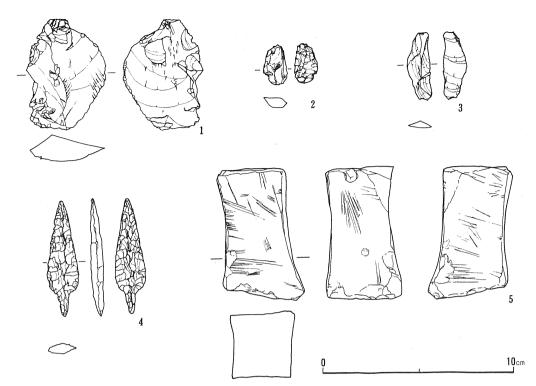
神図	排図 出土地点 器用	98.85	部位	ŧ	ŧ i	it (cm	1)		i Pi	整	(地	丈)							
番号		100	np nr.	日径	体径	底径	器高		外	ifii		内	ífii	成形	Æ	24	#4	±.	烧成
1	S I 001	鉄	口袜部一底部	20.9	20.4	9.1	27.4	横位ナデ.	軽位ハケ目,	程位ケズリ	砂旗	横位ナデ,	概位ハケ目	積み上げ法	にぶい橙色	(10 Y R 34)	砂粒を含む		£1.67
2	S I 001	\$4:	脚 部					叩き目					~	積み上げ法	灰白色 (2.5	5Y3()	極く僅かに砂粒	を含む	19. ¢F
3	S I 001	鉢	#4 SE					00 \$ E						積み上げ法	灰白色 (2.5	5 Y 3()	極く僅かに砂粒	を含む	的好
4	S I 001	盤	預部~脚部									横位ナテ		植み上げ法	黒褐色 (10)		僅く僅かに砂粒		

P 294→

遺物

平安時代の住居跡からは、同時代の所産となる遺物として土器類、鉄器、砥石等の他、米、豆、トチノ実等の炭化した植物遺存体も出土している。また極めて僅かではあるが、覆土中から縄文時代土器片の出土している例もある。

土器類は土師器甕及び坏,須恵器甕及び壺からなっている。このうち坏は極端に少く完形乃至は完形に近いものは1点もない。全て小破片である。また須恵器甕も全て胴部の破片であり、壺は図上で復元が可能だった第10号及び第19号住居跡出土の2点と他に部分的に復元可能なもの2点と少い。したがって、本遺跡出土の平安時代土器類は土師器甕がその主体をなす。



第52図 S I 001住居跡出土遺物 (石器)

第49表 SI001住居跡出土遺物(石器)

挿図番号	出土	地点	13.	種		石	質	長さ(縦)	幅(横)	厚さ	重量	親際
1	SI	001	掻	25	碧	王 (多	失碳)	5.8	4.1	1.5	30.8	裏面左辺に二次剝離を施し、刃部として整えている。
2	SI	001	石	鉄	黑	842	石	2.0	1.2	0.5	1.2	片面には調整のための細かな剝離が認められる。石礁未製品。
3	SI	001	刹	片	頁		岩	3.5	1.2	0.3	1.3	両面から丹念。
4	SI	001	石	鉄	頁		岩	6.1	1.6	0.7	4.6	両面から丹念な調整剝離によって整形される。本体陵は使用のためか稍磨滅する。
5	SI	001	砥	石	凝	灰	岩	6.7	4.0	3.8	129.1	四面を砥面として用いている。砥面に直交する擦痕も認められる。

土師器甕は小形のミニチュアや特殊な形のものを除いて、その大きさは器高が25~30cm、口径20cm前後、底径10cm前後である。また体部の最大径はその位置が器高の中位点よりやや上にあり、口径とほぼ同じ程度の大きさをもつようである。

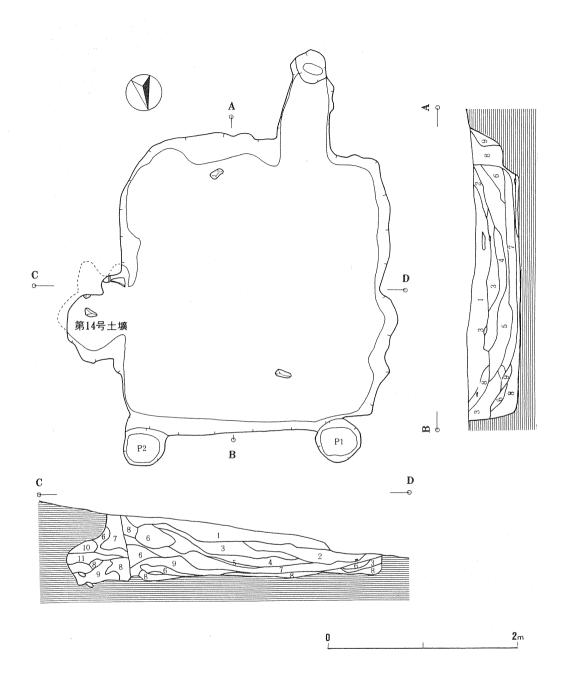
器形は口縁部が緩く外反し、頸部に僅かな屈曲部をもつ。頸部の屈曲部から体部の最大径部の点を経て底部に至るまで弓なりのカーブを描いている。また底部底面は全くの平底か、極く僅かに上げ底気味になるが、意識してそう形作ったという程ではない。稀に底部周縁が外側に張り出すものもある。

器面の調整は、口縁部から頸部にかけてが横位のナデ、体部以下底部にかけてが縦位乃至は 斜位のケズリによって行われている。内面もほぼ同様であるが、体部以下にハケ目状の痕跡が 残る場合があり、概して調整は外面よりも丹念に行われている。底部底面はケズリによって調 整される場合と、砂底のものとの2種がある。

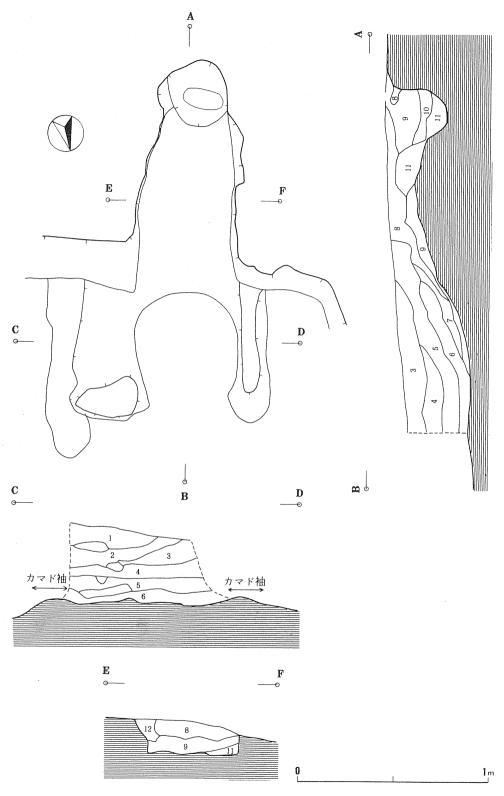
焼成は概して良好で色調は黄橙色、橙色を呈するものが多い。しかし胎土には故意にか、径

第50表 S1002住居跡観察表

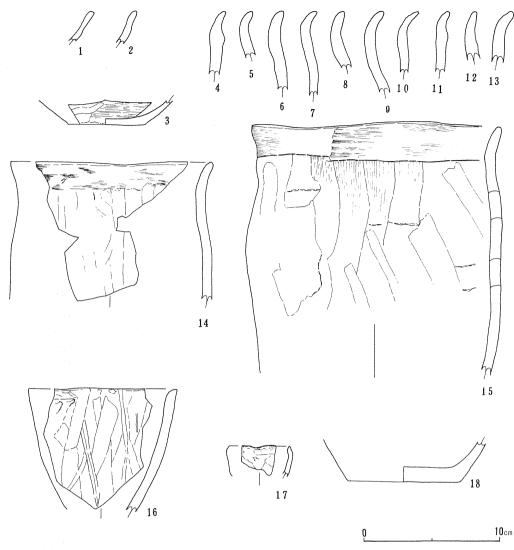
			C 1000 & FI III		挿 図	53~56			
			S1002住居跡		図版	10, 46			
検	出	区	9 R, 10 R, 9 S, 10	5					
			東 壁	西	壁	南	壁	北	壁
法	壁	長	3.12 m	2	.85 m		2.77 m		2.62m
	壁	高	53.7∼66.9cm	11.2~2	4.9cm	28	.8~55.0cm	43.8	~52.5cm
	周海	毒幅			_			_	
E.	周海							_	
	面	積	9.38m²						
È	蚰 方	位	N-16 - E			形態	方 形		
覆		土	1. 10 Y R ½ 黑褐色 * 2. 10 Y R ¾ 黑褐色 * 3. 7.5 Y R ¾ 暗褐色 * 4. 10 Y R ½ 黑褐色 * 5. 10 Y R ¾ 暗褐色 * 6. 10 Y R ¾ 暗褐色 * 7. 10 Y R ¾ 暗褐色 * 8. 10 Y R ¾ 想 色 * 9. 10 Y R ¼ 褐 色 * 10. 10 Y R ¾ 褐 色 *	占性弱 孔隙大 粘性大 孔隙大 站性大 孔隙小 占性对 孔隙大 占性弱 孔隙大 占性弱 孔隙大 占性稍有 孔隙大 古性代弱 孔隙大 古性大 孔隙大	、大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	おいまどい最い殆を量でいまります。 おいまん はいまん はいき はい きっぱい きっせい おっせい おっせい おっせい おいまいむ	の焼土粒含む 土層燃は弱 勿僅かに含む ず ペミス含まず 炭化物極く僅か		
	壁		床面に対する角度は92. 西壁は、保存状態が悪く			なかった。			
周		溝	検出されなかった。 						
F,	ツ	ŀ	P ₁ 45×48×18 北壁西側 P ₂ 39×44×8.4 北壁東 柱穴らしきものは認める	側		5土が凹レ	・ンズ状に入って	いた	
	位	置	南壁 西寄り						
カード	覆	-1-	1.10YR½ 黒褐色 料2.10YR% 暗褐色 料3.10YR% 暗褐色 料4.10YR% 黒褐色 料5.10YR% 黒褐色 料6.10YR% 黒褐色 料7.10YR¼ 褐色 料7.10YR¼ 褐色 粘射9.10YR¾ 暗褐色 料9.10YR¾ 暗褐色 料10.10YR% 黒褐色 料11.10YR% 黒褐色 料11.10YR% 黒褐色 料12.10YR% 黒褐色 料	h性弱 パミスス it性弱 パパミスススス it it it it it it it it it it it it it	は 焼土多く は しゅう は しゅう は しゅん は ない ない ない ない ない ない ない は 土 含 と は 土 生 土 生 土 生 土 量 に かままない きょう は かいまない さい は れい ままれる は れい は れい ままれる は いい は れい は れい は れい は れい は れい は れい は	量に混入 炭化物 混入 ローム粒) 粒僅かに含む 並かに含む む 炭化物僅かに に混入 炭化物僅 も多く含む層 ロ に混入	なび炭化物(に混入 かに含む ーム粒多量 に混入	革かに含む	
			カマドの保存状態はきわされなかった。	めて悪く、神	の部分はん	まとんど有	食出されなかった	こ。また芯材	なども検
崩		考	この住居跡は第14号土壙 覆土の中程に焼土層がレ のと考えられる。北東隅 で検出されたものである	ンズ状に堆積 に焼土が広範	している。				



第53図 S I 002 住居跡



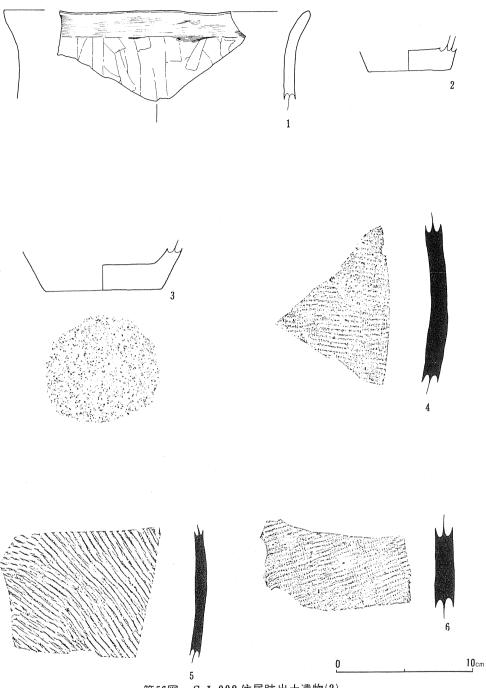
第54図 SI 002 住居跡カマド



第55図 S I 002 住居跡出土遺物(1)

第51表 SI002住居跡出土遺物(1)

													
挿図	出土地点	23.51	85. (i)	iż	-	(cm)		調 整	(地 文)	成 形	E 24	胎生	焼疽
番号	pry - ray Carin			口篷	体征	底径	器筋	外面	内 面				1
1	5 1 002	杯	口綠部					横位ナデ	権位ナデ	ロクロ水挽き	褐灰色 (10Y R 年)	精選	良好
2	S 1 002	杯	口株部					構位ナデ	模位ナデ	ロクロ水挽き	灰黄褐色 (10YR短)	相選	良好
3	S I 002	杯	底部					横位ナテ、斜位ケズリ、ロクロ回転糸切り	横位ナデ、ケズリ、ロクロ回転糸切り	ロクロ水挽き	浅黄橙色 (10YR%)	精選	良好
4	S I 002	獎	口部		1		Ī	横位ナデ、鉛位ケズリ	構位ナデ、構位ケズリ	横み上げ法	にぶい黄橙色(10YR写)	僅かに砂粒含む	A
5	S 1 002	獎	口部					横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	横み上げ法	にぶい黄檀色(10YR方)	機かに砂粒含む	R
6	S I 002	装	口部					横位ナテ、超位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	A
7	S I 002	説	E1 8%					横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナデ、斜位ケズリ	積み上げ法	浅黄橙色(10YR%)	砂粒を含む	A
8	\$ 1 002	獎	口部					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、梶位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄檀色(10YR芳)	僅かに砂粒含む	A
9	S I 002	旋	II 8%		T			横位ナデ、軽位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	積み上げ法	浅黄橙色(10 Y R N)	僅かに砂粒含む	A
10	S I 002	镀	п ж		1			横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	積み上げ法	楊庆色 (10Y R)	僅かに砂粒含む	A
11	S I 002	獎	D 87					横位ナデ、軽位ケズリ	横位ナデ、鞋位ケズリ	横み上げ法	浅黄檀 (10YR男)	僅かに砂粮含む	B
12	S 1 002	獎	口部					横位ナデ、斜位ケズリ	模位ナデ、模位ケズリ	積み上げ法	浅黄橙色(10YR%)	僅かに砂粒含む	Ř
13	S I 002	獎	II 8%					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ	横み上げ法	にぶい檀色(7.5YR外)	僅かに砂粒含む	Ř
14	S 1 002	獎	O 88	(15.1)	1			横位ナデ、軽位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	横み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒含む	R
15	S I 002	91	口部	(18.7)		T		横位ナテ、軽位ケズリ	横位ナデ、軽位ナデ	積み上げ法	におい黄檀色(10Y R 汚)	砂粒を含む	良好
16	S I 002	獎	口服	(11.2)				機位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、斜位ナデ	積み上げ法	におい権色(7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	A
17	S I 002	装	口 部			T	1	横位ナデ	横位ナデ	権み上げ法	浅黄檀色 (10Y R N)	僅かに砂粒含む	A
18	S I 002	24	班 部				1	ケズリ	ナデ	様み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R 万)	僅かに砂粒含む	R



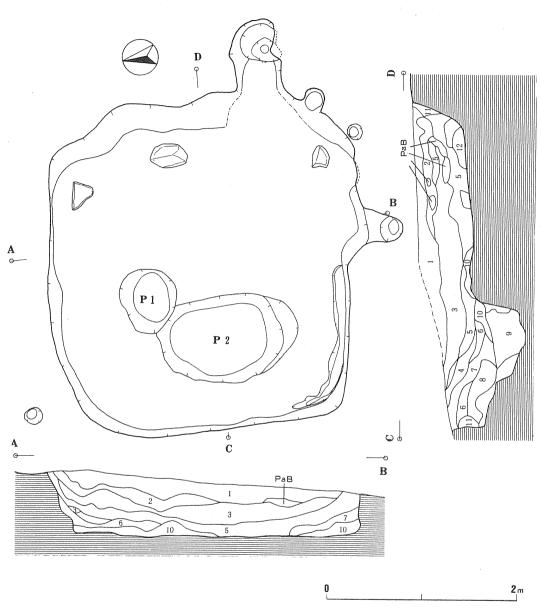
第56図 S I 002 住居跡出土遺物(2)

第52表 SI002住居跡出土遺物(2)

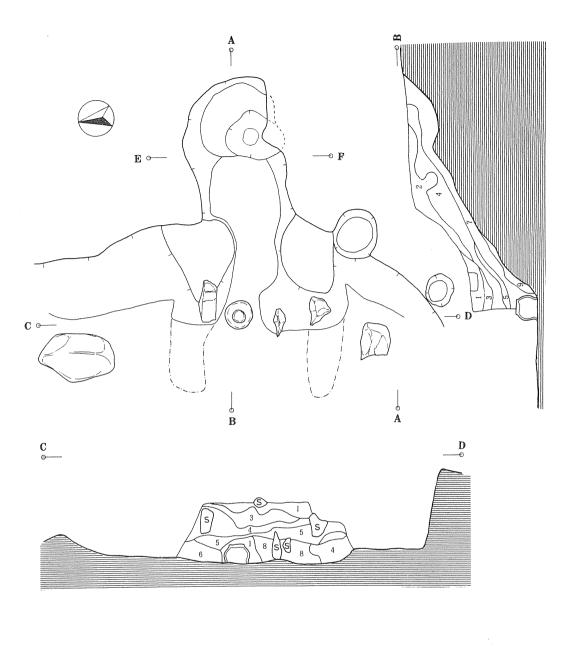
							Ħ	10210 01002	. / , , , , ,			,	
36 [2]				法	li	(ca	1)	35 25	(地 文)	成形	色 調	胎土	焼成
番号	出土地点	器形	BD 152	口径	体性	底径	25.75	54- Ilii	内面				
1	S 1 002		口核部					横位ナデ、程位、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位、斜位ケズリ	積み上げ法	にぶい程(7.5 R ¾)	砂粒を含む	R
	S I 002		16E 8E		+			ケズリ	ケズリ	積み上げ法	褐灰色 (10Y R 灯)	僅かに砂粒含む	良
	S 1 002		10年 新		+			ケズリ、砂底	ケズリ		浅黄橙 (10YR%)		鱼
	S I 002		BH 85		-			III A FI				極く僅かに砂粒含む	
1	S 1 002	314	BH 85		+		-	明本目		積み上げ法	灰白色 (2.5Y N)	極く僅かに砂粒含む	良好
3	C 1 002	214	BLL AS					m A FI		慎み上げ法	楊灰色 (10Y R 所)	極く僅かに砂粒含む	良好

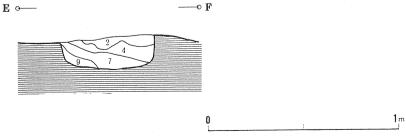
第53表 S1006住居跡観察表

Page 19 19 19 19 19 19 19 19				弗33衣 S	10001主	店娜観祭衣 ————————————————————————————————————	
世 区 7 P. 7 Q - 8 Q. 7 R - 8 R 1			C 1001 仕 民 9本		挿 図	46~52	
接 受			51001 住店跡		図版	9, 43, 44, 45	
 接 長 5.25m 5.15m 5.10m 5.08m 5.08m 5.08m 機 高 44.5-54.8cm 21.7~35.2cm 26.8~42.2cm 21.7~48.7cm 週浦縣 5.74cm 6.7-51.8cm 21.7~35.2cm 26.8~42.2cm 21.7~48.7cm 週浦縣 2.6~11.7cm 12.5~21.2cm 4.7~6.9cm 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 前 7 27.93m 7 5 5.00m 5 5.00m 7.6-16.1cm 車 1 10 Y R 5 黒褐色 格性療 経2 mul T 0 7 1 2 2 2 5 2 公立 では10を2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	検	出区	7 P, 7 Q ~ 8 Q, 7 R ~ 8	3 R			
 選 は 1.5 - 14cm 20.7 - 35.2cm 20.8 - 14.2cm 21.7 - 48.7cm 20.7 - 15.5cm 20.8 - 14.2cm 7 - 13cm 7 - 13cm 7 - 13cm 7 - 13cm 2 - 10 r R 5/2 m 8 3 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 4 - 10 r R 5/2 m 8 5 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 6 - 10 r R 5/2 m 8 7 - 10 r R 5/2 m 8 8 - 10 r R 5/2 m 8 9 - 10 r R 5/2 m 8 10 r R 5/2			東 壁	西壁		南壁	北 壁
機関機 5 - 14cm 6 - 15cm 4 - 10cm 7 - 13cm 12 5 - 21.2cm 4.7 - 6.9cm 7.6 - 16.1cm 12 5 - 21.2cm 4.7 - 6.9cm 7.6 - 16.1cm 12 5 - 21.2cm 4.7 - 6.9cm 7.6 - 16.1cm 18 m 5 cm 5	法	壁長	5.25 m	5.15 n	1		
		壁高	44.5~54.8cm	21.7~35.2cm	11	26.8~42.2cm	21.7~48.7cm
 直 報 27.93mm 直 報 5 位 N → 9° → W 1. 10 Y R 対 無極色 結性物 径 1mm 限度のバミスを多に含む 2. 10 Y R 対 無極色 対性物 径 2mm 以下のバミスを多く含む。 中本をところところに出入 かたくしまっている 3. 10 Y R 対 無極色 対性地 2x 機がに能入 ロームを多く高む。 ロームをよるところに出入 かたくしまっている 3. 10 Y R 対 無極色 対性中 2x 又様かには入 ロームを多く合む。 (10 Y R 対 無極色 対性中 2x 又様かには入 ロームを多く合む。 (10 Y R 対 無極色 対性中 2x 又様く 成かには入 ロームを多くに入 ロームを多しい人 10 Y R 対 無極色 対性中 2x 又様く 成かには入 ロームを多くに入 10 Y R 対 無極色 対性中 2x 又様く (2 か ロームを 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		周溝幅	5 ~14cm	6 - 15ci	11		
車	量	周溝深	2.6~11.7cm	12.5~21.2c	n	4.7~6.9cm	7.6~16.1cm
1.10 Y F N		面積	27.93m²				
2. 10 Y R S 無額色 紀性弱 径 2 muly 下のパミスを多く含む、ローム粒をころどころに混入 かたくしまっている 10 Y R S 暗褐色 紀世中 パミス酸(かた)に混入 ロームを多く含む 5 10 Y R S 暗褐色 紀世中 パミス酸(なかに混入 ロームを多く合む 6 10 Y R S 暗褐色 紀世中 ローム粒をく混入 10 Y R S 暗褐色 紀世中 ローム粒を分 (混入 10 Y R S 暗褐色 紀世中 ローム粒を分 (混入 10 Y R S 暗褐色 紀世中 ローム粒を分 (混入 10 Y R S 暗褐色 紀世中 バミス酸(なかに混入 ロームを分 (混入 10 Y R S 暗褐色 紀世大 パミス酸(なかに混入 10 10 Y R S 明褐色 紀世大 パミス酸(なかに混入 10 10 Y R S 明褐色 紀世 S X N	主	軸方位					
東	覆	±.	2.10Y R	弱弱中中中大大弱弱中大大大大 全径で、ボーー・エスススムムなををををををををををををををををををををををををををををををををを	ミミ入こ人品ににどつい 含含スストルス 入入まっ合 ロロタ くくムロ 径 いムむ ーー	含む。ローム粒ところどころに含む 炭化物僅かに混入 を多く含む ーム多量に混入 2~5 mm程度のローム粒を含む 、 陸僅かに混入 ローム粒を多く含む ム塊ところどころに含む ム層	
株		D.A.					
## 現り床にされていたものと考えられる。なおこのことはセクション図よりも明らかである。 はは壁面すべてに見られる。南東隅あたりの保存状態は悪く検出できなかった。 講演内で壁材などは検出されなかった。 P, 16.5×17×38.3 東壁中央 柱穴である P, 16.5×17×40.2 西壁中央 柱穴である P, 16.5×17×40.2 西壁中央 柱穴である P, 16.5×17×40.6 北西隅 柱穴である P, 16.5×27×46.6 北西隅 柱穴である P, 16.5×27×46.6 北西隅 柱穴である P, 17×29×44.4 南東隅 柱穴と思われる P, 16.5×27×46.6 北西隅 柱穴と思われる P, 16.5×27×46.6 北西隅 柱穴と思われる P, 16.5×37×48.6 北東隅 柱穴である P, 17×29×44.4 南東隅 柱穴と思われる P, 150×36×44.8 南東隅 形は整っていない 土師器片数点出土 P, 62×67×24.8 南東隅 形は整っていない 土師器片数点出土 P, 63×73×18.8 カマド抽左側 形は整っていない 土師器片数点出土 P, 65×37×18.8 カマド抽左側 形は整っていない 土師器片数点出土 P, 50×76×4.7 P, 東禰 土師器片数点出土 P, 50×76×4.7 P, 東禰 土師器片数点出土 P, 50×76×4.7 P, 東禰 土師器片数点出土 P, 50×76×4.7 P, 東禰 土師器片数点出土 P, 50×76×4.7 P, 東禰 土師器片 埃出土 10× R 対 福色 粘性中 径1 mm程度のパミス僅かに混入 皮化物極く僅かに混入 10× R 対 福色 粘性中 径1 mm程度のパミス僅かに混入 ローム粒混入 10× R 対 福色 粘性中 径1 mm程度のパミス僅かに混入 皮化物僅かに混入 10× R 対 福色 粘性中 径1 mm程度のパミス僅かに混入 皮化物酸・10× R 対 福色 粘性 対 塩土 配配程度のパミス僅かに混入 ウェーム粒混入 10× R 対 福色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗褐色 粘性 対 堤土 を P, 10× R 対 暗視 地土 を P, 10× R 対 暗視 地土 を P, 10× R 対 暗視 地土 を P, 10× R 対 暗視 地土 を P, 10× R 対 に 中 が に は 入 皮土 を P, 10× R 対 に 内 が に は 入 皮土 を P, 10× R 対 に 内 が に は 入 皮土 を P, 10× R 対 に 内 が に れ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大		型					
日本の		床	張り床にされていたものと	考えられる。なおこ	のことは-	セクション図よりも明らかである	0.
P ₂ 15×26×40.6 南西隅 柱穴である P ₃ 16.5×18×41.7 南東隅 柱穴である P ₄ 13×31.5×40.2 西壁中央 柱穴である P ₅ 16×24×40.1 北壁中央 柱穴である P ₅ 16×24×40.1 北壁中央 柱穴である P ₆ 16.5×27×46.6 北西隅 柱穴と思われる P ₁ 16×25×32×53.0 北東側床面 柱穴と思われる P ₁ 17×22.5×48.6 北東隅 柱穴である P ₁₂ 17×29×44.4 南東剛 柱穴と思われる P ₁₃ 50.5×56×14.8 南東隅 形は整っていない 土師器片数点出土 P ₁₄ 62×67×41.8 南東隅 形は整っていない 土師器片数点出土 P ₁₅ 32×70×8.8 南壁中央付近 形は整っていない 土師器片数点出土 P ₁₆ 8×92×8.0 床面中央付近 上師器片数点出土 P ₁₆ 50×76×4.7 P ₁₇ 東側 土師器片数点出土 P ₁₆ 50×76×4.7 P ₁₇ 東側 土師器片数点出土 P ₁₇ 50×76×4.7 P ₁₇ 東側 土師器片数点出土 P ₁₈ 50×76×4.7 P ₁₇ 東側 土師器 片出土 P ₁₈ 50×76×4.7 P ₁₇ 東側 土師器 上面器上数点	周	神					
カ 1.10 Y R % 褐色 粘性大 バミスをほとんど含まない カマド油の部分 2.10 Y R % 褐色 粘性中 バミス僅かに混入 3.10 Y R % 暗褐色 粘性中 グミス僅かに混入 炭化物極く僅かに混入 4.10 Y R % 暗褐色 粘性中 径 1 mm程度のバミス僅かに混入 炭化物僅かに混入 5.10 Y R % 暗褐色 粘性力 建土多量に混入 6.10 Y R % 間 と 粘性力 バミス僅かに混入 焼土多量に混入 炭化物僅かに混入 7.10 Y R % 明黄褐色 粘性力 レーム層 8.5 Y R % にぶい赤褐色 粘性男 焼土層 9.10 Y R % 明褐色 粘性弱 焼土層 10.7.5 Y R % 明褐色 粘性弱 焼土層 11.5 Y R % 明赤褐色 粘性弱 成土層 11.5 Y R % 明赤褐色 粘性弱 成土層 11.5 Y R % 明赤褐色 粘性弱 がミスほとんど混入していない 油の部分のご材として河原石が使用されてがた。またカマド内には支脚として使われたと思われる石が油と抽の引が出た場合 カマド内及び細の付近より多量の土師器片が出土した。 遺物はおもに土師器でありPia Pia 及びカマド付近より集中して出土している。また砥石が一片出土した。	ピ	y F	P ₂ 15×26×40.6 南西陽 本 P ₃ 13×31.5×40.2 西壁中 P ₄ 23×24×52.6 北西隅 夫 P ₅ 16×24×40.1 北壁中央 P ₆ 17×22.5×48.6 北東隅 P ₁₃ 50.5×56×14.8 南東隅 P ₁₄ 62×67×24.8 南東隅 P ₁₅ 32×70×8.8 南壁中央 P ₁₆ 45×73×18.8 カマド和 P ₁₇ 68×92×8.0 床面中央	i 大である 央 柱穴である i 大であるる i 大でであるる 柱穴であるる は 野は整っていないに 付近 明 おは整っないいに 対定側 非は難片数点と	P ₈ P ₉ P ₁₀ P ₁₁ 上師器片 上師器片 ない 土師ない 土師	16.5×18×41.7 南東隅 柱穴て 13.5×19×42.9 南壁中央 柱穴 16.5×27×46.6 北西側床面 柱穴 25×32×53.0 北東側床面 柱穴 25×32±34.4 南東側 柱穴と思 数点出土 数点出土 器片数点出土	ある である 穴と思われる と思われる
カ 2.10 Y R 対 褐色 粘性中 バミス僅かに混入 3.10 Y R 対 暗褐色 粘性中 径 1 mm程度のバミス僅かに混入 炭化物態く僅かに混入 4.10 Y R 対 暗褐色 粘性明 径 1 mm程度のバミス僅かに混入 ローム粒混入 5.10 Y R 対 暗褐色 粘性男 建土 多量に混入 6.10 Y R 対 褐色 粘性中 バミス僅かに混入 塊土多量に混入 炭化物僅かに混入 7.10 Y R 対 明黄褐色 粘性力 レーム層 8.5 Y R 対 にぶい赤褐色 粘性男 塊土層 9.10 Y R 対 明褐色 粘性弱 焼土層 11.5 Y R 列 明褐色 粘性弱 焼土層 11.5 Y R 列 明褐色 粘性弱 焼土層 11.5 Y R 列 明赤褐色 粘性弱 成土層 11.5 Y R 列 明赤褐色 粘性弱 成土層 11.5 Y R 列 明赤褐色 粘性弱 がきスほとんど混入していない 油の部分の配材として河原石が使用されてがた。またカマド内には支脚として使われたと思われる石が油と抽の可能で検出を含むため、カマド内には変調としている。また砂石(銀) 2 数 物はおもに土師器でありPia P P Is 及びカマド付近より集中して出土した。 2 数 物はおもに土師器でありとしている。また時代は異なるが石鉄が一片出土した。		位、置	南壁 西寄り				
 近で検出された。 油の部分の保存状態は良好で検出されたが、煙道部ははっきりとは検出できなかった。 カマド内及び袖の付近より多量の土師器片が出土した。 遺物はおもに土師器でありPta~Pta及びカマド付近より集中して出土している。 また砥石が一片出土している。また時代は異なるが石鎌が一片出土した。 	マ	覆 土	2.10 Y R 好 褐色 粘性中 3.10 Y R 好 暗褐色 粘性 4.10 Y R 好 暗褐色 粘性 5.10 Y R 好 暗褐色 粘性 6.10 Y R 好 暗褐色 粘性中 7.10 Y R 好 明黄褐色 粘 8.5 Y R 好 に ぶい赤陽氏 9.10 Y R 对 暗褐色 粘性 10.7.5 Y R 好 明褐色 松 11.5 Y R 粉 明赤褐色 粘	バミス催かに度ない。 中 径 1 mm 程元 明 径 1 ~ 2 mm 混元 リ 焼土 ~ 2 量に混 性 大 バミス ピース 焼 程度	ミス僅かい のパミス値 焼土多量 ミス僅かい にほとんど	に混入 炭化物極く僅かに混入 重かに混入 ローム粒混入 に混入 炭化物僅かに混入 に混入 炭化物僅かに混入 に混入	
型 また砥石が一片出土している。また時代は異なるが石鎌が一片出土した。			近で検出された。 袖の部分の保存状態は良好 カマド内及び袖の付近より	で検出されたが、煙 多量の土師器片が出	道部はは 上した。	っきりとは検出できなかった。	と思われる石が袖と袖の中央包
備 考 この住居跡はグリッドにそって0.5mのマス目で掘っていったが、炭化米などは認めることが出来なかった。	遺	物	また砥石が一片出土してい	る。また時代は異な	るが石鏃	が一片出土した。	
	備	考	この住居跡はグリッドにそ	って0.5mのマス目	で掘ってい	いったが、炭化米などは認めるこ	とが出来なかった。

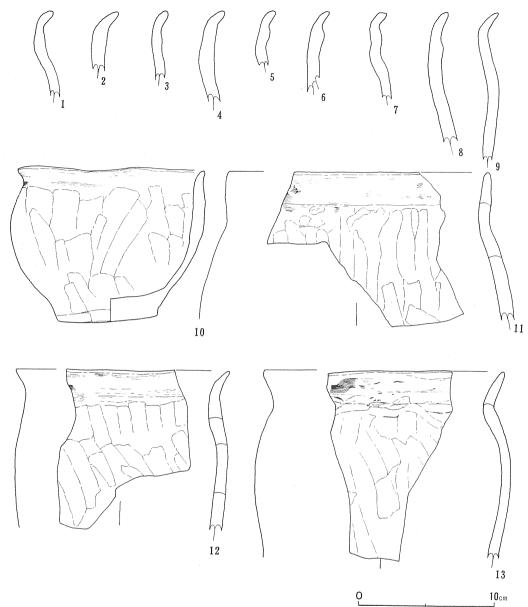


第57図 S I 006 住居跡





第58図 SI 006 住居跡カマド



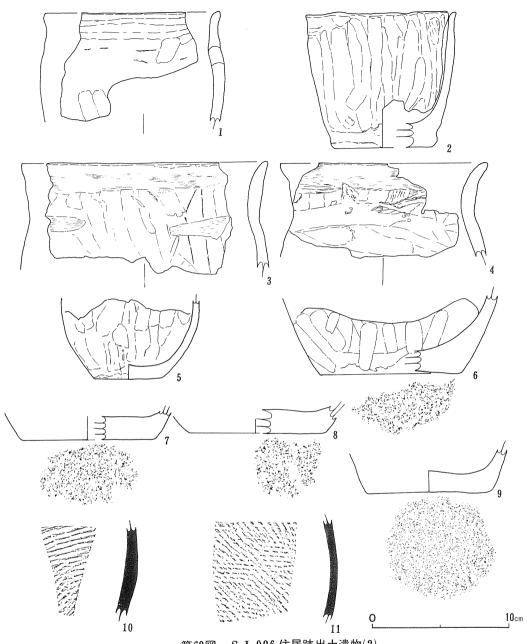
第59図 S I 006 住居跡出土遺物(1)

第54表 SI006住居跡出土遺物(1)

排図	Hala be		40.65	Π,	· · ·		1	£ 1	it (cn	1)	湖 悠	(地 文)				T
番号	annine	4,4.1	器形		is f	u.	口径	体径	庭径	器高	外 面	îti Pi	成形	色調	- Hr 土	焼庻
- 1	S I 0	206	鏶	п	挨	35					横位ナデ、縦位、斜位ケズリ	構位ナデ、超位ケズリ	積み上げ法	におい黄橙 (10Y R 形)	僅かに砂粒含む	B
2	SIO	306	鉄	13	袂	33					横位ナテ、斜位ケズリ	構位ナテ、軽位ケズリ	積み上げ法	浅質橙 (10 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
3	S 1 0	306	鉄	επ	18	部					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナテ	積み上げ法	7.5YR(明褐灰) 5YR	僅かに砂粒含む	良
4	S I 0	006	鉄	П	禄	as					横位ナデ、梃位ケズリ	横位ナテ、縦位ケズリ	構み上げ法	灰黄褐色(10YR%)	僅かに砂粒含む	13
5	S 1 0	006	装	П	核	48					横位ナデ、梶位ケズリ	横位ナデ、軽位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙(10Y R 列)	僅かに砂粒含む	A
6	S 1 0	006	装	E3	核	85					横位ナテ、縦位ハケ目	横位ナデ、縦位ケズリ	横み上げ法	灰褐色 (10Y R 対)	僅かに砂粒含む	И
7	S I 0	206	鉄	П	椒	鄱					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナテ、縦位ケズリ	植み上げ法	にぶい黄橙色	僅かに砂粒含む	я
8	SI 0	006	誰	1.1	株	85					横位ナデ、縦位ケズリ	指位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	楊庆色 (10Y R 対)	僅かに砂粒含む	良
9	S 1 0	006	200	n	楝	ae					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10YR另)	僅かに砂粒含む	良
10	S 1 0	ю6	鉄	Πŧ	出一样	183	13.9	14.4	7.4	11.5	横位ナテ、軽位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	橙色 (7.5Y R%)	径1~3m程度の砂粒含む	良好
11	S 1 0	106	漿	П	椂	85	19.4				横位ナテ、軽位ケズリ	描位ナデ	積み上げ法	灰黄褐色(10YR%)	僅かに砂粒含む	良好
12	S I 0	106	装	O	秾	ap.	16.0				横位ナデ、軽位ケズリ	構位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい橙色(7.5YR外)	僅かに砂粒含む	良好
13	S I 0	006	獎	П	林	36	18.0				横位ナデ、軽位、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	租色(7.5YR%)	僅かに砂粒含む	A

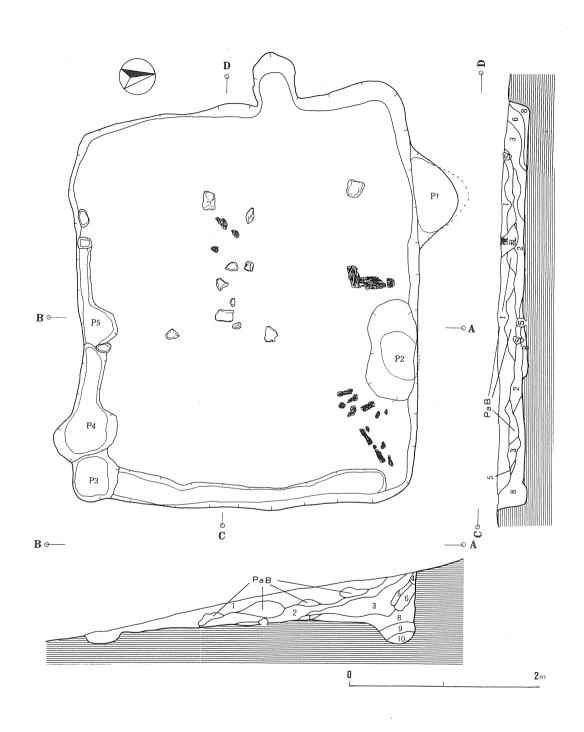
第56表 S1009住居跡観察表

					挿図6	1~64		
			S1009住居跡		図 版 1	3, 14, 48	4. A. A. A. A. A. A. A. A. A. A. A. A. A.	
検	出	区	10G, 11G, 10H, 11H	I				
			東 壁	西	是幸	南	壁雀	北壁
法	壁	長	3.64 m	3	.77 m		3.94 m	4.52 m
	壁	高	9.6~25.0cm	1.7~4	9.8cm		5.9cm	47.2~57.6cm
	周海	弉帽	12.5~29.0cm	, described and		10.0	~25.0cm	
里	周海	非深	5.5~ 9.0 cm			9.7	∼10.5cm	
	面	積	15.48m²					
主	軸方	位	N — 94° — W			形態	方 形	
覆		<u>[</u>	1.10YR% 黑 褐	出性弱 孔隙像 計性大 孔隙像 計性 弱 孔隙隙 計性 弱 孔隙 除 計れ質 配 質 孔隙 計れ質 質 孔隙 大 れ で 大 に は 大 れ に は れ に は れ に は れ に れ に れ れ に れ れ に れ れ に れ れ に れ れ に れ	iかに有 パ に パミスス こ パミスス量 は	ミス僅混らないとない。 とくど 最も的という という といいまた くいまた くちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう かいしょう ちょう かいしょう かいしゅう しゅうしゃ はいしゃ しゅうしゃ はいしゃ しゅうしゃ はいしゅう はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしゃ はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	るが1程に多 入 い っている パミ	くはない
	壁		南壁は斜面になっている 床面に対する傾斜は95°			出できなか	った。	
周		溝	東壁と南壁面に見られる	るが、他は検告	出できなか、	った。		
F°	•7	ŀ	P ₁ 44×83×4 3.1 北 P ₂ 48×106×24.1 北 P ₃ 47×51×11.1 南東 P ₄ 46.5×70×19.6 P ₃ P ₅ 35.5×37×11.3 南	東寄り 禺 西側				
	位.	置	西壁 北寄り				444444444444444444444444444444444444444	
カマド	覆	±	1.10YR% 暗褐色; 2.7.5YR% 暗褐色; 3.7.5YR% 暗褐色 4.10YR% 褐 色; 煙道天井 5.5YR% 赤褐色; 6.10YR% 褐 色; 7.10YR% 褐 色; 8.10YR% 褐 色; 9.10YR% 褐 色;	粘性稍有 孔 粘性稍有 孔 粘性状 孔隙小 部に貼られた 粘性大 孔隙小 粘性大 孔隙 粘性大 孔隙 粘性大 孔隙 粘性大 孔隙	第1よりもります。 第大 焼土 10 株土 10 株土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土	少ない 焼: ブロックがで 1m程度のブ 土 ブロッス若 でいる若 い 部に用いら	上粒・炭化物 混しり脆い ロック状の黄 に混入 量混入 黄褐色	^{昆入} 褐色土焼土が多く混入
			袖の部分の芯材として? また、支脚と思われる?					
遺		物	カマド右袖北側に半完整	型の土師器出	t:			
備		考	この遺跡中この住居跡。 竪穴内に検出された礫(炭化材は壁側から竪穴。	は床面から5~	~10cm程度	上位の覆土		

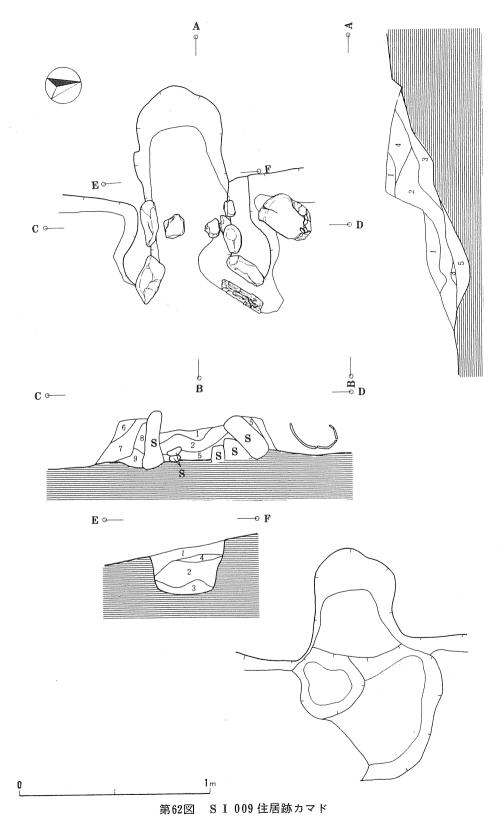


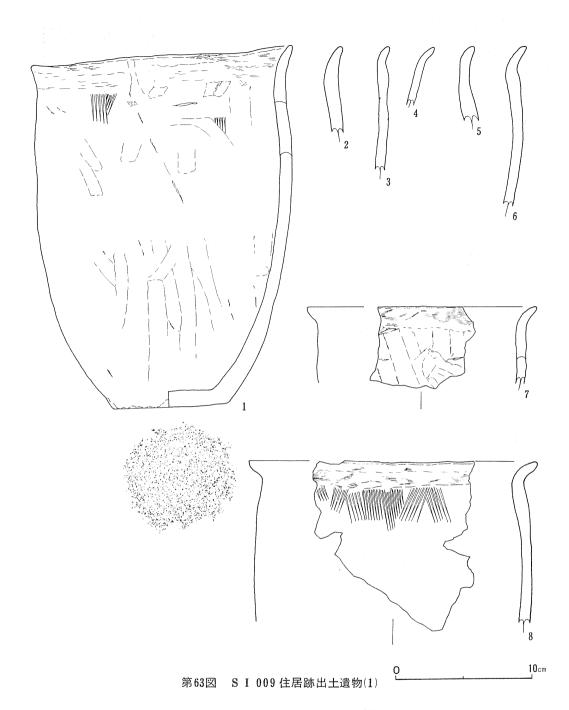
第60図 SI006住居跡出土遺物(2) 第55表 SI006住居跡出土遺物(2)

挿図	45 1 15 1	nu w	AT 14.	i	£ i	d (em)	調 整(地	文)	成形	色 調	Mi ±	焼成
番号	出土地点	60° 11 × 1	np 1/L	日径	体径	底径	23-75	外 値	内 崩	124 117		76.1	796.124
1	S I 006	额	口林部	13.2				横位ナデ、斜位・横位ケズリ	横位ケズリ	積み上げ法	にぶい祝 (8YR%)	僅かに砂粒含む	A
2	S I 006	甕	口株部	11.2	11.0	7.2	10.0	横位ナデ、縦位ケズリ	程位, 斜位のケズリ	積み上げ法	灰黄褐色 (10YR%)	砂粒僅かに含む	Ř
3	S I 006	甕	口林部	18.3				横位ナデ、横位・斜位ケズリ	横位ナデ、程位ハケ目	積み上げ法	にぶい橙 (7.5Y R¾)	僅かに砂粒含む	R
4	S I 006	装	口標部	15.4				横位ナデ、横位・斜位・縦位ケズリ	横位ナデ、軽位ケズリ	積み上げ法	灰褐色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	А
5	S I 006	褒	底 部					報位ケズリ	横位ケズリ	積み上げ法	灰黄褐色 (10YR%)	砂粒を僅かに含む	良
6	S I 006	摄	底 部					櫂位ケズリ、斜位ケズリ、砂底	斜位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙(10 Y R 躬)	僅かに砂粒を含む	A
7	S I 006	装	庭 部					砂底	横位ケズリ	積み上げ法	浅黄檀 (10 Y R %)	砂粒を含む	Ą
8	S I 006	装	底部			`		64 ağ	ケズリ	頼み上げ法	浅黄橙 (10Y R 写)	砂粒を含む	兵
9	S I 006	獎	16 AL			9.2		程位・横位ケズリ、砂底	擬位、斜位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄檀(10Y R %)	僅かに砂粒含む	良
10	S I 006	獎	部部					明多目		積み上げ法	黄灰 (2.5 Y 外)	極く僅かに砂粒含む	A
11	S 1 006	漿	那 部		-			明多目		積み上げ法	黄灰 (2.5 Y 外)	極く僅かに砂粒含む	Ř



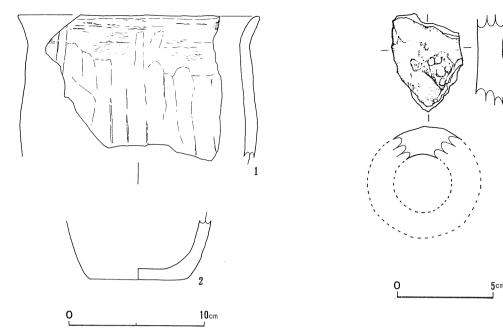
第61図 S I 009 住居跡





第57表 SI009住居跡出土遺物(1)

													~~~							
排図			ar th		进	isi	(cm			25	**	地	文)		100	R5	66. JR	#6	±.	焼成
番号	出土地点	80-75	部位	13	往	体径	旅往	25.75			tūt		14	ifti						-
1	S I 009	98	口袜一连部	1					機位ナテ、軽位・	· 7 [].	模位ケズ	9 砂斑	福位ナデ、	挺位ケズリ	植み	上げ油	浅黄橙~にぶい黄橙色(10Y R 籽~10Y R 籽)	僅かに砂	松合む	R
-	S I 009		EJ Nr SE	-					操位ナテ、総位:	アズリ			横位ナデ,	程位ケズリ	<b>植み</b>	上げ法	灰黄褐色 (10Y R %)	僕かに砂	担合し	A
-	S 1 009		LI HA SE	i					機位ナデ、斜位・	r Z'11			横切ナチ		植名	上げ法	におい黄檀色 (10Y R %)	僅かに対	粒合む	Ĥ
-3	S I 009								職位ナデ、組位				機位ナデ		16.2	hifik	(こおい報色 (7.5Y R 3/)	(後かけこを)	松合仁	A
4				-					横位ナテ、紅位	-			1111111	##{\$*/>左目	16.4	1-1739	におい異種色 (10Y R 35)	僅かに砂	松合む	R
5	S I 009		日餘部	-					構位ナデ、斜位・								にぶい役色 (7.5 Y R 汚)	(4.5·12.6)	松合し	B
6	S I 009		******	<u> </u>				ļ	194 (20)						-		にぶい黄檀色 (7.5Y R %)	66 p-12 64	45.21:	B
7	S I 009	装	日林部	+					構位ナデ、程位・	****			100 100 100 100 100				場狀色 (7.5Y R列)	様かに別		
8	S I 009	13	日禄部	(21	.5)		1		横位ナデ、斜位。	ヘケ目			<ul><li>横位ナア、</li></ul>	軽短ハゲ目	18.00	T.17 12:	Nonce (7.51 R/L)	(40.07 12.43	10 13 0	1



第64図 S I 009 住居跡出土遺物(2)

第58表 S1009住居跡出土遺物(2)

挿図 番号	出土地点	器形	部位		法	ħ	it (c	m )		御	整 ()	也 文)	成形		ries:	m/.	Lite also
番号	III III E.M.	10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1	DP 1/4.		径 1	体径	廐	径	器高	外	idi	内 面	成形	色	104	胎 土	焼成
1	S I 009	鉄	口綠部	(17.	8)					横位ナデ,	縦位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい橙色(	7.5YR¾)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 009	號	底部				(7.	2)		斜位ケズリ	)	ケズリ	積み上げ法	灰褐色 (7.5	Y R 5⁄2)	僅かに砂粒含む	良
3	S I 009	フイゴ羽口		径(4	.8)		厚	1.8-	-1.3	先端部近く	の破片						

P 301→

1~3 mm程の砂粒が多く混入されており、調整の際、殊に器外面体部以下では夥しい砂粒移動の痕跡が認められる。また、この痕跡によれば体部の調整は上→下または下→上のように一定せず、箇所毎にその方向が違うかまたは工具の往復運動によっているようである。成形は器外面の調整が粗いため比較的よく観察できるが、幅25~35mm程度の粘土帯を重ね合せた積み上げ法によっている。

須恵器壺は口縁部が小さく、長頸のものである。体部は球形に近い形となる。第10号,第11号,第14号,第19号住居跡出土資料とも器高が20~30cm程度,体径20cm未満と思われ、比較的小形のものである。

唯一口縁部から底部まで復元し得た第10号住居跡出土の資料によれば、口縁部は直立気味に立ち上り、頸部との間に屈曲部をもつ。頸部はやや外傾しており、体部との境には細い隆帯がめぐる。体部は殆ど球形であり、体部の中位に最大径をもつ。底部はやや上げ底の形態をとる。

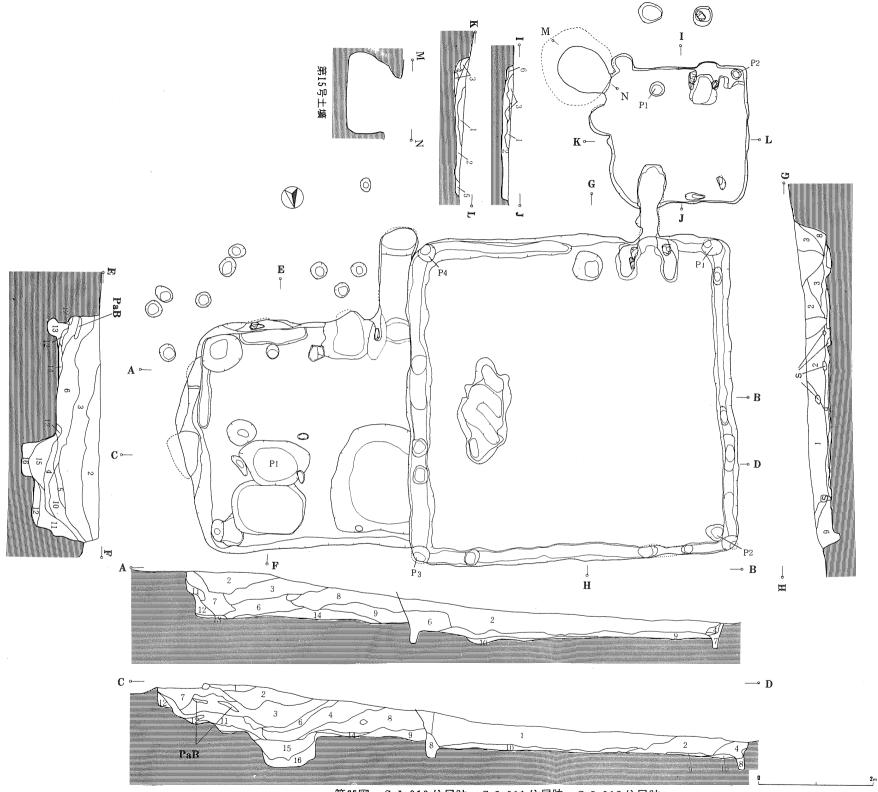
成形・調整はロクロ水挽き法によるが、体部の中程から底部にかけて縦位のケズリ調整が行われる例もある。また頸部に線刻の施された例もある。→P323

### 第59表 S I 010住居跡観察表

								······································	***************************************
			S 1010住居跡			5, 66, 67,			
					図 版 ]	5, 16, 17,	48~52		***************************************
検	出	区	7T, 8T, 7U, 8U					I	
			東壁	西	壁	南	睦	北	壁
法		長	5.78 m		52 m		5.59 m		5.75m
		高	45.3~77.2cm	29.7~38	8cm	41.0	~77.9cm	4.5~	-18.7cm
	周溝	幅	24~39cm	14.0~24	.0cm	11.0	~32.5cm	10.0-	~25.0cm
量	周溝	深	3.4~31.5cm	4.9~21	.7cm	5.1	~12.5cm	6.0-	-16.1cm
	面	積	31.64 m²			ļ			
È	軸方	位.	N −10.5° − E		- 1	15 態	方 形	·	
覆		1	2.10YR¼ 褐色 粘性和	認められる。 もれまりられる。 も有 粘します も も も も も も も も も も も も も も	ポミス3C~4 パミス多量に り有 10Y 記 長化物混入 貴褐色土混。 0Y R ¼ 複 長褐色焼土(	0%混入 炭 に混入 R ½ 褐色土 、パミス 多 色土40%混 粒・塊)明が	化物混入 混入 量に混入 入		
	壁		床面に対して傾斜は104.5 北東側の壁は木の根の撹乱			日できなかっ	った。		
	床		焼失のためと思われる焼土	上及び炭化物・炭	そ化材などに	ド面全体に見	見られる。		
周		溝	すべての壁面に検出された 各隅に柱穴と思われるピッ						
년 ·	"	+	P ₁ 29×32×56.4 南西隅 P ₂ 12×31.5×57.3 北西阳 P ₃ 26×35×51.6 北東隅 P ₄ 28×30×54.5 南東隅	片 柱穴 柱穴					
	位	置	南壁 西寄り						
カマ	覆 :	±	2. 10Y R¾ 暗褐色 粘性 たくてもろ 3. 10Y R¾ 暗褐色 粘性 4. 10Y R¾ 黒褐色 粘性 5. 10Y R¾ 黒褐色 粘性 6. 2.5Y R¾ 明赤褐色	性褐色土僅かに混 主弱 5 Y R ¾ 町 い)等が多量に混 主有 しまり有 炭 上弱 焼土粒及び 上中 焼土粒及び 粘性弱 非常に柔	是入 炭化物 音赤褐色 焼 また物 2 %i 炭化物 2 %i 炭化物を 若 炭化い 7.5	混入 土 5 Y R タ 記入 赤褐色 む 干含む ′ R % 橙色	《 明赤褐色燒土 焼土粒10%混入	(ともに径2	
7			世土20%混 7.5 Y R % 明赤褐色 月 8.5 Y R % 明赤褐色 月 9.5 Y R % ホ褐色 村 10.5 Y R % 赤褐色 村 11.5 Y R % 赤褐色 村 11.5 Y R % 赤褐色 村 12 付部の芯材として河原石が煙道部が第一号住居を切っ	#常にかたいがも # しまり有(物 # も性有 しま # しまり有 熱 # また天井部に	,ろい ,ろい i土が熱を引 り有 径1m !を受けて#	そけることに m∼3mmのが 古土が変色し	宗褐色焼土粒を得 たもの		
遺	į	物	この遺跡中最も遺物が多くに出土、その一部は塊とし 化して多数検出された。鈴また時代は異なるものの履	て出土している 夫製品も10個ほと	。また壁材 出土してい	すも壁に立て	こかけてある状態	点のものや床	面などより炭
備	į	考	この住居跡は第 号住居を われる焼土や炭化物・炭( もろくなっている。						

## 第60表 SI011住居跡観察表

			C 1 0.11 位 尼 吐		挿 図	65, 68, 76	~79	
			S I 011住居跡		図版	15, 17, 18,	53, 54	
検	出	区	7 S, 8 S, 7 T, 8 T					
			東 壁	西壁		南	10 A. 2 M.	北壁
法	壁	長	4.03 m				(3.65 m)	(3.59 m)
	壁	高	69.5~85.0cm			56.0	~81.0cm	28.0-73.0cm
	周溝	幅				-		
	周溝	深						
	īŭi	積	16.31 m²					
È	軸方	位	N —8.5° — E			形態	方 形	
程		土.	1. 10Y R % 褐 色 粘性強 しままま 10Y R % 積 機 色 粘性強 ししまま 3. 1CY R % 積 褐色 粘性強 しま 4. 10Y R % 褐色 粘性強 しま 10Y R % 褐色 粘性有 ししままま 10Y R % 暗褐 色 粘性有 しししまま 10Y R % 暗褐 色 粘性有 向ししままま 10Y R % 積 褐色 粘性 強 有 しい 10Y R % 積 褐色 粘性 強 有 しい 10Y R % 積 褐色 粘性強 有 しししまま 11. 10Y R % 貫褐色 粘性性 強 位 比 11. 10Y R % 積 色 粘性性 強 12. 10Y R % 積 色 粘性性 強 14. 10Y R % 積 色 粘性性 15. 10Y R % 積 色 粘性 15. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 粘性 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 黄褐色 松叶 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 積 色 粘性 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R % 16. 10Y R	) 強強 10 Y R / タ R 色 ス R (	30%混ね 30%混ね 30%混ね 30%混ね 30%混れ 40%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に 30%に	n. ± 40%混入 場色±40%混入 n. ±10%混入 力状に混入 い混入 に混入 バミス 赤褐色焼土	ス 10YR系 黄 ベミス25%混入 - 40%程混入 ブロック状に 5%	楊色土がブロック状に10%混入
	壁		床面に対する傾斜は93.5~107°の範 西壁は第一号住居に切られているた	め検出できる			の長さは認められ	れた地点までの長さである。
	床		床面から多数掘り込みが検出された 東壁中央付近よりわずかではあるか			Cao.		
圕		满	周溝は認められなかった					
ピ	-9	ŀ	P ₁ 78×114×43.0 北東側 何である ている。 コーナーのピット状のものではっき	りピットと語	認められる	るものはなか	った。	
	,		床面から多数掘り込みが検出された	が, ピット*	であると	認められるも	のは横出されな	かった。
	位	置	南壁 西寄り					
カマド	覆	±	1. 10Y R 彩 黄褐色 粘性強 しまま 2. 10Y R 彩 横褐色 粘性強 しまま 3. 10Y R 彩 無褐色 粘性強 10 国 5. 10Y R 彩 暗褐色 粘性強 10 国 5. 10Y R 彩 暗褐色 粘性強 10 I0Y R 彩 暗褐色 粘性強 粘性強 8. 10Y R 彩 暗褐色 粘性強 10. 10Y R 彩 暗褐色 粘性维 10. 10Y R 彩 暗褐色 粘性维 11. 5 Y R 彩 明 明 楊色 粘性维 11. 5 Y R 彩 明 赤褐色 粘性维 12. 5 Y R 彩 明 赤褐色 粘性维 12. 5 Y R 彩 明 赤褐色 粘性维 11. 10Y R 彩 暗褐色 粘性维 11. 10Y R 彩 暗褐色 粘性维 15. 10Y R 彩 黑褐色 粘性维 15. 10Y R 彩 黑褐色 粘性维 17. 10Y R 彩 黑褐色 粘性 9 号 日居 17. 10Y R 彩 4 色 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *	りり、りょりのは、 いり、りょりのいうのでは、 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。 いった。	15%提生 15%展析 15%展析 15%展析 15%展析 15%展析 15%展析 15%展析 15%展析 15% 15% 15% 15% 15% 15% 15% 15% 15% 15%	物1%混入 混入 い 色土1%混ス c40%バミス 之土40%混入 混入 10%混入 らしている い ・ らしている が を を り を し を し を し を し を し を し を し を し と し と し	、 5 %混入 こぶい褐色土を少 -3.0cm)を4C%炭 %混入	:化物5%混入
vil.		4.4	カマド東側にある穴については性格 抽の部分の芯材として河原石が使用	されていた。				
遺		物	カマド内及びその周辺より須恵器片			nエしている	,	
備		考	住居跡の南側のピットと住居との関	除は明らか。	でほない			



第65図 S I 010 住居跡、S I 011 住居跡、S I 012 住居跡



第66図 S I 010 住居跡炭化物、炭化材出土状態

P316→ 植物遺存体としてはトチノ実、米、豆類、茅、稲藁等がある。このうちトチノ実は第6号住 居跡で多量に採取され、茅は第19住居跡、他の米、豆類、稲藁等は第10号住居跡で大量に検出

されている。いづれも炭化した状態である。

第66図は第10号住居跡における炭化米、豆類、炭化材の出土状況を示したものである。炭化 米及び豆類は住居跡の北東隅に広く分布した状態で検出されているが、このうち炭化米につい ては、曲物に入った状態、おにぎり状に固結した状態で検出されたものもある。また稲藁によ ると思われる筵状製品も1ヶ所から検出されている。

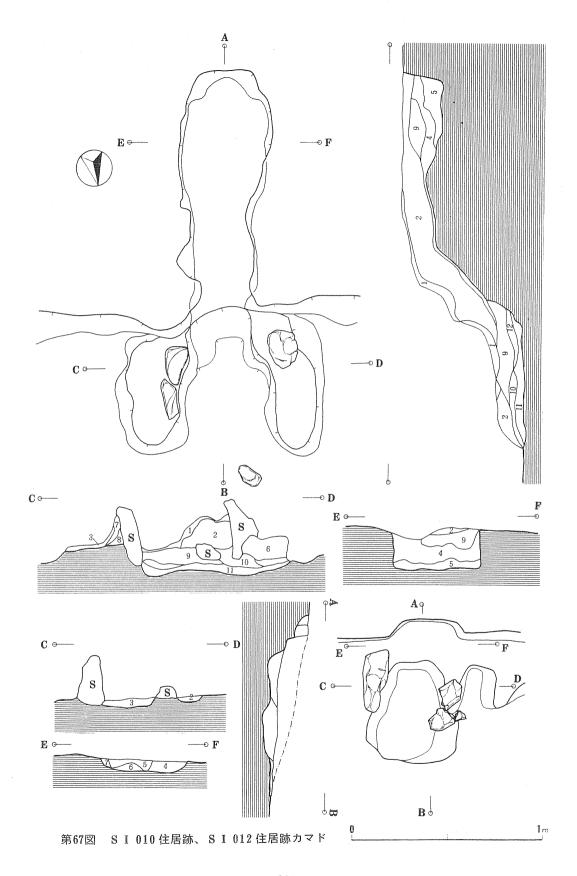
第75図1・2は曲物に入った状態の炭化米である。どちらも同一の曲物の断片と思われるが、推定すれば径30cm程になると思われ、残存高は最大で10.3cmを測る。底板は殆ど欠落している

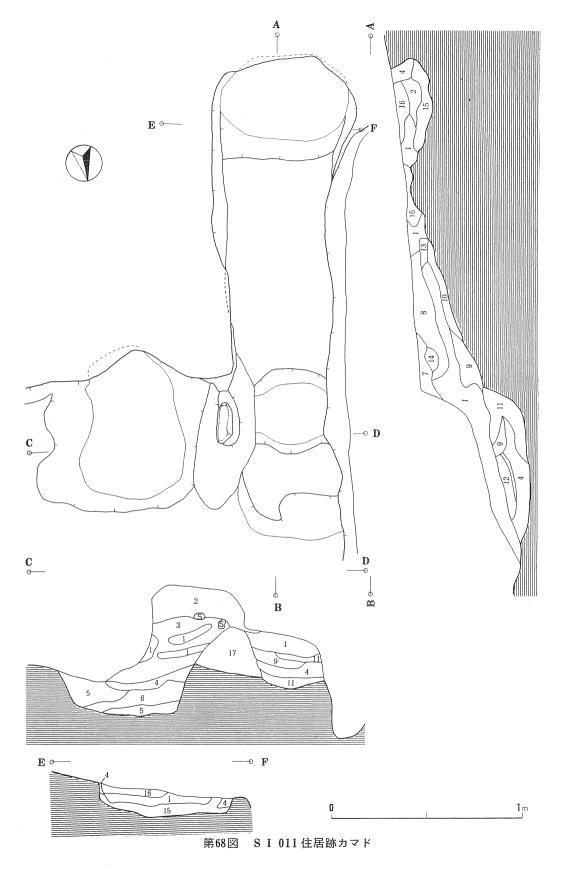
## 第61表 S I 012住居跡観察表

				9D013K 0	1012 12.75	コレン・圧ルス	K 10			
					挿 図	65, 67				
			S 1012住居跡		図 版	15, 18				
検	出	区.	6T, 7T, 6U, 7U	J						
			東壁	西	壁		南	壁	北	壁
法	壁	長	2.37 m	2	. 40 m		2.5	3 m		2.36 m
	壁	高	15.3~23.1cm	4.0~1	0.7cm		8.0~20.	1cm	4.0	~17.4cm
	周溝	帽								
튑	周灌	<b>非深</b>	ACCEPTANCE OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF THE PROPERTY OF							
	面	積	5.89 m²							
主	軸方	位	N —10.5° — E			形態	方	形		
覆		土	1.10YR¾ 暗褐色 * 2.10YR¼ 褐 色 * 3.パミスブロック 4.10YR¾ 黒褐色 * 5.10YR¾ 暗褐色 * * 10YR¾ 暗褐色 * 10YR¾ に	钻性あり 孔隙 钻性あり 孔隙	(小 赤褐) (中 パミ)	色焼土を ス僅かに	部分的に 混入	僅かに含む	•	
	壁		床面に対する傾斜は94- 北壁の一部は第10号住屋	- 126° の範囲に 居址のカマドケ	こある 亜道部に。	こって切	られている	5.		
周		溝	検出されなかった	•						
ピ	'n	+	P ₁ 25×27×16.0 カマ P ₂ 17.5×19×7.3 南西 他には検出されなかった	i隅						
	位.	置	南壁 西寄り							
カマド	覆	1.5 Y R % 赤褐色焼土 粘性強 しまり有 2.10 Y R % 黒褐色 粘性有 しまり有 赤褐色焼土僅かに混入 3.10 Y R % 黒褐色 粘性強 しまり強 赤褐色焼土 炭化物混入 4.10 Y R % 褐 色 粘性強 しまり有 赤褐色焼土混入 5.10 Y R % 暗褐色 粘性有 しまり有 赤褐色焼土塊及び炭化物混入 6.5 Y R % 赤褐色焼土 粘性有 しまり有 7.10 Y R % 褐 色 粘性有 しまり有 赤褐色焼土混入								
	The same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the sa		袖部の芯材として河原 などはほとんど認める			呆存状態	はあまり」	良好とはい	・ 之 ず , 袖	中の部分の粘土
備		考	この住居跡は第15号土 ている。	廣を切ってい	る。またタ	第10号住	居跡のカ	マド煙道部	Sによって 	北壁を切られ

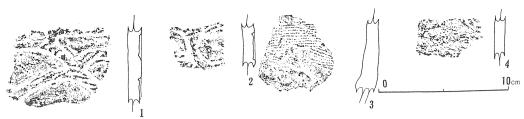
# 第62表 SK(f)033土壙観察表

	C 1/ (C)000 1 HF	挿	図	65
	S K(f)033土壙	図	版	15
検 出 区	6 T	規模・	形態	100×72cm 楕円形
深さ	100cm	面	積	0 . 67 m²
確認状況	第12号住居跡東南隅に接して確認され 開口部は僅かに第12号住居跡によって	こた。 て切られ	ている	3 .
	暗褐色土のほぼ1層である。炭化物/			

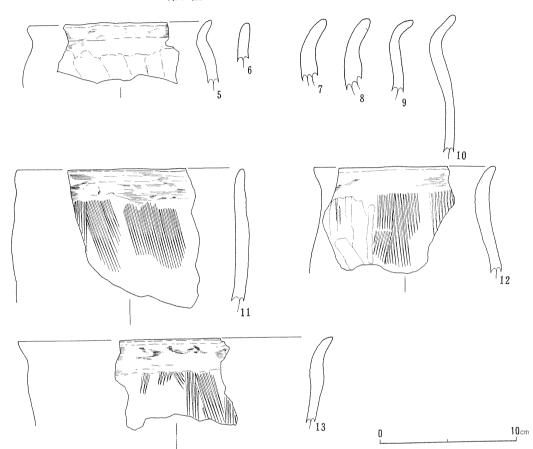




— 326 —

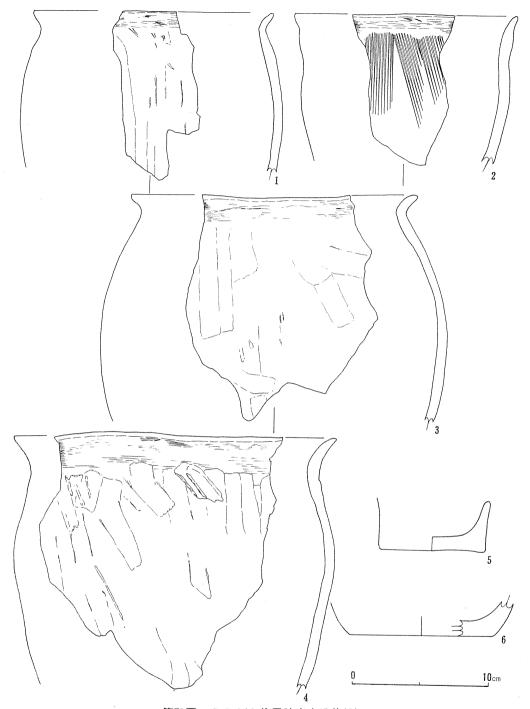


第69図 S I 010 住居跡出土遺物



第70図 S I 010 住居跡出土遺物(1) 第63表 S I 010 住居跡出土遺物(1)

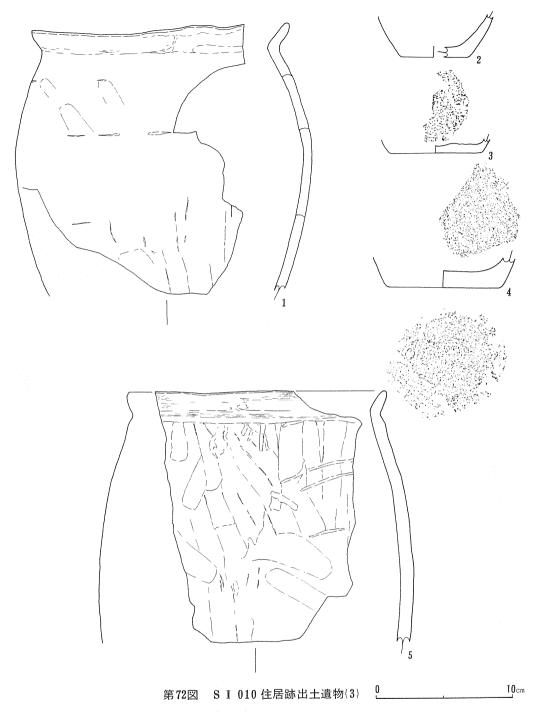
									<b>弗05衣 SIUIU</b>					
10 (3)		20 H 2	86 (0).		法	崩	(cm)		親 整	(地 文)	成形	色調	胎 土	焼玻
番号	出土地点	36445	nt-tu.	E1	径	体径	廣径	器高	外 値	内前		泛黄橙色-楊灰色		-
1	5 1 010	\$ <b>1</b> ;	#H #B						粘土ひもによる貼付文、貼付 文上に無節のし縄文、沈線		積み上げ法	(10Y R%~10Y R%)	僅かに砂粒を含む	Ą
2	S I 010	11:	删部						粘土ひもによる貼付文		積み上げ法	浅黄橙色 (10Y R 勢)	僅かに砂粒を含む	具
3	S 1 010	ŝŁ.	No. ac	<del> </del>			-		しの格子目状撚糸文、煤付着		権み上げ法	灰黄褐色 (10 Y R ½)	僅かに砂粒を含む	A
4	S I 010		口袋部	-				-	Rの撚糸文	4/4	植み上げ法	浅黄色 (2.5 Y %)	僅かに砂粒を含む	A
5	S I 010		E1 24 AE	(1	3.5)				横位ナデ、梶位・斜位ケズリ	横位ナデ	植み上げ法	灰黄褐色 (10Y R 短)	僅かに砂粒を含む	B
	S I 010	L	口铁部	-			-	-	構位ナデ	横位チデ	積み上げ法	福灰色 (10Y R 5()	極く僅かに砂粒含む	А
7	S I 010		口接触	+-			-		横位ナテ、縦位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	(C.Kい黄橙色 (10Y R 写)	極く僅かに砂粒含む	F
8	S I 010		口技術	-		-	-	+	描位ナテ、斜位ケズリ	精位ナテ、縦位ケズリ	植み上げ法	(C.35い 黄橙色 (10 Y R 汚)	僅かに砂粒を含む	1
0	S I 010	+	口缺能	+-			-	-	権位ナテ、斜位ケズリ	横位ナテ	権み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R 万)	僅かに砂粒を含む	1
10	S 1 010	+	Distal	+-			-	<del> </del>	横位ナデ、軽位、斜位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	積み上げ法	にぶい戦権色 (10Y R 多)	僅かに砂粒を含む	F
	S 1 010	-	口株部	+-	17 (1)	-	-	+	横位ナデ、縦位・斜位ケズリ	横位ナデ、軽位・斜位ケズリ	積み上げ法	№色 (7.5 Y R%)	僅かに砂粒を含む	F
11	-	-	U 4k iii		13.6)	<del> </del>	+	+	横位ナデ、程位・斜位ケズリ	横位ナテ、縦位ケズリ	積み上げ法	(7.5 Y R.24)	僅かに砂粒を含む	1
12	S I 010	+	口線部	+-	23.2)	+	-	-	横位ナデ、縦位・斜位ハケ目	構位ナデ、軽位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄檀色 (10Y R ¼)	僅かに砂粒を含む	1



第71図 S I 010 住居跡出土遺物(2)

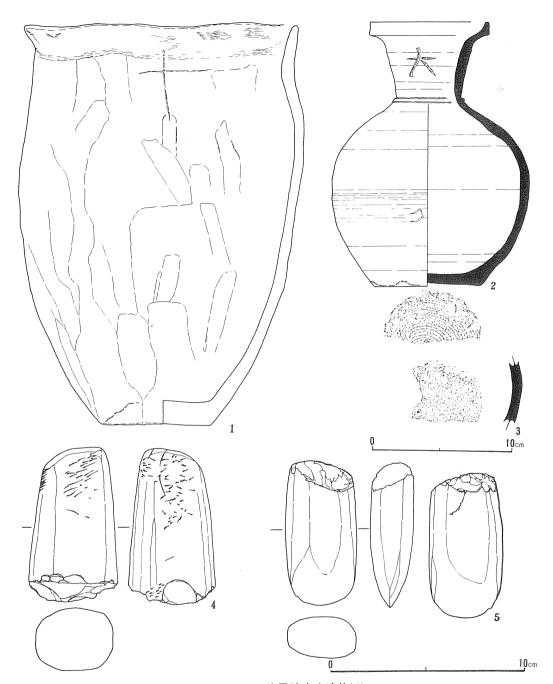
第64表 SI010住居跡出土遺物(2)

挿図 番号	出土地点	器形	86 fd	法	麗	(cm)		ä	碧 懿	(地 文)		also Er		201	T		
番号	113-1-75	nu-u>	110 12.	口径	体径	底径	器器	54	ifii	内	ifii	成形	E	調	胎	±.	焼成
1	S I 010	装	口練部	(17.8)				横位ナテ、軽位	斜位ケズリ	横位ナデ		積み上げ法	にぶい橙(7.5	5 Y R 1/4 )	僅かに砂	粒含む	良
2	S I 010	装	口核部					横位ナテ、縦位	斜位ケズリ	指位ナデ,	桜位ナデ	積み上げ法	にぶい褐色(7	7.5 Y R 5/3)	僅かに砂	粒含む	良
3	S I 010	装	口機部	(21.3)				横位ナデ、報位、	. 斜位ケズリ	横位・縦位	・斜位ナデ	積み上げ法	灰白色 (10Y	R %2)	僅かに砂	粒含む	良
4	S I 010		底 部	(24.2)				横位ナデ、縦位。	斜位ケズリ	横位ナテ.	縦位ケズリ	積み上げ法	橙 (7.5YR)	76)	僅かに砂	粒含む	D
- 5	S I 010	装	底 部					ナデ		ナデ		積み上げ法	褐灰色 (10Y	R州)	僅かに砂	粒含む	良
- 6	S [ 010	甕						ナデ		ナデ、ケス	(1)	積み上げ法	にぶい黄橙(1	10 Y R ½)	僅かに砂	粒含む	£.



第65表 SI010住居跡出土遺物(3)

挿図	ata t sa ta	an re	27 (4)		法	lit	(cm)			網 盤	地文	)		成形	ib	269	胎生	炒成
番号	出土地点	SE 117	56 lg.	口音	ž.	体径	底径	器高		tfti	[ ² ]		(fhi			W7		
1	S I 010	额	口採部	(19.0	0				横位ナデ、縦位。	斜位ケズリ	横位ナデ.	梃位.					僅かに砂粒を含む	i A
2	S I 010	496	底部		1				ケズリ、砂底		ケズリ			積み上げ法	にぶい黄檀	(10Y R 1/4)	砂粒を含む	具
3	S I 010	136	105 200		7				ケズリ、砂底		ケズリ			摘み上げ法	にぶい黄(2	1.5 Y %)	砂粒を含む	具
4	S 1 010		16 20		-				ケズリ、砂底	,	ケズリ			積み上げ法	浅黄橙(10)	Y R%)	砂粒を含む	良
5	S 1 010	£#	口株部	(19.3	0				横位ナデ、約位,	構位ケズリ	横位ナデ.	梃位か	アズリ	摘み上げ法	にぶい褐色	(5 Y R %)	僅かに砂粒を含む	良



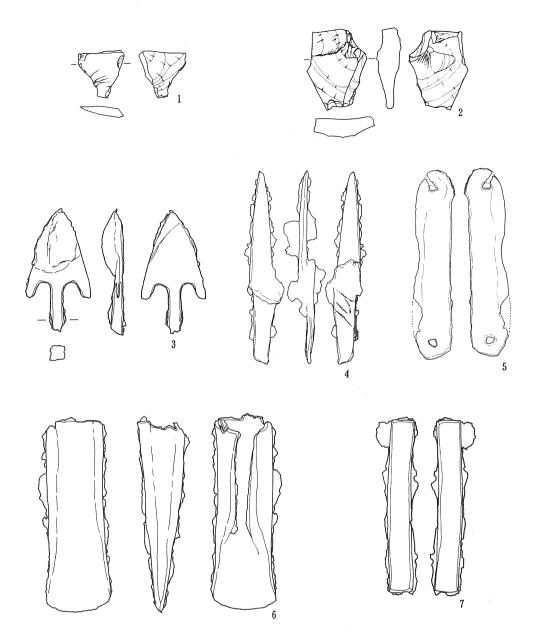
第73図 S I 010 住居跡出土遺物(4)

# 第66表 SI010住居跡出土遺物(4)

挿図	(1) 1 (d) 1:	製造用金	ANT CA-	i	± 1	it (cm	)	à	期 整	(地 文)		成形	色	989	¥-	+	焼成
挿図 番号	出土地点	福4月2	部位	口径	体径	底径	器高	外	dii	内	ŒĬ	100, 110	6	19-1	161		196.444
1	S I 010	装	完 形	20.5	20.7	8.2	29.6	描位ナデ、磁位	、斜位ケズリ	横位ナデ,	報位ハケ目	積み上げ法	橙色 (7	7.5 Y R 76)	僅かに砂粒含む		良
2	S I 010	蓝	口袜一底部	8.8	14.3	7.8	19.8	横位ケズリ、ロ 回転糸切り	クロ水挽き、	ロクロ水投	£.B	積み上げ法	暗背灰色	色(10BG州)	精製された粘土 く微量の細砂を	を用い極 混入する	良好
3	S I 010	蓝	胴 部					ロクロ水挽き		ロクロ水杉	6.5	積み上げ法	黄灰色	(2.5Y¾)	僅かに砂粒含む		良好

# 第67表 SI010住居跡出土遺物(石器)

ſ	挿図番号	出土地点	22 Mg	石質	長さ(報)	幅(横)	厚さ	A H	親 察
Ì	4	S I 010	磨製石斧	凝灰岩	8.2	4.5	3.5	221.3	基部のみ残存。断面形から大形のものであったことが推測される。
-	5	S I 010	磨製石斧	凝灰岩	7.5	3.7	2.2	103.6	基部を欠損。製作時に本体に明瞭な陵をつくらず、刃部も円孤を描く。使用度は低い。



第74図 SI010住居跡出土遺物(石器、鉄器)

10cm

### 第68表 SI010住居跡出土遺物(石器)

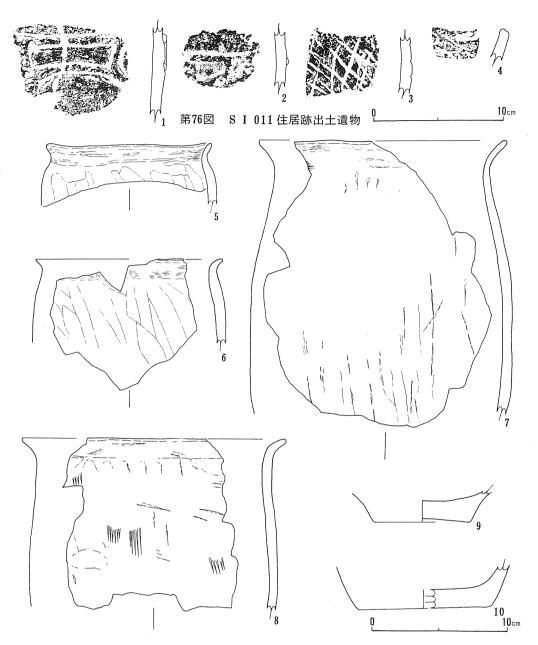
		2	12002	-	O . U	. 0 1		,, ,	
ſ	排团番号	出土地点	2244	1i EL	長さ(税)	编(据)	14.3	低粒	観 発
İ	l	S I 010	判片	11 4	2.4	2.3	0.5	2.3	表面石辺端に僅かに二次剝離が認められる。
ı	9	S I 010	34 15	(6 9)	4.1	3.0	1.2	15.3	

### 第69表 SI010住居跡出土遺物(鉄器)

	21	7000		1
排図番号		25 14	計劃傾	親 察
3	1		最大長6.4、最大幅3.35、本体厚0.23、 基部厚0.61、重量10.3	本体先端から大半は錆のためふくらんでいる。 基部はその一部が欠失している。
4	S 1 010	小 刀	最大長10.14,最大幅1.21,厚0.39, 重量11.2	中程に錆のためのふくらみが認められる。 場部 には僅かに 本質部が付着残存する。
5	S I 010	1	940.25。 鬼 仮 13.2	刃部は摩托が著しい。両端には着柄のための目   釘穴が認められる。
6	S I 010	手序	最大長10.3。	ソケット式の着柄部をもつ。
7	S I 010	7	最大长9.0, 最大幅1.3, 厚0.4, 重量27.6	角棒状鉄製品、片方の先端部がまがっている。

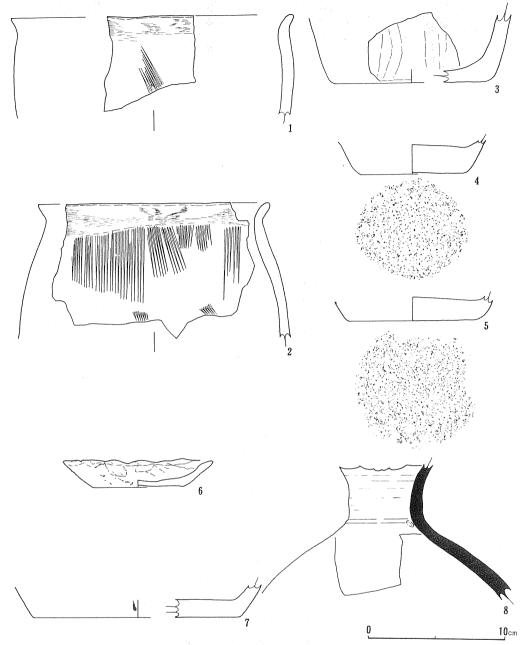


— 332 —



第77図 SI011住居跡出土遺物(1) 第70表 SI011住居跡出土遺物(1)

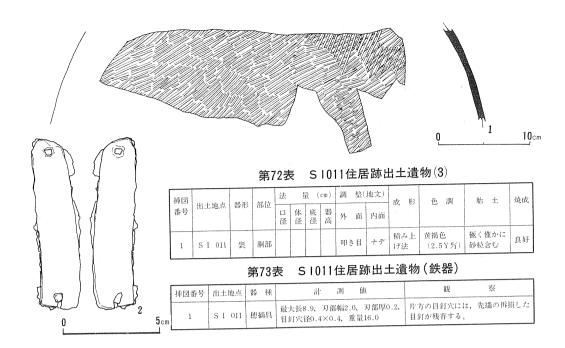
挿図	出土地点	器形	âE	10.		ił:	hit:	(cr			調 祭 (地		成形	6. ja	胎生	焼破
番号	managas.	507/12	m	12.	0	歪	体	往	底径	器高	外面	内 面				-
1	S I 011	鉢	制	Æ							粘土ひもによる貼付文、貼付文上に 無節のし縄文、流線、煤付着		積み上げ法	浅黄橙色~楊灰色 (10Y R 5/2~10Y R 5/1)	僅かに砂粒含む	Ą
2	S I 011	st	NA.	fili							粘土ひもによる貼付文		植み上げ法	浅黄橙色~褐灰色 (10Y R另~10Y R列)	僅かに砂粒含む	18
3	S I 011	S\$	814	as							縄文、LRヨコ		植み上げ法	(2.36) 恒 (7.5 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	Ą
4	S 1 011	S\$:	N4	28							R燃糸文		権み上げ法	明褐色 (7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	Ą
5	S I 011	鎌	口林部-	- 制部	(12.	2)					構位ナデ、軽位、斜位ケズリ	横位ナテ、横位、斜位 ケズリ	植み上げ法	楊灰色 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒含む	R
6	S I 011	镀	口絲部~	- 胸部	(13.	8)					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ	権み上げ法	(東欧恒色 (10 Y R %)	僅かに砂粒含む	Ą
7	S I 011	甕	口絲部~	- NA 86	(18.	2)	(19.	3)			横位ナデ、軽位、斜位ケズリ	構位、斜位ハケ目	積み上げ法	(美黄橙色 (10 Y R 写)	僅かに砂粒含む	Ř
8	S I 011	樊	口袜部~	- 柳部							横位ナデ、縦位ハケ目、縦位ケズリ	横位ナデ、模位ハケ目	積み上げ法	(美麗隆色 (10 Y R 秀)	僅かに砂粒含む	B
9	S 1 011	鉄	旌	as							ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい位色 (5 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	H
10	S I 011	鉄	庭	86							ケズリ	ケズリ	積み上げ法	灰黄褐色 (10YR%)	僅かに砂粒含む	R



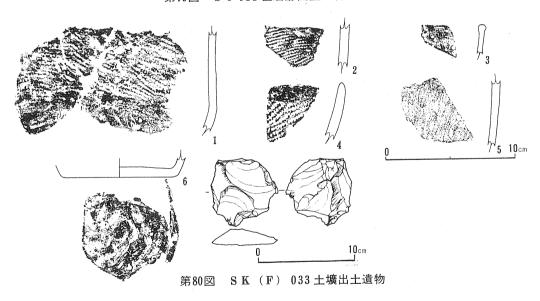
第78図 S I 011 住居跡出土遺物(2)

第71表 SI011住居跡出土遺物(2)

排図	出土地点	25 F :	RE (i)	挂	i	(cm)		調 整	(地 文)	T			mi
番号	manex	68-12	NI 48	口径	体径	廃径	器高	外 前	内 面	成形	色調	- 抽 土	焼成
1	S I 011	挺	口線~胸部	(21.0)				横位ナテ、斜位ハケ目	横位ナデ	積み上げ法	褐灰色 (7.5YR%)	僅かに砂粒含む	良
2	S 1 011	皴	底 部					ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい橙(7.5YR外)	僅かに砂粒含む	Ą
3	S I 011	装	口禄~期部	(17.0)				横位ナテ、軽位、斜位ハケ目	横位ナデ、模位ハケ目	積み上げ法	浅黄橙(7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	Ŕ
4	S I 011	摄	胴部~底部					桜位ケズリ、砂底	ナズリ	積み上げ法	揭灰色 (10Y R写)	僅かに砂粒含む	13
5	S I 011	鉄	底 部					砂底	ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10Y R ¾)	僅かに砂粒含む	1/4
6	S I 011	OR.	口袜一底部					指頭による調整	ナデ	積み上げ法	浅黄橙 (10 Y R %)	極く僅かに砂粒を含む	良好
7	S I 011	装	麻 部					ケズリ	ケズリ	積み上げ法	浅黄橙 (10YR写)	砂粒を含む	Ą
8	S I 011	靈	預部~腳部					ロクロ水挽き	ロクロ水挽き	ロクロ水挽	黒褐色 (10Y R光)	極く僅かに砂粒を含む	良好



### 第79図 S I 011 住居跡出土遺物(3)



### 第74表 SK(F)033土壙出土遺物

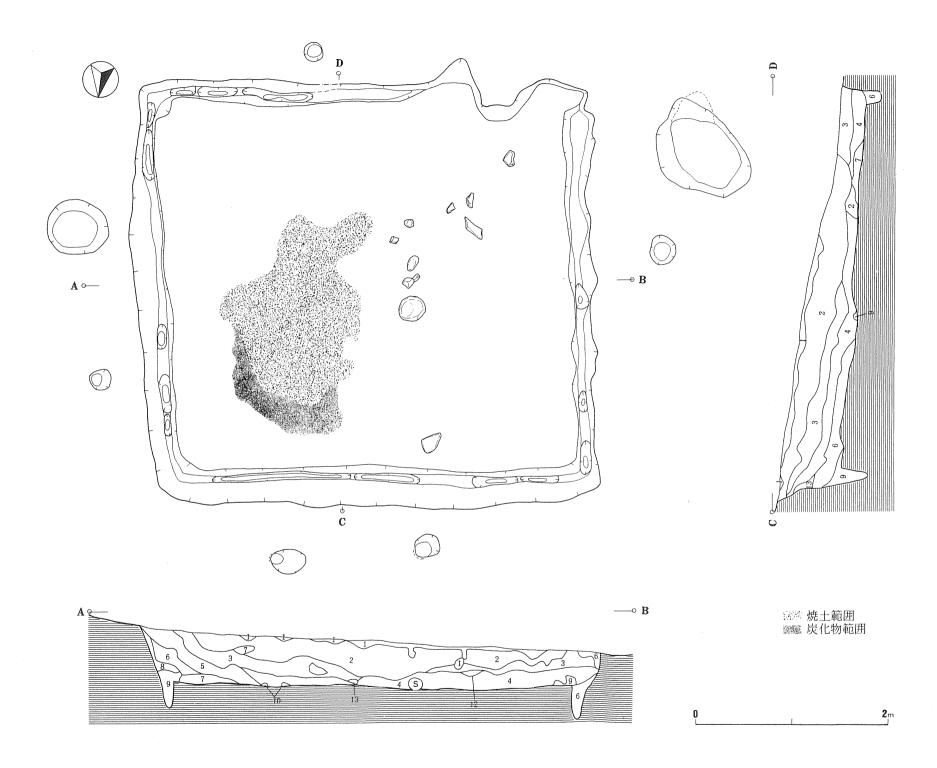
挿図		98 T/	25	1.1.	È	£ 1	∦ (e	m)		26	繁(	地 文)		城 形	ft.	201	胎生	物成
番号	出土地点	器形	85	位	口径	体径	底径	器高		外	iii	i	四面	40, 10		P.1	10	
1	S K (F) 033	34:	No.	部					縄文.	LRタテ、	極く僅か	スス付着		積み上げ法	にぶい橙色	(5 Y R 1/4)	砂粒を含む	梢良
2	S K (F) 033	纬	胴	部					繼文,	LRan				積み上げ法	にぶい橙色	(5 Y R ¾)	砂粒を極く僅かに含む	A
3	S K (F) 033	24.	口板	計					無文					植み上げ法	橙色 (5 Y	R %)	砂粒を含む	A
4	S K (F) 033	£\$.	口粒	語		-			穩文.	LR33.	スス付着		1	積み上げ法	浅黄橙色(1	0Y R 5/3)	砂粒を僅かに含む	良
5	S K (F) 033	\$#.	胴	àli			-		無文ケ	ズリ				積み上げ法	. 橙色(7.5Y	R 3/6)	砂粒を描く僅かに含む	良
6	S K (F) 033	\$#:	li£	86			8.6						1	積み上げ法	にぶい橙色	(5 Y R ¾)	砂粒を含む	良

### 第75表 SK(F)033土壙出土遺物(石器)

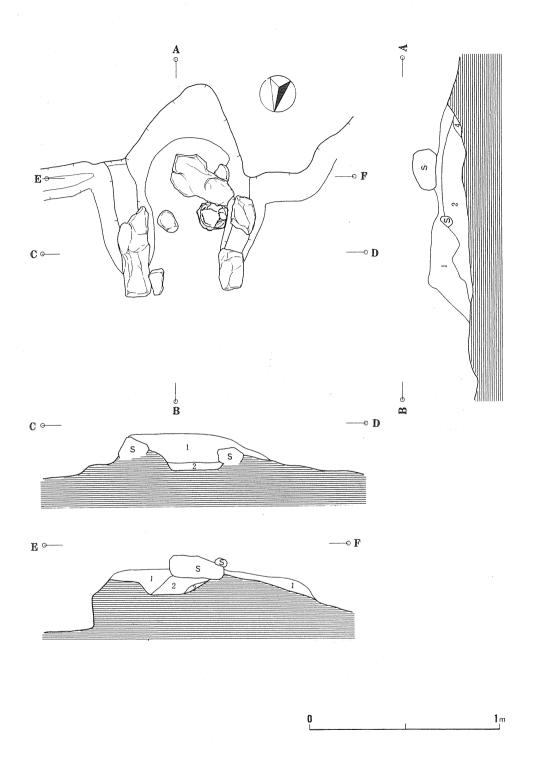
挿図番号	出土地点	器種	Ti Ti	長さ(程)	幅(横)	厚さ	重 量	観 祭
714	Lanes-Control							
7	S I 033	例 片	真岩	2.3	3.4	0.9	7.8	打面として僅かに自然面を残す。

# 第76表 S1014住居跡観察表

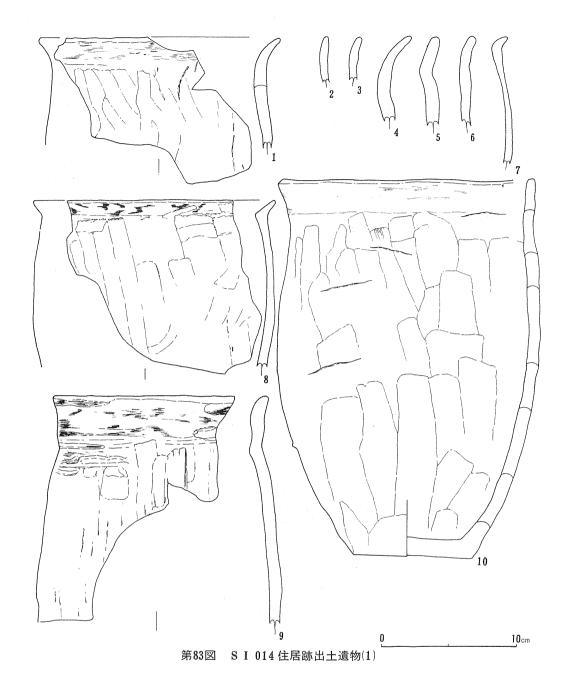
				挿 図 8	1~89			
		S 1014住居跡		図 版 1	9, 55, 56	, 57		
検	出 区	10 J, 11 J, 10 K, 1	1 K					
-		東壁	西	壁	南	壁	北	壁
法	壁長	4.48 m		4.51 m		5.02 m		4.65 m
	壁高	35.8~86.2cm	7.4~	51.7cm	13.3~	-27.9cm	63.5	~84.7cm
	周溝幅	8.0~17.0cm	9.5~	26.0cm	9.5~	-18.5cm	11.0-	~17.5cm
量	周溝深	11.3~28.0cm	12.1~	26.9cm	13.3~	-25.1cm	16.4	~29.7cm
	面積	21.03m²						COMMISSION AND A STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE STREET OF THE
主	軸方位	N-6.5°-E		Ŧ	多態	方 形		
覆	土	2.10YR¾ 暗褐色 3.10YR¾ 暗褐色 4.10YR¾ 暗褐色 5.10YR¼ 褐 色 6.10YR¾ 暗褐色 7.10YR¾ 暗褐色 8.10YR¼ 褐 色 9.10YR¼ 褐 色 10.7.5YR¼ 褐色 11.10YR¾ 黒褐色 12.10YR¾ 黒褐色 13.10YR¾ 黒褐色	粘性性弱 化	隙隙隙隙隙隙隙隙水中中小小パパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパパ	スななない こうしょう なななない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	む に含む ロー に含む に含む に含む ローム ない 焼土	ムが混入し	ている
	壁	床面に対する傾斜は9	3~111°の章	色囲にある				
	床	住居址北東側を中心と	して火床か	バ広がってい	1る			
周	溝	すべての辺より検出さ	れた他の自	注居址と比軸	交して深く:	なっている		
ٰ	ット	柱穴と思われるPitのないかと思われる。	の検出はでき	きなかった。	周溝内の	凹地は壁材を	と立てかけ	たあとでは
	位 置	南壁 西寄り					-	
カマ	覆 土	1.10YR¾ 黒褐色 2.10YR¾ 暗褐色 3.7.5YR¼ 褐色 4.10YR¼ 褐色 *	粘性強 孔 粘性中 孔隙	隙小 煙道部 煮小 焼土層	『において			
F		袖部の芯材, また天井石の上に土師器の甕々カマド全体としては, く出土している。	底部を伏せ	とて乗せて値	使用してい;	た。煙道は知	豆く約1 m	程しかない。
遺	物	カマドの付近及び内タ	トから多数出	土している				



第81図 S I 014 住居跡

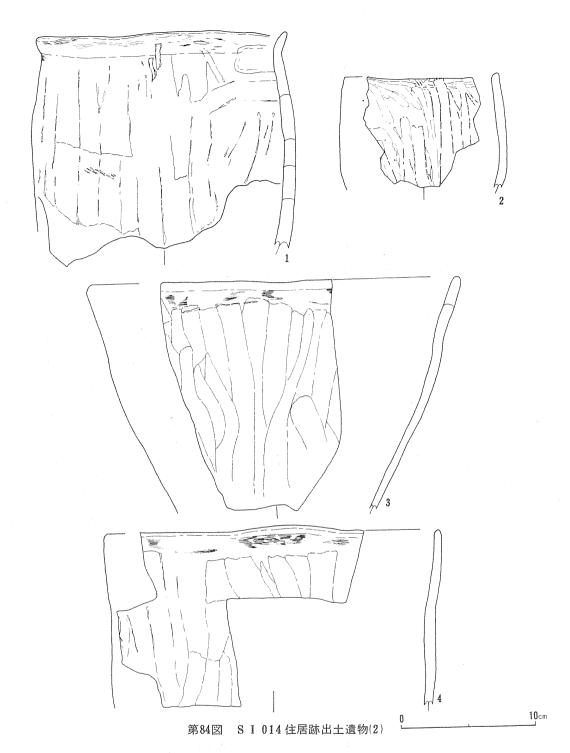


第82図 SI 014 住居跡カマド



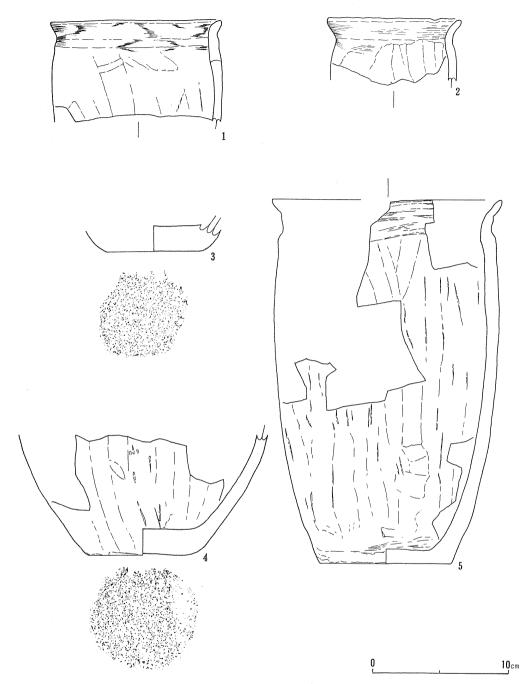
第77表 SI014住居跡出土遺物(1)

挿図	出土地点	器形	部位	ž.	i i	(cm)		調	路 (地 文)	- 成形	色 調	胎土	焼成
番号	manes.	ear n>	DP 192	口证	体径	底径	器高	外 面	内 面	nx. n>	E 26	70 .L	NE IIX
1	S I 014	漿	口禄部一嗣部	(17.8)				横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位ナデ	積み上げ法	浅黄橙色(7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 014	類	口禄部					横位ナデ, 斜位ケズリ	横位ナデ、斜位ハケ目	積み上げ法	浅黄橙色(7.5Y R 努)	僅かに砂粒含む	良
3	S I 014	鉄	口絲部					橋位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	浅黄橙色(7.5Y R 努)	砂粒を含む	Д
4	S I 014	甕	口 株 部					横位ナデ, 縦位ハケ目	横位ナデ、縦位ハケ目	積み上げ法	浅黄橙色(7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	Ą
5	S I 014	鉄	口株部					構位ナテ, 斜位ケズリ	横位ナデ	横み上げ法	こぶい黄橙色(10Y R 汚)	僅かに砂粒含む	A
6	S I 014	鉄	口株部					横位ナデ, 斜位ケズリ	微位ナデ	積み上げ法	暗背灰色 (5 P B 好)	僅かに砂粒含む	A
7	S 1 014	龒	口稼部					横位ナデ	構位ナテ, 斜位ナデ	積み上げ法	浅黄檀 (10 Y R 写 )	砂粒含む	具
8	S I 014	鉄	口綠部~胸部	(17.8)	1			横位ナデ, 斜位ケズリ	構位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R %)	僅かに砂粒含む	A
9	S I 014	装	口綠部~胴部	(16.0)				横位ナデ、軽位ケズリ	横位、斜位ケズリ	積み上げ法	灰黄褐色(10YR%)	僅かに砂粒含む	良好
10	S I 014	捷	完 形	20.2	19.6	9.0	28.1	横位ナデ、梃位ケズリ	横位ナデ, 縦位ケズリ	積み上げ法	浅黄橙(7.5YR写)	僅かに砂粒含む	良



第78表 SI014住居跡出土遺物(2)

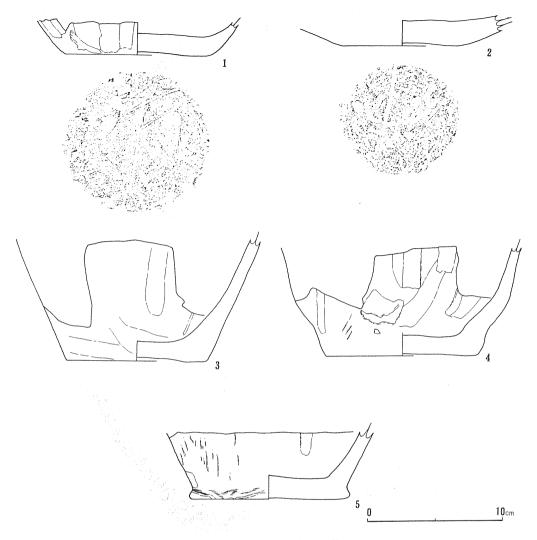
F6.03					34:	40	(em)		.499	整 (地	<del>7</del> )	T	T			T
排 E 号	出土地点	器形	部位	E1 (	1,0-1			器高	外	ilii	内面	成 形	Œ.	(M)	胎 土	焼 劢
1	S I 014	装	口縁部一胴部		T				横位ナデ,	斜位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	浅黄橙(7.5)	(R%)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 014	焦	自縁部一胴部	(11.3	3)				機位ナテ.	斜位ケズリ	概位ナデ	植み上げ法	にぶい褐色(	7.5Y R %()	僅かに砂粒含む	やや真
3	S I 014	號	口練部一脚部	(27.5	9)				横位ナデ,	概位、斜位ケズリ	構位ナデ	積み上げ法	において税	(10 Y R 3/5)	極く僅かに砂粒含む	良動
4	S 1 014	58	口袜部~剛部	(24.6	5)				構位ナデ,	概位ケズリ	構位ナデ	積み上げ法	橙 (7.5 Y R	½()	僅かに砂粒含む	良



第85図 S I 014 住居跡出土遺物(3)

第79表 SI014住居跡出土遺物(3)

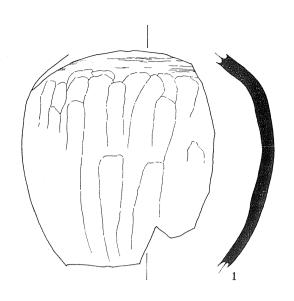
择因 番号	出土地水	29 H :	部(次	ì	k i	i (cm)		選 整	地 文》	T		I	T
番号	121.121.121.11	uu 11,7	no ov.	四 谜	体径	嗾 僅	23,85	外 面	内 面	成形	色調	胎 土	焼 成
1	S I 014	Ð	口操部一副部	(12.5)				横位ナデ、紆位ケズリ	横位ナテ	横み上げ法	(こぶい黄檀 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	わわ日
2	S I 014	獎	口辣部~腳部	(9.8)				横位ナテ、軽位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	によい質情 (10Y R ½)	僅かに砂粒含む	B
3	S I 014	號	低 部			(7.0)	1	砂底	ケズリ	積み上げ法	浅黄橙 (10YR%)	例42を含む	n
4	S 1 014	題	制部~底部			11.2		ケズリ、砂底	ケズリ	積み上げ法	におい程 (7.5Y R 3/)	僅かに砂粒含む	19
5	S 1 014	装	口核~底部	16.8	16.6	9.8	27.0	概位ナデ、軽位、斜位ケズリ	横位ナテ、斜位ナテ	横み上げ法	黒褐色~にぶい赤褐色(10YR另~5YR好)		

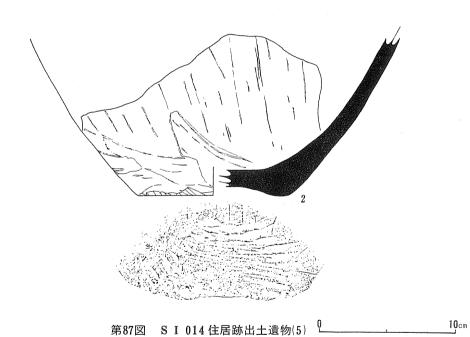


第86図 S I 014 住居跡出土遺物(4)

# 第80表 SI014住居跡出土遺物(4)

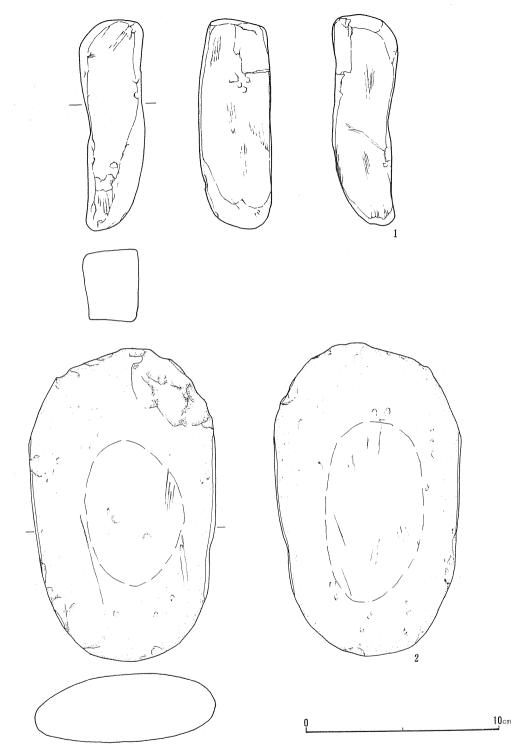
挿図	出土地点	器形	部位		法	證 (em)		調整(	地 文)	成形	色調	胎 土	焼賊成
番号	AT TEMEN	新正月>	HP 11/.	口径	体径	底 径	器高	外 面	内 面	100, 112		713	7/CRX10X
1	S I 014	雅	底 部			(10.6)		縦位ケズリ 木葉痕	ナデ	積み上げ法	浅黄橙 (10Y R %)	僅かに砂粒を含む	良
2	S I 014	좵	底 部			9.6		木葉痕, 後に ケズリで調整	ケズリ	積み上げ法	にぶい橙 (7.5Y R 列)	僅かに砂粒を含む	良
3	S I 014	甕	胴部~底部			10.3		斜位ケズリ, ケズリ	ケズリ	積み上げ法	褐灰色 (7.5 Y R 列)	砂粒を含む	やや良
4	S I 014	猰	胴部~底部			(11.2)		縦位、ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい橙 (7.5Y R ¾)	僅かに砂粒を含む	良
5	S I 014	號	胴部一底部			9.8		ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5Y R %)	砂粒を僅かに含む	良





第81表 SI014住居跡出土遺物(5)

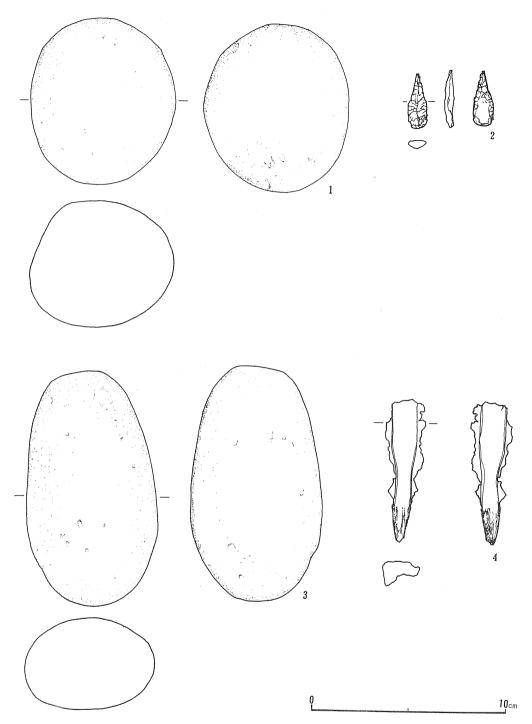
挿図 番号	distribute.	器形	ar it		进	量(cu	)		淵 努	(地 文)		成形	44.	:90	粉土	焼成
番号	mane,e.	सम्बद्ध	612 U.	口径	体包	底	¥ 器高	外	ifti	内	iki	10X, 115	=	n _M	No. 1.	396,134,
1	S 1 014	撤	84 SG		(18.3			ロクロ水挽き、	程位ケズリ	ロクロ水挽き、	程位ケズリ	権み上げ法	にぶい褐色()	7.5YR%)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 014	鉄	胴部〜底部			(11.2	)	軽位、斜位ケニ	<b>だり底部叩き目</b>	程位、斜位ナラ	7	権み上げ法	青灰色(5B	写)	僅かに砂粒含む	E 47



第88図 SI014住居跡出土遺物(石器)(1)

第82表 SI014住居跡出土遺物(石器)

								•			
1	挿図番号	出土地点	50 for	極	石	Ħ	長さ(縦)	幅(横)	厚き	重量	親祭
	1	S I 014	孤	Ŧī	挺り	長 岩	11.1	3.0	3.6	162. 4	四面を砥面として用いているが、うち三面は使用が低く明瞭な砥面を形成しない。
	2	S I 014	倕	Ŧï	群り	5 岩	14.5	9.7	3.6	128.0	扁平な円礫の両面及び側縁を砥面としている。側縁砥面は極く小範囲。



第89図 SI014住居跡出土遺物(石器、鉄器)(2)

第83表 SI014住居跡出土遺物(石器)

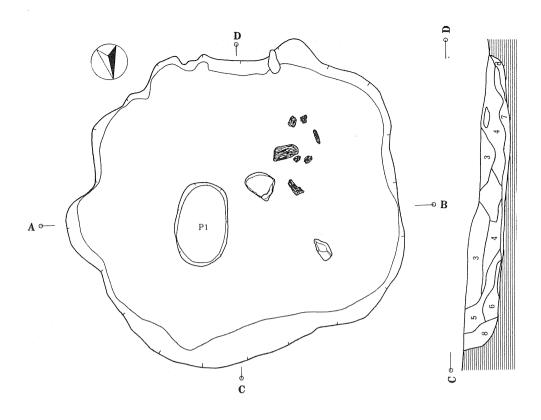
								,
挿図番号	出土地点	器種	石質	長さ(報)	幅(横)	厚さ	重量	観 祭
1	S I 014	すり石		8.8	7.3	7.0	605.0	上端に平坦な面を形成する。
2	S I 014	石 鉄	頁岩	2.9	1.0	0.4	1.1	片面に第一次制離面を残す。 基部は拆損している。
3	S I 014	すり石		12.4	7.0	5.0	694.0	一部平坦な面が形成される。

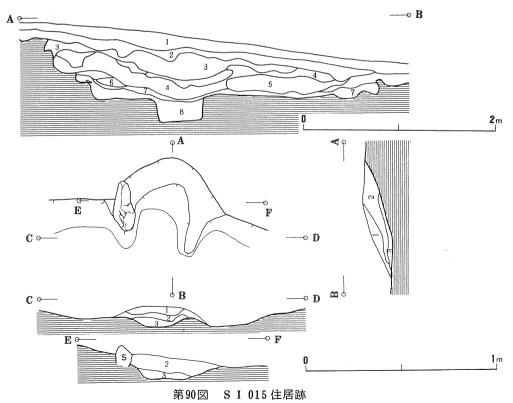
第84表 SI014住居跡出土遺物(鉄器)

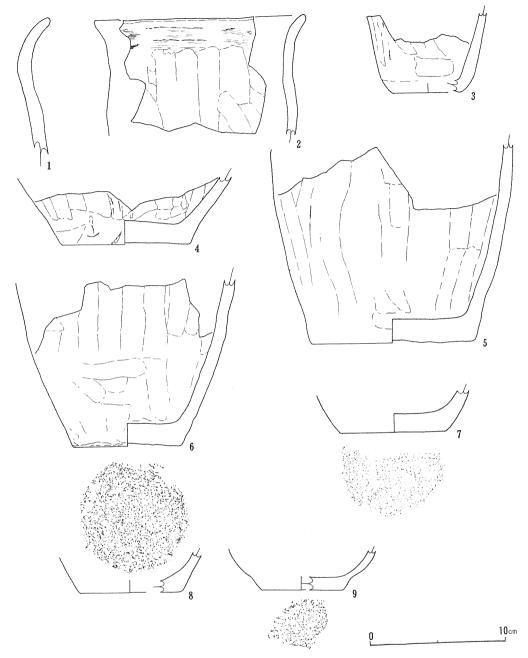
挿図番号	出土地点	뀲	榧	ät	M	値	観	祭
4	S I 014	小	IJ	最大長7. 背部厚0.	5, 3 45,	刃部幅1.5 重量11.4	刃部先端を欠失、 部が僅かに残る。	基部に木質

### 第85表 S I 015住居跡観察表

			S 1015住居跡		挿 図	90, 91	
			010101212100		図 版	20, 58	
検	出	区	11M, 11N, 12M, 12	N			
			東 壁	西	壁	南 壁	北 壁
法	壁	長	3.71 m	bless of the second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second sec	2.53 m	3.16 m	3.29 m
	壁	高	28.0~45.5cm	8.0~	22.0cm	10.0~15.0cm	26.0~47.5cm
	周湋	<b></b> 場幅		-	NAME OF THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OWNER, WHEN THE OW		
Ī	周澤	<b></b> 紫深	~~~			ampioreza alenda.	
	面	積	9.06m²				
覆		1	2.10YR% 黒褐色         4億か         3.10YR% 黒褐色         4.10YR% 暗褐色         目立つ         5.10YR% 暗褐色         をなす         6.10YR% 黒褐色         7.10YR% 黒褐色         8.10YR% 褐色	稍粘質 孔 稍粘質 孔 稍粘質 孔 稍粘質 孔 稍粘質 孔 粘性 弱 孔 粘性 極大	<ul><li>隙 隙 隙 隙 隙 隙 隙 水 大 大 中 小 大 ポーパー ポート ポート ポート ボード (本)</li></ul>	ス多く混入 径3mm以上 ス量最も多い 径1mm以	する パミス混入量極の大きな粒のものが
	壁		床面に対する傾斜は97	~12°の章	色囲にある 		
周		溝	検出されなかった				
ٰ	"7	۱	P ₁ 56.5×89×26.0 何	であるかに	は不明 この	の内より多数の土師器片	が出土している
	位.	置	南壁 西寄り				
カマ	覆	土	, ,	粘性弱 孔	隙小 色調	土粒を僅かに含む パミ は3と漸移する パミス 周は下層程赤味を増す	
ド	-		袖の部分の芯材として カマド内より数点の土			いた	-
		老	   形はいびつで整ってい				







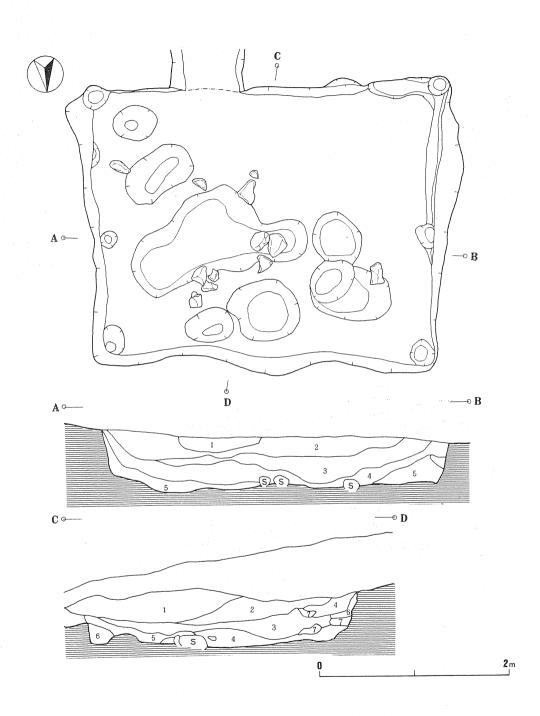
第91図 S I 015 住居跡出土遺物

第86表 SI015住居跡出土遺物

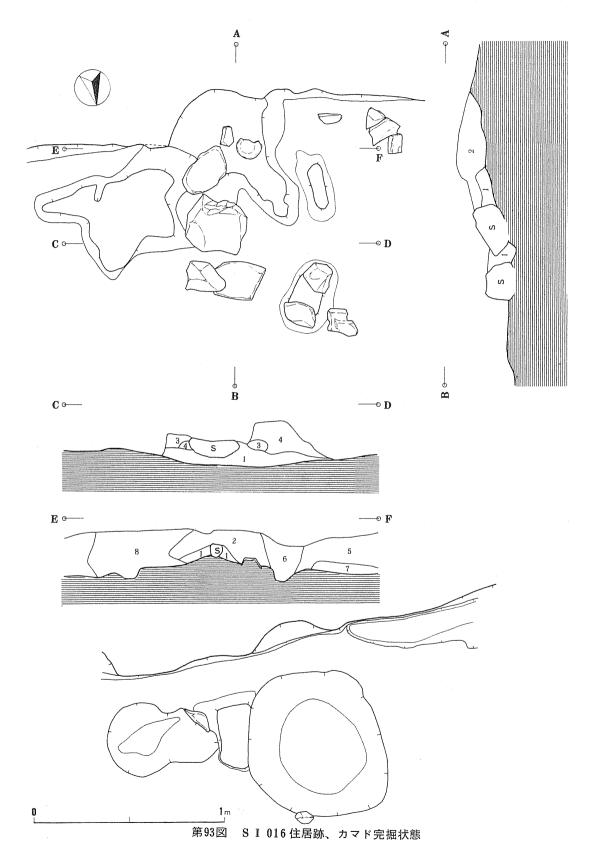
挿図		50 V.	and the	i	# 1	it (cm)		週	8 (地 文)	成形	色 調	胎士	燒成
番号	出土地点	器形	部位	口径	体径	底径	器高	外 面	内 面				
ī	S I 015	-14	口綠部					横位ナデ、縦位ケズリ	横位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R 5/4)	僅かに砂粒含む	且
2	S I 015	1.00	口線~胴部					横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄檀色(10YR列)	僅かに砂粒含む	良
3	S I 015	4)6	206 148		-			縦位, 横位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	灰褐色(7.5YR%)	僅かに砂粒含む	良
-4	S 1 015	糠	制部~底部	-	İ	9.4		超位ケズリ	斜位、横位ケズリ	抗み上げ法	にぶい橙色(7.5Y R 写)	僅かに砂粒含む	良
5	S I 015	#	胴部~底部		i	12.2		程位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10 Y R 汚)	僅かに砂粒含む	良
6	S I 015	- SE	制部一底部					総位、横位ケズリ、砂底	軽位、斜位ケズリ	植み上げ法	浅黄橙色(10YR男)	僅かに砂粒含む	良
7	S I 015	排	底 部					砂底、ケズリ	ナデ	積み上げ法	にぶい黄褐色(10YR钙)	僅かに砂粒含む	良
8	S I 015	糠	底 部		<del> </del>			程位、斜位ケズリ	横位ナデ、砂底	権み上げ法	にぶい黄橙色(10 Y R ≶)	僅かに砂粒含む	良
9	S I 015	糖	庭 部						横位、斜位ケズリ、砂底	積み上げ法	にぶい黄檀色(10Y R ½)	僅かに砂粒含む	良

# 第87表 S I 016住居跡観察表

SI016住居跡     挿図 92, 93, 94       検出区 8-0, 8-N       検出区 8-0, 8-N       車 壁 西 壁 南 壁 北       送壁長 2.87 m 3.05 m 3.86 m       壁高 40.8~62.2cm 13.7~44.7cm 19.0~31.8cm 42.5~       周溝幅 — 3~16cm 13~20cm —       面積 11.17 m²       主軸方位 N-3.5°-E     形態 方 形       I 1 10 Y R ½ 黒褐色 粘性弱径1~2 mm程度のバミス多量に混入 2.10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1~2 mm程度のバミス 3 量に混入 3.10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1~2 mm程度のバミス 5 会む ローム粒多く含む に混入 3.10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミス多く含む ローム粒多く含む 混入 5.10 Y R ¾ にぶい黄褐色 粘性強 バミスを多量に含む部分が層内に点在しる.10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱径1 mm程度のバミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性明 バミスほとんど混入しない 南壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった 床面に対する角度は96.5°~106°の範囲にある	
検 出 区     8-0,8-N       東 壁 西 壁 南 壁 北       法 壁 長     2.87 m     3.05 m     3.86 m       壁 高     40.8~62.2 cm     13.7~44.7 cm     19.0~31.8 cm     42.5~       周溝幅     — 3~16 cm     13~20 cm     —       園溝深     — 6.3 cm     —     方 形       主 軸 方位     N-3.5° - E     形 態 方 形       1 . 10 Y R ½ 黒褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多量に混入2 . 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含むに混入3 . 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む混入 炭化物極混入5 . 10 Y R ¼ 褐 色 粘性強 パミス混入量少 ローム粒多量に混入 炭化物極混入5 . 10 Y R ½ 陽褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多量に含む部分が層内に点在し6 . 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含む 7 . 10 Y R ½ 黒褐色 粘性中 パミスほとんど混入しない 南壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	3.63 m -61.6cm             
東         壁         西         壁         北           法         壁         長         2.87 m         3.05 m         3.86 m           壁         高         40.8~62.2 cm         13.7~44.7 cm         19.0~31.8 cm         42.5~           周溝幅         —         3~16 cm         19.0~31.8 cm         42.5~           園溝幅         —         3~16 cm         13~20 cm         —           園溝深         —         6.3 cm         —         —           面積         11.17 m²         形態         方形           1.10 Y R ½         黒褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多量に混入         上混入           2.10 Y R ½         暗褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む に混入           表         10 Y R ½         福色 粘性弱 径 1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む 混入           表         10 Y R ½         暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多量に含む部分が層内に点在しる。10 Y R ½ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェム粒多く含む フェムなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのなどのな	3.63 m -61.6cm             
法     壁     3.05 m     3.86 m       壁     高     40.8~62.2cm     13.7~44.7cm     19.0~31.8cm     42.5~       周溝幅     —     3~16cm     13~20cm     —       量     周溝深     —     6.3cm     —       直     11.17m²      下     態     方     形       主     1.10Y R ½     黒褐色 粘性弱 径1~2 mm程度のパミス多量に混入     2.10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径1~2 mm程度のパミス多量に混入     2.10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含むに混入       3.10Y R ¾     磁     色     粘性強 パミス混入量少 ローム粒多量に混入 炭化物極混入       5.10Y R ½     にぶい黄褐色 粘性強 パミスを多量に含む部分が層内に点在しる・10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含む ローム粒多く含む ア・10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含む ア・10Y R ¾ 暗褐色 粘性神 パミスほとんど混入しない       麻壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	3.63 m -61.6cm             
壁 高     40.8~62.2cm     13.7~44.7cm     19.0~31.8cm     42.5~       周溝幅     —     3~16cm     13~20cm     —       面 積     11.17m²     —     6.3cm     —       主軸方位     N—3.5°—E     形態     方形       1.10Y R ½ 黒褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多量に混入 2.10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1~2 mm程度のパミス多量に混入 に混入       3.10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む に混入 に混入       4.10Y R ¼ 褐色 粘性強 パミス混入量少 ローム粒多量に混入 炭化物極混入 にぶい黄褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多量に含む部分が層内に点在し6.10Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含7.10Y R ½ 黒褐色 粘性中 パミスほとんど混入しない       麻壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	-61.6cm 
周溝幅	一厶粒多量
量周溝深—6.3cm—直積11.17m²形態方形主軸方位N-3.5°-E形態方形1.10YR½黒褐色 粘性弱径1~2mm程度のパミス多量に混入 に混入 3.10YR¾暗褐色 粘性弱径1~2mm程度のパミス多く含むローム粒多く含むに混入 は混入 3.10YR¾福褐色 粘性弱径1mm程度のパミス多く含むローム粒多く含むローム粒多く含む (混入 3.10YR¾2.10YR¼石 (混入 (混入 (混入 (混入 (混入 (工)))15.10YR¼にぶい黄褐色 粘性強パミスを多量に含む部分が層内に点在しる (10YR¾ (暗褐色 粘性弱径1mm程度のパミスを多く含むローム粒多く含む (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ (10YR¾ 	
面積     11.17㎡       主軸方位     N-3.5°-E     形態     方形       1.10YR½     黒褐色 粘性弱径1~2mm程度のパミス多量に混入2.10YR¾     暗褐色 粘性弱径1~2mm程度のパミス多量に混入5.10YR¾       3.10YR¾     暗褐色 粘性弱径1mm程度のパミス多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多量に混入場入量少ローム粒多量に混入炭化物極混入5.10YR¾       5.10YR¾     にぶい黄褐色 粘性強パミスを多量に含む部分が層内に点在し6.10YR¾       6.10YR¾     暗褐色 粘性弱径1mm程度のパミスを多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多く含むローム粒多ん含むローム粒多く含むローム粒色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色色	
主軸方位     N-3.5°-E     形態     方形       1.10YR½     黒褐色 粘性弱 径1~2mm程度のパミス多量に混入 2.10YR¾     暗褐色 粘性弱 径1~2mm程度のパミス1より多量に混入 口に混入 3.10YR¾     暗褐色 粘性弱 径1mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む ローム粒多く含む ローム粒多く含む 混入 5.10YR¼     福色 粘性強 パミス混入量少 ローム粒多量に混入 炭化物極 混入 5.10YR¾     にぶい黄褐色 粘性強 パミスを多量に含む部分が層内に点在し6.10YR¾     暗褐色 粘性弱 径1mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含 7.10YR¾     無褐色 粘性中 パミスほとんど混入しない 南壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	
1. 10 Y R ½ 黒褐色 粘性弱 径 1 ~ 2 mm程度のパミス多量に混入 2. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 ~ 2 mm程度のパミス 1 より多量に混入 ローに混入 3. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む ローム粒多く含む ローム粒多く含む セーム粒多く含む セーム粒多量に混入 炭化物極 混入 5. 10 Y R ¼ にぶい 黄褐色 粘性強 パミスを多量に含む部分が層内に点在し6. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含む 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含 7. 10 Y R ½ 黒褐色 粘性中 パミスほとんど混入しない  中壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	
2. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 ~ 2 mm程度のパミス 1 より多量に混入 ローに混入 3. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミス多く含む ローム粒多く含む セーム粒多く含む セーム粒多く含む セーム粒多く含む セーム粒多く含む はん 10 Y R ¼ にぶい 黄褐色 粘性強 パミスを多量に含む部分が層内に点在しる。10 Y R ¾ 暗褐色 粘性弱 径 1 mm程度のパミスを多く含む ローム粒多く含 7. 10 Y R ¾ 黒褐色 粘性中 パミスほとんど混入しない 南壁の一部は溝によって切られているため検出できなかった	
Apr .	区く僅かに ている
床 多数の掘り込みが認められたが何であるかは不明	
周 溝 西壁の南側半分と南壁の西隅にわずかに見られるだけである。他の面には検とが出来なかった。	出すること
ピット       P1 19.5×22×41.2 南西隅 柱穴         P2 17×25.5×25.5 西壁中央付近 柱穴         P3 24×27×31.1 北西隅 柱穴         P4 22×31×36.3 北東隅 柱穴         P5 18×18×6.8 東壁中央付近 柱穴         P6 25×26×34.2 南東隅 柱穴	
位 置 南壁 西寄り	
カカ     1.10YR¾ 暗褐色 粘性弱 焼土粒多量に混入       2.2.5YR% 明赤褐色 粘性弱 径1~10mm程度の焼土粒を多く含む焼土層       3.10YR% 黄褐色 粘性弱 パミス・ローム粒多く混入       4.10YR¼ 褐 色 粘性強 粘土質パミス多少含む       5.10YR¾ 暗褐色 粘性中 焼土粒を多く含む	
6. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性中 焼土粒 パミス多量に含む       7. 10 Y R ¾ 暗褐色 粘性神 焼土粒 パミス多量に含む       8. 10 Y R ¾ 褐 色 粘性中 径0.5~1 mm程度のパミス多量に含む       神の部分の芯材として河原石が用いられている	
カマド内より土師器底部一片その他数点出土している	
遺 物 南東側より出土している	
備 考 この住居跡は溝跡によって切られている。なお、この溝が何であるかは不明で	

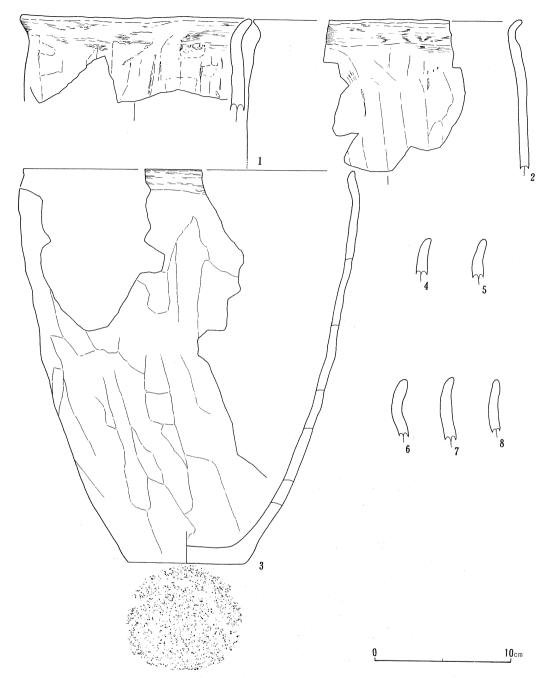


第92図 S I 016 住居跡



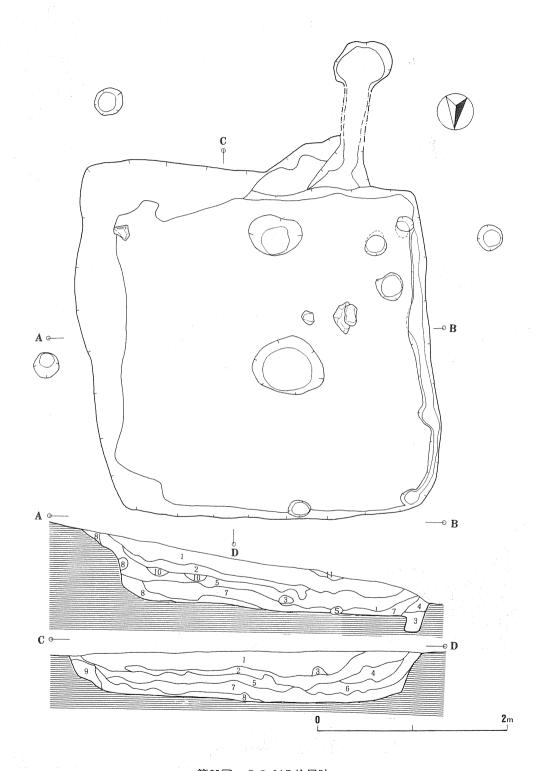
# 第89表 S1017住居跡観察表

			- (047/2 E3 DA		挿 図	95, 96,	97	
			S1017住居跡		図 版	21		
検	出	区	12-0, 13-0, 12-1	P, 13—P				
			東壁	西	壁		南 壁	北壁
法	壁	長	3.85 m	Ç	3.46 m		3.63 m	3.59 m
	壁	高	67.1~74.9cm	11.8~1	14.4cm		39.1~49.0cm	19.3~57.8cm
	周清	<b>非</b> 幅		5.0~1	17.0cm			
量	周清	<b>辈深</b>		6.9~1	12.3cm			
	面	積	13.54 m²					
È	軸方	位	N −2.5° − E			形態	方 形	
覆		±.	3.2.5 Y % オリーブ 4.10 Y R % 黒褐色 料 5.10 Y R ¾ 暗褐色 料 6.10 Y R ¾ 暗褐色 料 7.10 Y R ¾ 黒褐色 料 8.10 Y R ¾ 黒褐色 料 9.10 Y R ¾ 褐 色 料 10.10 Y R ¾ 黒褐色 料 11.10 Y R ¾ 黒 色 料	古性強 硬くし 古性強 硬ローミス 古性強 呼いました 古性強 孔隙 引 古性強 孔隙 引 古性強 孔隙 引	まってい 、温 ス は まってい で 壁 と 思 ま と 思 ま こ ま 。 と 思 っ に り ま の に り ま り ま り ま り ま り ま り ま り た り ま り た り た	る パミ	ス極く僅かに混入	
	壁		床面に対する傾斜は105	~116°の範囲	围にある			
周		溝	西壁側にのみ検出する。	ことが出来た				
ť	<u>.</u>	ŀ	P ₁ 17×24×12.7 北壁 他の柱穴は検出するこ 床面中央のピットは何	とが出来なか	った	る		
	位.	置.	南壁 西寄り	- And Andrews Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control of the Control				
カマド	糉	土	6.10 Y R ½ 黒褐色 7.10 Y R ¾ 暗褐色 8.10 Y R ½ 黒褐色 9.10 Y R ½ 褐 色 10.7.5 Y R ¾ 極暗褐 11.10 Y R ¼ 褐 色 12.10 Y R ¼ 褐 色 13.10 Y R ½ 黒褐色 袖の部分の芯材として	粘性性弱明 化基格性性 化基格性性 化二甲基甲甲甲甲甲基甲甲甲甲甲基甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	中(小ト、小小小小隊小大小   さ道が焼幣ミミニ土土焼焼小10径径 れ部ミエ土 焼 Y112   てを立ると、地では、大小   さ道では、大小   さ道では、大小   さ道では、大小   さんぱい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんかい   でんがい   でんかい   でんかい   でんかい   でんがい   でんかい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい   でんがい	を1.更くw 多含粒%~2gmgの含多く僅僅 に埋口褐ノノーた検出がか 造煙 に関いる こかりに しょうしん	に含む っている焼土層 に含む 10 Y R % を いに含む し入 道部形成土と考えら 一ムを含む 煙道部別 色土を40%位含む ミス 単のに含む 支脚と思われる河 出することができ	場色土の混入が見られる っれる ら成土と考えられる 原石も検出された。カマなかった。煙出孔の部分
備		考	北東隅とり屋根に使用	したと思われ	る,カヤ	か何かの		

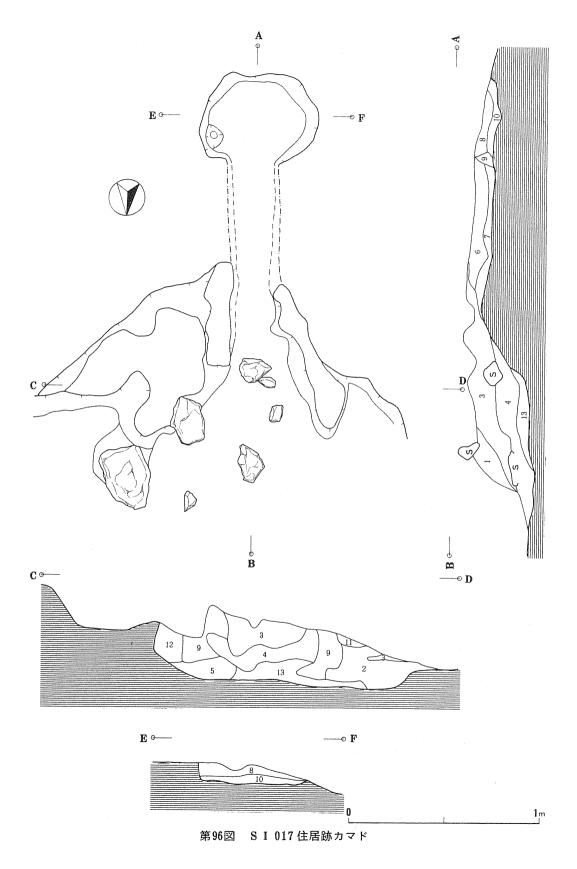


第94図 SI016住居跡出土遺物 第88表 SI016住居跡出土遺物

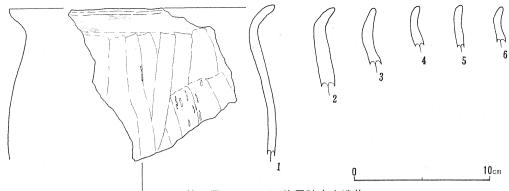
挿図	94 + 86 di	土地点 器形 部 位			法 量 (cm)			調整	(地 文)	Ι	T	1	T
番号	III Jungan,	68717	BP 197.	口径	体径	底径	器高	外 面	内 面	成形	色 調	胎生	焼成
1	S I 016	甕	口縁~胴部	17.2				横位ナデ、模位、斜位ケズリ	横位ナデ、横位、斜位ナデ	積み上げ法	にぶい程 (7.5 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	19 67
2	S I 016	褒	口絲~胴部	20.0				横位ナデ、梃位、斜位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ		にぶい位 (7.5YR分)	僅かに砂粒含む	B
3	S I 016	装	口禄~嗣部	24.9	25.5	8.7	29.3	横位ナデ、軽位ケズリ	横位、斜位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10YR另)	僅1mm程の砂粒多く含む	B
4	S I 016		口枝					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、横位ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	B
5	S I 016	甕	口科					横位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	灰白 (7.5 YR%)	僅かに砂粒含む	A
6	S I 016	蒌	口枝					横位ケズリ、横位ナデ	積み上げ法	積み上げ法	にぶい黄橙 (10YR另)	僅かに砂粒含む	Ř
7	S I 016	装	口枝					横位ナデ、枢位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	にぶい褐色(7.5Y R %)	僅かに砂粒含む	B
8	S I 016	題	口禄					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ		浅黄橙 (10Y R 55)	僅かに砂粒含む	A



第95図 S I 017 住居跡



— 358 —



第97図 S I 017住居跡出土遺物

第90表 SI017住居跡出土遺物

排図							AT 11.	法	H	量 (cm)			器 整 (地 文)			成 形	f6 (8)	胎 土	焼成
番号	出土地点	器形	部位	口径	体径	底径	器高	外	ifti	内	ifti	11. 17							
1	S I 017	鉄	口禄~嗣部	(19.7)				横位ナデ,	軽位ケズリ	横位ナデ		権み上げ法	におい黄橙色	(10 Y R %)	僅かに砂粒含む	<u>A</u>			
2	S I 017	摄	日報部					構位ナデ,	斜位ケズリ	横位ナデ,	横位ケズリ	積み上げ法	灰黄褐色 (10	Y R 5()	僅かに砂粒含む	良			
3	S I 017	- 56	口線部					構位ナデ,	挺位ケズリ	横位ナデ		積み上げ法	にぶい黄橙色	(10 Y R %)	僅かに砂粒含む	良			
4	S I 017	- 18	口株部					横位ナデ		横位ナデ		積み上げ法	灰褐色 (10Y	R%()	僅かに砂粒含む	Д			
5	S I 017	- 58	口接部					横位ナデ		横位ナデ		積み上げ法	楊灰色(10 Y	R%)	僅かに砂粒含む	良			
6	S I 017		口株部		-			横位ナデ		微位ナデ		積み上げ法	庆黄褐色 (10	Y R 59)	僅かに砂粒含む	Д			

P 323→

が、僅かに残っている部分の観察によれば厚さ4mm以上はあるようである。側板は最も厚い箇所で7mmを測るが、これも残存状態は悪い。ただ2の側板には桜皮によると思われる綴じ穴が観察される。内部に充塡している米は糊状のものによって固結されており、側板・底板と接した部分では、欠落した側板の痕跡が明瞭に残っている。

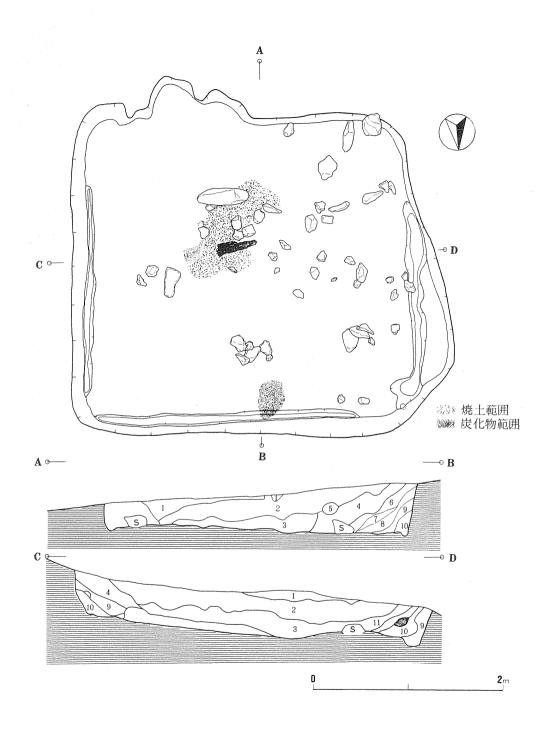
3 はおにぎり状に固結した炭化米である。最大径が65mm程あり、最大厚は30mmを測る。中央部がやや薄くなる。1~3とも米は糊状のものにより固結しているのであるが、米が熱処理を受けて飯の状態になったものかとも思える。

図版52中段右は稲藁によって編まれたと思われる筵状の製品である。横に配した藁を幅23mm程の間隔で2箇所2本の藁で撚り合わせている。この筵状製品はその出土状態が炭化した板材の上となっており、そのような板材の上に敷かれたものか、若しくは周囲の炭化米や炭化豆類の出土状況と合わせて考えて見て、本来叭のような働きをした製品であった可能性もある。

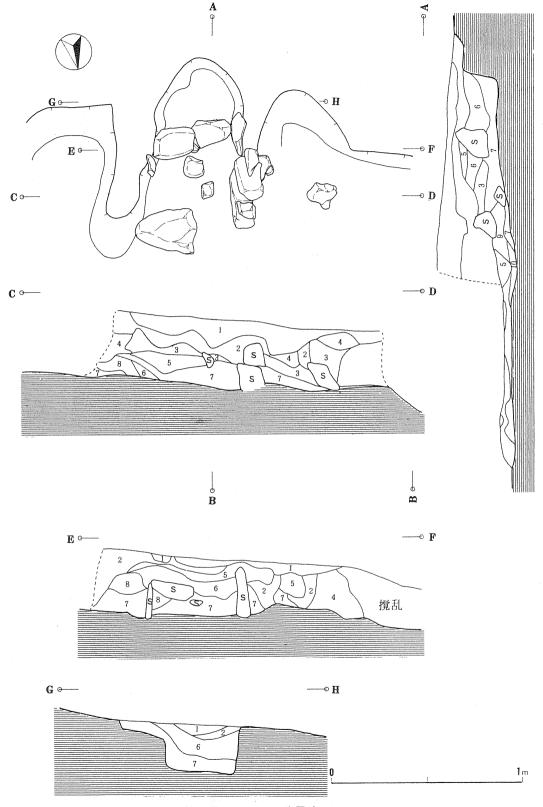
バラの状態で出土した炭化米の総量はおよそ8ℓ,豆類はおよそ5ℓ程度ある。炭化米の各粒は殆ど大きさに変りはないが、豆類では大豆程の大きさのものから小豆程のものまで変化があり、何種類か混じっているように思える。→P364

# 第91表 SI018住居跡観察表

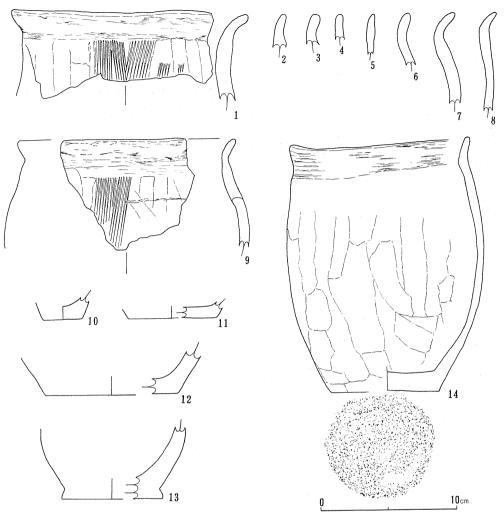
				35 J 1 1 2 C	1010127				
			C 1010 & P P+		挿 図	98, 99,	100		
			S1018住居跡	•	図版	22, 23,	60		
検	出	X	13R, 13S						
			東壁	西	壁	P	· 壁	北 壁	
法	壁	長	3.48 m	3	.38 m	The state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the s	3.73 m	3.78 m	
	壁	高	37.5~61.0cm	7.0~2	6.0em	11	.5∼37.5cm	24.0~63.5cm	
	周禕	<b>哮幅</b>	5 ∼11.5cm	10.0~3	2.0cm			6.5~12.0em	
E.	周禕	<b>辈深</b>	1.0~3.0cm	4.0~1	7.5cm			1.0~6.0cm	
	面	積	12.78m²	. 1					
主	岫 方	位	N — 8 ° — W			形態	方 形		
覆	壁	±.	2. 10Y R % 黒褐色 3. 10Y R % 黒褐色 4. 10Y R % 黒褐色 5. 2.5Y % 黒褐色 * 6. 10Y R % 赤褐色 7. 10Y R % 赤褐色 8. 10Y R % 黒褐色 9. 10Y R % 黒褐色 10. 10Y R % 黒色 11. 10Y R % 褐色 11. 10Y R % 褐色	粘性性弱 全体に 生性弱 全体に 大性弱 全体的 に褐色 化性弱 粘性性弱 土土 土土 土土 土土 土土 土土 土土 土土 土土 土土	しパパパ リスミン リスに リスに リスに リスに リスに リスに リスに リスに リスに リスに	いる 20~ 記入鬼で入場で 記入鬼で 記入鬼で 記入鬼で 記入鬼で 記入 記入 記入 記入 記入 記入 記入 記入 記入 思 で び る は る し る は る し る は る し る は る し く と う と う と う く と う く と う く と う く う く う	25%のパミス語 化物僅かに混み :を40~45%含む れたものと思う	LT.	
	床		床面に対する角度は95 広範囲にわなって焼土			· - hl+	この住居址が焼	失したためと思われる。	
周		溝	南壁以外のすべての壁						
t°	·y ·	<u> </u>	検出されなかった						
	位	置	南壁 東寄り	<u> </u>					
カマド			8 . 10 Y R % 黄褐色	粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙水	: : 大 : : : : : : : : : : : : : : : : :	以下のパミな板でのパミな板のに混かい値がに硬かいに硬いに硬いに硬がに硬がに強いに進いがに強いに混りがに混りがに混りがに混りができる。	ス僅かに混入 に混入 ス僅かに混入 入 焼土層 焼土層 ス極く僅かに ス 入 入する炭化物層	ローム粒多量に混入 て硬い 記入 ローム粒多量に混入 焼土粒極く僅かに混入	
			右袖は何らかの撹乱に 煙道部はわずか70cm程	よって検出でき しかない。	きなかった	こが、芯材	としての河原石		
遺		物	主な遺物は土師器でカぶれて出土している。					80cmの範囲に一個体分つ	
備		考	く変色したり, もろく から炭化材・土師器な	くずれやすくな どが多く出土し	なったり割 した。	引れやすく	なったりしてい	付近のものは熱を受けるた。カマド付近及び内部 土器片などが検出された	



第98図 S I 018 住居跡



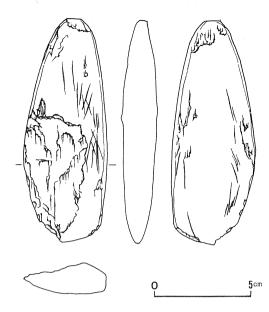
第99図 S I 018 住居跡カマド



第100図 SI018住居跡出土遺物

## 第92表 SI018住居跡出土遺物

神図		22 F3	86 (t).	ì	± 1	d (cm)		調整	(地 文)	成形	色 淵	略 ±	姚成
番号	出土地点	8# #S	(F) 197.	口蓬	体径	底 径	器高	51 (fú	内 値	24, 117	C 1949	71.1	1
1	S I 018	鉄	口線~脚部	(14.8)				構位ナデ、縦位ハケ目、 縦位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	橙色 (7.5 Y R%)	僅かに砂粒含む	良
2	S I 018	鉄	口線部	(16.3)				横位ナテ	横位ナデ	積み上げ法	淡黄色 (2.5 Y %)	極く僅かに砂粒含む	А
3	S I 018	號	口择部					横位ナデ, 斜位ケズリ	構位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 列)	僅かに砂粒含む	良
4	S I 018	퓇	口絲部					横位ナデ、横位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R 写)	極く僅かに砂粒含む	良
5	S 1 018	鉄	口線部					横位ナデ, 斜位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10YR列)	極く僅かに砂粒含む	良
6	S I 018	鉄	口铁部					横位ナデ、斜位ケズリ	横位ナデ	積み上げ法	橙色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
7	S I 018	號	口袜~胴部					横位ナデ、縦位ケズリ	横位ナテ、縦位ケズリ	積み上げ法	淡黄色 (2.5 Y 好)	僅かに砂粒含む	良
8	S I 018	鉄	口線~期部					横位ナデ, 斜位ケズリ	構位ナデ	積み上げ法	位色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
9	S I 018	僆	口縁~期部					横位ナデ、縦位ハケ目、 縦位ケズリ	横位ナデ、縦位ケズリ	積み上げ法	位色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	Д
10	S I 018	鉄	践 部			2.8		ケズリ	ケズリ	積み上げ法	灰白色 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	Д
11	S I 018	鐰	底 部			(6.6)		ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい橙色 (5 Y R %)	僅かに砂粒含む	良
12	S I 018	號	底 部			(9.8)		ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙 (10Y R 列)	僅かに砂粒含む	Ą
13	S I 018	鉄	底 部			(7.7)		ケズリ	ケズリ	積み上げ法	にぶい黄橙色 (10Y R ½)	僅かに砂粒含む	Д
14	S I 018	鉄	口禄~底部	13.4	14.6	8.1	18.4	横位ナデ、縦位ケズリ、 砂底	横位ナデ	積み上げ法	にぶい黄橙 (7.5 Y R ¾)	径1~3mm程の砂粒 を含む	良



第93表 SI018住居跡出土遺物(石器)

挿図番号	出土地点	器	種	石	質	長さ(縦)
1	SI 018	磨製	石斧	縁泥	片岩	11.8

幅(横)	厚さ	重	量	観	察
4.5	1.7	12	6.3	製作時の研磨は, 面を残す。刃部の く, 剝落部も使用	磨耗は著し

#### 第101図 SI018住居跡出土遺物(石器)

P 359→

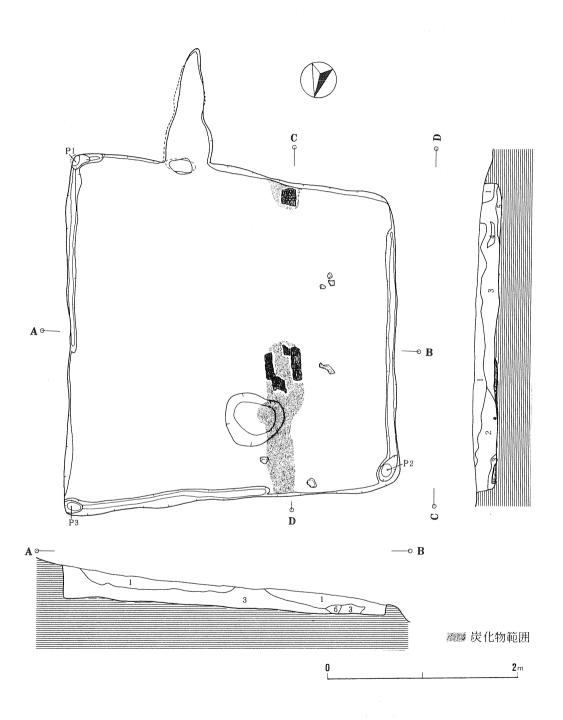
鉄器は、所謂穂摘具とされている製品、鉄鏃、鉄斧、小刀等が出土している。その他使用法の判然としない鉄製品も何例が出土している。

石器としては砥石があげられる。殆どが角柱状に研磨された砥面をもつが、第14号住居跡出 土例のように楕円形の扁平な自然礫の表裏面、両側面に僅かに砥面としての使用面を残すもの がある。角柱状に整った砥石も本来はこのような比較的軟質の石を選び、使用以前の整形を行 わずに砥石として用いられた結果出来た可能性を示唆する資料である。

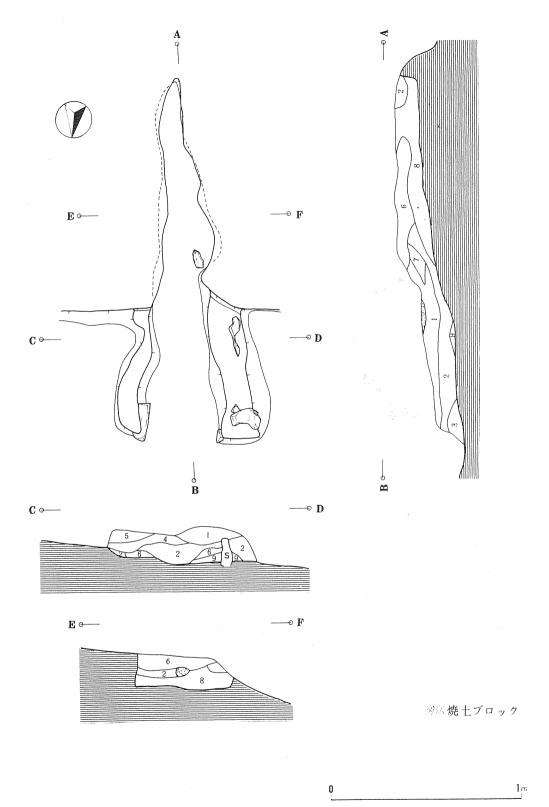
その他、平安時代の住居跡内から磨製石斧の出土例もある。どの例も床面に近い覆土中から出土しており、簡単に混入したとは言い切れない。鉄斧は第10号住居跡出土の1例のみであるため、鉄斧の代用として磨製石斧を使用した可能性もあながち否定出来ないように思える。

### 第94表 S I 019住居跡観察表

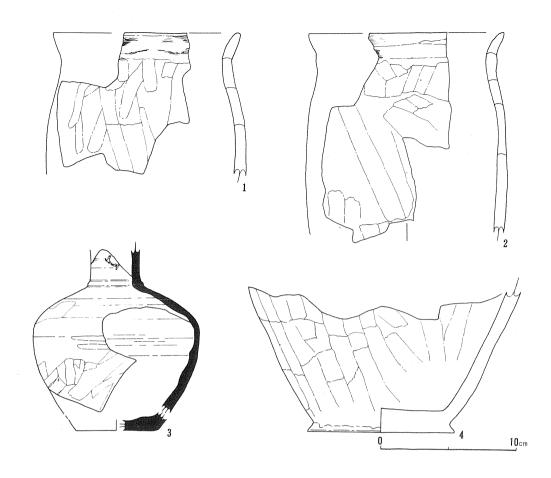
					挿 図	01, 102	2, 103					
			S1019住居跡		図 版 23, 24, 61							
検	出	X	15 S									
			東壁	西	壁	i	有 壁	北壁				
法	駐	長	3.83 m	3	3.13 m		3.50 m	3.54 m				
壁		高	33.0~39.1cm	10.2~	18.1cm	10	).2 ~37.1cm	18.3~30.7cm				
	周澤	弉幅	5 ~ 9 cm	6 -	~ 9 cm		5 ~ 7 cm	6 ∼ 9 cm				
量	周泽	<b>非深</b>	1.5~5.0cm	3.8~	-9.8cm		5.9cm	3.5~9.4cm				
	面	積	12.41 m²									
È	軸方	位.	N — 5 ° — E	SCALE AND STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF THE STATE OF		形 態	方 形					
覆		土	1 . 10Y R ½ 黑褐色 2 . 10Y R ¾ 黑 色 3 . 10Y R ¼ 黑 色 量に含 4 . 10Y R ½ 黑褐色 5 . 10Y R ¾ 暗褐色 6 . 10Y R ¼ 褐 色	粘性小 孔隙中 粘性小 孔隙; む 粘性小 孔隙; 粘性大 孔隙;	□ 径1mm以 大 ぼそぼそ こ 径1~2 、径1~2	下のパミ してい mmのパミ mmの石を	: スを含む 少量の る 径 3 ~ 4 mm以「 : ス塊 : 含む ロームが多	下のパミス及び炭化物多				
	壁		床面に対する傾斜は91 西側の壁の保存状態は			とは認め	られなかった。					
	床		床面はそれ程に平らで	はなく, 礫や	石を多く含ん	んだロー	・ムででこぼこして	いた				
周		溝	すべての壁面に見られ 検出されなかった。	るが南壁面は	東隅に極く	僅か, 東	壁面及び北壁面は	約半分ずつぐらいしか				
Ŀ"	'n	ŀ	P ₁ 10×15×26.0 南東 P ₂ 15×31×12.0 北西 P ₃ 13×19×22.4 北東 南西隅よりのピットの	[隅 柱穴 [隅 柱穴	かった。							
	位	置	南壁 東寄り									
			1.10YR¼ 褐 色	粘性中 孔隙大	こパミス・	炭化物·	ローム粒極く僅か	・に混入 焼土多量に混				
カマ	覆	<b>±</b>	入 2. 10 Y R ½ 暗褐色 3. 10 Y R ½ 黒褐色 4. 10 Y R ½ 黒褐色 5. 10 Y R ½ 黒褐色 6. 7.5 Y R ½ 黒褐色 と思う	粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性弱 孔隙大 粘性大 孔隙	こ パミス極 こ パミス始 こ パミス多	く僅かに ど含ます く含む	:混入 炭化物層 [*] 径1mm以下のロ 径1mm以下のロー	ーム粒多量に含む				
l.			7. 10YR½ 黒褐色 8. 10YR½ にぶい〕 9. 10YR¾ 暗褐色	粘性弱 孔隙大 黄褐色 粘性大	孔隙小 パ	ミス殆と	含まず ローム粒	多く混入				
1.				好で,カマド	油の部分,	聖道天井		)形をとった。また検出。 *ットは楕円形でかなり				
遺		物	遺物はカマド周辺及び の土器と思われるもの 鉄器一片が左袖左側の	が折りかさな。	って出土し	ている。	る。煙出し孔と思	見われる部分に同一個体の				
備		考	床面には広い範囲に炭 られる炭化材も検出さ 明のピットが認められ	れた。また少れ	る。その中に 量ではある;	こは厚さが, 焼土	3~4 cmで壁材と :範囲も認められた	して用いられたと考え :。床面北側より性格不				

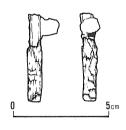


第102 図 S I 019 住居跡



第103図 SI 019 住居跡カマド





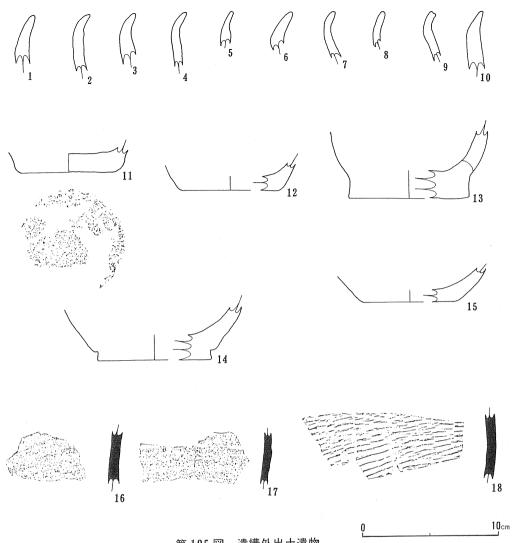
第104図 SI 019住居跡出土遺物

## 第95表 SI019住居跡出土遺物(1)

								-										
挿図 番号	挿図 出土地点	器形	ac.	14		法	H	(cm)			119	<b>9</b> 75	(地 文)					
番号	th Tracky	62-11>	iii)	197.	口径	体	径	廃径	器高	纤		thi	内	ihi	成形	色調	胎出	焼成
1	S I 019	漿	ci .	椒	14.0												僅かに砂粒含む	Д
2	S I 019	¥.	О	餱	14.5					横位ナデ、	梃位.	斜位ケズリ	横位ナデ,	梃位ケズリ	植み上げ法	浅黄檀 (7.5 Y R %)	僅かに砂粒含む	А
3	S I 019	壶	期部~	底部		(12	.6)			横位ナデ、	橫位,	斜位ケズリ	横位ナデ		種み上げ法	褐灰色 (10Y R 光)	精製された粘土を用い 個く僅かに砂粒含む	良好
4	S I 019	装	脏	äŝ				11.0		梃位, 斜位	ケスリ		斜位ケズリ	)	積み上げ法	(2.5(い位 (5 Y R 外)	砂粒を僅かに含む	É

## 第96表 SI019住居跡出土遺物(2)

	挿図番号	出土地点	器種		at-	JHJ	filti			ĐŲ.	紫
-	5	SI 019	不明	现存长4.6,	木質部径0.7、	釘部径0	.5×0.4,	重量3.9	断面円形の棒状木製品に、	断面方形,	中空の釘状鉄製品を挿し込んだもの。釘部に糸巻の痕跡有。



第105図 遺構外出土遺物

第97表 遺構外出土遺物

植図			70 Ata		法	Sit (	cm)		調		成形	<u>e</u> #	胎 北	焼成
番号	出土地点	器形	部位	口径	体径	底	淫	器高	外 面	内 面				
1	7 – L	ge.	口絲部						微位ナデ	横位ナデ、縦位ハケ目	植み上げ法	褐灰色 (10Y R 写)	僅かに砂粒含む	良
2	7 – P	136	口林部						横位ナチ	横位ナデ 横位ハケ目	積み上げ法	明褐色 (7.5Y R%)	僅かに砂粒含む	B
3	12 - P	436	口被部		<del>                                     </del>	1			横位ナデ	横位ナデ	積み上げ法	にぶい橙色 (5 Y R ¾)	僅かに砂粒含む	Ð
4	9 – T	3,6	口絲部			-			構位ナデ、縦位ナデ	横位ナデ	権み上げ法	にぶい橙色 (7.5YR写)	僅かに砂粒含む	FL
	6-0	糖	口禄部			+			横位ナデ	樹位ナデ	積み上げ法	にぶい褐色 (7.5YR好)	僅かに砂粒含む	15
5	9 0	596	口練部		-	+			横位ナテ	横位ナデ	権み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R 芳)	僅かに砂粒含む	1/f
- 6	5 - S	\$20 598	LI FR AL			-			描位ナテ	構位ナテ	植み上げ法	にぶい権色 (7.5 Y R 3)	僅かに砂粒含む	E
7			D 134 85			-			構位ナデ	権位ナテ	積み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R %)	僅かに砂粒含む	Ŗ
8	5 – S	装			-	-			横位ナデ	横位ナテ	植み上げ油	浅黄橙色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	U
9	11-0	鎌	口絲部		<del> </del>	-			横位ナテ	横位ナテ	植み上げ法	にぶい黄橙色(10Y R %)	僅かに砂粒含む	R
10	10- R	装	口練部		-	+-		-	ケズリ、砂底	ケズリ	植み上げ法	灰黄褐色 (10Y R %)	僅かに砂粒含む	T,f
11	12-R	装	底部	-	-	-	7.2	1	ケズリ調整後横位ナデ	横位ナデ	植み上げ法		僅かに砂粒含む	E
12	7	装	底部		-		7.4	1		ケズリ	植み上げ法		僅かに砂粒含む	B
13	7 P	號	底部	ļ	ļ	-	9.0	1-	ケブリ		植み上げ法		僅かに砂粒含む	13
14	7 - P	鎌	底部			(:	8.4	1	ケズリ	ケズリ			極く僅かに砂粒含む	f)
15	7 - P	杯	庭 部			(-	6.8	1	水挽き、回転糸切り	水挽き	植み上げ法		極く僅かに砂粒含む	
16	9 - Tu	號	<b>新部</b>	İ				<u> </u>	水挽き	水挽き	植み上げ法		機く僅かに砂粒含む	+
17	8 - H	鉄	制部						横位ナデ	総位ナチ	積み上げ法			
18	10 - P	额	嗣 部						印き目	ナデ	植み上げ法	褐灰色 (10Y R 写)	極く僅かに砂粒含む	良好

## 6. まとめ

案内Ⅲ遺跡は、縄文時代の竪穴住居跡及び土壙、平安時代の竪穴住居跡からなる複合遺跡である。遺跡内での各時期毎の遺構の配置を見ると、縄文時代の住居跡は南側へ向う台地の縁辺近くに構築され、同時代の土壙はその外側に位置している。このような住居跡と土壙の配置関係は縄文時代を通じて一般的に見られるが、県内では縄文時代前期の杉沢台遺跡、中期の大畑台遺跡等に顕著である。これらの遺跡では住居跡群は立地する台地の形状に即応して円形または弧状の配置をとり、土壙群はその外側を巡っている。一方本遺跡での平安時代の竪穴住居跡の配置を見ると、縄文時代の住居跡とは異り方形である為に各々の住居跡に一定の方向性はあっても、住居跡群全体としては地形に応じての配置形態をとらずに台地のより内側の平担面を利用して比較的雑然と構築されている感が強い。平安時代の竪穴住居跡49棟を検出した同じ鹿角市内の歌内遺跡でも台地全体の形状に照合して想定できる住居跡群の配置は地形に即応したものとはならないようである。本遺跡ではこのように縄文時代の遺構は地形に即応して台地のより縁辺部に、平安時代の遺構は地形に影響されずに台地内部に構築されるという複合の仕方をしている。同一台地内で平安時代の住居跡と縄文時代の住居跡が以上のような好対称を見せる遺跡としては北ノ林Ⅰ、北ノ林Ⅱ遺跡をあげることができる。

本遺跡の平安時代竪穴住居跡は焼失家屋と目されるものが多く、殊に第10号住居跡では夥しい炭化した遺材や米・豆等の植物遺存体が検出された。炭化した多くの遺材は同時代の住居の構造、構築法を知る上で大きな参考資料となるように思える。また、米・豆等の植物遺存体がかなりの量、一棟の住居跡内から出土したことは、この時代にこれらの植物がかなりの規模で栽培されていた事を思わせる事実である。また同じく第10号住居跡からは、鉄斧、鉄鏃、穂摘具等の鉄製品が出土しており、これなどは生産用具のセットを考える上での貴重な資料である。

その他,植物遺存体自体の分析,鹿角地方の遺跡では常に問題とされる大湯浮石層と竪穴住 居跡の関係については詳細な分析がなされている。これらも本遺跡調査で得られた大きな成果 であり、今後の調査・研究に役立つものと考える。

#### 参考文献

杉沢台遺跡·竹生遺跡発掘調査報告書 秋田県文化財調査報告書第83集 秋田県教育委員会 1981.3 大畑台遺跡発掘調査報告書 日本鉱業株式会社 1978

東北縦貫自動車道発掘調査報告書II「歌内遺跡」秋田県文化財調査報告書第88集 秋田県教育委員会 1982.3 東北縦貫自動車道発掘調査報告書II「北ノ林 I 遺跡」秋田県文化財調査報告書第89集 秋田県教育委員会 1982.3 東北縦貫自動車道発掘調査報告書W「北ノ林 II 遺跡」秋田県文化財調査報告書第90集 秋田県教育委員会 1982.3

## 調査参加者

綱木	四郎	井上 政治	奥村 一三	梅戸正次郎	川又 秀也
川又	武司	三ヶ田昌人			
豊田	よ里	浅石恵留子	相川 金子	川又 ヤエ	兎沢キヨエ
中西	リチ	相川 リヨ	賀川 政子	石鳥谷妙子	柳沢 ヤス
三ヶ日	日孝子	兎沢 キヌ	田中ヨシエ	木村サチ子	佐藤 ツマ
木村	敬子	木村 テル	作山 ミエ	苗代沢ノブ	津江 和子
金沢ノ	ハルエ	小田島礼子	畠山 陽子	阿部 シガ	小田島キク
斎藤キ	トヨエ	浅石 タミ	浅石 ナツ	井上トミエ	工藤 スミ
工藤	キヌ	工藤 イツ	阿部 シマ	佐藤 キエ	松岡トキヨ
高畑	サキ	阿部 シモ	三上 美子	三上 トョ	安保 柳
柳沢	ヤス	奥村 初恵			

# 付1. 案内Ⅲ遺跡平安時代住居跡覆土中の大湯浮石について

花田孝夫

### 1. 調査方法

各住居跡内の覆土より土層ごとに25cmづつの土を「soil sample」として鉄製の円筒により採収する。これを1mmのフルイを用い水洗いし残った火山灰の量により各々の住居の編年を求めようというものである。これは、火山灰降下時期によって住居跡の編年を決定できるような、浮石層をこの遺跡において認めることが出来なかったためである。

残念ながら、平安時代の竪穴住居跡13棟中5棟についてしか完全な資料採収が行われず、この5棟についてのみ行うことにする。

### 2. 大湯浮石層と遺跡

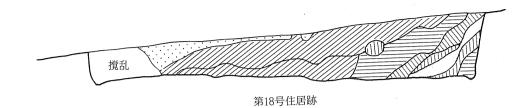
大湯浮石層は十和田火山が噴出源であるため「十和田 a 」とも呼ばれている火山灰である。 その分布は大館盆地の東側から十和田を中心に南北に分布し、さらに岩手県福岡、軽米、青森 県小川原湖の付近まで分布している。

大湯浮石層は、土師器を伴出する竪穴住居跡とのかかわりが強く、竪穴住居跡を覆うか、埋土中にブロック状に混入するように入っている。この火山灰の降下時期は、平安時代後半のことと考えられていることにより大湯浮石層より新しいか否かは遺構の構築された時期の特定の鍵となる。すなわち遺構が大湯浮石層、十和田 a 火山灰層を切っているか、それによって覆われているかは他の火山灰降下地域である青森・岩手の例と照らし合わせて、遺構や遺物のより細かな編年が可能となるとされている。

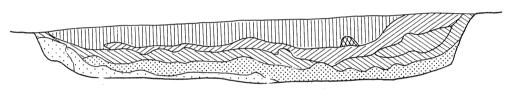
今回は住居跡覆土各層中に含まれる浮石量によってその編年が決定できるかどうか試みたものである。

#### 3. 堆積順位

各住居跡(第2号,第9号,第16号,第17号,第18号住居跡)内の覆土を浮石の含有量によって、少ない方より1から10まで分類し、それぞれスクリントーンで区別した(第1図)。これを基に、基本堆積順位を求めたのであるが、求めるにあたっては、鍵になる層が必要であった。ところが、全住居跡に共通する層が認められず、第2号、第16号、第18号住居跡については、3000を基準にし、それより上部の層と下部の層に分け3000を中心にして上下に推理できる範囲で並べてみた。次に第9号、第17号住居跡についても 3000 を基準に同様にし、さらにそれら2つを、3000 を基準にして並べ最終的には第2図のように決定した。

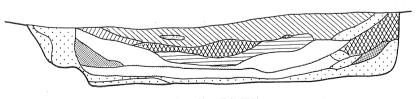


第16号住居跡



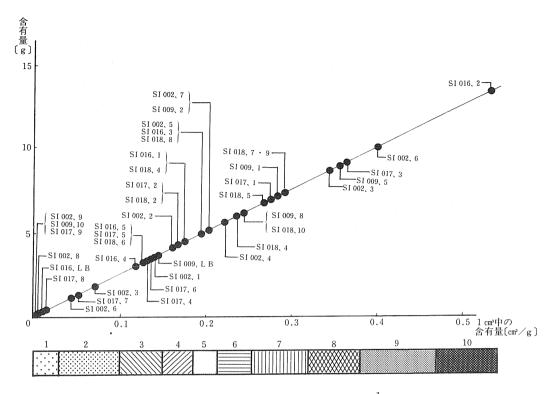
第17号住居跡



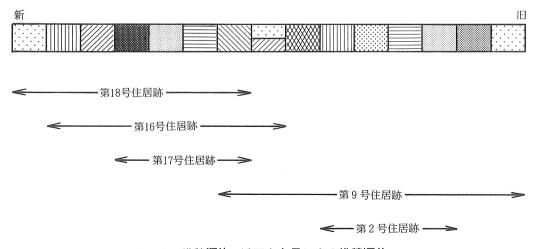


第2号住居跡

第1図 浮石の含有量分布



第2図 覆土各層の1cmm中 浮石含有量 (cmm/g)



第3図 堆積順位 浮石含有量による堆積順位

これによってもある程度までの編年は推理できる。

### 4. 大湯浮石の粒径

サンプリングした浮石をその直径によって5つに分類してみた。また粒径により小粒 $(1.0\sim 2.9\text{mm})$ ,中粒 $(3.0\sim 5.9\text{mm})$ ,大粒 $(6.0\sim 12.0\text{mm})$ とする。

- I. 第9号住居跡 :::: 径1.15~1.75mmの範囲にあり均一である。これは混入量が25cm²中僅かに0.1gと少なかったためと思われる。
- II. 第2号住居跡 (1.4~3.6mmの範囲,大きさほぼ均一,中粒以上の混入極く僅か。 第17号住居跡 (2.4~3.7mmの範囲,大きさほぼ均一,大粒の混入なし。

以上より、径1.15~3.7mmの範囲にあり大きさほぼ均一、中粒の混入僅か、大粒の混入なし。 5 6 9 径1.4~5.0mmの範囲、小粒が主体であるが中粒の割合も多い。 大粒混入なし。

第9号住居跡 ※ 径1.25~5.1mmの範囲、中粒僅かに混入、大粒混入なし。 第18号住居跡 ※ 径1.25~4.05mmの範囲、中粒僅かに混入、大粒混入なし。 以上より、径1.25~5.1mmの範囲にあり、小粒が主体である。中粒IIよりも多い。大粒の混入なし。

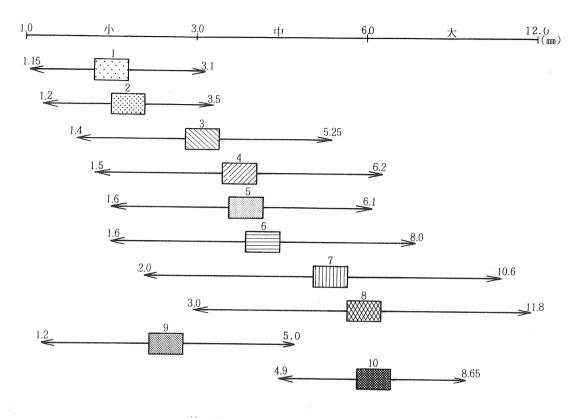
Ⅳ. 第9号住居跡
 第16号住居跡
 第17号住居跡
 経1.15~7.2mmの範囲、小粒から中粒が主体、大粒僅かに混入。
 第17号住居跡
 経1.15~5.85mmの範囲、小粒から中粒が主体、大粒僅かに混入。
 第18号住居跡
 経1.15~5.85mmの範囲、小粒から中粒が主体、大粒僅かに混入。
 第18号住居跡
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※
 ※</l

以上より、径1.15~7.45mmの範囲にあり、小粒から中粒が主体、大粒僅かに混入。
V. 第2号住居跡 20 径1.4~11.8mmの範囲、中粒以上が主体、大粒比較的多い。
第16号住居跡 21 径1.35~8.65mmの範囲、中粒以上が主体、大粒も多い。

以上より、径1.35~11.8mmの範囲にあり、中粒以上が主体をなしており大粒の混入量も多い。

次に、粒径と含有量の関係を図示すると第4図のようになり、これより言えることは、含有量が少ないものは径が小さく、多くなるにつれ径も大きくなっていくということである。これは、火山灰降下直後の浮石は、量も多く径も大きかったが、それが長い間に雨などにより流され量が減っていく過程で径が徐々に削られ小さくなっていったのではないかと推理できる。

つまり混入量の少ない時期の浮石は、永い間流されて来る間に粒が削られ小さくなり、さら に量じたいも流され減ってしまった。逆に混入量の多い時期は、まだ浮石全体が小さく砕かれ る程、またそんなに量が減る程火山灰降下後時がたっていなかったのではないかということである。



第4図 浮石の粒径と含有量

### 5. 遺構の編年

火山灰の降下時期以前に廃絶し、上屋構造の朽ちた住居跡では残存した凹みに火山灰のレンズ状堆積を認めることができる。しかしこの5棟については全くあてはまらず、これらの住居跡は、火山灰の降下する以前のごく近い時期に廃絶されたか、あるいはそれ以後の廃絶ということになる。上記の2点に注意して各々の住居跡を見てゆくことにする。

#### ア)第2号住居跡

遺跡西側に位置する。面積9.38㎡ 壁長3.12×2.77m カマド南壁西寄りにある方形の住居跡である。この住居跡の床面上に見られる覆土には殆ど浮石混入は見られない(1㎝中0.008g)これより廃棄直後の火山灰降下は考えられない。この上面の覆土より急に浮石量が増え、さらに床面に近い場所や中央部などで、浮石量の非常に多い層がブロック状に堆積している。これ

は、後世の撹乱で入り込んだものではない。このことから竪穴住居跡は大湯浮石層より古い時期 のものである。以上のことより降下する以前のごく近い時期に廃棄された住居跡と考えられる。

#### イ) 第9号住居跡

遺跡東北隅に位置する。面積15.48㎡ 壁長4.52×3.77m カマド西壁北寄りにある方形の住居 跡である。この住居跡の場合前にものべたように浮石のレンズ状の堆積は見られなかった。ま た第2号住居跡のようなブロック状の混入もなく、編年を決定するにあたっての決め手がなか った。ひとつ言えることは、全覆土中に浮石を含むことより火山灰降下後に廃棄されたという ことである。なお編年の決定には堆積順位を参考にした。

### ウ)第16号住居跡

遺跡南側に位置する。面積11.17㎡ 壁長3.86×3.05m カマド南壁西寄りにある方形の住居跡である。覆土第一層に最も多く浮石を含んだ層(1㎝中0.532g)が、レンズ状に堆積している。しかし、それ以下の覆土にも浮石が含まれていることより、第一層以前すでに火山灰降下があり、これは二次堆積したものと思われる。また、覆土上面にゆく程浮石混入量が多くなっているがこれについては不明である。

#### エ) 第17号住居跡

遺跡北東側に位置する。面積13.54㎡ 壁長3.85×3.63㎡ カマド南壁西寄りにある方形の住居跡である。この住居跡の床面上の覆土には殆ど浮石混入がなく(1㎝中0.004~0.052g)、廃棄直後の降下はなかったものと思われる。また、全覆土中に浮石を含むことより降下後に廃棄されたものと推定される。この住居も第16号同様、上層にゆく程浮石含有量が多くなっている。

#### オ) 第18号住居跡

遺跡北西隅に位置する。面積12.78㎡ 壁長3.78×3.48㎡ カマド南壁東寄りにある方形の住居 跡である。覆土上面にゆく程浮石量が少なくなって来ていることより、地表における浮石量が 少なくなって来た時期に埋没完了したのではと推測される。つまり火山灰降下後しばらくして から廃棄され火山灰が雨などに流され減ってゆく過程で埋没が完了したのではないかというも のである。

以上のことと, 前項堆積順位, 浮石の粒径より

新

第18号←第16号←第17号←第9号←第2号

という編年を推理してみた。

なお、この編年の推理にあたってはあくまでも浮石量を主体に考えてみた。したがって、住居跡の面積差、家屋の崩壊の程度差、人為的埋没の有無、地理的条件など、その他考えられるあらゆる要因は、いっさい考えないものとして行った。したがって実際の編年との誤差は十分考えられる。

### 6. まとめ

今回は試験的に行ったもので資料採収や分析が十分できず、残念ながら期待したような成果は得られなかった。これは、資料が少なかったのも原因ではあるが、その他考えられる多数の要因によるものであろうと考えられる。よってしっかりした大湯浮石層を認めることが出来なかった場合、ある程度までは浮石混入量で判断できるものの最終的には出土遺物など、他の事物にたよるところが大であり、浮石量のみでの判断は限界がありきわめて困難である。

#### 参考引用文献

- (1) 大池昭二 「十和田火山は生きている」 国土と教育26 昭和49年7月
- (2) 平山次郎 市川賢一 「1000年前のシラス洪水」 地質ニュースNo.140号 昭和41年
- (3)(6) 瀬川司男 「繩文期以降の火山灰と遺跡」 どるめん
- (4)(5) 富樫泰時 「大湯浮石層と鹿角盆地の遺跡」 どるめん

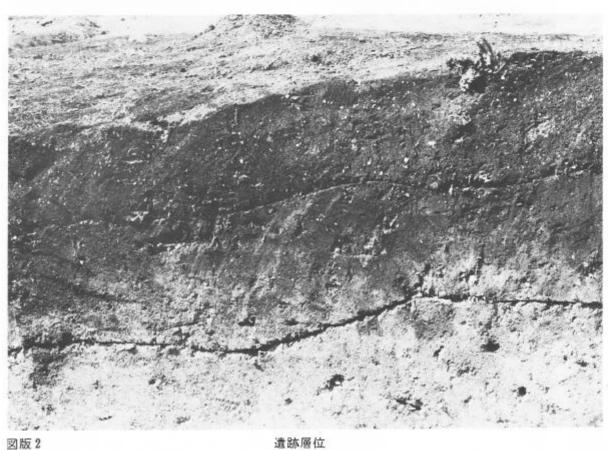


図版1

案内Ⅲ遺跡航空写真

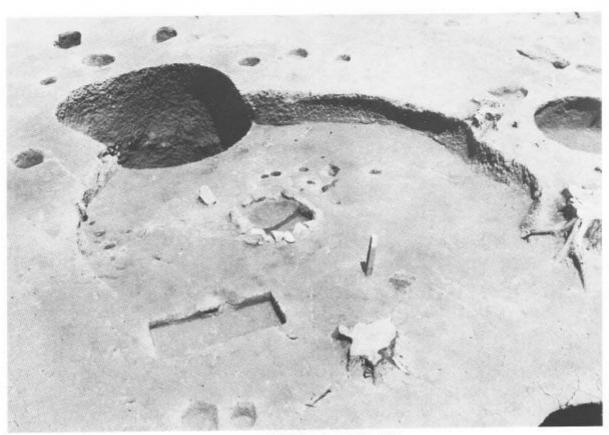


遺跡遠景



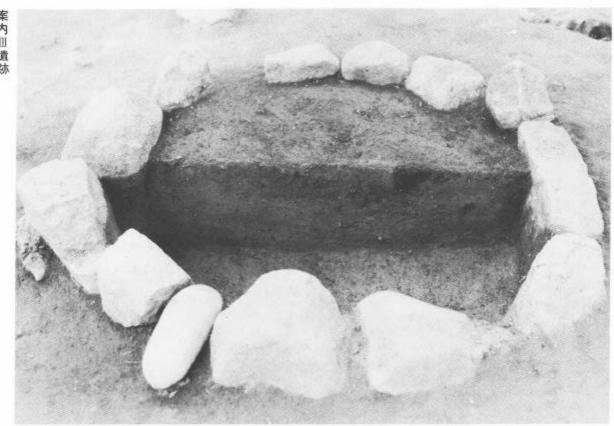


S I 008住居跡



S I 004住居跡 S K(F)025土壙

図版3

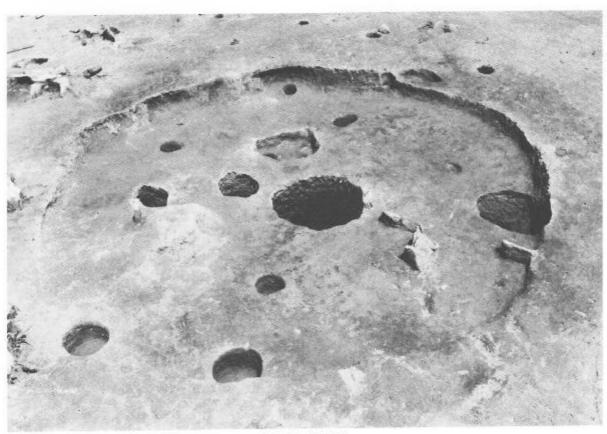


S I 004住居跡炉



図版4

S I 004住居跡埋設土器



S I 005住居跡



S I 005 住居跡 整製石斧出土状態

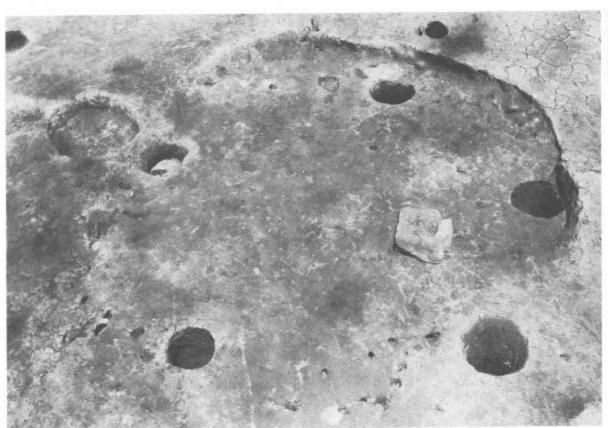


1 003住居跡

OF BURNEL BY BURNEL BY BURNEL BY BURNEL BURNEL BURNEL BY BURNEL BY BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNEL BURNE



案内=遺跡



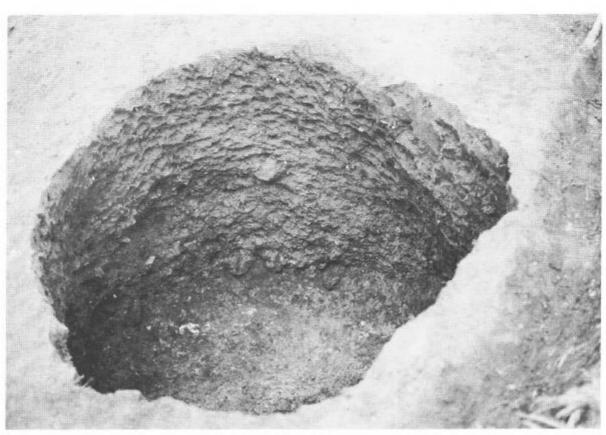
S I 036 住居跡



SK(F)024土壙

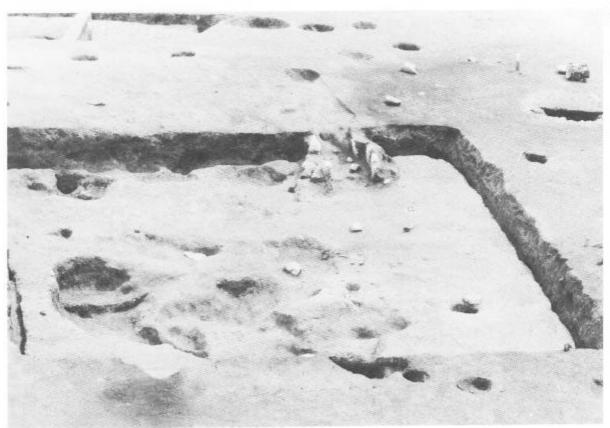


S K(F)032土壙



図版8

SK(F)022土壙



S I 001住居跡

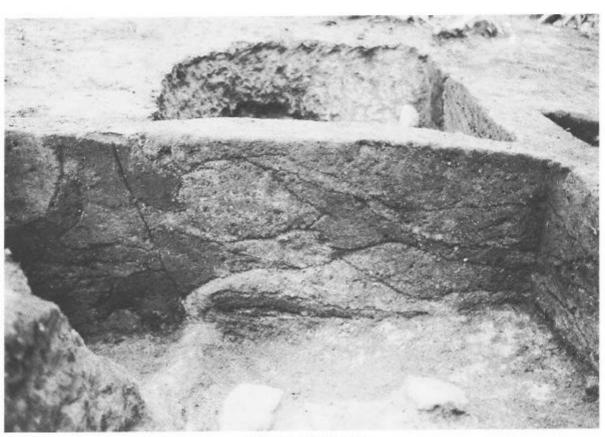


図版9

S I 001住居跡カマド

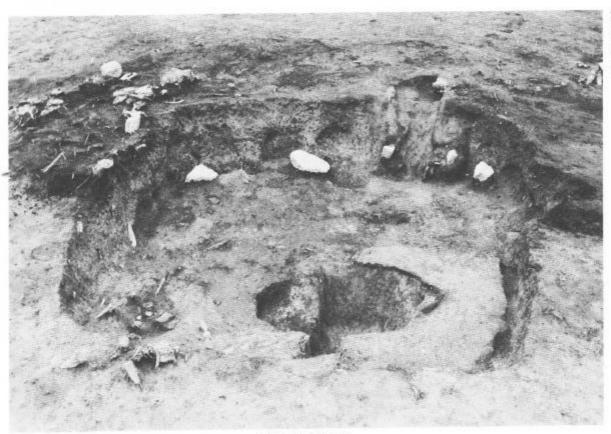


S I 002住居跡



図版10

S I 002住居跡カマド



S I 006住居跡



SI 006住居跡カマド支脚出土状態

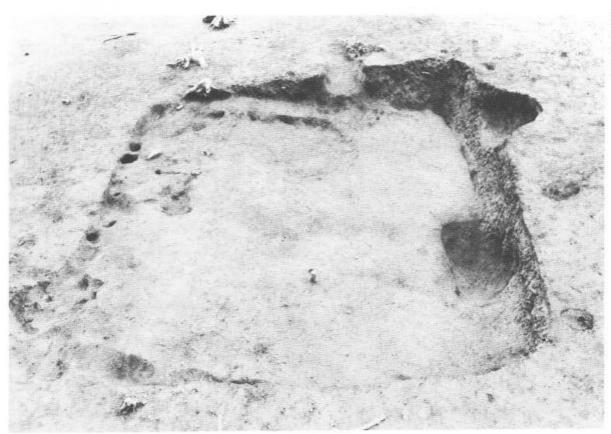


S I 006住居跡カマド



図版12

S I 006住居跡覆土

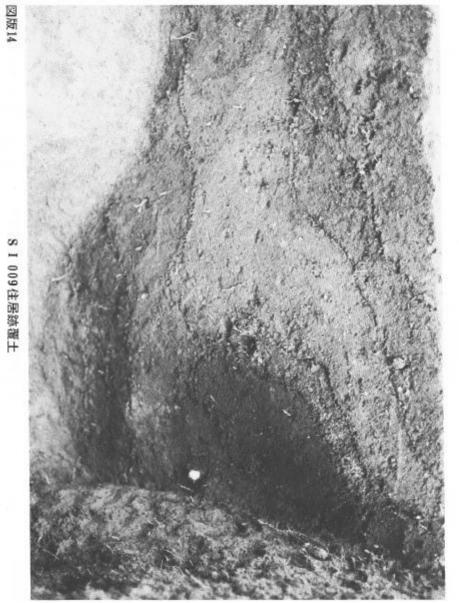


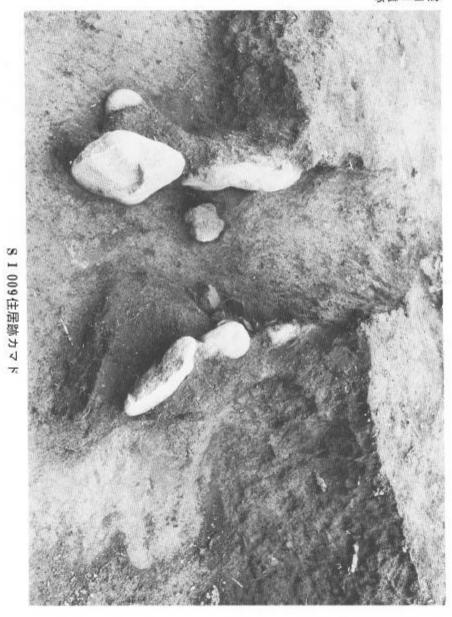
S I 009住居跡



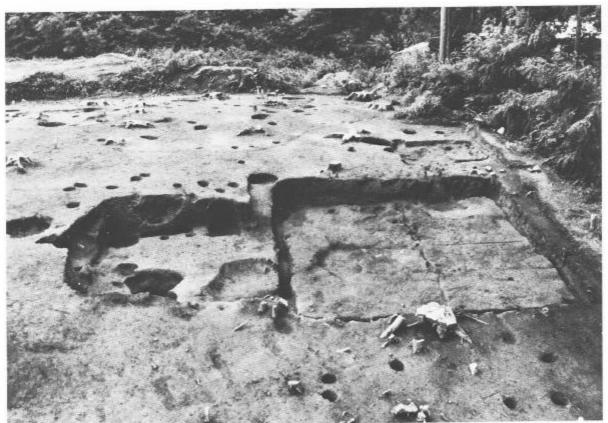
図版13

8 I 009 住居跡甕形土器出土状態





S I 009住居跡覆土



S I 010、S I 011、S I 012住居跡

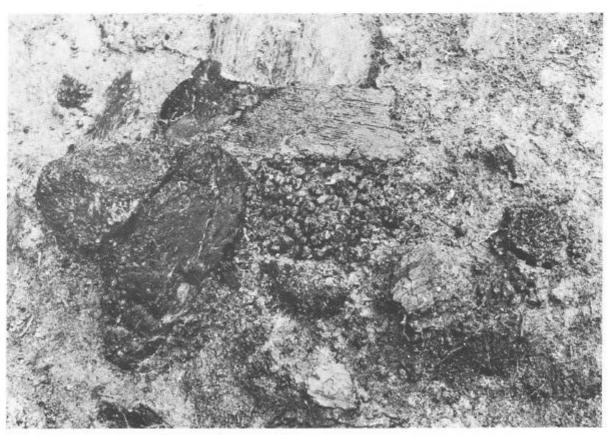


図版15

S I 010住居跡カマド



S I 010 住居跡須恵器臺出土状態

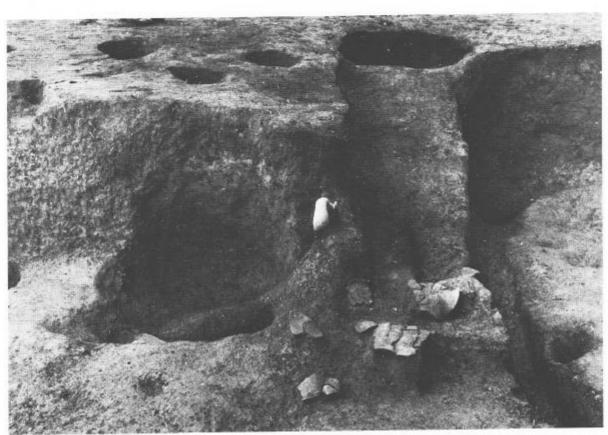


図版16

S I 010 住居跡炭化物 (曲物・炭化豆類) 出土状態



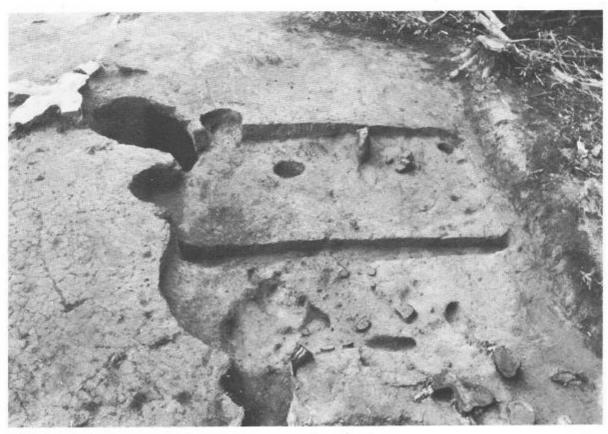
S I 010住居跡炭化物 (筵状製品) 出土状態



図版17 S I 011 号住居跡カマド

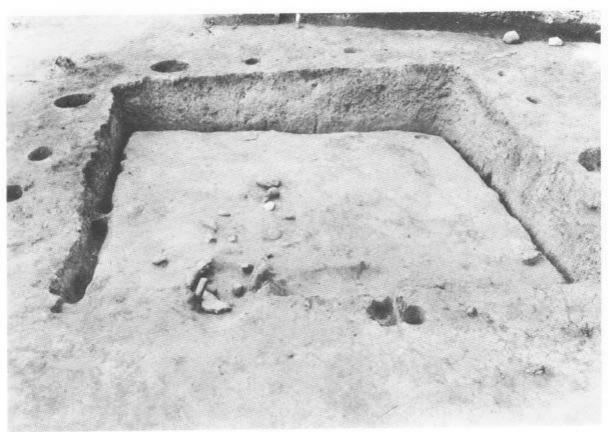


S I 011住居跡覆土

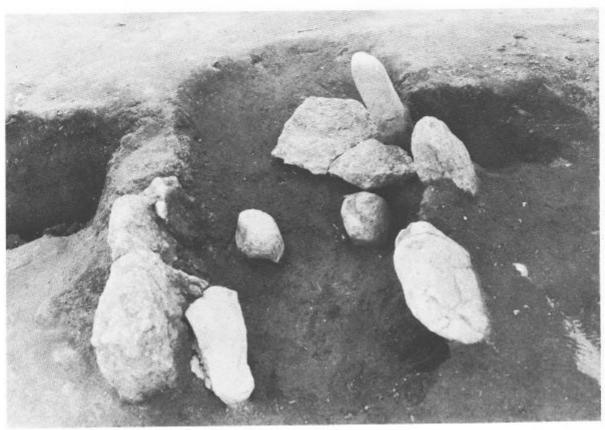


図版18

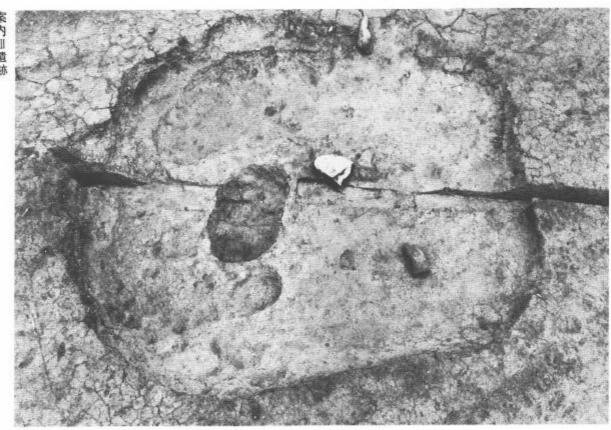
S I 012 住居跡



S I 014住居跡



S I 014住居跡カマド

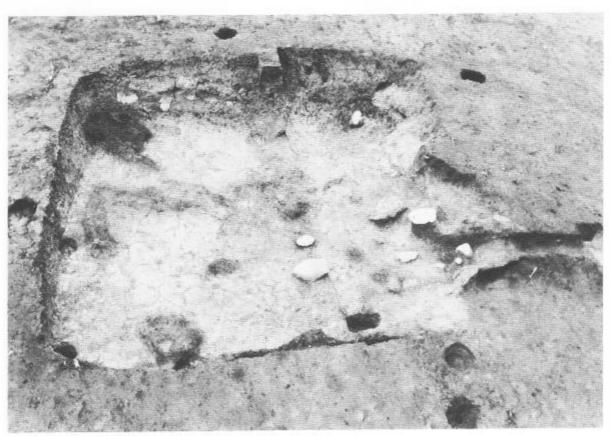


S I 015 住居跡



図版20

S I 016住居跡



S I 017住居跡



図版21 S I 017住居跡カマド





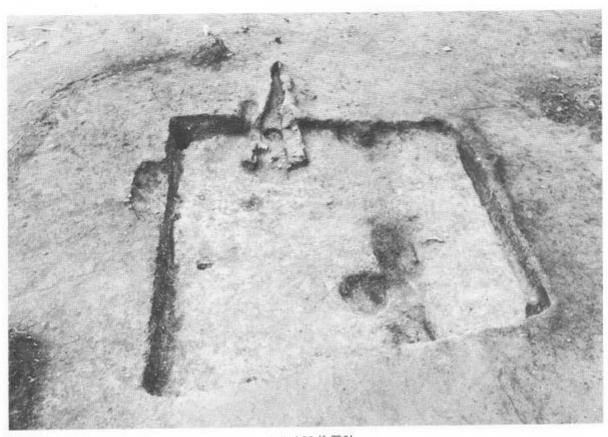
S I 018住居第



殊石=贈越

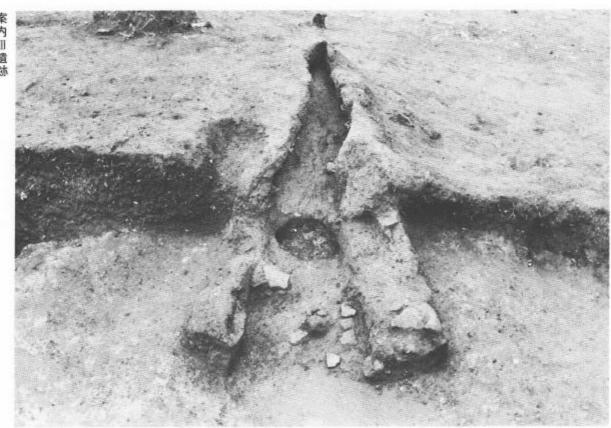


S I 018住居跡磨製石斧出土状態

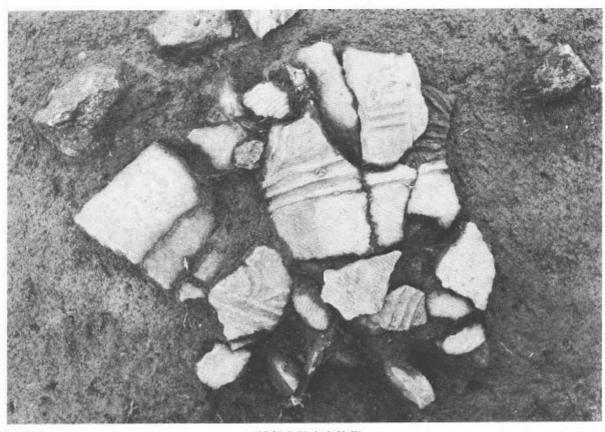


図版23

S I 019住居跡

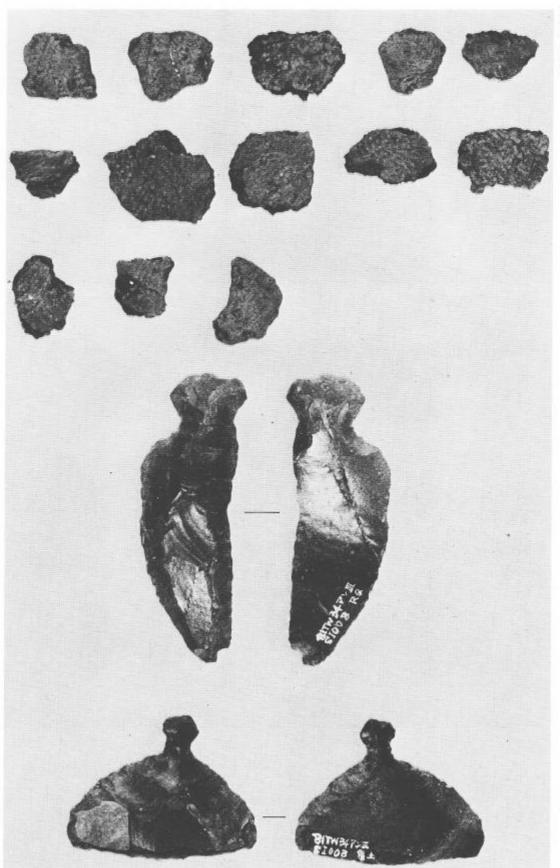


S I 019住居跡カマド



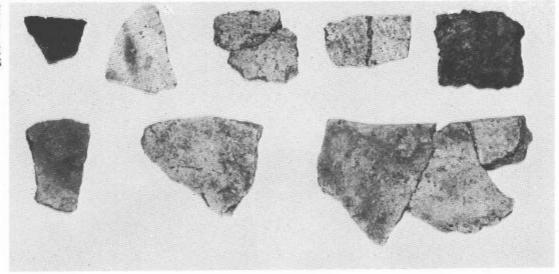
図版24

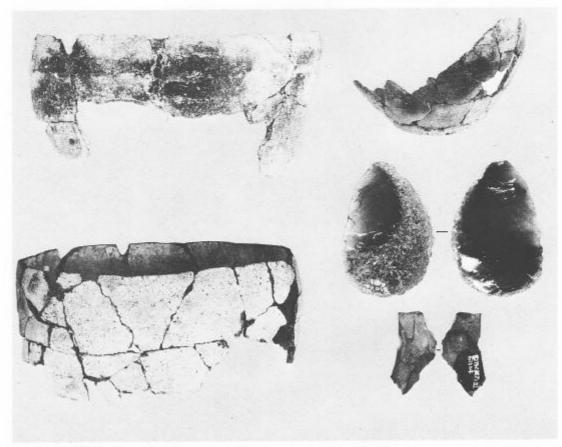
遺構外土器出土状態

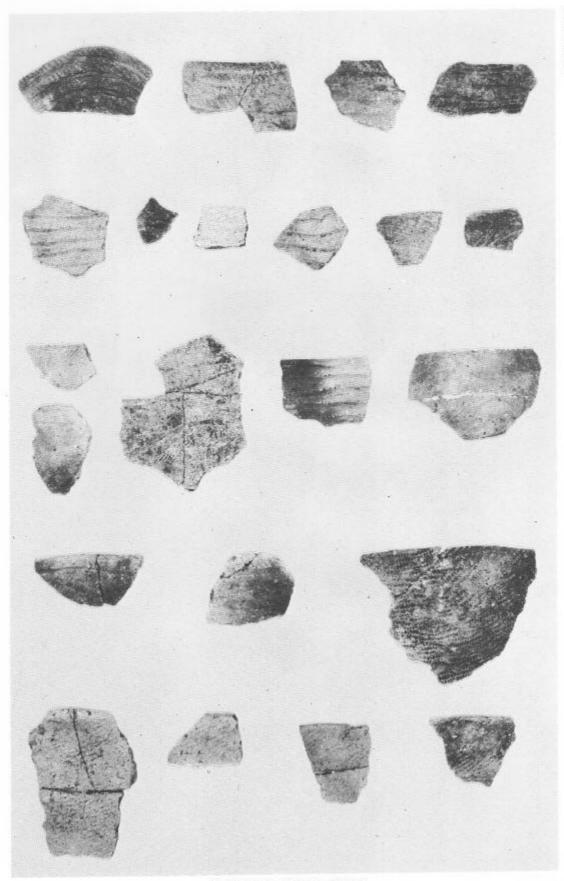


S I 008住居跡出土遺物

図版25

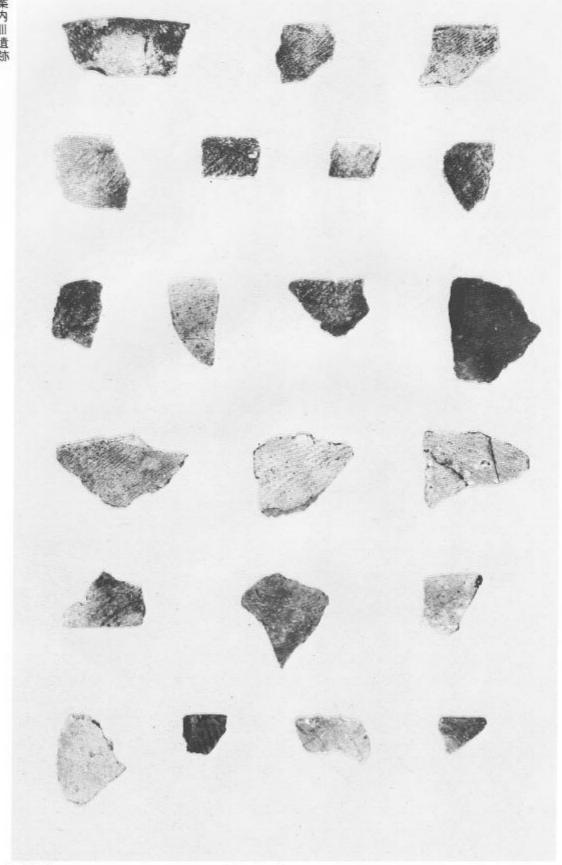






図版27 S K(

SK(F)025土壤出土遺物(1)



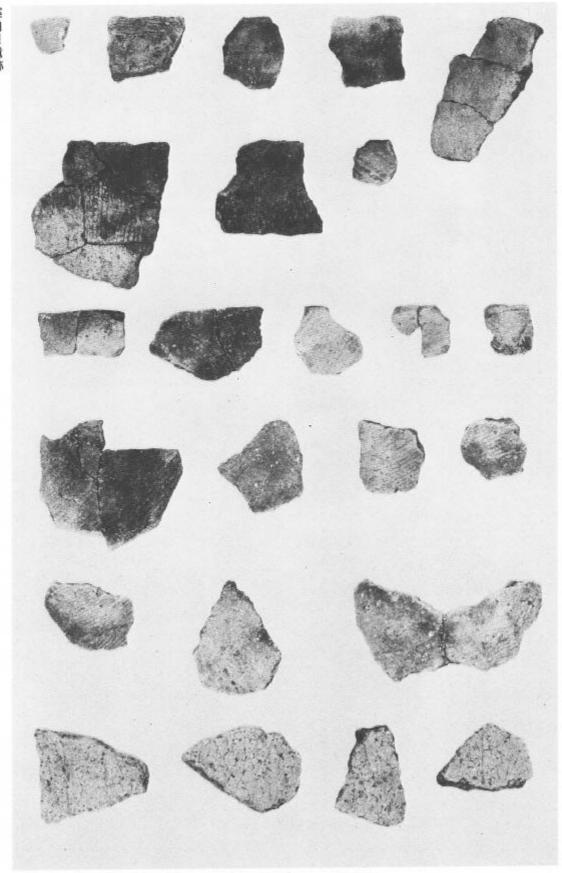
図版28

S K(F)025土壙出土遺物(2)



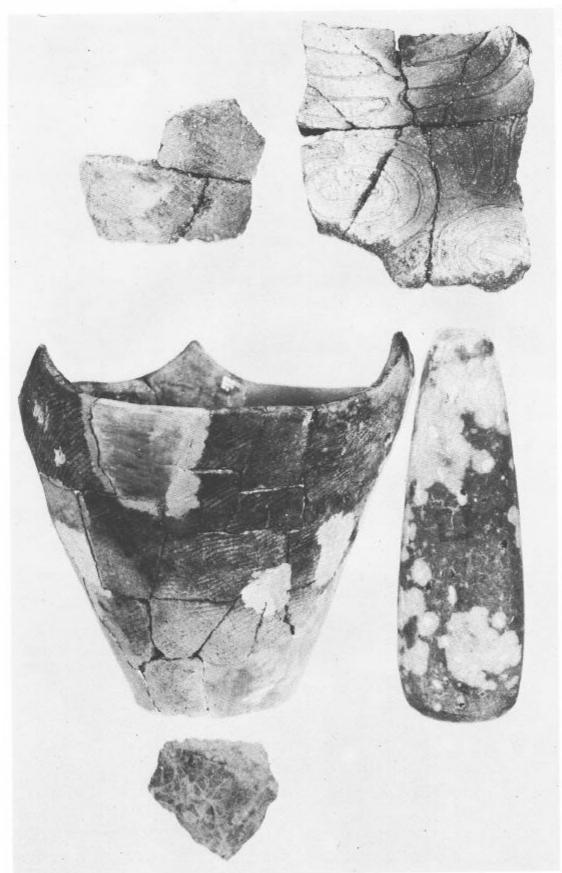
図版29

S K(F)025土壙出土遺物(3)

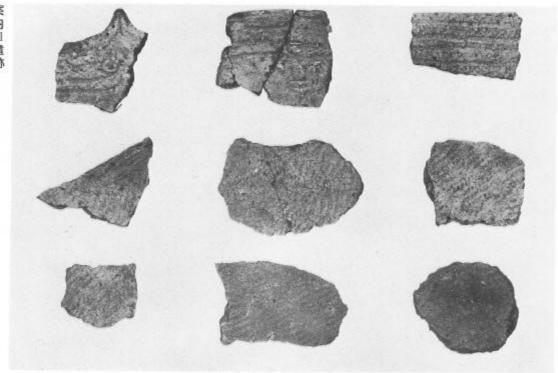


図版30

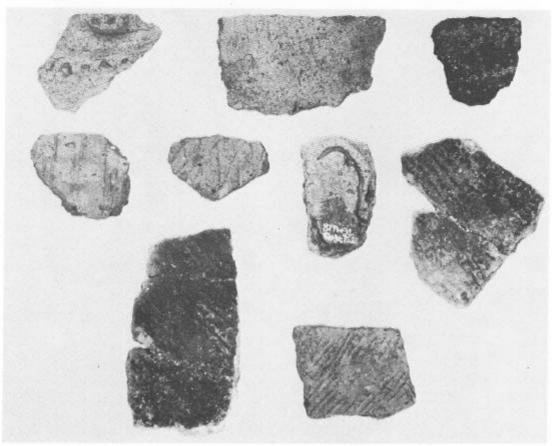
S I 005 住居跡出土遺物(1)(2)



S I 005住居跡出土遺物(2)(3)

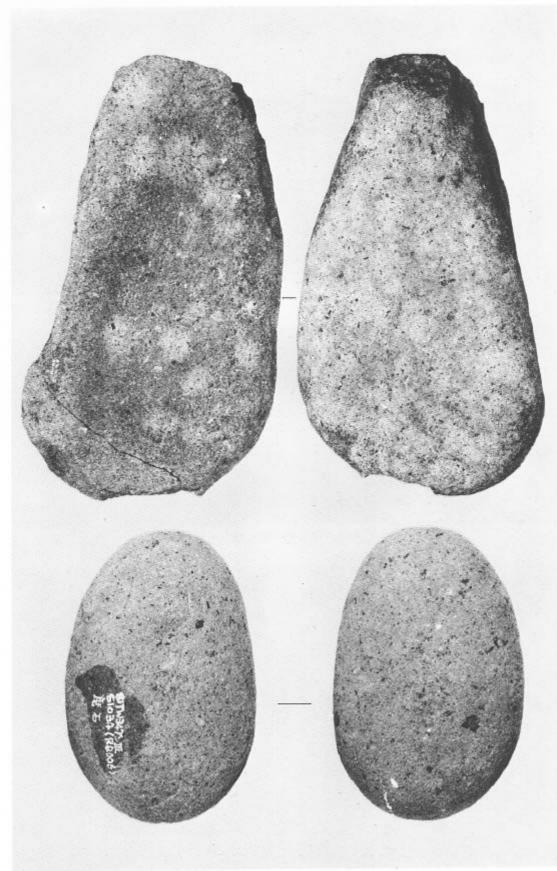


S I 005住居跡西側周辺ピット出土遺物

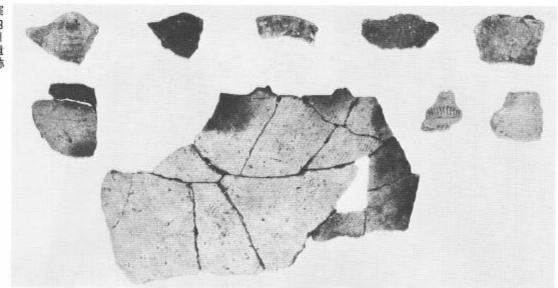


図版32

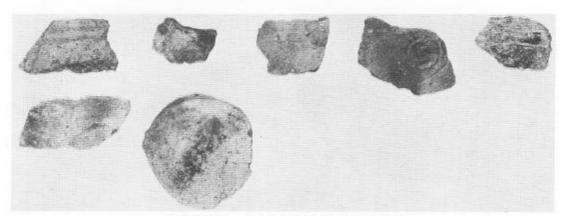
S I 003住居跡 S I 034住居跡出土遺物(1)



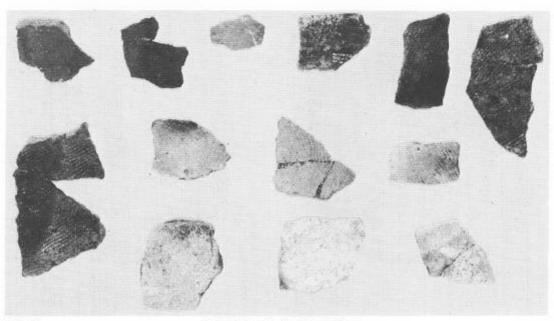
533 S I 034住居跡出土遺物(2)



SK(F)031 SK(F)023、SK(F)024土壤出土遺物(1)

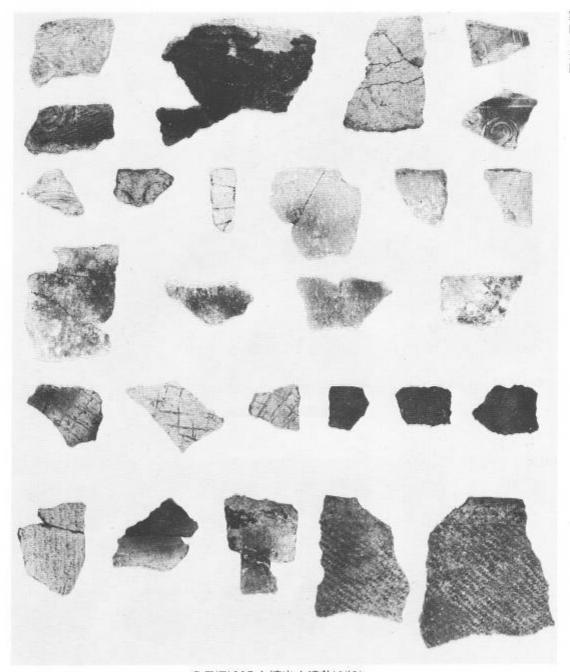


S K(F)021、 S K(F)032土壙出土遺物(2)

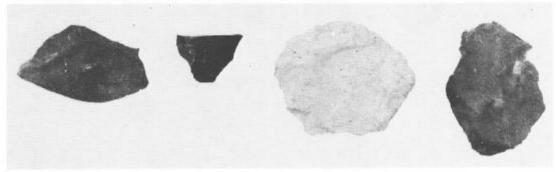


図版34

SK(F)022土壙出土遺物(3)



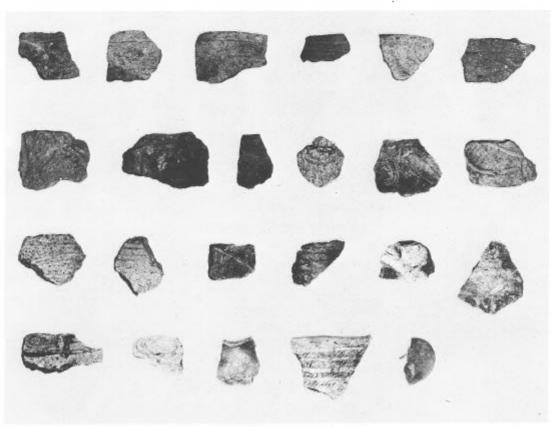
SK(F)007土填出土遺物(1)(2)



SK(F)021、SK(F)032、SK(F)022土壤出土遺物(石器)

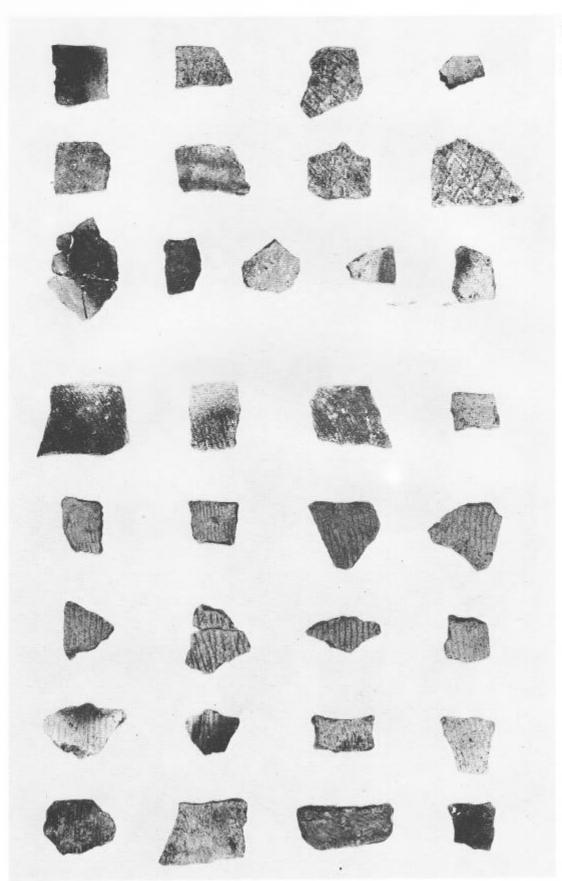


遺構外出土遺物(1)

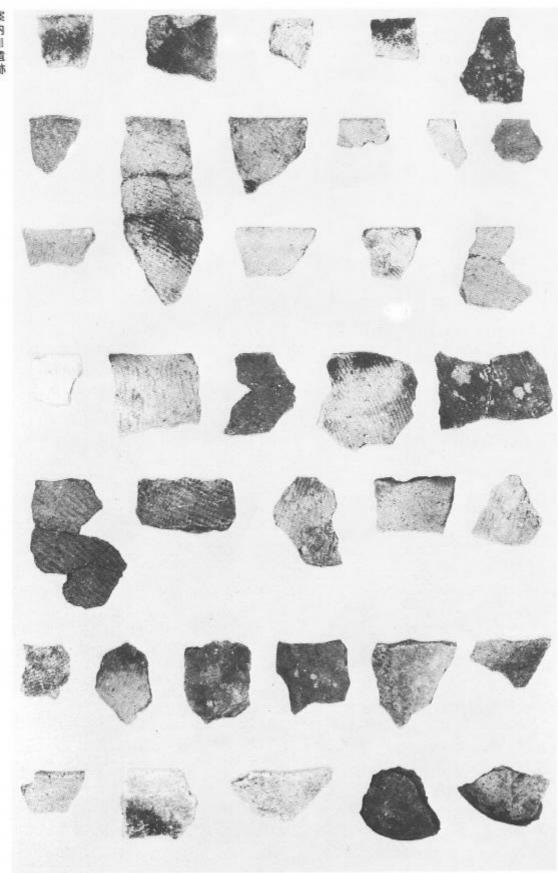


図版36

遺構外出土遺物(2)



遺構外出土遺物(3)(4)



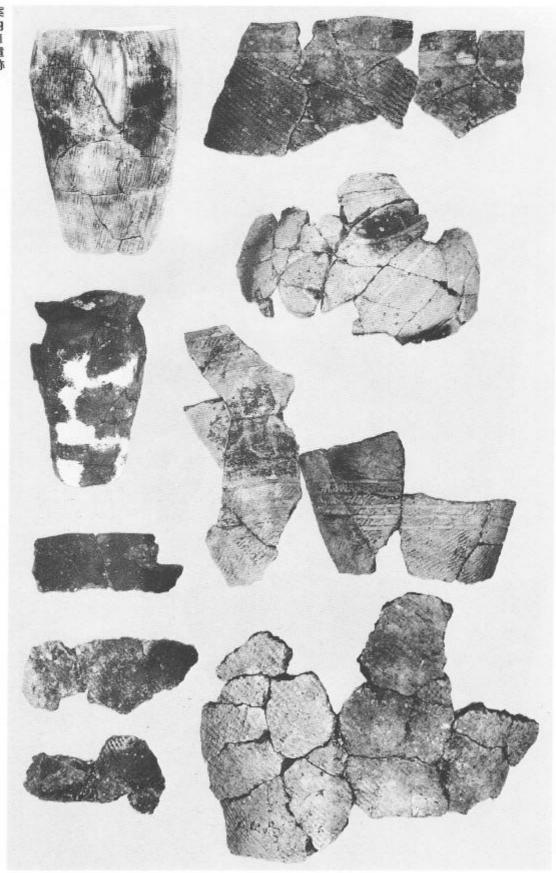
図版38

遺構外出土遺物(5)(6)(7)



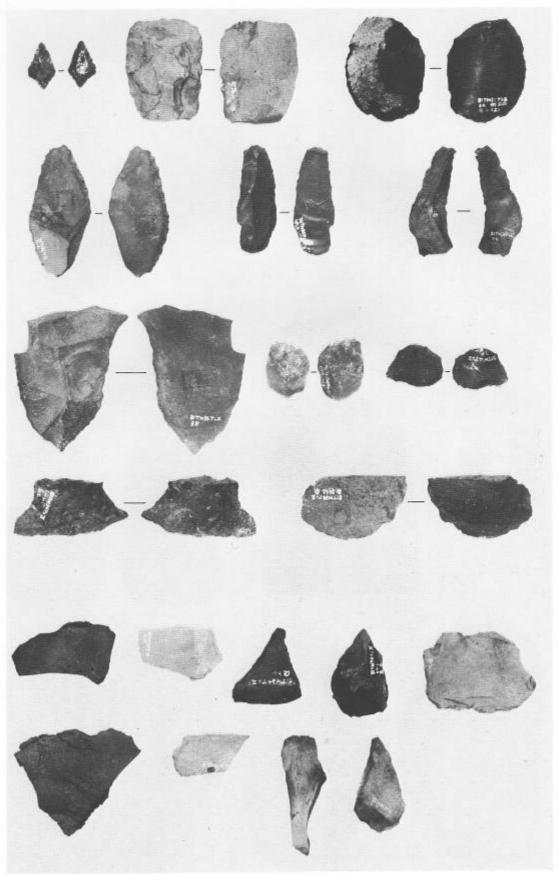
図版39

遺構外出土遺物(8(9)

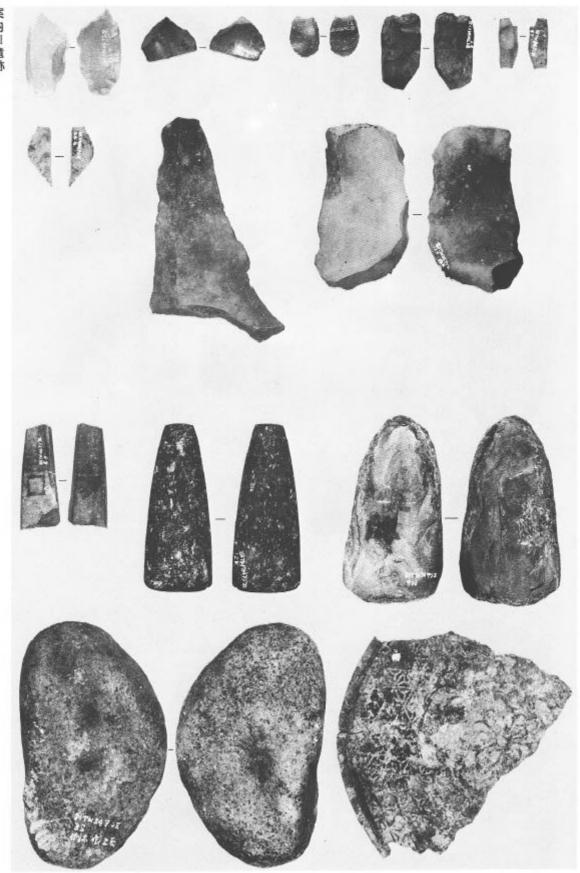


図版40

遺構外出土遺物(10)

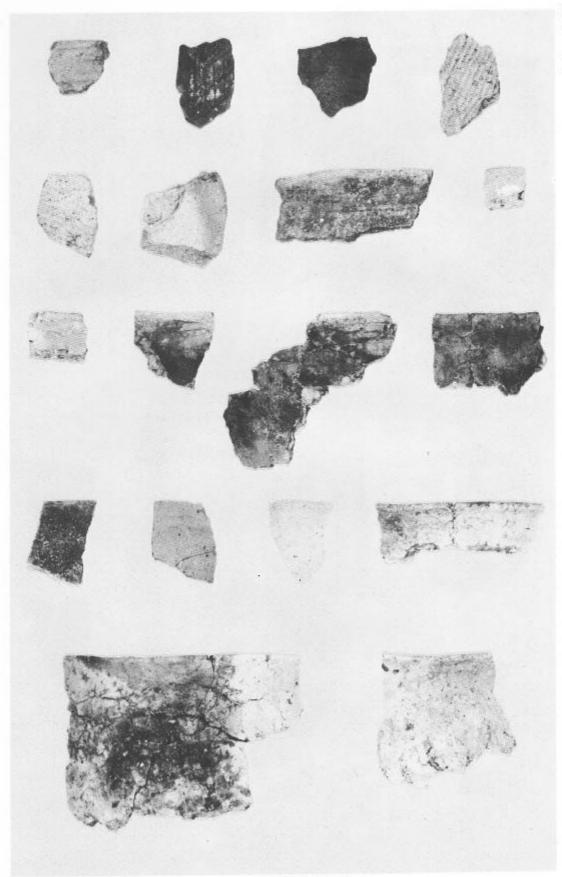


遺構外出土遺物 (石器) (1)(2)

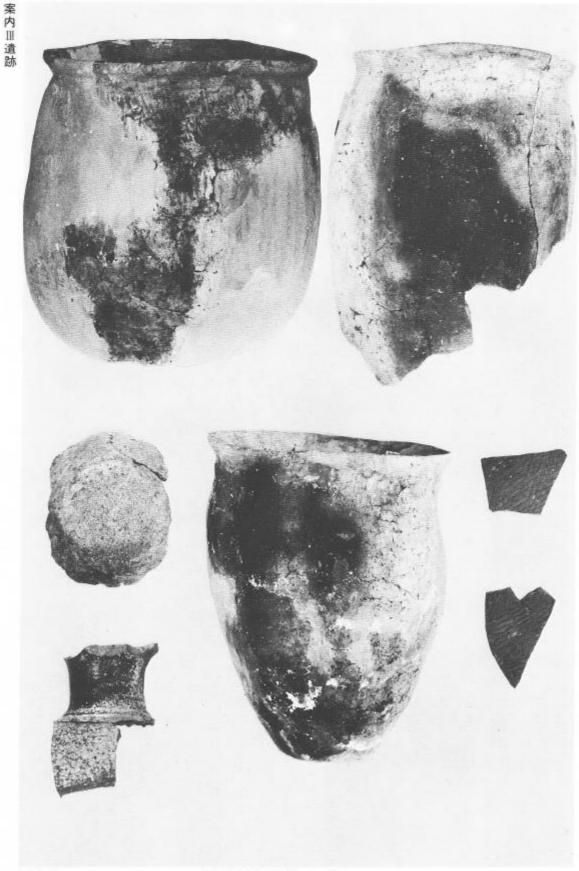


図版42

遺構外出土遺物 (石器)(3)(4)

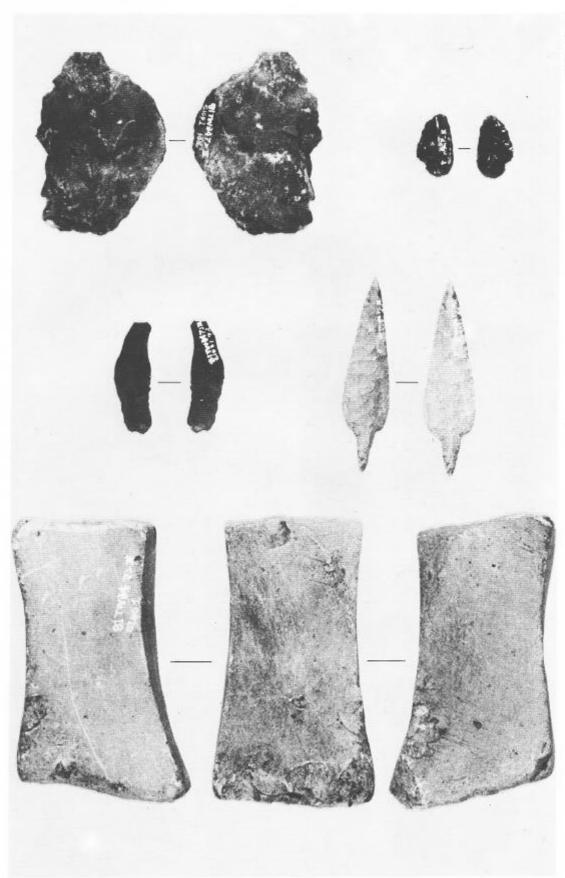


版43 S I 001住居跡出土遺物(1)

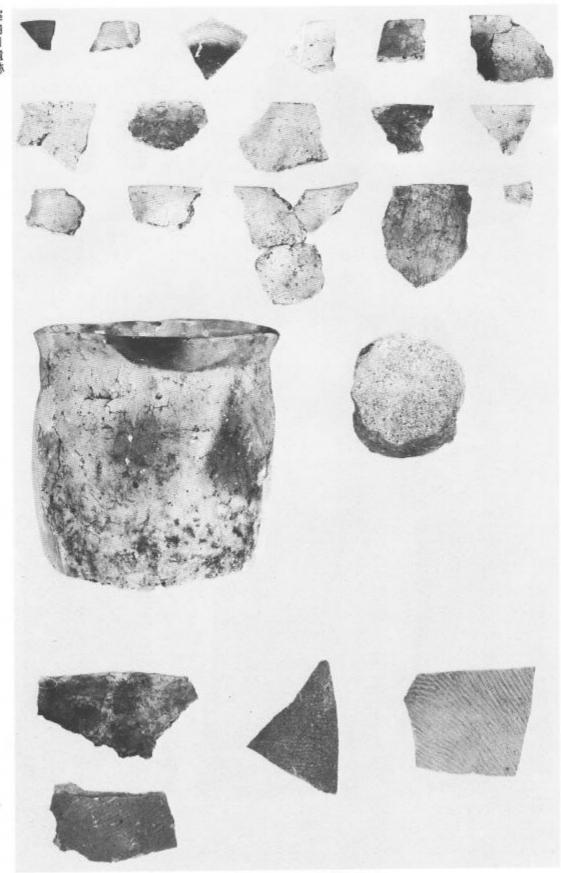


図版44

S I 001住居跡出土遺物(2)(3)

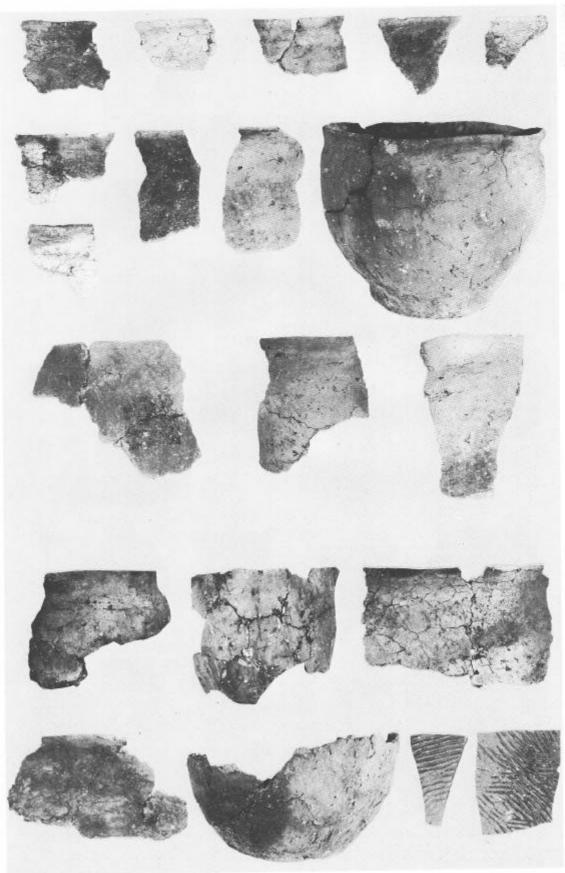


S I 002 住居跡出土遺物 (石器) (4)



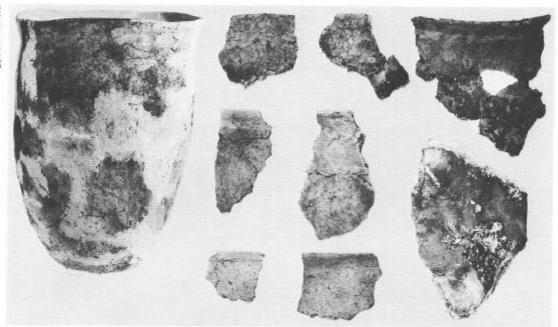
図版46

S I 002 住居跡出土遺物(1)(2)

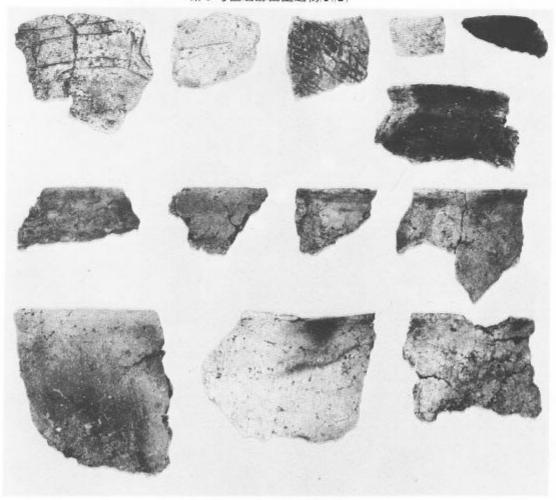


図版47

S I 006住居跡出土遺物(1(2)

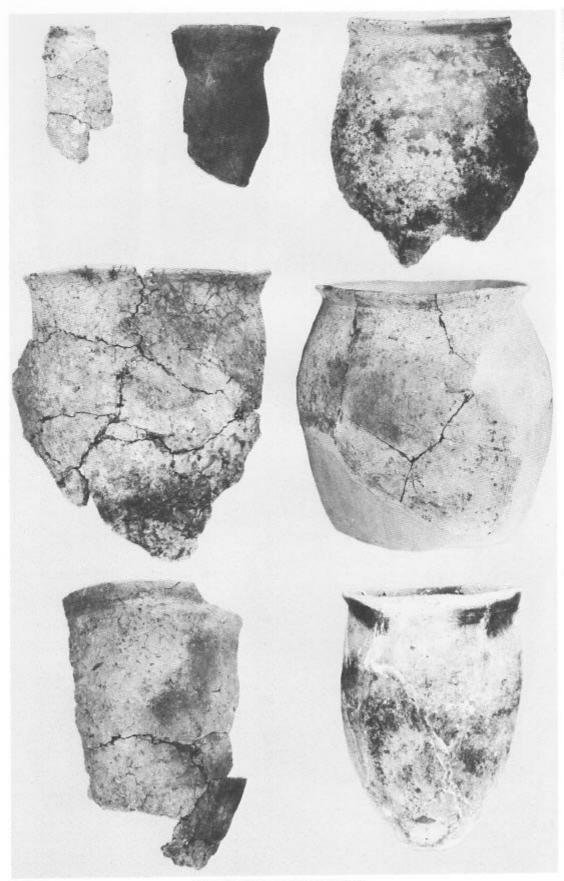


第9号住居跡出土遺物(1)(2)

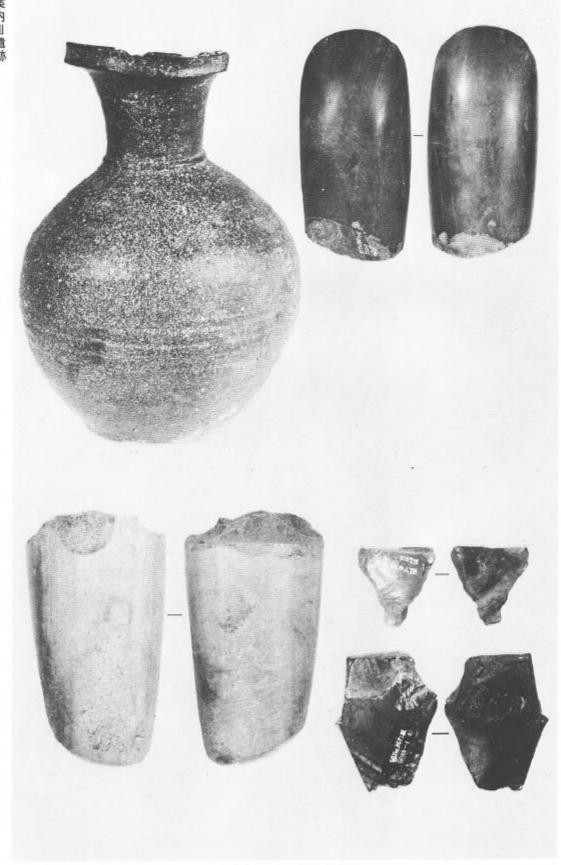


図版48

S I 010住居跡出土遺物(1)

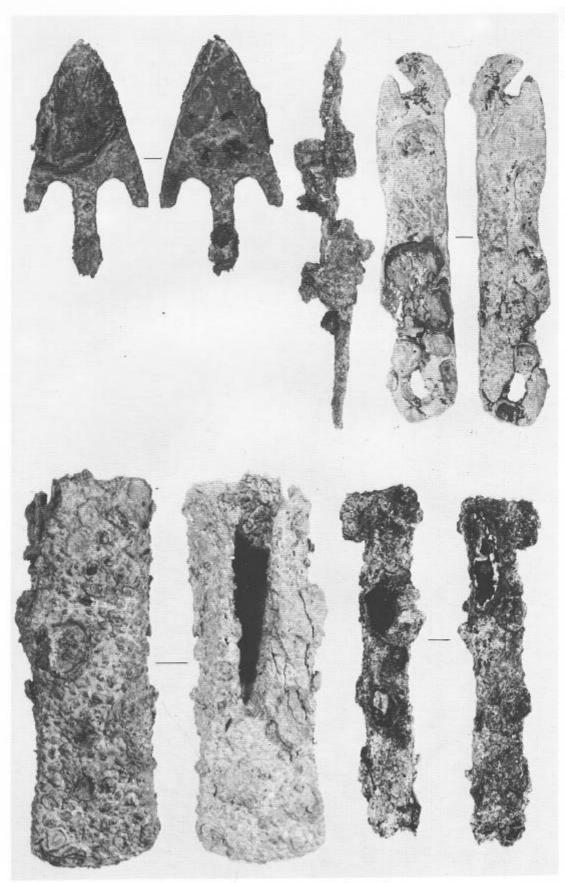


版49 S I 010 住居跡出土遺物(2)(3)



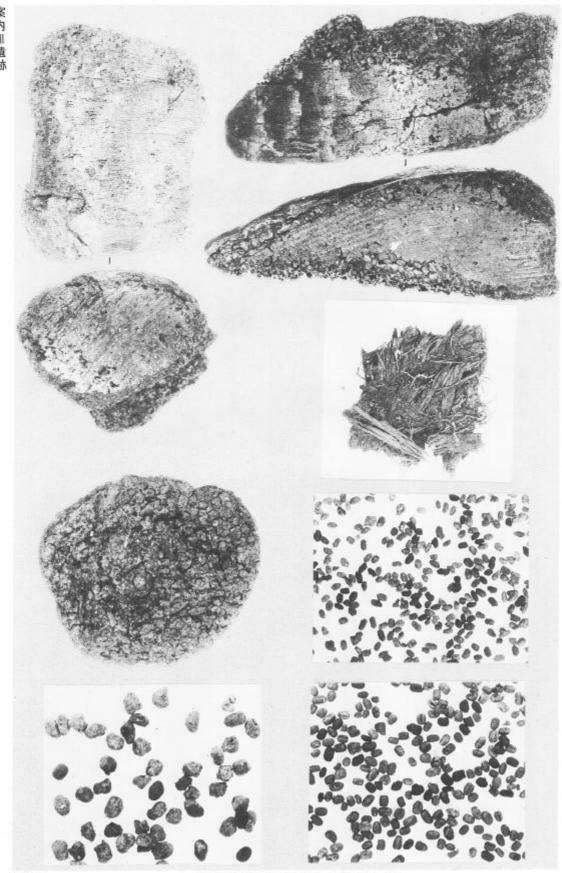
図版50

S I 010 住居跡出土遺物(4)



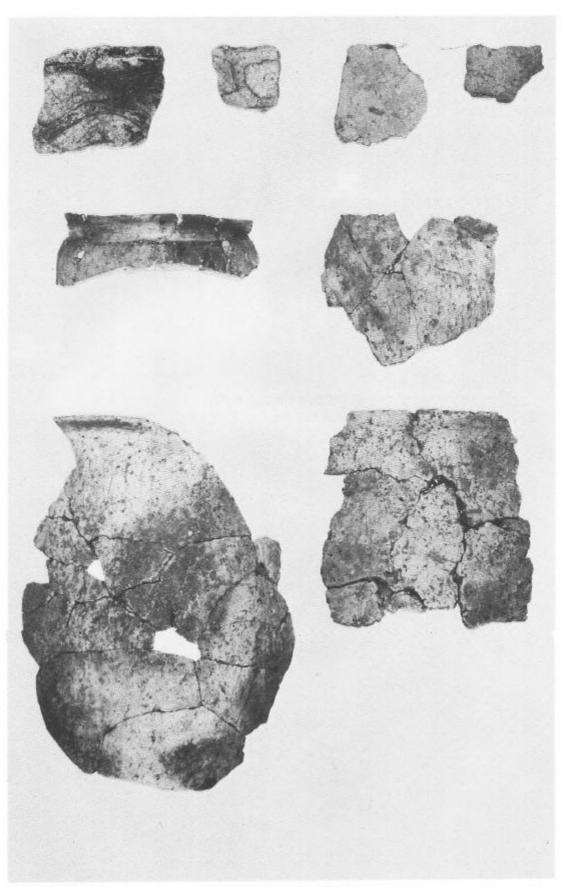
図版51

S I 010住居跡出土遺物 (鉄器) (5)



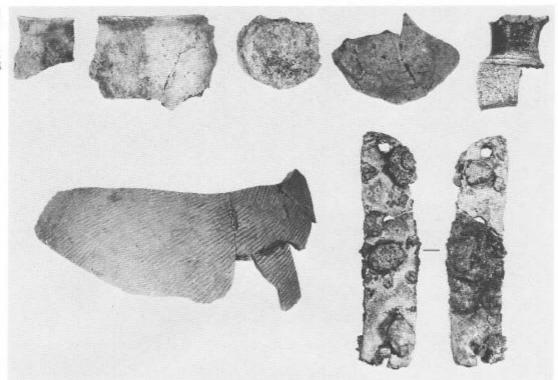
図版52

S I 010 住居跡出土遺物 (炭化物) (1)

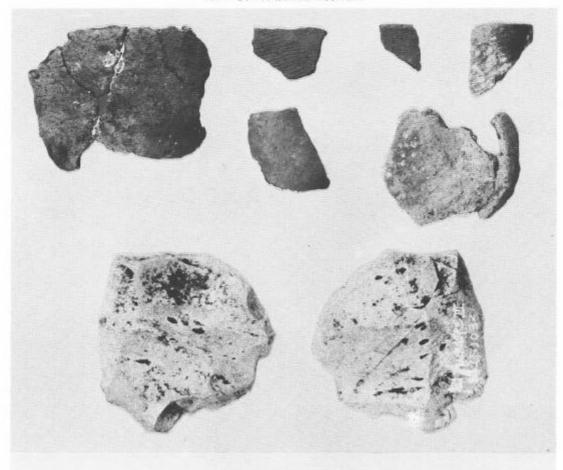


図版53

S I 011住居跡出土遺物(1)

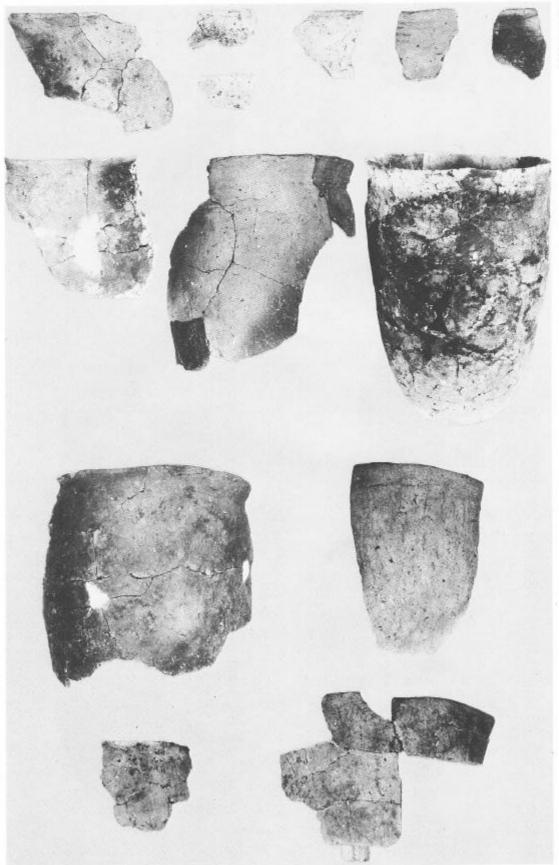


第11号住居跡出土遺物(2)(3)

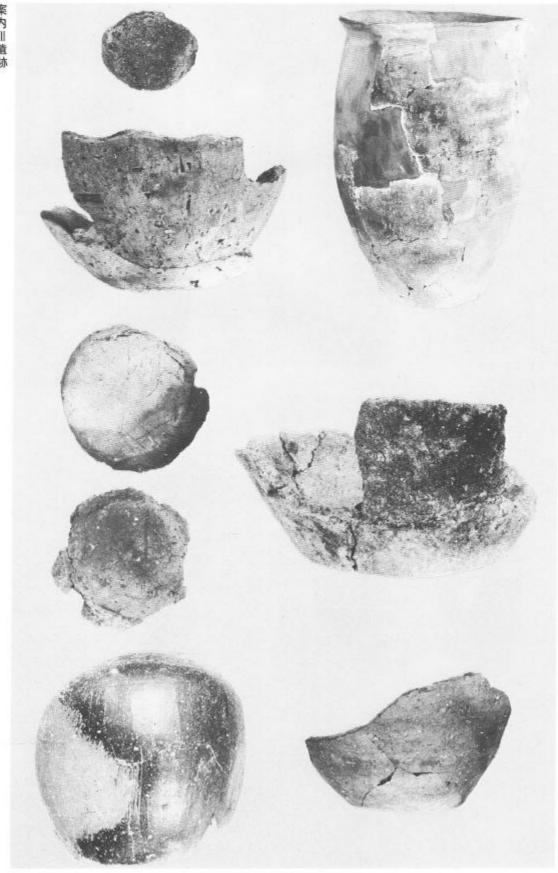


図版54

SK(F)033土壤出土造物

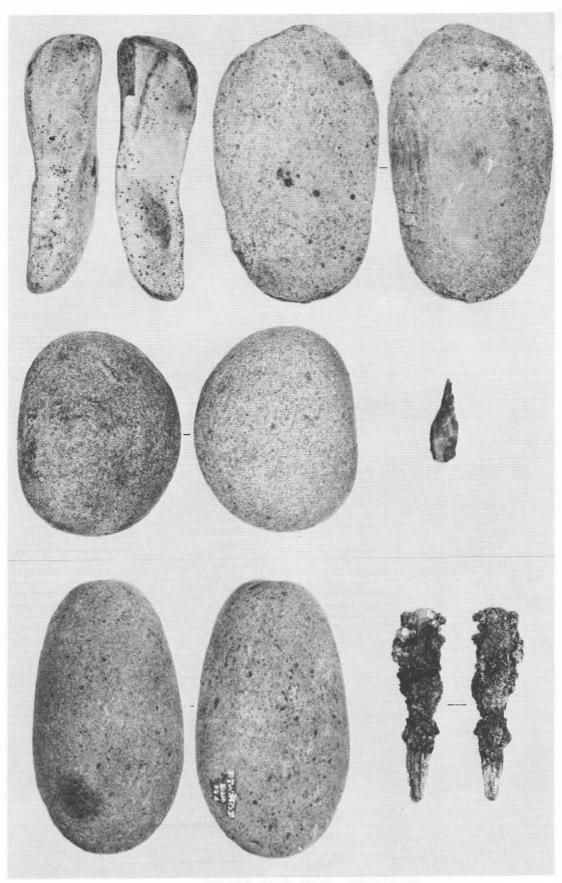


5 S I 014住居跡出土遺物(1)(2)



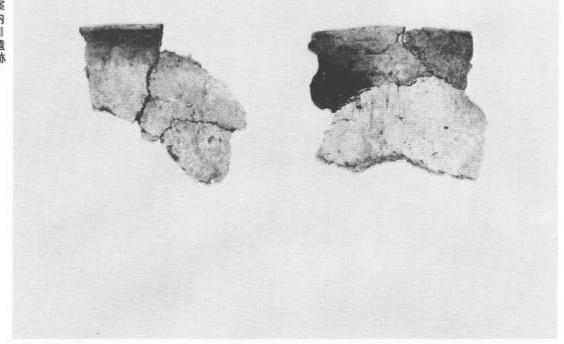
図版56

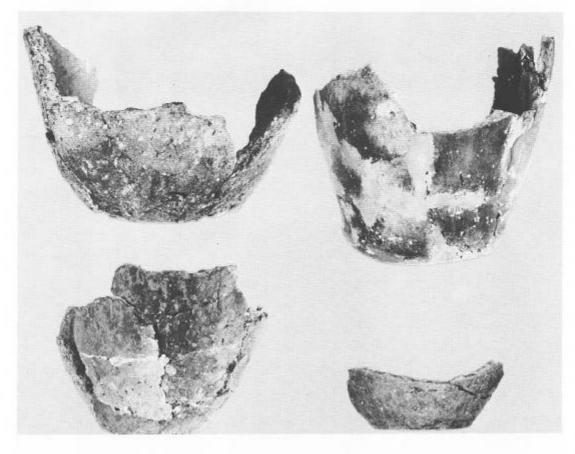
S I 014住居跡出土遺物(3)(4)(5)

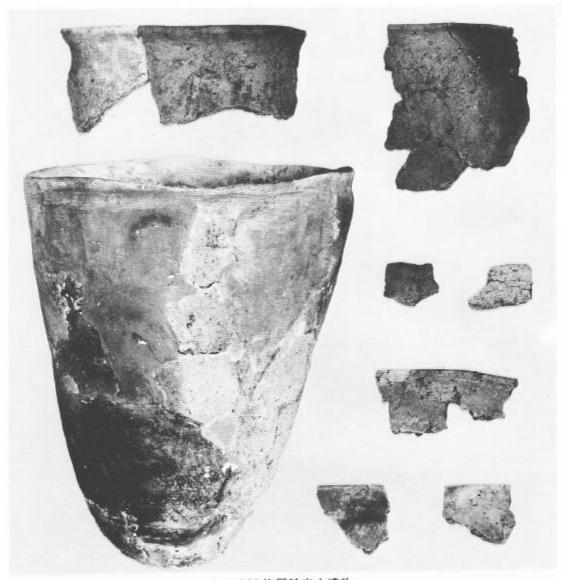


S I 014住居跡出土遺物 (石器・鉄器) (1)(2)

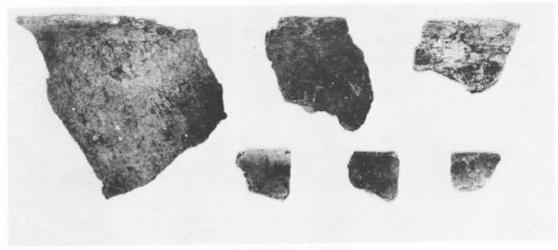
図版57





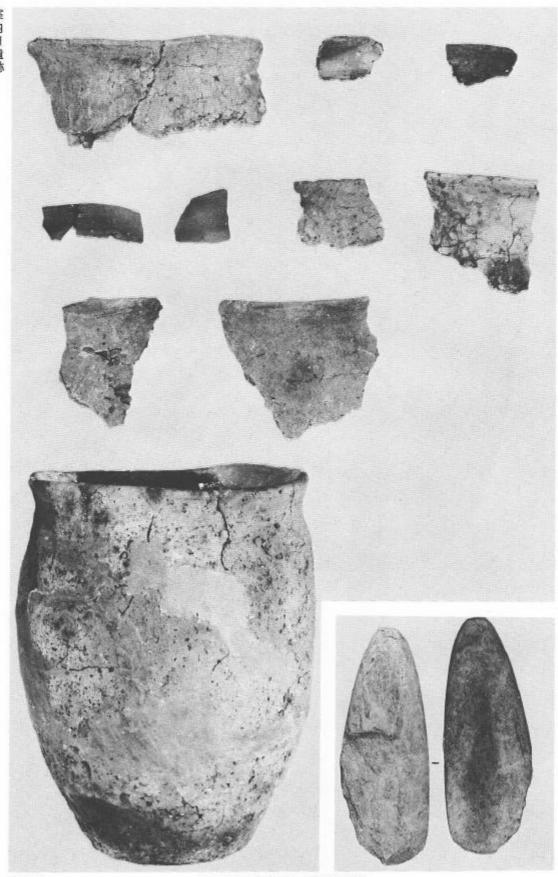


S I 016 住居跡出土遺物



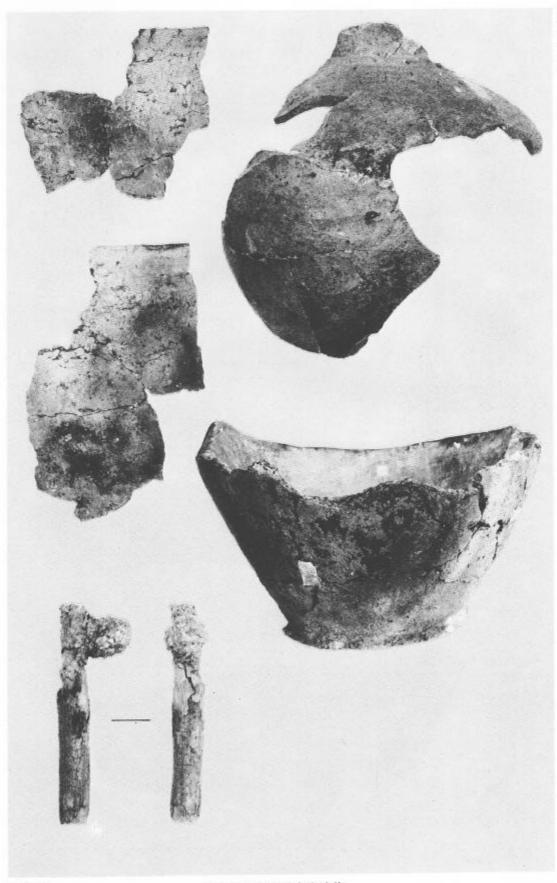
S I 016住居跡出土遺物

図版59



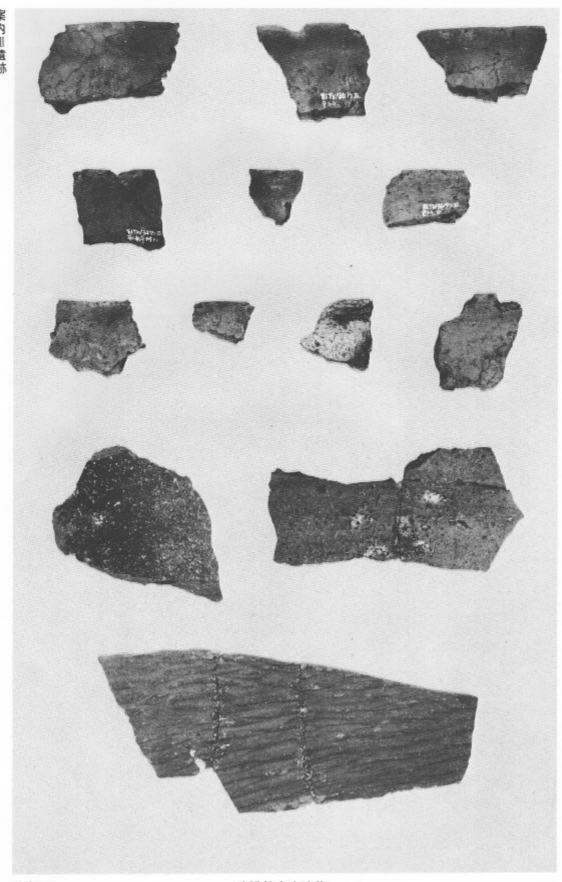
図版60

S I 018住居跡出土遺物(1)(2)



図版61

S I 019住居跡出土遺物



図版62

遺構外出土遺物

## 案内 III 遺跡(NO.34) 遺構配置図





一本杉遺跡遺構配置図(等高線は発掘終了時の状態を示す)